

令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

ヤングケアラーの実態に関する調査研究

報告書

令和4年3月

株式会社 日本総合研究所

ヤングケアラーの実態に関する調査研究 要 旨

目的

令和2年度に「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」が行われ、子ども本人(中学生・高校生)を対象としたヤングケアラーの全国調査が初めて行われた。世話をしている家族が「いる」と回答したのは、中学2年生 5.7%、全日制高校2年生 4.1%であるなどの実態が明らかとなった。

新型コロナウイルス感染症の流行が長期化する中で、社会的な孤独・孤立の問題は深刻さを増し、中でもヤングケアラーは、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担があることで本人の育ちや教育に影響があるといった課題がある。そもそも本来大人が担うべき家事や家族のケアを日常的に行っていることにより、本来、社会が守るべき、子どもの権利が守られていない可能性がある。しかしながら、家庭内のデリケートな問題であること、さらには本人や家族に自覚がないといった理由から、支援が必要であったとしても表面化しにくい構造となっており、支援の検討にあたってもまずはその実態を把握することが重要である。

本調査研究では、これまで全国規模では実態把握が行われていない小学生や大学生を対象とした全国調査を行い、昨年度の中高生調査と比較可能な形で、それらの年代の家族ケアの状況、ヤングケアラーの実態を明らかにした。

また、ヤングケアラーについて必要な支援につなげるため一般国民を対象としたヤングケアラーの認知度調査を行った。

これらの調査の結果から、ヤングケアラーを早期に発見し、適切に支援につなぐ方策の検討、および各年代への幅広い支援策や社会的認知度を向上させるための方策検討、社会全体に対する広報戦略の検討を今後具体的に行うための考察を行った。

調査の方法・進め方

本調査研究では以下の内容を実施した。

(1) 検討委員会の設置・運営

有識者・実務経験者からなる検討委員会を設置・運営した。検討委員会は3回開催した。

(2) 小学校におけるヤングケアラー対応に関するアンケート調査およびインタビュー調査

小学校に対して、支援が必要だと思われる子どもへの対応や、ヤングケアラーについての認識等についてアンケート調査を実施した。全国の小学校から 350 校を層化無作為抽出により抽出したうえで、調査票を郵送し、260 件の回答を得た。

また、上記のアンケート調査回答校から、ヤングケアラーと思われる児童の把握や支援の取組について、参考となる事例をとりまとめるために6校に対するインタビュー調査を実施した。

(3) 小学生の生活についてのアンケート調査

小学6年生を対象に、家族に対する世話の状況や普段の生活に関するアンケート調査を実施した。全国の小学校から350校を層化無作為抽出により抽出し、対象校宛に調査票を郵送し、校内で児童に配布、児童は原則自宅に持ち帰って回答のうえ、郵送にて返送してもらった。対象者約24,500人のうち、9,759件の回答が得られた。

なお、本調査は、児童に家族や家庭内の様子について尋ねるものであることから、回答者およびその家族への負担を考慮し、学校宛の留意事項等を記載のうえ、調査を実施した。

(4) 大学生の生活実態に関するアンケート調査結果

大学3年生を対象に、家庭や家族の世話の状況、ヤングケアラーの認識等についてアンケート調査を実施した。全国の大学の約半数にあたる396校を層化無作為抽出により抽出し、対象の大学を通じて、学生本人向けに、調査回答フォームのQRコード、URLを記載した調査概要をメール等にて送付し、Web上で回答してもらった。対象者は推計30万人のうち、9,679件の回答が得られた。

(5) 一般国民のヤングケアラーの認知度調査

一般国民に対してヤングケアラーの認知度や意識を確認するために、Webによるアンケート調査を実施した。調査対象はWebアンケート調査会社にモニターとして登録している日本全国の20代～70代以上の男女で、各年代についてそれぞれ400件、計2,400件の回答を得た。

(6) 調査結果の分析および支援策や広報戦略立案に向けた考察

調査結果の分析および支援策や広報戦略立案に向けた考察、今後の課題について整理した。

(7) 報告取りまとめ

調査、検討結果について報告書として取りまとめを行った。

調査結果の要点

各調査の主要な結果は以下の通り。

【小学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査およびインタビュー調査】

- 「ヤングケアラー」の概念を知っている学校は約9割。
- ヤングケアラーと思われる子どもがいる学校は34.1%。
- SSW(スクールソーシャルワーカー)は要請に応じて派遣、SC(スクールカウンセラー)は月数回以下で配置・派遣されている学校が約半数。

- ヤングケアラーの把握や支援にあたっての工夫としては、「子どもをよく観察すること」「保護者との信頼関係を築くこと」等が挙げられている。
- ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいことは「家庭内の様子が分かりにくい/家庭内に介入しづらい」「児童本人が話したがらない」といった点が挙げられている。
- ヤングケアラー支援に必要なと思うこととして、「教職員がヤングケアラーについて知ること」「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」との回答が多くみられた。

【小学生の生活についてのアンケート調査】

- 家族の世話をしていると回答した小学生は 6.5%。世話を必要としている家族はきょうだいが最も多く 71.0%、次いで母親が 19.8%。
- 世話を必要としている人が父母と回答した人に父母の状態像については、「わからない」との回答が 33.3%と最も高い。父母が病気や障がいを抱えていても、そうした状態について子どもに話していなければ、子ども自身は状況がよく分からないまま家族の世話をしている可能性がある。
- 家族の世話をしている人のうち、就学前から世話をしている人が 17.3%、低学年のうちから世話をしている人が 30.9%いる。
- 世話をしている家族がいると回答した人は、健康状態が「よくない・あまりよくない」、遅刻や早退を「たまにする・よくする」と回答する割合が、世話をしている家族がいない人よりも2倍前後高くなっており、健康状態や学校生活にも影響を与えていると考えられる。さらに、家族の世話をしている人は、学校生活において「授業中に寝てしまうことが多い」、「宿題ができていないことが多い」、「持ち物の忘れ物が多い」、「提出物を出すのが遅れることが多い」といった項目に該当する割合が、いずれも世話をしていない人の2倍前後となっており、日々の生活に影響が出ていることがうかがわれる。
- 世話に費やす時間が長時間になるほど、学校生活等への影響が大きく、本人の負担感も重くなることが確認された。
- 世話に関する相談状況としては、世話による制約が多いあるいは世話にきつさを感じている人ほど相談経験のある人が増える傾向にある。ただ、子どもからの相談相手については家族(父母、祖父母、きょうだい)が 78.9%と最も多く、家族以外の大人については「学校の先生(13.8%)」「保健室の先生(5.5%)」「SSW や SC(3.7%)」とその割合が大きく下がる。
- 学校や大人にしてもらいたいこととして、世話をしている家族がいる人全体としては、「特にない」(50.9%)が最も多かったものの、「自由に使える時間がほしい」(15.2%)、「勉強を教えてほしい」(13.3%)、「自分のことについて話を聞いてほしい」(11.9%)等の回答が目立つ。

【大学生の生活実態に関するアンケート調査結果】

- 家族の世話をしている大学3年生は、「現在いる」が 6.2%、「現在はいないが、過去にいた」が 4.0%。ヤングケアラーに「現在あてはまる」と回答した人は、2.9%。
- 家族の世話をしている場合、健康状態が「あまりよくない」、「よくない」、欠席、遅刻・早退が「たまにある」、「ある」の割合が高くなっている。「大学の授業の受講(ゼミ含む)」、「大学の授業の予習復習、課題に取り組む時間」、「部活・サークル」、「アルバイト・仕事」、「趣味・娯楽・交友」について「確保できている」の割合が低くなっている。「学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと」、「家庭の経済的状況のこと」、「自分と家族との関係のこと」、「家庭内の人間関係のこと」、「病気や障がいのある家族のこと」などが悩みとして挙げられている。
- 現在または過去に世話をしている家族がいる・いた人に世話をしていることでやりたかったけどできなかったことを聞いたところ、6割の人がなにかしらのできなかったことがあったと回答している。
- 世話を始めた時期が大学入学以前の方のうち 50%超が、世話をしていることで大学進学の際に何かしらの苦労したこと・影響があったと回答しており、特に「学費等の制約や経済的な不安があった」、「受験勉強をする時間が取れなかった」、「実家から通える範囲等の通学面の制約があった」が多かった。
- 家族の世話をしている人のうち約 50%が就職に関し何かしらの不安があると回答している。
- 家族の世話をしている人のうち、精神的なきつさを感じている割合が 37.1%。
- 家族の世話をしている人が求める支援は「進路や就職など将来の相談にのってほしい」、「学費への支援・奨学金等」、「自由に使える時間がほしい」の順に高い。
- 世話をしている家族は、中高生調査で「きょうだい」の割合が最も高かったのに対し、大学生は「母親」、「祖母」の割合が高くなっている。
- ひとり親家庭で、自分のみで世話をしている割合が高く、世話の頻度も高く、世話時間も長い傾向にある。
- 「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」の認知度については、「聞いたことがあり、内容も知っている」の割合が中高生調査に比べ高い(ヤングケアラーについて理解を深めた学生が今回の調査で積極的に回答した可能性がある点に留意が必要)。

【一般国民アンケート調査】

- ヤングケアラーの認知度は、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 29.8%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が 22.3%、「聞いたことはない」が 48.0%。
- 年代、性別、子どもの有無によって認知度の傾向が異なる。50 代以上の女性の認知度が最も高く、年代が若くなるほど認知度は下がる。男性の方が全般的に認知度が低い。子どもの有無では、子どものいる人の方が認知度が高い。
- ヤングケアラーという言葉の認知経路は全年代を通じて「テレビ」が最も多い(82.4%)。次いで「新聞」32.5%、「Web サイト」14.8%であった。全年代で「テレビ」の影響力が大きい、30

代、20代と年代が若くなるほど割合は低くなっている。また、「新聞」はその傾向がさらに顕著である。20代では口コミの影響力も認められた。

- ヤングケアラーと思われる子どもがいた場合の対応は、「わからない」という回答が最も多い(39.9%)。次いで「本人に様子を聞く」23.3%、「関係機関に相談する」22.1%となっている。「何もしない」という回答は16.2%。
- ヤングケアラーがいた場合の対応は、認知度が高いほど具体的な行動に結びつきやすく、認知度が低いほど「何もしない」「わからない」という割合が多くなっている。
- 相談しやすい環境づくりにつながるとされる仕組みや取組については、「ヤングケアラー専用の相談窓口があること」が最も多い。また、「相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと」や「相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと」も求められている。

考察・今後の課題

各結果を踏まえ、今後の課題を以下のように整理した。

<小学校調査>

ヤングケアラーの認知度が向上していることや学校によっては意識的に教職員へ周知し、ヤングケアラーと思われる子どもへの対応を行っていることが確認された。一方で、学校現場においては、ヤングケアラーが抱える家庭内の問題に介入する難しさがあることが浮き彫りとなった。子どもの日々接している教員が気づくことが支援につながる第一歩となる可能性がある一方で、家庭の事情を把握しきれず、適切な外部機関との連携ができていない場合があると推測される。そのため、家庭内の状況を把握するためにも、SSWや行政の福祉/子育て部門の職員といった家庭にアプローチすることのできる専門職との協力が重要となる。また、学校からの連携先でもある市区町村教育委員会において、行政の関係機関等との連携・調整を行える体制を整えることも、方策の一つとして考えられる。また、学校現場におけるSSWやSCといった専門職の十分な配置についても今後の課題である。

<小学生調査>

父母の世話をしながらも父母が世話を必要とする理由について「わからない」との回答が3割程度あること、平日1日あたり7時間以上世話を行っても、その3割超が「特に大変さは感じていない」と回答していること等から、小学生の年齢だと、家族の置かれた状況を十分に理解できていなかったり、家族の世話をすることが当たり前になり、その大変さを十分に自覚できていなかったりする可能性があることを示唆している。今回は小学6年生を対象とした調査であるが、低学年、中学年の児童であれば、自らの置かれた状況を把握し、大変な状況にある場合には本人が自ら周囲に相談をすることは難しいことが想像に難くない。従って、特に小学生のヤングケアラーについては、周囲の大人が本人の様子の変化やつらさに気づき、声をかけていくことの重要性が大きいと言える。周囲の大人がヤングケアラーに対する意識を高め、必要な支援につながるきっかけを作れるような体制を整えていくことが今後の課題である。

また、低年齢から長い期間にわたって家族の世話をを行い、またその負担が大きかった場合の中長期的な影響については今後の調査が期待される。

小学生については周囲の大人が子どもの置かれた状況を把握し、必要な支援を行えるような体制を整えることが重要であり、今後自治体等で小学生本人への調査を行う際には、ヤングケアラー当事者への影響等のリスクを踏まえたうえで、支援体制を整えつつ実施の可否を判断することが求められる。

<大学生調査>

今回の大学生調査は、「大学3年生まで大学に通えている人」が対象である。大学進学をあきらめた人、大学入学したものの通い続けられなかった人の実態は把握できていない。大学進学の際の困りごとが、非常に大きく大学通学に至らなかったと考えられる。また、アンケートに答えられる状況にないより深刻な状態にあるケアラーがいることも想像される。本結果は、若者ケアラーの実態を全国的に明らかにした調査ではあるが、あくまでも一部の実態であり、より詳細な実態把握や支援・対応の検討が求められる。

<一般国民調査>

一般国民調査では、認知度の高さが具体的な行動や相談しやすい環境づくりを考える姿勢に結びつきやすいことが分かった。そのため、子どもがいる女性の認知度のさらなる向上を図るとともに、子どもがいる男性や若年層の認知度の底上げをすることが求められる。また、周囲の気づきを適切に支援につなげていくために、活用しやすい支援制度と相談体制の整備が求められる。

【目次】

第1章 本調査研究の概要	1
1. 調査研究の背景・目的	1
(1) 背景	1
(2) 目的	1
2. 調査研究の方法・進め方	2
(1) 調査研究の全体像	2
(2) ヤングケアラーの定義	2
(3) 検討委員会の設置・運営	4
(4) 成果の公表方法	4
第2章 小学校におけるヤングケアラー対応に関するアンケート調査結果	5
1. 調査の概要	5
(1) 調査対象	5
(2) 回答方法	6
(3) 実施時期	6
(4) 有効回収数	6
(5) 主な調査項目	6
2. 小学校調査の結果	7
(1) 基本情報	7
(2) 支援が必要だと思われる子どもへの対応	9
(3) ヤングケアラーについて	16
(4) 個別事例	32
3. 小学校におけるヤングケアラーへの対応に関する取組(インタビュー調査)	45
(1) インタビュー調査の実施概要	45
(2) インタビュー調査結果	45
第3章 小学生の生活についてのアンケート調査結果	56
1. 小学生調査の概要	56
(1) 調査対象	56
(2) 回答方法	57
(3) 実施時期	57
(4) 有効回収数	57
(5) 主な調査項目	57
(6) 調査実施にあたっての留意点	57
2. 小学生調査の結果(単純集計)	59
(1) 基本情報	59
(2) 普段の生活について	61
(3) 家庭や家族のことについて	65
3. 小学生調査の結果(クロス集計)	84
(1) 家族の世話の有無による学校生活などの状況	84
(2) 性別による世話の状況の違い	88
(3) 家族構成による世話の状況の違い	96

(4) 平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況等	102
(5) 世話を必要としている家族による世話の状況等	107
(6) 世話をすることに感じている大変さによる世話の状況の違い	115
(7) 世話に関しての相談の状況	120
第4章 大学生の生活実態に関するアンケート調査結果	121
1. 大学生向けアンケート調査の概要	121
(1) 調査対象	121
(2) 回答方法	121
(3) 実施時期	122
(4) 有効回収数	122
(5) 主な調査項目	122
(6) 調査結果閲覧にあたっての留意点(回答者属性について)	123
2. 大学生アンケート調査の結果(単純集計)	125
(1) 基本情報	125
(2) 普段の生活について	131
(3) 家庭や家族のことについて	137
(4) ヤングケアラーについて	162
3. 大学生アンケート調査の結果(クロス集計)	187
3-1 家族の世話の有無別分析	187
3-2 性別×大学種別 による状況の違い	208
3-3 家族構成による世話の状況の違い	219
3-4 平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況等	231
3-5 世話をしている家族による世話の状況等	241
3-6 世話をすることに感じているきつさによる世話の状況の違い	251
3-7 ヤングケアラーの自己認識による生活状況、世話の状況の違い	264
3-8 世話に関しての相談の状況	277
3-9 大学の学科による状況の違い	279
3-10 「世話をしている/したい」人のうちヤングケアラーの自己認識別 世話の状況	290
第5章 一般国民のヤングケアラーの認知度調査	302
1. 一般国民調査の概要	302
(1) 調査対象	302
(2) 回答方法	302
(3) 実施時期	302
(4) 回収数	302
2. 一般国民調査の結果(単純集計)	303
(1) 基本情報	303
(2) ヤングケアラーについて	309
3. 一般国民調査の結果(クロス集計)	320
(1) 認知度について	320
(2) 認知経路について	325
(3) ヤングケアラーがいた場合の対応について	326
(4) 相談しやすい環境づくりにつながるとされる仕組みや取組について	328
4. 一般国民調査の結果(自由意見)	331
(1) ヤングケアラーへの印象	331
(2) ヤングケアラーの支援に必要だと思われること	333

(3) 「家族・親族」にヤングケアラーがいると回答した方の声	335
第6章 調査結果取りまとめ	336
1. ヤングケアラーの実態把握	336
2. 小学校調査	337
(1) 調査結果取りまとめ	337
(2) 今後の課題	339
3. 小学生調査	339
(1) 調査結果取りまとめ	339
(2) 今後の課題	343
4. 大学生調査	344
(1) 調査結果取りまとめ	344
(2) 今後の課題	348
5. 一般国民調査	349
(1) 調査結果取りまとめ	349
(2) 今後の課題	351

資料編

第1章 本調査研究の概要

1. 調査研究の背景・目的

(1) 背景

令和2年度に「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」が行われ、子ども本人(中学生・高校生)を対象としたヤングケアラーの全国調査が初めて行われた。世話をしている家族が「いる」と回答したのは、中学2年生 5.7%、全日制高校2年生 4.1%であるなどの実態が明らかとなった。

新型コロナウイルス感染症の流行が長期化する中で、社会的な孤独・孤立の問題は深刻さを増し、中でもヤングケアラーは、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担があることで本人の育ちや教育に影響があるといった課題がある。そもそも本来大人が担うべき家事や家族のケアを日常的に行っていることにより、本来、社会が守るべき、子どもの権利が守られていない可能性がある。しかしながら、家庭内のデリケートな問題であること、さらには本人や家族に自覚がないといった理由から、支援が必要であったとしても表面化しにくい構造となっており、支援の検討にあたり、まずはその実態を把握することが重要である。

昨年度の調査では、ケアをしている子どものうち中学2年生で約半数、高校2年生で約2割が小学生の時からケアを始めていることが明らかとなった。過度なケア負担で学業や進路選択に支障が出たり、孤独につながったりすることが分かっており、また、年齢が低いほど本人に自覚がなく表面化しにくい。早期発見のために、まだ実態把握が行われていない小学生の家族のケアの実態について、全国調査で明らかにする必要がある。

また、ヤングケアラーは18歳未満とする定義もあるが、ケア負担が大学生活や就職活動等に影響している可能性もあることから、これまで全国調査は行われていない大学生についても実態を明らかにする必要がある。

さらに、大人がヤングケアラーについて理解を深め、家庭において子どもが担っている家事や家族のケアの負担に気付き、必要な支援につなげるためにも、ヤングケアラーの社会的認知度を向上させることが重要であり、社会全体における認知度を明らかにする必要がある。

(2) 目的

本年度は、これまで全国規模では実態把握が行われていない小学生や大学生を対象とした全国調査を行い、昨年度の中高生調査と比較可能な形で、それら年代の家族ケアの状況、ヤングケアラーの実態を明らかにする。

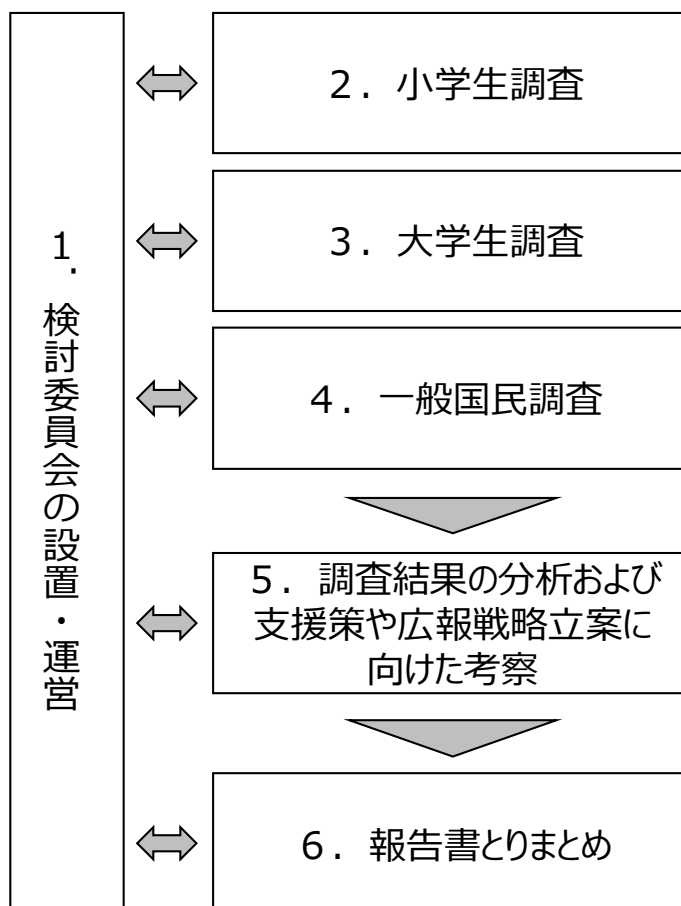
また、ヤングケアラーについて必要な支援につなげるため一般国民を対象としたヤングケアラーの認知度調査を行う。

これらの調査の結果から、ヤングケアラーを早期に発見し、適切に支援につなぐ方策の検討、および各年代への幅広い支援策や社会的認知度を向上させるための方策検討、社会全体に対する広報戦略の検討を今後具体的に行うための考察を行う。

2. 調査研究の方法・進め方

(1) 調査研究の全体像

図表 1 本調査研究の全体像



(2) ヤングケアラーの定義

ヤングケアラーの定義については、「家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている 18 歳未満の子ども」とする定義（一般社団法人日本ケアラー連盟による定義）がある。ただし、18 歳以上の若者についても、18 歳未満の時点で、あるいは 18 歳以降で上記定義に概要するようなケアを行っている場合、学業や就職活動、その後の就労に影響を受けている可能性があることから、本調査研究においては大学3年生を対象に、主に 20 代の「若者ケアラー」についても調査を行っている。

なお、調査票においてヤングケアラーの状態像を説明する際には、以下の一般社団法人日本ケアラー連盟の定義およびイラストを提示している。

図表 2 調査票に掲載したヤングケアラーの定義

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。

 障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている	 家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている	 障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている	 目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている	 日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている
 家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている	 アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している	 がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の養病をしている	 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている	 障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

ヤングケアラー支援の現場では、本人がケアを要する家族の世話を行っているにもかかわらず、自身が「ヤングケアラー」という自覚をしていない場合もあるということを踏まえ、大学生調査の調査票においては、まず家族の世話の状況（世話を必要とする人、その人の状態像、世話の内容等）を聞いたうえで、上記のヤングケアラーの定義を示し、自身が該当すると思うかどうかを聞いている。小学校調査と一般国民調査においては、上記定義を提示したうえで、該当する人がいるかを聞いている。なお、小学生調査については、上記の定義に関するイラストを見せることによる当事者に対する侵襲性が懸念されることから、調査票においては家族の世話の状況のみを聞いている。

(3) 検討委員会の設置・運営

本調査研究を円滑かつ効果的なものとするため、当該分野に精通した有識者および実務経験者等からなる検討委員会を設置した。構成委員および開催概要は以下の通りである。

図表 3 検討委員会構成委員

氏名	所属等
安部 計彦	西南学院大学人間科学部教授
北村 充	豊橋市子ども若者総合相談支援センター「ココエール」副センター長
黒光 さおり	尼崎市教育委員会事務局 学校教育部子ども教育支援課 スクールソーシャルワーカー
中道 篤史	大阪市教育委員会事務局 指導部 初等・中学校教育担当課長
○ 濱島 淑恵	大阪歯科大学教授
宮崎 成悟	一般社団法人ヤングケアラー協会 代表理事
森田 久美子	立正大学社会福祉学部教授
柳沢 章司	山梨県子育て支援局 子ども福祉課長

※敬称略、五十音順 ○委員長

図表 4 検討委員会の開催概要

回	開催日時	主な検討内容
第1回	令和3年 11月16日	- 事業概要の説明 - 小学生調査、小学校調査、大学生調査、一般国民調査の実施方法および調査票設計について
第2回	令和4年 2月24日	- 大学生調査と一般国民調査の結果についての報告 - 上記調査結果の分析についての議論
第3回	令和4年 3月10日	- 小学生調査・小学校調査結果、インタビューの実施概要についての報告 - 上記調査結果の分析についての議論 - 報告書ドラフト版についての議論

(4) 成果の公表方法

本調査研究の結果については、弊社のホームページにおいて公開する。

第2章 小学校におけるヤングケアラー対応に関するアンケート調査結果

本章では、小学校向けに実施したアンケート調査結果について示す。

1. 調査の概要

(1) 調査対象

全国の小学校から 350 校を層化無作為抽出(※)により抽出。

なお、対象校については小学6年生の在籍者数が 20 名以上(令和3年5月1日時点)の学校から抽出を行った。

※層化無作為抽出の際の分類方法は以下の通り

●層化

1. 都道府県単位で 11 地区に分類

北海道地区：北海道(1道)

東北地区：青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県(6県)

関東地区：茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県(1都6県)

北陸地区：新潟県 富山県 石川県 福井県(4県)

東山地区：山梨県 長野県 岐阜県(3県)

東海地区：静岡県 愛知県 三重県(3県)

近畿地区：滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県(2府4県)

中国地区：鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県(5県)

四国地区：徳島県 香川県 愛媛県 高知県(4県)

北九州地区：福岡県 佐賀県 長崎県 大分県(4県)

南九州地区：熊本県 鹿児島県 宮崎県 沖縄県(4県)

2. 各地区において、次の5つの都市規模別に分類

大都市(政令指定都市、東京都特別区)

人口 20 万人以上の市

人口 10 万人以上の市

人口 10 万人未満の市

町村

※「関東地区」については、「大都市(政令指定都市、東京都特別区)」を「関東:東京都特別区」と「関東:政令指定都市」に分け、計6つの都市規模別とした。

●配分

1. 抽出校数(350校)をまず人口比に応じて11地区に配分
2. 各地区に配分された校数を、各地区の都市規模別の合計人口の比に応じて、5つの都市規模別に配分

(2) 回答方法

対象校宛に調査票を郵送し、郵送にて回収。

(3) 実施時期

令和4年1月

(4) 有効回収数

260件

(5) 主な調査項目

基本情報

支援が必要だと思われる子どもへの対応

ヤングケアラーについて

個別事例

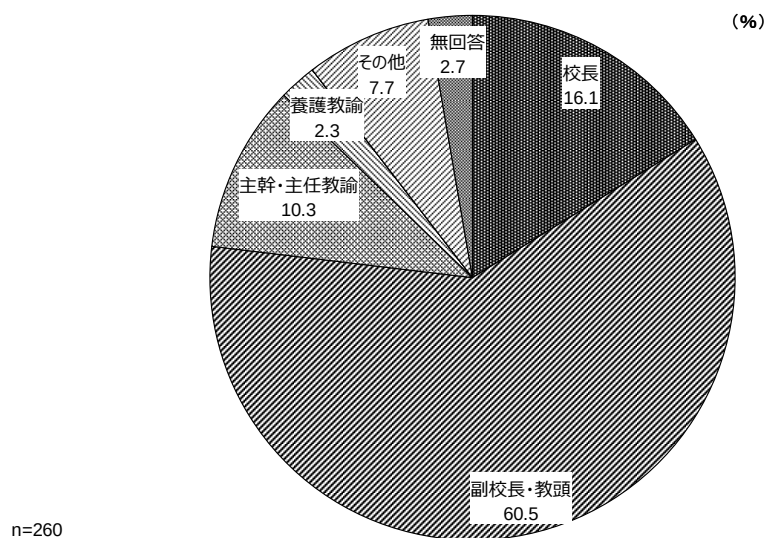
2. 小学校調査の結果

(1) 基本情報

① 回答者の役職

回答者の役職は「副校長・教頭」が最も多く 60.5%となっている。

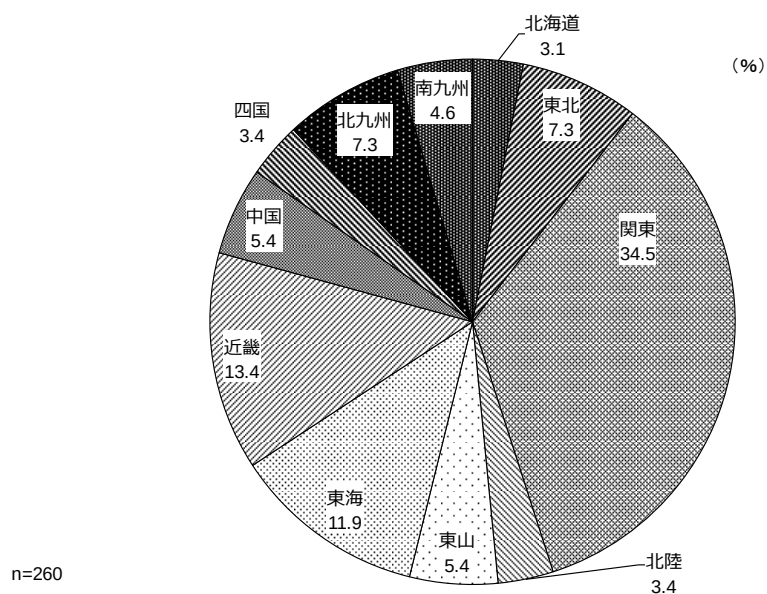
図表 5 回答者の役職



② 学校の所在地

学校の所在地については以下の通りである。

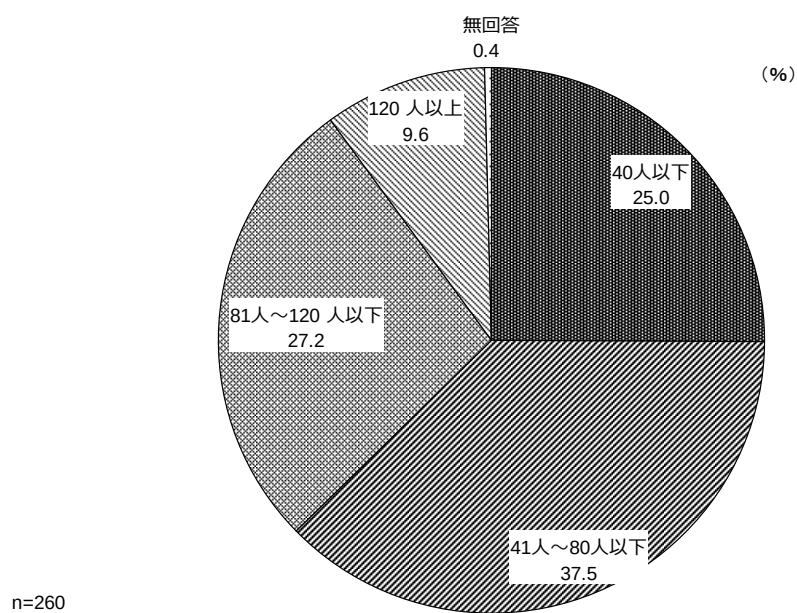
図表 6 学校の所在地



③ 学校規模

学校規模については、「41 人～80 人以下」が最も多く 37.5%、次いで、「81 人～120 人以下」が 27.2%、「40 人以下」が 25%となっている。

図表 7 学校規模

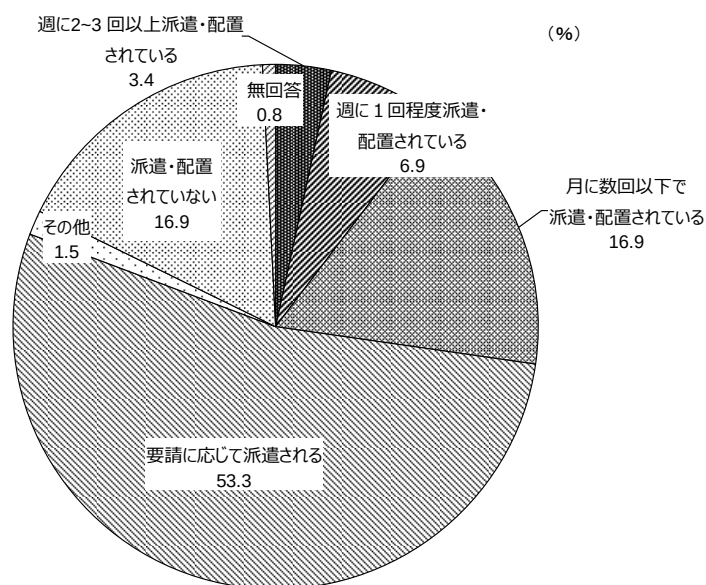


(2) 支援が必要だと思われる子どもへの対応

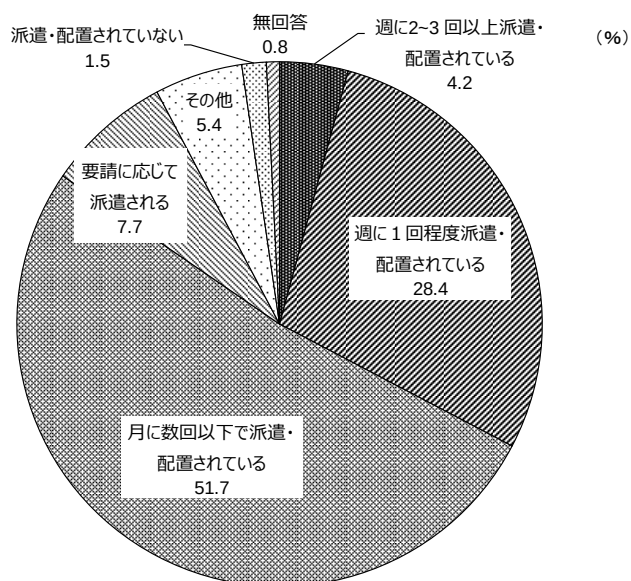
① SSW、SC の派遣・配置状況

SSW の派遣・派遣状況については、「要請に応じて派遣される」が最も高く 53.3%となっている。
SC の派遣・派遣状況については「月に数回以下で派遣・配置されている」が最も高く 51.7%となっている。

図表 8 SSW の派遣・配置状況



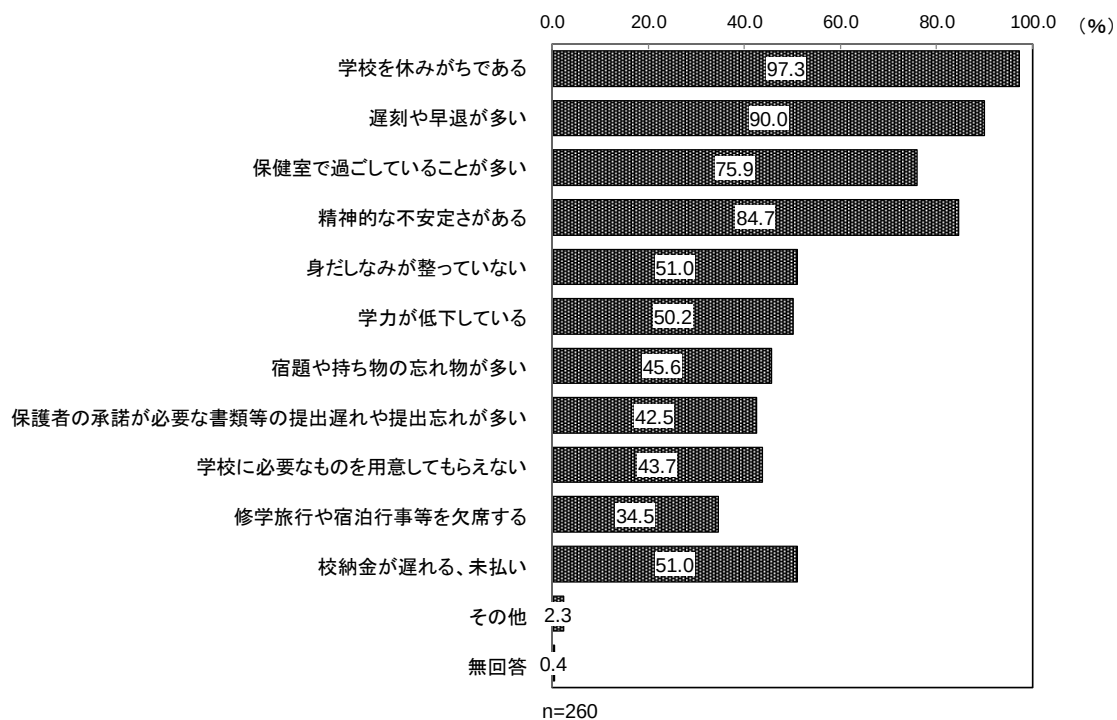
図表 9 SC の派遣・配置状況



② 校内で共有している子どものケース

校内で共有している子どものケースについて聞いたところ、「学校を休みがちである」が最も高く97.3%、次いで「遅刻や早退が多い」(90.0%)、「精神的な不安定さがある」(84.7%)、「保健室で過ごしていることが多い」(75.9%)が高い割合となっている。

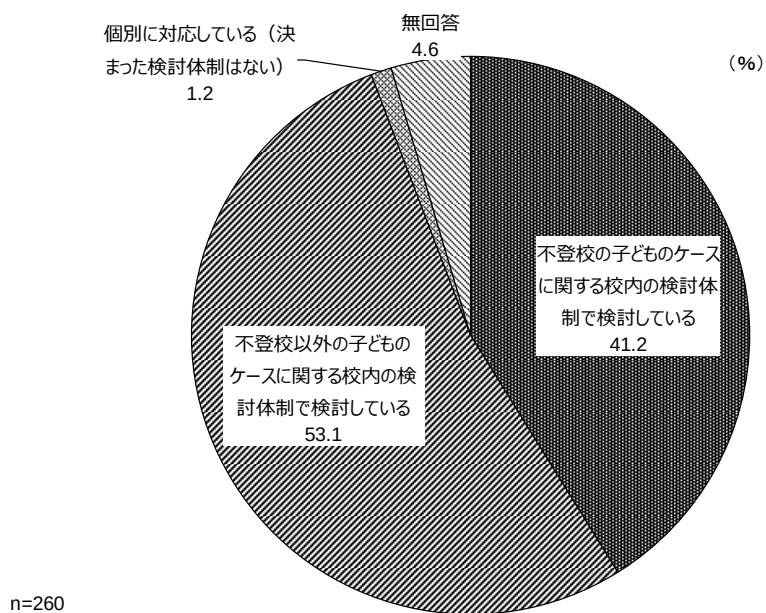
図表 10 校内で共有している子どものケース(複数回答)



③ 情報共有・対応の検討体制

校内で共有している子どものケースについての情報共有・対応の検討体制について、「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」が 53.1%、「不登校の子どもに関する校内の検討体制で検討している」が 41.2%となっている。

図表 11 情報共有・対応の検討体制



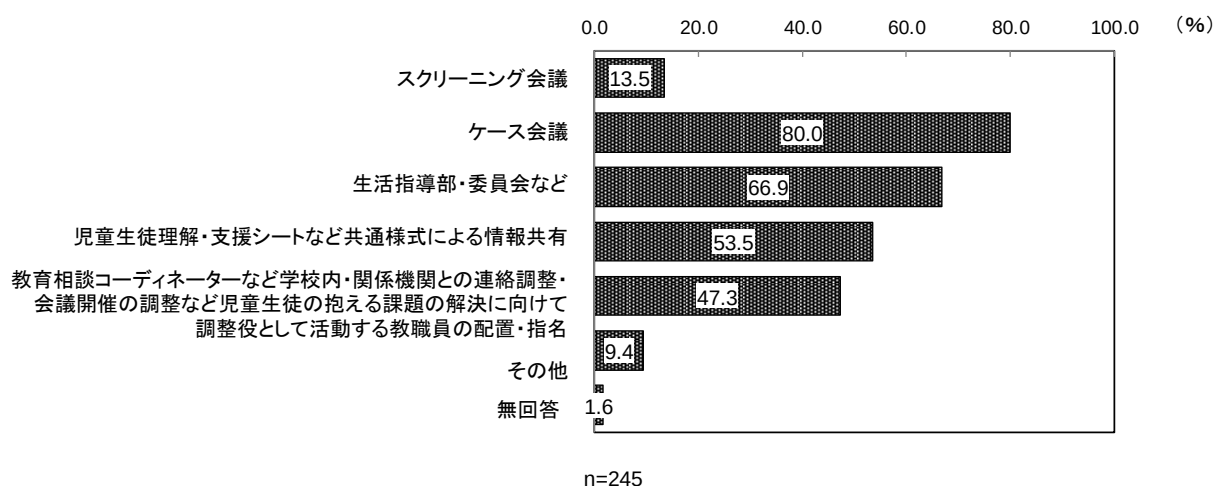
④ 校内の検討体制

前問で「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した学校に、校内の情報共有・対応の検討体制について聞いた結果は以下の通りである。

i. 情報共有・対応の検討方法

情報共有・対応の検討方法としては、「ケース会議」が 80.0%と最も高く、次いで「生活指導部・委員会など」が 66.9%となっている。

図表 12 情報共有・対応の検討方法(複数回答)



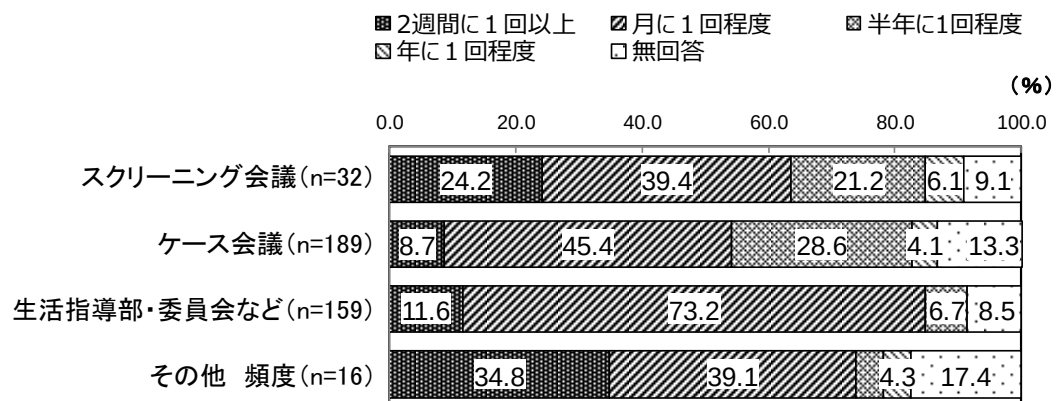
ii. 会議に参加する教職員、会議の頻度

情報共有・対応の検討方法として「スクリーニング会議」、「ケース会議」、「生活指導部・委員会など」、「その他」と回答した学校に、それぞれの会議の参加者および頻度を聞いたところ、結果は以下の通りである。

図表 13 会議の参加者(複数回答)

	校長	副校長・教頭	学年主任	担任教諭	生活指導教諭	養護教諭	S S W	S C	外部の関係機関	その他	無回答
スクリーニング会議 参加者(n=33)	87.9	87.9	60.6	81.8	81.8	78.8	12.1	18.2	3.0	15.2	3.0
ケース会議 参加者(n=196)	91.8	96.4	61.2	92.3	66.3	75.5	24.0	26.0	20.9	23.5	1.5
生活指導部・委員会など(n=164)	70.1	73.2	53.7	71.3	83.5	75.0	7.3	17.7	1.8	18.9	6.1
その他 参加者(n=23)	78.3	82.6	60.9	60.9	56.5	60.9	-	26.1	-	34.8	4.3

図表 14 会議の頻度



⑤ 個別対応の場合の情報共有・対応の検討方法など

個別対応の場合の情報共有・対応の検討方法については、以下のような回答があった。

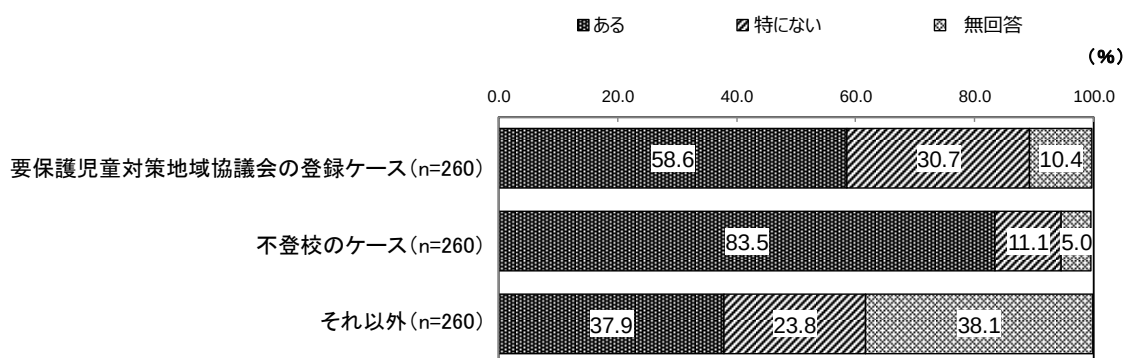
回答内容
絶対数が少ないため、管理職・学級担任・生徒指導担当・養護教諭等で情報共有を行い、必要に応じて全教職員で共通理解を図るようにしている。
担任、養護教諭を中心に対処を行っている。週1～2回状況を管理職に報告したり、校内研修の児童理解で情報共有を行ったりしている。
担任、担当から管理職に報告、相談を速やかにする。担当者から職員に周知する。保護者へ連絡する。

⑥ 外部との情報共有・対応の検討体制

校内で共有している子どものケースについて学校以外の関係機関と連携する体制の有無、また体制がある場合、連携する関係機関について聞いた結果は以下の通りである。

体制の有無については、「不登校のケース」について「ある」と回答した割合が 83.5%と高く、「要保護児童対策地域協議会の登録ケース」については、58.6%が「ある」と回答している。

図表 15 学校以外の関係機関と連携する体制の有無



連携する関係機関について、「要保護児童対策地域協議会の登録ケース」では、「児童相談所」が 63.4%と最も高くなっている。「不登校のケース」および「その他」では「市区町村教育委員会」がそれぞれ 70.2%と 67.7%で最も高くなっている。

図表 16 連携する関係機関(複数回答)

	市区町村教育委員会	市区町村の福祉部門（要 対協の調整機関を除く）	市区町村の保健部門	市区町村の要保護児童 対策協議会の調整機 関虐待対応部門	指導教育支援センター（適 応）	フードバンク・子ども 食堂などの民間団体・施 設	児童相談所
要保護児童対策地域協議会の登録ケース（n=153）	58.2	50.3	16.3	58.8	10.5	2.6	63.4
不登校のケース（n=218）	70.2	26.6	4.1	11.0	57.8	7.8	23.4
それ以外（n=99）	67.7	41.4	9.1	16.2	24.2	3.0	61.6

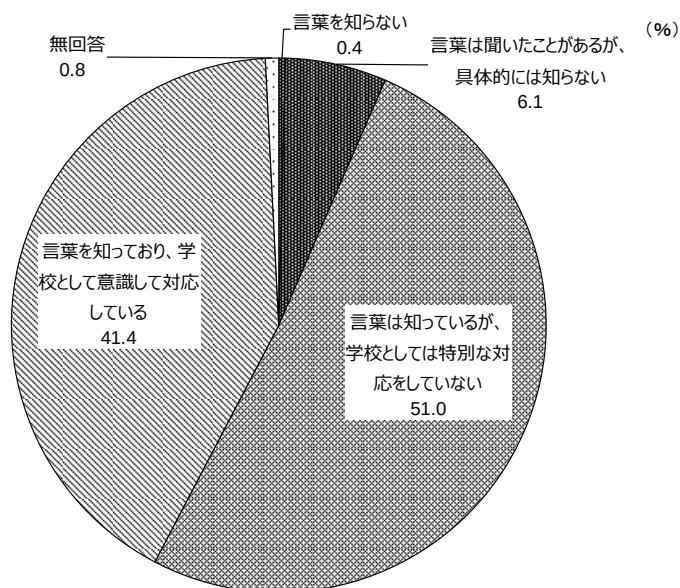
	地域包括支援センター・ 居宅介護支援事業所	障がい者相談支援 事業所	民生委員	病院	警察や刑事司法関係機関	その他	無回答
要保護児童対策地域協議会の登録ケース(n=153)	3.9	5.9	26.8	4.6	11.8	3.9	0
不登校のケース(n=218)	2.8	1.8	13.3	8.3	0.5	6.0	0.9
それ以外(n=99)	1.0	3.0	27.3	8.1	11.1	8.1	1.0

(3) ヤングケアラーについて

① 「ヤングケアラー」概念の認識

「ヤングケアラー」の概念の認識について聞いたところ、「言葉は知っているが、学校としては特別な対応はしていない」が 51.0%、「言葉を知っており、学校として意識して対応している」が 41.4%となっている。全体の約9割が「ヤングケアラー」という言葉を知っていることが確認された。

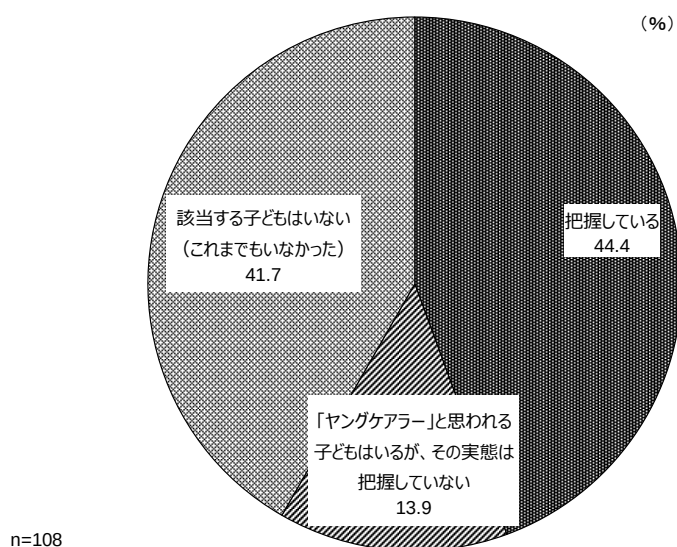
図表 17 「ヤングケアラー」概念の認識



② 「ヤングケアラー」の実態把握の状況

「ヤングケアラー」の概念について「言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した学校に、子どもの実態把握の状況について聞いたところ、「把握している」は 44.4%、「『ヤングケアラー』と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」は 13.9%となっている。

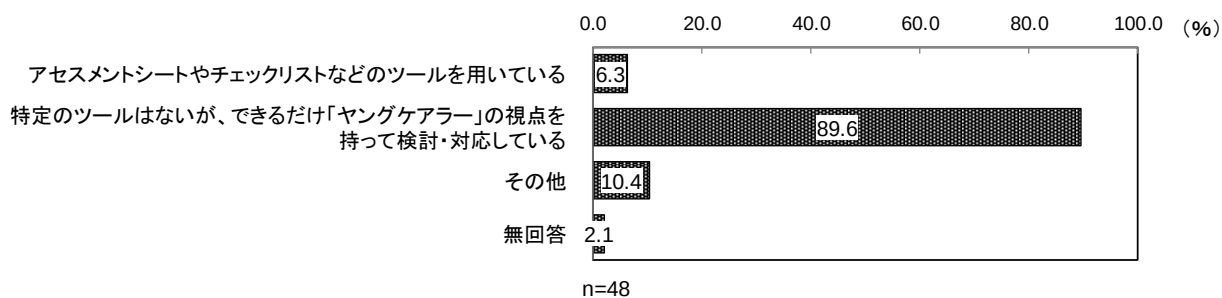
図表 18 「ヤングケアラー」の実態把握の状況



③ 「ヤングケアラー」の把握方法

「ヤングケアラー」を「把握している」と回答した学校に、把握方法について聞いたところ、「特定のツールはないが、できるだけ『ヤングケアラー』の視点を持って検討・対応している」が最も多く 89.6%となっている。

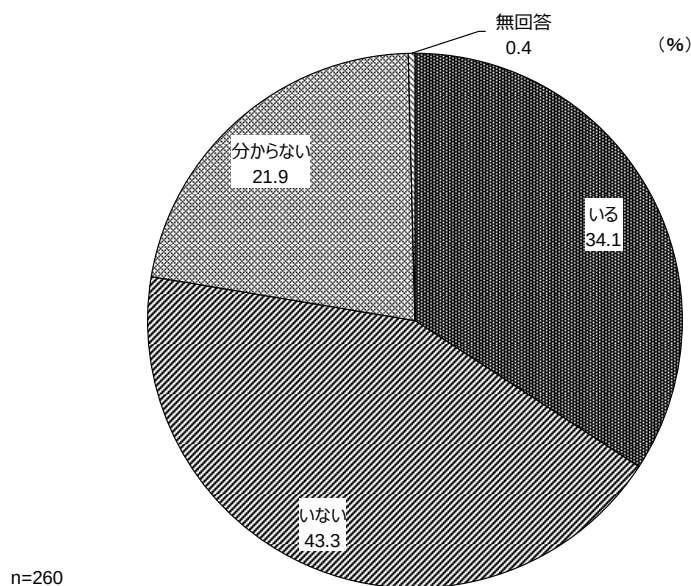
図表 19 「ヤングケアラー」の把握方法(複数回答)



④ 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無

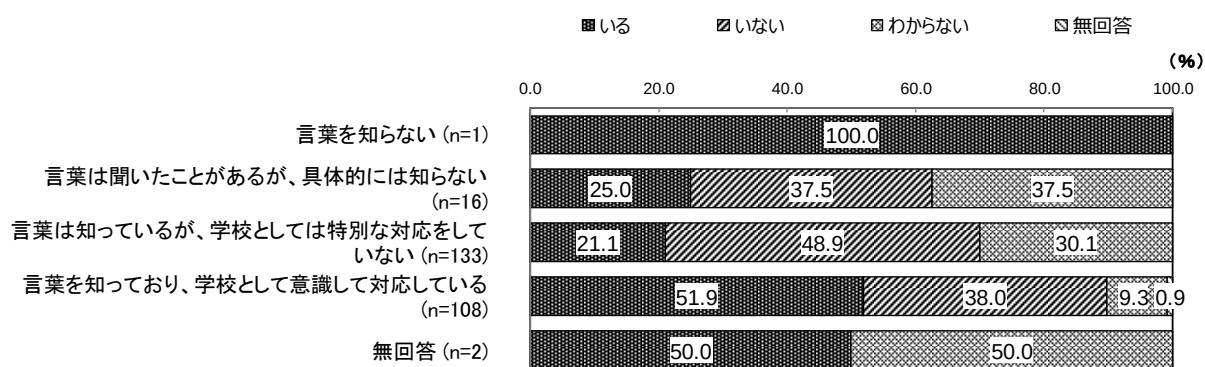
「ヤングケアラー」の定義と状態像を示したうえで、該当すると思われる子どもの有無について聞いたところ、「いる」が 34.1%となっている。

図表 20 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無



「ヤングケアラー」の概念についての認識別にヤングケアラーと思われる子どもの有無を確認すると、「言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した学校が最も高く 51.9%となっている。「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」「言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない」と回答した学校においては、2割程度「いる」との回答がみられる。

図表 21 (参考)「ヤングケアラー」の概念の認識×ヤングケアラーの有無



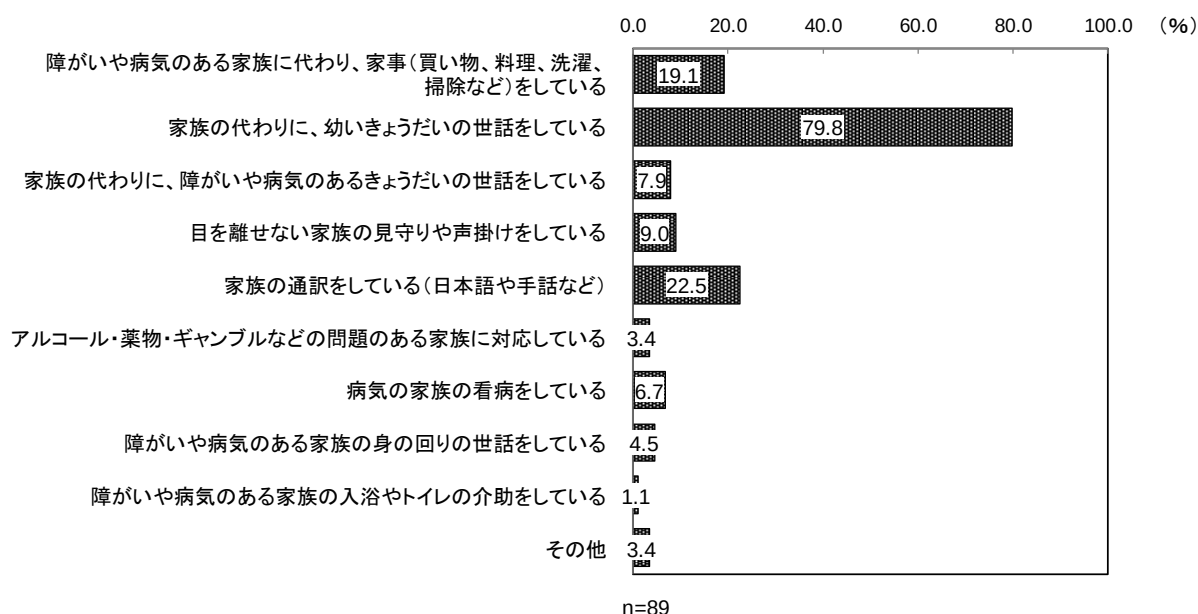
⑤ ヤングケアラーの状況について

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもが「いる」と回答した学校に、ヤングケアラーと思われる子どもの状況について聞いたところ、結果は以下の通りである。

i. ヤングケアラーと思われる子どもの状況

ヤングケアラーと思われる子どもの状況について聞いたところ、「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が最も高く 79.8%となっている。次いで、「家族の通訳をしている(日本語や手話など)」が 22.5%、「障がいや病気のある家族に代わり、家事(買い物、料理、洗濯、掃除など)をしている」が 19.1%となっている。

図表 22 ヤングケアラーと思われる子どもの状況(複数回答)



「ヤングケアラー」の概念の認識別に、ヤングケアラーと思われる子どもの状況をみると、「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が最も多い傾向は変わらないものの、「言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した学校の方が、より多様な子どもの状況を把握している傾向にあると考えられる。

図表 23 (参考)「ヤングケアラー」の概念の認識ヤングケアラーと思われる子どもの状況
(複数回答)

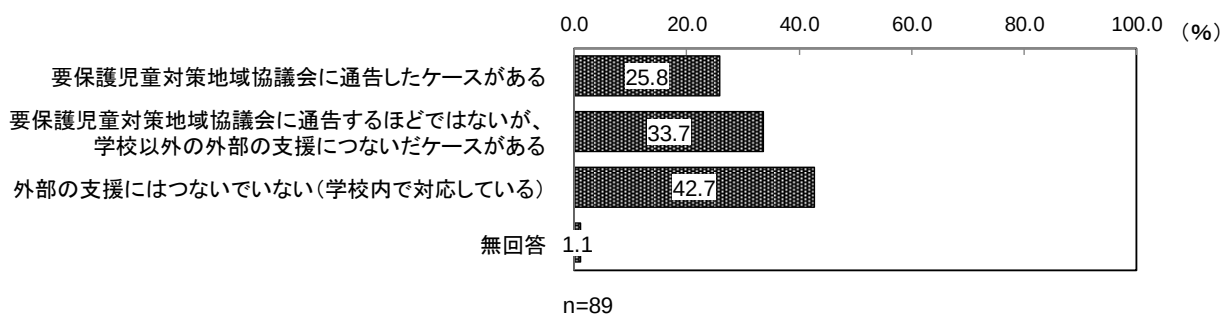
	洗濯、掃除など(買い物をしている、代	障がいや病気のある家族に、代	だ家族の世代をい、幼きう	家族の代わり、障がい世話を病	家族の代わり、障がい世話を病	声掛けをしない家族の見守りや	目を離せない家族の見守りや	家族の通訳をしている(日本	家族の通訳をしている(日本	応じている問題・薬物・ギャンブ	アルコー	病気の家族の看病をしている	障がいや病気のある家族の身	浴やトイレの病気の介助を家族の入	その他
言葉を知らない(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない(n=4)	50.0	75.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない(n=28)	18.5	85.2	3.7	3.7	33.3	7.4	11.1	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
言葉を知っており、学校として意識して対応している(n=56)	17.9	76.8	8.9	12.5	12.5	1.8	5.4	5.4	1.8	5.4	5.4	1.8	5.4	1.8	5.4
無回答(n=1)	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「言葉を知らない」「言葉は聞いたことがあるが、具体的に知らない」「無回答」は回答数が少ないため参考値。

ii. 外部の支援につないだケースの有無

ヤングケアラーと思われる子どもについて、学校以外の外部の支援につないだケースがあるか聞いたところ、「外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している)」が 42.7%と最も高くなっている。次いで、「要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」(33.7%)、「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」(25.8%)となっている。

図表 24 外部の支援につないだケースの有無(複数回答)



iii. 外部の支援につながなかったケースについて

外部の支援につながなかったケースについて、つながなかった理由および対応方法の自由回答は以下の通りである。

理由
学内で対応ができているから。(複数意見)
外部の支援につなぐほどの課題がないと思われるため。(複数意見)
保護者との連携や関係者による支援を得られているため。(複数意見)
実態を把握している段階であるため。(複数意見)
家庭内の様子が分からず、確証がないため。(複数意見)
ヤングケアラーについての認識が足りないため。(複数意見)
本人が誰にも知られたくないと伝えられているから。
ヤングケアラーに該当する児童がいないため。
対応の仕方が分からないため。

対処方法
子ども本人から聞き取りを行い、状況を把握したうえで、校内で対応している。(複数意見)
家庭訪問等、保護者との面談や電話連絡を行っている。(複数意見)
担任教員や管理職が対応している。(複数意見)
児童の様子を観察し、SSW や SC に相談している。(複数意見)
校内委員会等の会議体で情報共有している。(複数意見)
児童相談所、幼稚園、中学校等との情報共有。(複数意見)
通訳を手配している。(外国語の話せる保護者に通訳してもらう、ポCKETーク等の翻訳機を活用するといった方法を含む)(複数意見)
(日本語指導が必要な)児童本人に対しては、日本語指導の教諭が約週3時間指導に入っている。
児童への適切な指示や説明を心がけている。
学校から連絡しなければならないことがある時は、(児童をおよびその家族を支援している)社長を介して伝えるようにしている。
一時入院等。
弁当持参の日に心配があったので、担任が用意しておいたが、当日は母の作った弁当を持ってきた。(本人が日常的に調理をしている話を聞いていた)

iv. ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること

ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していることについては、以下のような回答があった。

回答内容
子どもの様子をよく観察し、話を聞くようにする。(子どもに寄り添う)(複数意見)
保護者との信頼関係づくりに努めている。(複数意見)
教員が児童や家族、関係者から話を聞くなどし、状況の把握に努めている。(複数意見)
担任だけでなく複数の教員が関わる、校内委員会で取り上げる等、校内での情報共有や連携体制づくり。(複数意見)
学校以外の関係機関との連携。(複数意見)
家庭訪問の実施。(複数意見)
保護者を責めることのないようにしている。(複数意見)
個人情報の取り扱いに留意している。(複数意見)
職員に正しい認識のための情報提供。
保護者に、子どもの気持ちや行動をそのまま伝えないこと。どこまで情報を共有できるのかということ。その都度、外部連携機関と相談しながら、役割を分担している。
それぞれの家庭の事情を勘案しながらも、子どもにとって、良いことなのか、そうでないのかという視点で、保護者に意見をしていくことが大切であると考えている。
児童の学ぶ意欲の促進(SCとの面談や、学校サポーターの支援(授業における)、保健室での相談)。
通訳を手配し、対応している。ただし、市の通訳の予算に限りがあるため、教員が翻訳のアプリ等で対応をすることもある。

v. ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じること

ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることについては、以下のような回答があった。

回答内容
家庭内のことのため、学校が詳しく把握したり対応したりすることが難しい。(複数意見)
家庭内のことにどこまで介入してよいのか、判断が難しい。(複数意見)
児童が学校では問題なく過ごしている、本人は当たり前のことと思っている、家庭のことを話したがらない等で実態を把握しづらい。(複数意見)
学校側に対応する人員や時間の面で余裕がない。行政の人員に余裕がない。(複数意見)
保護者との連絡が取りづらい。(複数意見)
保護者の理解や協力を得るのが難しい。(複数意見)
外部機関との適切なやりとりの方法。(複数意見)
学校による支援のみでは解決できないことが多く、行政等の関係機関の支援が必要。(複数意見)
ヤングケアラーとネグレクトの相違、境界。
家庭のサポートを組織的に進めること。
保護者が子どもを放したくなく、不登校が続いてしまう、その現状はなかなか改善されない。
本人から実態を聞き取るのは低学年であるほど難しい。
本人が相談しやすい環境づくり。SC や SSW が常備配置でないこと。
日本語ができない状態で他国から転入してくる親子への支援体制をもっと国や都道府県、市で整えてほしい。
学校から支援をするために、本人や家族の必要感や理解を得ることが大変。多くは子どもよりも保護者へのケアが必要であるという結論になりがちである。子どもへの支援は、ヤングケアラー以外の問題を抱えている子も多く、ヤングケアラーだからという支援は意識されにくい。
ケアに関して親にも本人にも言及しづらい。休みが多くなることで、本人自体も「休みたい(楽)。｣という思いが出てくるため、ケアが苦痛なものになっていない。母子ともに依存し合っている様子。

vi. ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目について

ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目に対する意見や変更・追加項目案については以下の通りである。

＜参考：問5の選択肢＞

☐ 学校を休みがちである ☐ 遅刻や早退が多い ☐ 保健室で過ごしていることが多い ☐ 精神的な不安定さがある ☐ 身だしなみが整っていない ☐ 学力が低下している ☐ 宿題や持ち物の忘れ物が多い	☐ 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い ☐ 学校に必要なものを用意してもらえない ☐ 修学旅行や宿泊行事等を欠席する ☐ 校納金が遅れる、未払い

主な意見
該当する児童が多すぎるため、問5の選択肢から把握することは難しい。ヤングケアラーだと思われる子が、どんなケアが必要かを考えるのには使える。
児童との会話や行動観察、日記の中から日常的に家事をしていることが分かることがある。
家庭が裕福で生活に支障がない場合でもヤングケアラーと捉えてよいのか疑問。
ヤングケアラーなのか、ネグレクトなのか、ほかの理由なのか判断に迷う。

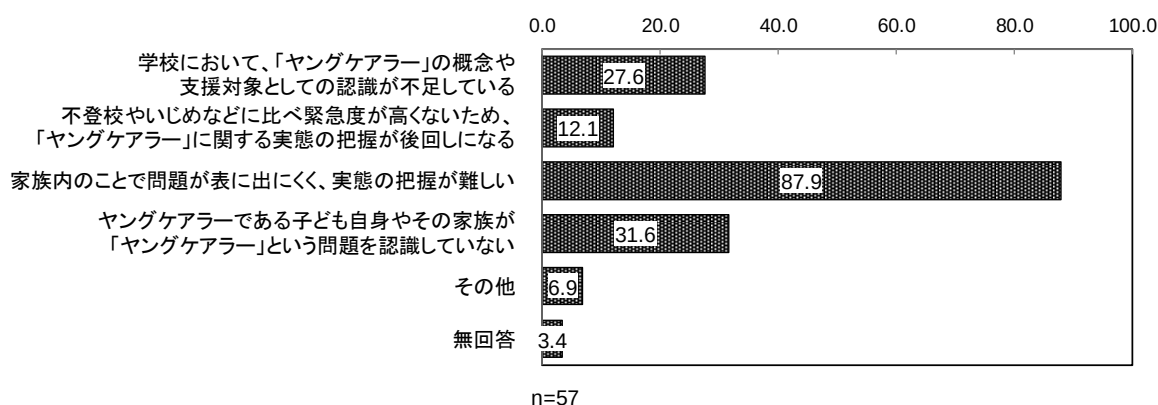
変更項目案：なし

追加項目案
家庭での様子を話そうとしない（複数意見）
保護者との連絡のつきにくさ（複数意見）
児童の会話や日記等から日常的に家事をしていることが分かる
学校から帰りたがらない
食事をきちんと取れていない
いらいらしている。目つきが普段とは違う
寝てしまうなど授業に集中できないことが多い
問題行動が多い。（けんかなどのトラブル）
家庭に束縛されているので、休日や放課後等、クラスや友達との交流がない
保護者が日本語を理解できていない
選択肢の横に、「学校生活で支障がある際にお答えください」とあった方がよい

⑥ ヤングケアラーがいるか分からない理由

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもがいるか「わからない」と回答した学校に、その理由を聞いたところ、「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」という回答が 87.9%と最も高くなっている。次いで、「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない」(31.6%)。「学校において、『ヤングケアラー』の概念や支援対象としての認識が不足している」(27.6%)となっている。

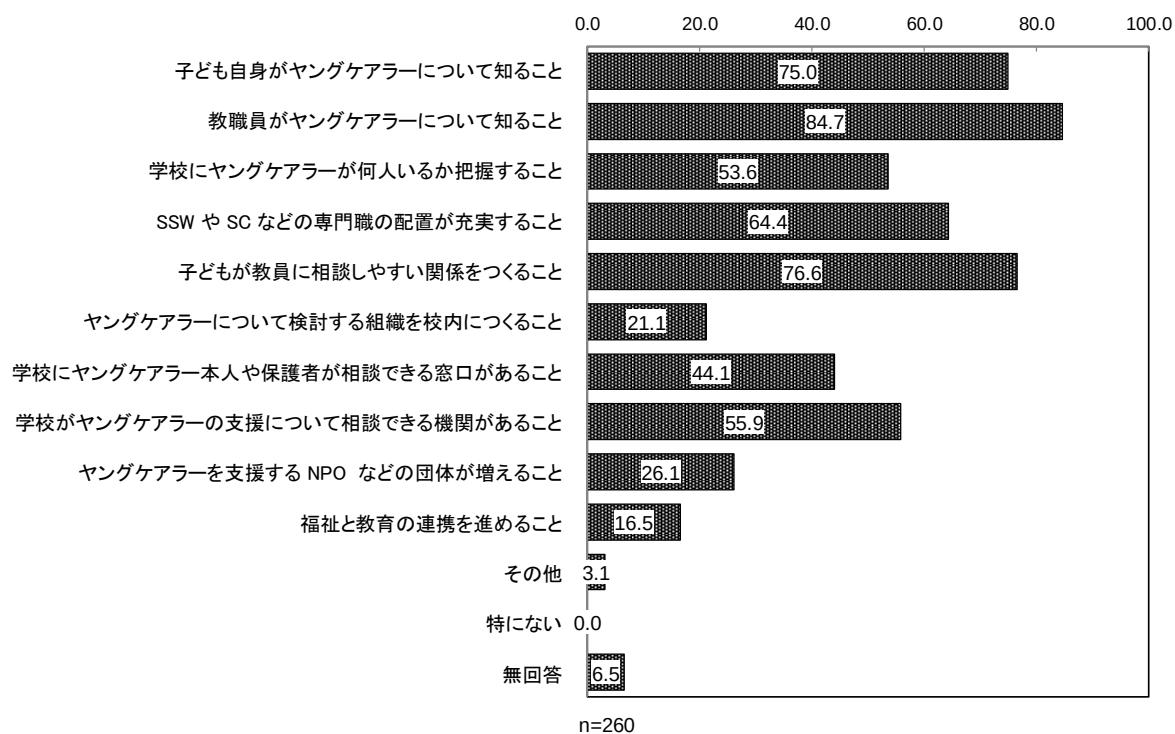
図表 25 ヤングケアラーがいるか分からない理由(複数回答)



⑦ ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことを聞いたところ、「教職員がヤングケアラーについて知ること」が 84.7%と最も高く、次いで、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」(76.6%)、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」(75.0%)となっている。

図表 26 ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと(複数回答)



⑧ ヤングケアラーに関する自由意見

自由意見について、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋のうえ以下に掲載する。

ヤングケアラーに関する自由意見
【ヤングケアラー支援に関する難しさについて】
ヤングケアラーの定義に相当する世話や介護が「日常的なお手伝い」であるか、「登校に支障を来すほど重度の負担」にあたるかの判断が難しいケースも少なくないと思われる。(複数意見)
ヤングケアラーの問題は、子ども自身に自覚や認識がない場合が多くあるのではないかと危惧している。また、家庭内の問題であるゆえ、子ども自身が実態をかくす可能性もあり、学校がどのように関われるか、課題が大きい。(複数意見)
親の認識が薄かったり、認識があっても隠したりして、なかなか実態把握が難しい。また子どももそれが当たり前だと思い困り感を表出しなかったり、親と離れ離れになるのが嫌で自分の思いを正直に表現しなかったりする場合があり見極めも難しい。専門職の助言や関わりがとても重要であると感じている。
実態が把握できたところでその先の対応に学校では限界があると感じる。
卒業生の対応をしたことがあり、多くの人(機関)が関わって幾度となく長時間の会議を重ねても、改善がなかなか見られず、歯がゆい思いをしたことがある。家庭の問題に踏み込めないところ(保護者の考えに則したことなど)が、外からの働きかけを生かせない原因になっていたと感じた。
児童がケアをしている、あるいは保護者がケアをさせていることを問題とっていない場合、どう把握したり、支援したりしたらよいのかが課題。
小学校の場合、下の子どもの面倒を見ているという事例が多いと思います。親は「手伝い」と捉えていて、理解が得られません。
ヤングケアラーに対する、支援を手厚くしていくことは必要であるが、その中心的役割を果たすことは、難しい。教職員はヤングケアラーの支援に対する、知識・経験が無く、新たにそれを研修等で身につけることも、本来司るべき教育活動の推進が滞ることになってはならないので難しい。
本校の校区はきょうだいが多く、4～5人きょうだいの子どもたちがとてもたくさん在籍しています。上の子が下の子をみるのは、あたりまえ、風呂そうじやトイレそうじは、子どもの仕事としている家庭も少なくありません。その中で、ヤングケアラーを、どう見抜いていくのかは、慎重になってしまいがちです。難しいです。
現在の学校では、ヤングケアラーと思われる児童は把握できないが、前任校にて関わったことがある。2年生で小さな妹の面倒を見るために、学校にはほとんど登校していなかった。子どもは、親のことが大切なので、状況を当たり前のものとして捉えている。親族が親元から引き離して学校に通わせ、2か月の間に多くのことができるようになった。しかし、母親の求めに

よって(本人も母親のもとにいたことを望んだため)元の生活に戻ってしまった。親との関係が悪いわけではなく、欠席理由も「体調不良」と連絡が入るため、学校からの介入が難しかった。
一人親家庭では、収入を得ることが大切な事は十分理解できる。しかし、子どもに教育を受けさせる義務の大切さは学校として最も優先して欲しいと考えている。このことを保護者にどう伝えるかが課題である。
【ヤングケアラー支援に関して今後取り組みたいこと等】
教職員とヤングケアラーについて理解を深めながら、そういった視点ももちながら、子どもや、保護者とかかわりを持っていきたい。(複数意見)
子どもが子どもらしく生きる権利を回復するためにもヤングケアラーへの支援は大切だと思う。学校はヤングケアラーを把握できる一番の場所なので、教職員がヤングケアラーについて理解を深めていきたい。(複数意見)
今後も子どもたちの観察を適切に行い、学校として子どもたちが学習に集中できる環境づくりを支援したい。
家庭内の心配事などを担任などに話ができる学校にしていきたいと思う。
恥ずかしながら、ヤングケアラーに関する知識がほとんどありませんでした。子どもが日々安心して生活を送ることができる環境は、健全育成の土台ともいえると思います。今後、しっかりと学びたいと思いました。
小学校低学年が成長し、将来ヤングケアラーになってしまわないかと気にかかる家庭があります。そうならないよう未然に防ぎ、支援を得られる情報、体制を整えたいです。
今後、ヤングケアラーがさらに増えることが予想されます。SSW や SC などの専門職の配置が充実すること、学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があることが特に重要だと思います。
校内の既存組織(生徒指導部会)でも、ヤングケアラーを支援できるようにしたい。
今回、アンケートを通して「ヤングケアラー」についてさらに学ぶことができ、よかった。
本来は、家族内における家事や家庭内のやりくりは大人が主として行うものである。しかし、場合によって大人が変わって子どもが日常的に行っている家庭もある。子どもにとって発達段階に応じた学ぶ事、やりたいことができない大きなストレスになっていく。また、子ども心身ともに健康に成長するためのハンディとなるだろう。「子どもの権利」が守られていない。私たち教師や大人は、子どもが成長することは、将来の世の中(国)のために必要である。子どもたちの学習能力や健康面、心が豊かに育つことを心より願いたい。
ヤングケアラーだと気づかずに、負担を抱えていることのないように、児童や教職員に周知を徹底し、「子どもの権利」が守られるようにしていくことが必要だと思う。
自分が小、中、高校生ときはもっと多く、家の仕事をして行ってきた人も多いと思う。しかし、このおかげで、部活ややりたいことができないのは、おかしいと思うので、なんとかケアできる

ことは、ケアし、良い方向へ進めればと考えています。
全教職員にヤングケアラーについての情報等を周知させるとともに、子どもたち一人一人の実態を再度確認する必要がある。本校でもネグレクトがヤングケアラーに関わる可能性がある事案がみられる。
十分に認識されていない案件であるため、今後提供される資料等をもとにして、教職員および児童、保護者への周知を図り、適切に対応していきたい。
改めて、ヤングケアラーの大切さがわかりました。今後の指導に生かしていきたいと思います。
具体的にどれだけ対象者に対応していけるかが大事。
児童の健全な成長を一番に考え対応して行かなければならないので、児童に対する家庭での保護者の考えにどこまで踏み込んでよいかなどの理解を深めるために研修を積み重ねなければならない。
ヤングケアラーの背景にある過程の状況把握に難しさを感じる。(ヤングケアラー問題は大変デリケートなものである為) 普段の児童の学校生活や学習の見取り等を丁寧に行うことを通して、家庭とのつながりを深め、早期発見や支援ができるように取り組みを進めていく必要がある。各機関との連携が大変重要であるとする。
本校区の風土として、三世代家族が多く、ヤングケアラーが懸念される環境になる家庭は、ほとんどないが、今後の課題として、教員の研修は必要だと考えている。
ヤングケアラーの児童の認知はしていないが把握し切れていない可能性があるとの共通認識を職員で確認するとともに、児童や家庭に丁寧に関わり教員が常にアンテナをはっておくことが求められていると考えています。
ヤングケアラー自身が、困ったことに対して声をあげられる環境を整える必要があると考えます。
若い先生が増え、年上の保護者とこのデリケートな話がなかなかしづらい。また若い先生で、それらの子を見ぬくことは、本当に難しい。そのためには、学校で組織的に動くしかないと思っています。
【学校以外の外部機関との連携の必要性について】
ヤングケアラーの支援のためには、SSW等専門職のゆとりある配置が、なにより重要だと考える。現状の派遣では足りていない。(複数意見)
ヤングケアラーは、生活への負担が多く、学校生活に支障をきたす可能性が高い。ヤングケアラーの実態を把握し、適切な支援をすることは大切である。しかし、学校だけでは解決できない点が多くあると予想されるので、市教委や市の福祉・保健部門等、外部と連携していくことがとても重要になってくる。(複数意見)
児童相談所や福祉のサイドが入れないものについて教育機関である学校が立ち入ることの困難さを感じます。法により強く介入する方策をつくるなど、行政、福祉サイドが主になって介

入、指導、支援、援助することなのではないでしょうか。もっと言えば、このような社会的な不安定さや貧困を助長、拡大したことが大きな原因になっているのではないかと考えます。
ヤングケアラーだけでなく、いろいろな事情を抱えている家庭をもつ児童が多い。いろいろな機関が充実し、連携をとることも大切であるが、迅速に対応をとるためにも、学校の中にそういう専門職が常時配置されるとよい。
学校がヤングケアラーの実態把握した後、実際の相談、支援は学校が主体となってやるべきものではないと考えます。相談窓口は学校ではない公的な場にあるべきと考えます。具体的な事例と支援方法を例示していただけると相談しやすくなるのではないのでしょうか。
学校がどの子にも教育を施せるように、福祉機関が積極的にヤングケアラー支援をしていたきたい。
家族を介護しながら学業を両立するのは容易ではない。加えて、友人との交流も限られることから、学力だけでなくこの時期に大きく成長する精神面での成長にも大きく影を落とす。又、家族以外の人とのコミュニケーションもとれないことから、「発見」「訴え(申告)」する機会も失なわれることから、行政機関がイニシアティブをとり、「把握」するシステムの構築を喫緊にお願いしたい。学校も協力を厭わない。
近い状況にある児童は家庭のことをなかなか話さない状況が見られる。ネグレクトに近い児童のことで対応を関係機関と連携をはかろうとしても、なかなか状況が改善されない難しさを感じている。学校という立場で子どもにできることはあっても、家庭に対してできることは少ない。やはり、子どもの権利を守り希望をもって生活させるためには、関係機関で役割と責任を明確にして、実行するしかないと思う。
【その他自由意見】
今後、この問題がもっとクローズアップされていくと良い。ヤングケアラーが課題をかかえる場合が多いことを社会全体で認識すべきである。(複数意見)
以前、他校で母子家庭の児童がおり母親の仕事の関係上、炊事、洗濯等を行って家庭を支えている子どももいました。こうしたケースも含めてはいかがですか。
保護者が安心して支援機関を利用できるようにならないと難しいと感じます。一人親で、子どもを多く育て、職場でも高い地位についている方は、忙しくてどこにも相談できない(する暇があれば休みたい)のが実情だと思います。冬休み前にそういった保護者と面談(担任と副校長)をしたところ、3学期より児童の頑張りが違ってきました。まずは保護者の大変さを理解し、一緒に支えていく(児童のよりよい日々をめざし)姿勢を保護者に理解して頂ければと思います。
ヤングケアラーにならないための保護者への支援の充実。
ヤングケアラーの対策は必要だと思います。その支援機関やしきみについて行政で早急に整えて欲しいです。

見えないところにこそ、子どもの本質や状況があることに改めて気付けた。
これから実状等の把握が進み、支援の方向性等が定まっていくと思いますが、子どもたちにとって必要な支援を「誰が、いつ、どのように」していくかが具体的になるとよいと思う。親の教育も大切。
子どもがヤングケアラーについて正しい知識を持ち、社会にサポートしてもらえる事を、助けが求められることを知ってもらいたい。

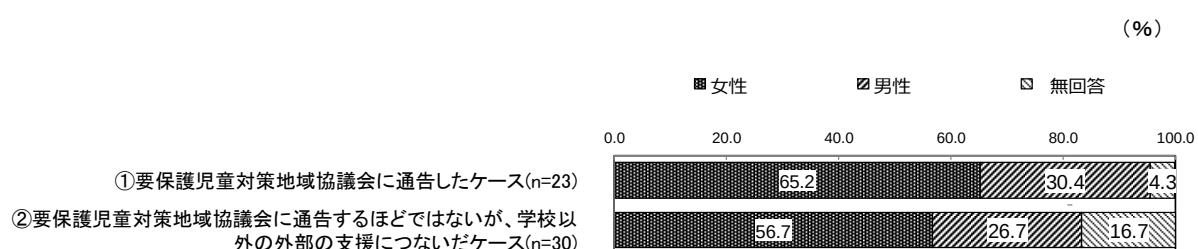
(4) 個別事例

①要保護児童対策地域協議会に通告したケース、②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースについて、直近のケースを1件ずつ聞いた。結果は以下の通りである。

(ア) 性別

①②のケースとも、女性の割合が男性よりも高くなっている。

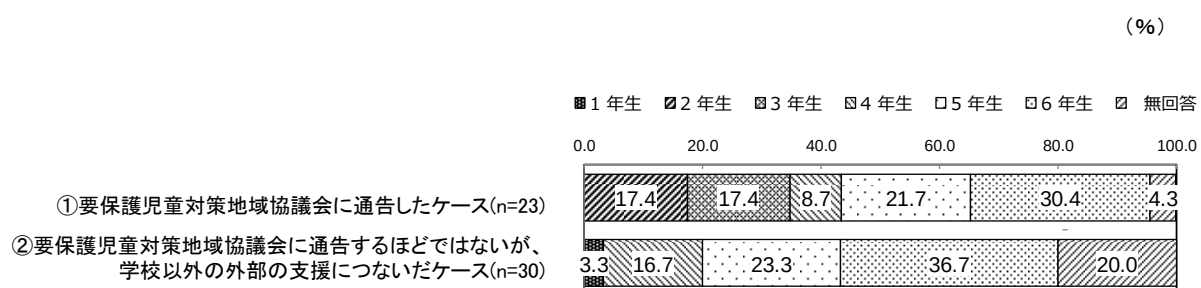
図表 27 性別



(イ) 学年

学年については、①②とも5年生、6年生の割合がほかの学年と比べて多くなっている。

図表 28 学年



(ウ) 学校生活の状況

①、②のケースともに「学校を休みがちである」の割合が最も高く、次いで「遅刻や早退が多い」の割合が高くなっている。

図表 29 学校生活の状況(複数回答)

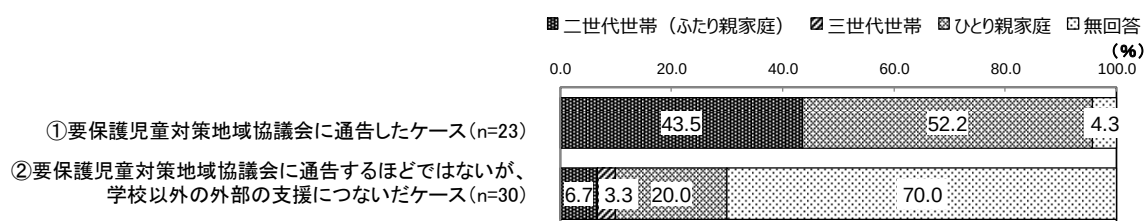
(%)

	学校を休みがちである	遅刻や早退が多い	保健室で過ごしていることが多い	精神的な不安定さがある	身だしなみが整っていない	学力が低下している	宿題や持ち物の忘れ物が多い	保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	学校に必要なものを用意してもらえない	修学旅行や宿泊行事等を欠席する	校納金が遅れる、未払い	その他	無回答
①要保護児童対策地域協議会に通告したケース (n=23)	60.9	47.8	4.3	26.1	30.4	34.8	26.1	30.4	26.1	17.4	17.4	8.7	8.7
②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース (n=30)	53.3	56.7	6.7	33.3	26.7	30.0	23.3	16.7	13.3	3.3	6.7	0.0	16.7

(エ) 家族構成

家族構成については、①のケースでは「ひとり親家庭」が半数を超えている。②のケースでも無回答を除くと「ひとり親家庭」の割合が最も多い。

図表 30 家族構成

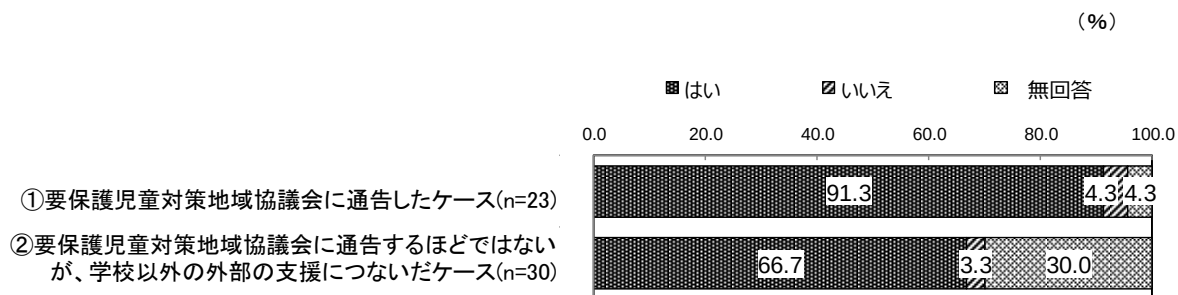


(才) 家庭でのケアの状況

i. ケアの状況の把握

ケアの状況を把握しているかについては、①では 91.3%、②では 66.7%が「はい」と回答している。

図表 31 ケアの状況の把握



ケアの状況を把握していると回答した学校に、ケアを必要としている人、ケアを必要としている人の状況、ケアの内容を聞いた結果は以下の通りである。

ii. ケアを必要としている人

①、②のケースともに、「きょうだい」の割合が最も高く、次いで「母親」の割合が高くなっている。

図表 32 ケアを必要としている人(複数回答)

(%)

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
①要保護児童対策地域協議会に通告したケース(n=21)	47.6	4.8	4.8	0.0	61.9	4.8
②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース(n=20)	45.0	0.0	0.0	0.0	55.0	5.0

iii. ケアを必要としている人の状況

①、②のケースともに、「幼い」が最も高く、次いで「精神疾患(疑い含む)」の割合が高くなっている。

図表 33 ケアを必要としている人の状況(複数回答)

(%)

	高齢 (65歳以上)	幼い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (疑い含む)	精神疾患、 依存症以外の病気	日本語を第一言語としない	その他	わからない	無回答
①要保護児童対策地域協議会に通告したケース (n=21)	4.8	61.9	0.0	4.8	0.0	14.3	33.3	4.8	9.5	0.0	4.8	0.0	0.0
②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース(n=20)	0.0	50.0	10.0	0.0	15.0	15.0	25.0	5.0	0.0	5.0	5.0	0.0	5.0

iv. ケアの内容

①、②のケースともに「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」と「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」の割合が最も高く、次いで「見守り」や「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」の割合が高くなっている。

図表 34 ケアの内容(複数回答)

(%)

	洗濯 (家事 (食事の準備や掃除、 洗濯))	きょうだいの世話や 保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレ のお世話など)	外出の付き添い(買い物、 散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を 聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	わからない	無回答
①要保護児童対策地域協議会に通告したケース (n=21)	52.4	52.4	0.0	9.5	4.8	23.8	38.1	0.0	4.8	4.8	0.0	0.0	0.0
②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース (n=20)	45.0	45.0	10.0	5.0	5.0	20.0	30.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0

v. (クロス分析) ケアを必要としている人×ケアを必要としている人の状況

※n数が少ないため、割合(%)ではなく実数で記す。

① 要対協通告ケース

n数が少ないことに留意が必要だが、世話を必要としている人が「母親または父親または両親」の場合、「精神疾患」の回答が高くなっており、「きょうだい」を世話している場合には全ケース「幼い」という回答となっている。

図表 35 ケアを必要としている人×ケアを必要としている人の状況(要対協通告ケース)
(複数回答)

※図表中はn数を表示

	調査数 (n=)	高齢 (65歳以上)	幼い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (疑い含む)	精神疾患、 依存症以外の 病気	日本語を第一言語とし ない	その他	わからない
母親または父親または両親	8	1	0	0	0	0	2	6	1	1	0	0	0
きょうだい	9	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
母親または父親または両親・きょうだい	3	0	3	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0
祖父母・きょうだい	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

② 学校以外の外部の支援につないだケース

n数が少ないことに留意が必要だが、世話を必要としている人が「母親」の場合、「精神疾患」「要介護」との回答が複数ある。「きょうだい」を世話している場合には「幼い」という回答が高くなっている。

図表 36 ケアを必要としている人×ケアを必要としている人の状況
(学校以外へつないだケース)(複数回答)

※図表中はn数を表示

	調査数 (n=)	高齢 (65歳以上)	幼い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (疑い含む)	精神疾患、 依存症以外の 病気	日本語を第一言語とし ない	その他	わからない
母親	8	0	0	2	0	1	1	3	1	0	1	1	0
きょうだい	10	0	8	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0
母親・きょうだい	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
その他	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

vi. (クロス分析)ケアを必要としている人×ケアの内容

※n数が少ないため、割合(%)ではなく実数で記す。

① 要対協通告ケース

n数が少ないことに留意が必要だが、世話を必要としている人が「母親または父親または両親」の場合、「家事」、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し合いになるなど)」、「見守り」との回答が多い傾向にある。「きょうだい」を世話している場合には「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」という回答割合が高くなっている。

図表 37 ケアを必要としている人×ケアの内容(要対協通告ケース)(複数回答)

※図表中はn数を表示

調査数 (n)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	歩などの付き添い (買い物、散歩など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート (愚痴を聞く、話し合いになるなど)	見守り	通訳 (日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	わからない
母親または父親または両親	8	5	1	0	1	1	5	4	0	1	1	0	0
きょうだい	9	3	7	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
母親または父親または両親・きょうだい	3	2	3	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0
祖父・祖母・きょうだい	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

② 学校以外の外部の支援につないだケース

n数が少ないことに留意が必要だが、世話を必要としている人が「母親」の場合、「家事」、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し合いになるなど)」との回答が多い傾向にある。「きょうだい」を世話している場合には「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」という回答が高くなっている。

図表 38 ケアを必要としている人×ケアの内容(学校以外へつないだケース)(複数回答)

※図表中はn数を表示

調査数 (n)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	歩などの付き添い (買い物、散歩など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート (愚痴を聞く、話し合いになるなど)	見守り	通訳 (日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	わからない
母親	8	4	0	1	0	1	4	2	1	0	0	0	0
きょうだい	10	4	8	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0
母親・きょうだい	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

(カ) ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ

【要対協通告ケース】

ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ
担任など教員への相談。(複数意見)
児童本人からの聞き取り。(複数意見)
教育相談・家庭訪問等の面談。(複数意見)
遅刻や欠席が多くなったことため。(複数意見)
以前から要保護家庭として対応していたため。(複数意見)
市役所、児童福祉相談所等の関係機関からの情報。(複数意見)
中学の姉からの情報。
母の病院の付き添い
体臭がする。父と連絡が取れにくい。家庭の協力(道具をそろえる、提出物等)が得られない。
頭痛、めまいを訴えて休むことが多いが、母が体調をくずすことが多く、そのたびに子どもを休ませている可能性が考えられた。
小1の頃より家庭の状況を把握し、だんだんと休みがちになり、母の体調の変化、生活の変化により気づいた。

【学校以外の外部の支援につないだケース】

ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ
担任など教員への相談。(複数意見)
児童本人からの聞き取り。(複数意見)
家族・きょうだいからの聞き取り。(複数意見)
教育相談・家庭訪問等の面談。(複数意見)
遅刻や欠席が多くなったことため。(複数意見)
行政や、きょうだい が在籍する保育園等の関係先からの問合せ。(複数意見)
転校してきたが意思疎通ができなかったため。
登下校の様子。
周囲の人からの訴え。
学校を転々としている
入浴しておらず、身だしなみが整わない。
母親のリストカット(複数回)が判明した際。
母親は病気を抱えているが、母子家庭のため、平日も休日も仕事をかけもちして働いており、家にいない。そのため6年生の子がごはんを作り、3年生の子に食べさせている。
休日、幼い子どもとともに(1年2人、年長1人、3歳児1人)4人だけで歩いている・過ごしていることを見たり本人から聞いたりしている。

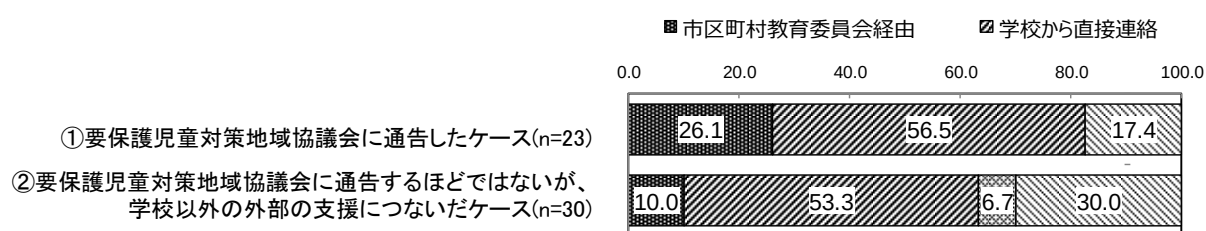
(キ) つないだ機関(②学校以外の外部の支援につないだケースのみ)

つないだ機関	件数
児童相談所	7
市区町村の子育て支援部門	6
子ども家庭支援センター	5
市区町村の福祉部門	4
教育委員会	3
民生委員	2
区役所	2
その他	2

(ク) 外部機関へのつなぎ方

外部機関へのつなぎ方は、①、②のケースともに「学校から直接連絡」の割合が最も高くなっている。

図表 39 外部機関へのつなぎ方



(ケ) 学校が行った支援(つなぎ先との連携も含めて)および支援した結果、子どもへの変化

学校が行った支援等や、その結果の子どもへの変化についての自由記述の回答は以下の通り。(一部編集・抜粋のうえ掲載)

【要対協通告ケース】

学校で行った支援(要対協との連携も含めて)	支援した結果、子どもへの変化
・ 欠席した際の連絡、オンラインでの相談、家庭訪問。	・ 密に連絡を取り合えるようになった。
・ 定期的な情報交換・きぼうの広場につなげ母のケア ・ 複数の教職員の見守り	・ 欠席、遅刻が減った。母親も協力的になった。
・ 子ども家庭支援センターへの連絡。保護者との面談、連絡	・ あまりない。ごくたまに行事へ参加できる。
・ 父親へのアプローチ	・ 父親を含めたケース会議を行い、登校の改善
・ 家庭訪問・学習支援	・ 虐待の疑いがあり児相案件へ(R4. 1月現在一時保護中)
・ 本校の教育相談担当や担任による家庭訪問および面談の実施 ・ 要対協事務局(家庭児童相談員)による訪問指導の依頼 ・ 市教育委員会へのSSW派遣要請	・ 欠席が減った。 ・ 家庭(保護者)との連絡がつくようになった。
・ ケース会議、児相、市教委、(市)子ども福祉課と連絡連携	・ 世話を頼んで遅れるようなことはなくなっている。
・ 母親の、妹に対する虐待事案があったため、要対協へ通告した。子相も加わり、母親と面談し、その後は、虐待が収まっている。母親とは、福祉課職員が定期的に連絡をとり、面談をしている。	・ 学校へ明るく登校している。妹の様子が落ち着いた。
・ 区役所民生子ども課へ相談。子ども応援委員会へ報告、SC や SSW との面談や見守り。学校から保護者への、こまめな連絡。	・ 欠席は少なくなってきた。
・ 家庭訪問・保護者との面談 ・ 児相との連携、子ども家庭支援センター	・ 登校できるようになってきた

との連携	
・ 情報共有をし、対応を相談。 ・ 家庭への対応、支援、指導の依頼・児童本人の様子を見て、SC との面談を設定。	・ 本人の様子、発言が多少明るくなってきた。
・ 子ども相談センター（児童相談所）の面談。	・ 少し楽になった。（今年度は卒業して中学生）
・ 定期的に本人からの聞きとり。保健室での衛生管理。学校で必要なものを学校で預かる。	・ 登校の継続
・ 母に会う機会があったので、それとなく家の様子を聞いた。	・ 遅刻が減っている。
・ 家事をきちんと行っていないことで、暴力を振るわれることがあったので、児童相談所に通告した。	・ 母親が子どもとしっかりと向き合い、家事の役割分担等をほかのきょうだいときちんと行えるようになった。
・ 保護者と連絡をとる（電話、家庭訪問）。提出物、宿題等への配慮。 ・ 保育園との情報交換 ・ 登校支援（お迎え）・市教委への報告。	・ 学校には行きたいと言っているが（登校しぶりの解消）、現実には母親が、自身の健康状態を理由に登校させていない。
・ 要対協に状況を伝え、見守りをつづけるように依頼した。母と連絡をとり合うだけでなく、父親とも連絡をとり、状況を把握するようにしている。	・ 特に変わったことはみとめられないが、ヤングケアラーの視点で注意深く見守りつづけたい。
・ 児童支援専任、SSWでの家庭訪問、担任の細めな連絡 ・ 青少相、子育て支援センターとの情報共有（家庭状況、出欠状況、連絡の有無など）、家庭訪問や電話相談	・ 周りの大人に頼ったり、相談したりしてよいことがわかり、困り感や不安感、心配事を話してくれるようになった。
・ 要対協と連携し、現状について情報交換、共有。・学校、要対協ともに家庭訪問を実施。	・ 家庭訪問後、父親と話をする中で家庭環境上の課題により登校できてないことが判明（ケアが必要な母、兄弟とは同居していなかった）。
・ 家庭との密な連絡 子ども家庭支援センターとの連携 放課後登校の促し	・ 登校できるようになった時期もあるが、コロナ予防を理由に欠席が多い。
・ 外部との連携 ・ 近隣に住む女兒の父親へのサポート要	・ 以前と比較して前向きな学校生活を送ることができるようになった。

請	
・ 毎月の出席確認、SSW と協力しての家庭訪問、要対協との意見交流	・ 母親が日中の仕事に変わり、朝子どもを起こして学校へ行くようにうながしてくれ、登校日数が増えた。しかし、コロナ禍もあり、また足が遠のいている。
・ 中学校とのケース会議	・ 継続中。大きな問題とはなっていない。

【学校以外の外部の支援につないだケース】

学校で行った支援 (つなぎ先との連携も含めて)	支援した結果、子どもへの変化
・ 区役所と家庭訪問し、手帳の取得について話し合っている。	・ まだ目立った変化はみられない。
・ 保護者との連絡により、本人のために必要な学習の機会を大切にしたいことを伝え、今後のことについて相談の場を持ちたいことを伝えている。	・ 欠席や遅刻が減った。
・ 子ども家庭支援センターの担当と連絡を密にとり、本人の生活環境を整えるために、母親の精神的ケアと経済的な自立に向けたサポートをする体制を整えた。現在は母子生活支援施設に入所している。	・ 母子生活支援施設の職員の方の働きかけにより、朝、起床する時間が少しずつ整えられてきた。
・ 放課後の居場所	・ 登校してくる日が増えた。
・ 担任による本人の精神的なサポート ・ つなぎ先への情報提供(窓口の一本化)	・ 母親が関わり方を変えられたことによる本人の精神的余裕
・ 学校での様子を連絡し、連携を図った。	・ 児童相談センターで一時保護となる。
・ 本人から状況を聞き取り、関係機関へ情報提供を行った。保護者の困り感に寄り添い、必要な情報を提供した。忘れ物が少なくなるよう、手立てを本人に講じた。	・ 学校生活においては安心感が高まった。
・ 本人たちの話をこまめに聞く。SC、SSWによる見守り。母親と話せるときに話し、つながらる。	・ 母親と話ができるようになり、相談にのりながら様子をみている。特に子どもへの変化はなし。
・ 外部機関から保護者(母)へ連絡、指導してもらった。	・ 遅刻・欠席の回数が減っている。
・ 外部機関が家庭訪問を行い、保護者に	・ 保護者が今までの仕事をやめて、別の

家庭の様子について話を聞いた。	職場で働くようになった。
・ 本人の話を聞き、虐待等を含めて児童相談所に通告。本人の見守りを行い、児童相談所と情報交換を行っている。	・ ケアについては、改善され、今のところはない状況である。
・ 父親(祖父母)との情報共有を頻繁に行っている。 ・ 市の福祉部門との情報共有	・ 遅刻が減ってきた。 ・ 学習にも前向きに取り組むようになった。
・ 民生委員の方に家庭訪問していただいた。 ・ 市役所関係課に情報提供・頻繁な声かけ、電話連絡、家庭訪問	・ 登校日数が増えた。
・ 子ども相談センターに通報して、面談をつづける。	・ 少し楽にはなっている。
・ 事実の確認と本人・家庭への説明。	・ 見守りをやめた
・ 母親が、失踪したため(現在は戻っている)、父親への確認と、登校を促す、相談先の案内。・家庭訪問。	・ 父親が最初は、支援を拒んだが、学校へ来させるようになった。困ったことを、言うてくるようになった。
・ 保護者に学校から直接、改善を依頼した。 ・ 民生委員に依頼して、保護者に声かけをしてもらった。	・ 登校日数が増えた。
・ 家庭訪問、教育相談	・ 連絡した次の日は遅れても学校に来るなど変化は見られるが、根本的な改善が見られない。
・ 担任が直接、家庭(母親)に連絡。	・ 変化なし。欠席が多い。
・ ケース会議、電話連絡で子どもたちの状況を伝えている。そろわない持ち物は、母親に頼んだり(でもそろわない)、担任が用意したりしている。	・ 子どもはできる範囲で自分でできることは自分でしようとしているが、やりきれない。母親態度は変わらない。
・ つなぎ先との連携	・ 令和3年2月末からなのでまだ変化はない
・ ケース会議	・ 特別支援学級へ転籍予定
・ 保護者のケア、外部機関との連携	・ 登校が増えた
・ ヘルパーの派遣 ・ 子ども弁当の宅配 等	・ 母が施設に入所

・ 一昨年までは母親と離れて児童養護施設で生活していた。現在は母親ときょうだいと一緒に生活をしている。本人の話を聞きながら関係機関と連絡を取り合い、見守りを続けている。	

3. 小学校におけるヤングケアラーへの対応に関する取組（インタビュー調査）

（1）インタビュー調査の実施概要

ヤングケアラーと思われる児童・生徒の把握や支援の取組について、参考となる事例を取りまとめるためにインタビュー調査を実施した。

●実施日程 令和4年2月下旬～3月上旬

●実施対象 計6校

（2）インタビュー調査結果

①要保護児童対策地域協議会に通告したケース、および、②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある学校

所在地	東山地区
ヤングケアラーの具体的な対応事例①	<事例の概要> ・ 小学校2年生女子。 ・ 特別支援学級に在籍している。 ・ 母子家庭で、下に3歳と5歳のきょうだいがいる。 ・ 母親に精神疾患がある。 ・ きょうだいの育児、世話のほか、母親の精神的なケアをすることもある。 <把握・支援までの経緯> ・ 入学当初より要保護・要支援家庭として、児童相談所や保健福祉士からも情報共有を受けていたため、何か変化がすぐ対応できるよう管理職・担任ともに意識して状況を見ていた。 ・ 関係機関には定期的に連絡を取っていたが、学校に来させない状況が続いたため、関係機関にその旨を情報共有し、どうすれば支援につながられるかを協議している。 <現状> ・ 本人の登校の意思は強くなっているが、母親の健康状態を理由に登校させない状況が続いている。 ・ 新型コロナウイルス感染症の存在が登校しない、させない理由になっているきらいもあり、介入の仕方が非常に難しい。
ヤングケアラーの具体的な対応事例②	<事例の概要> ・ 小学校1年生女子。 ・ 下に3人のきょうだいがいる。 ・ 父親は病気があって仕事をしておらず、現状の生活で精いっぱいの中で、母親には知的障がいがある。 ・ 現在は戻っているものの、母親が過去に失踪したことがあった。 ・ きょうだいの世話やおむつ替えなどを行っている。

	<把握・支援までの経緯> ・登校してこない状況が続いたため、家庭に電話確認を行った。 ・すぐにはつながらなかったが、父親と連絡をとれるようになってから、世話の実態を把握することができた。 <支援の内容と現状> ・行政の相談先を案内した。 ・しかし、社会福祉サービスを使うことに抵抗感があるため、学校に対して困ったことがあったら言ってもらえるような関係を構築するよう心がけている。 ・その甲斐もあり、当初は反発していたが、困っていることを父親から伝えてくるようになった。
困りごとを抱える生徒への対応 ヤングケアラーの支援体制・取組	<SSW、SC の関わり> ・SSW は要請に応じて派遣される。 ・現状は、派遣の要請に対して希望日に対応されている状況。 ・今のところ、ヤングケアラーについては SSW と連携した例はないが、不登校児童への対応で1件連携している。 ・SC は年に 10 回程度の頻度で配置されている。 ・1 回あたり半日で、3～4 件程度のカウンセリングに対応している。 ・カウンセリングも予約はほぼ満たされている状況。 <困りごとを抱える生徒への対応> ・全職員が参加する月1回の会議で、不登校や問題行動などをはじめとする情報共有を行っている。 ・また、担任が日ごろ生徒と接する中で小さなことでも気づいたことがあれば、管理職に報告・相談するよう声かけしている。 ・担任以外の先生でも養護教諭や図書館司書、保護者と接する機会が比較的多い事務員の目線からも、子どもたちの変化について気が付いたことがあればできる限り共有するよう心がけている。 ・学校内で解決すること・できることと、学校での解決が難しく関係機関につなげるべきことの区別、判断は管理職で行っている。 ・上記の情報共有会とは別に、事案に応じてケース会議を開催し、要保護児童対策地域協議会、教育委員会、児童相談所の職員も参加のうえ、対応を検討している。 <配慮していること> ・ヤングケアラーでも、不登校児童でも、その把握にあたっては、担任の気づきが最も重要であるため、対面でのコミュニケーションを大切に、人間関係を築くなかで、子どもの変化に気が付けるようになるよう配慮している。 ・特に、顔色からわかる健康状況や服装を意識してみている。 ・管理職も日常的に教室を回り、いろいろな視点からの気づきを喚起するとともに、担任を育てることができるようになっている。 ・児童相談所などの関係機関との連携状況がほかの保護者の耳に入らないようにするなど、個人情報の取り扱いにも注意している。

ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、難しい点、課題と感 じること	・課題はケースごとに異なるため、臨機応変な対応が必要と感じる。 ・家庭に踏み込まれることを拒否する姿勢が多く、指導的なことを言う と、家庭との関係が途切れてしまうことも懸念される。そうすると、学校 からは家庭と子どもの状況を把握することができなくなってしまうた め、保護者との関係構築やどこまで学校が踏み込めるかの判断が難 しい。 ・管理職よりは担任の方が、保護者の精神的なハードルは低い傾向に あり、必要に応じて元担任が動くなどの工夫もしている。 ・おむつ替え、保育園へのお迎えなど、「お手伝い」という名目で下の子 どもの面倒を見ているケースが多く、親と子が相互依存の関係にある ケースだと特に対応が難しい。 ・しかし、義務教育をきちんと受けられなかったことは、成長してからよ り大きな課題になると考えるため、子どもの教育を受ける権利をしま かりと保障していく姿勢が重要と感じる。 ・教育委員会や市の行政窓口は学校からの報告や当事者からの支援 要請がないと動けないため、関係機関との連携は学校がリードしてい く必要がある。 ・ただし、特に行政の窓口に関しては、問題の所在が不明瞭な事案（子 どもの問題なのか、家庭の問題なのか、要介護者の問題なのか、等） であると、つなぎ先の判断が難しい場合もあり、つなぎ方にもノウハウ が必要と感じる。 ・ほかの連携先としては、民生委員や社会福祉協議会がある。 ・民生委員は地域のことを包括的に見ており、その気づきがサポートに つながることもあるほか、学校からも気軽につながれるので頼りになっ ている。 ・ヤングケアラー自身が障がいを持っているケースもあり、その場合は 自身の状況を適切に伝えること自体が難しい。ソーシャルスキルトレ ーニングを充実できると、自分が何に困っているのかを表現できるよう になるため、それによって周りも支援しやすくなる効果が得られると思 われる。

①要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある学校

所在地	中国地区
困りごとを抱える生徒への対応 ヤングケアラーの支援体制・取組	<SSW、SC の関わり> ・SSW は要請に応じて派遣される。 ・特に派遣要請の頻度に特に目安はなく、ケース会議を開いて SSW が 必要となったら、派遣を依頼する。 ・800 人規模の小学校で派遣は年3件程度。 ・要請をしても派遣に至らなかったこともある、もう少し入ってもらえた方 がありがたい。 ・学校の役割だけでは家庭の環境を変えることは難しい。 ・各学校に対して1人配置するぐらいのレベルだと助かる。 ・SC は県の予算で、学校区単位で各校に配置されている。 ・月に2回程度派遣されている。

	・ 緊急性が高い場合は教育委員会を通じて派遣要請をしている。 ・ 1時間単位のカウンセリングを実施しており、1回の派遣で3～4件の対応をしている。 ・ カウンセリングの枠はほぼ毎回埋まっている。 ・ 枠に余裕があるときには、校内の見回りを行っている。 ・ 保護者・本人のいずれからもカウンセリングの依頼がある。 <困りごとを抱える生徒への対応> ・ 複数種の会議を使い分けることはなく、基本的にはケース会議で情報共有をしている。 ・ ケース会議は随時開催するものと、定期的に開催するものがあり、継続してモニタリングしていく必要があるものは定期的に行うケース会議で対応している。 ・ 定例のケース会議の頻度は最低週1回で、随時開催のものを含めると、多いときは週に2、3回、さらには、毎日実施していることもある。 ・ ケース会議では、教育相談担当の教員が問題のありそうな子どもについて情報共有をしつつ、ベテラン教員と新人教員とが一緒になって考える時間を作っている。 <配慮していること> ・ 学校という子どもの居場所をどのように担保するか、が最も重要であり、そのために外部協力も含めてどのように立ち回るかを考えている。 ・ 工夫しやすい環境づくりとして、教育相談室や保健室でも話を聞けるようにしている。 ・ 特に、保健室に子どもが来た時には精神的な面のケアにも配慮している。 ・ 教員が普段から子どもとどう接しているか、しっかりと話を聞いているか、子どもとの信頼関係を築けているか、を強く意識している。
ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、難しい点、課題と感 じること	・ 学校のできる範疇は限られており、それを自覚したうえで適切な関係機関と連携することが重要。 ・ 学校ができることの基本をしっかりと続けていく。 ・ 教員には転勤もあり、担当が変わることはあるが、子どもたちは変わらない。そこで支援が途切れて困るのは子どもたちであり、そうならないように、引き継ぎも含めた体制づくりが必要と感じている。 ・ 身体的な虐待に比べて、ケアの実態は把握しにくい、本人の口からは聞けなくとも、何か変わったと思ったときには、すぐに情報共有して動いていくのが重要と考えている。 ・ 当校は教育相談担当の加配を受けているが、教育相談担当の加配は県の事業であり、どこの学校でもついているわけでない。また、1年ごとの更新なので来年も枠があるかどうかは不明。 ・ フリーに子どもに関わっていける教員の枠がないため、そういう役回りの人がいるとほかの教員も動きやすい。

②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある学校

所在地	関東地区
ヤングケアラーの具体的な対応事例	<事例の概要> ・ 小学校6年生女子。 ・ 母子家庭で2人世帯。 ・ 母親に精神疾患があり、母親の精神面のサポートや見守りを行っている。 <把握・支援までの経緯> ・ 遅刻が多く、身だしなみが整っていないことが目立っていた。 ・ 2020年4月に新型コロナウイルス感染症の影響で休校となり、学校に教科書を取りに来てもらう必要があったが、本人の登校が無く、家族にも連絡が取れなかったため、校長が家庭訪問を行った。 ・ 1回目の家庭訪問の際は母親にも本人にも会えなかったが、2回目の家庭訪問の際に本人に会うことができた。 ・ 昼過ぎに寝起きの状態であったことから、本人に様子を聞くと母親の体調が悪いということが分かった。 ・ 学校が再開してから遅刻・欠席が目立ったため、家庭まで迎えに行き、支度を待って引率登校をすることもあった。 ・ 家庭までの迎えの際にも母親にはなかなか会えなかったが、3～4回目の訪問の際にようやく母親に会うことができ、母親からも状況を聞くことができた。 ・ その後、母親の同意を得て、学校から子ども家庭支援センターに連絡を行った。 ・ なお、福祉サービスの受け入れに特に抵抗はなく、福祉サービスの存在を知らなかったように思われる。 ・ 休校期間があったこと、校内の状況が落ち着いていたことなどにより、管理職に比較的時間の余裕があったことから、上記のような対応が可能となった。 <支援の内容と現状> ・ 本人の生活環境を整えるため、子ども家庭支援センターと協力し、家の中の掃除や遅刻時の迎え、引率登校などを行った。 ・ 一年程度、学校と子ども家庭支援センターが連携し上記のような対応を続けていたが、母親の生活リズムはなかなか整わなかった。 ・ 現在は、母子生活支援施設へ入所し、施設職員の働きかけにより、起床時間などの生活リズムが整えられてきているが、母親の精神的なケアや経済的な自立が必要な点は変わっていない。
困りごとを抱える生徒への対応 ヤングケアラーの支援体	<SSW、SCの関わり> ・ SSWは要請に応じて派遣されるが、手続きや日程調整に時間がかかることが課題である。 ・ SSWと連携して、実際に対応にあたるまで数週間かかってしまい、うまく対応できないこともある。 ・ 常駐は難しいかもしれないが、週1回などの定期的な派遣を受けら

制・取組	れ、やりとりが迅速化されるとよい。 ・ 子ども・保護者と SSW とは、最初は校長や養護教諭が同席して面談を行い、徐々に SSW と直接やりとりができるように移行させている。 ・ SC は週1回派遣されている。 ・ 子どもから積極的 SC に話を聞いて欲しいという要望は少なく、担任からの依頼を受けて SC が働きかけを行うことが多い。 ・ その他、学校の様子を見て回り、適宜 SC から声をかけることもある。 ・ 広く話を聞く、問題を発見する、という観点で期待される役割を果たしてもらっている。 <困りごとを抱える生徒への対応> ・ ヤングケアラーだけをテーマとした会議体があるわけではなく、生活指導関連の集会、特別支援委員会、いじめ対策委員会などで、横断的に情報交換とモニタリングをしている。 ・ 子どものことはまず担任の教員が話を聞き、保護者への対応については管理職が担当する体制としている。 ・ そのうえで、管理職は SSW、SC、児童相談所など、どの関係機関に相談するのが適切かを判断する役割分担としている。 <配慮していること> ・ ヤングケアラーという概念やヤングケアラーに関連する課題をあらかじめ教員が知っていることで実態を把握できることがあるため、教職員に向けたヤングケアラーに関する情報発信や情報共有を意識的にやっている。
ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、難しい点、課題と感 じること	・ ヤングケアラーの把握や支援にあたっては、家庭に立入りにくいことや学校の介入や社会福祉サービスの活用を拒絶する家庭がいることに難しさを感じる。 ・ 保護者の価値観が多様化しており、「遅刻はしない」、「人に会ったら挨拶する」といった、基本的と思われること自体にも理解が得られないことがあることも、対応を難しくしている要因の一つと考えられる。 ・ 保護者との関係構築が円滑にできるかどうかにも属人的な要素が大きく、その時々教員の業務にどれだけ時間的余裕があるかによって対応できる件数や内容が変わってきてしまうことが難しい点。 ・ 実際に対応できるのは管理職や養護教諭に限られるため、SSW や子ども家庭支援センターとうまく連携することが必要であり、学校とは別の立場で家庭に介入できる役回りの方がいるとよい。 ・ 子どもの生活の安定は、家庭や母親の安定に根差していることが多いため、連携の際には各家庭の困りごとに具体的にどのような支援ができるのかを明確にすることが重要と感じる。 ・ その観点で、子ども家庭支援センターのサポートは非常にありがたい。これまで保護者に子ども家庭支援センターを紹介して拒絶されたことはないため、もっと身近になるとよい。 ・ また、子育ての悩みは SC に聞けるが、家庭の困りごととは SC には相談しづらいと考える保護者もいるため、家庭の問題をもっと気軽に幅広く相談できる窓口があるとよい。

	・ そうした家庭の困りごとは学校が把握しきれない、あるいは把握しても立ち入ることができないこともあるが、感覚的には全体の3分の1程度は、学校が状況を把握したうえで外部機関につなげているのではないかと思う。

所在地	北九州地区
ヤングケアラーの具体的な対応事例	<事例の概要> ・ 小学校6年生男子。 ・ 父子家庭で、中学生の兄がいる。 ・ 遅刻が多い。精神的な不安定さがある。学力低下や持ち物忘れが多い。 ・ 父親は朝早くから夜遅くまで仕事に出ており、炊事・洗濯などの家事を行っている。 ・ 父親は過去にがん治療をしていた。いまは健康であるが、定期的な検査を受けることが必要な状況。 <把握・支援までの経緯> ・ 5年生から不安定な状況であった。 ・ 長い休みの後に登校してきたときには、すぐに教室に入れないことがあり、保健室等で気持ちを落ち着けるなどもしていた。 ・ 学期の始めや半ばに1～2週間の休みが続くことがあり、教頭、養護教諭が中心となって本人に話を聞いて状況を把握した。 ・ 5年生のころに深夜徘徊をし、通報・補導されたことをきっかけに、市の担当課、SSW、警察、教育委員会などと連携しつつ、ケース会議を開催し、その中で支援の方向性について検討した。 <現状> ・ 自分の家にいると家事に追われるので、現在は祖父母の家で生活し、精神の安定をはかっている。 ・ 父親は、父子家庭なので、また、自身が闘病中なので、家事は子どもがするものという認識でいる。 ・ 父の理解が得られないと抜本的な解決は難しい。 ・ 学校からは継続して祖父母、父親と連絡するなど地道に活動している。
困りごとを抱える生徒への対応 ヤングケアラーの支援体制・取組	<SSW、SCの関わり> ・ SSWには、家庭の状況が不安定だと思われたときに、家庭訪問やケアを適宜要請している。 ・ ヤングケアラーに限らず不登校児童や子育てに困っている家庭への派遣の依頼も行っている。 ・ 家庭訪問の頻度は、不登校児童の場合は月1、2回程度。訪問のタイミングはSSWに任せ、変化があった際などに適宜連絡をもらっている。 ・ SC(スーパーバイザー)は県の予算の都合上、1回2時間で、年7回と

	決まっている。 <困りごとを抱える生徒への対応> ・把握した情報は、「いじめ・不登校対策委員会」で共有し、対応のあり方を全職員で検討している。 ・情報把握にあたっては、いじめ・不登校に関するアンケートや、保健室に設置している「子どもの人権 SOS ミニレター」といった様式を活用している。 ・ケース会議と委員会で取り上げる内容は、重要度によって使い分けており、警察や児童相談所に通報されるなど、より重要度が高い事案をケース会議で話し合っている。 <配慮していること> ・個人情報には校内に留めるようにしている。 ・変なうわさが生じないように、正しい情報だけを職員間で共有するようにしている。 ・学校生活に関わることは全職員で共有する一方で、家庭生活のことは管理職・養護教員・担任が把握するに留めている。
ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、難しい点、課題と感 じること	・学校だけでは簡単に家庭に介入できないことが難しい。 ・市などの行政を含め、介入の為の支援体制を作ることが必要。 ・補導や通報といった重大なケースだとむしろ家庭に介入する理由ができるが、予兆を感じて事前に動くことができないのがもどかしい。

所在地	A 地区
ヤングケアラーの具体的な 対応事例	<事例の概要> ・小学校5年生女子。 ・母子家庭で、複数きょうだいがいる中の長女。 ・母親が仕事に出ており、幼いきょうだいのお世話を行っている。 ・きょうだいの面倒を見るのは自分の役割という認識が強く、日常生活の一部として考えている。 ・下のきょうだい支援学校に通っており、一番下のきょうだいが生まれてからは、特に欠席が増えるようになった。 <把握・支援までの経緯> ・数年前に、母親から本人の療育についての相談が SC にあり、それを契機に行政も連動して動くようになった。 ・上記の通り、すでに市町村の福祉機関が介入済みであったことから、一番下のきょうだいが生まれてからの状況も SC から随時情報共有を受けていた。 ・当時はヤングケアラーという認識はあまりなかったが、事前に情報共

	有を受けていたことから、きょうだいの世話をしていることが予測できたため、本人にも様子を聞くことができた。 <支援した結果> ・担任からの精神的なサポートを通じて、本人の自己認知も進んでおり、母親の意識の変化もみられる。 ・ただし、生活の実態が大きく変わっているわけではないため、本人からSOSを発信してもらい、具体的な支援につなげていけるようにするためにも、いかに自己認知を促せるかが課題と考えられる。
困りごとを抱える生徒への対応 ヤングケアラーの支援体制・取組	<SSW、SCの関わり> ・SSWについては、保護者もしくは子どもからの要望に応じて派遣を要請する場合と、職員が必要を感じて派遣を要請する場合がある。 ・当事者からの要請に対してはすぐ動ける体制になっている。 ・職員発信の場合は保護者や子どもの了解を得る必要があり、拒絶されることもあるので丁寧に説明をして繋いでいくことが必要。 ・緊急性がある場合は、要請前に動いてもらうこともある。 ・通常は要請から1週間後程度で日程を調整し、面談を実施している。 ・担当のSSWは1人であるため、連絡は直接行っている。 ・SSWは多くケースを抱えており、多忙であるという印象。すき間を縫って調整。ケースによっては、毎週来てもらうこともある。学期ごとにモニタリングしている場合もあり、ケースバイケースである。 ・SCは複数配置されており、週1回程度、派遣されている。 ・派遣の頻度が少なく、カウンセリングにもっとつながりたい子どもがいるがつながぎ切れていないのが実情であるため、できれば派遣の頻度は増やしてほしい。 ・カウンセリングだけでなく、授業の様子をみて気づいたことがあったら知らせたいが、現状ではカウンセリングだけで精いっぱい、授業参観をしてもらえる余裕はない。 <困りごとを抱える生徒への対応> ・ヤングケアラーについても不登校の子どもに対応する際と同様の体制で情報共有を行っている。 ・3日以上休みが続く場合に、担任に状況を確認する。 ・担当、養護教諭、担任からの声掛けに応じて、不登校対策委員会を随時開催し、対応方法を検討している。 ・保健室だけで対応しているとほかに困っている子を把握することが難しくなるため、不登校の児童を受け入れるための部屋を設ける取組を始めた。 <配慮していること> ・「もしかしたらヤングケアラーかもしれない」という心構えがあると小さな変化にも気が付くことができるため、日々の業務を通じて教員の認識を変えていけるよう、ヤングケアラーについての周知を行っている。
ヤングケアラー	・コロナウイルス感染症による出席停止や欠席もあるうえ、時勢柄、家

一の支援にあたって必要なこと、難しい点、課題と感 じること	庭訪問が躊躇されるため、状況の見極めが難しい。 ・ 保護者や本人が状況を客観的に把握し、自己認識することも難しい。 ・ 行政も抱えているケースが多く、情報共有はできても具体的なサポートに発展していかないことがあるため、対応が複数の経路でできるような組織づくりがあるとよい。 ・ しかし、SSW、SC の配置不足をはじめ、人手不足が深刻であると感じる。 ・ 困っていることを出せない家庭が多く、周りに気づかれなるとそのままになってしまう。また、本人が気づき始めるのは中学年以降のことが多く、低学年は十分にカバーできていない。 ・ 本人が声を上げてくれればサポートに繋がりがやすくなるため、周りがいかに気がつき、声を上げやすい環境をつくるかが課題と感じている。

③外部の支援にはつないでいないが、学校内で対応しているケース

所在地	北九州地区
ヤングケアラ 一の具体的な 対応事例	<事例の概要> ・ 小学校5年生女子。 ・ 小学校2年生女子と乳幼児のきょうだいがいる。 ・ 小学生の2人ともに忘れ物や遅刻が多く、身なりが整っていない。 ・ 家にいる間、日中は洗濯物等の家事を行い、夜中も幼い子どもの世話(ミルク、おむつ替えなど)をしている。 ・ 本人は母親のことが好きで頼られることを誇りに思っている。 ・ 父母ともに仕事で忙しく、子どもに頼らざるを得ないという認識でいる。 <把握・支援までの経緯> ・ 5年生になって周りが見えてきたことで、周囲に当たることや、イライラした言動が目立つようになった。 ・ 本人に理由を聞くと、母親の仕事が忙しく、幼い子どもの世話をしていることが分かった。 ・ 母親とはなかなか連絡が取れなかったが、ようやく電話連絡と面談をすることができ、家庭の状況を聞き取ることができた。 <現状> ・ 母親が本人の様子を気にかけるようになり、表情が明るくなった。また、勉強にも身が入るようになっている。 ・ ようやく保護者とつながることができたので、必要な行政サービスを紹介するなど、学校でできる限りのサポートを行っている。
困りごとを抱える生徒への 対応 ヤングケアラ	<SSW、SC の関わり> ・ SSW はケース会議での検討を受け、必要に応じて派遣を要請している。 ・ 緊急性が高い場合にはすぐに電話要請をする。 ・ SC は市の予算の都合上、月2回の派遣となっている。

一の支援体制・取組	・カウンセリングの予約は常に埋まっており、追加の要請もしている。 ・保護者からのカウンセリングの要望が比較的多い。 <困りごとを抱える生徒への対応> ・ケース会議を活用し、情報共有や対応の検討を行っている。 ・市の職員と「生徒指導担当職員」も同席する定例のケース会議を月1回の頻度で開催している。 <配慮していること> ・若い先生が多く、年上の保護者に話を聞くにも、相談をしてもらうにも、コミュニケーションが取りにくくなっている印象がある。 ・保護者とのコミュニケーションの取り方や家庭の事情をうかがい知る方法については、ベテランの教員が率先して動き、情報共有する中で組織的に動いていけるようにすることを心がけている。
ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、難しい点、課題と感 じること	・民生委員など地域の方々からヤングケアラーを助けたいという声があがっているが、学校としてできることにも限界があるのが難しい。 ・支援の窓口はたくさんあるが、活用しきれていないのが実情とも認識している。 ・学校からは保護者から声が発しやすいように呼びかけを行い、適切な支援機関を紹介できるようにしていきたい。 ・また、地域の方の声の力は大きいため、もし気が付いたことがあったら、地域の方から児童相談所等に連絡していただくのも有効だと考えられる。

第3章 小学生の生活についてのアンケート調査結果

1. 小学生調査の概要

(1) 調査対象

全国の小学校から 350 校を層化無作為抽出(※)により抽出。対象校に在籍する小学6年生(約 24,500 人)を対象とした。

なお、対象校については小学6年生の在籍者数が 20 名以上(令和3年5月1日時点)の学校から抽出を行った。

※層化無作為抽出の際の分類方法は以下の通り

●層化

1. 都道府県単位で 11 地区に分類

北海道地区：北海道(1道)

東北地区：青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県(6県)

関東地区：茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県(1都6県)

北陸地区：新潟県 富山県 石川県 福井県(4県)

東山地区：山梨県 長野県 岐阜県(3県)

東海地区：静岡県 愛知県 三重県(3県)

近畿地区：滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県(2府4県)

中国地区：鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県(5県)

四国地区：徳島県 香川県 愛媛県 高知県(4県)

北九州地区：福岡県 佐賀県 長崎県 大分県(4県)

南九州地区：熊本県 鹿児島県 宮崎県 沖縄県(4県)

2. 各地区において、次の5つの都市規模別に分類

大都市(政令指定都市、東京都特別区)

人口 20 万人以上の市

人口 10 万人以上の市

人口 10 万人未満の市

町村

※「関東地区」については、「大都市(政令指定都市、東京都特別区)」を「関東:東京都特別区」と「関東:政令指定都市」に分け、計6つの都市規模別とした。

●配分

1. 抽出校数(350校)をまず人口比に応じて11地区に配分
2. 各地区に配分された校数を、各地区の都市規模別の合計人口の比に応じて、5つの都市規模別に配分

(2) 回答方法

対象校宛に調査票を郵送し校内で児童に配布、児童は原則自宅に持ち帰り回答のうえ郵送にて返送。

※事情により校内で回答した学校が一部ある。

(3) 実施時期

令和4年1月

(4) 有効回収数

9,759件

(5) 主な調査項目

基本情報

普段の生活について

家庭や家族のことについて

(6) 調査実施にあたっての留意点

本調査は、児童に家族や家庭内の様子について尋ねるものであることから、回答者およびその家族への負担を考慮し調査対象校への調査票の送付にあたっては、「児童から、保護者の目が気になるなどの理由で、自宅に持ち帰りたくない/回答したくないという申し出があった場合には、児童の意思を最大限に尊重し、担任の判断のもと、調査票を回収し破棄する等の対応を取っていただいても構わない」旨を伝えている。さらに、「本アンケートが児童に及ぼす影響へのご配慮のお願い」として以下の文章を依頼状内に付記したうえで調査を実施した。

【本アンケートが児童に及ぼす影響へのご配慮のお願い】

児童の一部(家族のケアを通常生活の一部としてこなしていた児童当人)にとっては、本アンケートを契機に、自分の家庭状況を理解することによるショックや不安、戸惑いが出てくるのが懸念されます。また、児童が自宅に持ち帰ったアンケート用紙を、ケアを要する家族が見ることで混乱をきたし結果として児童の日常生活に支障が出てくる可能性がございます。そのため、前述のように、保護者の

目が気になる児童については、無理に自宅に持ち帰らせない等の配慮をお願いいたします。

本アンケートを契機として、あるいはそれ以前から家族のケア等を抱えていることが明らかになった児童に対しては、担任などから配慮ある声かけやサポート、相談先の明示等のご支援をお願いいたします。必要に応じて、貴校内組織および、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、外部支援団体と連携してのご対応をお願いできますと幸いです。

相談先については、調査票内に以下の相談先を掲載しています。児童に対しては、心配事がある際には、担任やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーへ相談できること、また、以下の相談先に電話などができることをお伝えください。

■24 時間子供SOSダイヤル【文部科学省】

電話番号:0120-0-78310(通話無料)

受付時間:年中無休 24 時間受付

■児童相談所相談専用ダイヤル【厚生労働省】

電話番号:0120-189-783(通話無料)

受付時間:年中無休 24 時間受付

■子どもの人権 110 番【法務省】

電話番号:0120-007-110(通話無料)

受付時間:平日 8:30-17:15

■子どもと家族の相談窓口【日本精神保健福祉士協会】

メールアドレス:kodomotokazoku@jamhsw.or.jp

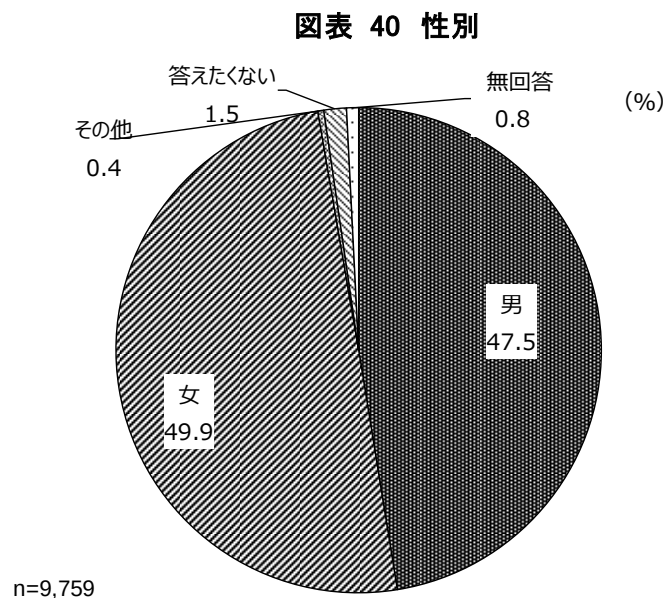
受付時間:年中無休 24 時間受付

2. 小学生調査の結果(単純集計)

(1) 基本情報

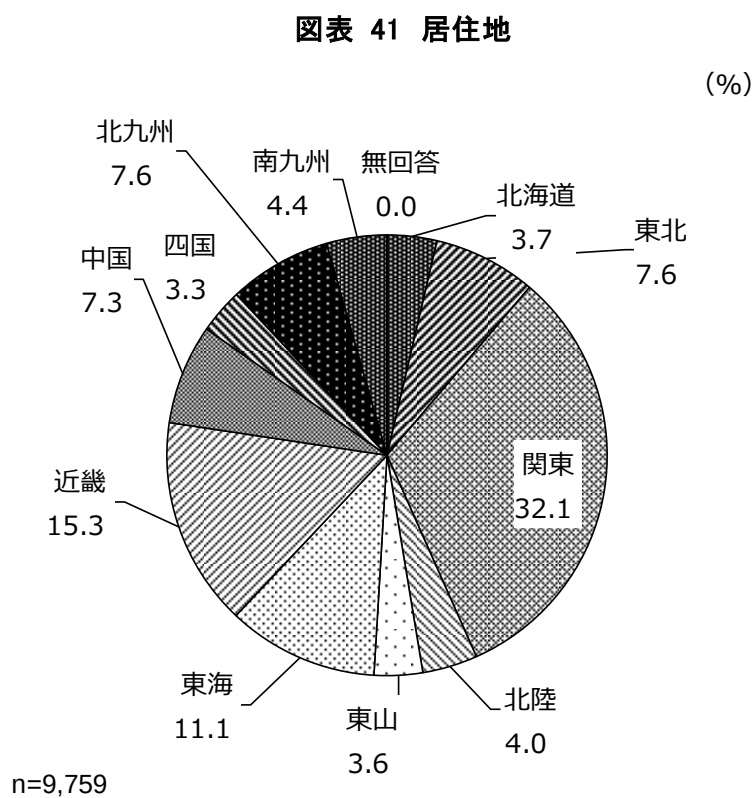
① 性別

回答者の性別は、以下の通り。



② 居住地

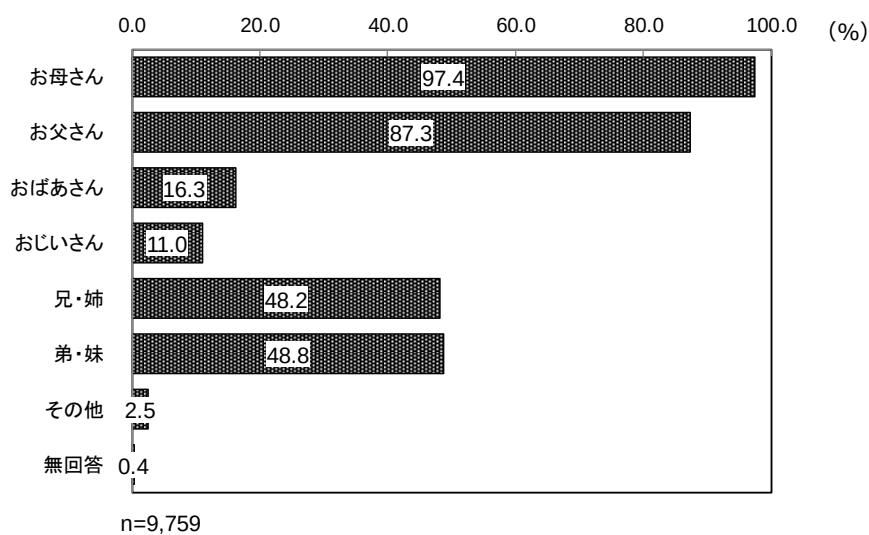
回答者の居住地は、以下の通り。



③ 同居家族

同居家族は、「母親」が 97.4%と最も高く、次いで「父親」87.3%、「弟・妹」48.8%、「兄・姉」48.2%となっている。

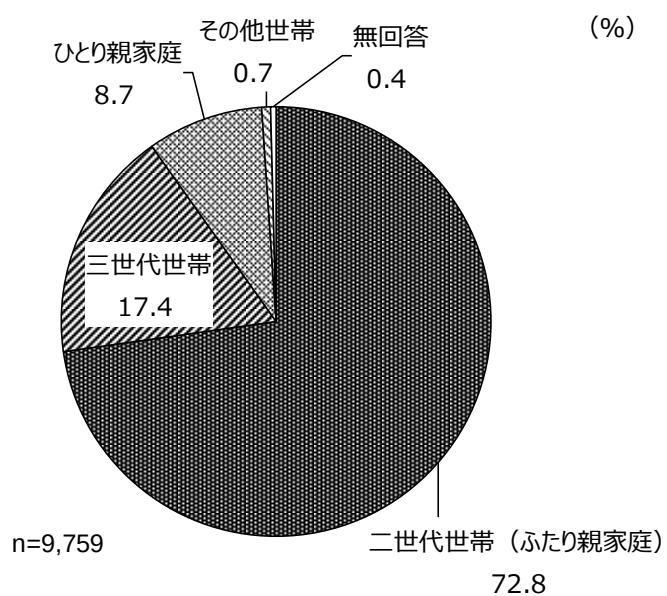
図表 42 同居家族(複数回答)



④ 家族構成

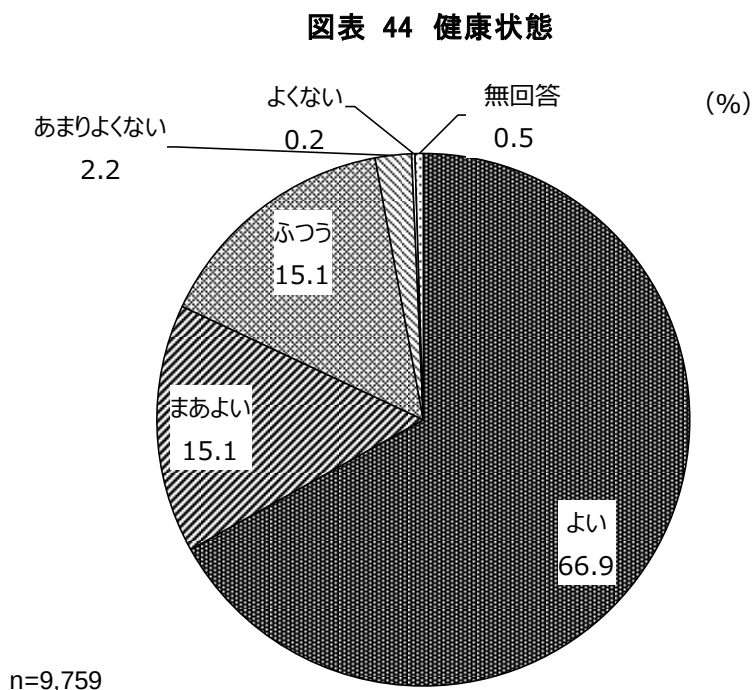
回答者の家族構成は以下の通り。

図表 43 家族構成



⑤ 健康状態

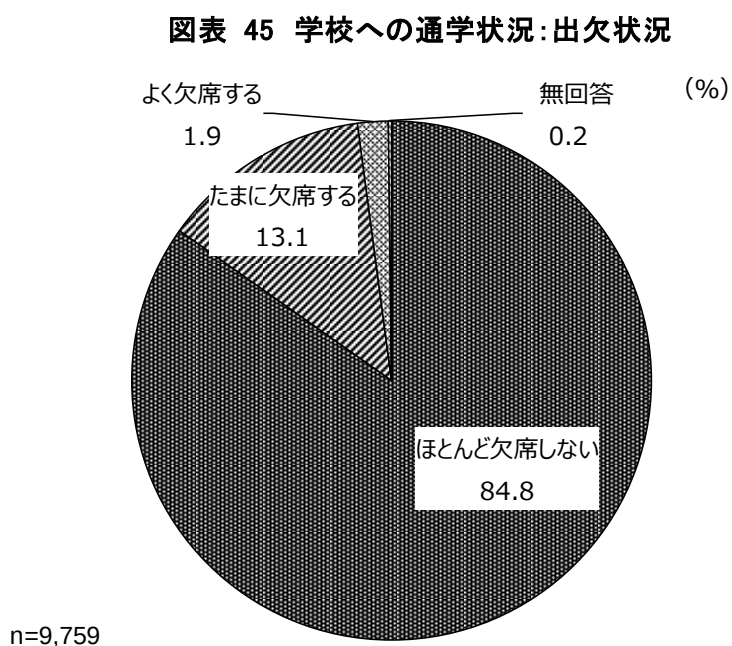
健康状態は、「よい」が 66.9%と最も高く、次いで「まあよい」、「ふつう」がそれぞれ 15.1%となっている。



(2) 普段の生活について

① 学校への通学状況：出欠状況

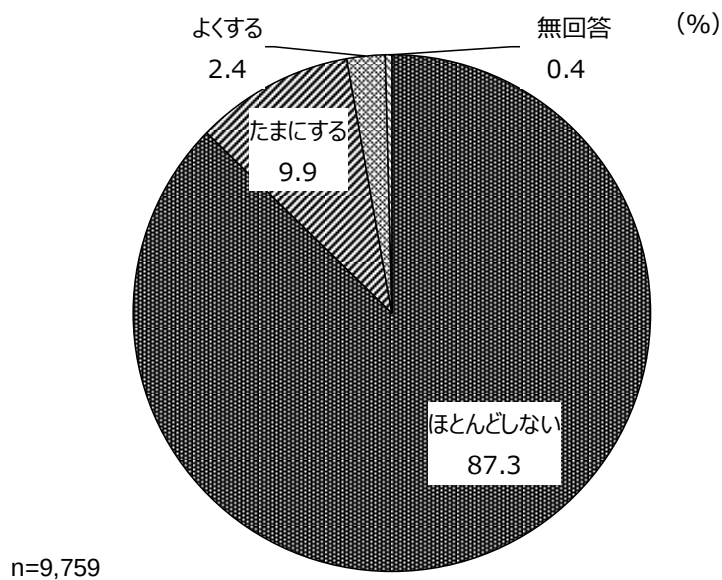
学校の出席状況は、「ほとんど欠席しない」が 84.8%と最も高くなっている。



② 学校への通学状況：遅刻や早退の状況

学校の遅刻や早退の状況は、「ほとんどしない」が 87.3%と最も高くなっている。

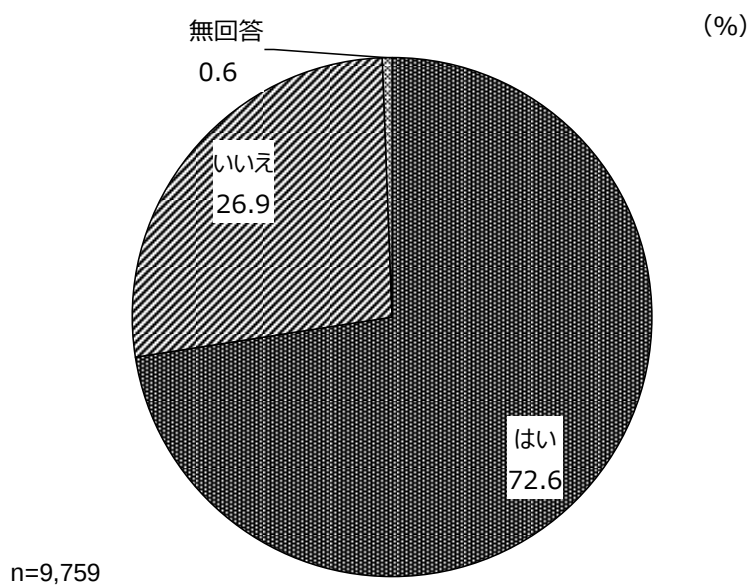
図表 46 学校への通学状況：遅刻や早退の状況



③ 習い事などへの参加状況

習い事などへの参加状況は「はい(参加している)」が 72.6%、「いいえ(参加していない)」が 26.9%となっている。

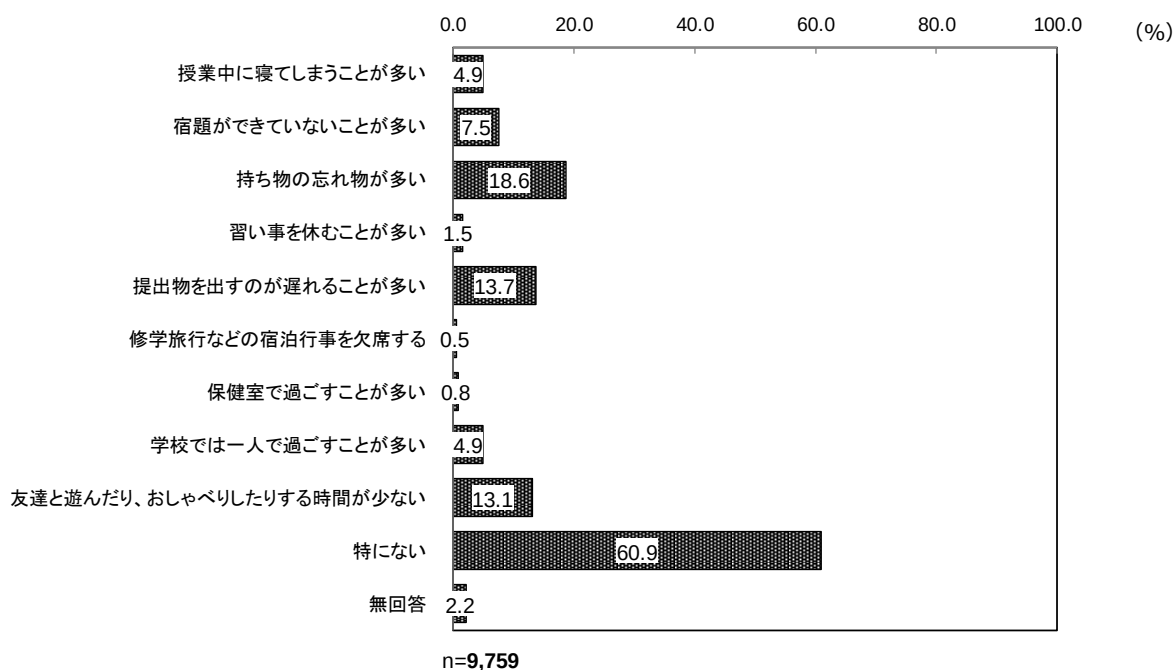
図表 47 習い事などへの参加状況



④ 普段の学校生活などであてはまること

普段の学校生活などであてはまることについては、「特にない」が 60.9%と最も高くなっている。そのほかでは、「持ち物の忘れ物が多い」(18.6%)、「提出物を出すのが遅れることが多い」(13.7%)、「友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」(13.1%)がほかに比べてやや高くなっている。

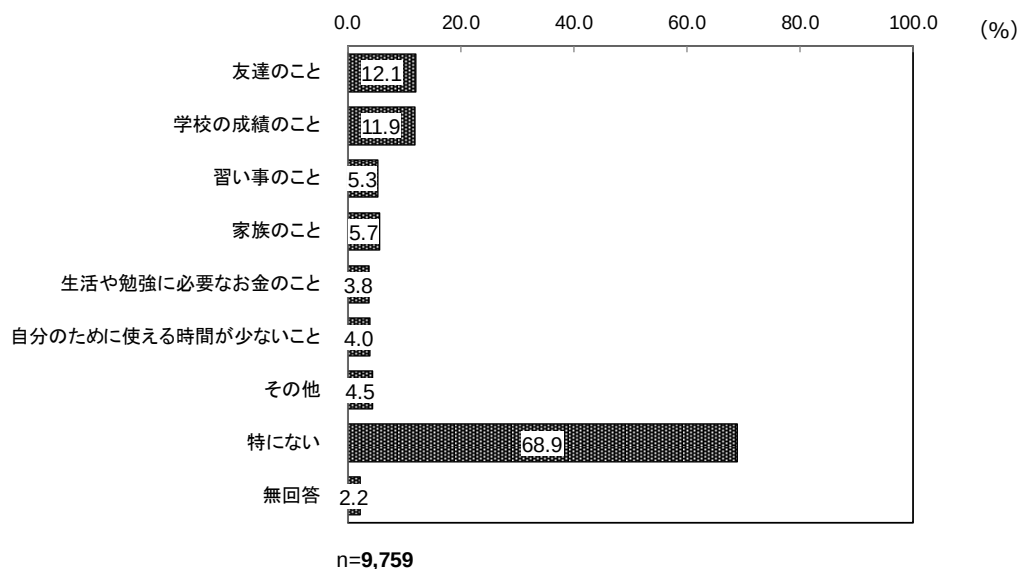
図表 48 普段の学校生活などであてはまること(複数回答)



⑤ 現在の悩みごと

現在の悩みごとについては、「特にない」が 68.9%と最も高くなっている。そのほかでは、「友達のこと」(12.1%)、「学校の成績のこと」(11.9%)がほかにならべてやや高くなっている。

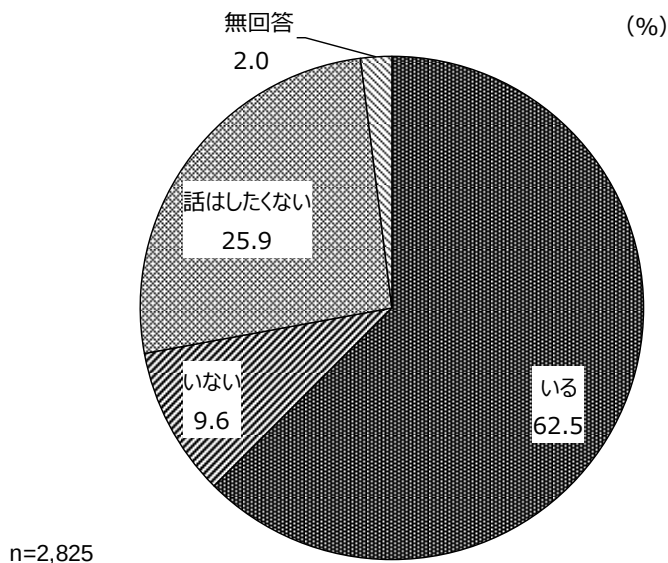
図表 49 現在の悩みごと(複数回答)



⑥ 悩みごとについて話を聞いてくれる人の有無

前問で何らかの悩みごとがあると回答した人に、話を聞いてくれる人の有無を聞いた結果、「いる」が 62.5%と最も高くなっている一方で、「話はしたくない」という回答が 25.9%となっている。

図表 50 悩みごとについて話を聞いてくれる人の有無

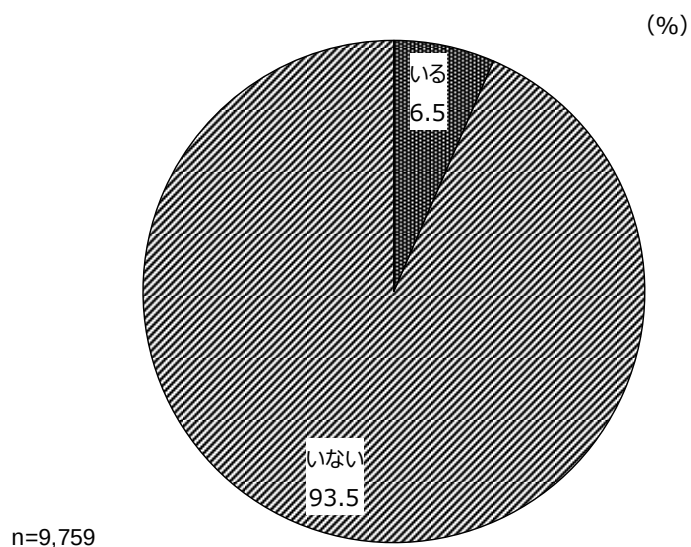


(3) 家庭や家族のことについて

① 世話をしている家族の有無

世話をしている家族の有無については、6.5%の回答者が「いる」と答えている。

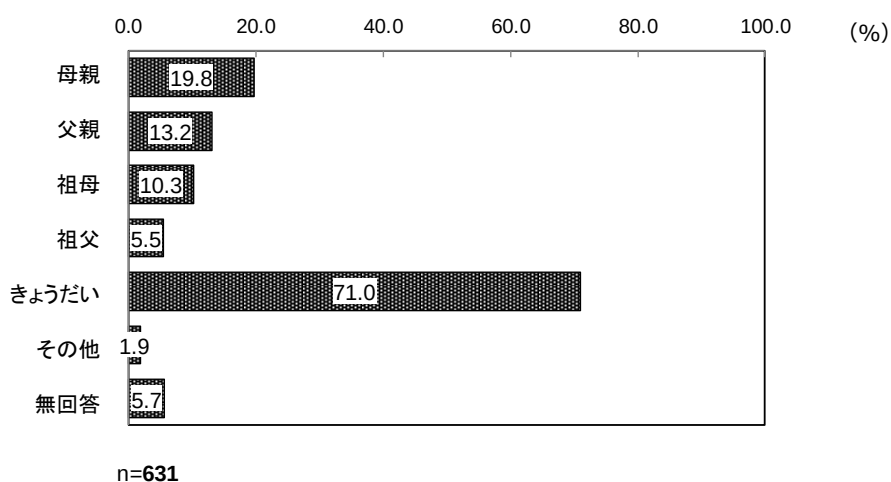
図表 51 世話をしている家族の有無



② 世話を必要としている家族

世話を必要としている家族については、「きょうだい」が 71.0%と最も高く、次いで「母親」が 19.8%となっている。

図表 52 世話を必要としている家族(複数回答)

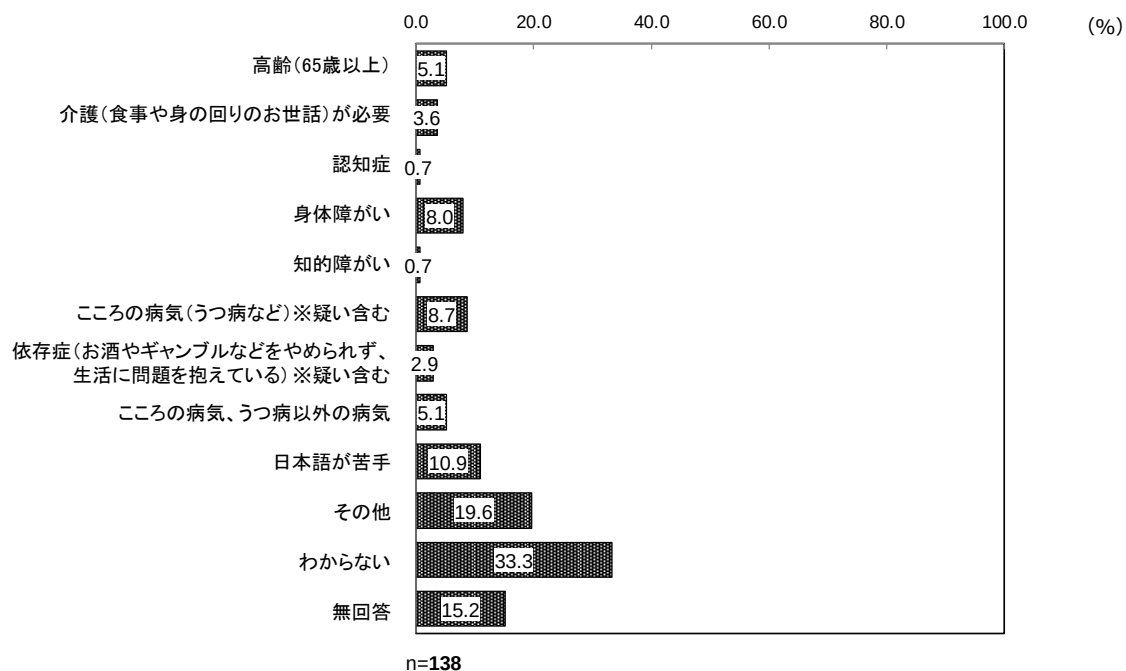


(補足) その他の自由記述: 曾祖父母、甥っ子、姪っ子等

③ 父母の状況

世話を必要としている家族として「父母」と回答した人に、父母の状況を聞いたところ、回答として最も多かったのは「わからない」(33.3%)、次いで「その他」(19.6%)であった。その他の選択肢の中では、「日本語が苦手」が 10.9%とやや高くなっている。

図表 53 父母の状況(複数回答)

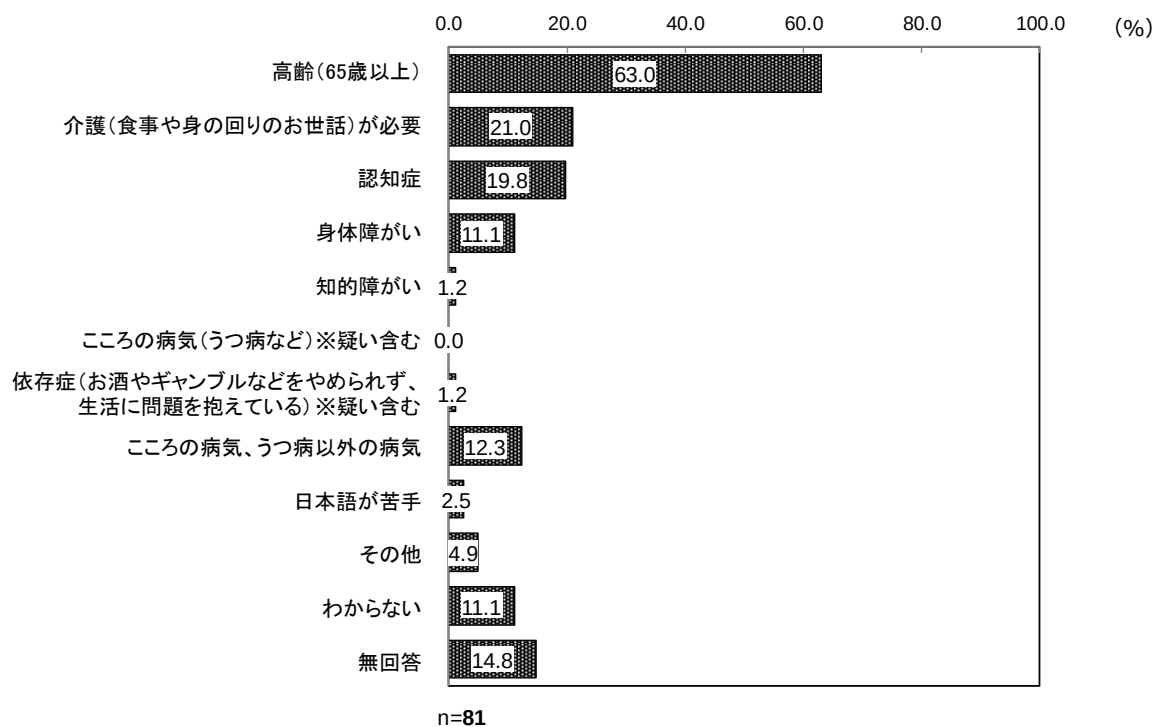


(補足) その他の自由記述: 仕事で多忙、仕事で疲れている、(病気、障がい等はないが)家事を手伝っている、母親が妊娠中あるいは赤ちゃんがいるため、等

④ 祖父母の状況

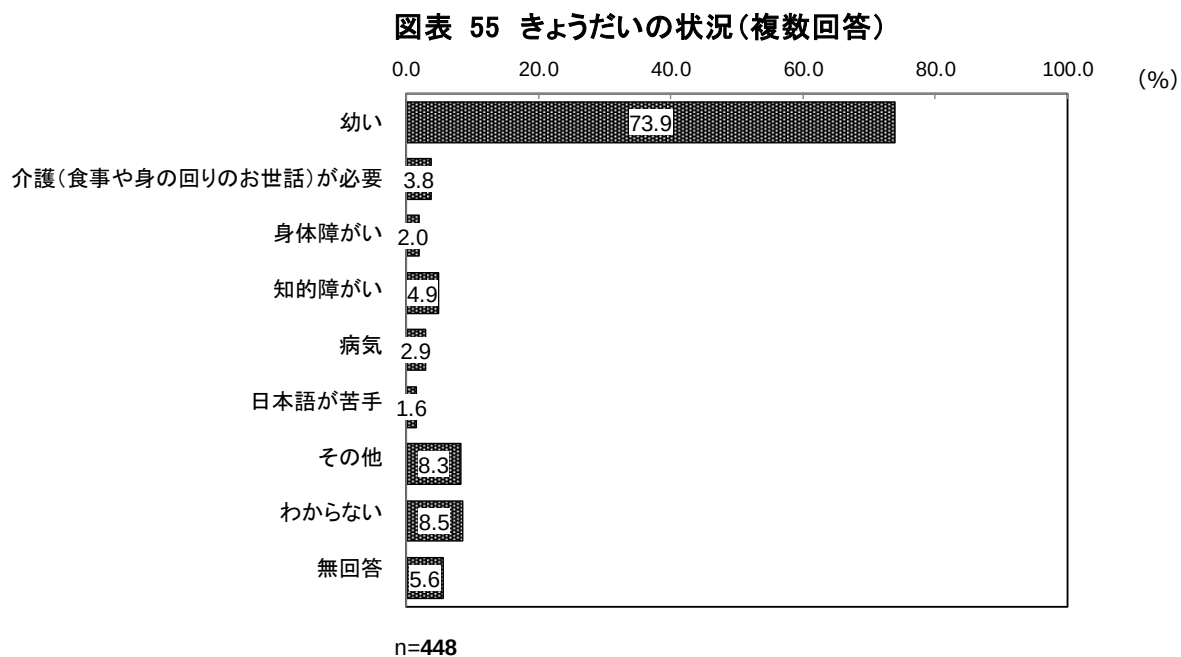
世話を必要としている家族として「祖父母」と回答した人に、祖父母の状況を聞いたところ、「高齢(65歳以上)」(63.0%)が最も高く、次いで「介護(食事や身の回りのお世話)が必要」(21.0%)、「認知症」(19.8%)となっている。

図表 54 祖父母の状況(複数回答)



⑤ きょうだいの状況

世話を必要としている家族として「きょうだい」と回答した人に、きょうだいの状況を聞いたところ、「若い」が 73.9%と最も高くなっている。

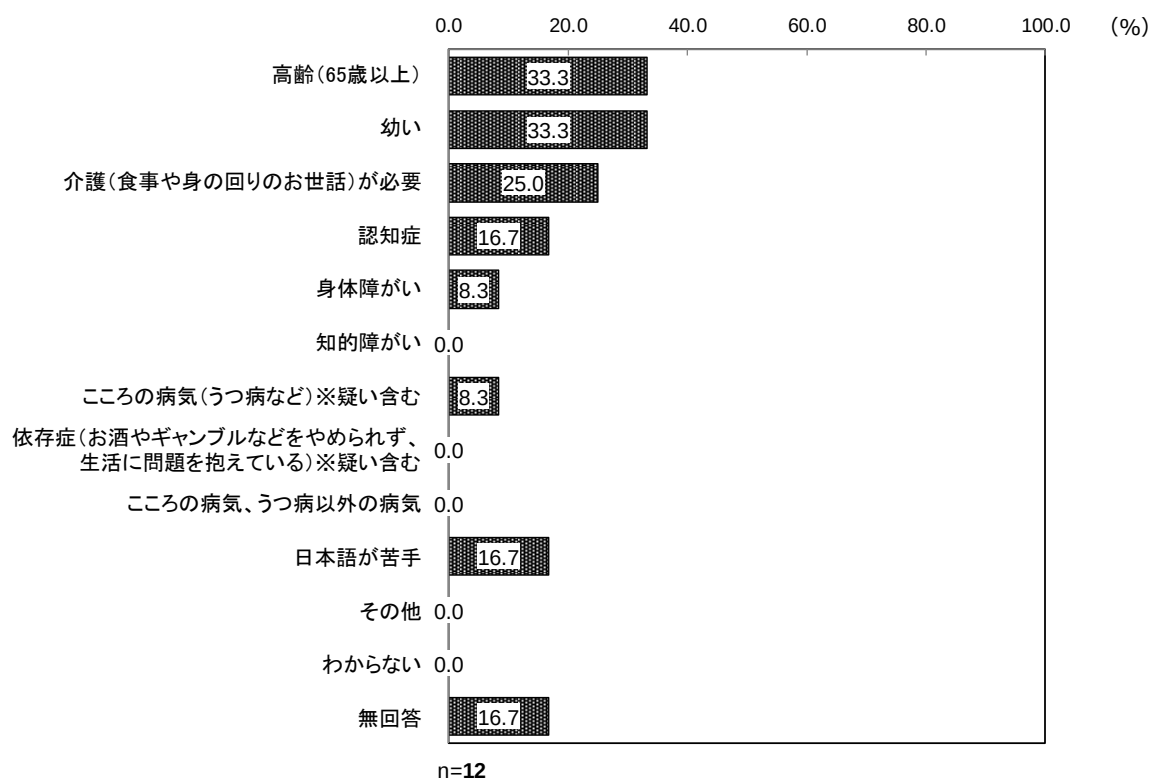


(補足) その他の自由記述: (病気や障がいではなく) 親が仕事で多忙のため、留守番をするとき面倒をみている、等

⑥ その他の家族の状況

世話を必要としている家族として「その他」と回答した人に、その他の人の状況を聞いたところ、「高齢(65歳以上)」と「若い」がともに33.3%と最も高くなっている。

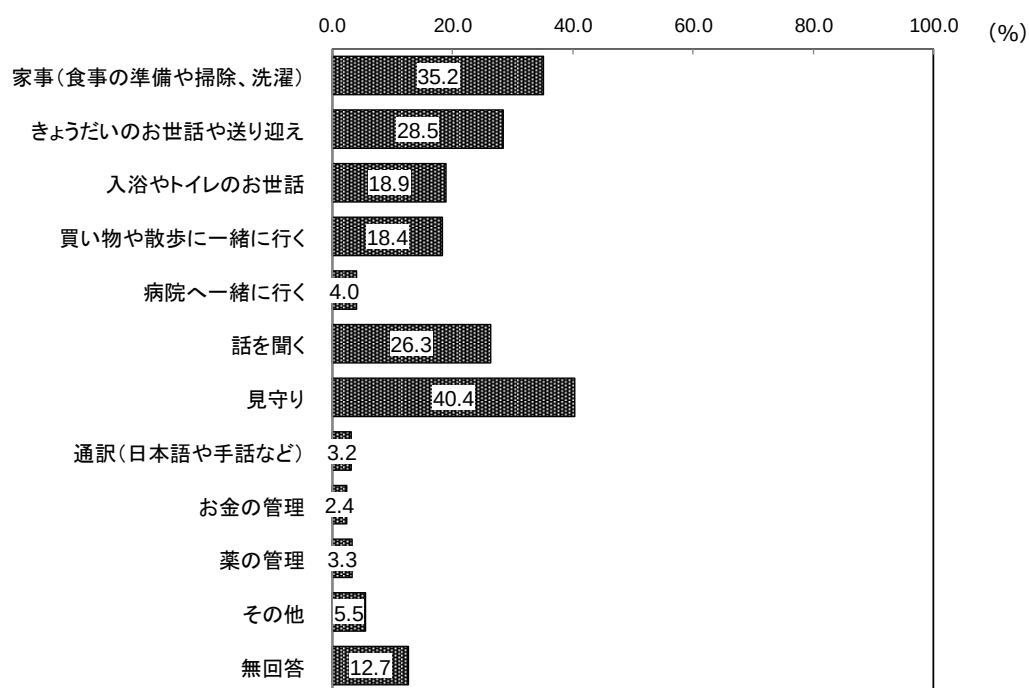
図表 56 その他の家族の状況(複数回答)



⑦ 世話の内容

世話をしている家族がいると回答した人に世話の内容について聞いたところ、「見守り」(40.4%)が最も高く、次いで「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」(35.2%)となっている。

図表 57 世話の内容(複数回答)



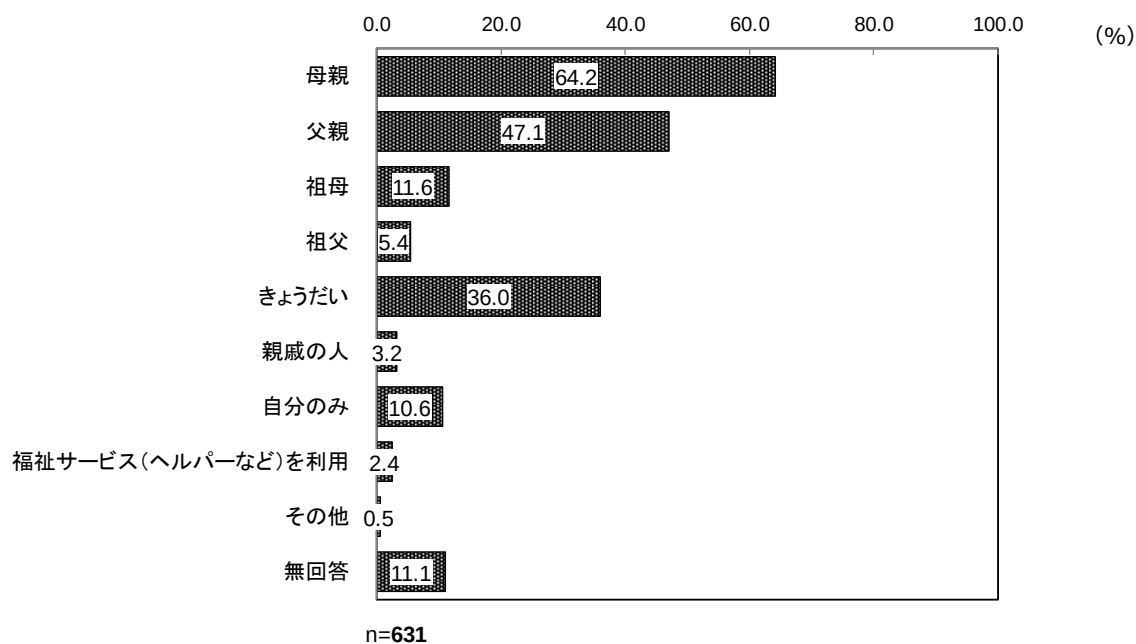
n=631

(補足) その他の自由記述: きょうだいと遊ぶ、勉強を教える、等

⑧ 世話を一緒にしている人

世話を一緒にしている人については、「母親」(64.2%)と最も高く、次いで「父親」(47.1%)、「きょうだい」(36.0%)となっている。

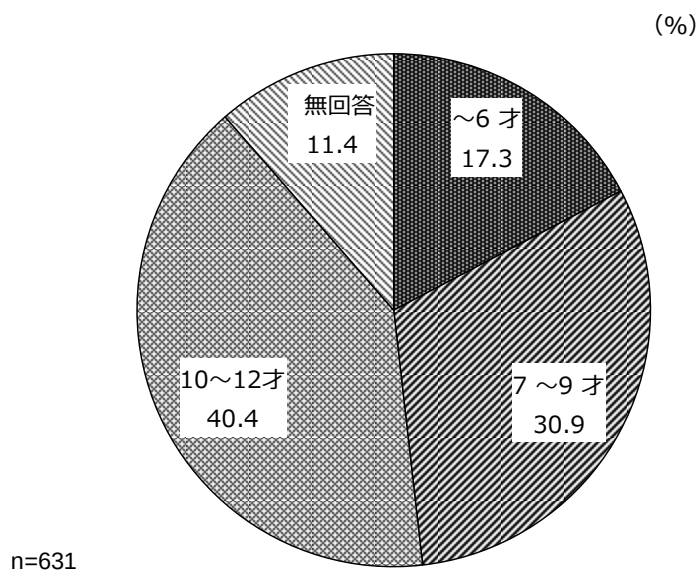
図表 58 世話を一緒にしている人(複数回答)



⑨ 世話を始めた年齢

世話を始めた年齢については、「10～12才(小学校高学年くらい)」が 40.4%と最も高くなっている。

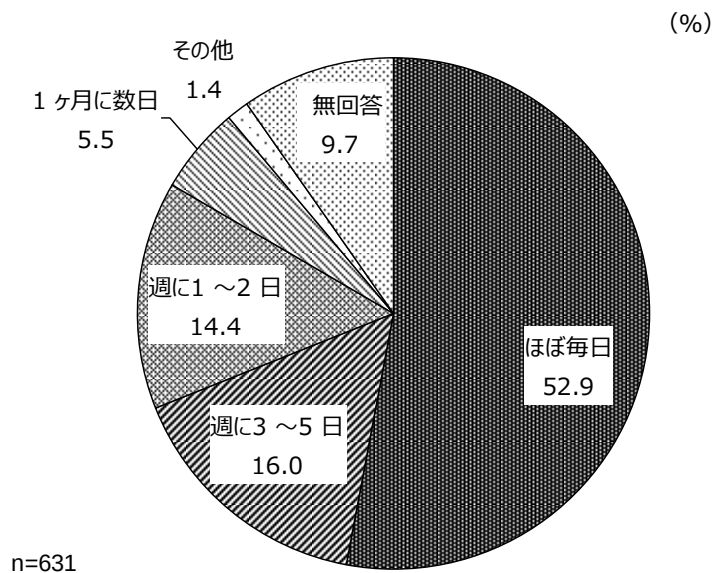
図表 59 世話を始めた年齢



⑩ 世話をしている頻度

世話をしている頻度については、「ほぼ毎日」が 52.9%と最も高くなっている。

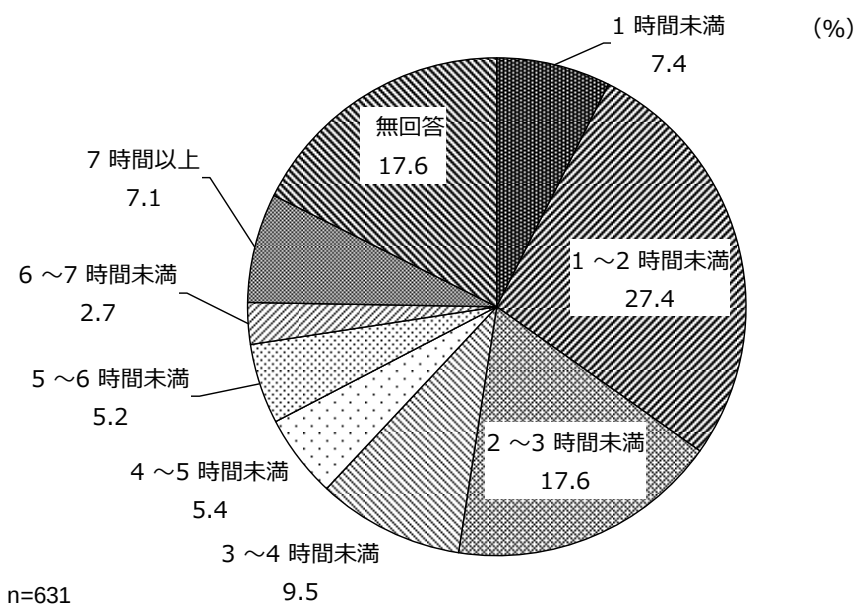
図表 60 世話をしている頻度



⑪ 平日1日あたりの世화에費やす時間

平日1日あたりに世화에費やす時間については、「1～2時間未満」が 27.4%と最も高くなっている。無回答を除いた回答者の平均は 2.9 時間となっている。

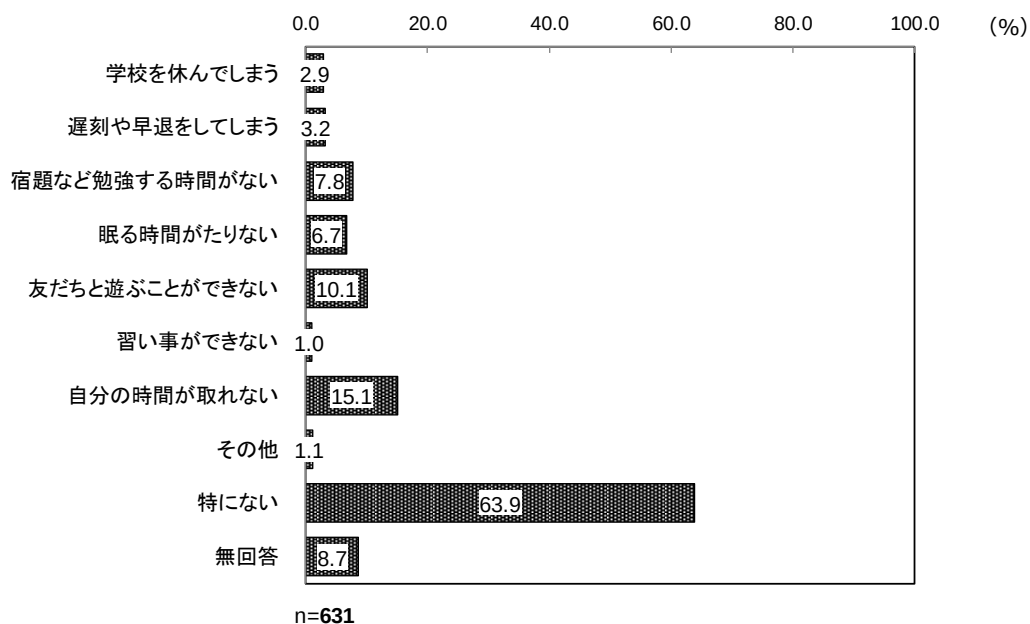
図表 61 平日1日あたりの世화에費やす時間



⑫ 世話をしているためにやりたいけれどできないこと

世話をしているためにやりたいけれどできていないことについては、「特にない」(63.9%)が最も高くなっているが、そのほかでは、「自分の時間が取れない」(15.1%)がほかと比べて高くなっている。

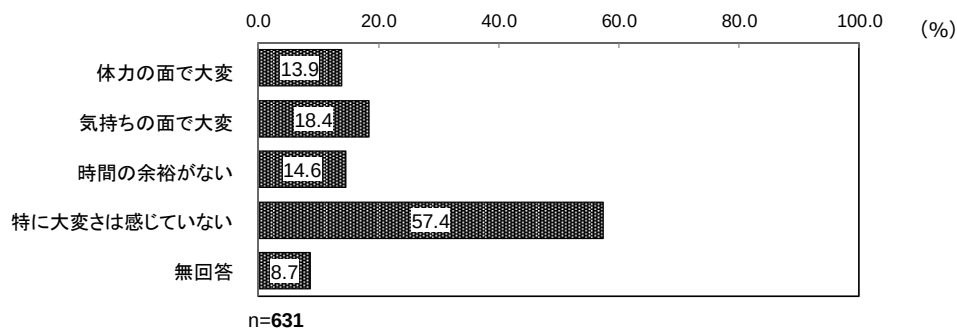
図表 62 世話をしているためにやりたいけれどできないこと(複数回答)



⑬ 世話の大変さ

世話の大変さについては、「特にきつさは感じていない」(57.4%)が最も高くなっているが、そのほかでは「気持ちの面で大変」(18.4%)がほかと比べてやや高くなっている。

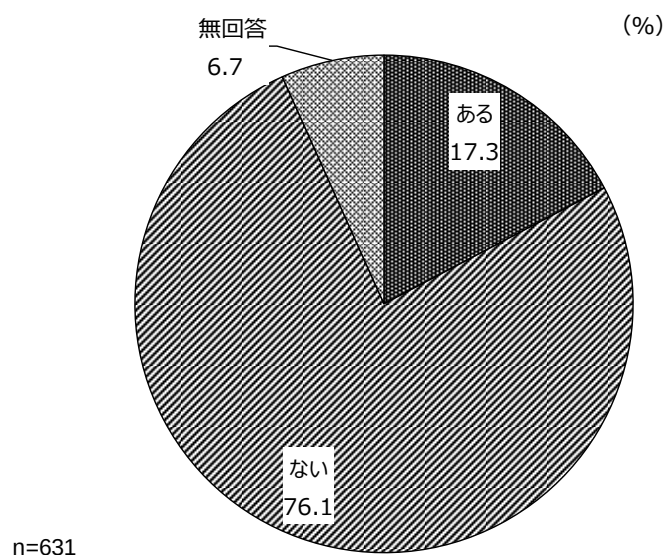
図表 63 世話の大変さ(複数回答)



⑭ 世話について相談した経験

世話について相談した経験については、「ある」が 17.3%、「ない」が 76.1%となっている。

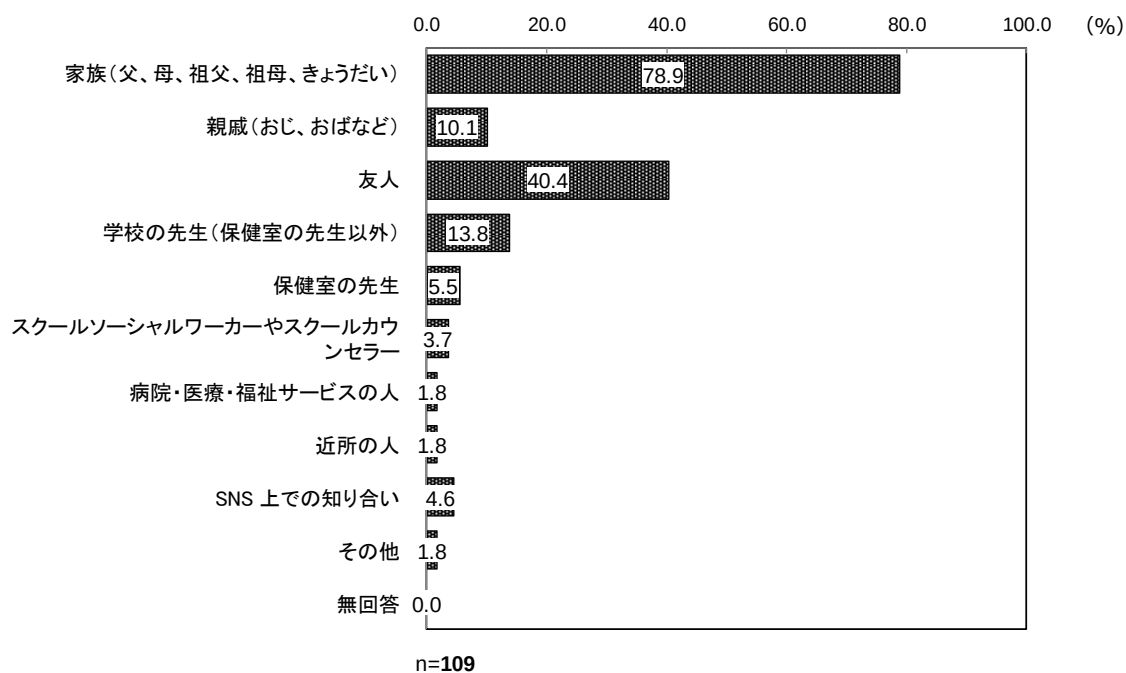
図表 64 世話について相談した経験



⑮ 世話についての相談相手

世話についての相談相手は、「家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)」(78.9%)が最も高く、次いで「友だち」(40.4%)となっている。

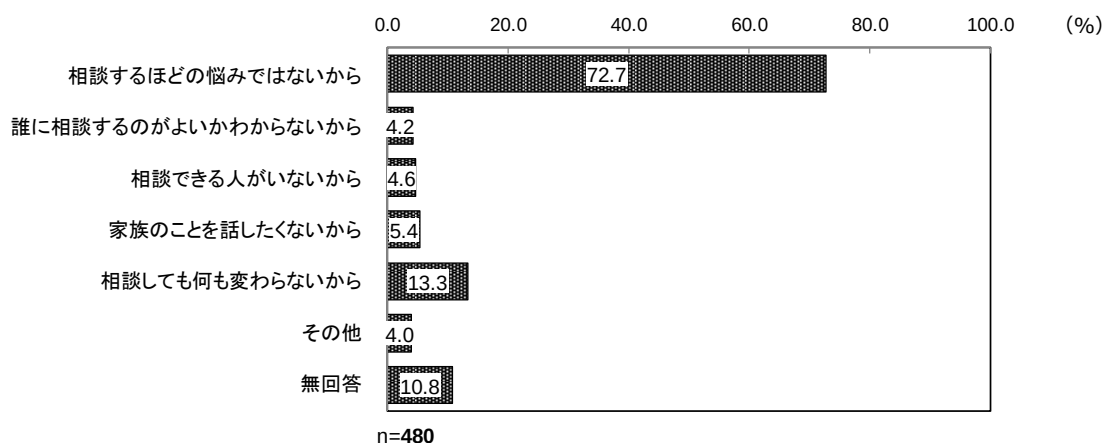
図表 65 世話についての相談相手(複数回答)



⑩ 世話について相談したことがない理由

世話について相談した経験が「ない」と回答した人に、その理由について聞いたところ、「相談するほどの悩みではないから」が 72.7%と最も高くなっている。

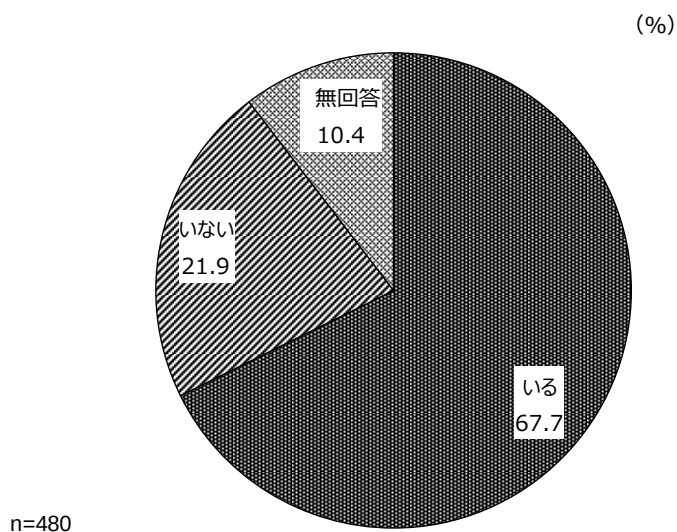
図表 66 世話について相談したことがない理由(複数回答)



⑪ 世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について相談した経験が「ない」と回答した人に、世話について話を聞いてくれる人の有無を聞いたところ、67.7%の回答者が「いる」と答えている。

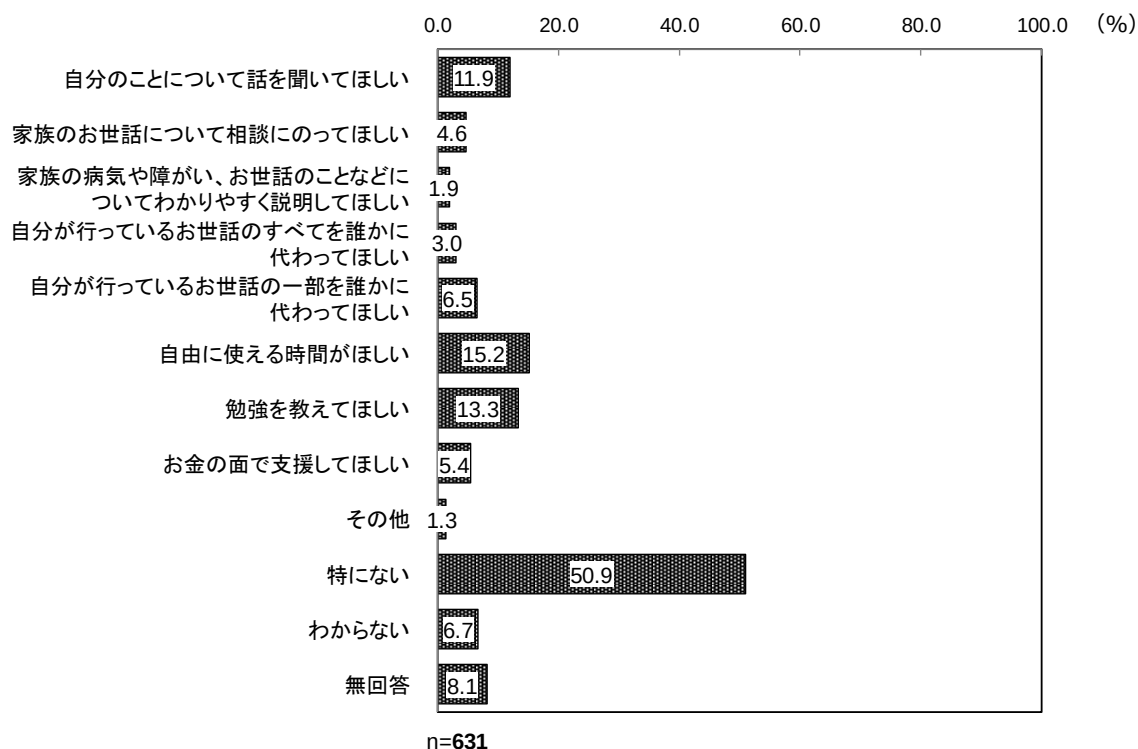
図表 67 世話について話を聞いてくれる人の有無



⑩ 学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことを聞いたところ、「特にない」(50.9%)が最も高くなっているが、そのほかでは「自由に使える時間がほしい」(15.2%)、「勉強を教えてほしい」(13.3%)、「自分のことについて話を聞いてほしい」(11.9%)がほかと比べて高くなっている。

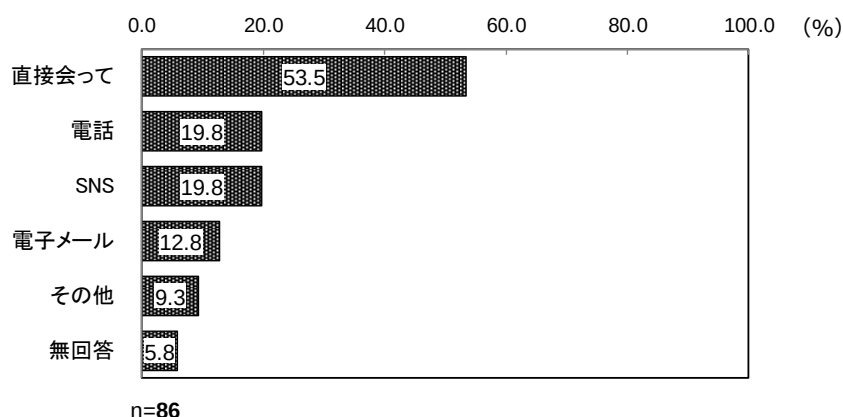
図表 68 学校や大人にしてもらいたいこと(複数回答)



⑭ 希望する相談方法

前問で「自分のことについて話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人に希望する相談方法について聞いたところ、「直接会って」が53.5%と最も高く、次いで「電話」、「SNS」がいずれも19.8%であった。

図表 69 希望する相談方法(複数回答)



⑮ 自由回答

家族の世話をしている子どものために必要だと思うことや学校や周りの大人にしてもらいたいことについての自由記述は以下の通り。

※原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

家族の世話をしている子どものために必要だと思うこと
休める場所、休める時間が必要。(複数意見)
ひとりの時間や自由に使える時間がほしい。(複数意見)
勉強を教えてほしい。(複数意見)
学校に気軽に相談できる先生や、メールや SNS で話を聞いてもらえる窓口が必要。(複数意見)
世話の手伝いをしてあげる。困っている人がいたら協力する必要があると思う。(複数意見)
必要だと思ったのは自分でこうしたらいいのか考えたり学校の周りの先生の人にこうしてほしい協力などが必要だと思う。
お金の面での支援や、勉強を教える場の提供や、家事の代行サービスが必要だと思います。
そういうせつを用意したほうが良いと思う。
おじいちゃんやおばあちゃんを無料でろうじんホームに入れてあげる
もっと理解してほしい・手話教室(学校で)をしてほしい・いつでも頼っていい人がほしい・電話だけでなく、メールでもやりとりできるようにしてほしい。

相談することは、リラックスするためにとっても必要だと思う。友だちの力がいちばんつよいと思う。家族にはなせないことがいえるから
おさない子のお世話をしている人に必要だと思うことは、「1人の時間」です。幼い子が泣いていると、全然泣き止んでくれず、つかれるからです。そして、だんだん、かなしいというか、イライラしてきます。「ああ、なんで泣き止まないの？」と。なので、そのお世話している人が楽しいと思えるような時間を少しでもとってほしいです。とれないと、ストレスがたまっていきます。あと、幼い子の世話をしているだけでもえらいので、たまには、ほめてもらえると、がんばろうという気持ちになります。
パニックになったときのきん急連らく先を作って、メールで話してほしい。
家族のお世話をしている子どものために、宿題を減らしたりして、少しでも負担を少なくしてあげたらよいと思う。
おじいさん、おばあさん(こうれい)の人にやさしくすること、足・こしがダメになってる人が多いからやさしくしてあげたい。
1人でお世話している人、お母さんとお世話をしている人がいると思います。自分1人だけでお世話をしている人は、なやみがあったら1人だけじゃなく、話をしやすい人、しんようしている人に話したらきっと気持ちがつたわると思います。たいへんかもしれないけど、1時間やせめて5分でも、自分がしたいことや、やりたいことをしたほうが良いと思いました。すきま時間を自由時間にかえるとちょっとは、すっきりします。お世話をしていたら、ストレスがたまることもわかります。すきま時間がないかもしれません。けど、くるのをまつんじゃなくて、自分でさがすってことがひつようかと思いました。
車イスを借りていますが、3ヶ月に一度の手続きと、病院通いで、大変な思いを母がしています。もっと車イスなど、高齢者が必要な物を無料でレンタルできる町になってほしいと思います。車イスの更新手続きをするときは、ぼくも一緒に行き、少しでもじいちゃんの手助けになればと思います
自分とむきあう時間がほしい。家族のお世話を毎日していて「つらいな」「もうやめたいな」と思っている人がもしも、いたら1週間に1回くらい少しは休める日をつくったり、自由な時間をとったりするのが必要だと思います！！
周りの人が相談にのってあげたり、人権の時間も多くとっていた方が良いと思う。
町のふくしの人たちに、もっとていねいにやさしく、ちゃんとかんがえて、助けてほしい。 りょうしんともにしょうがい者です。せいかつのために、そうだんできる人がいなくて、しかたなくりこんしました。ぼくもはったつしょうがいをもっています。てちょうをもっていなくても、ぼくたちみせいねん者が、つかえるサービスをふやしてほしい。 つういんかいじょ→しんだんしょがいる＝時間がかかる＋お金がかかる いどうしえん→てちょうがないからダメ かていにおおじた、ふくしサービスをそくぎにしょうできるようにしてほしい。

外へ行くとき弟をおいてけないので、カンゴシさんがきてほしい。本当は弟は病気なので、3千万円もらえていたはずなのに、意味のない基準でお金がもらえませんでした。たくさんの金が残っているらしいです。み来の赤ちゃんはそのお金はあげるのに、ぼくたちのお金だったのにとってもひどいと思いました。
お世話の時間はいぶん。日本語や、英語を学べるアプリや、おもちゃ
1人で遊ばせない事1人で遊ぶんじゃなくて、みんなで遊んであげる(1番下が1人でカードで遊んでいる)。遊ぼうとしても、きょひをしない(悪く考えないでください)
自分のために使う自由な時間も設けながら、周りの人と協力してお世話をすること。もし、お世話などでなやんでいたら、それを聞いて相談に乗ってあげること。 家族の世話が、できるだけ楽になるように周りの大人や他の友達、家族などで、協力し合うこと →その人の自由な時間が増える！！ ヤングケアラーのような人や友達を見つけたら、サポートしてあげること。(困っている)
同情せず、静かに聞く。大変な時に、お金の支援をとっても大変な人にやってください。
家族のお世話をしている子どもには、つかれや、精神面的なつらさもあると思うので、そういった面での対策のために、もっとこういったアンケートをとって、大変な子ども達の負担を減らすことのできる案を出してほしい。人数の多い家族は特に1人あたりの負担が大きいと思うし、学校に行けない、十分にねれないという人がいると思うので、安心して暮らせる環境を整えられるとよいと思う。
家族にしてもらいたいこと
父に働いてもらって母と父が仲よくしてほしい。
子どもにばかりお世話をさせず、家族で協力したらいいと思います。そうしたら家族のお世話をしている子も休めると思います。
妹をお風呂に入れるのが大変だから、一緒に(妹はお風呂がきらい。)やってもらいたい。(祖母と)
親がユーチューブを見ている時間があるから、その時間で、ぼくたちがやっていることをかわりにしてほしい
ボクが教えてあげていてもおぼえなくて、大人(親)にもういいよといってあまやかしている所をやめてほしい・もっと色々なことをしてほしい・ぼくばかりおこらないでほしい
もっといっしょにあそんでほしい(お母さん)・あたりまえのことでもほめてほしい(お母さんと先生)・もう(六年生、12 さい)やろとかいわないでほしい(お母さんと先生)・平日もゆっくり1人になれる時間がほしい(お母さんと先生)
お小遣いがほしい。お父さんがだらだらしている時間を使って、お世話してほしい。お父さんのほうが私より働いている時間が少ないから、同じぐらい働いたり、仕事することを増やしてほしい(副業などで)・日ごろのストレスでおこってしまったときに、反こう期と言うのをやめてほしい。
弟を勉強中静かにさせてほしい

学校や周りの大人にしてもらいたいこと
つらさを分かってほしい。私の気持ちを聞いてほしい。(複数意見)
相談できる場所がほしい。(複数意見)
優しく接してほしい。見守ってほしい。(複数意見)
お金の面で支援をしてもらいたい。(複数意見)
自分がしている世話を手伝ってもらいたい。(複数意見)
頑張っている世話をしていることを認めてほしい、ほめてほしい。(複数意見)
もっと一緒に遊んでほしい。(複数意見)
あいじょうをそそぐ。なにもかんがえないようにする。
少しでいいから話をきいてほしい。弟たちにもっとたのしくすごしてもらえる方法をおしえてほしい。
私はないですが、子供は悩みを一人でかかえこみがちです。それは、大人がこわいや自分だけで解決できると思いこんでいるなどの理由からです。そんなとき、優しく笑顔で声をかけてもらえればとても落ち着きます。実際に私のクラスの友達で、家族のことで悩んでいた人がいました。でもその子は、私にそれをうち明けてくれたので、一緒に考えてあげることができました。その子は、「友達にいえたからよかった」と言ってくれました。こんな風に、誰かに話すとてもスッキリします。それが子ども同志であっても大人であっても、同じことがいえると思います。つまり私は、悩んでいるのかなと思ったら、声をかけてもらいたいと思います。きっとそれを、私だけでなく、全ての小学生が考えていると思います。
障がい差別をやめてもらう活動をしてほしい。簡単に「障がい者」という言葉を出さないでほしい。おもしろがって話をして障がいを例えないでほしい。障がいしゃを笑わないでほしい。障がいをよく理解してほしい。障がいをバカにする人をよく注意してほしい。障がいをバカにする人は子供だけでなく、大人でもたくさんいる。すべての人がよく理解してだれもが幸せなところになりたい。
少しでも異変に気付いたりした大人(周りの人・学校の先生)が「大丈夫?」「話聞こうか?」などと心配の言葉を、少しでもいいから、かけて話を聞いてほしい。(私の)おばあちゃんが軽度の認知症でお薬を飲んでいて、お薬を飲まなかったり、言ったことをしなかったりなどやおばあちゃんが「もうダメなのかも…」とたまに言っていて物忘れやネガティブになってしまったり、認知症のおばあちゃんをデイサービスに行かせたい…と家族で話し合ったりもしたけど、やはりお金の部分が大変で朝はみんな仕事・学校でおばあちゃんが1人になってしまってもし大ケガをしてしまったりして、本当に亡くなってしまったらと思うと、自然と涙が出てきます。この「モヤモヤ」の気持ちをスクールカウンセラーに話したいけど勇気が出ません。1人でも行ける学校のカウンセラーのところに話を聞いてほしいです。(お母さん・お父さん・妹でおばあちゃんの世話をしています)
子どものことを思いやって行動する

体のことをよくしっていて相手をたのしませてあげたり話を聞いてくれる人がいてほしい。
もっと、周りの人々に、知的障害などの人の事を知って、理解してほしい。福祉サービスの方々の対応を、もっと的確にしてほしい。小児科などで、もっと配りよをしてほしい。(子どもにバカにされることがあった)
自由な時間を増やしてほしい。私は、心が弱く、ネガティブで、どうしても周りを気にしてしまって、ちょっとしたことで悪い事のようにとらえてしまって、学校を休んだ(悪口等で)こともあります。「ふつうの学級に行きたくない」「みんなとちがう場所で勉強したい」と思うようになりました。大人の方々に、少しは気づいてほしいです。
自分の話をちゃんと聞いてほしい・先生の事をどうにかしてほしい・兄弟との差別をやめてほしい(お姉ちゃんがいて、いそがしい時期だから差別するのはしかたないけれど、やっぱりさみしいし、悲しいからやめてほしい)・むりなのは分かっているけど、悲しい時、つらい時に気付いてほしい
学校の子どもが少しでもいやな事があつたら、話をまじめに聞いて、先生としてのやくわりをちゃんと考えてほしい。・お金の事を言っても話を聞かなくてめんどうに考える人がいないようにしたい。
車いすの人が少しこまった様子をしていたら声をかけてあげてほしいです。家族の世話をしている人が、ため息をついているところを見たら、手伝ってあげてほしいです。こまっていたら、すぐ声をかけてほしいです。
ヤングケアラーをもっと知ってほしい。親等のかいごで学校に行けない人によりそってほしい
障害児がいても不平等のない、楽しく、いじめもない世の中にしてもらいたい。障害児のいる家族とかにしか分からないことが、多いと思うので、障害児のいない人でも色々なことを知ってほしい。
学校でして欲しいことは、はた当番など、さけてほしい。なぜなら、お母さんがいない間、弟、妹の世話をして、自分が学校へ行くのがおくてしまうから。
まわりを見てほしい。相談しやすい環境をつくってほしい。きょうだいが多く人たちはさらに相談しにくい環境になっていると思う。年上をあてにしないでほしい。アンケートなどを取るときまわりの人にみえないようにしてほしい。アンケートを書いているとき見ないでほしい。
勉強ができなくても、家のじじょうでできないから、やってこなかったというあつかいをしてほしくない！
親や大人がそういう面では、子どもの健康を一番に思ってたくさん仕事をあたえるのはあまり良くないと思う。
しんけんに話をきいてもらいたい。気持ちを理解してほしい。長い時間しんけんに話をしたい。話したことを信じてほしい。
助けてほしい。小さなことでよりそってほしい。ほめてほしい。にげ道をつくってほしい。相手からよりそってほしい。わがままでもゆるしてほしい。おこらないでほしい。なにも知らないのに

わかったようにしないでほしい。きらわないでほしい。幸せにしてほしい。冷たくしないでほしい。愚痴を言うくらいゆるしてほしい。あいしてほしい。
障がい者に、もう少し優しくしてほしい。みんなが普通ではないです。1つ1つ考え方が違います。
自身の気持ちや困っている状況について
相談しようと思っても勇気がでない。相談しても「うーん」って言う回答ばかり。「お金をかして」なんて言えない。お母さんが「迷惑だと思う」って言って前も働こうとした。でもこれを書いても多分「だめだ、迷惑だ」っていう気持ちがあります。
お金が足りない→兄と私は、お金の高いじゅくに行けているけど、お金が、減ってしまい、弟のじゅくにかけられるお金が少ない
私はお世話というか、家事を中心にやっています。楽だけれども、時間が必要です。そのため、ストレスもかかります。ストレスから宿題をやりたくなくてやらず、おこられることもあります。今はラインのオープンチャットでぐちを言ってどうにかがんばっていますが、それがなくなるときついです。もう少しえんじょをしてほしいです。宿題がきついです。
お金がないのでお金がほしい。せい服やくつをかうお金がない。お母さんぐあいわるくても病院に行けない。りこんしたお父さん死んでお母さんにお金がなく、でも何の手当てでもでないと言っていた。だからお母さん1人ががんばってはたらいてる。服やくつもお金がいるのに何もしてくれない、みんなお金がいるのにだれも何もくれない。あながあいた服をお母さんきてる、かうお金ない。お金があればお母さん病院に行けるのに、病院のお金くらい安くしてほしい。死んでしまうかもしれないお母さん
1人のときにあまり、なにをなにからしたらいいかわからない。
このことを友だちや先生に話すのは、正直言いにくい。
自分は、あと少しで中学生だから、いつまで弟のお世話をすればいいのか(弟→(小学)3年)。中学生になったら、もしかしたら、勉強などを教えられることが増えるかもしれない。ほとんど毎日、学校に行くのがいやだなと思っている(理由は分からない。)。でも、顔が見えないと、楽しいと思う。あと、ふつうにクラスメイトと話がつづかない。自分の好きな時間→おふろ時間、ねる時間。せまい所が好き。せまい所はおちつくし、泣きたくなる。(なぜか。)
弟や妹がよく回りのものをいたずらしてそれを止めなきゃいけないので、勉強する時間が1時間半ぐらいまで減ってしまっ、夜おそくまでテストの勉強などをじゅくがない日はしてしまう。なので、3時間ぐらい勉強をだれかに教えてほしい。
ゲームの時間が少ないから楽しむことができない
おばあちゃん家に行く時、とても寒くて、大変。ぼけていて、話を聞くのが、つかれる。
その他意見
プライベートをみられたくない。学校からもらったタブレットをかってに見られたくないから、先生から「かってに人のタブレットを見ないでください」といってほしい

こまっている人がいたりしたら、助けれる大人になりたいです。

私の両親に私は私の世話をし、無条件に私を愛してくれてありがとうございますと言いたいです。

おせわいいことだけど、しんどくなったらやめたらいいと思う。なぜなら、もしかしたらストレスにもなりやすいと思うから。

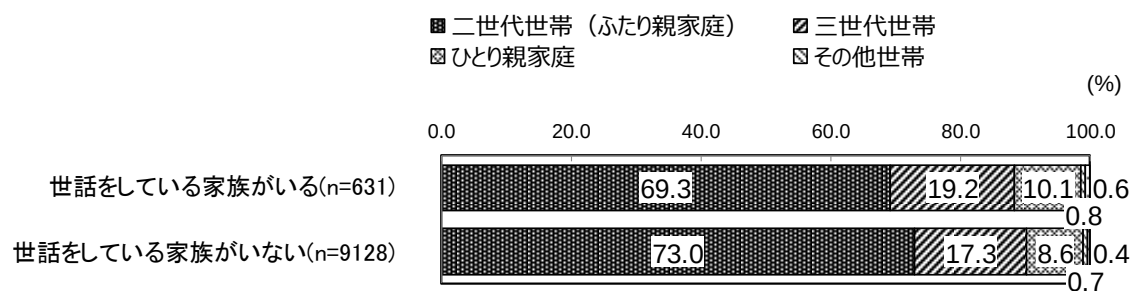
3. 小学生調査の結果(クロス集計)

(1) 家族の世話の有無による学校生活などの状況

① 家族の世話の有無×家族構成

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「三世代世帯」、「ひとり親家庭」の割合が高くなっている。

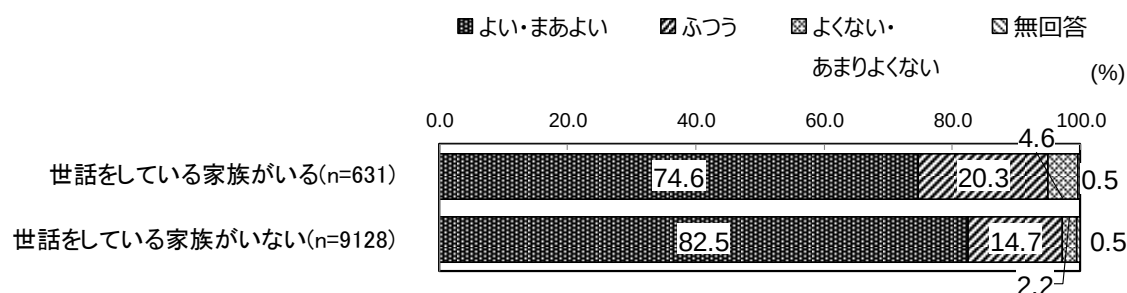
図表 70 家族の世話の有無×家族構成



② 家族の世話の有無×健康状態

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、健康状態が「ふつう」、「よくない・あまりよくない」の割合が高くなっている。

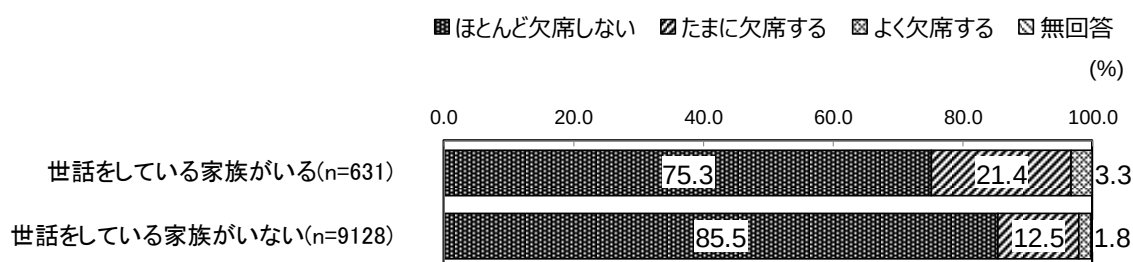
図表 71 家族の世話の有無×健康状態



③ 家族の世話の有無×出席状況

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「たまに欠席する」、「よく欠席する」の割合が高くなっている。

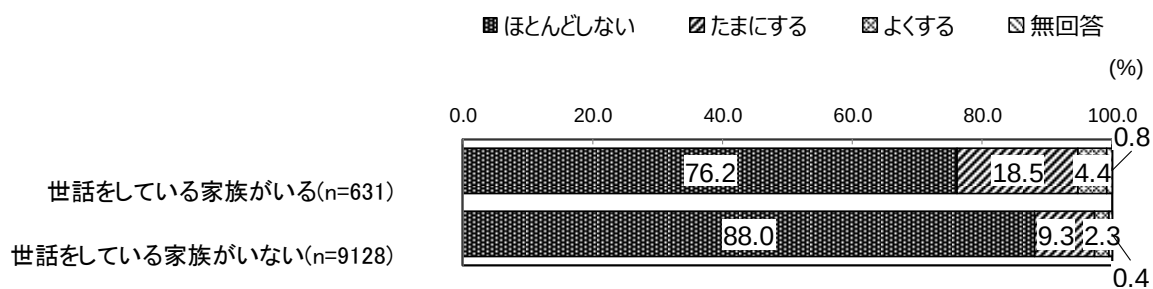
図表 72 家族の世話の有無×出席状況



④ 家族の世話の有無×遅刻や早退の状況

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、遅刻や早退を「たまにする」、「よくする」の割合が高くなっている。

図表 73 家族の世話の有無×遅刻や早退の状況



⑤ 家族の世話の有無×学校生活等であてはまること

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、全体的に回答割合が高い傾向にある。特に「持ち物の忘れ物が多い」、「提出物を出すのが遅れることが多い」、「友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」、「宿題ができていないことが多い」が高くなっている。

図表 74 家族の世話の有無×学校生活等であてはまること(複数回答)

(%)

		調査数 (n)	多い 授業中に寝てしまうことが	多い 宿題ができていないことが	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	欠席する 修学旅行などの宿泊行事を	保健室で過ごすことが多い	一人で過ごすことが多い 学校では	友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
世話をしている家族	いる	631	11.4	15.2	32.3	2.7	24.7	1.6	1.6	9.4	19.3	39.9	1.1
	いない	9128	4.5	7.0	17.7	1.4	13.0	0.4	0.8	4.6	12.7	62.4	2.2

⑥ 家族の世話の有無×現在の悩みごと

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、全体的に回答割合が高い傾向にある。特に「学校の成績のこと」、「友達のこと」、「家族のこと」、「生活や勉強に必要なお金のこと」が高くなっている。

図表 75 家族の世話の有無×現在の悩みごと(複数回答)

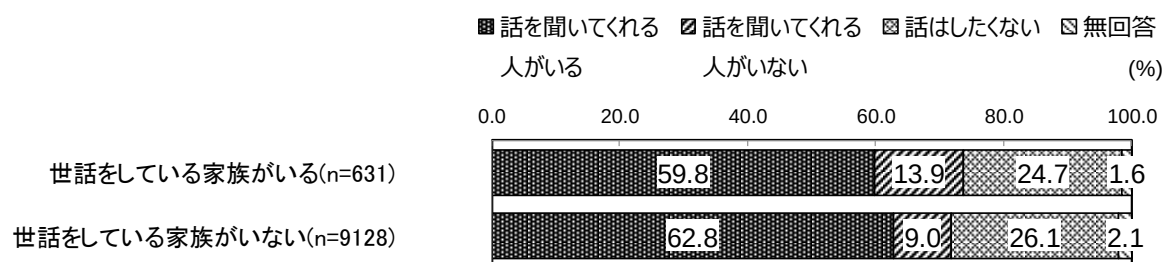
(%)

		調査数 (n)	友達のこと	学校の成績のこと	習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	自分のために使え と時間がないこと	その他	特にない	無回答
世話をしている家族	いる	631	17.7	23.6	9.4	15.4	12.2	10.5	5.5	48.3	1.6
	いない	9128	11.7	11.1	5.0	5.0	3.2	3.6	4.4	70.3	2.2

⑦ 家族の世話の有無×相談相手の有無

世話をしている家族がいる場合、いない場合と比べて「話を聞いてくれる人がいない」と回答する割合がやや高い傾向にあるが、「話はしたくない」との回答はやや低い傾向にある。

図表 76 家族の世話の有無×相談相手の有無



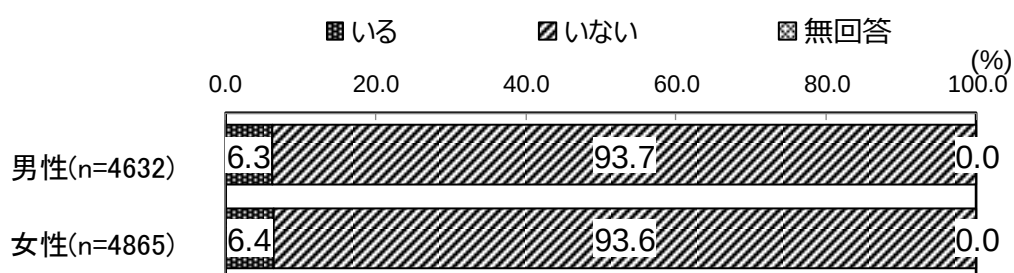
(2) 性別による世話の状況の違い

※性別について「その他」、「答えたくない」という回答はサンプル数が少ないためクロス集計では対象外とする。

① 性別 × 家族の世話の有無

世話をしている家族の有無については、性別による大きな差はみられない。

図表 77 性別 × 家族の世話の有無



② 性別 × 世話を必要としている家族

世話をしている人が男性の場合、女性と比べて「母」、「父」の割合が高くなっている。逆に世話をしている人が女性の場合は「きょうだい」の割合が高くなっている。

図表 78 性別 × 世話を必要としている家族(複数回答)

	調査数 (n)	母	父	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
男性	290	25.2	18.6	11.0	5.9	68.6	1.4	5.9
女性	311	14.5	8.7	8.7	5.1	76.2	2.3	5.1

③ 性別×世話の内容

世話の内容については、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「お金の管理」、「薬の管理」は男性の方がやや高いが、それ以外の項目については女性の方が回答割合が高くなっている。

図表 79 性別×世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数 (n)	家事 (食事の準備 や掃除、洗濯)	きょうだい の世話を 送迎する	入浴や トイレのお 世話	買い物や 散歩に一緒 に行く	病院へ一緒 に行く	話を聞く	見守り	通訳(日本語 や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
男性	290	37.2	25.9	16.2	16.9	3.8	22.4	38.3	1.4	2.4	3.8	3.8	16.2
女性	311	35.0	31.5	20.9	18.3	4.2	28.6	42.8	4.5	2.3	2.6	6.8	10.0

④ 性別×世話を一緒にしている人

世話をしている人が女性の場合、一緒に世話をしている人がいる割合が総じて高くなっている。逆に世話をしている人が男性の場合は「自分のみ」の割合がやや高くなっている。

図表 80 性別×世話を一緒にしている人(複数回答)

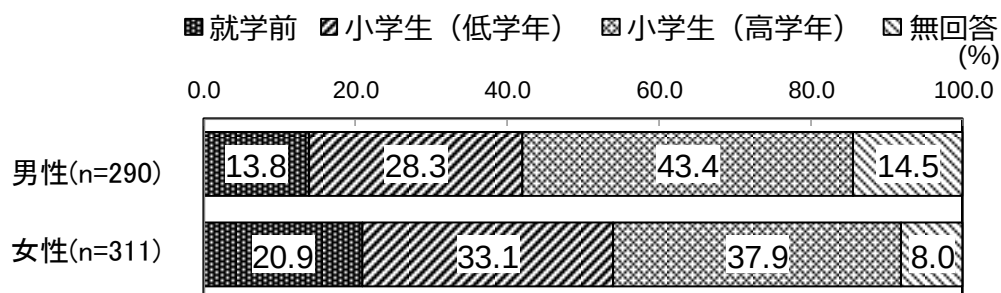
(%)

	調査数 (n)	母	父	祖母	祖父	きょうだい	親戚	自分のみ	福祉サービス(ヘルパーなど)を利用	その他	無回答
男性	290	57.6	45.5	9.3	4.8	33.8	2.8	11.0	1.7	0.0	14.8
女性	311	72.0	49.5	13.2	5.8	38.3	3.5	9.6	3.2	0.6	7.7

⑤ 性別 × 世話を始めた年齢

世話を始めた年齢については、「小学生（高学年）」の割合が男女ともに4割前後と最も高くなっている。

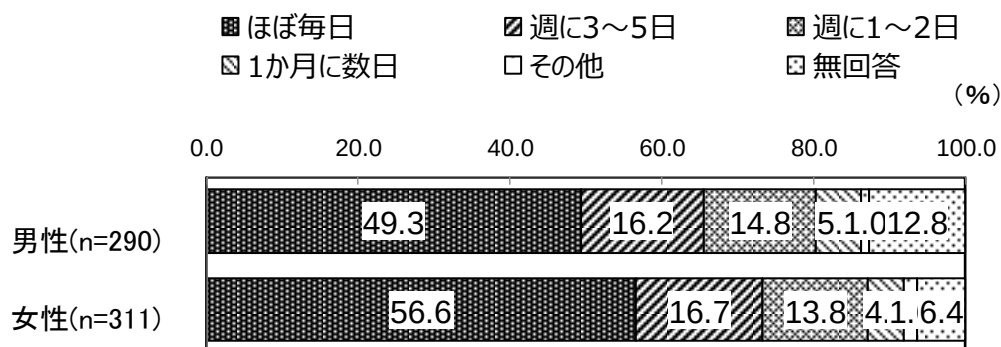
図表 81 性別 × 世話を始めた年齢



⑥ 性別 × 世話の頻度

世話の頻度については、女性は男性に比べて、「ほぼ毎日」、「週に3～5日」の割合が高くなっている。

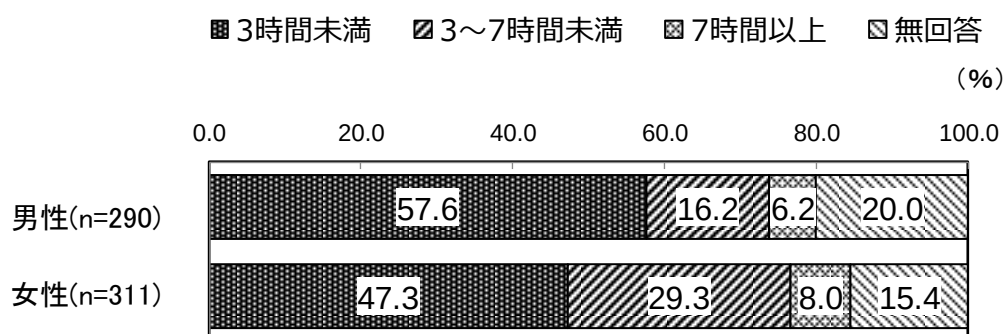
図表 82 性別 × 世話の頻度



⑦ 性別×世話に費やす時間

世話に費やす時間について、女性は男性に比べ「3～7時間未満」、「7時間以上」の割合が高くなっている。

図表 83 性別×世話に費やす時間



⑧ 性別×世話による制約

世話による制約については、全体的に女性の方が男性に比べて回答割合が高くなっている。

図表 84 性別×世話による制約(複数回答)

	調査数 (n)	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしてしまう	宿題など勉強する時間がない	眠る時間がたりない	友だちと遊ぶことができない	習い事ができない	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
男性	290	1.4	2.1	4.5	4.8	9.0	0.3	11.4	0.3	65.5	12.1
女性	311	4.2	3.9	10.6	8.4	10.9	1.6	18.3	1.3	64.0	4.8

⑨ 性別 × 世話の大変さ

世話をすることを感じている大変さについては、女性の方が男性に比べて大変さを感じる割合が高くなっている。

図表 85 性別 × 世話の大変さ(複数回答)

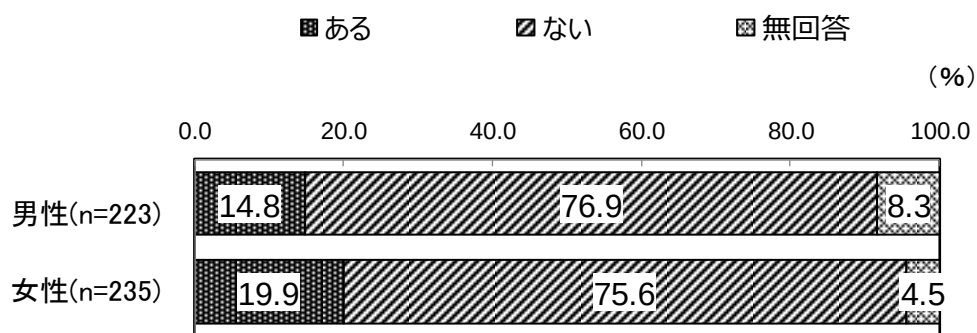
(%)

	調査数 (n)	体力の面で大変	気持ちの面で大変	時間の余裕がない	特に大変さは感じていない	無回答
男性	290	11.4	14.8	12.4	56.9	12.1
女性	311	16.7	21.5	16.4	58.8	4.8

⑩ 性別 × 世話について相談した経験

世話について相談した経験の有無では、女性は男性に比べ「ある」の割合が高くなっている。

図表 86 性別 × 世話について相談した経験



⑪ 性別×世話についての相談相手

世話についての相談相手では、男性、女性ともに、「家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)」が最も高くなっているが、女性は男性に比べ「親戚」、「友人」、「保健室の先生」の割合が高くなっている。

図表 87 性別×世話についての相談相手(複数回答)

(%)

	調査数 (n)	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	親戚(おじ、おばなど)	友だち	学校の先生(保健室の先生以外)	保健室の先生	スクールソーシャルワーカー	病院・医療・福祉サービスの人	近所の人	SNS上の知り合い	その他	無回答
男性	43	86.0	4.7	32.6	14.0	0.0	2.3	2.3	0.0	2.3	2.3	0.0
女性	62	77.4	14.5	45.2	12.9	9.7	3.2	1.6	3.2	4.8	1.6	0.0

⑫ 性別×世話について相談したことがない理由

世話について相談したことがない理由については、男性は「相談するほどの悩みではないから」が女性と比べて高く、ほかの項目については女性の方が回答割合が高くなっている。

図表 88 性別×世話について相談したことがない理由(複数回答)

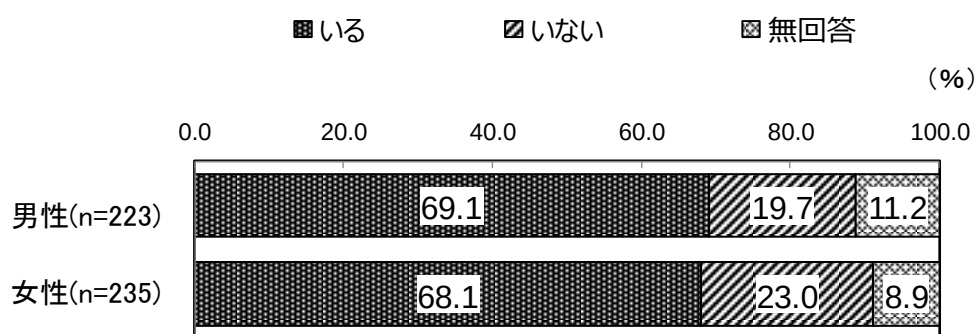
(%)

	調査数 (n)	相談するほどの悩みではないから	誰に相談するのかわからないから	相談できる人がいないから	家族のことを話したくないから	相談しても何も変わらないから	その他	無回答
男性	223	75.8	1.3	1.8	2.2	9.4	2.7	10.8
女性	235	70.6	6.0	6.8	8.9	14.9	4.7	11.9

⑬ 性別×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について話を聞いてくれる人の有無については、男女で大きな差はなかった。

図表 89 性別×世話について話を聞いてくれる人の有無



⑭ 性別×学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについては、全体的に女性は男性に比べ回答割合が高い傾向にある。特に「自分のことについて話を聞いてほしい」、「自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい」、「自由に使える時間がほしい」、「勉強を教えてほしい」の割合が高くなっている。

図表 90 性別×学校や大人にしてもらいたいこと(複数回答)

	調査数 (n)	自分のことについて話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい	自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい	お金の面で支援してほしい	その他	特にない	わからない	無回答
男性	290	5.5	2.8	1.7	1.7	3.4	13.8	10.3	5.9	1.0	55.5	6.2	9.3
女性	311	16.7	5.8	1.9	4.2	9.0	16.4	16.1	4.5	1.3	48.2	6.4	6.1

⑮ 性別 × 希望する相談方法

前問で「自分のことについて話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人に希望する相談方法を聞いたところ、男女ともに「直接会って」が最も高いが、女性は男性に比べて「電話」、「SNS」、「電子メール」も高くなっている。

図表 91 性別 × 希望する相談方法（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	直接会って	電話	S N S	電子メール	その他	無回答
男性	21	61.9	14.3	4.8	9.5	0.0	14.3
女性	58	50.0	24.1	19.0	15.5	12.1	3.4

(3) 家族構成による世話の状況の違い

※「その他の世帯」についてはn数が少ないためクロス集計の対象外としている。

① 家族構成×世話を必要としている家族

いずれの家族構成も「きょうだい」が最も高いが、二世世代世帯（ふたり親家庭）、三世世代世帯では、ひとり親家庭と比べて「母」、「父」の割合が高く、ひとり親家庭では、「祖母」の割合がほかの家族構成と比べて高くなっている。

図表 92 家族構成×世話を必要としている家族（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	母	父	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
二世世代世帯（ふたり親家庭）	437	20.1	14.0	9.4	5.9	73.9	1.4	5.0
三世世代世帯	121	22.3	13.2	9.9	5.0	61.2	3.3	7.4
ひとり親家庭	64	12.5	7.8	15.6	3.1	71.9	1.6	7.8

② 家族構成×世話の内容

世話の内容について、ひとり親家庭では「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合がやや高くなっており、三世世代世帯では「薬の管理」の割合がやや高くなっている。

図表 93 家族構成×世話の内容（複数回答）

(%)

	調査数 (n)	や家事 掃除（食 事の準備 洗濯）	きょう だいの 世話を するお 世	入浴 やトイレ のお	一緒に 歩くや 散歩に 行く	病院へ 一緒に 行く	話を 聞く	見守り	通話（日 本語や手 話など）	お金の 管理	薬の 管理	その他	無回答
二世世代世帯（ふたり親家庭）	437	36.2	31.4	19.9	17.6	3.7	27.0	41.2	3.4	2.1	2.5	6.2	11.7
三世世代世帯	121	29.8	21.5	14.9	18.2	5.0	25.6	37.2	3.3	1.7	6.6	5.8	16.5
ひとり親家庭	64	39.1	25.0	21.9	23.4	4.7	25.0	43.8	1.6	6.3	3.1	1.6	10.9

③ 家族構成×世話を一緒にする人

いずれの家族構成も回答の傾向は似ているが、二世帯世帯（ふたり親家庭）の場合は「父」の回答割合が、三世帯世帯の場合は「福祉サービス（ヘルパーなど）を利用」の割合がほかと比べて高くなっている。

図表 94 家族構成×世話を一緒にする人（複数回答）

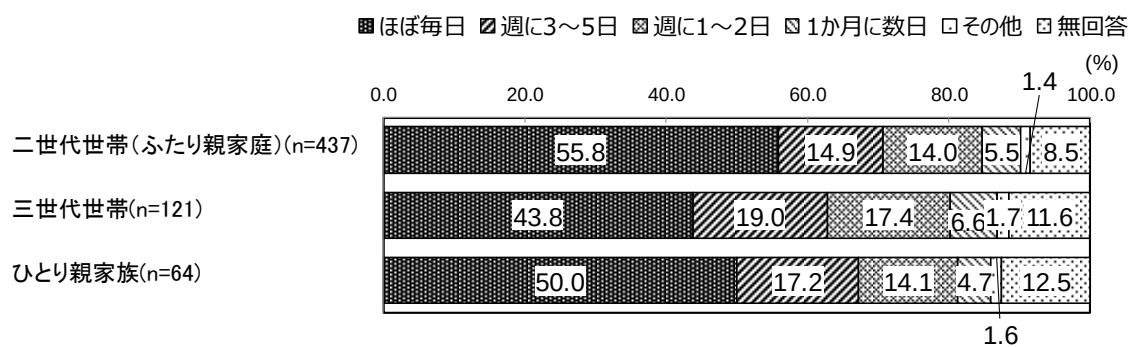
(%)

	調査数 (n)	母	父	祖母	祖父	きょうだい	親戚	自分のみ	福祉サービス（ヘルパーなど）を利用	その他	無回答
二世帯世帯（ふたり親家庭）	437	65.7	50.8	11.4	5.9	36.4	3.0	10.1	1.8	0.7	10.1
三世帯世帯	121	60.3	38.8	13.2	3.3	37.2	2.5	12.4	5.0	0.0	11.6
ひとり親家庭	64	64.1	37.5	7.8	3.1	32.8	4.7	9.4	1.6	0.0	15.6

④ 家族構成×世話の頻度

世話の頻度については、二世帯世帯（ふたり親家庭）で「ほぼ毎日」という回答がほかと比べて高くなっている。

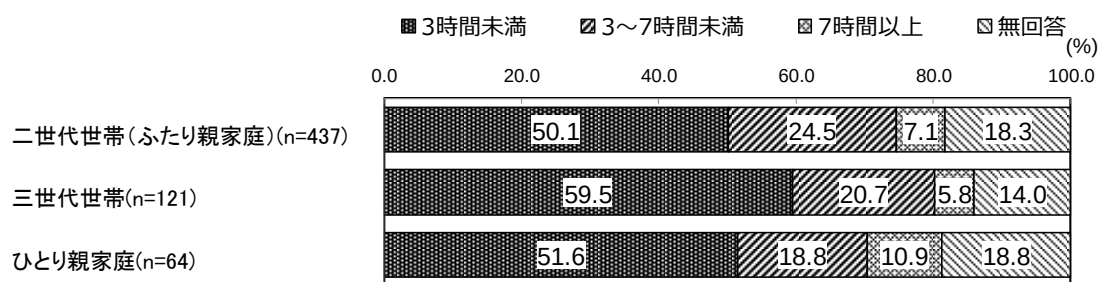
図表 95 家族構成×世話の頻度



⑤ 家族構成×世話に費やす時間

世話に費やす時間については、三世代世帯では「3時間未満」の割合がほかに比べ高くなっている。

図表 96 家族構成×世話に費やす時間



⑥ 家族構成×世話による制約

世話による制約について、ひとり親家庭では、「学校を休んでしまう」の割合がほかと比べてやや高くなっている。二世代世帯(ふたり親家庭)や三世代世帯は、ひとり親家庭と比べて「友だちと遊ぶことができない」、「自分の時間が取れない」がやや高くなっている。

図表 97 家族構成×世話による制約(複数回答)

	調査数 (n)	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしてしま	宿題など勉強する時間 がない	眠る時間がたりない	友だちと遊ぶことがで きない	習い事ができない	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回 答	(%)
二世世代世帯(ふたり親家庭)	437	2.7	3.2	8.0	6.4	10.3	0.9	15.8	1.1	63.6		8.2
三世世代世帯	121	2.5	4.1	7.4	9.1	12.4	1.7	15.7	0.8	62.8		8.3
ひとり親家庭	64	4.7	1.6	7.8	4.7	6.3	0.0	10.9	1.6	65.6		10.9

⑦ 家族構成×世話の大変さ

世話をすることで感じている大変さについては、三世代世帯で「気持ちの面で大変」という回答がやや高くなっている。一方、「特に大変さは感じない」という回答はひとり親家庭がほかと比べてやや高くなっている。

図表 98 家族構成×世話の大変さ(複数回答)

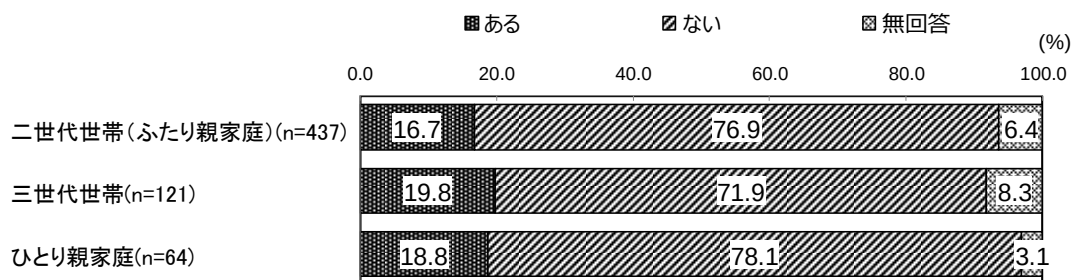
(%)

	調査数 (n)	体力の 面で 大変	気持ち の面 で 大変	時間 の 余 裕 が な い	特に 大 変 さ は 感 じ ない	無 回 答
二世代世帯(ふたり親家庭)	437	15.3	16.7	16.9	55.8	8.5
三世代世帯	121	11.6	24.8	7.4	57.9	9.9
ひとり親家庭	64	10.9	20.3	14.1	64.1	6.3

⑧ 家族構成×世話について相談した経験

世話についての相談経験の有無は、三世代世帯にて「ある」という回答がやや高いものの、家族構成による大きな違いは見られない。

図表 99 家族構成×世話について相談した経験



⑨ 家族構成×世話についての相談相手

世話についての相談相手については、n数自体が少ないもののひとり親家庭で「友だち」、「保健室の先生」がほかと比べて高くなっている。

図表 100 家族構成×世話についての相談相手(複数回答)

(%)

	調査数 (n)	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	親戚(おじ、おばなど)	友だち	学校の先生(保健室の先生以外)	保健室の先生	スクールソーシャルワーカー	人病院・医療・福祉サービスの	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
二世世代世帯(ふたり親家庭)	73	82.2	11.0	37.0	13.7	4.1	4.1	2.7	1.4	4.1	2.7	0.0
三世世代世帯	24	66.7	8.3	41.7	16.7	4.2	4.2	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0
ひとり親家庭	12	83.3	8.3	58.3	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0

⑩ 家族構成×世話について相談したことがない理由

世話について相談経験がないと回答した人にその理由を聞いたところ、ひとり親世帯では「相談するほどの悩みではないから」がほかと比べてやや高くなっている。

図表 101 家族構成×世話について相談したことがない理由(複数回答)

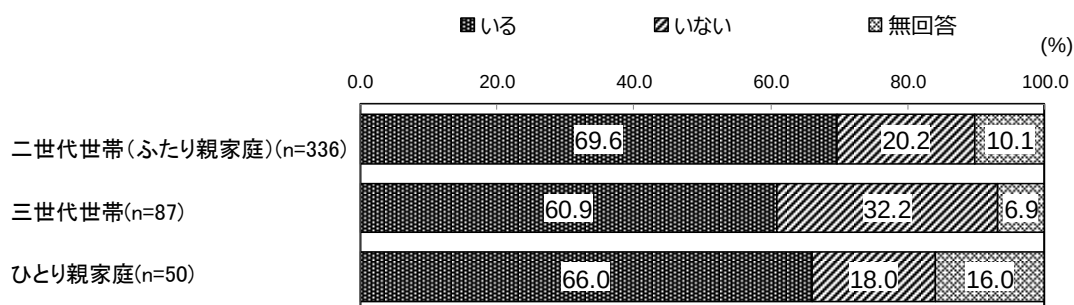
(%)

	調査数 (n)	相談するほどの悩みではないから	誰かに相談するのからよ	相談できる人がいないから	家族の話を話したくないから	相談しても何も変わらないから	その他	無回答
二世世代世帯(ふたり親家庭)	336	70.8	4.8	4.8	5.7	14.6	3.6	11.3
三世世代世帯	87	72.4	3.4	6.9	6.9	9.2	6.9	11.5
ひとり親家庭	50	82.0	2.0	0.0	2.0	12.0	2.0	8.0

⑪ 家族構成×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について相談経験のない人に、世話について話を聞いてくれる人の有無を聞いたところ、三世代世帯では「いない」と回答する割合がほかと比べて高くなっている。

図表 102 家族構成×世話について話を聞いてくれる人の有無



⑫ 家族構成×学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについて二世代世帯(ふたり親家庭)、三世代世帯において「家族のお世話について相談にのってほしい」、「勉強を教えてほしい」がひとり親世帯と比べて高くなっている。

図表 103 家族構成×学校や大人にしてもらいたいこと(複数回答)

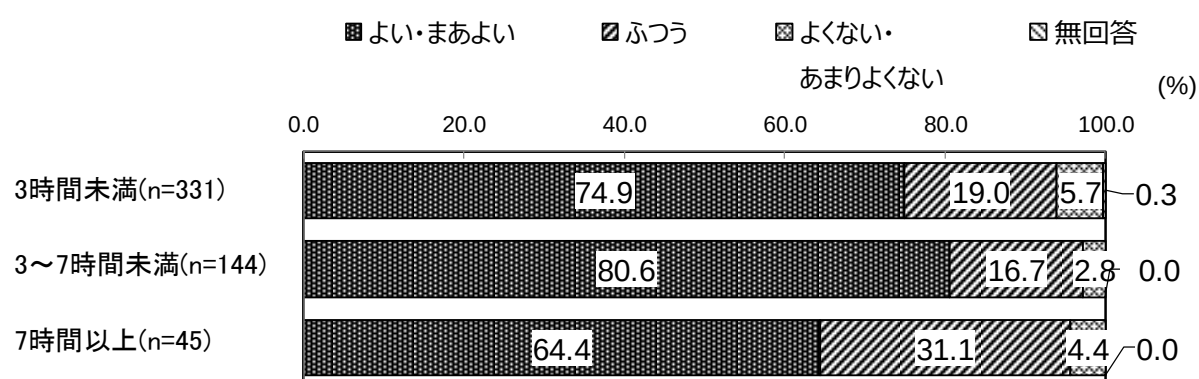
(%)													
	調査数（n）	自分のことについて話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話をすべてを誰かに代わってほしい	自分が行っているお世話を誰かに代わってほしい	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい	お金の面で支援してほしい	その他	特にな	わからない	無回答
二世世代世帯（ふたり親家庭）	437	11.7	4.8	1.8	3.4	6.2	14.4	15.1	4.6	0.7	51.7	5.3	8.0
三世世代世帯	121	14.0	5.8	2.5	2.5	8.3	18.2	10.7	8.3	3.3	47.1	9.1	8.3
ひとり親家庭	64	10.9	1.6	1.6	0.0	6.3	17.2	4.7	6.3	1.6	54.7	12.5	4.7

(4) 平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況等

① 平日1日あたりの世話に費やす時間×健康状態

世話に費やす時間が1日7時間以上の場合、ほかと比べ健康状態が「ふつう」の割合が高くなっている。

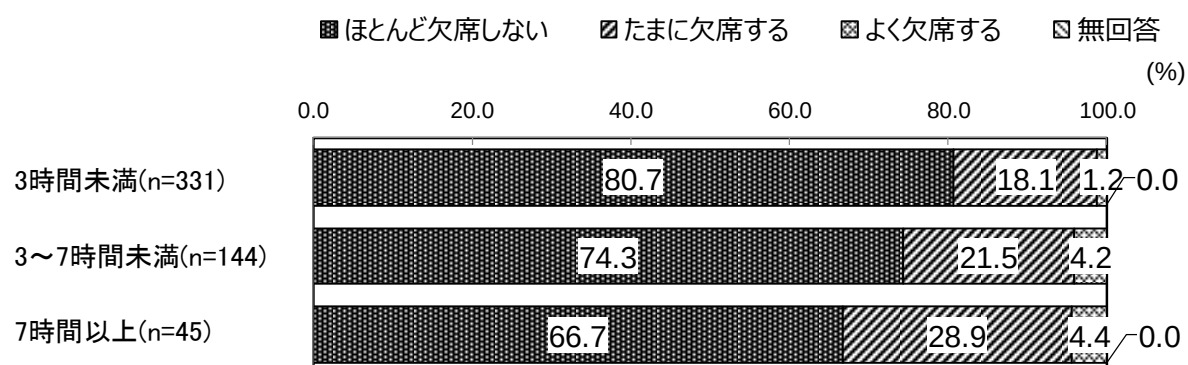
図表 104 平日1日あたりの世話に費やす時間×健康状態



② 平日1日あたりの世話に費やす時間×欠席の状況

世話に費やす時間が長くなるにつれて、「たまに欠席する」、「よく欠席する」の割合が高くなっている。

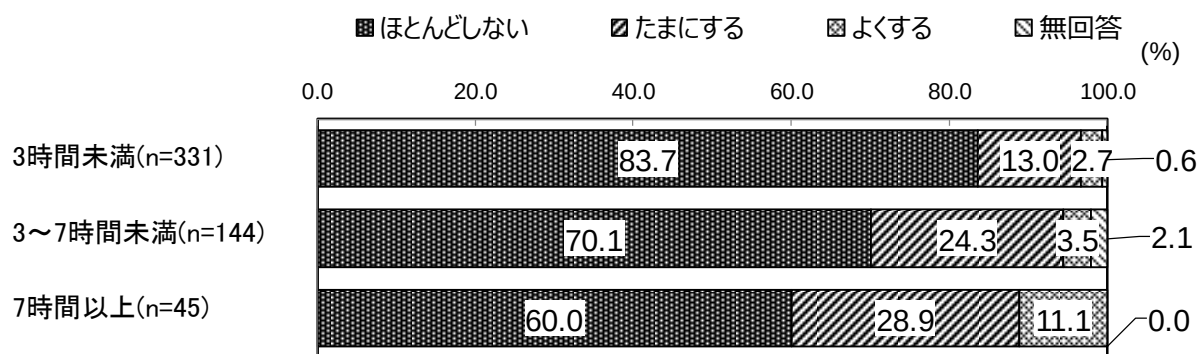
図表 105 平日1日あたりの世話に費やす時間×欠席の状況



③ 平日1日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況

世話に費やす時間が長くなるにつれて、遅刻や早退を「たまにする」、「よくする」の割合が高くなっている。

図表 106 平日1日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況



④ 平日1日あたりの世話に費やす時間×学校生活等ではまること

学校生活等ではまることについて、世話に費やす時間が1日7時間以上の場合、全体として回答割合が高い傾向にある。特に「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」、「保健室で過ごすことが多い」、「学校では一人で過ごすことが多い」、「友達と遊んだりおしゃべりしたりする時間が少ない」、「学校では一人で過ごすことが多い」、「友だちと遊んだりおしゃべりしたりする時間が少ない」の割合が高くなっている。

図表 107 平日1日あたりの世話に費やす時間×学校生活等ではまること(複数回答)

	調査数 (n)	授業中に寝てしまうことが多い	宿題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友達と遊んだりおしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
3時間未満	331	11.5	12.4	32.6	2.7	24.5	0.6	1.2	8.2	19.3	41.7	0.9
3～7時間未満	144	8.3	16.7	33.3	3.5	22.9	0.7	0.7	8.3	16.7	42.4	0.7
7時間以上	45	22.2	20.0	33.3	2.2	28.9	6.7	4.4	17.8	26.7	24.4	0.0

⑤ 平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みごと

世話に費やす時間が1日7時間以上の場合、7時間未満に比べて「学校の成績のこと」、「生活や勉強に必要なお金のこと」、「自分のために使える時間が少ない」の割合が高くなっている。世話に費やす時間が3～7時間未満の場合、「友達のこと」、「家族のこと」の割合が高くなっている。

図表 108 平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みごと(複数回答)

(%)

	調査数 (nⅡ)	友達のこと	学校の成績のこと	習い事のこと	家族のこと	金のこと 生活や勉強に必要なお	間 自分のために使える時	その他	特 にない	無 回答
3時間未満	331	14.5	21.8	8.5	12.1	10.0	8.8	5.4	52.9	1.2
3～7時間未満	144	25.7	20.1	10.4	20.1	14.6	9.7	4.2	47.2	1.4
7時間以上	45	22.2	31.1	17.8	17.8	22.2	20.0	11.1	35.6	2.2

⑥ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話をすると感じるきつさ

世話に費やす時間が長くなるほど、「体力の面で大変」、「気持ちの面で大変」、「時間の余裕がない」いずれも割合が高くなっている。

図表 109 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話をすると感じるきつさ

(複数回答)

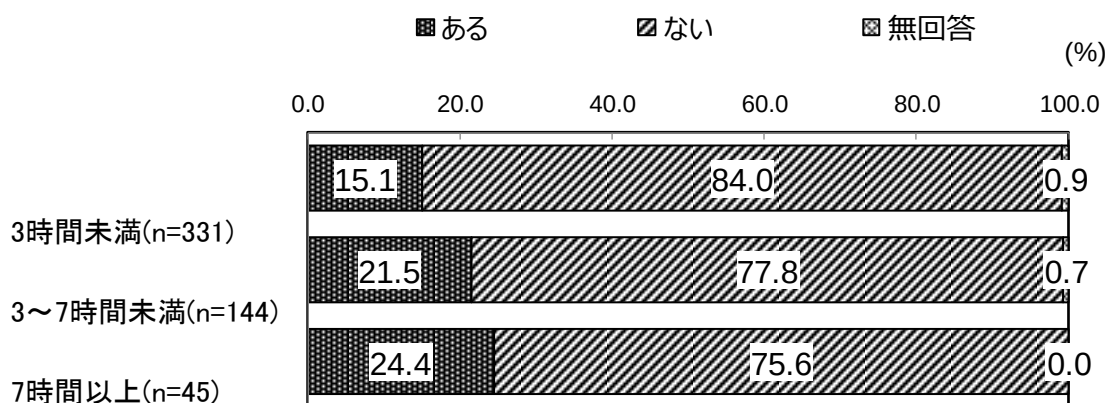
(%)

	調査数 (nⅡ)	体力の面で 大変	気持ちの面で 大変	時間の余裕が ない	い 特に大変さは感じてい ない	無 回答
3時間未満	331	11.2	15.7	11.2	67.4	1.5
3～7時間未満	144	17.4	22.2	20.8	58.3	0.7
7時間以上	45	37.8	40.0	31.1	35.6	2.2

⑦ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談の経験

世話に費やす時間が長くなるほど、相談経験が「ある」と回答する割合が高くなっている。

図表 110 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談の経験



⑧ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談相手

世話に関する相談相手は、n数が少ないことに留意が必要ではあるものの、世話に費やす時間が3～7時間未満、7時間以上の場合、「友だち」の割合が3時間未満と比べて高くなっている。

図表 111 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談相手(複数回答)

	調査数 (n)	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	親戚(おじ、おばなど)	友だち	学校の先生(保健室の先生以外)	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	人病・医療・福祉サービスの病院・施設	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
3時間未満	50	78.0	6.0	30.0	10.0	2.0	4.0	2.0	0.0	4.0	4.0	0.0
3～7時間未満	31	71.0	19.4	51.6	16.1	9.7	0.0	0.0	3.2	3.2	0.0	0.0
7時間以上	11	90.9	9.1	63.6	9.1	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0

⑨ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談したことがない理由

世話に関する相談をしたことがない理由について、世話に費やす時間が1日7時間以上の場合、「相談しても何も変わらないから」、「家族のこのため話したくないから」、「誰に相談するのがよいかわからないから」の割合が高くなっている。

図表 112 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談したことがない理由
(複数回答)

(%)

	調査数 (n)	相談するほどの 悩みに ないから	誰に相談するの がよい かわからないから	相談できる人 がいないから	家族のこ とを話した くないから	相談しても何 も変わらない から	その他	無 回 答
3時間未満	278	77.3	2.2	2.5	2.5	9.0	3.6	9.7
3～7時間未満	112	68.8	5.4	7.1	8.0	19.6	3.6	11.6
7時間以上	34	64.7	8.8	5.9	14.7	26.5	5.9	8.8

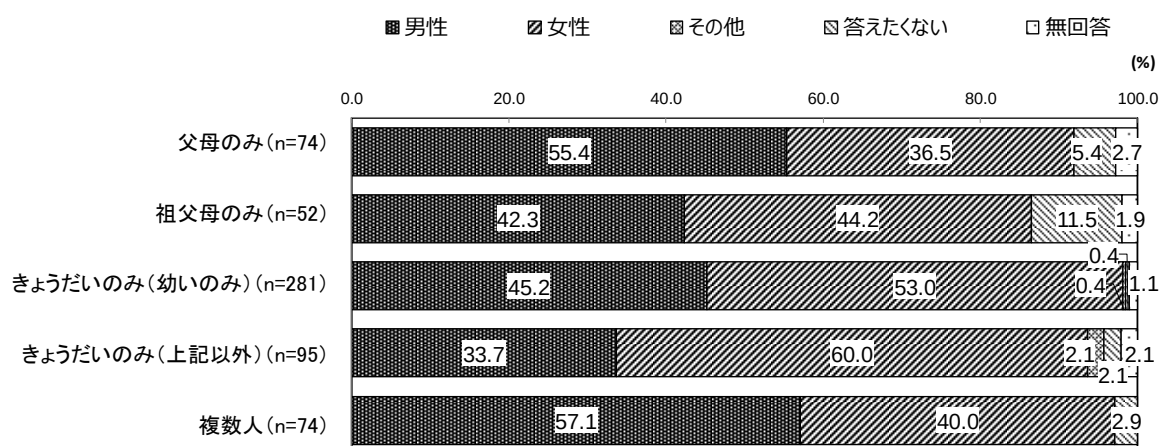
(5) 世話を必要としている家族による世話の状況等

本クロス集計においては、世話を必要としている人ごとの特性を明らかにするため、「父母のみ」を世話する人、「祖父母のみ」を世話する人、「きょうだいのみ」を世話する人、そして以上3つの分類に「その他」を加えた4つの分類のうち複数の分類に属する人を世話する人(=「複数人」)に対象を分類している。さらに、「きょうだいのみ」を世話する人については、世話を必要とする人の状態像が「幼い」のみの場合と、「それ以外」(「幼い」以外の病気や障がい等の項目に回答があるもの。複数回答のため「幼い」も選択している場合を含む)の場合に分けて分析している。なお、「その他のみ」をお世話する人についてはn数が少ないためクロス集計の対象外としている。

① 世話を必要としている家族×(回答者の)性別

世話を必要としている家族が父母のみの場合、「男性」の割合が高く、世話を必要としている家族がきょうだいの場合、「女性」の割合が高くなっている。

図表 113 世話を必要としている家族×(回答者の)性別



② 世話を必要としている家族×世話の内容

世話を必要としている人が父母のみの場合、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が最も多く、祖父母のみの場合は「話を聞く」、「見守り」が多くなっている。また、きょうだいについては「見守り」「きょうだいのお世話や送り迎え」が多くなっている。

図表 114 世話を必要としている家族×世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数 (n)	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいのお世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩に一緒に行く	病院へ一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
父母のみ	74	50.0	6.8	8.1	18.9	13.5	17.6	8.1	6.8	8.1	6.8	2.7	18.9
祖父母のみ	52	36.5	0.0	5.8	30.8	3.8	48.1	44.2	1.9	1.9	13.5	3.8	9.6
きょうだいのみ(幼いのみ)	281	27.0	42.0	26.7	12.8	0.4	20.6	53.0	0.4	0.0	0.0	5.3	7.8
きょうだいのみ(上記以外)	95	30.5	36.8	23.2	17.9	3.2	32.6	49.5	3.2	4.2	2.1	10.5	6.3
複数人	70	60.0	22.9	10.0	28.6	10.0	31.4	20.0	11.4	4.3	7.1	2.9	17.1

③ 世話を必要としている家族×一緒に世話をする人

世話を必要としている家族が父母のみの場合、「自分のみ」の割合がほかに比べ高くなっている。一方、世話を必要としている家族が祖父母のみの場合、「福祉サービス(ヘルパーなど)を利用」、「親戚の人」の割合がほかに比べ高くなっている。

図表 115 世話を必要としている家族×一緒に世話をする人(複数回答)

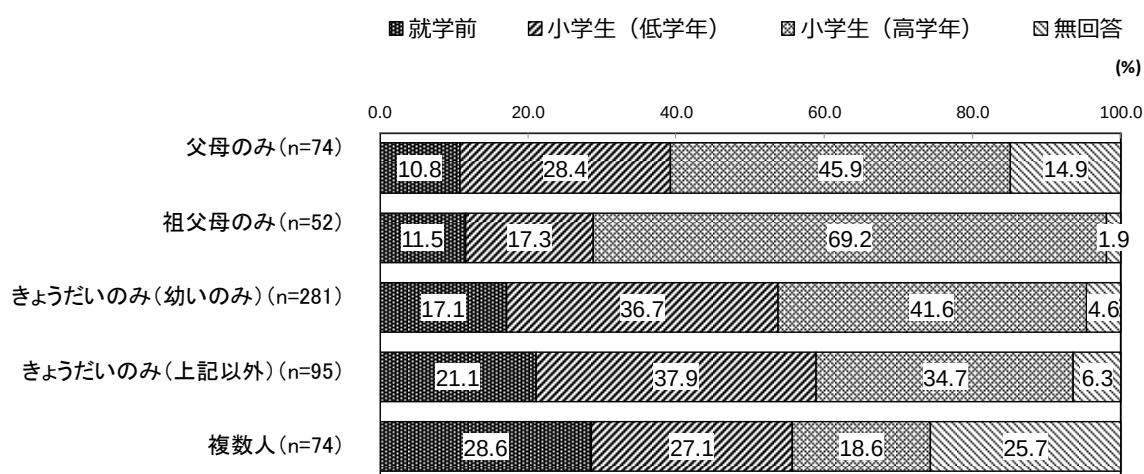
(%)

	調査数 (n)	母	父	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス(ヘルパーなど)を利用	その他	無回答
父母のみ	74	29.7	27.0	4.1	1.4	35.1	2.7	16.2	1.4	1.4	21.6
祖父母のみ	52	69.2	34.6	21.2	7.7	32.7	15.4	9.6	19.2	0.0	3.8
きょうだいのみ(幼いのみ)	281	78.3	64.8	10.3	6.0	45.9	1.8	7.5	0.0	0.0	4.6
きょうだいのみ(上記以外)	95	74.7	46.3	18.9	7.4	30.5	2.1	11.6	3.2	0.0	4.2
複数人	70	47.1	34.3	10.0	4.3	25.7	1.4	11.4	0.0	0.0	21.4

④ 世話を必要としている家族×世話を始めた年齢

世話を必要としている家族が祖父母のみの場合、ほかに比べ、「小学生（高学年）」の割合が高くなっている。一方、世話を必要としている家族が「きょうだいのみ（上記以外）」や「複数人」の場合、就学前から世話をしている人の割合がほかと比べ高くなっている。

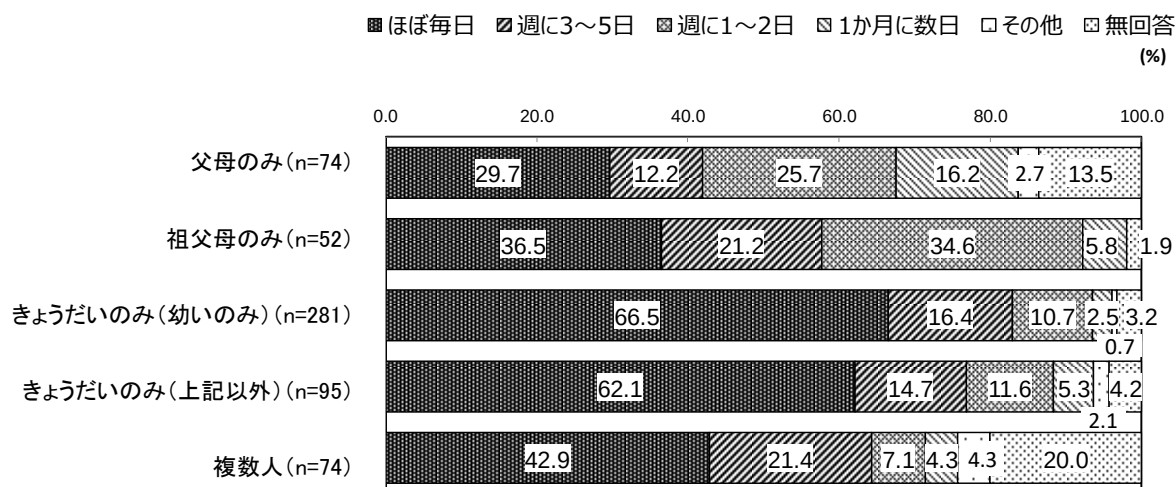
図表 116 世話を必要としている家族×世話を始めた年齢



⑤ 世話を必要としている家族×世話の頻度

世話を必要としている家族がきょうだいの場合、「ほぼ毎日」の割合がほかと比べ高くなっている。

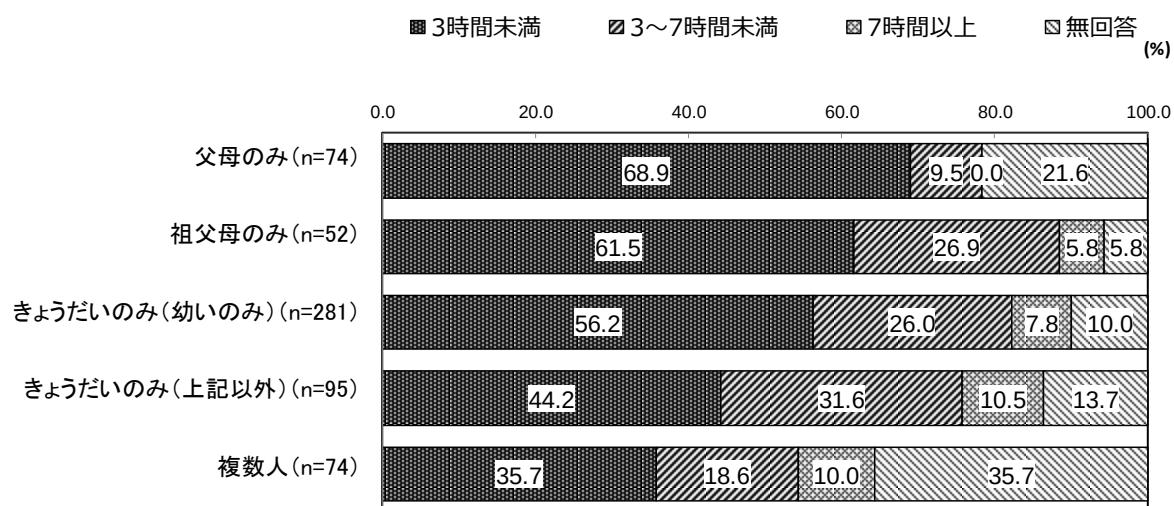
図表 117 世話を必要としている家族×世話の頻度



⑥ 世話を必要としている家族×世話に費やす時間

世話に費やす時間については、世話を必要としている家族がきょうだいのみの場合、ほかと比べて「3～7時間未満」、「7時間以上」の割合が高くなっている。

図表 118 世話を必要としている家族×世話に費やす時間



⑦ 世話を必要としている家族×世話による制約

世話を必要としている家族が複数人の場合、全体的に回答割合が高い傾向にある。また、世話を必要としている人がきょうだいのみ(上記以外)の場合、「自分の時間が取れない」の回答割合がほかと比べて高くなっている。

図表 119 世話を必要としている家族×世話による制約(複数回答)

(%)

	調査数（n）	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしてしまう	宿題など勉強する時間がない	眠る時間がたりない	友だちと遊ぶことができない	習い事ができない	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
父母のみ	74	4.1	5.4	8.1	8.1	8.1	2.7	12.2	0.0	64.9	13.5
祖父母のみ	52	0.0	1.9	13.5	7.7	11.5	0.0	17.3	0.0	69.2	1.9
きょうだいのみ（幼いのみ）	281	1.4	1.1	4.6	5.0	8.9	0.4	13.2	0.4	72.2	4.3
きょうだいのみ（上記以外）	95	5.3	4.2	10.5	9.5	13.7	1.1	23.2	6.3	53.7	3.2
複数人	70	4.3	7.1	12.9	10.0	17.1	1.4	14.3	0.0	45.7	20.0

⑧ 世話を必要としている家族×世話の大変さ

世話を必要としている家族が父母のみの場合、「体力の面で大変」の割合が高く、世話を必要としている家族が祖父母のみの場合は「気持ちの面で大変」の割合が高くなっている。きょうだい（幼いのみ）ときょうだい（上記以外）を比較すると、後者の方が大変さを感じている人の割合が多くなっている。

図表 120 世話を必要としている家族×世話の大変さ(複数回答)

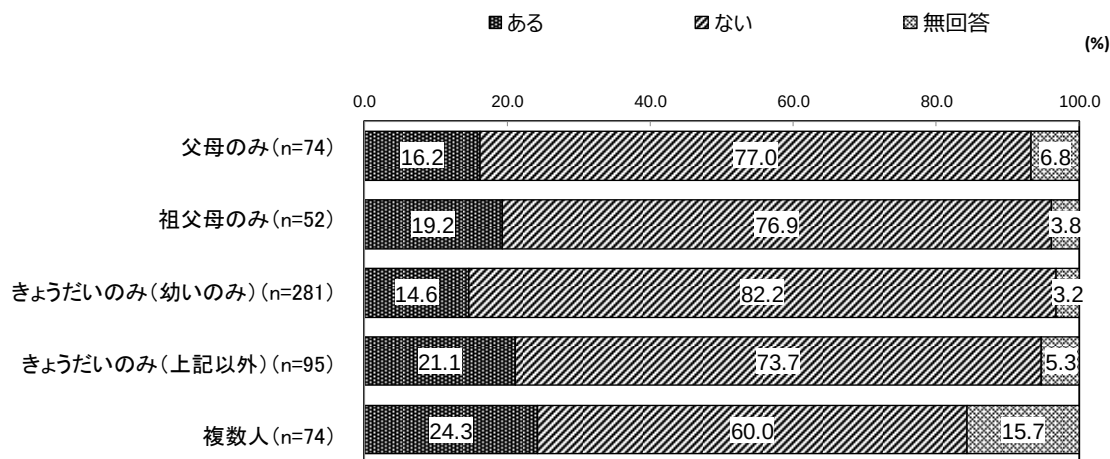
(%)

	調査数 (nⅡ)	体力の 面で 大変	気持ち の面 で 大変	時間 の 余 裕 が な い	特に 大 変 さ は 感 じ て い な い	無 回 答
父母のみ	74	18.9	17.6	17.6	45.9	12.2
祖父母のみ	52	1.9	32.7	15.4	53.8	5.8
きょうだいのみ(幼いのみ)	281	14.2	15.7	13.2	64.8	3.9
きょうだいのみ(上記以外)	95	16.8	22.1	21.1	57.9	4.2
複数人	70	11.4	17.1	15.7	50.0	18.6

⑨ 世話を必要としている家族×世話について相談した経験

世話を必要としている家族が複数人、次いできょうだいのみ(上記以外)で、世話について相談した経験が「ある」の割合がやや高くなっている。

図表 121 世話を必要としている家族×世話について相談した経験



⑩ 世話を必要としている家族×相談したことがない理由

世話について相談したことがない理由について、世話を必要としている家族がきょうだいのみ(上記以外)の場合、「家族のことを話したくないから」、「相談しても何も変わらないから」の割合が高くなっている。

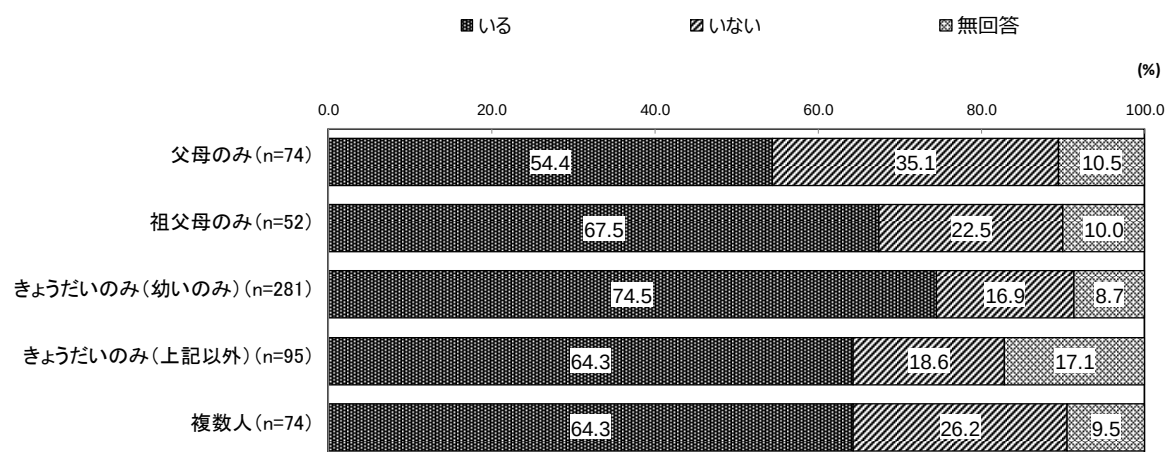
図表 122 世話を必要としている家族×相談したことがない理由(複数回答)

	調査数 (n)	相談するほどの悩みではないから	誰かに相談するのがよいかわからない	相談できる人がいないから	家族のことを話したくないから	相談しても何も変わらないから	その他	無回答
父母のみ	57	68.4	10.5	5.3	8.8	17.5	3.5	8.8
祖父母のみ	40	70.0	2.5	7.5	2.5	12.5	2.5	5.0
きょうだいのみ(幼いのみ)	231	77.1	2.6	3.5	1.3	10.4	3.5	11.7
きょうだいのみ(上記以外)	70	60.0	5.7	7.1	12.9	22.9	5.7	14.3
複数人	42	78.6	7.1	2.4	11.9	4.8	4.8	9.5

⑪ 世話を必要としている家族×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話を必要としている家族が父母のみの場合、話を聞いてくれる人が「いない」という回答がほかと比べて高くなっている。

図表 123 世話を必要としている家族×世話について話を聞いてくれる人の有無



⑫ 世話を必要としている家族×学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについて、世話を必要としている家族が複数人の場合、全体的に回答割合が高く、特に「自分のことについて話を聞いてほしい」、「自由に使える時間がほしい」、「勉強を教えてほしい」の割合が高くなっている。世話を必要としている人が父母のみの場合「わからない」の回答割合が高く、きょうだい(上記以外)の場合「自由に使える時間が欲しい」の回答割合が高くなっている。

図表 124 世話を必要としている家族×学校や大人にしてもらいたいこと(複数回答)

(%)

	調査数 (n)	自分のことについて話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、お世話や話のサポートなどについてほしい	自分が誰かに代わって世話をしたい	自分が誰かに代わって世話をしたい	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい	お金の面で支援してほしい	その他	特になし	わからない	無回答
父母のみ	74	13.5	5.4	2.7	1.4	4.1	16.2	12.2	2.7	1.4	36.5	20.3	8.1
祖父母のみ	52	9.6	7.7	0.0	5.8	5.8	15.4	5.8	7.7	0.0	51.9	5.8	7.7
きょうだいのみ(幼いのみ)	281	9.6	2.5	0.7	1.4	6.0	11.7	11.7	3.6	0.7	59.1	5.3	5.0
きょうだいのみ(上記以外)	95	12.6	7.4	3.2	6.3	7.4	21.1	15.8	7.4	2.1	50.5	2.1	9.5
複数人	70	22.9	7.1	1.4	7.1	10.0	22.9	22.9	11.4	4.3	34.3	4.3	14.3

(6) 世話をすることに感じている大変さによる世話の状況の違い

① 世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況(父母の状況、祖父母の状況、きょうだいの状況)

世話を必要としている家族が父母の場合、「体力の面で大変」なのは父母の状況が「身体障がい」で最も高く、「気持ちの面で大変」なのは父母の状況が「日本語が苦手」が最も高くなっている。世話を必要としている家族がきょうだいの場合、「時間の余裕がない」と回答しているのは、きょうだいの状態が(幼いを除くと)「介護(食事や身の回りのお世話)が必要」が最も高くなっている。

図表 125 世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況(父母の状況)(複数回答)
(%)

	調査数 (n)	高齢 (65歳以上)	介護 (食事や身の回りのお世話が必要)	認知症	身体障がい	知的障がい	※疑い含む こころの病気(うつ病など)	依存症※疑い含む	精神疾患・依存症以外の病気	日本語が苦手	その他	わからない
体力の面で大変	21	14.3	14.3	0.0	19.0	9.5	14.3	9.5	9.5	9.5	14.3	47.6
気持ちの面で大変	25	12.0	12.0	8.0	4.0	4.0	12.0	8.0	12.0	16.0	24.0	44.0
時間の余裕がない	23	8.7	13.0	4.3	0.0	4.3	4.3	8.7	4.3	13.0	21.7	39.1
特に大変さは感じていない	65	10.8	4.6	3.1	12.3	1.5	7.7	4.6	4.6	12.3	21.5	40.0

図表 126 世話をすることに感じているきつさ×世話対象の状況(祖父母の状況)
(複数回答)

(%)

	調査数 (n)	高齢 (65歳以上)	介護 (食事や身の回りのお世話が必要)	認知症	身体障がい	知的障がい	※疑い含む こころの病気(うつ病など)	依存症※疑い含む	精神疾患・依存症以外の病気	日本語が苦手	その他	わからない
体力の面で大変	4	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0
気持ちの面で大変	21	66.7	0.0	38.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
時間の余裕がない	13	76.9	0.0	53.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特に大変さは感じていない	41	75.6	0.0	12.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

図表 127 世話をすることを感じているきつさ×世話対象の状況(きょうだいの状況)
(複数回答)

(%)

	調査数 (n)	幼 い	介 護 (食 事 や 身 の 回 り の お 世 話 が 必 要)	身 体 障 が い	知 的 障 が い	病 気	日 本 語 が 苦 手	そ の 他	わ か ら な い
体力の面で大変	64	79.7	6.3	0.0	3.1	1.6	1.6	17.2	1.6
気持ちの面で大変	78	78.2	6.4	1.3	2.6	5.1	0.0	14.1	2.6
時間の余裕がない	67	79.1	10.4	0.0	3.0	4.5	0.0	11.9	7.5
特に大変さは感じていない	273	75.1	2.6	2.9	6.2	2.2	2.2	7.3	9.9

② 世話をすることを感じているきつさ×世話の内容

世話の内容では、「体力の面で大変」と回答した場合「見守り」の割合が高く、「時間の余裕がない」と回答した場合、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が高くなっている。

図表 128 世話をすることを感じているきつさ×世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数 (n)	家 事 (食 事 の 準 備 や 掃 除 、 洗 濯)	き や う 迎 え の お 世 話	入 浴 や ト イ レ の お 世 話	買 い 物 や 散 歩 に 一 緒 に 行 く	病 院 へ 一 緒 に 行 く	話 を 聞 く	見 守 り	通 訳 (日 本 語 や 手 話 な ど)	お 金 の 管 理	薬 の 管 理	そ の 他	無 回 答
体力の面で大変	88	43.2	34.1	28.4	25.0	6.8	30.7	51.1	6.8	3.4	3.4	3.4	9.1
気持ちの面で大変	116	47.4	32.8	25.9	23.3	6.9	38.8	46.6	4.3	2.6	9.5	3.4	4.3
時間の余裕がない	92	58.7	40.2	32.6	25.0	5.4	34.8	46.7	4.3	1.1	6.5	4.3	8.7
特に大変さは感じていない	362	32.0	27.9	17.7	17.7	3.0	26.2	42.5	2.8	2.5	1.7	6.6	8.0

③ 世話をすることを感じているきつさ×世話による制約

世話による制約については、「時間の余裕がない」と回答した場合、「宿題など勉強する時間がない」、「自分の時間が取れない」の割合が高くなっている。

図表 129 世話をすることを感じているきつさ×世話による制約(複数回答)

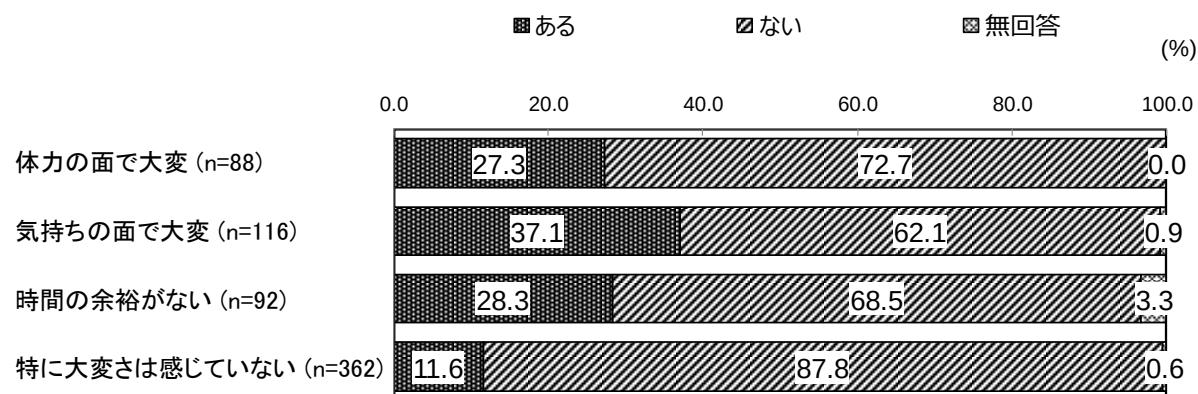
(%)

	調査数 (n)	学校を休んでしまう	ま 遅 う 刻 や 早 退 を し て し	間 宿 題 な ど 勉 強 す る 時 間 が な い	眠 る 時 間 が た り な い	で 友 だ ち と 遊 ぶ こ と が で き な い	習 い 事 が で き な い	い 自 分 の 時 間 が 取 れ な い	そ の 他	特 に な い	無 回 答
体力の面で大変	88	6.8	9.1	18.2	19.3	21.6	1.1	29.5	2.3	52.3	2.3
気持ちの面で大変	116	8.6	10.3	19.8	20.7	21.6	3.4	35.3	4.3	43.1	1.7
時間の余裕がない	92	7.6	6.5	28.3	25.0	26.1	2.2	50.0	3.3	28.3	2.2
特に大変さは感じていない	362	1.1	1.7	3.3	1.7	6.4	0.3	6.6	0.3	81.2	2.2

④ 世話をすることを感じているきつさ×世話について相談した経験

世話についての相談経験について、「気持ちの面で大変」と回答した人がほかと比べて相談経験が「ある」割合が高くなっている。

図表 130 世話をすることを感じているきつさ×世話について相談した経験



⑤ 世話をすることに感じているきつさ×世話について相談したことがない理由

世話について相談をしたことがない理由については、「気持ちの面で大変」、「時間の余裕がない」と回答した場合、「相談しても何も変わらないから」の割合がほかと比べて高くなっている。

図表 131 世話をすることに感じているきつさ×世話について相談したことがない理由
(複数回答)

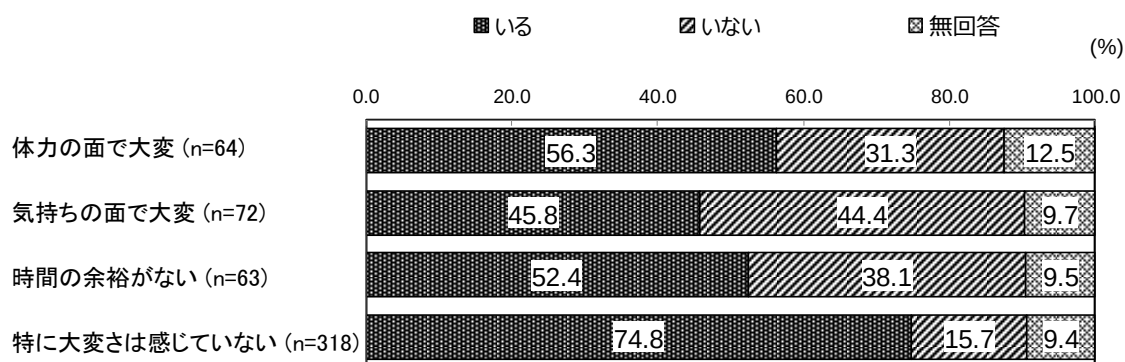
(%)

	調査数 (n)	相談するほどの 悩み	誰に相談するの がよい	相談できる人 がいない	家族の話を 話したくない	相談しても 何も変わらない	その他	無 回 答
体力の面で大変	64	65.6	15.6	14.1	9.4	28.1	3.1	4.7
気持ちの面で大変	72	52.8	16.7	16.7	18.1	38.9	8.3	1.4
時間の余裕がない	63	60.3	11.1	15.9	12.7	38.1	6.3	1.6
特に大変さは感じていない	318	76.7	0.6	1.6	2.2	6.9	3.8	14.5

⑥ 世話をすることに感じているきつさ×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について話を聞いてくれる人の有無について、「気持ちの面で大変」と回答した場合、「いない」の割合がほかと比べて高くなっている。

図表 132 世話をすることに感じているきつさ×世話について話を聞いてくれる人の有無



⑦ 世話をすることに感じているきつさ×学校や大人にしてもらいたいこと

学校や大人にしてもらいたいことについて、「気持ちの面で大変」と回答した場合、ほかと比べて「自分のことについて話を聞いてほしい」の割合が高くなっている。また、「時間の余裕がない」と回答した場合、ほかと比べて「自由に使える時間がほしい」の割合が高くなっている。

図表 133 世話をすることに感じているきつさ×学校や大人にしてもらいたいこと
(複数回答)

(%)

	調査数 (n=)	自分のことについて話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい	自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい	お金の面で支援してほしい	その他	特にない	わからない	無回答
体力の面で大変	88	21.6	11.4	6.8	6.8	21.6	30.7	19.3	8.0	2.3	30.7	9.1	4.5
気持ちの面で大変	116	30.2	12.1	2.6	12.1	19.8	37.1	18.1	11.2	3.4	23.3	12.9	4.3
時間の余裕がない	92	21.7	12.0	3.3	10.9	21.7	43.5	18.5	6.5	3.3	29.3	7.6	3.3
特に大変さは感じていない	362	8.0	2.2	1.4	1.1	1.7	7.7	12.2	3.6	0.3	66.3	5.2	3.0

⑧ 世話をすることに感じているきつさ×希望する相談方法

希望する相談方法について、「時間の余裕がない」と回答した場合、ほかと比べて「SNS」の割合が高くなっている。

図表 134 世話をすることに感じているきつさ×希望する相談方法(複数回答)

(%)

	調査数 (n=)	直接会って	電話	SNS	電子メール	その他	無回答
体力の面で大変	22	59.1	22.7	18.2	22.7	4.5	4.5
気持ちの面で大変	40	57.5	20.0	22.5	15.0	7.5	2.5
時間の余裕がない	23	52.2	13.0	30.4	17.4	17.4	8.7
特に大変さは感じていない	33	54.5	18.2	18.2	12.1	9.1	6.1

(7) 世話に関しての相談の状況

① 世話について相談した経験×世話による制約

世話に関する相談経験が「ある」と回答した場合、「ない」と回答した場合に比べ全体として回答割合が高くなっている。

図表 135 世話について相談した経験×世話による制約(複数回答)

(%)

		調査数 (n)	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしてしまう	宿題など勉強する時間がない	眠る時間がたりない	友だちと遊ぶことができない	習い事ができない	自分の時間が取れない	その他	特になし	無回答
世話に関する相談	ある	109	3.7	4.6	11.9	11.0	15.6	1.8	22.9	2.8	54.1	3.7
	ない	480	2.9	3.1	7.3	5.8	9.8	0.8	14.4	0.8	70.6	3.5

第4章 大学生の生活実態に関するアンケート調査結果

本章では、大学生向けに実施したアンケート調査結果について示す。

1. 大学生向けアンケート調査の概要

本節では、大学生向けに実施したアンケート調査の概要を示す。

(1) 調査対象

全国の大学の約半数にあたる 396 校を層化無作為抽出※により抽出。対象校に在籍する大学3年生を対象とした(約 30 万人)。

※層化無作為抽出の際の分類方法は以下の通り

●分類

1. 都道府県単位で 11 地区に分類

北海道地区:	北海道(1道)
東北地区:	青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県(6県)
関東地区:	茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県(1都6県)
北陸地区:	新潟県 富山県 石川県 福井県(4県)
東山地区:	山梨県 長野県 岐阜県(3県)
東海地区:	静岡県 愛知県 三重県(3県)
近畿地区:	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県(2府4県)
中国地区:	鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県(5県)
四国地区:	徳島県 香川県 愛媛県 高知県(4県)
北九州地区:	福岡県 佐賀県 長崎県 大分県(4県)
南九州地区:	熊本県 鹿児島県 宮崎県 沖縄県(4県)

2. 国立、公立、私立に分類

●配分

11 地区×大学種別3分類=33 ブロックそれぞれにおいて対象大学を抽出。

(2) 回答方法

対象の大学を通じて、学生本人向けに、調査回答フォームの QR コード、URL を記載した調査概要をメール等にて送付。Web 上で回答、回収を実施。

(3) 実施時期

令和3年12月16日(木)～令和4年1月14日(金)

(4) 有効回収数

9,679 件

※大学に依頼して調査概要を配布しており発出数が明確でないため回収率を算出することはできないが、対象学生数のうち3%程度の回収が得られていると想定される。

※「ヤングケアラー」、「若者ケアラー」の実態把握である趣旨から、29歳以下の回答を対象とした。

(5) 主な調査項目

基本情報

生活について

家庭や家族について

ヤングケアラーについて

(6) 調査結果閲覧にあたっての留意点(回答者属性について)

本アンケート調査の回答者の属性は以下の通り。対象校はいずれの地域も私立大学の数が多いが、回答者数は地域によっては私立大学よりも国立大学のほうが多い等、問題意識の高い大学や回答者が答えている可能性があり、一定の偏りがあることに留意が必要である。

図表 136 回答者の大学種別×地域

(人)	全体	国立	公立	私立
全体	9,679	2,265	847	6,567
北海道	310	76	47	187
東北	669	327	43	299
関東	3,771	410	142	3,219
北陸	281	101	61	119
東山	385	151	63	171
東海	841	250	105	486
近畿	1,486	307	125	1,054
中国	869	317	123	429
四国	80	19	43	18
北九州	603	87	75	441
南九州	355	218	18	119
その他(海外等)	29	2	2	25

図表 137 【参考】対象抽出大学数

(校)	全体	国立	公立	私立
全体	396	46	48	302
北海道	19	4	3	12
東北	27	4	6	17
関東	130	10	6	114
北陸	20	4	5	11
東山	16	2	5	9
東海	35	4	3	28
近畿	72	6	6	60
中国	27	3	6	18
四国	10	3	2	5
北九州	25	3	3	19
南九州	15	3	3	9

回答者の性別に関しても、今回の回答者は男性 35.7%、女性 62.0%（単純集計の図表参照）であり、女性が6割を占めた。

地域や大学種別により男女比が異なる、問題意識の高い回答者が答えている可能性があるなど、一定の偏りがあることに留意が必要である。

図表 138 大学種別×地域別 回答者の性別

	国立				公立				私立			
	国立計	男性	女性	その他・ 答えたくない	公立計	男性	女性	その他・ 答えたくない	私立計	男性	女性	その他・ 答えたくない
全体	2,265	45.9	51.9	2.2	847	23.8	73.6	2.6	6,567	33.6	64.0	2.4
北海道	76	67.1	32.9	0.0	47	17.0	78.7	4.3	187	40.6	56.1	3.2
東北	327	38.2	59.6	2.1	43	27.9	65.1	7.0	299	37.1	61.9	1.0
関東	410	51.2	46.8	2.0	142	25.4	73.2	1.4	3,219	35.3	62.2	2.5
北陸	101	55.4	43.6	1.0	61	19.7	80.3	0.0	119	36.1	62.2	1.7
東山	151	52.3	47.7	0.0	63	22.2	74.6	3.2	171	25.7	70.8	3.5
東海	250	43.6	54.8	1.6	105	20.0	79.0	1.0	486	31.1	66.3	2.7
近畿	307	57.7	38.8	3.6	125	27.2	70.4	2.4	1,054	42.4	55.3	2.3
中国	317	39.7	57.1	3.2	123	28.5	67.5	4.1	429	18.6	79.5	1.9
四国	19	52.6	47.4	0.0	43	11.6	83.7	4.7	18	33.3	66.7	0.0
北九州	87	27.6	69.0	3.4	75	28.0	72.0	0.0	441	17.9	79.8	2.3
南九州	218	33.0	64.2	2.8	18	16.7	72.2	11.1	119	22.7	76.5	0.8

※男女それぞれ、高い比率を占めるセルに着色。

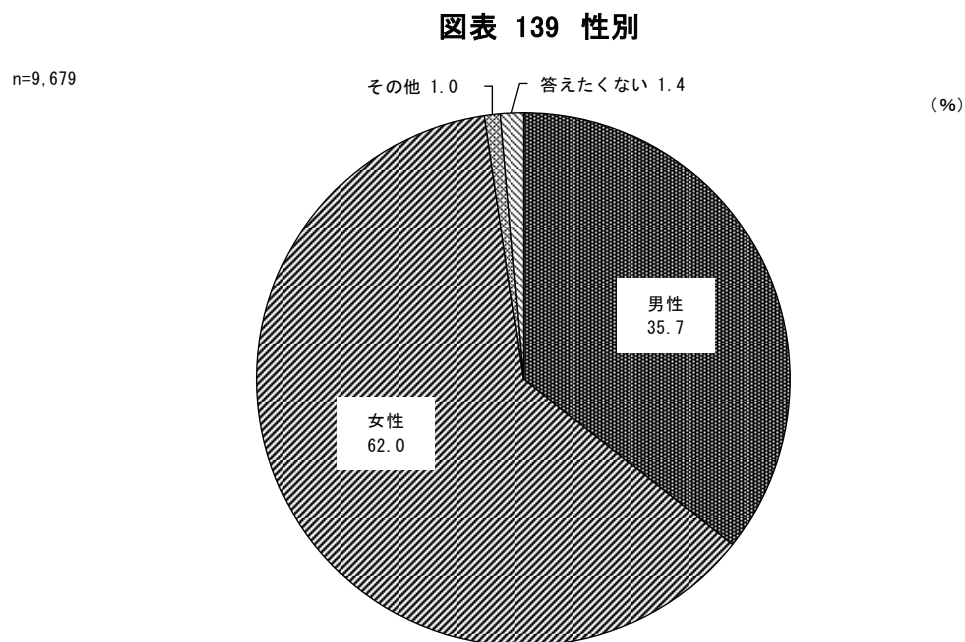
2. 大学生アンケート調査の結果(単純集計)

本節では、大学生向けに実施したアンケート調査結果(単純集計)を示す。

(1) 基本情報

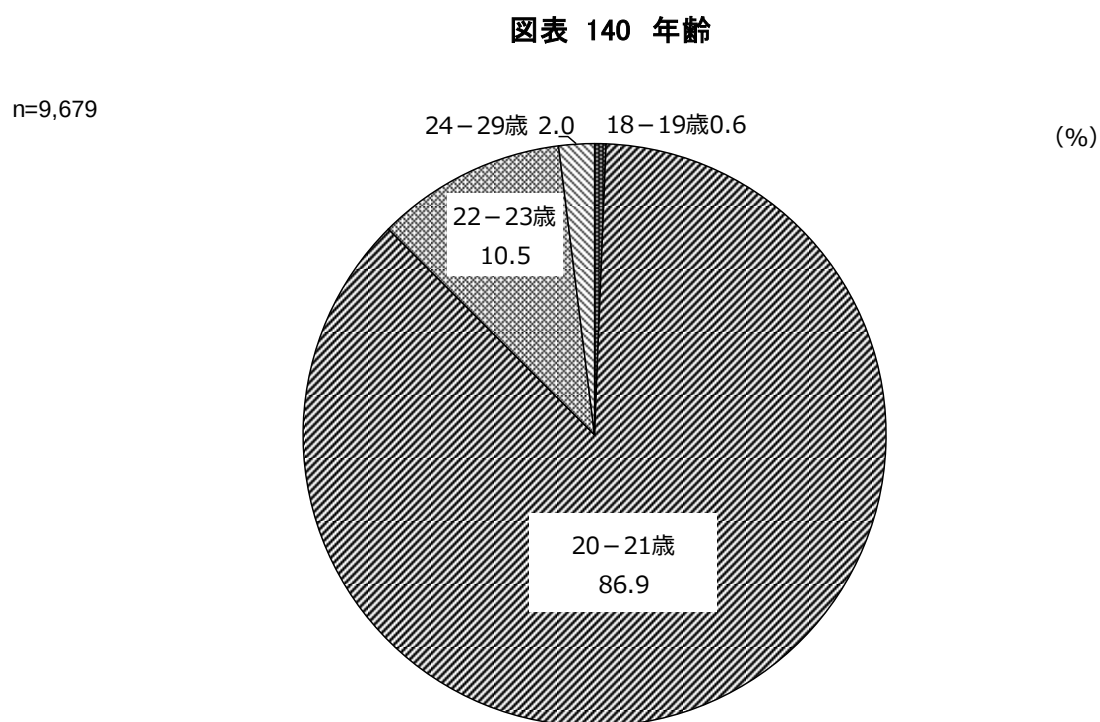
① 性別

回答者の性別は、以下の通り。



② 年齢

回答者の年齢は、以下の通り。



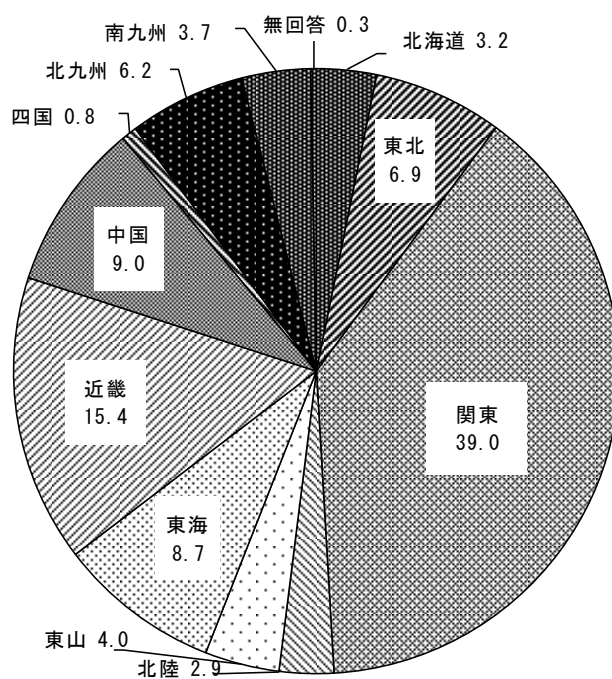
③ 居住地

回答者の居住地は、以下の通り。

図表 141 現在住んでいる都道府県

n=9,679

(%)



※地域区分 北海道：北海道

東北：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

関東：茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

北陸：新潟、富山、石川、福井

東山：山梨、長野、岐阜

東海：静岡、愛知、三重

近畿：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

中国：鳥取、島根、岡山、広島、山口

四国：徳島、香川、愛媛、高知

北九州：福岡、佐賀、長崎、大分

南九州：熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

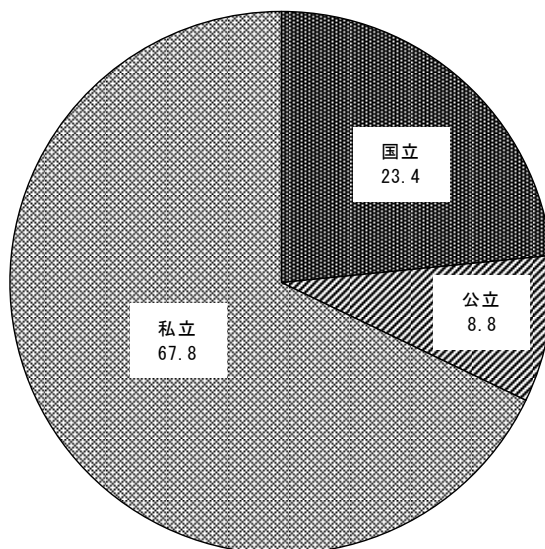
④ 大学種別

回答者が通っている大学の種別は、「私立」が 67.8%、「国立」が 23.4%、「公立」が 8.8%となっている。

図表 142 大学種別

n=9,679

(%)



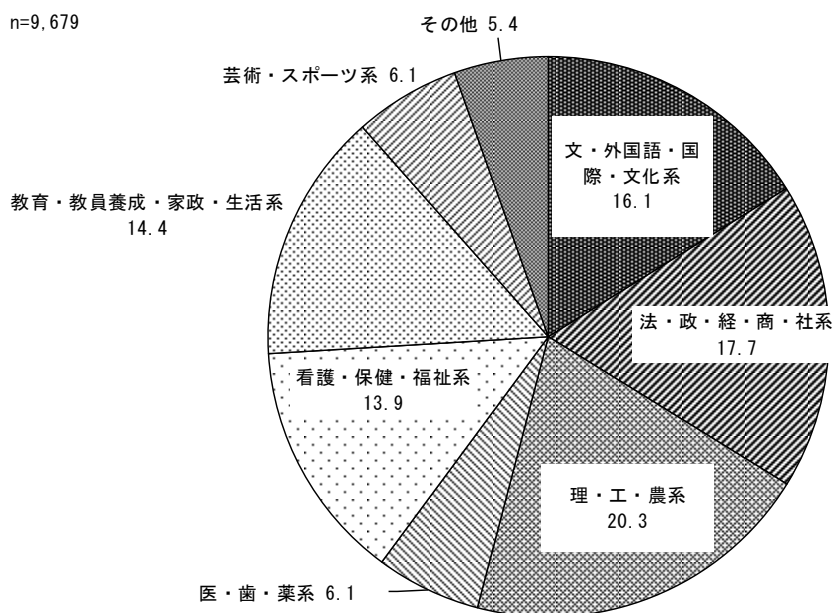
⑤ 大学の学科(専攻)

回答者の大学の学科(専攻)は、「理・工・農系」の割合が最も高く20.3%、次いで、「法・政・経・商・社系」、「文・外国語・国際・文化系」、「教育・教員養成・家政・生活系」となっている。

図表 143 大学の学科(専攻)

n=9,679

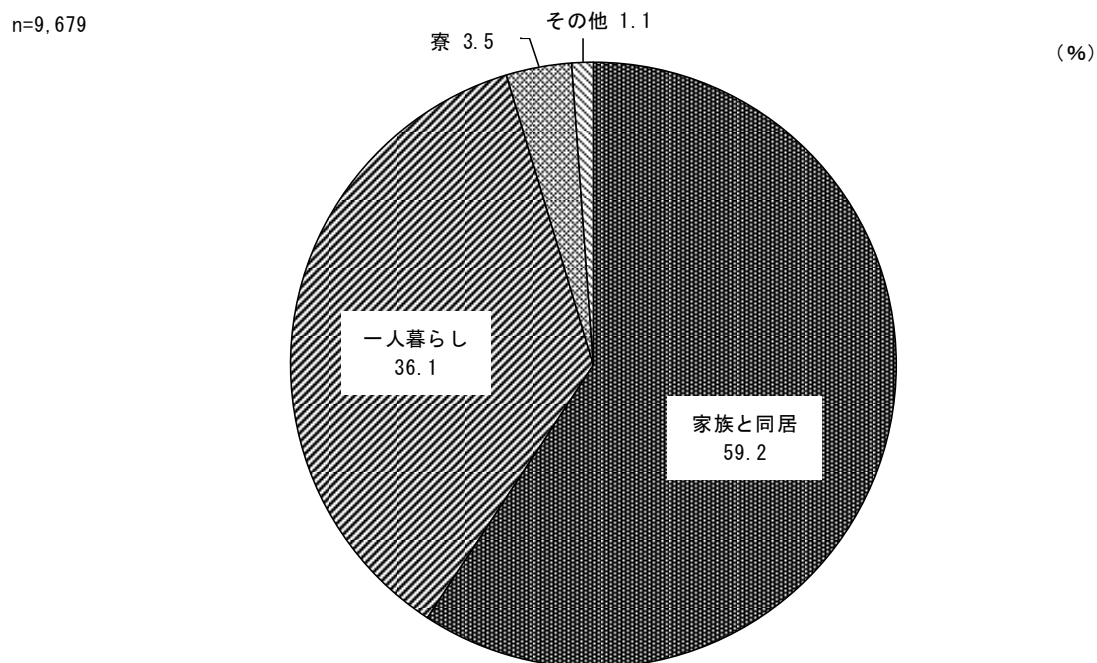
(%)



⑥ 現在の居住形態

居住形態は、「家族と同居」が 59.2%、「一人暮らし」が 36.1%となっている。

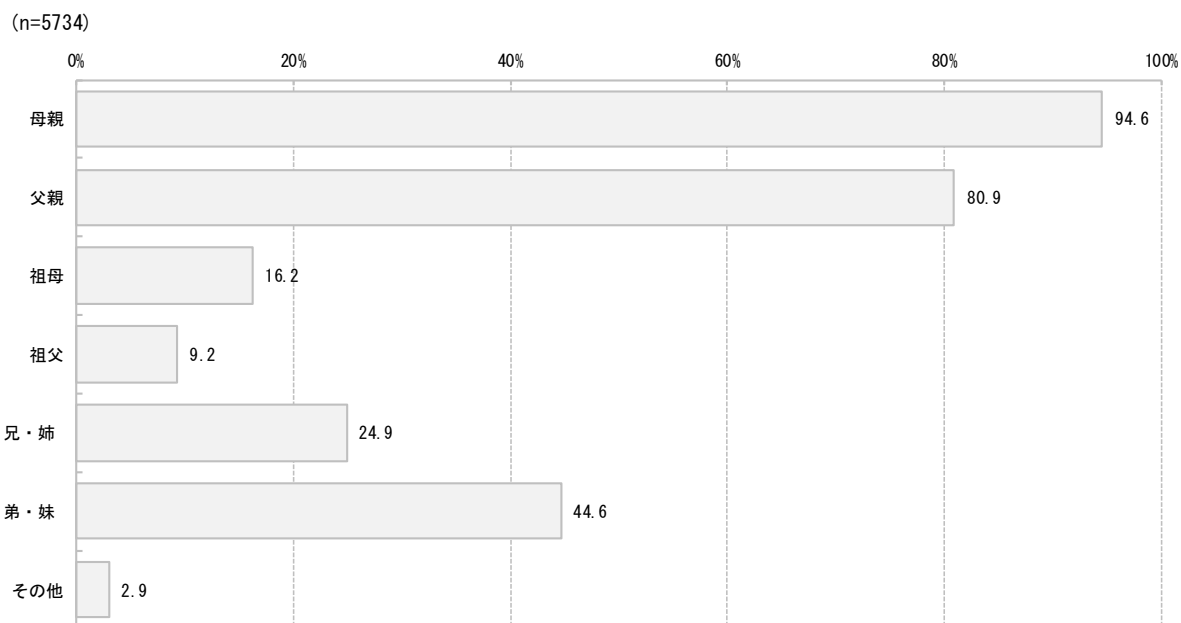
図表 144 現在の居住形態



⑦ 家族構成

現在一緒に住んでいる家族は、「母親」が 94.6%、次いで「父親」、「弟・妹」となっている。

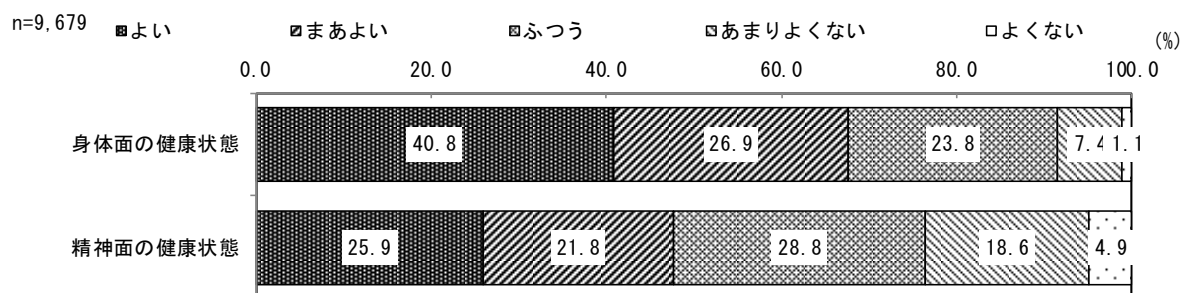
図表 145 現在一緒に住んでいる家族



⑧ 健康状態

身体面の健康状態は、「よい」の割合が最も高くなっているが、精神面の健康状態は、「ふつう」の割合が最も高くなっている。

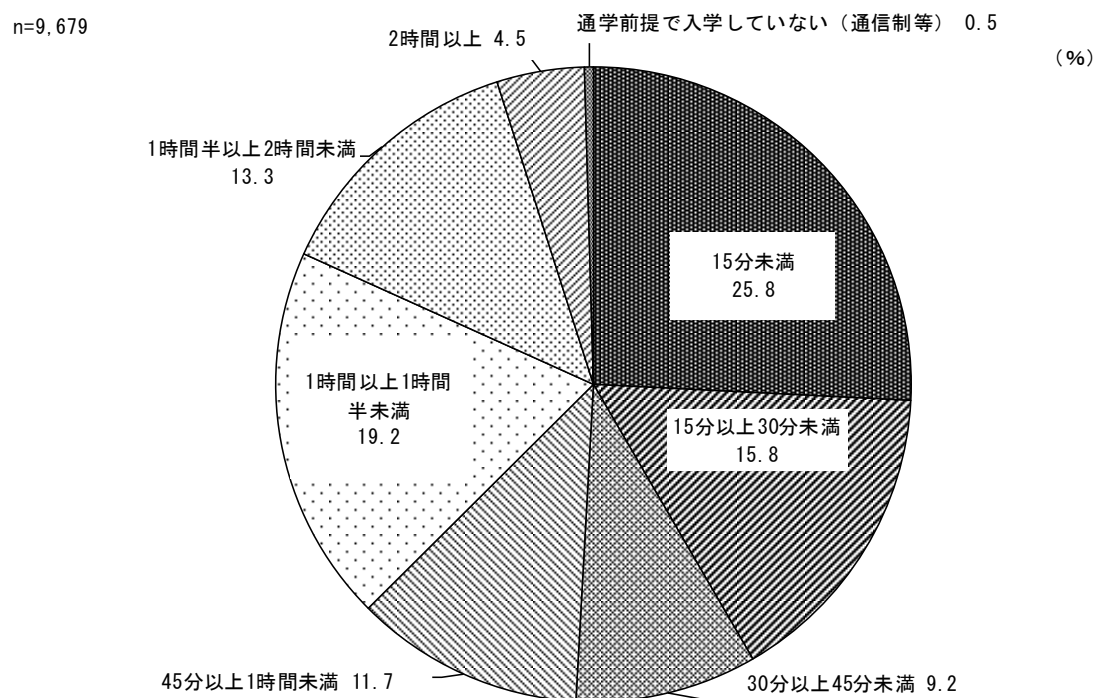
図表 146 健康状態



⑨ 大学までの片道の通学時間

大学までの片道通学時間は、「15 分未満」の割合が最も高く 25.8%、次いで「1 時間以上 1 時間半未満」、「15 分以上 30 分未満」となっている。

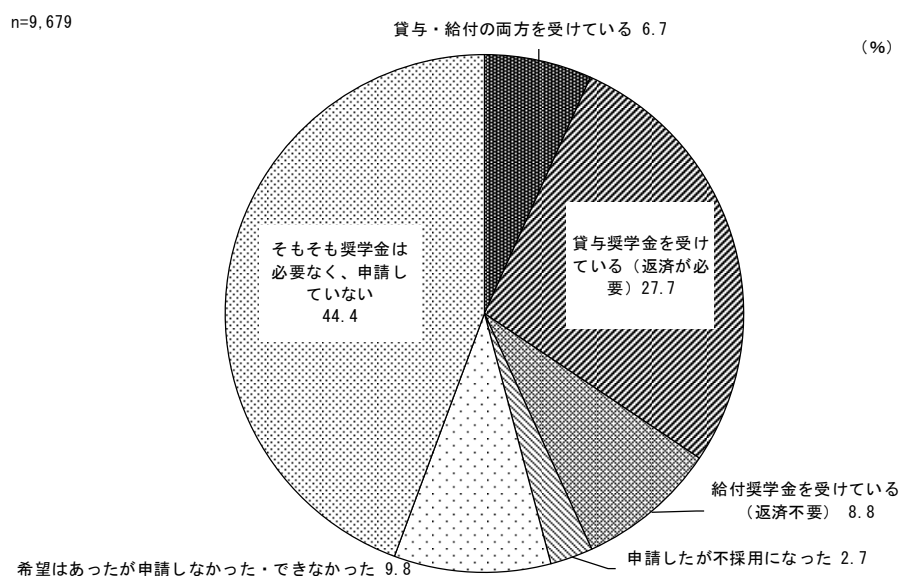
図表 147 大学までの片道の通学時間



⑩ 奨学金の受給状況

奨学金の受給状況は、「そもそも奨学金は必要なく、申請していない」が最も高く 44.4%、次いで「貸与奨学金を受けている(返済が必要)」が 27.7%、「希望はあったが申請しなかった・できなかった」が 9.8%となっている。

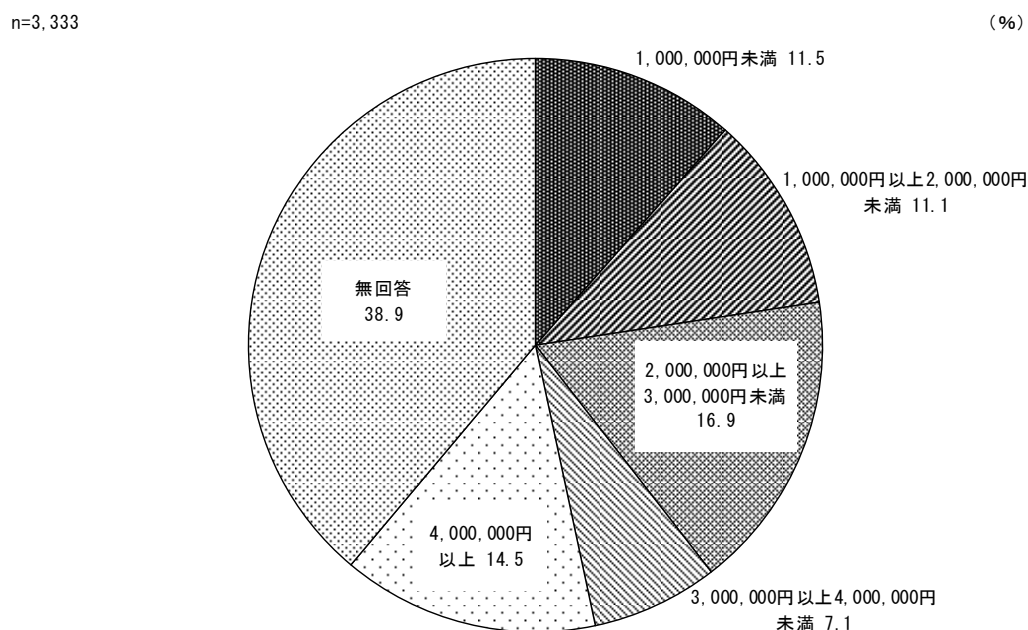
図表 148 奨学金の受給状況



⑪ 奨学金の大学卒業時の予定貸与金額

大学卒業時の予定貸与金額は、回答者の中では、「2,000,000 円以上 3,000,000 円未満」が最も高い割合になっている。

図表 149 大学卒業時の予定貸与金額



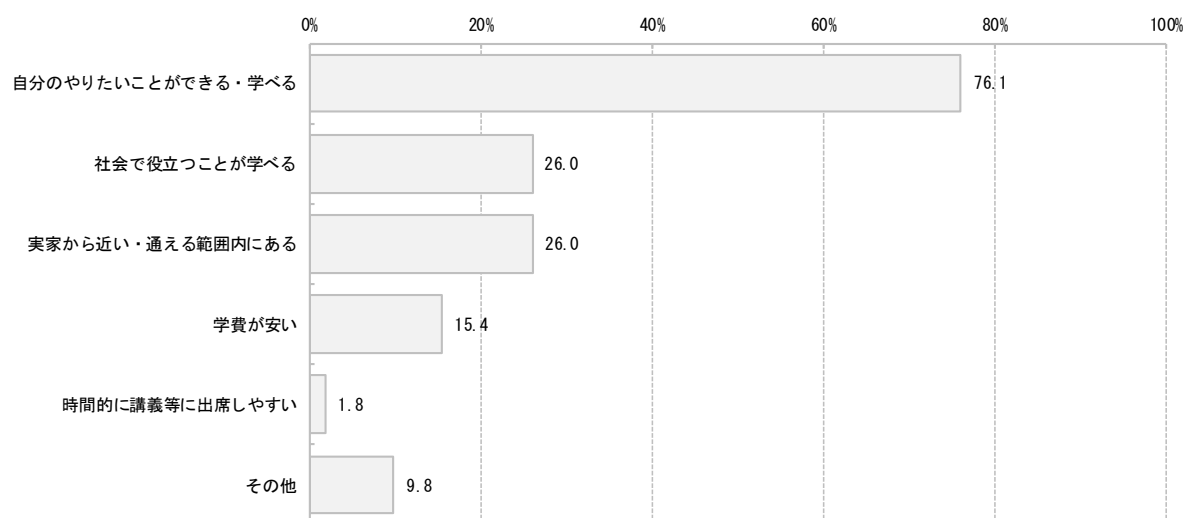
(2) 普段の生活について

⑫ 現在通う大学を選択した理由

現在通う大学を選択した理由は、「自分のやりたいことができる・学べる」の割合が最も高く76.1%、次いで「社会で役立つことが学べる」、「実家から近い・通える範囲内にある」となっている。

図表 150 現在通う大学を選択した理由

(n=9679)



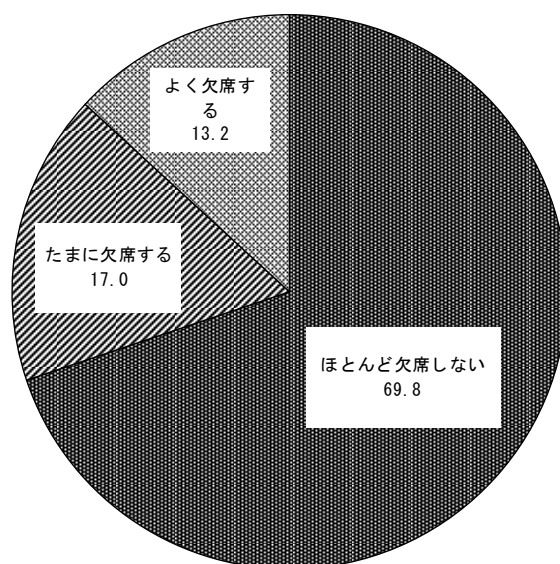
⑬ 大学の授業(履修している講義)への出席状況

大学の授業(履修している講義)への出席状況は、「ほとんど欠席しない」の割合が最も高く69.8%、次いで「たまに欠席する」、「よく欠席する」となっている。

図表 151 大学の授業(履修している講義)への出席状況

n=9,679

(%)



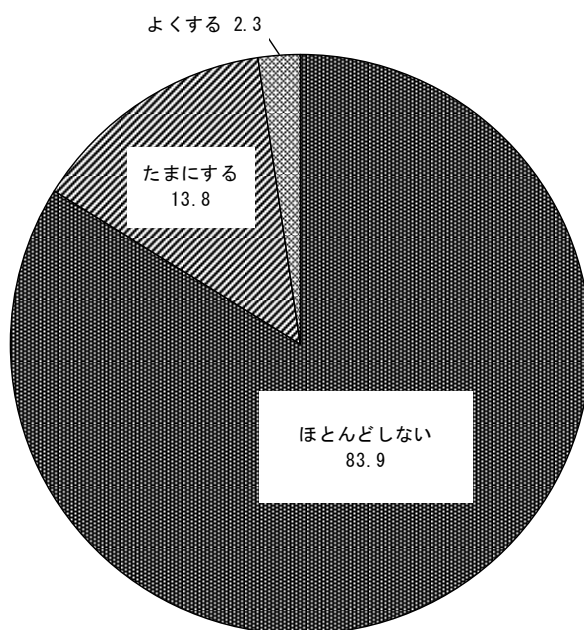
⑭ 大学の授業(履修している講義)への遅刻や早退の状況

大学の授業(履修している講義)への遅刻や早退の状況は、「ほとんどしない」の割合が最も高く83.9%、次いで「たまにする」、「よくする」となっている。

図表 152 大学の授業(履修している講義)への遅刻や早退の状況

n=9,679

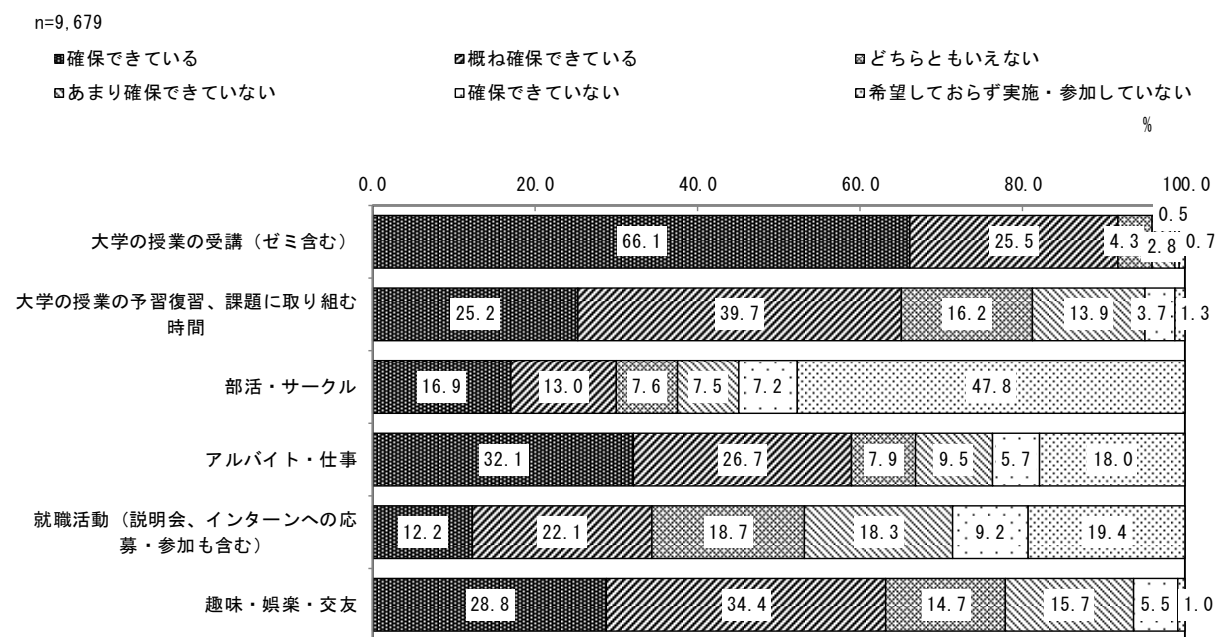
(%)



⑮ 各取組に関する日々の時間確保状況

各取組に関する日々の時間確保状況において、「確保できている」の割合は、高い順に「大学の授業の受講（ゼミを含む）」で 66.1%、「アルバイト・仕事」で 32.1%、「趣味・娯楽・交友」で 28.8%であった。「就職活動（説明会、インターンへの応募・参加も含む）」は、「あまり確保できていない」の割合が 18.3%とほかに比べ高くなっている。

図表 153 各取組に関する日々の時間確保状況

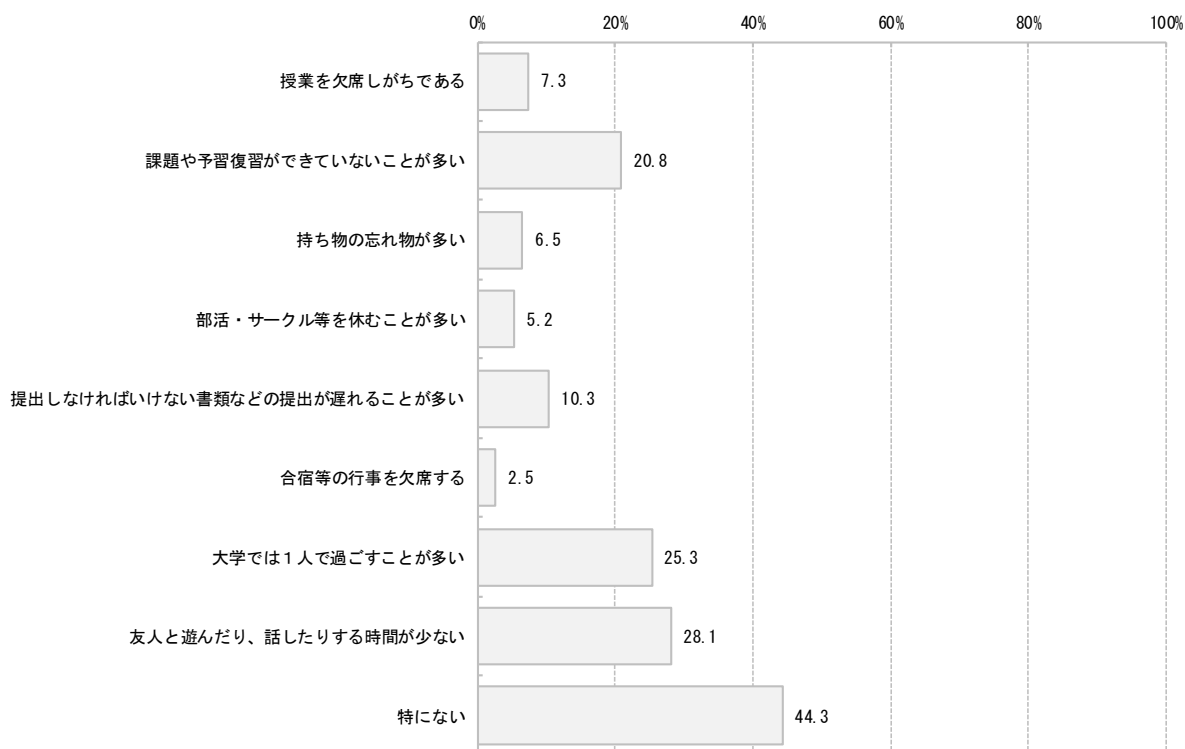


⑩ 普段の大学生活等においてあてはまるもの

普段の大学生活等においてあてはまるものでは、「特にない」が 44.3%と最も高く、次いで「友人と遊んだり、話したりする時間が少ない」が 28.1%、「大学では1人で過ごすことが多い」が 25.3%となっている。

図表 154 普段の大学生活等においてあてはまるもの

(n=9679)

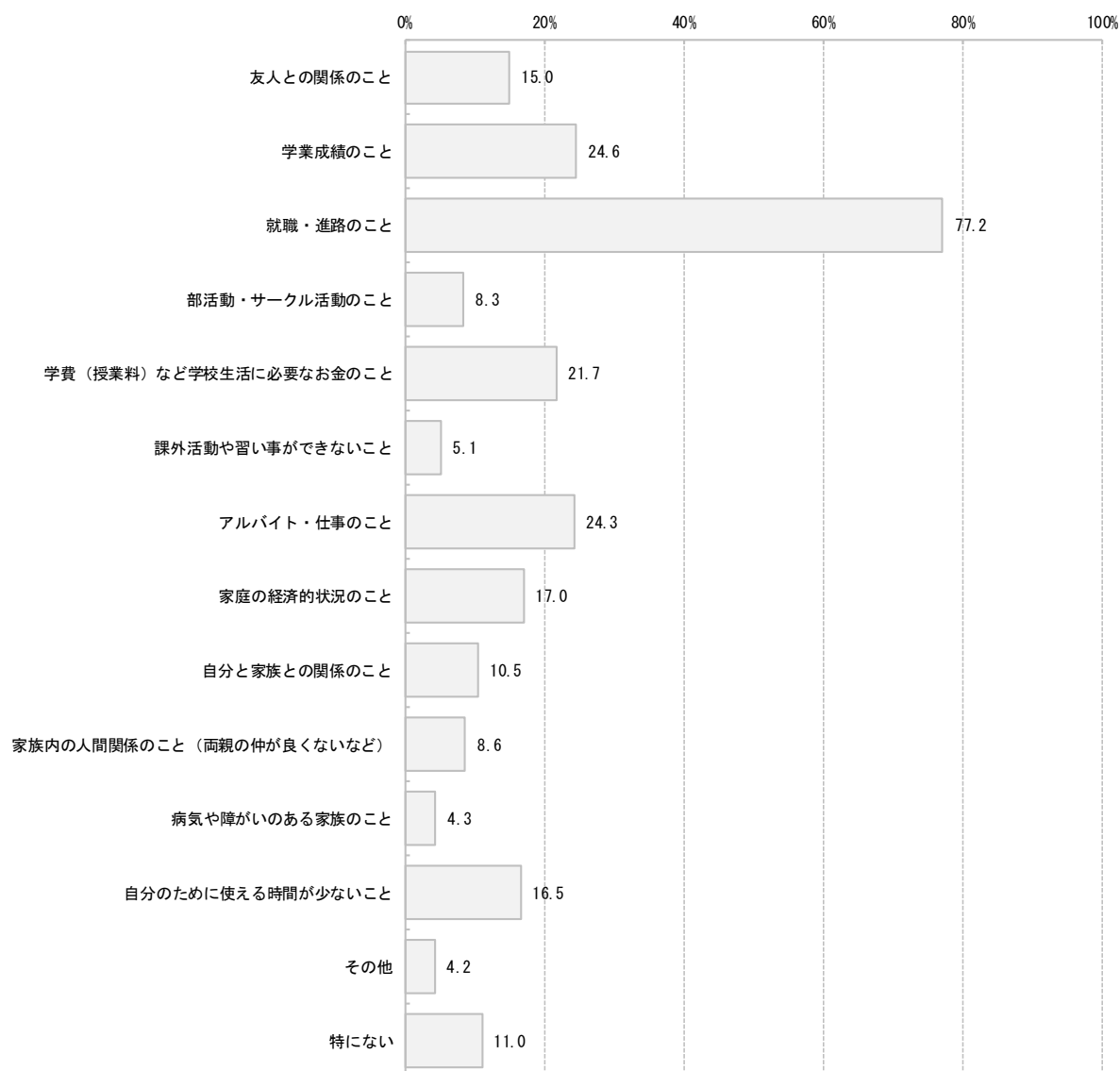


⑰ 現在の悩みや困りごと

現在の悩みや困りごとでは、「就職・進路のこと」が 77.2%と最も高く、次いで「学業成績のこと」、「アルバイト・仕事のこと」となっている。

図表 155 現在の悩みや困りごと

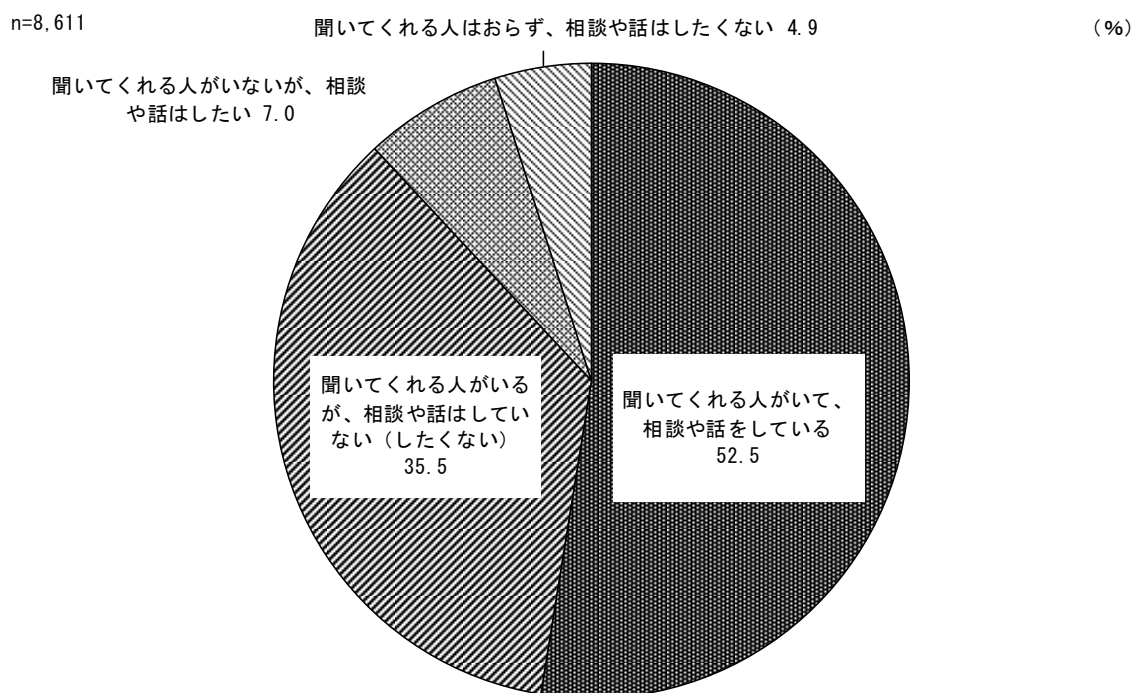
(n=9679)



⑩ 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

「現在、悩んだり困っていることがある」と回答した方に悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無について聞いたところ、「聞いてくれる人がいて、相談や話をしている」が 52.5%で最も高く、次いで「聞いてくれる人がいるが、相談や話はしていない(したくない)」、「聞いてくれる人がいないが、相談や話はしたい」となっている。

図表 156 悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人の有無



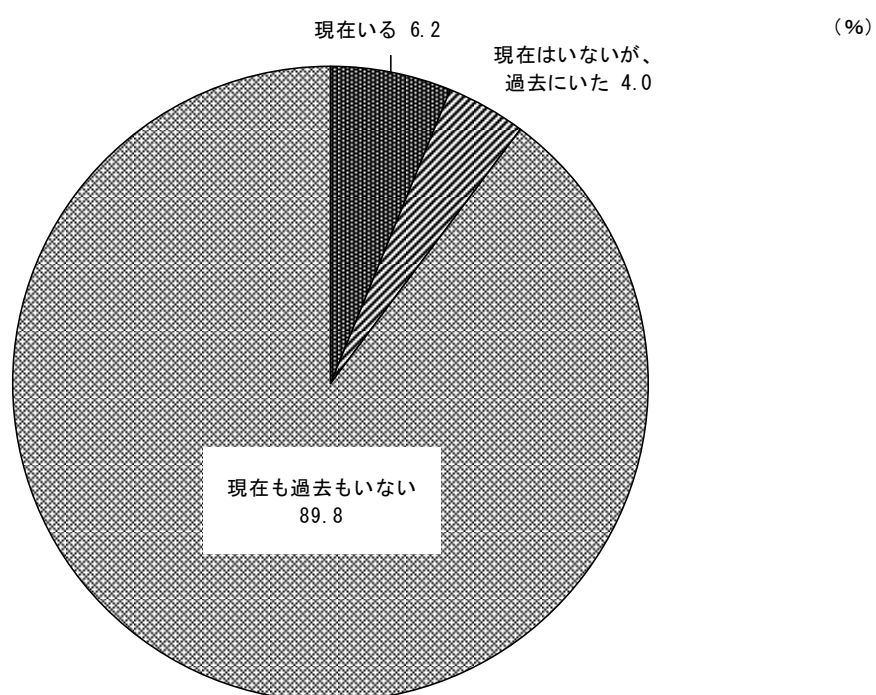
(3) 家庭や家族のことについて

⑭ 世話をしている家族の有無

家族の中に世話をしている人の有無については、「現在いる」6.2%、「現在はいないが、過去にいた」4.0%となっている。

図表 157 世話をしている家族の有無

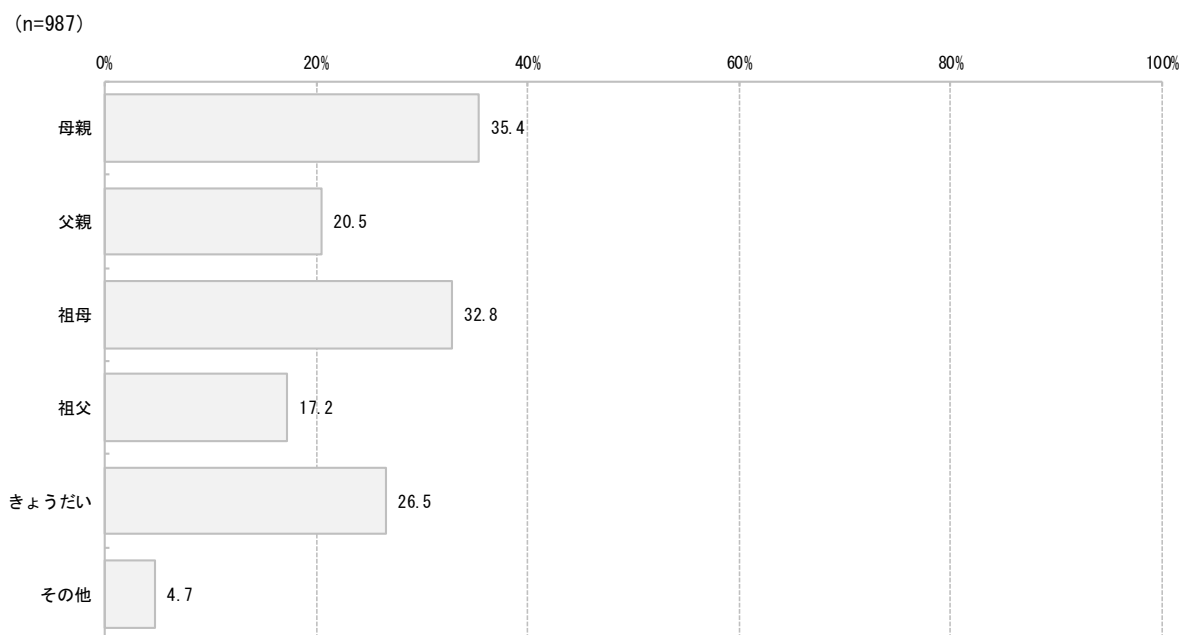
n=9,679



⑳ 世話を必要としている家族

世話を必要としている家族については、「母親」の割合が最も高く 35.4%、次いで「祖母」、「きょうだい」となっている。

図表 158 世話を必要としている家族



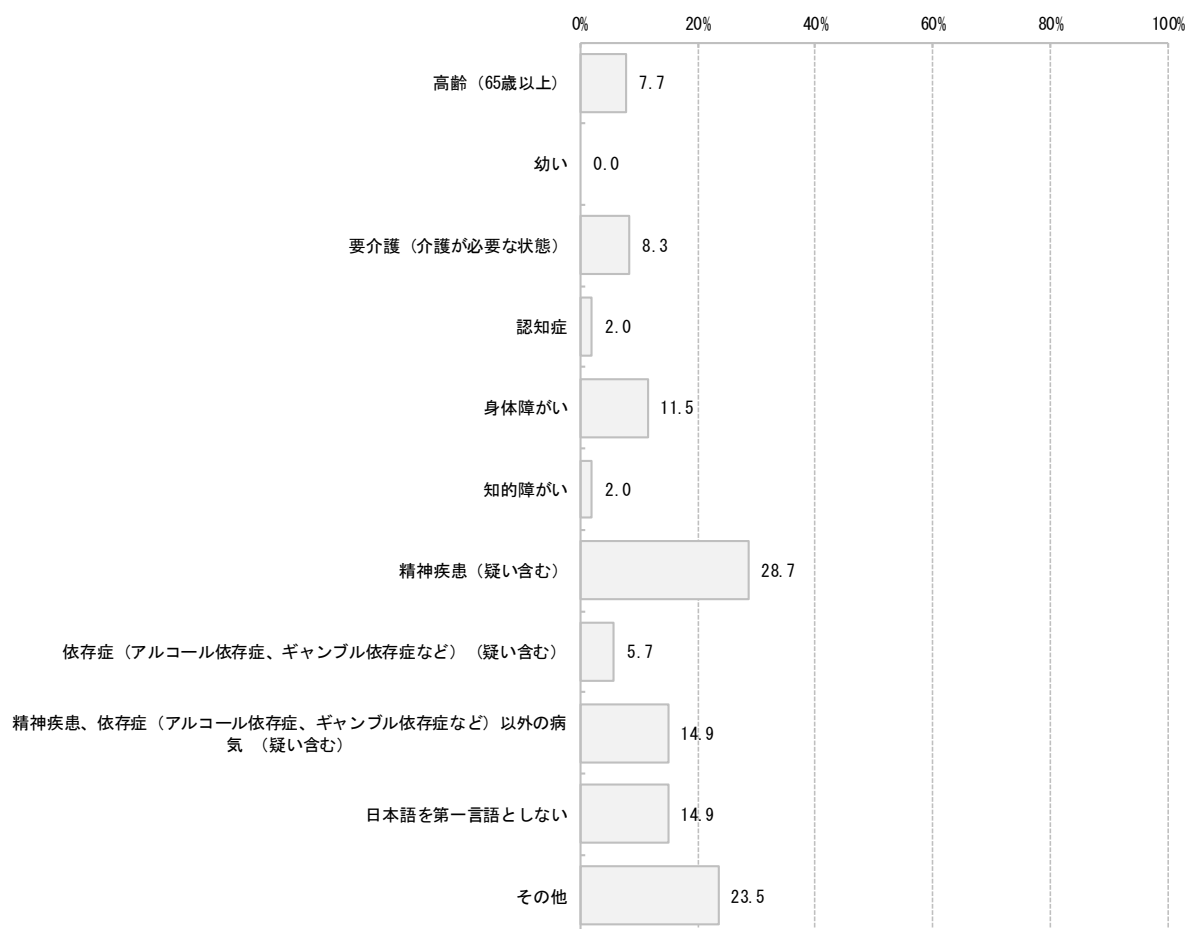
⑪ 世話を必要としている(していた)方の状況

前問で選択した世話を必要としている(していた)方について、それぞれ状況を聞いた。

母親の状況については、「精神疾患(疑い含む)」の割合が最も高く 28.7%、次いで「その他」、
「精神疾患、依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)以外の病気(疑い含む)」、「日
本語を第一言語としない」となっている。

図表 159 世話を必要としている(していた)方の状況(母親)

(n=349)

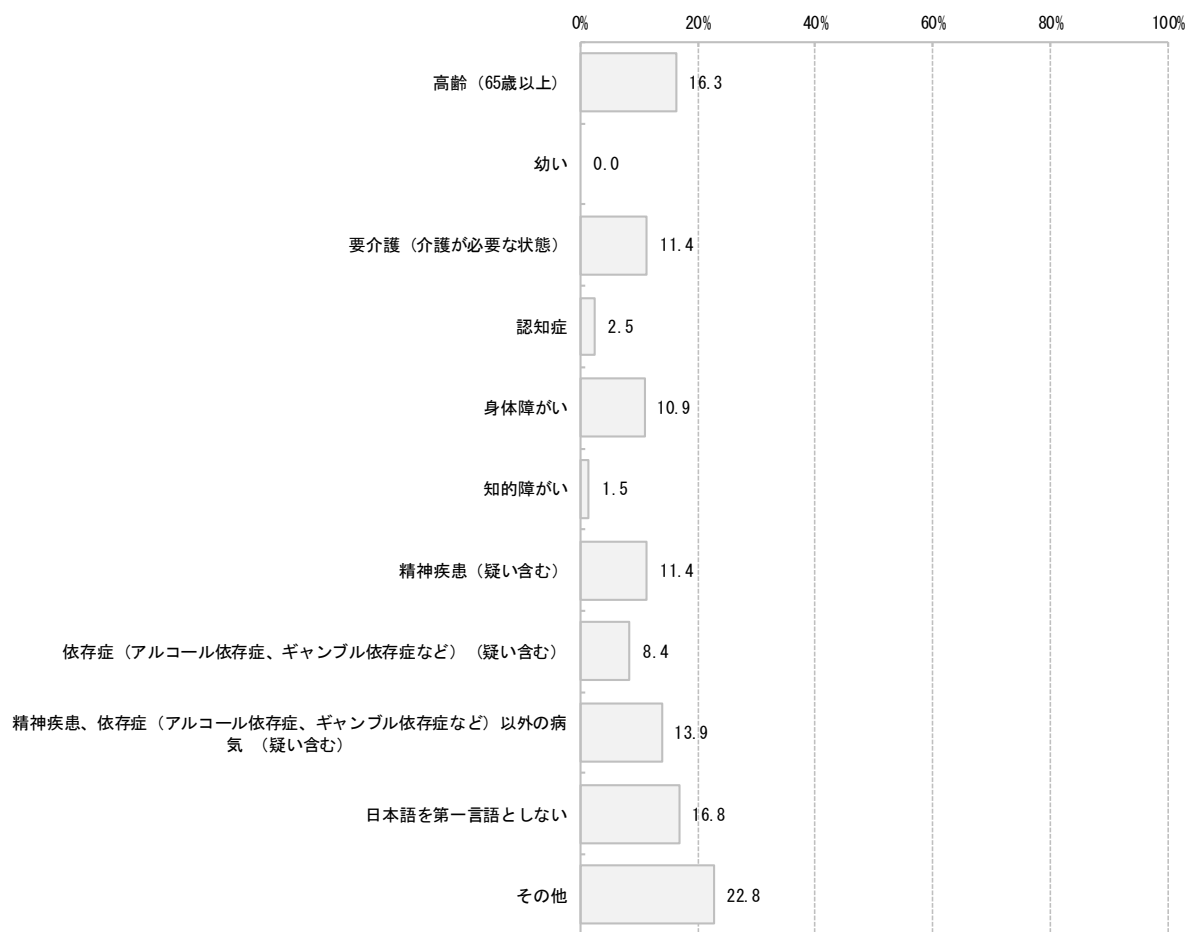


(参考) その他の自由記述としては、「仕事が忙しい」、「怪我」、「特になし」等を含む。

父親の状況については、「その他」の割合が最も高く、次いで「日本語を第一言語としない」、「高齢(65歳以上)」、「精神疾患、依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)以外の病気(疑い含む)」となっている。

図表 160 世話を必要としている(していた)方の状況(父親)

(n=202)

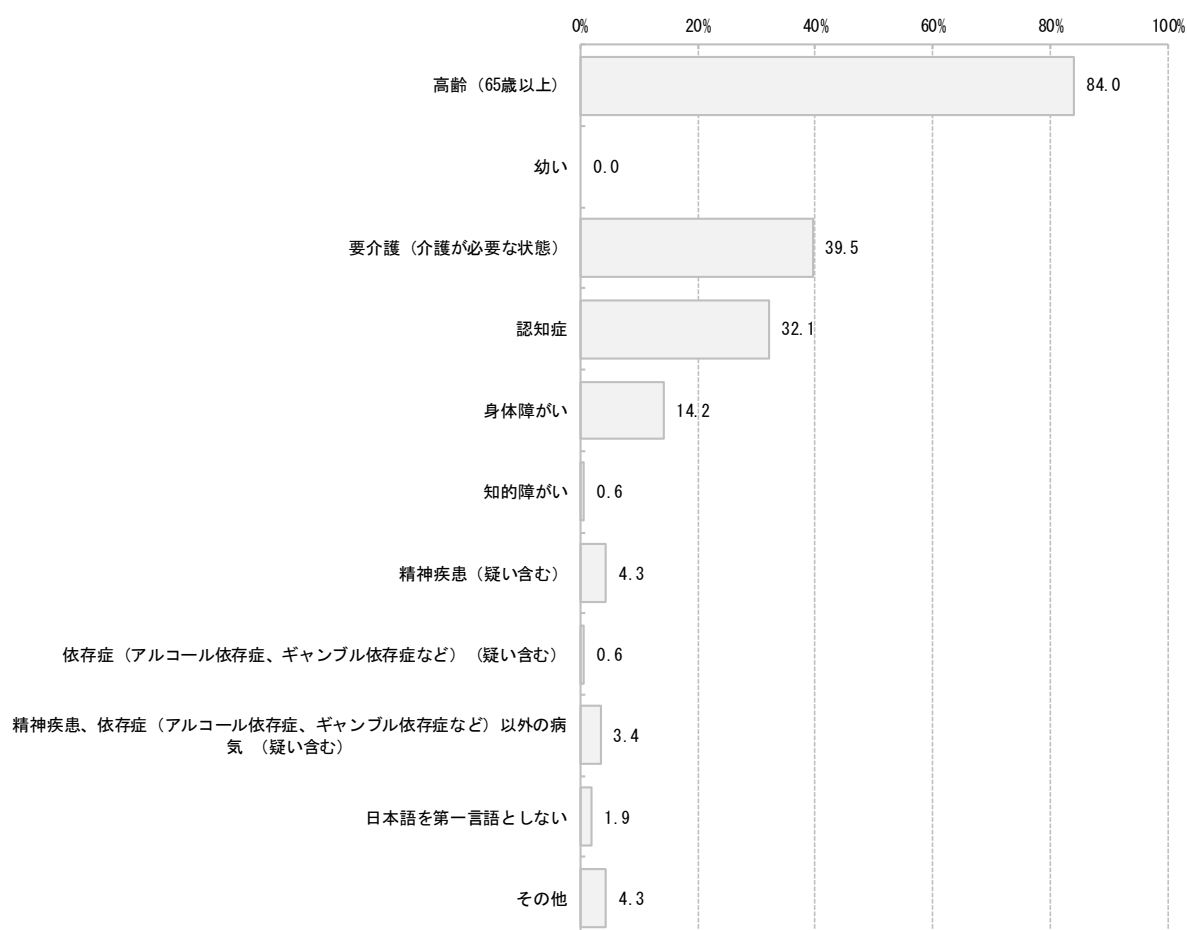


(参考)その他の自由記述としては、「仕事が忙しい」、「家事ができない」、「怪我」、「特になし」等を含む。

祖母の状況については、「高齢（65 歳以上）」の割合が最も高く 84.0%、次いで「要介護（介護が必要な状態）」、「認知症」となっている。

図表 161 世話を必要としている(していた)方の状況(祖母)

(n=324)

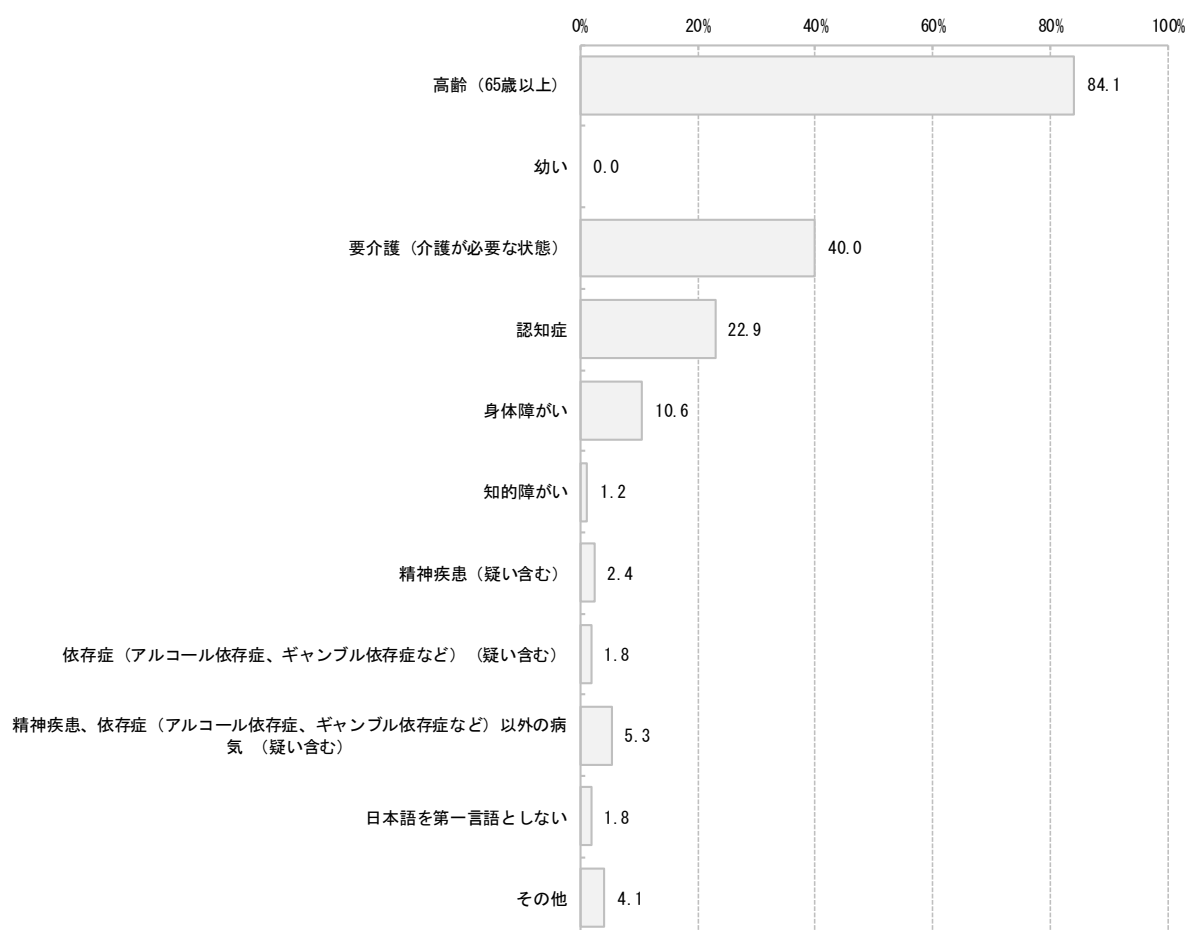


（参考）その他の自由記述としては、「通院が必要な体のため」、「骨折」、「家事のお手伝い」等を含む。

祖父の状況については、「高齢（65 歳以上）」の割合が最も高く 84.1%、次いで「要介護（介護が必要な状態）」、「認知症」となっている。

図表 162 世話を必要としている(していた)方の状況(祖父)

(n=170)

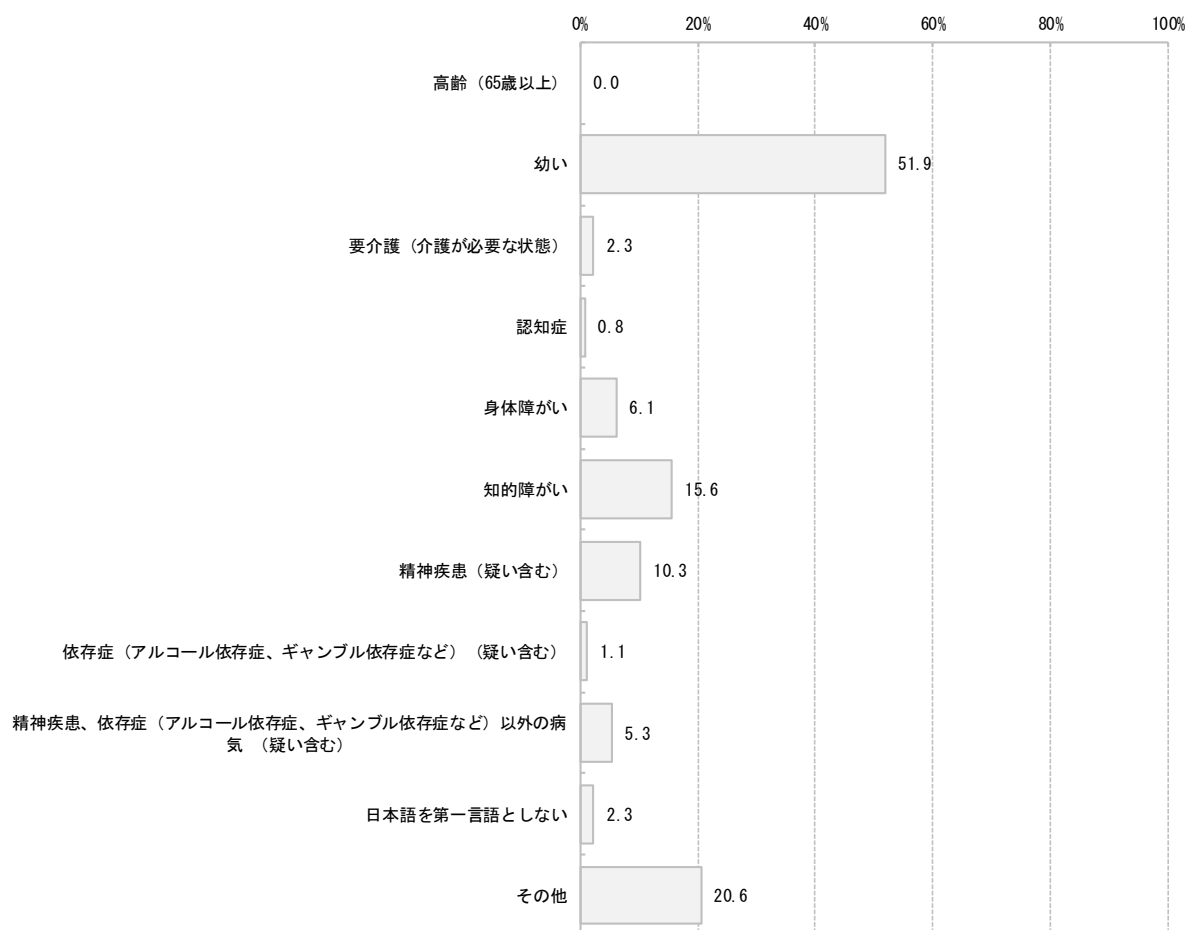


（参考）その他の自由記述としては、「家事等を行ってくれない」、「特になし」等を含む。

きょうだいの状況については、「若い」の割合が最も高く 51.9%、次いで「その他」、「知的障がい」、「精神疾患（疑い含む）」となっている。

図表 163 世話を必要としている(していた)方の状況(きょうだい)

(n=262)



（参考）その他の自由記述としては、「発達障害」、「グレーゾーン」、「仕事や学業で忙しい」、「怪我」、「特になし」等を含む。

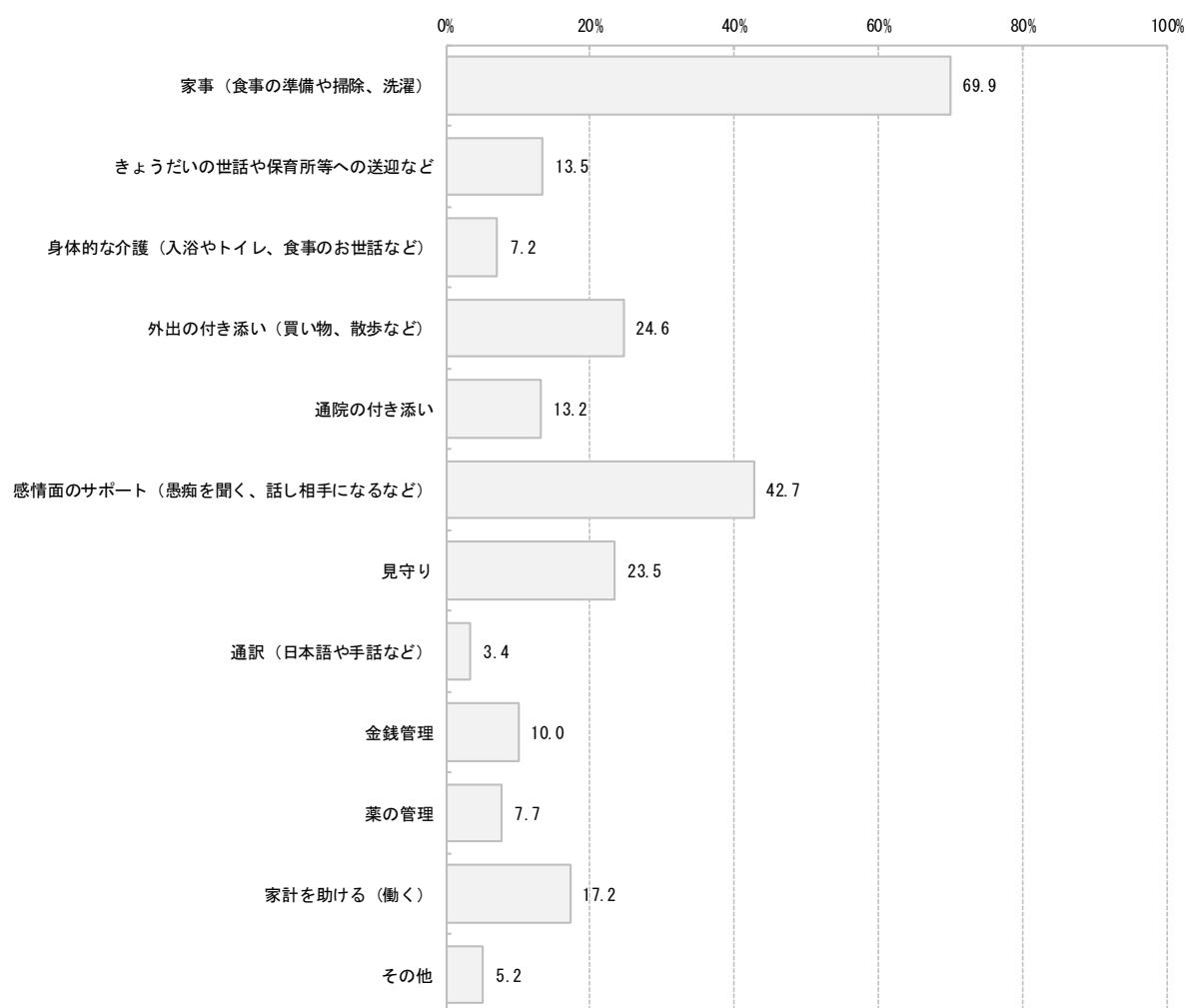
②② 行っている(行っていた)世話の内容

世話を必要としている(していた)方について、それぞれ行っている(行っていた)世話の内容を聞いた。

母親への世話については、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が最も高く 69.9%、次いで「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」42.7%となっている。

図表 164 行っている(行っていた)世話の内容(母親)

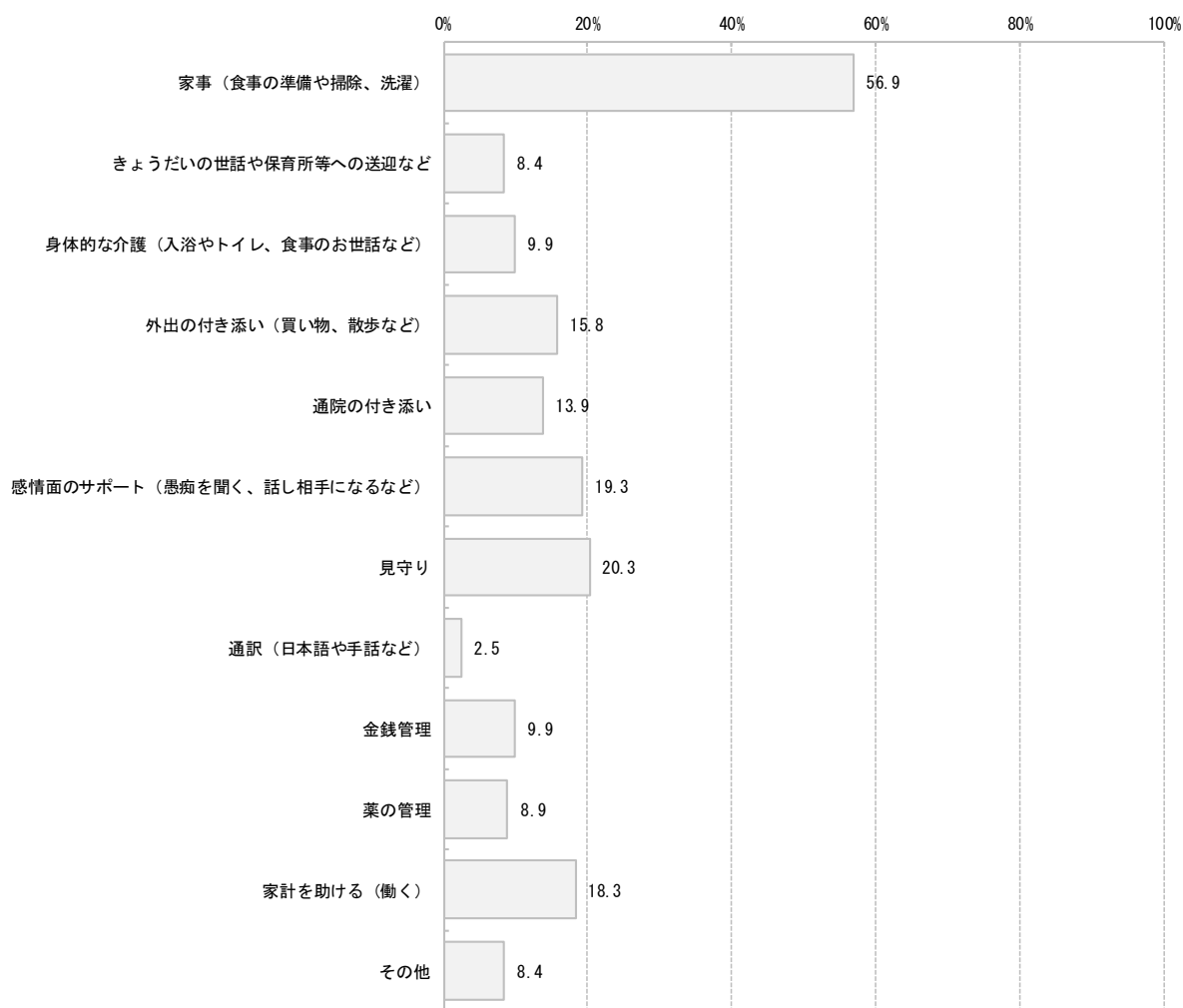
(n=349)



父親への世話については、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が最も高く 56.9%となっている。

図表 165 行っている（行っていた）世話の内容（父親）

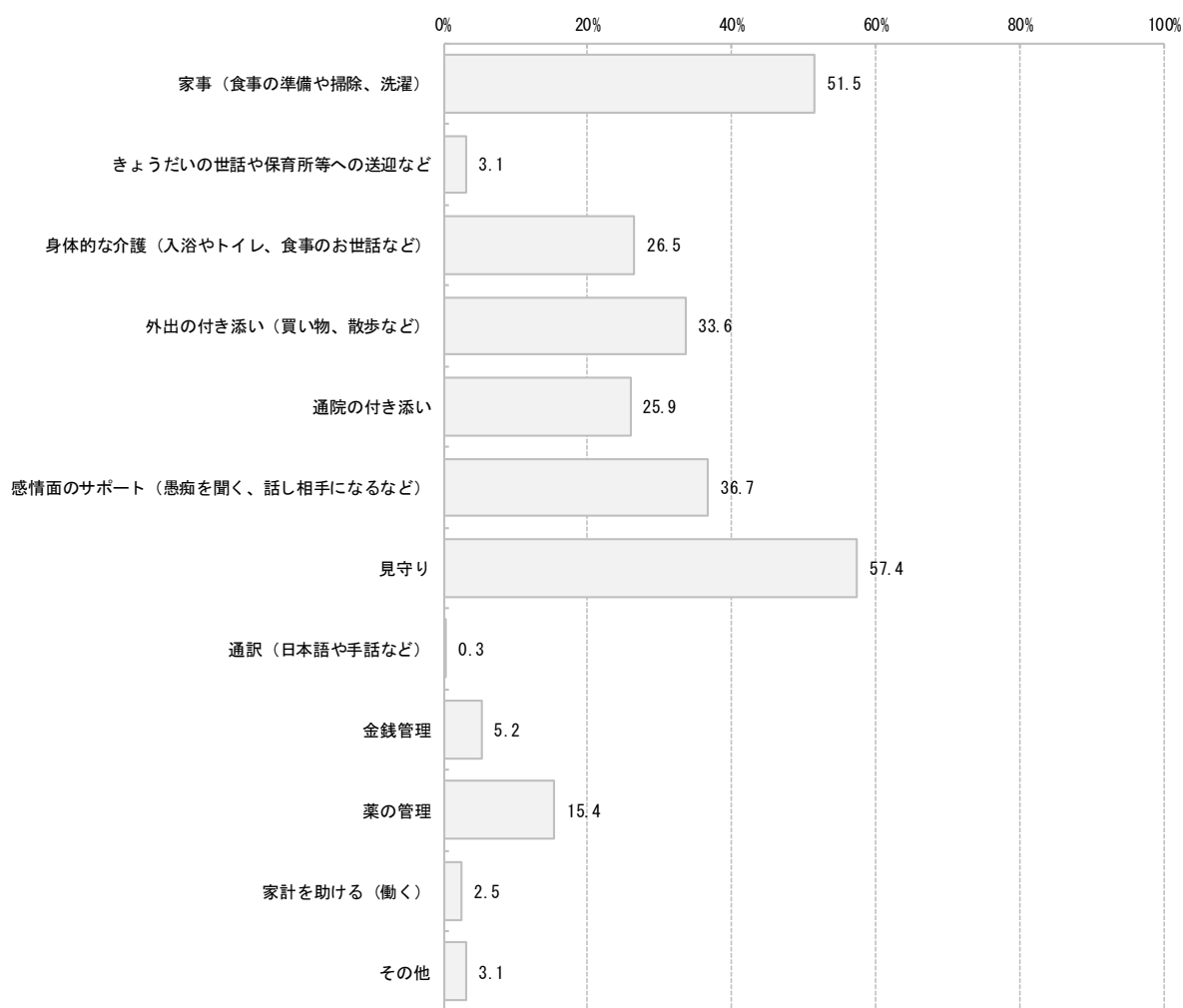
(n=202)



祖母への世話については、「見守り」の割合が最も高く 57.4%、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」となっている。

図表 166 行っている（行っていた）世話の内容（祖母）

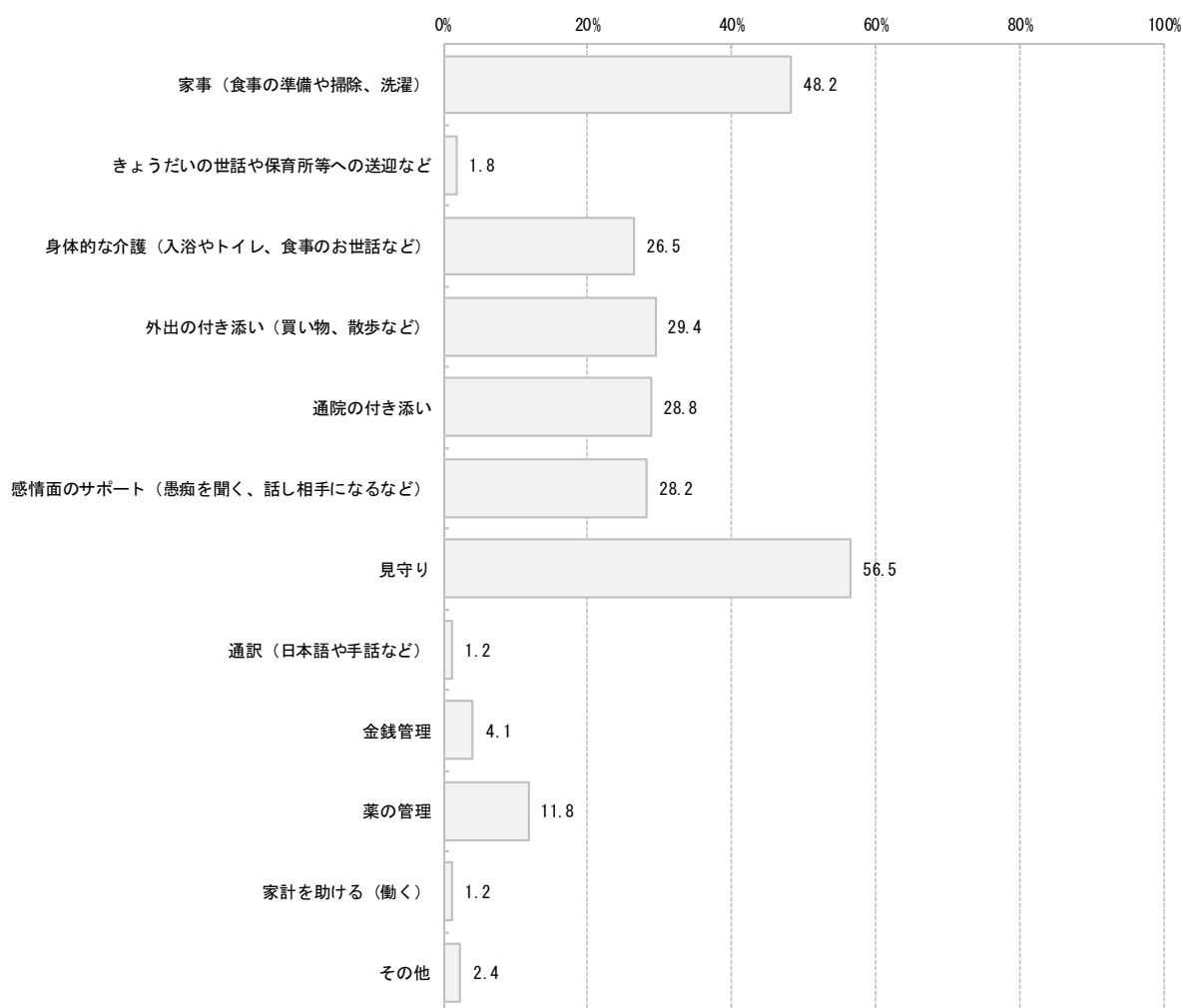
(n=324)



祖父への世話については、「見守り」の割合が最も高く 56.5%、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、「外出の付き添い（買い物、散歩など）」となっている。

図表 167 行っている（行っていた）世話の内容（祖父）

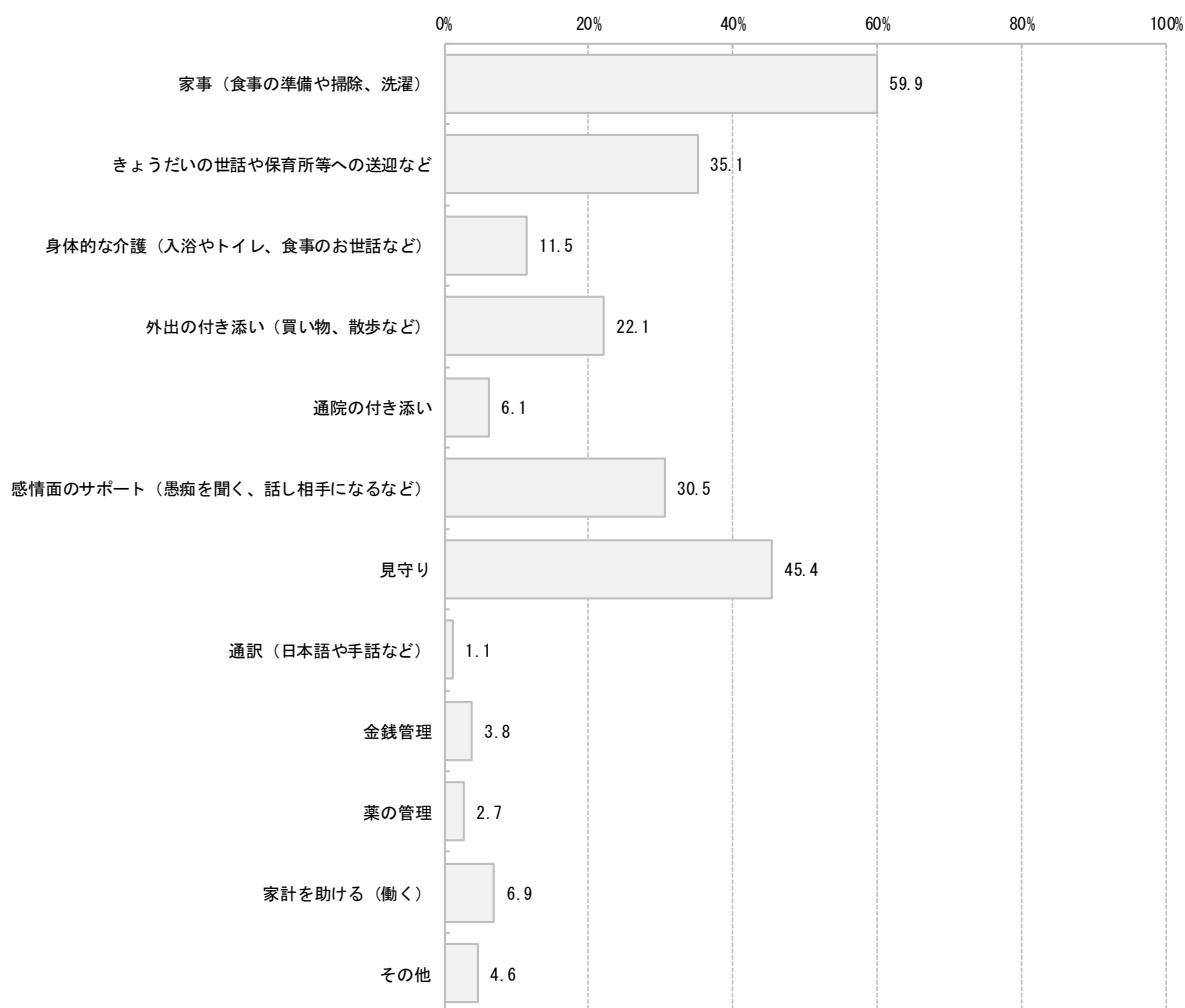
(n=170)



きょうだいへの世話については、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が最も高く59.9%、次いで「見守り」、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」となっている。

図表 168 行っている(行っていた)世話の内容(きょうだい)

(n=262)

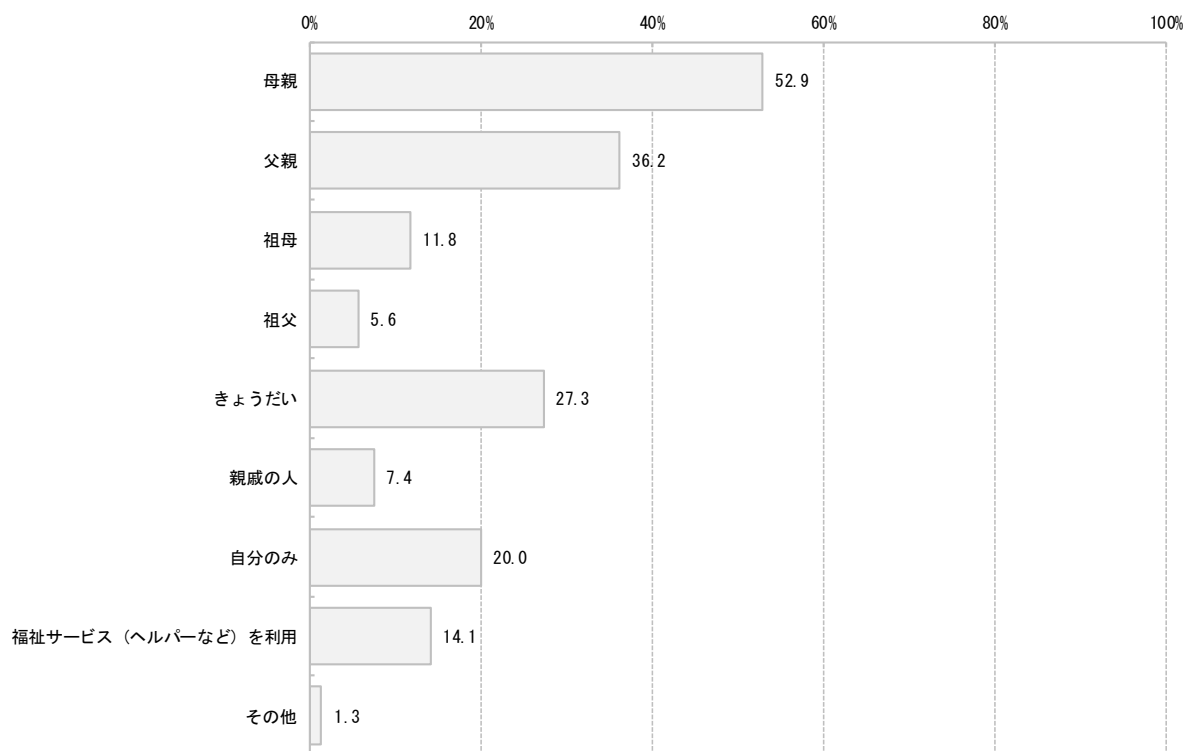


⑳ 一緒に世話を行っている人

一緒に世話を行っている人については、「母親」の割合が最も高く 52.9%、次いで「父親」、「きょうだい」となっている。

図表 169 一緒に世話を行っている人

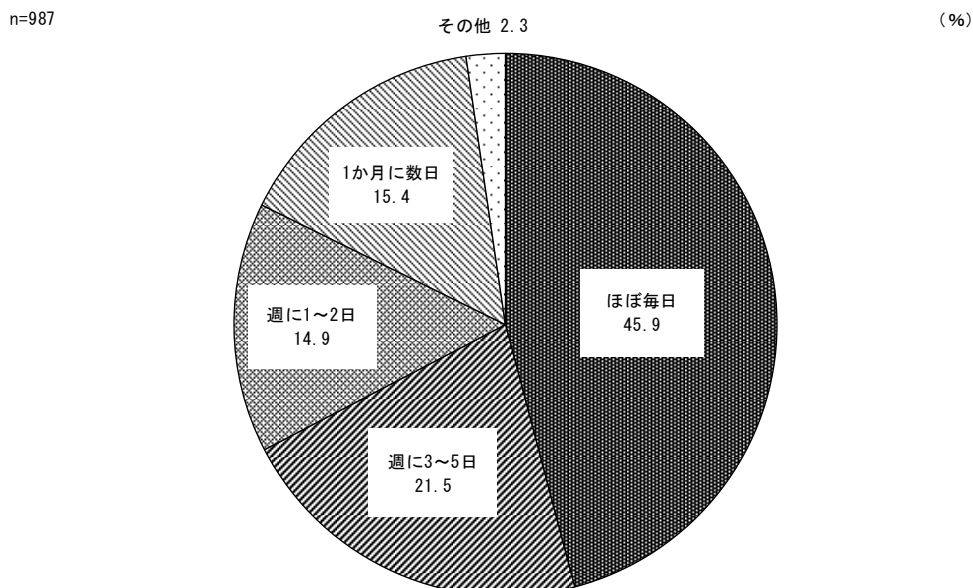
(n=987)



②④ 世話をしている(していた)頻度

世話をしている(していた)頻度については、「ほぼ毎日」の割合が最も高く 45.9%、次いで「週に3～5日」となっている。

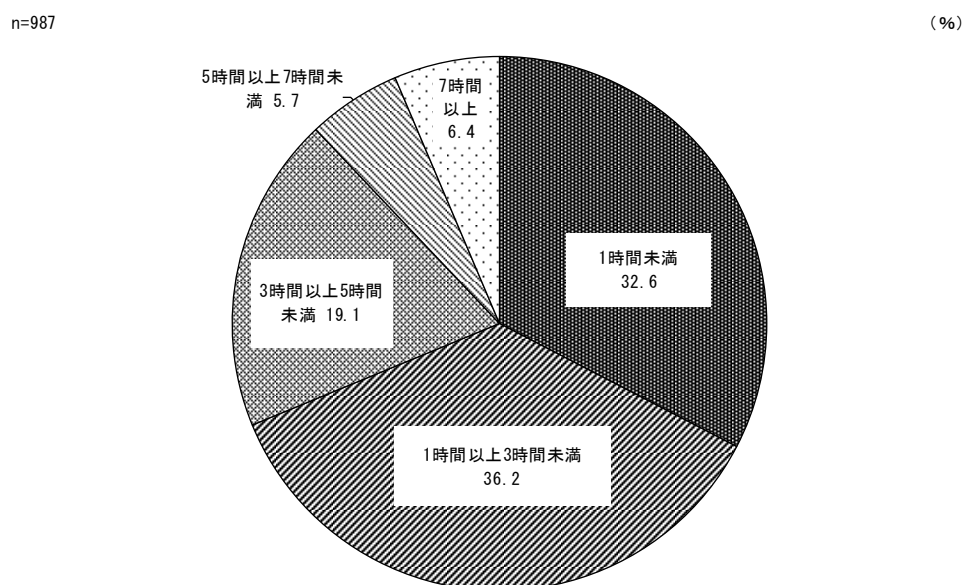
図表 170 世話をしている(していた)頻度



②⑤ 平日1日あたりに世화에費やす時間

平日1日あたりに世화에費やす時間については、「1時間以上3時間未満」の割合が最も高く 36.2%、次いで「1時間未満」、「3時間以上5時間未満」となっている。

図表 171 平日の世話時間



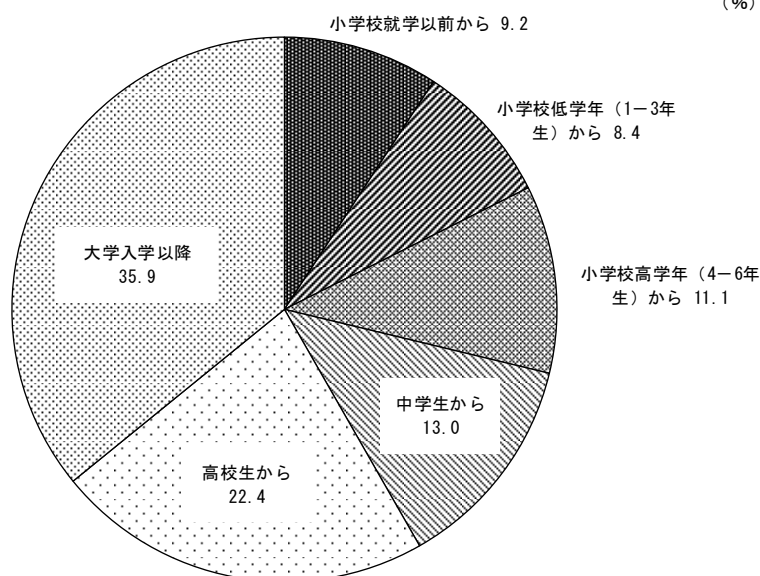
②⑥ 世話を始めた時期

世話を始めた時期については、「大学入学以降」の割合が最も高く 35.9%、次いで「高校生から」、「中学生から」となっている。

図表 172 世話を始めた時期

n=987

(%)



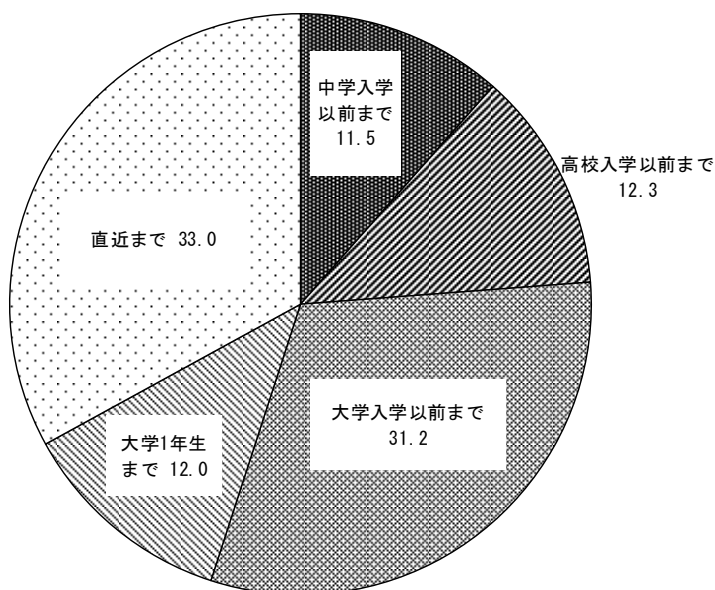
②⑦ 世話をしていた時期

「現在はいないが、過去にいた」人の世話をしていた時期については、「直前まで」の割合が最も高く 33.0%、次いで「大学入学以前まで」、「高校入学以前まで」となっている。

図表 173 世話をしていた時期

n=391

(%)

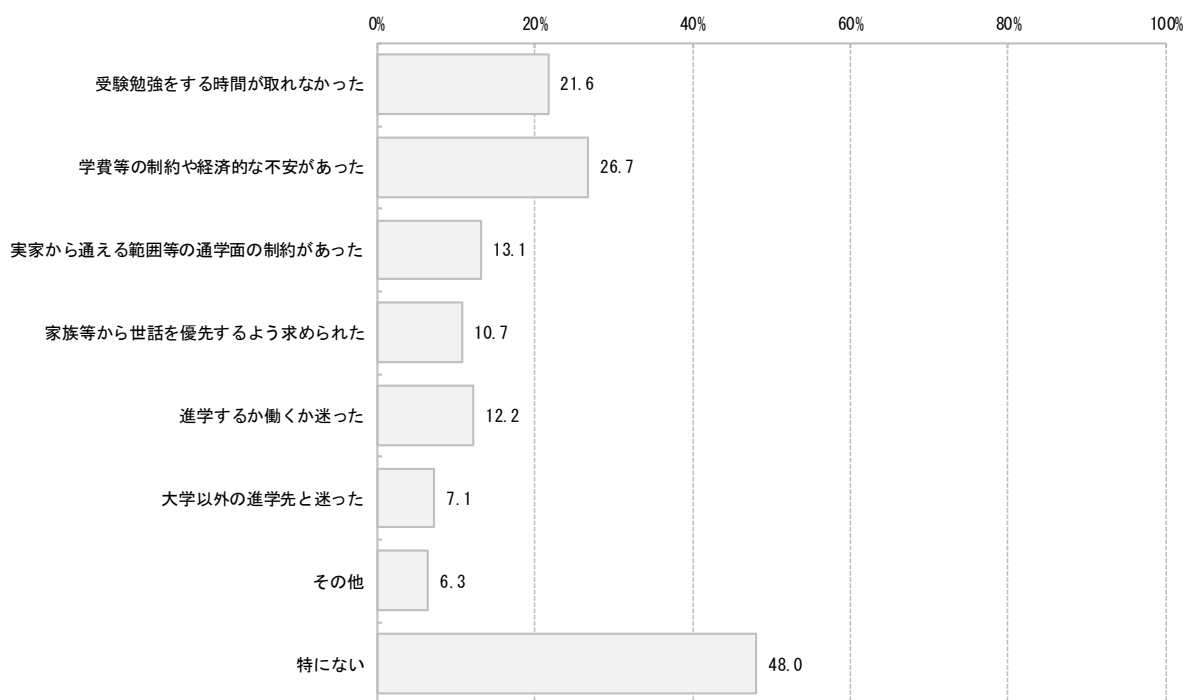


⑳ 世話をしていることで、大学進学の際に苦勞したこと・影響

世話を始めた時期が大学入学以前の方に、大学進学の際に苦勞したこと・影響について聞いたところ、「特にない」を除くと、「学費等の制約や経済的な不安があった」の割合が最も高く26.7%、次いで「受験勉強をする時間が取れなかった」、「実家から通える範囲等の通学面の制約があった」となっている。

図表 174 世話をしていることで、大学進学の際に苦勞したこと・影響

(n=633)

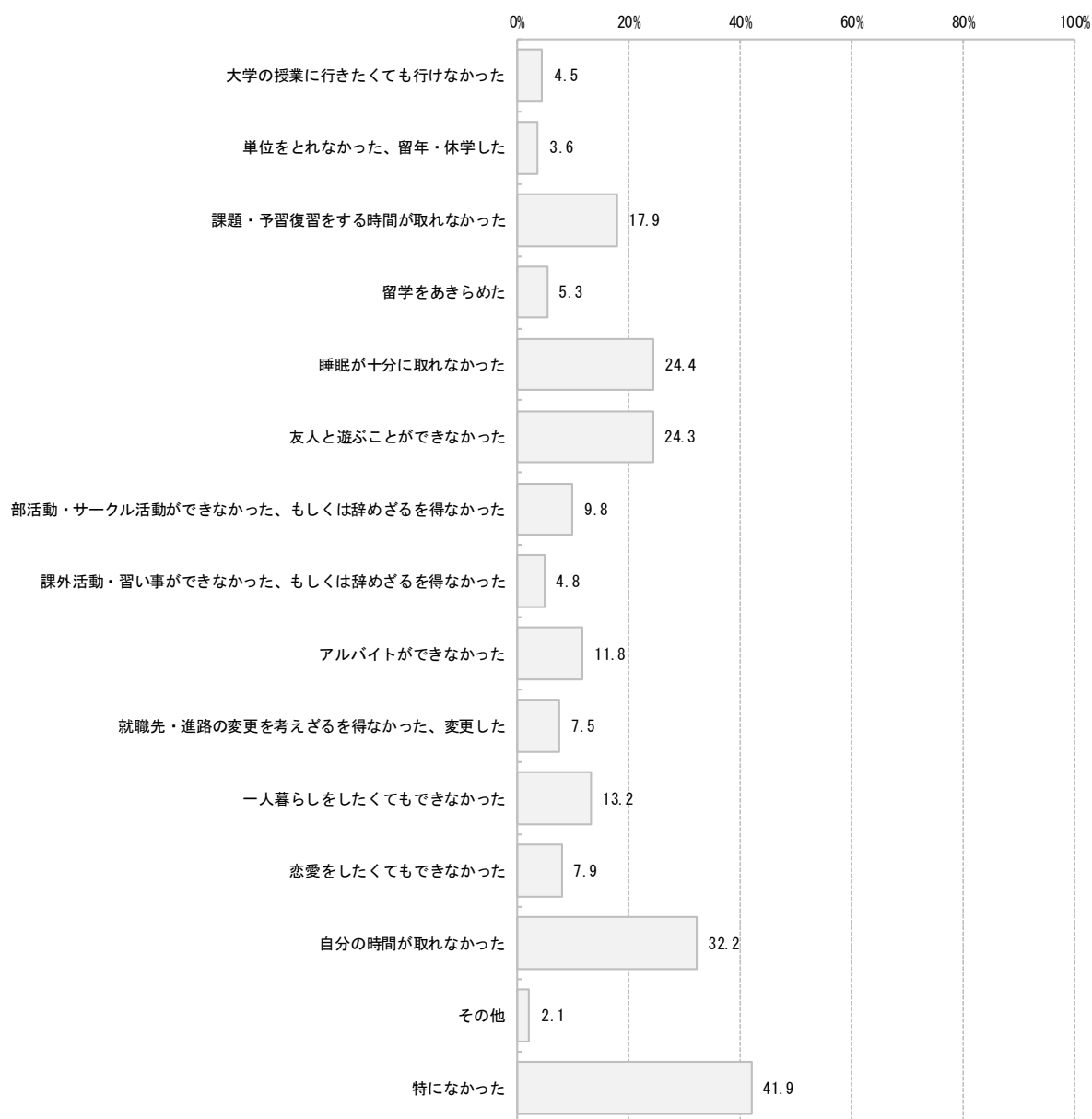


②⑨ 世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと

世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたことについては、「特になかった」を除くと、「自分の時間が取れなかった」の割合が最も高く 32.2%、次いで「睡眠が十分に取れなかった」、「友人と遊ぶことができなかった」となっている。

図表 175 世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと

(n=987)

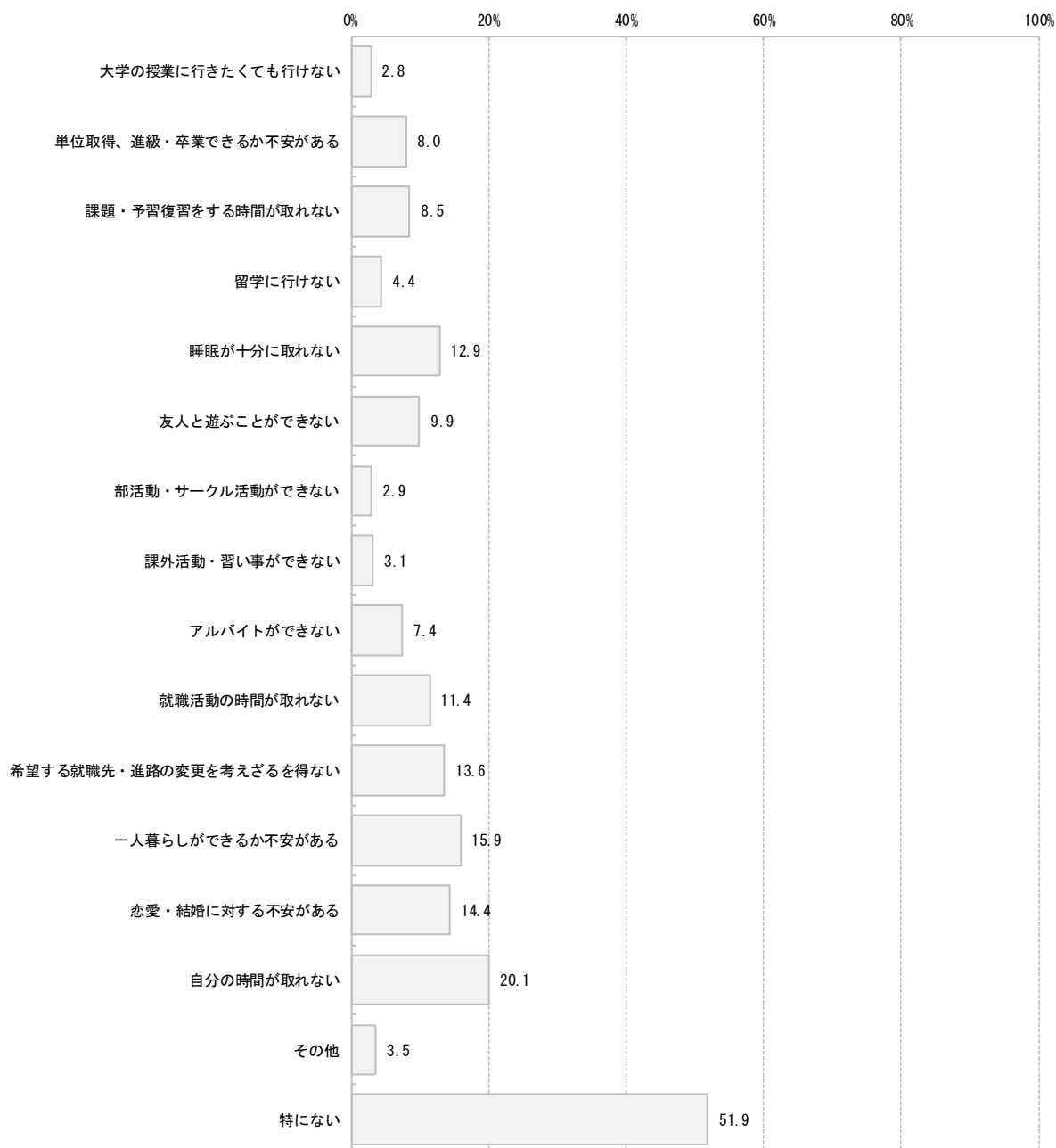


③⑩ 世話をしている(していた)ことで今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなこと

世話をしている(していた)ことで今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなことについては、「特にない」を除くと、「自分の時間が取れない」の割合が最も高く 20.1%、次いで「一人暮らしができるか不安がある」、「恋愛・結婚に対する不安がある」となっている。

図表 176 世話をしている(していた)ことで今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなこと

(n=987)

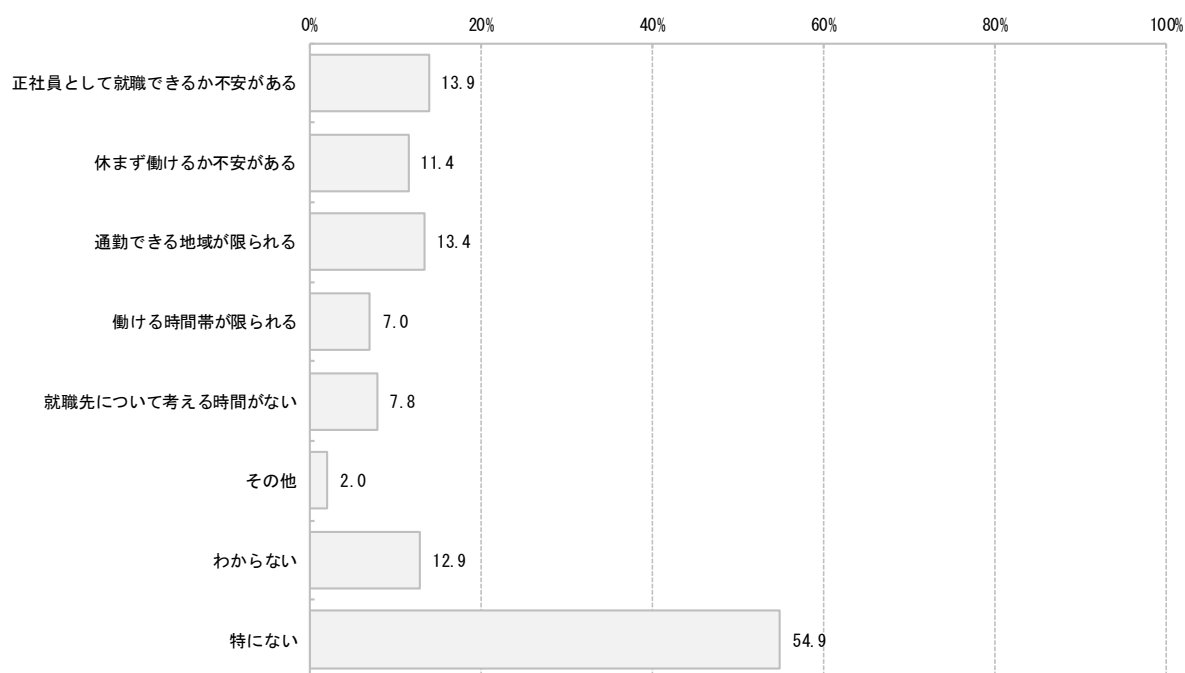


③① 世話をしていることで生ずる就職に関する不安

世話をしていることで生ずる就職に関する不安については、「特にない」を除くと、「正社員として就職できるか不安がある」の割合が最も高く 13.9%、次いで「通勤できる地域が限られる」、「わからない」となっている。

図表 177 世話をしていることで生ずる就職に関する不安

(n=987)

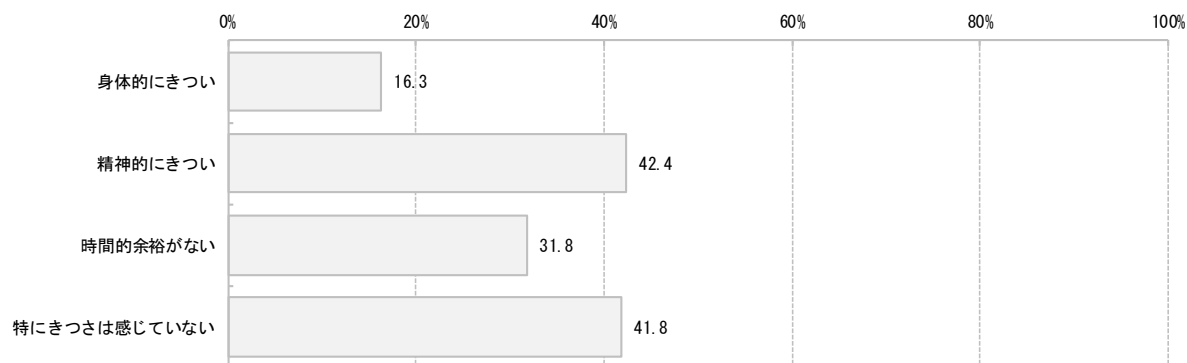


③② 世話をすることで感じるきつさ

世話をすることで感じるきつさについては、「精神的にきつい」の割合が最も高く 42.4%、次いで「特にきつさは感じていない」、「時間的余裕がない」となっている。

図表 178 世話をすることで感じるきつさ

(n=987)

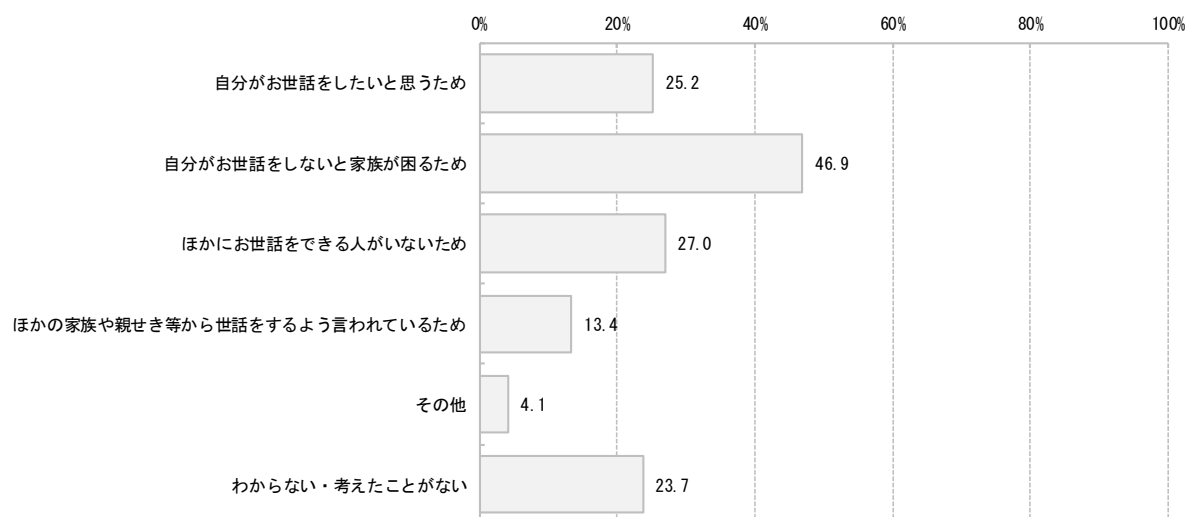


③③ ご自身が世話をする理由

ご自身が世話をする理由については、「自分が世話をしないと家族が困るため」の割合が最も高く 46.9%、次いで「ほかにお世話をできる人がいないため」、「自分がお世話をしたいと思うため」となっている。

図表 179 ご自身が世話をする理由

(n=987)



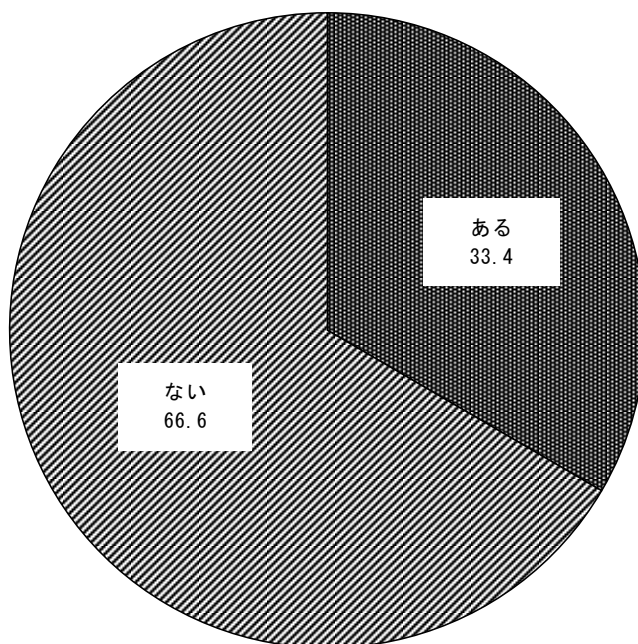
③④ 世話について相談した経験の有無

世話を必要としている家族のことや世話の悩みを誰かに相談したことはあるかについては、「ある」が 33.4%、「ない」が 66.6%となっている。

図表 180 世話について相談した経験の有無

n=987

(%)

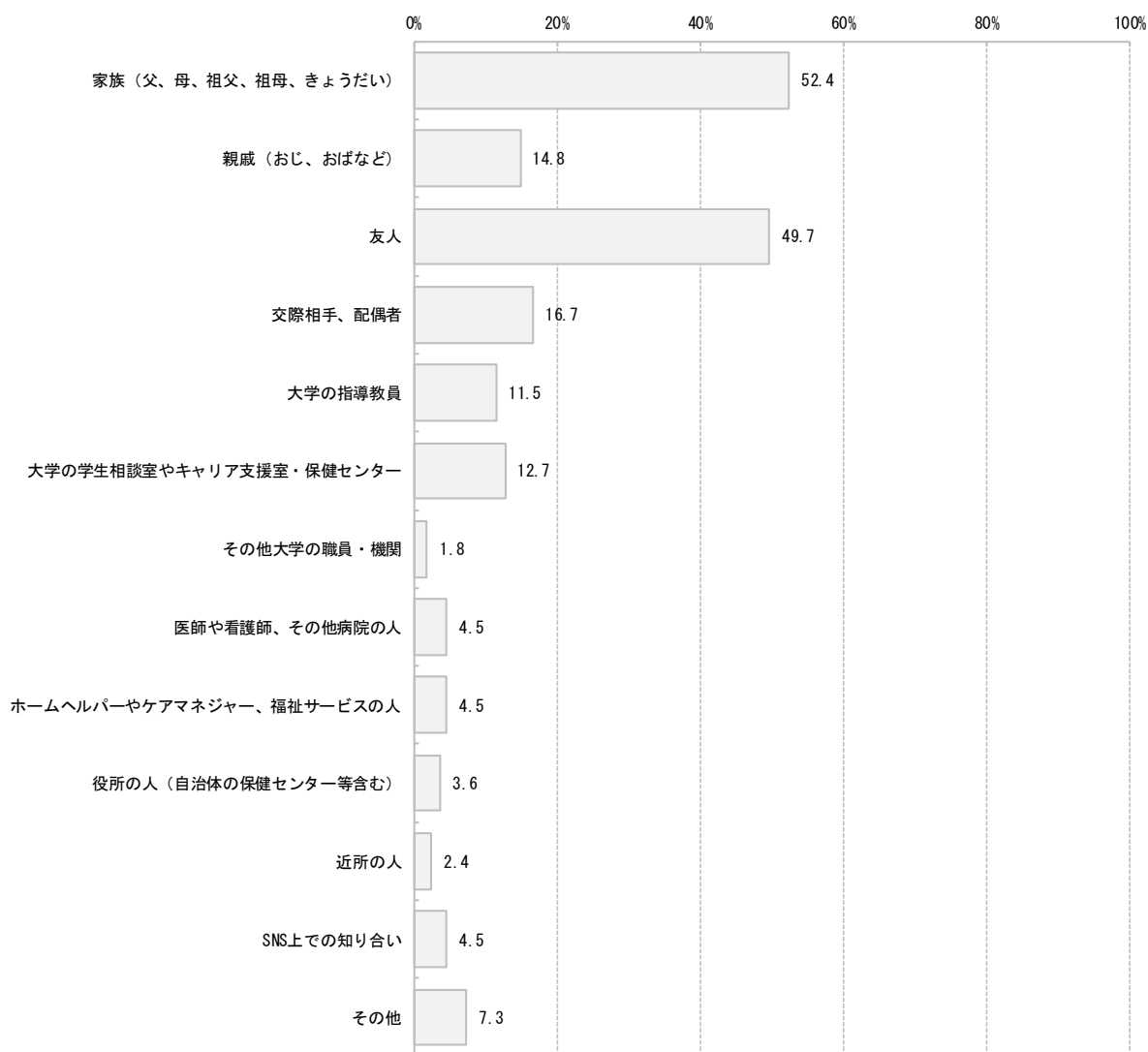


③⑤ 世話についての相談相手

世話についての相談相手は、「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」の割合が最も高く52.4%、次いで「友人」、「交際相手、配偶者」となっている。

図表 181 世話についての相談相手

(n=330)

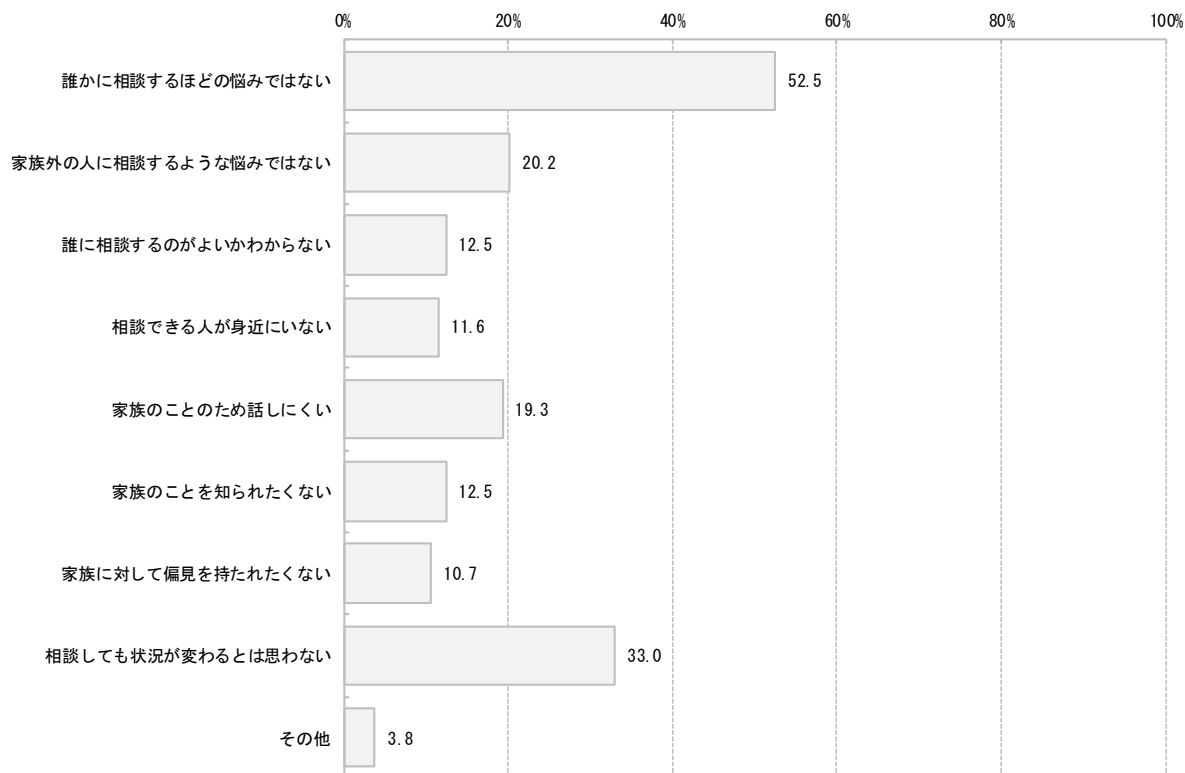


③⑥ 悩みを相談していない理由

世話について相談した経験が「ない」と答えた人に悩みを相談していない理由を尋ねたところ、「誰かに相談するほどの悩みではない」の割合が最も高く 52.5%、次いで「相談しても状況が変わると思わない」33.0%、「家族外の人に相談するような悩みではない」となっている。

図表 182 悩みを相談していない理由

(n=657)



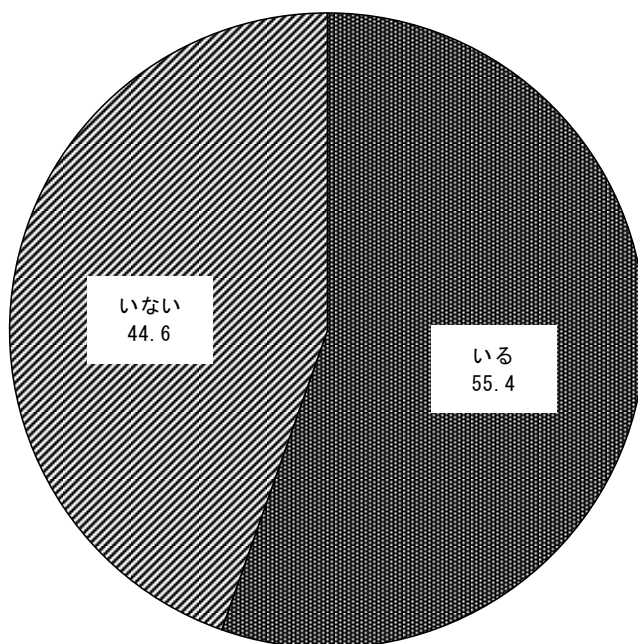
③⑦ 世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について相談した経験が「ない」と答えた人に、世話を必要としている家族のことや、世話の悩みを聞いてくれる人はいるかについて聞いたところ、「いる」が 55.4%、「いない」が 44.6%となっている。

図表 183 世話について話を聞いてくれる人の有無

n=657

(%)

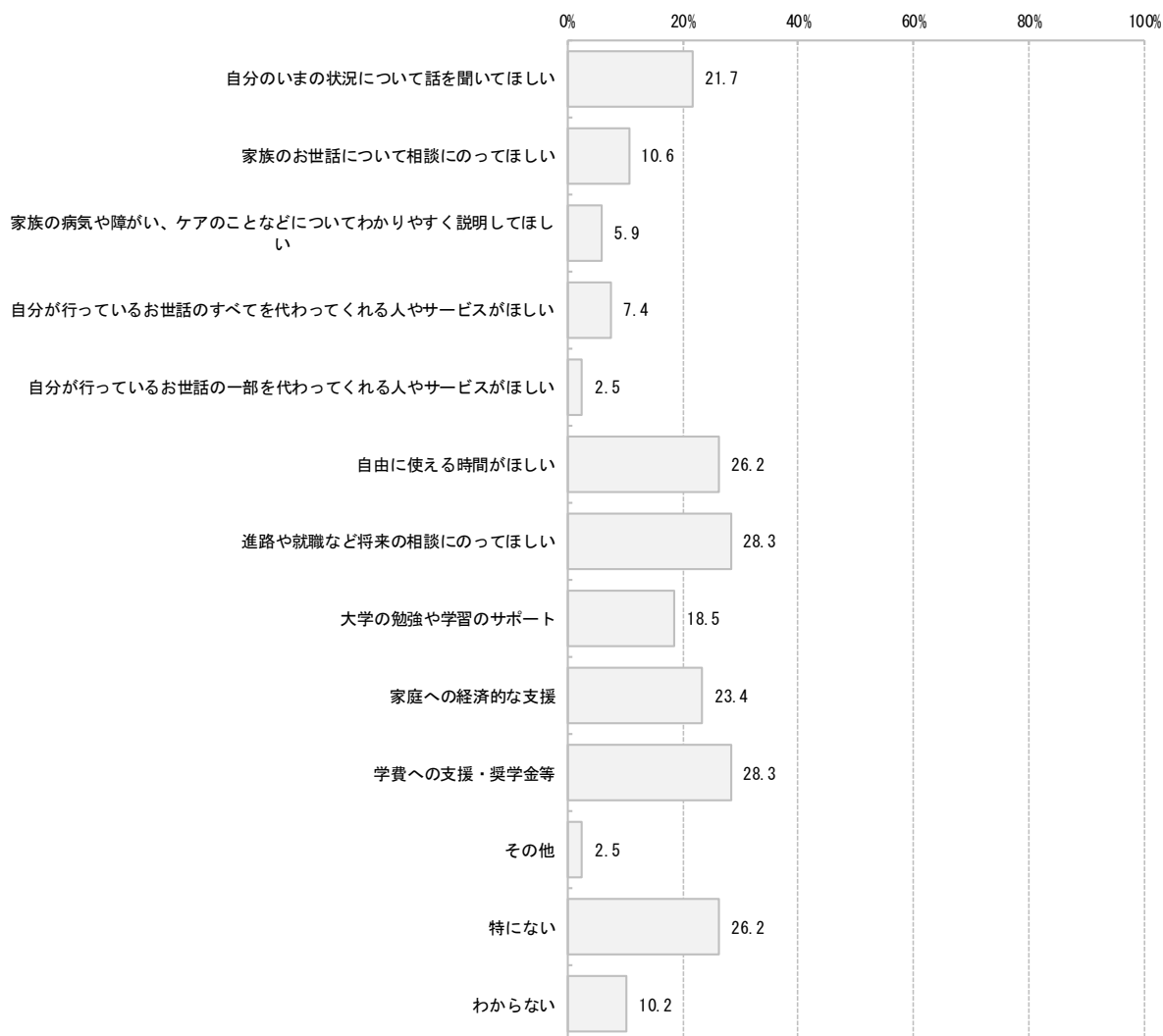


③⑩ 大学や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援

大学や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援については、「特にない」を除くと、「学費への支援・奨学金等」、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」の割合が最も高く28.3%、次いで「自由に使える時間がほしい」となっている。

図表 184 大学や周りの大人に助けとほしいことや、必要としている支援

(n=987)

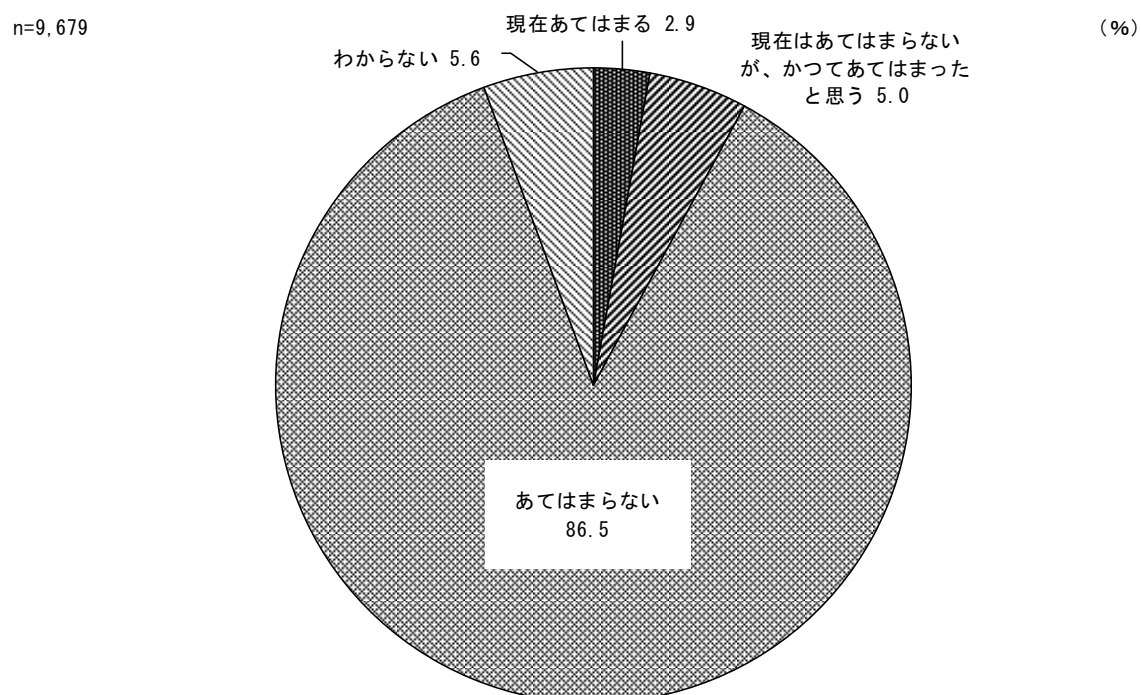


(4) ヤングケアラーについて

③ 「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」の自覚

ご自身が「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」にあてはまると思うか聞いたところ、「現在あてはまる」が 2.9%、「現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う」5.0%となっている。「わからない」は 5.6%いる。

図表 185 「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」の自覚



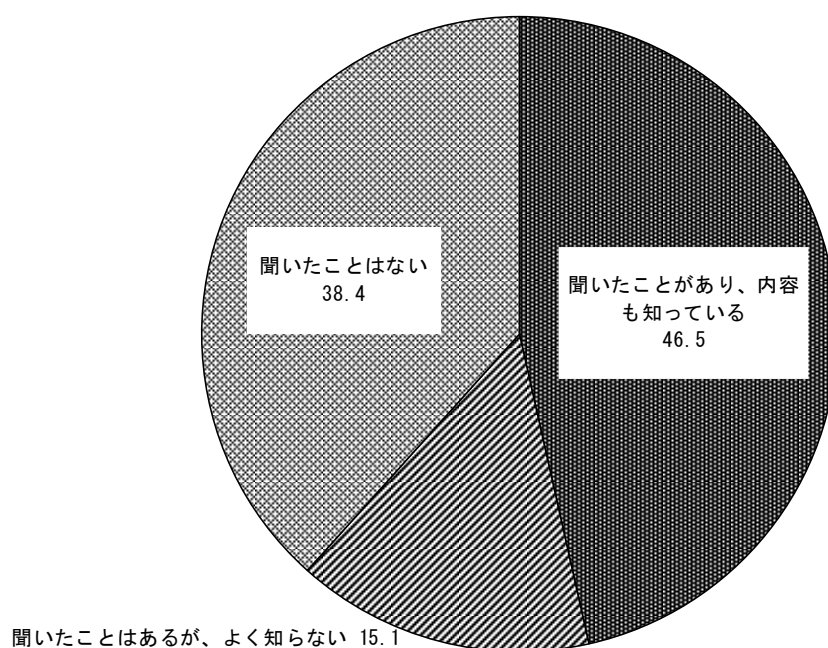
④⑩ 「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」という言葉の認知度

「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」という言葉をおこれまでに聞いたことがあるか聞いたところ、「聞いたことがあり、内容も知っている」の割合が最も高く46.5%、次いで「聞いたことはない」、「聞いたことはあるが、よく知らない」となっている。

図表 186 「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」という言葉の認知度

n=9,679

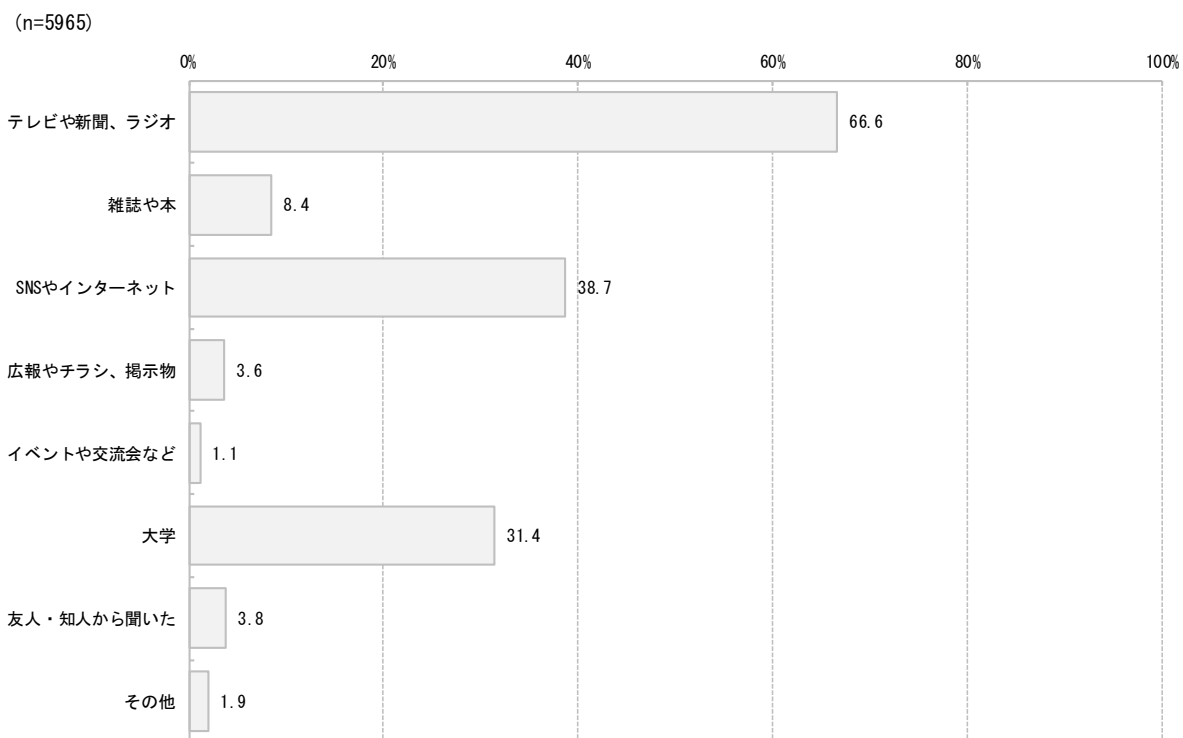
(%)



④ 「ヤングケアラー」という言葉を知ったきっかけ

「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか聞いたところ、「テレビや新聞、ラジオ」の割合が最も高く 66.6%、次いで「SNS やインターネット」38.7%、「大学」31.4%となっている。

図表 187 「ヤングケアラー」という言葉を知ったきっかけ



④② ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことや、要望

ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことや、要望についての主な自由回答は下記の通り。

※原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

図表 188 ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことや、要望

世話をしている家族が「現在いる」人の自由記述

60 件抜粋(180 件中)

(ア) 相談体制の充実、相談しやすい・話しやすい環境づくり

当事者としては、とにかくどこに相談していいかわからない。精神面の不調の相談に乗ってくれるだけでなく、介護者としての悩みに答えてもらえたり、要介護の家族がいる家庭環境に理解があったり、専門知識のある人を探すのが難しいと感じる。

SOS に気づける大人が周りにいることが必要だと思う。助けを求めたくても求められなかったり、自分が苦しいことに気づいていない人もいるのではないかと感じる。

ヤングケアラーの方々が気軽に相談できる場や、ケアラー同士で悩みを打ち明け合うような場があると良いと思います。

ヤングケアラーが未成年の場合には、さまざまな支援制度があってもそれを利用できることを知らない、知る手段がないことがあるため、手厚いサポートが必要になると思う。

ヤングケアラー＝支援と考えるのは少し違う。どんな病気や障害があっても大切な家族。学校でアンケートをとったり先生の理解・配慮が必要。頑張っているねとか、ただ受け入れてほしい。しんどいときに話を聞いてくれて、困った時にサポートしてくれたり、逃げ場所や拠り所があるといいのかなと思う。

(イ) 子どもたちの意見を伝えられる環境づくり、意思の尊重

自分がヤングケアラーであると言い出せずにいる人がほとんどであり、わたしもそうである。家族の「せい」にしているわけではないが実際自由な時間はほとんどなくなってしまっている。メンタル的にも負担が非常に大きいので、さまざまな方面からのサポートをしてほしい。

まずこのような子供がいることを世間に広める。またこのような子供たちにも希望や、やりたいこと、目標があるはずだからそれに向かっていけるように、障害者病気の人を支援する人たちを増やす

ヤングケアラーの自覚を持つ機会を設けることが必要だと思います。当事者は自覚がなく、これが普通だと思っているように思うからです。

ヤングケアラーは支援が必要でもなかなか声を出せないと思う。どうせ何も変わらないと思っている子も居ると思うので、そんな思いをさせないような支援になればいいと思う。

介護などを行なっていることは同年代に相談したところで共感してもらえないし当時は諦観していた。特に自分のキャパシティをオーバーしなかったのだから今までこなしてきたが匿名で電話できたりメッセージを送れたら楽。

(ウ) 大学・学校におけるサポートや配慮

特に小中学校においては自分の状態を相談するという発想すらない場合がある。定期的にヤングケアラーについての周知を図り、相談する機会を多く設ける必要がある

自分からヤングケアラーだと言うことや、そもそも自覚していない場合もある為、学校でアンケートをとったり面談をして、その子にとって何が幸せなのかよく聞き、それぞれに合うサポートをしていくべきだと思う。

学校や新聞、テレビなどで「ヤングケアラー」について広め、本人が自分以外にもケアを担っている人がいることを自覚し、自分だけではないと思えると良い。また、学校等の教員や相談室はいつでも気軽に相談できるような環境だと良い。さらに、無料もしくは安価でケアの援助(家政婦さんやヘルパーさん)をしてくれる人を頼れると良い。

自身がヤングケアラーであると気付かせ、適切な支援を受け入れられるよう、学校教育などに取り入れて周知するべきだと思う。

自分の思い、考え、家庭状態を気軽に相談できるように学校が調整を行う。またヤングケアラー等に対してはケアによる欠席早退遅刻の救済措置をとる。

ヤングケアラーという言葉、内容がより多くの人に知ってもらえるといいなと思います。小・中学校では、教師が児童生徒の家庭での実態をきちんと把握し、意識してみてあげる必要があると思いました。

(エ) 周囲の大人の理解や寄り添い

本人が希望しなければヘルパーやデイサービス等公的支援を受けることが出来ないところを何とかして欲しい。家族側は負担に感じていても本人のプライドが高く、デイサービス等を受ける事を恥だと思っていて拒否するので負担が減らない。

ヤングケアラー(若者ケアラー)はケアをすることが当たり前の環境で生活しているため、自分がヤングケアラー(若者ケアラー)に当たると気づいていないことが多いと思う。ケアラーであることを周りが教えて支援の手を伸ばす必要があると思う。

より多くの人にヤングケアラーという現状に立たされている人がいることを理解してもらい、サポート会社を雇うなど検討をすることで若者に明るい未来をもたらす可能性があるということを広める必要がある。

「ヤングケアラー」という言葉自体が浸透していないように思うし、友人同士でもかなり親しくならないと話を聞いて欲しいという考え自体抱かないと思う。まずはより多くの人にこのような人々がいることを知り、理解しようとするような動きが必要だと思う。

支援が本当に必要な人は、その支援に手を伸ばす余裕もないため、保健師など行政側から新生児訪問のように全世帯をまわり、生活状況を把握し、支援が必要となる世帯に関わっていく。

(オ) 経済的な支援

金銭的支援策、若者向けのヤングケアラーについての講演会(説明会とかを行う)、説明会などを行った際、どんなところで助けを借りられるかを資料とともに説明する。小学校の低学年にも説明はきちんとおこなう。

経済面が大きいと思うから、申請が簡単にできる金銭的な支援。

経済的な支援はヤングケアラーの負担を減らすために1番重要なことだと思います。経済的に余裕がないとヘルパーや訪問看護などを利用できないというきびしさがあります。私の家庭は弟が寝たきりで付きっきりでの介護が必要なため、母は自由な時間はほとんど無いと言ってもいいです。しかし経済的な理由から訪問介護を頼めるのはせいぜい週に一回です。これがもう少し増やせれば母の時間を確保できるのになとよく思います。これは精神面にもつながることだと考えています。自分の時間を増やせれば心に余裕も生まれます。経済的な支援は、心の余裕、時間の余裕を生みます。

家庭の経済的な支援。金銭問題で進学を諦めるとかがないようにしてほしい。18歳まで給付金が出るが、大学生もお金がかかるのは同じ。せめて、22歳まで給付金がほしい。

今後少子高齢化が進みヤングケアラーが増えていくと思うので、一定以上の自由な時間が確保できない子供に一定の金額を配布すべき。

(カ) 普及啓発に向けて必要なこと

地域でこういう家庭を見守るボランティアや民生委員などの地域住民、学校、病院等とネットワークを繋げて、現状の子どもたちの負担を軽減することと、幅広い世代に知ってもらうにはそのツールも多方面からアプローチして活用していく必要があると思います。その為、地域の比較的年齢層が高い方々には地元の掲示板や新聞、テレビなどの手段を用いて、若年層にはYouTubeやTwitter、Instagram等のSNSの活用を検討すべきだと思いました。

まずヤングケアラーの子たちを見つけてほしい。自分から気づいて助けを求める子たちは少ないと思う。その後に個々の求めるものに対応や支援をしてほしい。また、その子自身の肉体的・精神的ケアも含め保護や見守りをしてほしい。気づいてないだけで苦しいししんどいと思うから。

まずヤングケアラーという言葉の認知度を上げることからだと思います。メディアで積極的に取り上げるなどして、幅広く知られることで対応を考える人々も増えてくると考えます。

若者に対してもっと行政の支援があることを教えて欲しい。自分の家庭にあった支援があるのかなのか、どこに行ったらどんな申請をすればいいのか親に頼れない子供にできることをもっと教えて欲しい。

SNS やテレビなどの一部では取り上げられているが、自分から知ろうとしないと知ることができない。祖母は私が介護をするしかない状況を見て見ぬふりしている。やりたくない。大学も休みたくないし、助けてほしい。市役所や町役場、新聞などで紙で配るものを増やしてほしい。新聞の折り込みチラシや回覧板などでインターネット以外でも情報が入手できるようにしてほしい。

(キ)その他の要望・支援

こういった面倒を見る事やお世話により、溜まる母親や自身のストレスがあり体調不良になることが今年は特に多く感じ、コロナもあり、精神的不安をとて感じる事が沢山ありましたので、学校側にもこういったヤングケアラーの存在をより認識して欲しいと思いました。よりカウンセリングが身近に感じられるようになってほしいです。(相談回数が限られたり、有料だったり、返信が返ってこないなど、学生としてカウンセリングはまだハードルが高く感じてしまいます)

前提として、ヤングケアラーは自分自身が保護されるべき立場であり、学生は学業に専念すべき身分であり、働いている社会人は慣れない仕事で多忙を極める状況下にありながら、家族のケア責任も担っている。そのような子ども・若者の支援には、まず実態把握が必要である。外には軽く話せない話題であるため、孤立しているケースも多くあるだろうと感じる。状況はこのようなアンケートでも分かるが、ケアラーの気持ちというのは話を聞かないと分からないのではないと思う。 家族をケアする生活というのは、自分がその状況を受け入れ、自分が直接ケアに関ろうという意思があるから成り立っているところもあると思う。そのため、本人の負担感に応じて求める支援を入れることが大切なのではないかと考える。一方、環境が変化したタイミングで、いろんな理由からケアのバランスが崩れると、その生活の維持が難しくなる。特に、学校の最終学年では、ケアする家族の存在というのが、進路の選択肢を狭めることになりかねない。自分のことに専念するために、家族のケアから一時的に・継続的に離れることもできる環境を整えていくというのが、機会の平等に繋がると感じる。

私は 22 歳になるまで、自身が「ヤングケアラー」であるということを自覚できていませんでした。なぜなら、家族のお世話は当たり前であると感じていたからです。多くの若者がそのように感じているのではないかと考えられます。そこで今後より多くの大学や公共機関などで広報を行うことや、新聞などでもヤングケアラーの経験者の声などを取り上げてもらいたいと思います。また、地域の市役所などで気軽に相談できる場所があればいいなと思います。

自分が主体的に動かなければならない事だと思ってきたので、ケア責任を引き受けているというような認識がなかった。だからこの画像を見ただけでも衝撃を受けて、当たり前ではなかったんだと気づけたので、もっとヤングケアラーという言葉とこの画像が人目に触れるようにしたら、心が軽くなる人も増えると思います。

「手伝いがたくさんできる子供＝偉い、正しい」という考えを変えていく必要があると思います。確かに手伝いができるということ自体は素晴らしいことです。でもその考え方のせいで、本人にとって手伝いが負担で嫌だと感じることや手伝いをしない選択をすることに罪悪感を持たせた

り、手伝いたくないという気持ちに蓋ををしてしまっただけで知らず知らずのうちにストレスが溜まっていくというのは絶対になくさなければならないと思います。
義務教育の段階から部活動や勉強時間確保など他の子が当たり前に行っていることができない状態であり、それを先生たちも理解してくれない、生きるのに精一杯なのに、成績だけでがんばってない子と思われるつらさをわかってほしい。また、高校生活でも日々何気ない友達や教職員との会話で経済的な問題が故に傷つくことも多く、その上、修学旅行費もアルバイトで稼ぎ、大学受験前は入学費のためにアルバイトを掛け持ちで働いた。模試の費用が足りず、受けなかった時、理解のない先生から「チャレンジ精神がないな」と言われ悔しかった。ここに書ききれないほど普通の学生生活を送ることが難しいことを理解して欲しい。ここまで頑張っても大学生になれても、就職後、多額の奨学金の返済や、今後の経済的問題から留学などたくさんの挑戦の機会を手放さなくてはならないことが多い。また、精神的に自分を追い詰めてしまうことも多く、どうあがいても困難ばかりでマイナスからゼロになるまでが遠すぎる、他の人よりも普通手に入れることが難しすぎると感じる。上記のことなどから、①奨学金返済を免除してほしい ②精神面の支援に力を入れる等、理解してほしい
自治体の方から、ヤングケアラーがいる可能性のある世帯への聞き取りを行なうことと、支援を受けたいと思えるような内容とPR方法を用意することが必要だと思います。住民票や世帯を見ることができる自治体は唯一ヤングケアラーがいる可能性を考えられるので、自治体からのアプローチは不可欠だと感じます。また、ヤングケアラーがいるということは、大人が長時間労働に出ていることや労働できる大人が少ないということが考えられるので、貴重な時間を割いてでも支援を受けたいと思わせるようなPRと内容の用意が必要だと感じました。
きょうだい児の会や家族の会などがありますが、話をするだけで具体的な支援を受けられることがありません。カウンセリングなども話は聞いてくれるけど将来への不安が解決されるわけではないのであまり意味を感じられません。ヤングケアラーが経済的に自立できるような、家族と縁を切ったり、距離を置けるようにする支援が欲しいです。
ヤングケアラーの仕事をそのまま引き受けるヘルパーとか職業があったほうがいいと思う。自分のやりたいことが親のせいできないというのはあまりにも悲しい。怒りのぶつけどころもない。
世帯所得に関係なく、ヤングケアラーを支えるシステム、代行してあげるシステムが必要。
片親や祖母・祖父に育ててもらっている人がヤングケアラーになりやすい傾向にあるのではないかと考えられるのでそういった世帯に可能な限り、今回のようなアンケートを実施して現状を把握すると共に進路に影響が出る場合には支援をする必要があると考えます。
ヤングケアラーという言葉の知名度をあげる スクールカウンセラーへの相談を促す アウトリーチ的な支援
ヤングケアラーに対する周囲の理解を深め、精神疾患や障がいのある人たちへの差別をなくしたい。学校現場における教職員のヤングケアラーに対する認知度の向上や研修などを制度化

し、ヤングケアラーだと思われる子どもを早期発見することが必要だと思う。子どもたちが進学や就職の時に自分のやりたいことを犠牲にすることがないようにヤングケアラーに対する経済的支援や学費の減額など制度を確立してほしい。

ヤングケアラーの実態調査と積極的な支援が必要だと思います。ひとり親家庭などサポートできる人が限られた環境で問題が生じていることが多いと考えられます。この場合、問題は家族のケアだけに限りません。経済的支援や、ヤングケアラーについて理解を深めること、さらにはコミュニティ作りを行っていただきたいと存じます。イギリスではヤングケアラー支援が進んでおり、学校のサポートやコミュニティの活動も盛んに行われているようです。

ヤングケアラーへの支援を広げていくために心理面や経済面、学習面のサポートを受けられるという情報を発信することが必要だと思います。市の援助やサポート出来る社会であってもその情報を知らなければ支援がないのと同じです。支援を構築するだけでなく、情報を発信できる学校や医療機関、職場でヤングケアラーの情報を適宜発信すべきだと思います。また、YouTube 等の媒体を使い、ある程度知名度があり人気の YouTuber に発信して頂くこともヤングケアラーの情報を発信することに繋がると期待できます。

ヤングケアラーへ支援を広げるために必要だと思うことは、この現状をより多くの人に知ってもらえるような機会を用意すること、又、地域に住む人に対して協力を要請することができる環境作りだと思います。最近 TV の CM で昔祖父にお世話になった子どもが大きくなったときに、祖父の身体機能が衰え介護をしなければならなくなったというのを見かけたのですが、介護というのは実際に自分がそれを担うようにならなければ興味関心を持たず、蚊帳の外のことととどめてしまうことが多いのではないかと考えます。なので、ヤングケアラーについて新聞や TV を通して知ってもらったり、講演会を開いてより実践的に学ぶ必要があるのではないかと考えます。何かしらのきっかけで知ることができれば支援してみたいと考える人も増えるのではないかと思います。又、地域の人に支援を依頼する場合には、自分が住む地域においてのヤングケアラーをしている子どもがいる事実を伝え、対象者を救える方法を一緒に考察していったり、積極的に支援に取り組む姿勢へと導いていくことが大切になると考えます。一人でも多くの人が動けば、それだけ救える人も増えていくと思います。

月に 1 回など多い頻度で全若者に Web 上でアンケートを取るか、Web 上で悩み相談できる場を設ける。状況が酷い家庭に対しては、何か専門家の手を貸してあげるか、サポートしてあげる配慮を設ける。もっとヤングケアラーへの理解を促すような授業を全若者が受けれるようにする。

健康な主たる養育者のメンタルヘルスケアを中心とした支援を早期に行ってほしい。成人してから自分が幼少期に沢山我慢し、家族のケアで疲弊した養育者から八つ当たりのように心理的負担を負わされていたことに気づいた。成人してから自分があるべき家庭を築き人生を送れるか不安である。そして大人だから 1 人で支援できるわけではないため、その点もサポートがほしい。加えて父が一級身体障害者にも関わらず障害年金を打ち切られた。医師からも納得

できないと言われ再度申請を試みているが、それにより経済状況は圧迫され、一時期は受診もできず症状は悪化し必要とするケアが増えた。適切な金銭的支援が行き渡るよう、障害年金等の申請に際し、不要な制限や条件等の見直しを要求する。

小中学校、高校、大学の出席日数制ではヤングケアラーは単位や成績、授業態度点が悪いと思う。理由は部活や補習、課題などは子供などが家事をしていない家庭を前提として出されている。課題や部活を進める側は家事や洗濯、バイトしているとは夢にも思っていない。「どうせ家でゴロゴロしているだろう、勉強しないだろうから取りあえず出しておこう」ということでやっていると思うからである。また大学も働きながら通えるのは夜間部など特殊な部だけで大多数は高校卒業後、全日制の大学に通うから同調圧力を感じる。だから中学高校卒業後に一度社会に出て働くなどいろんな選択肢があっても良いのではないかなと思う。

障がいを持つ家族や、複合的な不利を抱える家族は、おそらく社会に沢山存在する。そして、現日本では、公助を縮小する代わりに、共助としての家族内での対応が迫られている。私の場合は、知的障がいを持つ弟がいることで、周囲にその存在を打ち明けにくいといったスティグマや、一緒に公の場への外出を避けるといったことがある。また、親が年老いた場合の、経済的、生活的負担は自分が全てを負担しないとダメなのか、という不安もある。結婚する時も、相手の家族や両親から偏見の目で見られるのでは、という心配もある。もっとも肝要なのは、これらの複合的な不利を背負った上でそれでも生きていかなければならないということ。そして、一緒に生きていくインセンティブを考えにくいということ。知的障がい児を育てることの途方もない負担やストレスを、ずっと親を見て学習してきた。それゆえに、もし自分の子が障がいをもっていと分かった場合、出生前診断で堕ろすことを選択するかもしれない。それだけ、障がいを持つ家族を抱える当事者にとって、今の社会はまだ生きづらい。公助の充実によって、障がいを持つ家族でも、社会で生きていくインセンティブが欲しい。

親などのケアは本来子どもがすべき仕事ではないので、民事不介入と言わず公的機関が積極的に介入してほしい。経済的な支援だけでなく、子が家族の世話から解放され、あるべき幼少期を過ごせるように強い施策を求める。また、精神的なケアをしている場合、児童虐待も併発している可能性があるため、早急に対策してほしい。さらに、かつてヤングケアラーだった大人の自立支援を、経済的にも精神的にも行ってほしい。身体は大きくなって何とか生活しているように見えても、心の傷は癒えないと思う。ヤングケアラーとひとくりにされているが、各々異なる経験をしてきた人たちだと考えられる。それぞれに合った幅広い支援を継続的に行ってほしい。そして、ヤングケアラーはまだ知名度の低い言葉であるため、まず必要なのは啓発活動と広報だと思う。

上記のような状況にいる子どもがいるかどうかを、所属団体(学校でも部活でも外部でも)のなかで把握することが必要なように思う。まずは理解を得ることが大事だろうし、大変なんだ、と弱音を吐ける場所を作ってあげてほしい。また、現実的に難しいのはわかっているけれど、「何か困ったことがあったら相談してね」だけではなくて、こういことで困っていませんか？とアンケ

ート式で答えてもらうようにするとケアラーからすると相談がしやすいように思う。もちろん話したくないときはその意思を尊重してほしいけれど、話すこと＝弱音を吐くこと＝迷惑をかけること、と思ってしまう人もいると思うので……。そうやって聞き出したことから必要な支援を新しく紹介することもできると思う。また訪問看護やヘルパーの方とケアラーが話すことも重要で助かることだと思っている(話の中から新しく支援;例えば道具をレンタルするとかを始められる)から、世話される側とだけでなく、世話をする側同士のコミュニケーションも大切にしてほしいと思う。

兄弟の世話に関していえば、親が生活費のために一日を仕事に費やしていることなどが原因であると思うので、ダブルワークやトリプルワークをしなくてもそれなりに安心して生活出来る経済的余裕をシングルマザー宅等経済的に困窮している家庭が中心となり持てるように国が支援を手厚くし、経済を発展させていくべき。

私には要介護3の父親がいる。父親が倒れてからは、パート勤務の母親が家族を支えていて、体力面精神面ともに苦しい状態である。現在は正社員になったが生活は切羽詰まっている。弟が中学生で妹が大学生。父親に手が掛かりっきりで、将来も見えない。私達ヤングケアラーに必要なのは、心の余裕だ。同情の言葉でも、相談相手でもない。もっと支援が具体的に、家族が心と体を休めるような家庭環境が私達ヤングケアラーには必要である。

家族内で病院を受診する人が出た際に家族構成や日常的に世話をしてくれている人間を聞き出し、その人間に対して直接聞き取り調査を行ってほしい。誰に相談したらいいかもわからないし家族だから嫌いになれないけれど、自身の時間だけが吸い取られて行ってしまう。また、今の行政の支援についての知識や気遣うべきことなどの常識を「病院を定期的に受信している人」と「その同世帯に暮らす人向け」で与えてほしい。私事ですが、母が病気で定期的に体を壊しそのたびに面倒を見ていてそれが受験や就職に毎回影響を与えています。最近では「ヤングケアラーになっちゃうかもね。」「世話してくれる?」といった発言をされ今後も自身の人生に影響を及ぼし続けるのかと考えるととても怖く感じています。

自分と同じような立場の人が他に大勢いることをつい最近まで知らなかった。ヤングケアラーと言う言葉を知ったことで自分の置かれている立場は異常だと言っていいのだと分かったが、だからと言ってどうすることもできないと感じる。これまで自分のやってきたことを代わってくれる人もいないし、相談したことのある家族は離れて暮らしている為何の助けにもならない。結局どう考えても今の生活は変えられることはないと思う。このようなアンケートを実施されているが、それで自分達のような人間の状況が改善するのか疑問に思う。相談先を作ってもらったところで実際の生活は何も変わらないので、実質的な助けになるものをお願いします。

気持ちがいっぱいいっぱいになってしまい、それを吐き出す場所がない人が多いので、相談にのってくれるようなサービスを強制的につけるべきだと思う。強制的でないと、人に頼ることが苦手な人は自分で頑張り続けてしまうので、そのようにしたいと考えた。また、無償で家事または介護を代行してくれるようなサービスがあると利用しやすいと思った。

ヤングケアラーだと自覚せずに、「自分の使命だ」「〇〇がしたいけど、わたしには世話をすることが長所である」と考えていることで精神を保っている方もいます。そういう方にヤングケアラーと自覚させたことによる精神的負担や過去の我慢の表出に対する支援を知りたかったです。

18歳未満の子どもが、兄弟や、障害を抱える家族のお世話をするのではなく、大人が面倒を見てくれるような場所、機関があればお世話する子は心身ともに少しは楽になると思う。

世話をしている家族が「現在はいないが、過去にいた」人の自由記述

45 件抜粋(136 件中)

(ア) 相談体制の充実、相談しやすい・話しやすい環境づくり

地域の相談窓口へのアクセスのしやすさ
相談しやすいように、学校に相談できる窓口を用意する
小中学の義務教育のうちから道徳などの授業で紹介するべきだと思う。
ヤングケアラーは外から見つけづらく支援が難しいという問題があると思うので、身近に相談できる窓口を作ったりヤングケアラーを見つける仕組みづくりをしたりしてほしい。
家族のことだから、周りに知られたくないという気持ちが私自身強くあったので、しっかりと情報が外に出ないような環境かつ、気軽に行けるような相談者が居れば良かったなと思った。

(イ) 子どもたちの意見を伝えられる環境づくり、意思の尊重

ヤングケアラーに該当しているかいないか自覚できる機会を用意する
ヤングケアラーであることを公表しても差別や偏見を持たれない社会
ヤングケアラー同士の交流の場(介護者の集まりはあっても、なかなかヤングケアラー同士の集まりはない)、
小学生のときからアンケートで実態を把握し先生間で共有する。ヤングケアラーの児童の言動に注意する。ヤングケアラーの児童が授業中うとうとしていても大勢の前で注意せず個別で事情を聞く
ヤングケアラーという状況は改善しつつも、ヤングケアラーとして行ってきたことを否定しないようにする必要があると思う。社会からメンタル的なダメージを加えないように配慮していくべきだと思う。また、ヤングアダルトケアラーの実態を国民に周知し、そのような人がいることを大学生や大学の教員自体も自覚していくべきであると思う。

(ウ) 大学・学校におけるサポートや配慮

教育関係の人にも認知を広げる
ヤングケアラーという言葉を知らなかったのも、学校や大学で教えていただく機会が欲しいです。
学業に専念できるような支援体制が必要。ヤングケアラーを含む家族について、ケアの担い手となることを前提としないことも必要。
学習や自分の時間の確保ができるよう、介護や世話から離れる時間をつくってほしい。また、何かあった時も若者ではなく、違う人がすぐにかけて行ってほしい。
・授業等で世の中にこのような人がいることを学ぶ機会を設ける ・学校等の施設に貼る・ヤングケアラーを支援する団体の存在をコマーシャル等で発信していく

(エ) 周囲の大人の理解や寄り添い

ヤングケアラーについて知る機会を設ける。
通院や薬の管理など、ちょっとしたことを支援してくれる人がいて欲しい。
ヤングケアラーは自分がするのが当然って思ってる節があるため、頼れる人がいて、自分の介護負担を減らす方法があるなら教えてあげて欲しい。
自分の置かれてる状況が支援が必要な事と認識しておらず手助けしてくれるサポートがある事を知らないなので、多くの学生に社会に頼っていいという事を周知するべき
ヤングケアラーの人々は、幼いころから人に頼ることや報告・連絡・相談が苦手になるため、労働が難しいと感じる。そのため、人への頼り方、要点を掴んだ相談の仕方などを教えてほしい。

(オ) 経済的な支援

経済的・精神的サポート
金銭的支援、積極的な介入、助けを聞いて欲しい
障がい児の兄弟児への支援にも焦点を当て、家庭からの自立のための金銭的支援を行って欲しいです、
家事や介護をしていると自分の為に使う時間が少ないです。その時間を家計や趣味の為のお金を稼ぐためのバイトにあてると趣味を行う時間が無くストレスがたまります。だからと言って働かないと趣味に使うお金も無く、ストレスが溜まります。代わりに誰かがやってくれたら時間が出るのになとも思うし、働かなくてもお金がもらえれば良いなと思いました。

(カ) 普及啓発に向けて必要なこと

子供たちの最低限の権利が尊重されるように制度を作る必要があると思います
ヤングケアラーへの支援制度の確保とヤングケアラー自身にその制度を伝えていくこと。
ヤングケアラーがいる家庭へ訪問介護等を自治体が派遣するような制度ができると良い。
福祉機関と繋がっても制度をしっかりと紹介してもらえず、結局自分たちで情報探しから全て行ったという感覚がある。私たちは日々を過ごすだけで精一杯であり、エネルギーはない。頼りになる機関があってほしかった。
ヤングケアラーという言葉を知ったとしても、どこに、誰に相談すればいいのか分からなかった事がある。そのため、テレビなどで特集を組むなど相談窓口がどこにあるのか、誰に相談したらいいのかを知らせる広報活動を頑張ってもらいたいと思う。また、家族の事について話にくい人が多いと思うので、アドバイスを話す前に、その子の話をゆっくりと聞いてあげて欲しい。

(キ)その他の要望・支援

家庭の事情によってそれぞれの子どもが使える時間には差があるため、具体的に支援をする以外にも、家庭環境を考慮して家庭学習の課題の量を調節したり、課題の提出状況を評価したりしてほしかった。
小学校、中学校、高校で2～3カ月に一度や半年に一度、自宅での私生活についてのアンケートを実施する事でヤングケアラーであるのか、ヤングケアラーではないのか分かるので支援も広げやすいのかと思う。
切羽詰まると、自分が睡眠不足であることや疲れが貯まっていることが自覚できなくなっていた。自身が置かれている状況が「普通」ではないことを自覚させてあげることが大切だと、身を持って感じるようになった。
学生でいられる時間や学生だからできることは貴重だと思うため、ケアのためにそれが犠牲にならないようなサポートが欲しい。周囲の大人の関わりで、ケアをしていたことがポジティブな記憶として残るようにしてほしい。
私は高校生のとき、母親が精神疾患になり、受験勉強もできず進路の幅も狭まってしまった。周りにもおばあちゃんの介護があるから授業に出れないという人がいた。もっと若者が自分の人生を生きられるような支援が必要だと思う。
同級生に相談するのは気が引けて難しいと思う。私も家族が病気になった時はなかなか相談できなかったが、事情を知っている先生が気にかけてくれていたので、1人で抱え込み過ぎずに済んだと思う。可能であれば、ヤングケアラーの子を把握して、定期的に面談をすると良いのではないかと思った。
自分がヤングケアラーであることは嫌だと思っていない。家族の世話をするのは当たり前のことだと思っているからだ。しかし、他の皆は自分のことだけに集中できて、毎日楽しんでいるのを見るといいなあと思う。あと、「かわいそうだね」「たいへんだね」という目を向けられるのが好きではない。
(オンライン講義で)実家にいる間は介護の必要な祖母の世話をせざるを得なかった。介護の方針に口出しできる立場ではない一方、「施設ではなく家庭を中心に介護する」と方針を両親が決めたらそれに従わざるを得ず、親の親であるのでなかなか自分が不平不満も言いにくいので行動を取りづらい。現実には支援策があっても親の目があると負担から逃れることは難しい。
親の精神障害は自分が親が望むような子どもじゃなかったのが原因だと自分を責めていた。親子が逆転していて寄りかかれるのが負担だった。家族に正しい病名を知らされてないといつまでも不安で、また口止めされていると先生やスクールカウンセラーにも話していいか分からないし罪悪感があることを知っていて欲しい。親の精神障害は子どものせいじゃない、と伝えて欲しかった。

とにかく相談したり頼れる場所や環境。一人で抱え込ませないようにしないと、抱え込んで潰れる子どもが出てきてしまう。「世話しなくていいんだよ」と周りが言ってあげること。世話するのが当たり前だと思っているだろうから。お世話していることを冷やかさない環境作り。昔、弟をかばったりお世話していたときに男子から馬鹿にされたり、同級生に「可哀そう」と言われてショックだったから。

ヤングケアラーを見つけて支援するための公的な目を設置しても、効果は期待できないと思う。私もおそらくヤングケアラーだったが、友だちや大人に言うことでお世話していた人が変な目で見られたり、お世話していた人がそれに気づいたときに癇癪がひどくなったりすると思い、家族以外誰にも相談できなかった。ヤングケアラーは私のように、家族内で、いかに症状をひどくしないかに気をつけるだけで完結してしまいがちだと考えられる。

私は生まれた時から身体障害と言語障害のある祖父と同居していたため、介護することに不思議さを感じたことはありませんでした。家族は子どもが介護をなるべくしないで済むように、気を配ってくれていたと思います。家族で世話をする人がいれば介護施設に入るのが難しい現状もあり、世話をする人とされる親は働いて家事をしながら介護という事になるので、必然的に子どもにも介護に関する手伝いが回ってくるのだと思います。SWさんやデイサービスにも協力していただきましたが、専門職の方の支援の充実は介護を必要とする人の家族にとってありがたいです。

必要だと思うことについて、ヤングケアラーへの直接的な支援案を挙げるのは難しいです。重度知的障害兼自閉症スペクトラムの兄と共に育った者としての意見です。私の家庭のような場合、子供から誰かに助けを求めたりすることは無いと思います。兄の世話が当たり前と思っており、ストレスを受けていることにすら気づかないからです。だから、今回のようなアンケートはとても良い取り組みだと思います。自覚のないヤングケアラーは気づくことができます。そこで、私の家庭の場合ですが、親への支援を最優先していただきたいと思います。親の手が回らないから子供に負担が行きます。そこをサポートできる福祉事業がもっと利用しやすくなれば良いと思います。

曾祖母に対してはトイレの介助や寝返りの介助、食事の介助などをしていたが、私自身が子供の頃に曾祖母にやって貰っていたことであったため、恩返しをしているつもりであった。また、認知症などは無く、こちらが世話していることも分かっており、曾祖母の横で宿題をしたり食事介助をしながら一緒に食事をしたり、曾祖母の布団に潜って一緒に寝ていたりしたので私自身も楽しんでた。勉強や進学相談や話相手になって貰い、試験前には試験の心配をしてくれ、受験のときもとても応援してもらい、合格時も一番に報告しました。私が世話をしたと言いながらも一緒に過ごしてくれたことに恩を感じています。世話をする人される人の関係性が良好であれば、世話をすること自体を負担に感じにくいと思う。関係を良好に保てるような支援が必要だと思う。

ヤングケアラーの子どもたちは友達に相談することを躊躇していると思います。友達に相談したところでどうにかなる問題じゃないからです。また、自分の時間がないため趣味どころか勉強する時間さえ取ることができません。私自身ヤングケアラーで、受験生の時、勉強時間が取れずしんどかったです。ヤングケアラーの子どもたちが少しでも介護する時間を減らし、自分の時間を増やせるようにして欲しいです。正直親が亡くなるまで、元気なまでヤングケアラーは続きます。私は、中学生から父と母の介護をしていました。介護している途中、父は癌で亡くなりました。母は入院をしているため介護はしていませんが、洗濯物を取りに行ったりしています。その時間、遊べるんです。でもこういう事情があっても遊べても、罪悪感があるんです。こんな思いをせず遊べる時間、別の人が支援できる場を作って欲しいです。もっとたくさんの人にヤングケアラー、若者ケアラーの言葉を広めて支援してください。給付金とかより介護する時間をなくしてあげてください。お願いします。ですが、このようなアンケートに取り組めてよかったです。ありがとうございます。

大学生は就職や結婚などについて考え始める時期です。そのような時期に差し掛かると、どうしても自分の気持ちだけではなくケアをしている家族を優先して判断をしてしまうことが多く、どこまで自己実現をするべきなのかわからないです。そのようなライフステージの変化がある中で、私は同じ境遇の社会人に話を聞いてもらえたからこそ救われ、精神的に参ってしまった時期を乗り切ることができました。しかし、結婚については今後きょうだいの容態がどのようになるのかわからないため不安はずっとあります。私の場合はお世話をしていたわけではなく、気遣い・見守りをしていただけだったので自分がケアラーに値すると思っていませんでした。そのように自分がケアラーということに気づかない人も多いと思います。そのことに気付かせることのできる取り組みや、先輩ケアラーに相談に乗ってもらう支援などが身近にあり、いつでも使用出来る状態であれば救われる人も多いと思います。ケアラーは相手優先の行動を取る人が多いこともあり、身近な人に相談というのは難しい気がします。なので、支援として知らないケアラーと繋げてもらえればありがたいです。

世話をしている家族が「現在も過去もない」人の自由記述

96 件抜粋(2465 件中)

(ア) 相談体制の充実、相談しやすい・話しやすい環境づくり

相談しやすい環境づくり。学校の先生に相談しやすい環境、定期的にアンケートを取るなど。子供から発信しやすい人間関係を構築することが必要。
相談機関
知らない人も多いと思うし、当事者も周りの人に知られたくないと感じているかも知れないので、匿名でも相談できたり、プライバシーを守られた中での支援が必要だと思う。
気軽に相談ができる場所の確保
ケアしている人同士が話し合いなどをできる場所
相談窓口があることをもっと積極的に発信すればよいと思う。

(イ) 子どもたちの意見を伝えられる環境づくり、意思の尊重

ヤングケアラーに該当する子供達は、自分でそれに該当することを言い出しにくいと思うので、こういうアンケートを学校単位で頻繁にやることが求められると思う。
地域との交流の場を増やす
無料相談会・又は教育機関による教育
ケアラーの状況に寄り添った支援をする。

(ウ) 大学・学校におけるサポートや配慮

ヤングケアラーが最低限、義務教育の過程を終えるまで、自分のことに集中できるような制度が整えられると良いと思った。
学校の理解
勉強の支援
学校と自治体の連携
大学に相談窓口を設ける、学業面での経済支援を手厚くする
・学校でこのような支援がある事を知らせる(ポスターの掲示や教師による宣伝など)→幼い子供や小学生など、まだ自分でアルバイトが出来ない年齢の人や自分のスマホを持っていない子供は、これらの支援があること自体知らない子が多いと思うから。またこのような子供達の情報源は学校で聞いた事でもあると思うから・このような支援を受けるのに「何が必要なのか」を明確に知らせる→前述の学校での宣伝や、ポスターによる掲示などで知らせても、どのようにすれば支援が受けられるのかわからないと意味が無いから。・手続きなどが必要な場合、小学生や未成年の子供達にも分かりやすいシステムにするべき→手続きに必要な書類などが沢山あったり、支援までに時間がかかると、「今」困っている人に支援が行き届かないと思うから

(エ) 周囲の大人の理解や寄り添い

まずはまわりにヤングケアラーのことを認知させることが大切であると感じました。周りに理解させることによって支援してくれる人も増えるのではないかと考えています。
支援する団体や制度、またはそれがあるということを必要な人に知らせる機会を増やすこと。家族や同居者以外にも頼れる人がいるということを伝える手段を増やす。
社会的認知度の向上
周囲の理解と把握
地域の協力

(オ) 経済的な支援

給付奨学金の充実や、大人でも自立して生活できない人への支援
金銭的支援
経済的支援とヘルパーなどのサービスの両方。若者らしい生活を送るためには娯楽や自由な時間もある程度必要だと思うので、そのための補償やサービスが必要
施設などへ通わせる経済的補助

(カ) 普及啓発に向けて必要なこと

SNS でヤングケアラーという存在がいるということを発信していく。学業に支障をきたしている学生の背景には、このようなこともあるということを、マンガのような形でわかりやすく興味を惹いて理解できるよう啓発していく。
そもそもヤングケアラーについてあまり知識がなかったので、家族に変わって幼い兄弟の世話をしている人もヤングケアラーに該当するということを初めて知った。そのためヤングケアラーについてもっとヤングケアラーの方含め世間一般の人たちに知ってもらい、自分がどうなのか自覚してもらう必要がある。補助金があるのか、どこでどう申請したらどれくらいのお金がもらえるのかなども、広めるべきである。若い人たちに知ってもらうためには、テレビ CM や YouTube、Instagram などの SNS の広告が効果的であると思う。
家庭環境の調査が必要だと思う
CM や広告などで広げていく。

(キ)その他の必要と思う支援

自分がヤングケアラーだと思っていないが、ヤングケアラーになってしまっている人がいると思う。そういう方に、自分がヤングケアラーであり、自分の時間を犠牲にしてケアをすることは当たり前ではないと普及する。ケアを公的サービスで提供する。提供が行き届くようにする。
ヤングケアラーが何かということだけではなくその実際の問題やどのような支援があるのか、またその情報を受け取る人には今から具体的にどんな支援ができるのかということやその方法を知らせることが必要だと思います。
当人たちが支援があるということを知るきっかけを多く作ることが必要。当人が知らなければどんなに素晴らしい制度でも利用することができない。
・助成金の配布 ・訪問医療制度の拡充 ・民生委員や保健師など地域で支えるという考えを周知する
学校と地域の連携をして、ヤングケアラーの方が使えるサービスや制度をヤングケアラーの方に伝えること
困っている人は現状多くいるので、皆にヤングケアラーの存在を知らしめるよりは、具体的な支援を提示しながら広報活動を行っていくべきと考えます。
・ヤングケアラーの支援体制を行政や病院、学校が整えること ・ヤングケアラー本人が、周囲に助けを求めていい、求められるということを知れるようなプロモーション(一人で抱え込んでしまいそうなので) ・大人、子ども(義務教育以上の年齢)の両方に理解、認知を広めること
・制度やサービスを広め、利用すること。 ・ヤングケアラーに当てはまるのか、任意で高齢の家族の手伝いをしているのはどうなのか、線引きをわかりやすくして欲しい。家族のことが好きなのに、他人から勝手にヤングケアラーと決めつけられ、大変だと思われるのが嫌だと感じる人もいれば、ヤングケアラーで生活が辛いけど存在を知らず、自分が該当していると思っていない人もいると思う。価値観を押し付けずに、その人に合った情報の提供の仕方が必要だと考える。
このような子供たちは世話するのが当たり前だと思っていると思う。でも、辛いと言える状況でも周りが頼れる大人も少ないと思う。辛いことは辛いと言えるような環境づくりが必要だと考える
ヤングセアラーだと思っている当事者の子どもたちは、自分がしんどいことをしていると思っていない場合があります。それが当たり前になっており、親などにも褒められることをしているなどと考えている場合があります。そのような子達も含め、その子とその子らしく生きていけるような環境づくりを、保育の現場や、教育の現場などでも考えていきたいです。
子供がケアしていることに対して、褒めている大人がいたので、幼い私は、自分がケアする立場にたった時、不満が言えなかった。人のケアは、精神への負担がすごかった。大人になったら、親のケアをまたするのかと思うと将来の生活風景に絶望した。ヤングケアラーに対する経済的支援はもちろんのこと、世間における価値観を変えていくことが、まずは必要だと思った。

日本社会の規範として家庭の役割はその構成員が負担することが一般的であるが、子供（特に若者）が自己を犠牲にしてまで親の面倒を見ることを「親孝行」として捉えるのは早計ではないかと考えます。子供が親の面倒を見る時、その役割を果たす理由として「今まで育ててもらったから」「親のおかげで成長することができた」と一般論で解釈されることがあるが、全ての子供が親にケアされながら成長したわけではないと思います。親が子に対し虐待やネグレクトなどを繰り返し成長した場合、将来的に子が親の面倒を見るのが果たして親孝行と捉えられるのでしょうか。社会的通説である「親孝行＝子が親の面倒を見る」といった狭義の捉え方を緩和していくことも、ヤングケアラーが親の面倒をみる義務感から解放されるきっかけとなるのではないのでしょうか。本当に大切なことは、ヤングケアラー本人が気づかない社会的規範（親の面倒は子が見るもの）から解放してあげることだと思います。そのいしずえを築いてほしいです。
本来子どもに負わせるべきものではない責任を負っているとヤングケアラー自身に自覚してもらべく、学校やメディアでヤングケアラーについて周知を図る。同時に、公的機関など適切な相談窓口を紹介し、相談した場合にどのように状況が動くかについても伝え、ヤングケアラー自身の状況を外部に伝えても自身や家族に悪影響が及ぶことがないと納得してもらう。
「介護やケアは家族が担うもの」という固定観念を変えていかなければならない。特に、子どもたちは知識が無いので、「自分がやらなきゃ」という気持ちになりやすいのではないかと思う。
ある人がヤングケアラーであっても本人にも周りにも認知されていないことが多い。NHK で特集を組んだり、メディアでの取り上げ機会を増やしたりして国民の認知度を上げてほしい。
ケアする側への支援。家族が一生ケアしていかなければならないという固定観念があることに疑問。ケアする側にも人生があり、ケアに縛られているのは不平等だと感じる。
そもそもヤングケアラーという名前を知らない人が多いから、自分がヤングケアラーになっても気づかないことがほとんどだと思う。それが当たり前だと思っているから。まずは、「ヤングケアラー」という名前を多くの人（小学生や中学生など）に知ってもらうことが大切だと思います。
イベントや講演を普及させる 施設の紹介や、補助金の紹介
このようなアンケートによって実態が把握されるため、第一歩になると思います。経済的な支援はもちろんですが、地域の病院や介護施設との連携なども考えられると思います。
まずは実態把握が必要だと思う。次にそういった人たちに受けられる支援の周知をし、公的なサービスなどで支援につなげる。また、貧困の連鎖が起きないように奨学金の充実と学習機会の十分な確保を行う。
まずヤングケアラーのいる家庭や現状を自治体など家庭外の団体が把握する必要があると思う。その上で、彼らがお世話をしなくていいように、例えば家族と子供を一旦離したり定期的に離したりして、子供が気にしなくていいような状況を作るなどの対策をするべきだと思う。
実態の把握 本人以外の第三者がヤングケアラーであると認知できる仕組み

社会的な問題として、1人ひとりが他人事としてではなく我が事として捉えることが出来るよう、まずはヤングケアラーに対しての正しい認識の定着を図ることが必要だと思います。また、自分は関係ないからという思いがあることで他人を知らぬ間に排除したり、差別や偏見の目で見えてしまうことがあると思うので、ヤングケアラーの対象者が自分の気持ちを素直に打ち明けることが出来る環境作りを行うことこそが支援に近づくのではないかと考えます。
声かけは大事だと思う。また、困っていることを聞くとこどもは「なんでもない」と答えがちなため、資格をもった支援員などを増やす取り組みが必要。また、地域のつながりを大事にすべき。
相談する場所の確保、ヤングケアラーに対する理解
地域での助け合いだけでなく、友達同士でも小さいことからできることをしていくのも大切だと思います。
地域での声掛けや見守りで、当事者を発見、当事者を一人にしないことが必要。また、当事者が安心して話せる居場所づくりも大切だと感じた。
未成年の子どもが就労しなくてよいような経済的支援や、児童相談所や市役所、学校等が連携した人的支援が必要だと思う。「しょうがないから」と子どもに苦勞をかける親に対し、子どもは親の所有物でも附属物でもないという認識を広げる努力もした方がいいと思う。場合によっては親と引き離して暮らせる施設の構築なども考えた方がよい。
無論、本人の心身のケアも重要であるが、ヤングケアラーにならざるを得ない原因である家庭環境や家族関係などの見直しや改善を補助する活動員をつけた上で介護施設などの適切な施設やサービスの利用を促していくべきである。また、そもそもの原因として社会全体における需要に対して介護福祉士・保育士などの介護福祉分野の人員不足が挙げられるのではないかな。その人員不足解消を目指すことがヤングケアラーのケアに繋がると思う。
友人がアルツハイマーの母を介護するヤングケアラーなのですが、父親とのコミュニケーションが上手く取れていないようで、支援を受けられていない状況のようです。また、介護の申請にも躊躇いがあるようで正直見てくれられません。どうか幅広くケアを受けられるような制度を作って欲しいです。
友人にヤングケアラーに近い状況の人がいたことがあった。その人は自身がヤングケアラーだという自覚に欠けていたため、その話を聞いてこちらが指摘するまで自分が今置かれていた状況に気づいていなかったようだった。まずは啓蒙が肝心だと思う。しかし反対に、ヤングケアラーだという自覚があるために発信しない人もいるようにも感じる。以前家が裕福でないことを強くコンプレックスに感じる友人がいた。そういった人にはずかずか家のことに踏み込んで話を聞くのはかえって逆効果である。自分だったらそもそも支援自体恥ずかしいもののように感じてしまうかもしれない。友人としても社会としても個人のセンシティブな部分にどれだけ関わっていいのかわからない。支援が難しいのは尤もなことだ。

頼れる人・相談できる人が身近にいれば、安心だと思います。子どもや若者でも利用しやすい相談窓口や、情報の発信が必要だと思います。
利用できる社会資源を増やす、またはヤングケアラーに当てはまっていることを自覚してもらうために生活調査や相談できる場所を設け、社会資源の利用すすめるなど
「ヤングケアラー」以外にも、「～ファースト」や、「～レガシー」という言葉のように、何でも蟹行文字とすれば、普く及ぶかという、そのようではないように思いました。
ヤングケアラーとはどういう人たちなのか、どのような悩みを抱えているかを理解したり知ろうとしたりしないといけないと思います。
ヤングケアラーの中には表に見えない層が多くいるように感じるので、今回のアンケート等のように実態を把握する活動が必要だと感じました。また、病気の家族を看病するなどはヤングケアラーのイメージが強い一方で通訳はヤングケアラーの一部だと自覚していない子どもがいると思ったため、その定義を広く周知していくことも大切だと思いました。
私が、ヤングケアラーの実情に詳しくないかもしれませんが、そういった子供たちがどれだけいて、どれだけの助けを必要としているかを宣伝していくことが必要だと思います。そうすれば、寄付なども募りやすくなると思いますし、同様の状況にある子供たちの励みにもなると思います。
周りにこのような家族の世話をしているという話を聞くことがないので、初めて知った。認知度が本当に低いと感じるので、助け合えるような仕組みが欲しいと思う。
「あの子はお手伝いをしていて偉い」という感覚で終わらずに支援ができるよう、学校関係者や地域のスクールガードの方など、子どもと関わりやすい人たちが理解をすることが必要だと感じる。
「ヤングケアラー」という言葉がまだまだ浸透していないと思う。ヤングケアラーに該当する子どもの中には、自分はヤングケアラーだと認識できていない人もいないのではないかな。家族のお世話を担うのは当たり前だとして、大きな負担を無意識に担っている子どもたちに、支援の存在自体を知ってもらう必要があると考える。
ヤングケアラーとして従事する分、本来学業やいろいろな経験を通して獲得するはずの豊かな感受性や生活する上での能力および学力、知恵などが不足しがちになると思うし、友人たちと自分自身の状況を比較したときに劣等感を感じたり、過剰なストレス・負担を感じたりと健やかな成長を妨げる可能性が高い。そのため、ヤングケアラーの子供たちをゼロにするための金銭的支援や物理的支援が施されるべきであると思う。また、ヤングケアラーをゼロにするまでは国内のどこかにヤングケアラーが存在するため、その子供たちの精神的負担を減らすためのカウンセリングなどが必要であると思う。
・これを普通だと思わないようにする。・これらを行っていて本人が幸せだと感じているならそのままの方が良いのかなと感じました。
お世話をする人をある一定の時間雇えるように給付金を送る

この人たちの精神ケアを定期的にする必要があると思う。相談する場が必要。
スクールソーシャルワーカーを主軸に学校が積極的な相談を受け付ける。
その人達への就職支援や金銭的な支援が必要だと思う。
そもそも大学に進学している、できている、ということはヤングケアラーの該当者である確率は低いと思うので、該当者が多いであろう年代に確認し、現場の声を聞くことで対応策を検討していくべきでは？ 大学に進学できるだけでも既にある意味恵まれているのだし、少なくともある程度の年齢になっているのだから相談すべき機関も術も自分で考えてできるはずです。義務教育の小学生や中学生の年代にまずは焦点を当てるべきでは？
まずは、ヤングケアラーの把握を急いでほしい。家族のケアは毎日行う必要があり、本人の学業やキャリアにまで浸食する可能性が高いため。そして、その支援を手厚く、可能な限り早く実施してほしい。
ヤングケアラーである子ども達に気づくことができるのは、子ども達にとって身近な学校であると思う。そのため、学校で行う業務が増えてしまうという懸念はあるが、学校がいち早く気づき、子どもをケアすることが必要だと思う。
ヤングケアラーにたいして、アルバイトに時間をかけなければならないとか、学費に関する心配などの経済面での負担が減るような支援制度として給付金などの制度を充実させる。また、それを利用するのが容易なように、学校などと連携する。
家庭事情を知人に多く知られることなく支援してくれるようなもの
学校の様子を見て行政と連携。資金援助。家庭のことは学校や行政といった、子供が逆らえない「親」の力が及ばなそうな上からの支援を積極的にすべき。
金銭的な支援や地域での見守り、行政で専門のスタッフを雇い派遣させるなどする。
社会全体でヤングケアラーに焦点を当て、当事者である子どもでも受けやすいよう必要な社会制度を整えていくべき。
社会福祉の充実と、小中学校における教職員の充実。
社会福祉を充実、すでにある福祉の内容を周知させること
周りの大人が気づくことが大切だと思う。また、近所付き合いも必要であり、子どもが1人・孤独になってしまわないような取り組みを考えていくことが必要だと思う。
相談できる窓口や、ヤングケアラー対象者の救済制度が必要。
彼らが頼れる場所を増やす。ケアの必要な家族を簡単に安く預けられたり、家に助けに来てくれたりして、ケアラーが行くべき学校や仕事に行けるようにすることや、ケアラーの悩みや困りごとを聞いてくれる人にアクセスしやすくしたりすると、もっと助かるのではないかなと思う。
未成年を対象にした、上記内容に対応するサービスを内容別に設けるべきではないかと考える。その際、保険がおりればサービス負担額を免除できるようにするべきである。ケアプランを講じる際に、家族の事情を把握した上で、サービスを勧める。また、アルコールなどの家族が抱える問題については、市役所の職員が未成年者が暮らしている住宅を一軒一軒訪問し、

環境を見たり、質問をしたりして、家庭の現状を把握した上で、サービスを提供すべきと考える。
民生委員、保健師などによる地域見守り また学校側からのヤングケアラー認知、またその支援制度の情報提供 地域住民による互助サポートの制度設置(介助が必要な時間帯に地域住民に解除を無料で頼めるような制度)
無償でヘルパーや家事代行サービスを提供する。
オンライン授業の普及。 家族の介護などで家を離れられず、大学に登校できず単位を落とすといったことがありうる。 そのため、オンライン授業、もしくは講義内容を録画したものを学生がネットでいつでも見れるようにするなど、家で学習できる環境を整えるべき。また、ネットで図書館の本を閲覧できる仕組みを作るべき。
ボランティアなどでこのヤングケアラーの募集等があったら参加する方針で考えたいと思う。また、ヤングケアラーとは異なるが困ってる人を見かけたら助けられる人になりたいと思う。
家族という制度を見直す必要がある。
介護職の方のお給料をもっと上げるべきだと思う。介護職につく人が少ないのは、仕事内容とお給料が見合っていないことが大きな原因ではないかと思う。そもそも介護職の方が少ないことを改善しなければ、ヤングケアラーの方の支援までたどり着けないと思う。それが改善できたあとは、ヤングケアラーの方が自分自身のために使える時間を増やせるよう、ヘルパーを国が手配できれば一番いいのではないかと思う。
日本人の労働時間に対して収入がやはり欧米諸国に比べて低いので、少しでもあげることで親が家にいないってことが減ると思う。そうする事でヤングケアラーの支援になるのでは

3. 大学生アンケート調査の結果(クロス集計)

本節では、大学生向けに実施したアンケート調査のクロス集計結果を示す。

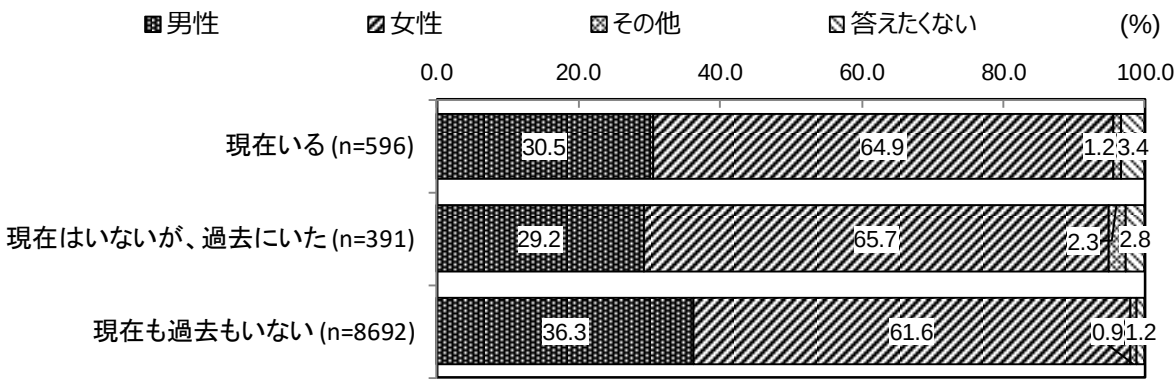
3-1 家族の世話の有無別分析

(1) 家族の世話の有無による学生生活等の状況

① 家族の世話の有無×性別

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「女性」の割合が高くなっている。

図表 189 家族の世話の有無×性別



② 家族の世話の有無×居住地

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「近畿」の割合がやや高くなっている。

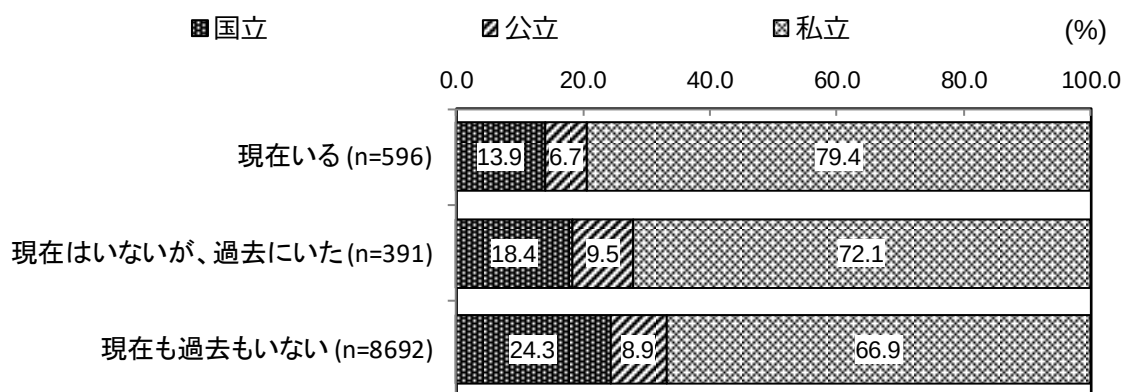
図表 190 家族の世話の有無×居住地

		居住地 (%)											
	調査数	北海道	東北	関東	北陸	東山	東海	近畿	中国	四国	北九州	南九州	その他
現在いる	(596)	2.3	5.4	38.4	2.5	4.4	8.7	18.5	7.0	1.2	5.7	4.2	1.7
現在はいないが、過去にいた	(391)	4.1	6.6	37.1	1.8	6.9	9.0	13.8	8.4	1.8	6.9	2.6	1.0
現在も過去もない	(8692)	3.2	7.0	39.1	3.0	3.8	8.7	15.2	9.1	0.8	6.2	3.7	0.2

③ 家族の世話の有無×大学種別

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「私立」大学の割合が高くなっている。

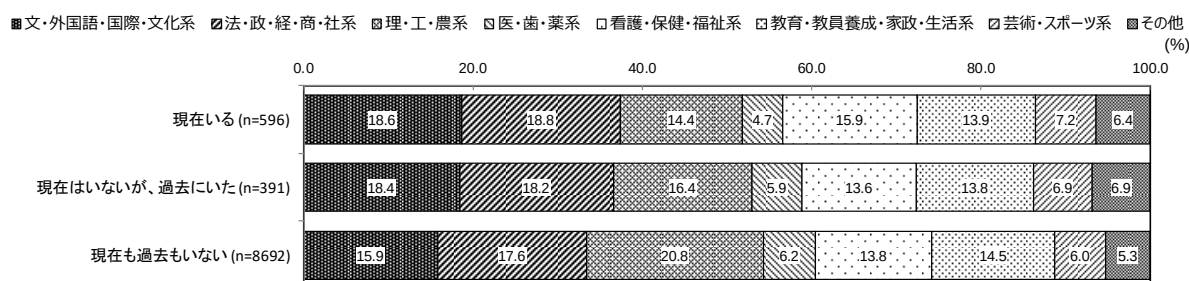
図表 191 家族の世話の有無×大学種別



④ 家族の世話の有無×学科

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「文・外国語・国際・文化系」、「看護・保健・福祉系」の割合が高く、「医・歯・薬系」、「理・工・農系」の割合が低くなっている。

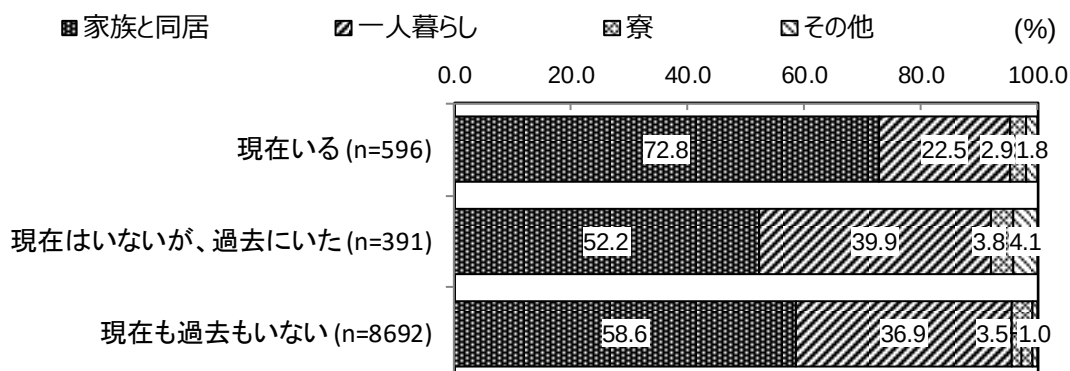
図表 192 家族の世話の有無×学科



⑤ 家族の世話の有無×居住形態

世話をしている家族が「現在いる」場合、「現在も過去もない」場合に比べて、「家族と同居」の割合が高くなっている。「現在はいないが、過去にいた」人は、「家族と同居」の割合がほかと比べて低くなっている。

図表 193 家族の世話の有無×居住形態



⑥ 家族の世話の有無×家族構成

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「母親」ないし「父親」がいる割合が低く、「祖母」、「祖父」のいる割合が高くなっている。

図表 194 家族の世話の有無×家族構成(複数回答)

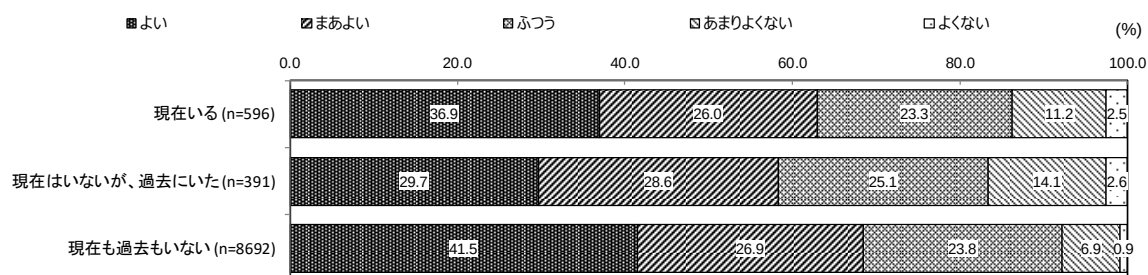
(%)

	調査数	母親	父親	祖母	祖父	兄・姉	弟・妹	その他
現在いる	(434)	89.9	71.7	28.3	13.8	24.9	44.9	4.6
現在はいないが、過去にいた	(204)	87.7	76.0	15.2	7.4	24.5	37.3	5.9
現在も過去もない	(5096)	95.3	81.9	15.2	8.9	24.9	44.9	2.7

⑦ 家族の世話の有無 × 身体面の健康状態

世話をしている家族が「現在いる」人、「現在はいないが、過去にいた」人は、「現在も過去もない」人に比べ、健康状態が「よくない・あまりよくない」の割合が高くなっている。特に、「現在はいないが、過去にいた」人は、「よい」の割合がほかに比べ低くなっている。

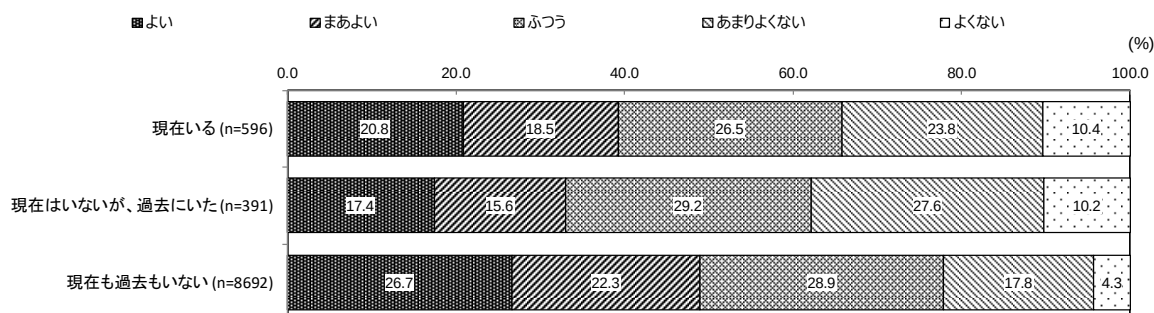
図表 195 家族の世話の有無 × 身体面の健康状態



⑧ 家族の世話の有無 × 精神面の健康状態

世話をしている家族が「現在いる」人、「現在はいないが、過去にいた」人は、「現在も過去もない」人に比べ、健康状態が「よくない・あまりよくない」の割合が高くなっている。特に、「現在はいないが、過去にいた」人は、「よい」の割合がほかに比べ低くなっている。

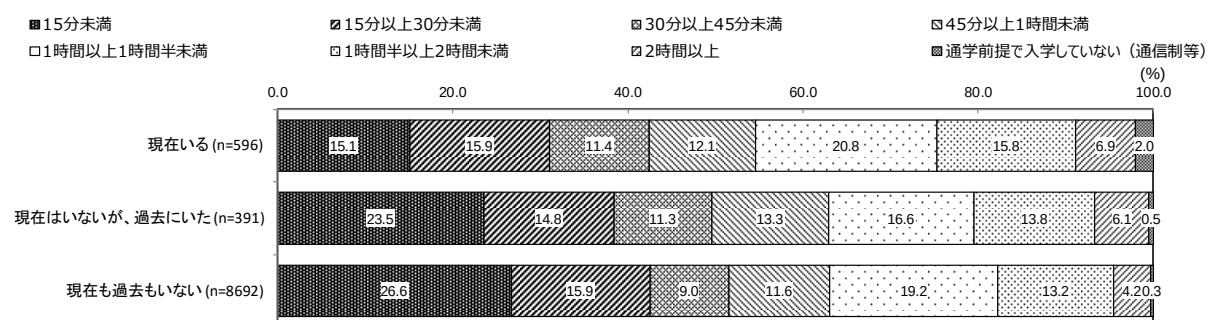
図表 196 家族の世話の有無 × 精神面の健康状態



⑨ 家族の世話の有無×大学までの片道の通学時間

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、通学時間が長い人が多い傾向にある。「通学前提で入学していない(通信制等)」の割合もやや高くなっている。

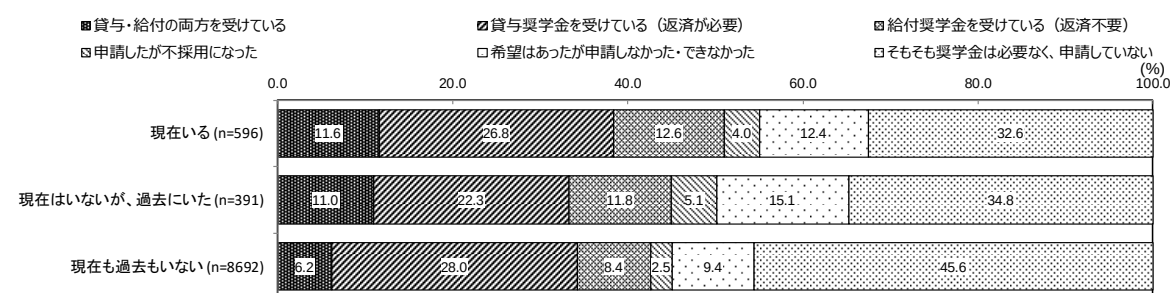
図表 197 家族の世話の有無×大学までの片道の通学時間



⑩ 家族の世話の有無×奨学金の受給状況

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて「貸与・給付の両方を受けている」、「給付奨学金を受けている」、「希望はあったが申請しなかった・できなかった」人が多い傾向にある。「現在はいないが、過去にいた」人は、「希望はあったが申請しなかった・できなかった」の割合が高くなっている。

図表 198 家族の世話の有無×奨学金の受給状況



⑪ 家族の世話の有無×現在通う大学を選択した理由

世話をしている家族が「現在いる」場合、いない場合に比べて、「社会で役立つことが学べる」「実家から近い・通える範囲内にある」の割合が高くなっている。

図表 199 家族の世話の有無×現在通う大学を選択した理由(複数回答)

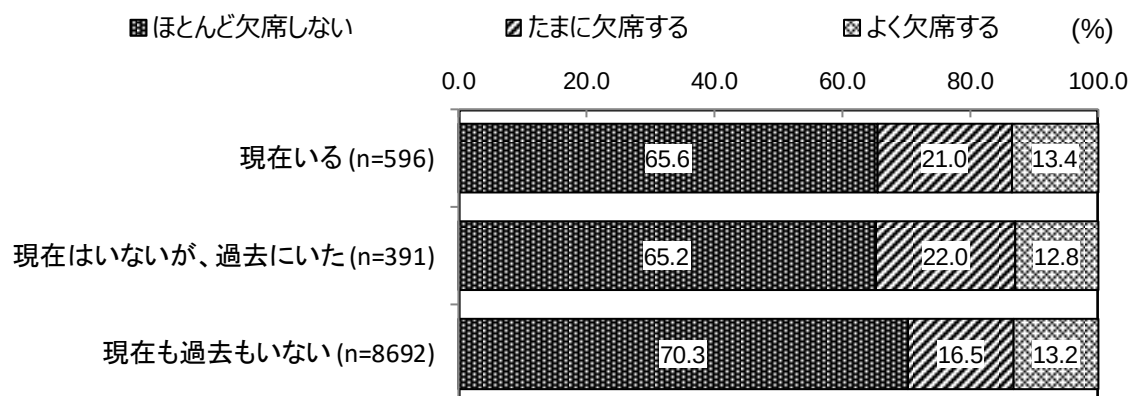
(%)

	調査数	自分のやりたいことができる・学べる	社会で役立つことが学べる	実家から近い・通える範囲内にある	学費が安い	時間的に講義等に出席しやすい	その他
現在いる	(596)	72.8	28.7	27.3	13.6	2.0	10.4
現在はいないが、過去にいた	(391)	71.4	28.4	22.5	13.6	2.3	16.6
現在も過去もない	(8692)	76.5	25.7	26.1	15.7	1.7	9.4

⑫ 家族の世話の有無×大学の授業(履修している講義)への出席状況

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「たまに欠席する」、「よく欠席する」の割合が高くなっている。

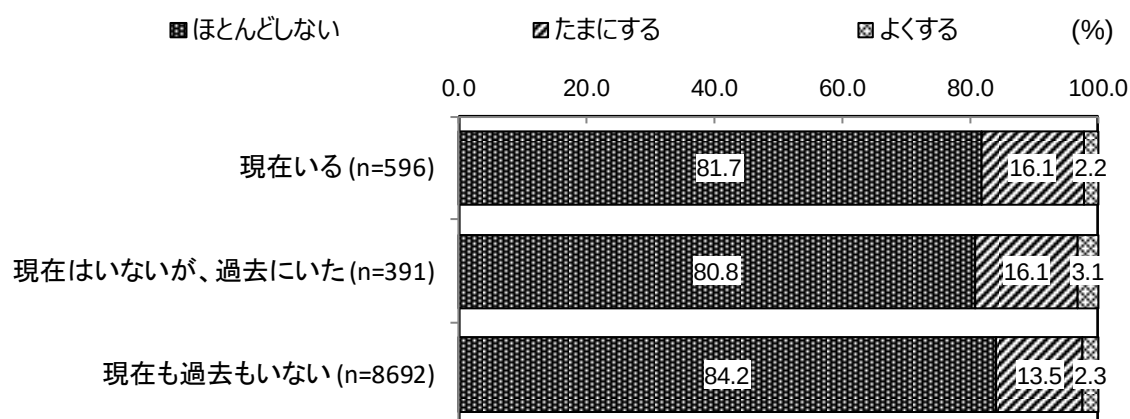
図表 200 家族の世話の有無×大学の授業(履修している講義)への出席状況



⑬ 家族の世話の有無×大学の授業(履修している講義)への遅刻や早退の状況

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「たまにする」、「よくする」の割合が高くなっている。特に、「現在はいないが、過去にいた」人は、「よくする」の割合が高くなっている。

図表 201 家族の世話の有無×大学の授業(履修している講義)への遅刻や早退の状況



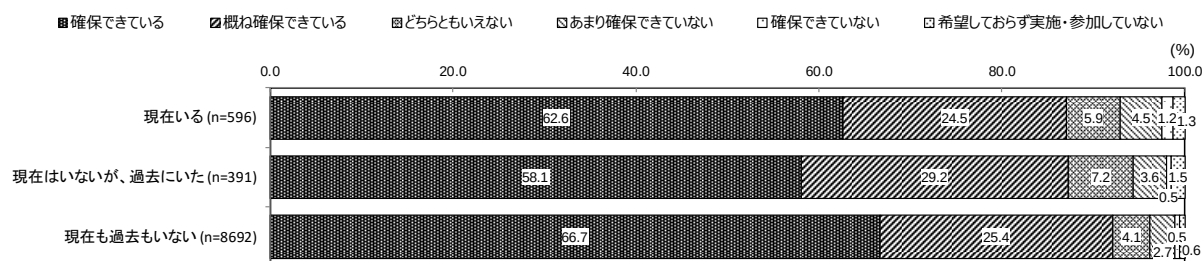
⑭ 家族の世話の有無×各取組に関する日々の時間確保状況

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「大学の授業の受講(ゼミ含む)」、「大学の授業の予習復習、課題に取り組む時間」、「部活・サークル」、「アルバイト・仕事」、「趣味・娯楽・交友」については「確保できている」の割合が低くなっている。

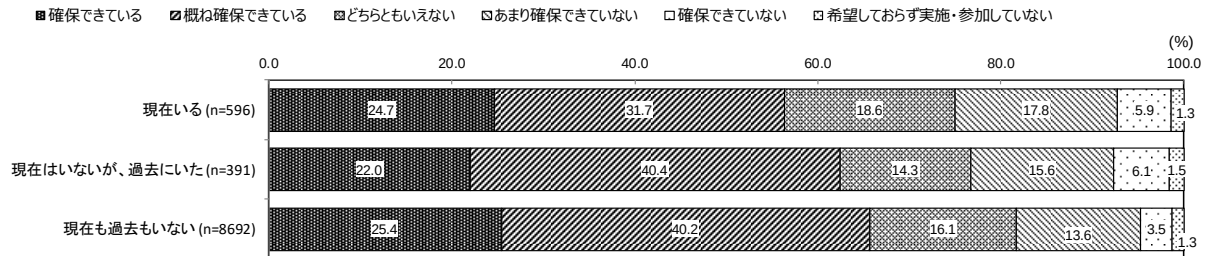
「就職活動(説明会、インターンへの応募・参加も含む)」に関しては、「確保できていない」の割合が高くなっている。

いずれの項目も、「現在はいないが、過去にいた」人は、「確保できている」の割合がほかに比べて低くなっている。

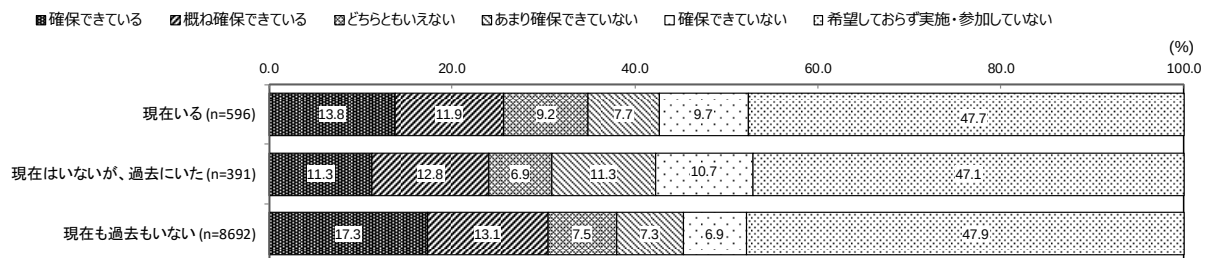
図表 202 家族の世話の有無×各取組に関する日々の時間確保状況
(大学の授業の受講(ゼミ含む))



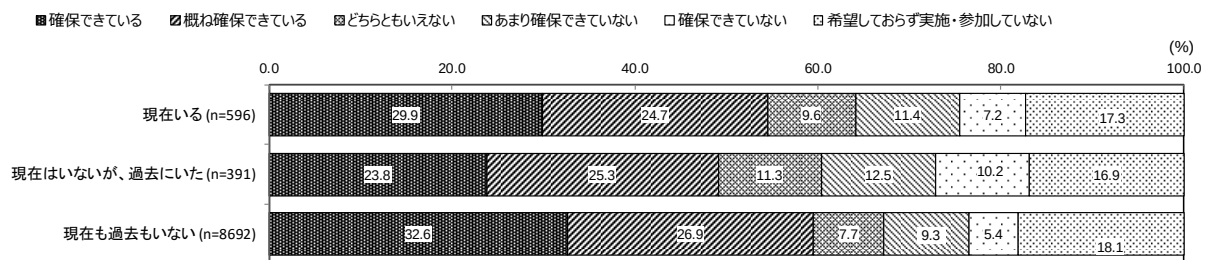
図表 203 家族の世話の有無×各取組に関する日々の時間確保状況
(大学の授業の予習復習、課題に取り組む時間)



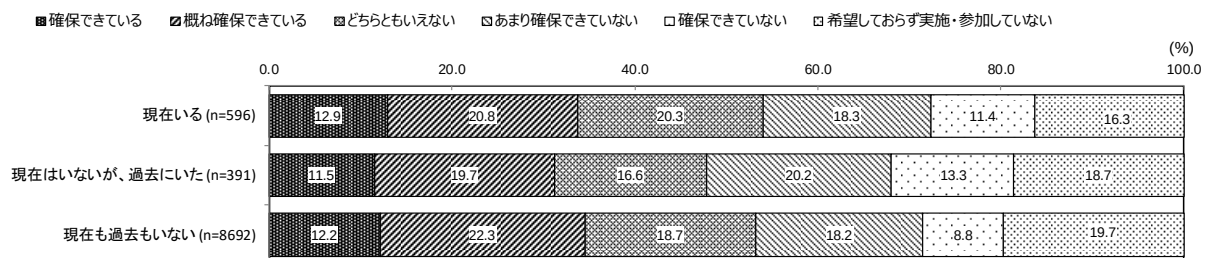
図表 204 家族の世話の有無×各取組に関する日々の時間確保状況(部活・サークル)



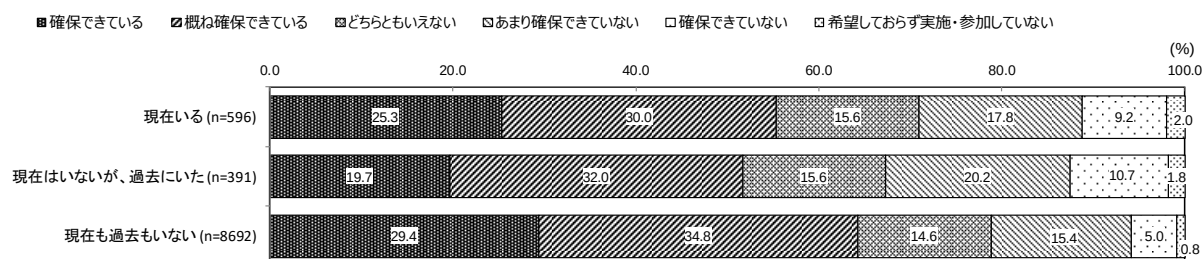
図表 205 家族の世話の有無×各取組に関する日々の時間確保状況(アルバイト・仕事)



図表 206 家族の世話の有無×各取組に関する日々の時間確保状況
(就職活動(説明会、インターンへの応募・参加も含む))



図表 207 家族の世話の有無×各取組に関する日々の時間確保状況
(趣味・娯楽・交友)



⑮ 家族の世話の有無×普段の大学生活等においてあてはまるもの

世話をしている家族が「現在いる」、「現在はいないが、過去にいた」場合、「現在も過去もない」場合に比べて、全体的に回答割合が高い傾向にある。特に「現在はいないが、過去にいた」人は、「課題や予習復習ができていないことが多い」、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」、「大学では1人で過ごすことが多い」、「友人と遊んだり、話したりする時間が少ない」が高くなっている。

図表 208 家族の世話の有無×普段の大学生活等においてあてはまるもの(複数回答)

(%)

	調査数	授業を欠席しがちである	課題や予習復習ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活・サークル等を休むことが多い	書類などの提出が遅れることが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	合宿等の行事を欠席する	大学では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、話したりする時間が少ない	特にな
現在いる	(596)	8.4	24.5	9.4	6.7	14.4	3.5	29.4	29.2	36.1	
現在はいないが、過去にいた	(391)	11.8	25.1	10.5	7.2	15.9	4.6	31.2	37.9	29.7	
現在も過去もない	(8692)	7.0	20.4	6.1	5.1	9.8	2.4	24.7	27.6	45.5	

⑩ 家族の世話の有無×現在の悩みや困りごと

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、全体的に回答割合が高い傾向にある。特に「学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと」、「家庭の経済的状況のこと」、「自分と家族との関係のこと」、「家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）」、「病気や障がいのある家族のこと」、「自分のために使える時間が少ないこと」が高くなっている。

図表 209 家族の世話の有無×現在の悩みや困りごと（複数回答）

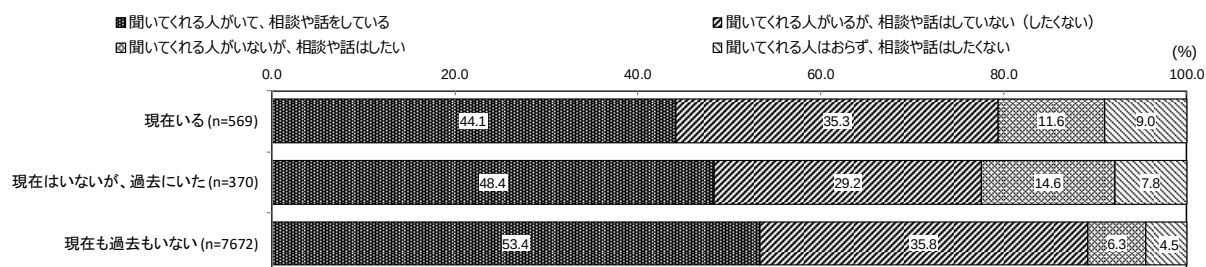
(%)

	調査数	友人との関係のこと	学業成績のこと	就職・進路のこと	部活動・サークル活動のこと	学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと	課外活動や習い事ができないこと	アルバイト・仕事のこと	家庭の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特になし
現在いる	(596)	18.1	32.6	76.8	8.7	35.9	7.0	31.9	33.1	24.5	21.3	21.0	26.0	4.4	4.5
現在はいるが、過去にいた	(391)	20.7	29.4	79.3	9.5	34.8	10.2	33.2	29.4	23.0	18.4	12.3	21.7	6.1	5.4
現在も過去もない	(8692)	14.5	23.8	77.1	8.3	20.2	4.7	23.3	15.4	8.9	7.3	2.8	15.7	4.1	11.7

⑪ 家族の世話の有無×悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

「現在、悩んだり困っていることがある」と回答した方に悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無について聞いたところ、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「聞いてくれる人がいて、相談や話をしている」の割合が低くなっている。「聞いてくれる人がいないが、相談や話はしたい」、「聞いてくれる人はおらず、相談や話はしたくない」の割合は高くなっている。

図表 210 家族の世話の有無×悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無



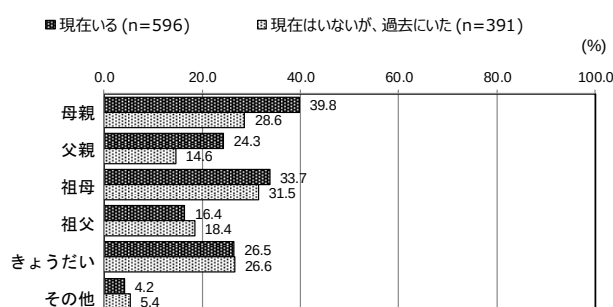
(2) 家族の世話の有無による世話の状況の違い

① 家族の世話の有無×世話を必要としている(していた)家族

世話をしている家族が「現在いる」場合、「現在はいないが、過去にいた」場合に比べて、「母親」「父親」の世話をを行っている割合が高くなっている。

「その他」の自由記述としては、「現在いる」人は、「叔父・叔母」、「甥・姪」、「いとこ」が多く、ほかに「友人」、「夫」、「曾祖母」、「祖母の姉」等の回答があった。「現在はいないが、過去にいた」は、「曾祖父・曾祖母」、「甥・姪」の回答が多かった。

図表 211 家族の世話の有無×世話を必要としている(していた)家族(複数回答)

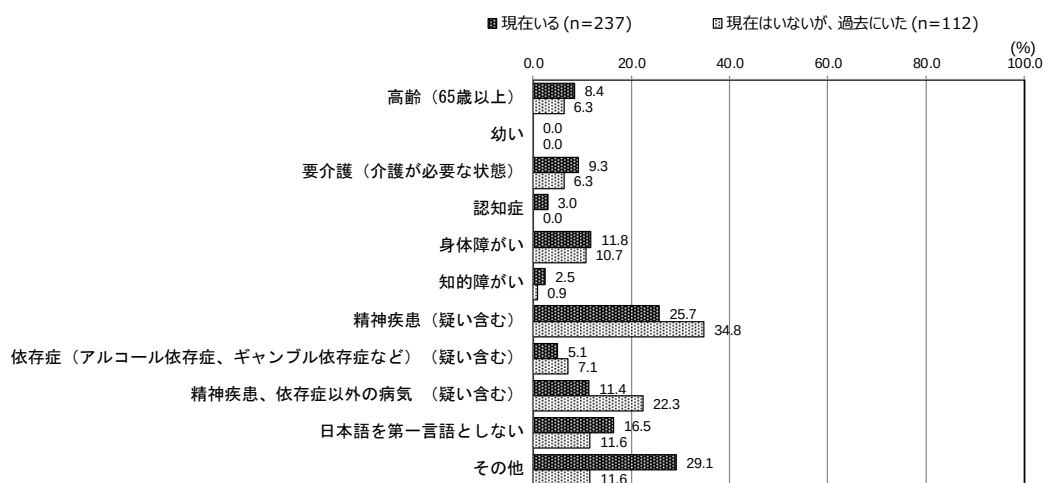


② 家族の世話の有無×世話を必要としている(していた)家族の状況

母の状態については、世話をしている家族が「現在いる」場合、「現在はいないが、過去にいた」場合に比べて、「高齢」、「要介護」、「日本語を第一言語としない」の割合が高くなっている。

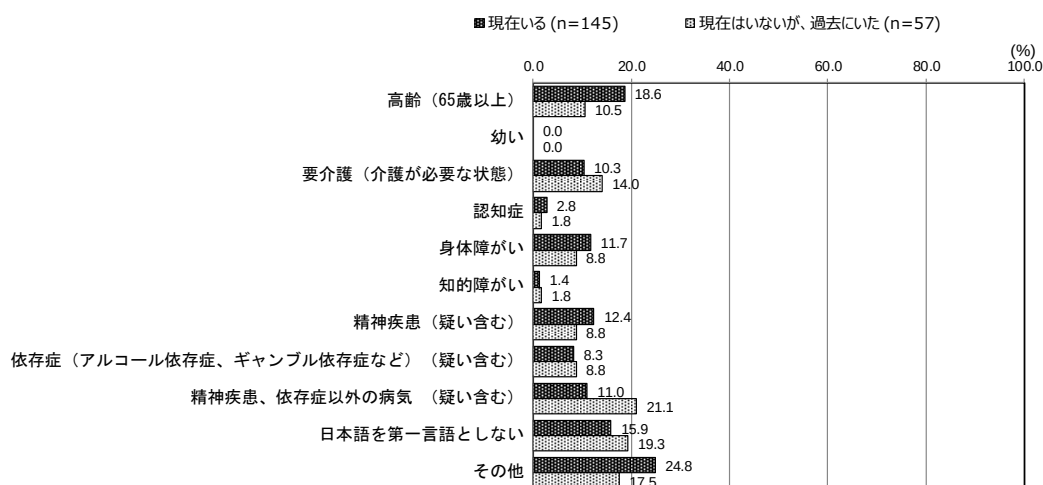
「現在はいないが、過去にいた」場合は、「精神疾患」、「精神疾患、依存症以外の病気」の割合が高くなっている。

図表 212 家族の世話の有無×世話を必要としている(していた)家族の状況(母)
(複数回答)



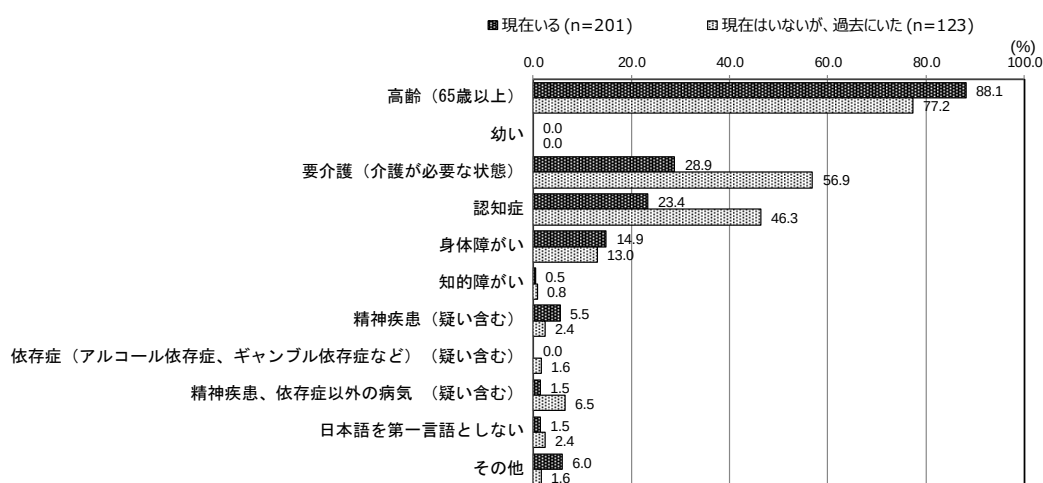
父親の状態については、世話をしている家族が「現在いる」場合、「現在はいないが、過去にいた」場合に比べて、「高齢」、「精神疾患」、「身体障がい」の割合が高くなっている。

図表 213 家族の世話の有無×世話を必要としている(していた)家族の状況(父親)
(複数回答)

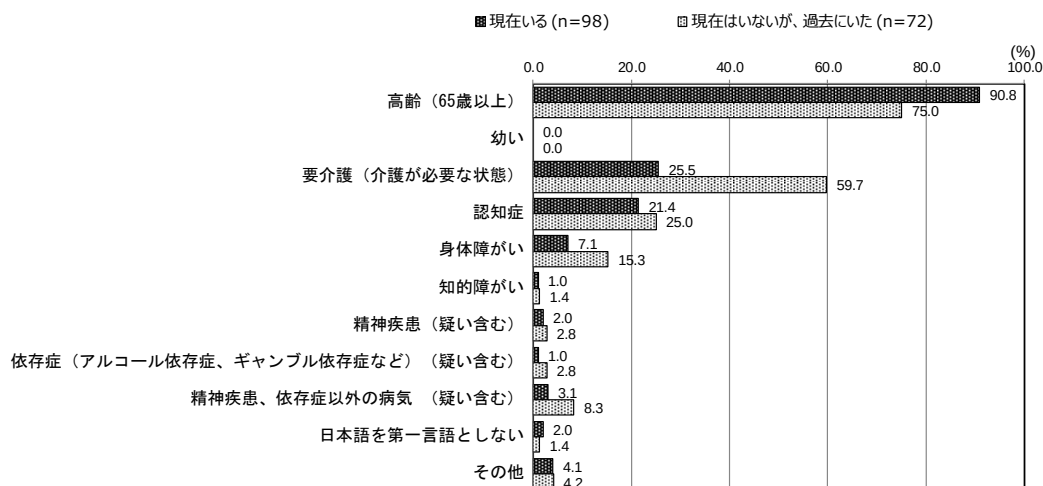


祖父母の状態については、世話をしている家族が「現在はいないが、過去にいた」場合、「現在いる」場合に比べて「要介護」、「認知症」の割合が高くなっている。

図表 214 家族の世話の有無×世話を必要としている(していた)家族の状況(祖母)
(複数回答)

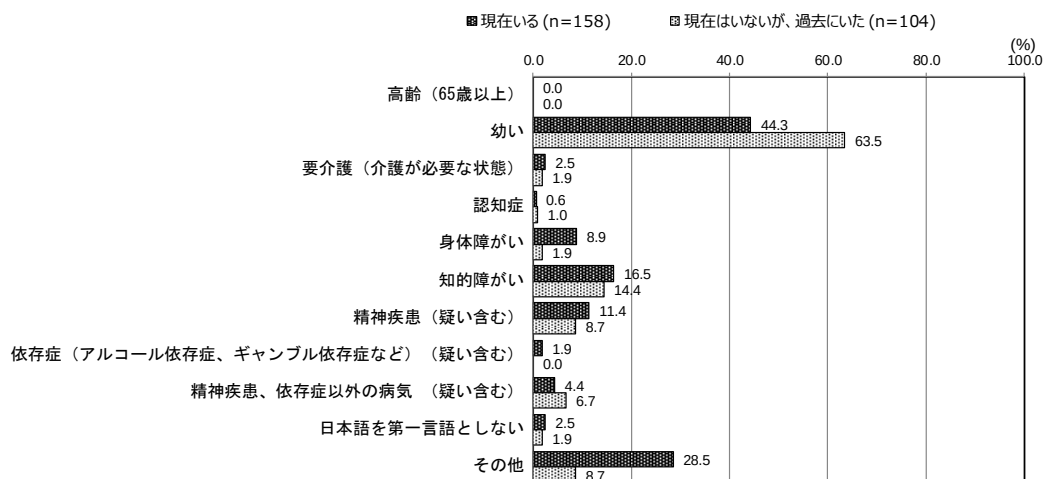


図表 215 家族の世話の有無×世話を必要としている(していた)家族の状況(祖父)
(複数回答)



きょうだいの状態については、世話をしている家族が「現在はいないが、過去にいた」場合、「現在いる」場合に比べて「若い」の割合が高くなっている。

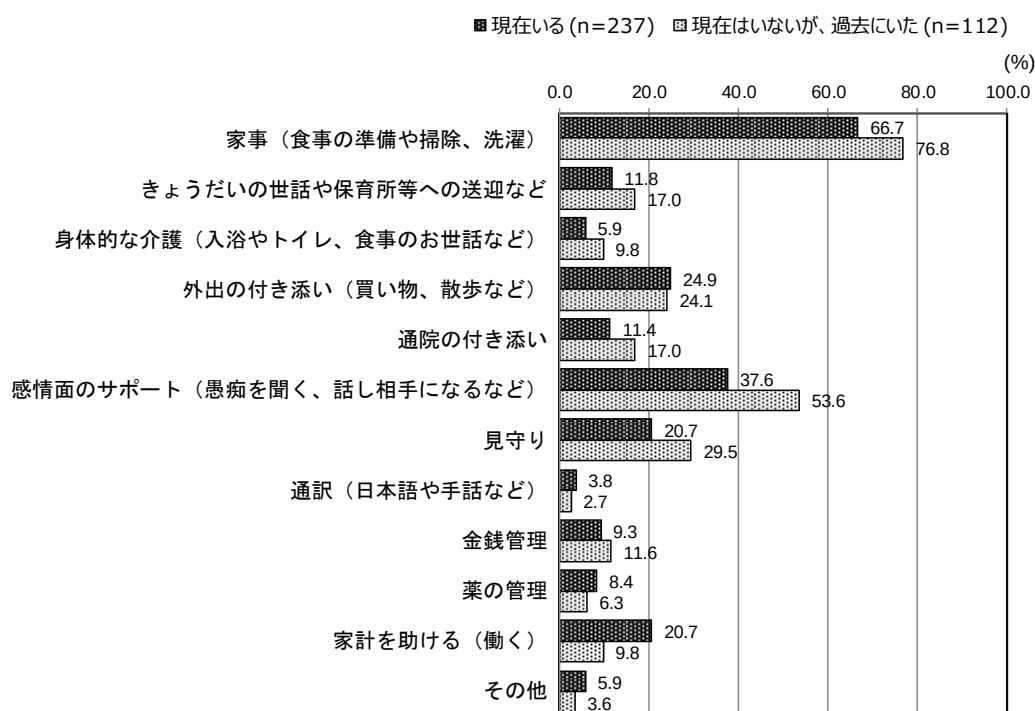
図表 216 家族の世話の有無×世話を必要としている(していた)家族の状況(きょうだい)
(複数回答)



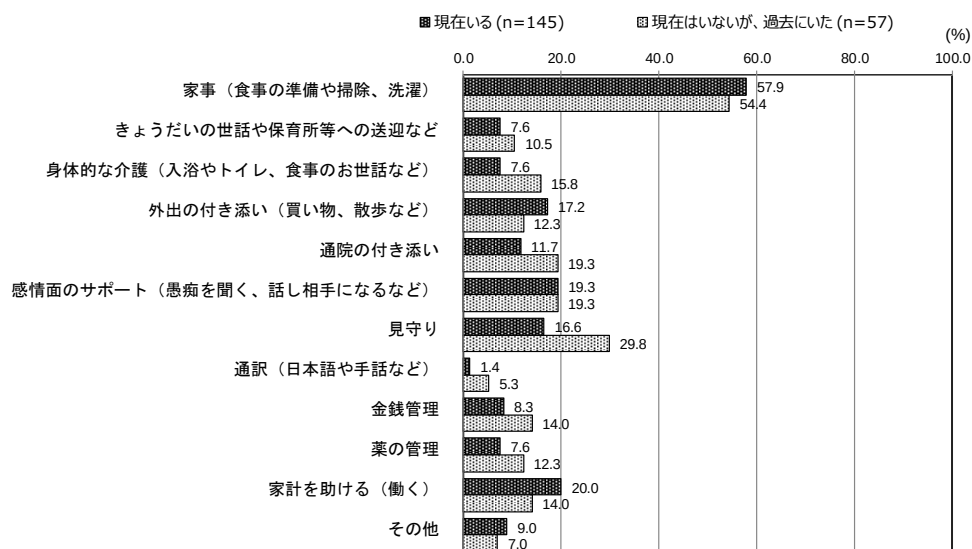
③ 家族の世話の有無×行なっている(行っていた)世話の内容

母親の世話については、世話をしている家族が「現在はいないが、過去にいた」場合、「現在いる」場合に比べて「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」の割合が高くなっている。

図表 217 家族の世話の有無×世話を必要としている(していた)世話の内容(母親)
(複数回答)

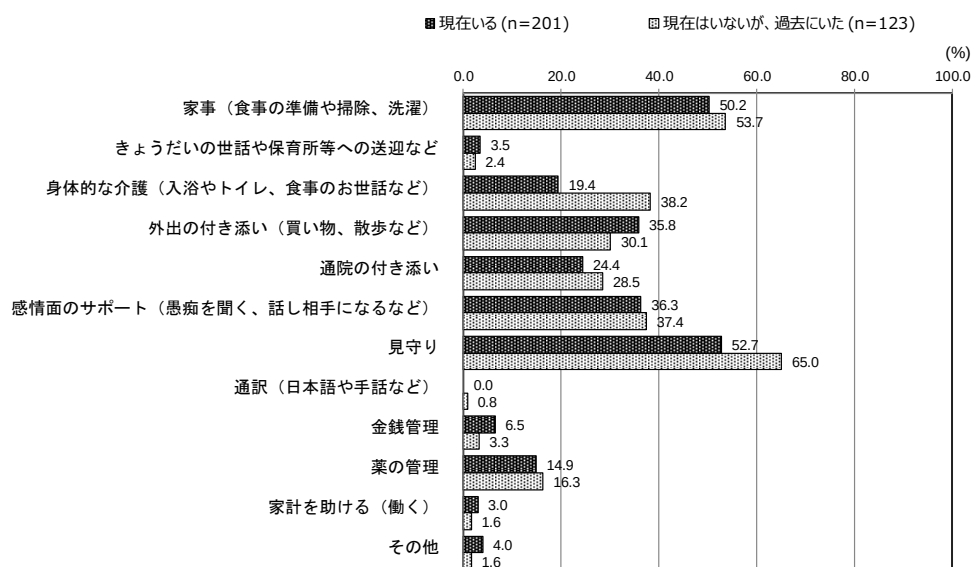


図表 218 家族の世話の有無×世話を必要としている(していた)世話の内容(父親)
(複数回答)

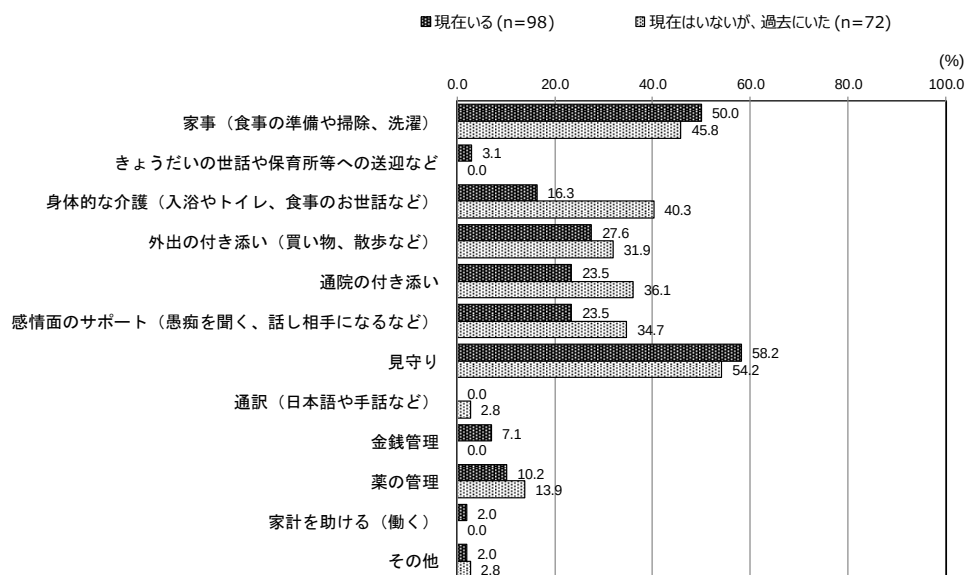


祖父母の世話については、世話をしている家族が「現在はいないが、過去にいた」場合、「現在いる」場合に比べて「身体的な介護（入浴やトイレ、食事のお世話など）」の割合が高くなっている。

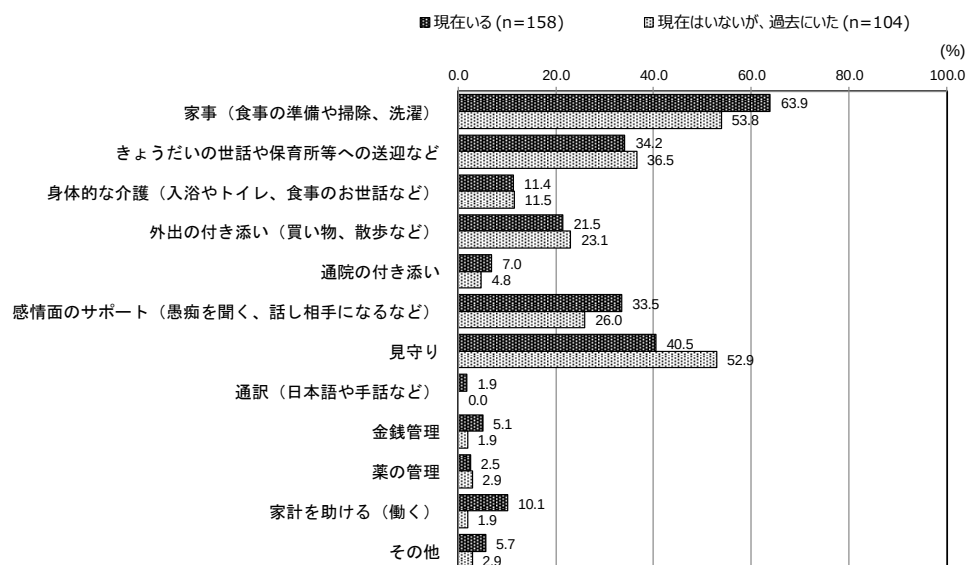
図表 219 家族の世話の有無×世話を必要としている(していた)世話の内容(祖母)
(複数回答)



図表 220 家族の世話の有無×世話を必要としている(していた)世話の内容(祖父)
(複数回答)



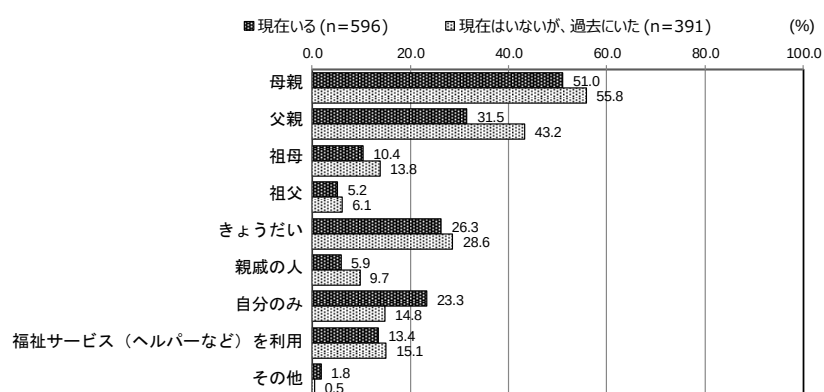
図表 221 家族の世話の有無×世話を必要としている(していた)世話の内容(きょうだい)
(複数回答)



④ 家族の世話の有無×一緒に世話をを行っている(行っていた)人

世話をしている家族が「現在いる」場合、「現在はいないが、過去にいた」場合に比べて、「自分のみ」で世話をを行っている割合が高くなっている。

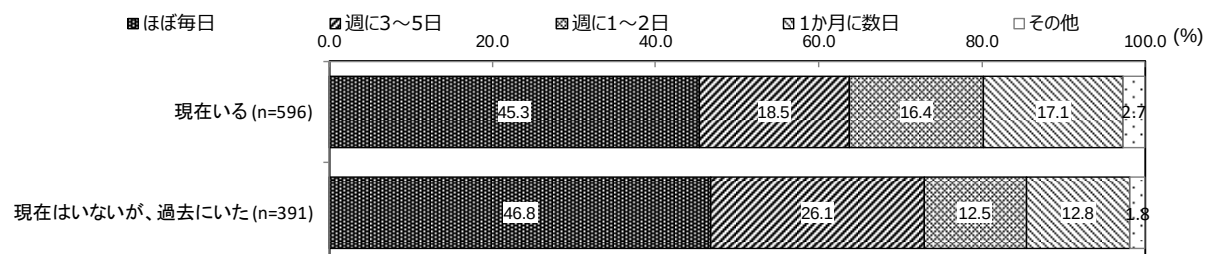
図表 222 家族の世話の有無×一緒に世話をを行っている(行っていた)人
(複数回答)



⑤ 家族の世話の有無×世話をしている(していた)頻度

世話をしている家族が「現在いる」場合、「現在はいないが、過去にいた」場合に比べて、「1か月に数日」の割合が高くなっている。

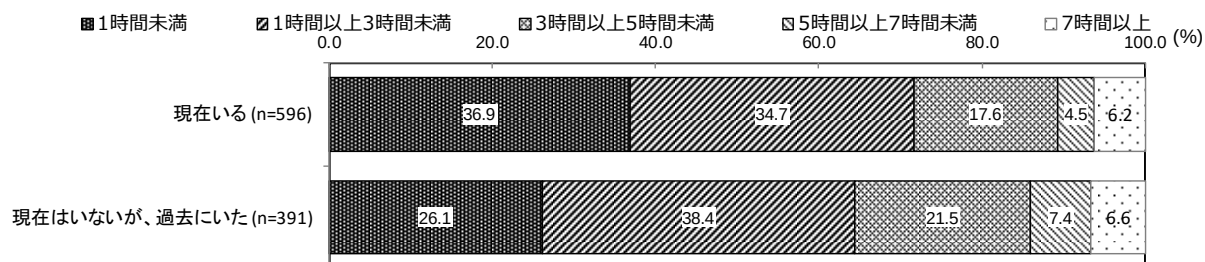
図表 223 家族の世話の有無×世話をしている(していた)頻度



⑥ 家族の世話の有無×平日の世話時間

世話をしている家族が「現在いる」場合、「現在はいないが、過去にいた」場合に比べて、1日の世話時間はやや短い傾向にある。一方で「7時間以上」の割合は、ほぼ同等である。

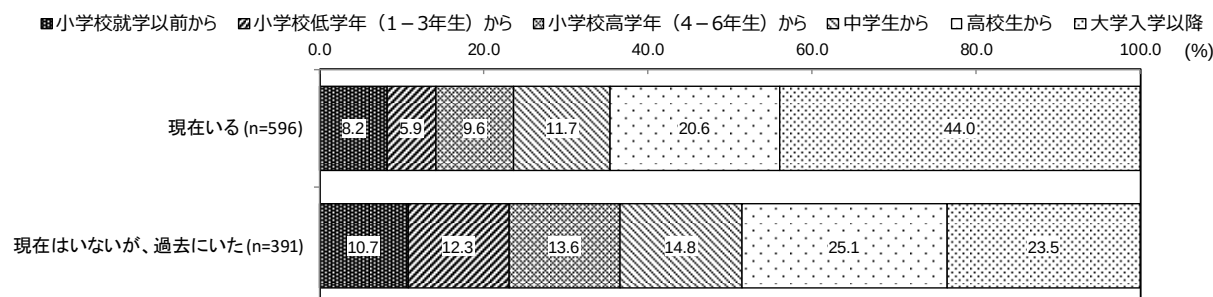
図表 224 家族の世話の有無×平日の世話時間



⑦ 家族の世話の有無×世話を始めた時期

世話をしている家族が「現在いる」場合、「現在はいないが、過去にいた」場合に比べて、「大学入学以降」の割合が高くなっている。

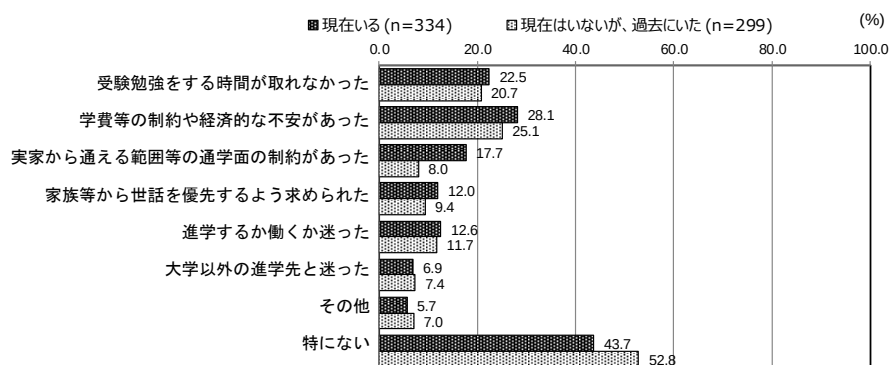
図表 225 家族の世話の有無×世話を始めた時期



⑧ 家族の世話の有無×世話をしていることで、大学進学の際に苦労したこと・影響

世話を始めた時期が大学入学以前と答えた人に対し大学進学の際の苦労を聞いたところ、世話をしている家族が「現在いる」場合、「現在はいないが、過去にいた」場合に比べて、「実家から通える範囲等の通学面の制約があった」の割合が特に高くなっている。

図表 226 家族の世話の有無×世話をしていることで、大学進学の際に苦労したこと・影響



⑨ 家族の世話の有無×世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと

世話をしている家族が「現在いる」場合、「現在はいないが、過去にいた」場合に比べて、「課題・予習復習をする時間が取れなかった」「一人暮らしをしたくてもできなかった」の割合が高くなっている。

図表 227 家族の世話の有無×
世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと(複数回答)

	調査数	大学の授業に行きたくても行けなかった	単位をとれなかった、留年・休学した	課題・予習復習をする時間が取れなかった	留学をあきらめた	睡眠が十分に取れなかった	友人と遊ぶことができなかった	辞めざるを得なかった、辞めざるを得なかった、辞めざるを得なかった、辞めざるを得なかった	課外活動・サークル活動が辞めざるを得なかった	アルバイトができなかった	就職先・道路の変更を、変更した	一人暮らしをしたくてもできなかった	恋愛をしたくてもできなかった	自分の時間が取れなかった	その他	特になかった
現在いる	(596)	6.0	4.0	19.8	5.2	23.3	22.5	9.2	4.5	12.6	8.4	15.6	8.6	31.2	1.5	42.8
現在はいないが、過去にいた	(391)	2.0	3.1	15.1	5.4	26.1	27.1	10.7	5.1	10.5	6.1	9.5	6.9	33.8	3.1	40.7

⑩ 家族の世話の有無×世話をしていることで生ずる就職に関する不安

世話をしている家族が「現在いる」場合、「現在はいないが、過去にいた」場合に比べて、いずれの回答割合も高くなっている。

図表 228 家族の世話の有無×世話をしていることで生ずる就職に関する不安(複数回答)

(%)

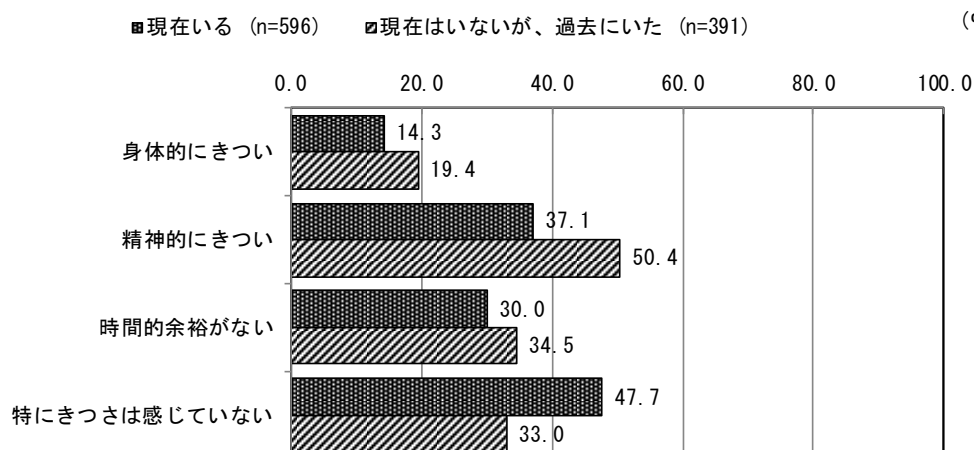
	調査数	正社員として就職できるか不安がある	休まず働けるか不安がある	通勤できる地域が限られる	働ける時間帯が限られる	就職先について考える時間がない	その他	わからない	特にない
現在いる	(596)	16.4	12.6	16.8	8.4	8.2	2.3	13.4	50.5
現在はいないが、過去にいた	(391)	10.0	9.7	8.2	4.9	7.2	1.5	12.0	61.6

⑪ 家族の世話の有無×世話をすることで感じるきつさ

世話をしている家族が「現在はいないが、過去にいた」人は、「現在いる」場合よりも「精神的にきつい」の割合が高くなっている。

図表 229 家族の世話の有無×世話をすることで感じるきつさ

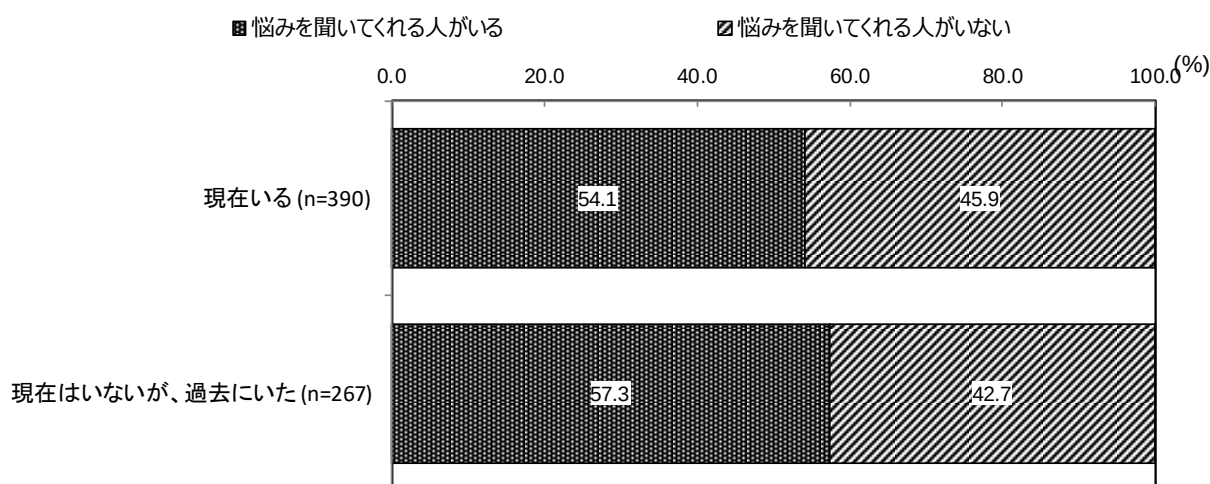
(%)



⑫ 家族の世話の有無 × 世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について相談した経験が「ない」と答えた人に、世話を必要としている家族のことや、世話の悩みを聞いてくれる人はいるかについて聞いたところ、世話をしている家族が「現在いる」場合、「現在はいないが、過去にいた」場合に比べて、「悩みを聞いてくれる人がいる」割合がやや低くなっている。

図表 230 家族の世話の有無 × 世話について話を聞いてくれる人の有無



⑬ 家族の世話の有無 × 大学や周りの大人に助けとほしいことや、必要としている支援

世話をしている家族が「現在いる」場合、「現在はいないが、過去にいた」場合に比べて、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「家族の世話について相談にのってほしい」の割合が高くなっている。

図表 231 家族の世話の有無 ×
大学や周りの大人に助けとほしいことや、必要としている支援 (複数回答)

	調査数	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っている人やサービスがほしい	自分が行っている人のお世話の一部をほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	大学の勉強や学習のサポート	家庭への経済的な支援	学費への支援・奨学金等	その他	特になし	わからない
現在いる	(596)	23.2	12.4	6.5	8.4	3.2	27.0	29.0	18.0	23.0	27.7	2.2	26.8	9.2
現在はいないが、過去にいた	(391)	19.4	7.9	4.9	5.9	1.5	25.1	27.1	19.4	24.0	29.2	3.1	25.3	11.8

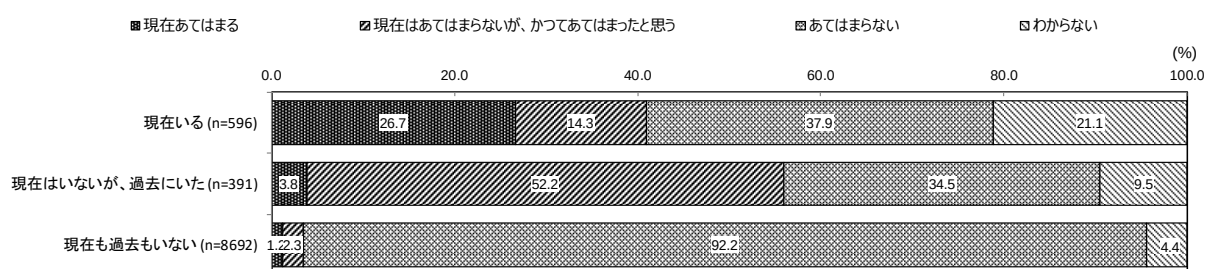
(3) 家族の世話の有無によるヤングケアラーについて

⑭ 家族の世話の有無×「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」の自覚

あなた自身は「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」にあてはまると思いますかという質問については、世話をしている家族が「現在いる」人は、「現在あてはまる」が 26.7%、「わからない」は 21.1%。

世話をしている家族が「現在はいないが、過去にいた」人は、「現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う」が 52.2%、「わからない」は 9.5%。

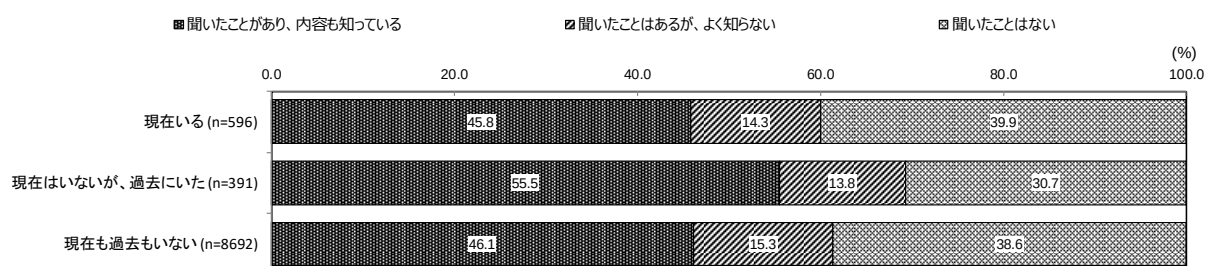
図表 232 家族の世話の有無×「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」の自覚



⑮ 家族の世話の有無×「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」という言葉の認知度

ヤングケアラーの認知度については、世話をしている家族が「現在はいないが、過去にいた」人は、「聞いたことがあり、内容も知っている」の割合が高い。「現在いる」と、「現在も過去もない」では大きな差は見られない。

図表 233 家族の世話の有無×「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」という言葉の認知度



3-2 性別×大学種別 による状況の違い

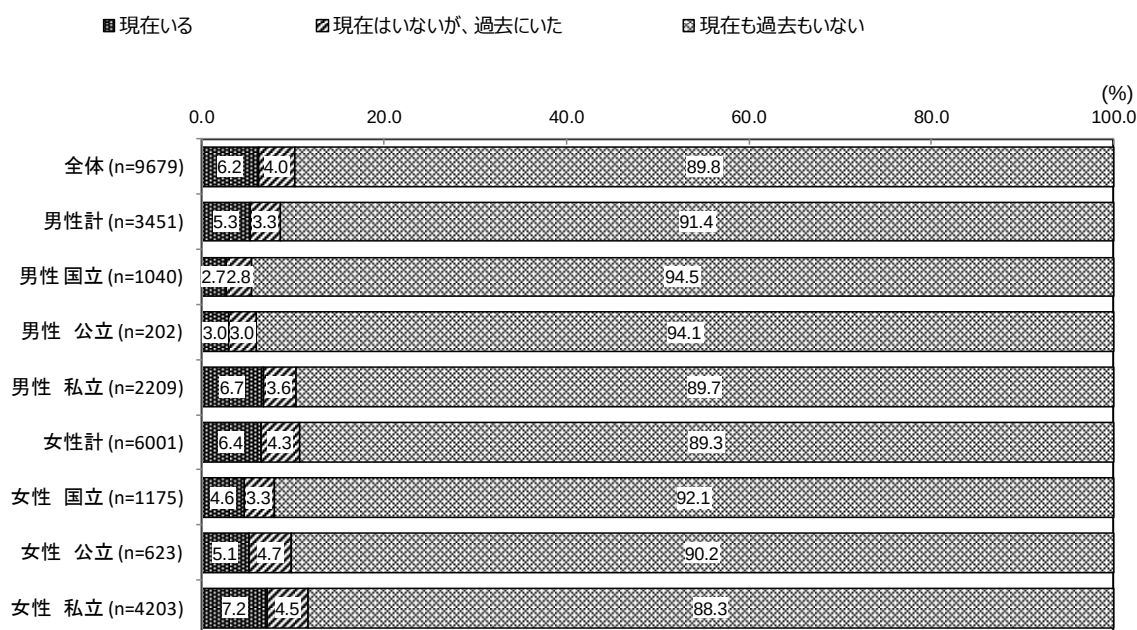
性別(男性、女性)×大学種別(国立、公立、私立)のクロス分析結果を記載する。

(1) 家庭や家族のことについて

① 性別×大学種別×家族の世話の有無

女性のほうが男性よりも、世話をしている家族が「現在いる」、「現在はいないが、過去にいた」の割合が高い。「女性 私立」、「男性 私立」、「女性 公立」、「女性 国立」の順に高くなっている。

図表 234 性別×大学種別×家族の世話の有無



※性別の設問に関しては、「その他」、「答えたくない」の回答はサンプル数が少ないため性別のクロス集計では掲載していない。以降同様。

② 性別×大学種別×行っている(行っていた)世話の内容

母親に対し行っている(行っていた)世話の内容については、「女性 公立」、「女性 国立」で「感情面のサポート」の割合が高くなっている。「女性 公立」、「女性 国立」で「外出の付き添い」の割合が高くなっている。

「女性 公立」、「女性 私立」で「家計を助ける」の割合が高くなっている。

「男性 国立」は「見守り」の割合が高くなっている。

図表 235 性別×大学種別×母親への行っている(行っていた)世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	家計を助ける(働く)	その他
男性	(109)	65.1	12.8	7.3	19.3	7.3	25.7	19.3	0.0	11.9	5.5	13.8	7.3
国立	(22)	77.3	18.2	9.1	18.2	9.1	40.9	31.8	0.0	9.1	9.1	9.1	0.0
公立	(4)	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
私立	(83)	65.1	12.0	7.2	19.3	7.2	18.1	14.5	0.0	13.3	4.8	15.7	9.6
女性	(224)	72.8	14.3	7.6	27.7	16.1	49.6	25.9	4.9	9.4	9.4	19.6	4.5
国立	(28)	82.1	14.3	10.7	28.6	32.1	57.1	25.0	7.1	10.7	7.1	7.1	3.6
公立	(16)	87.5	18.8	12.5	37.5	25.0	68.8	12.5	0.0	0.0	25.0	31.3	0.0
私立	(180)	70.0	13.9	6.7	26.7	12.8	46.7	27.2	5.0	10.0	8.3	20.6	5.0

※男性公立はサンプル数が一桁のため、傾向の言及は避ける。

図表 236 性別×大学種別×父親への行っている(行っていた)世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	家計を助ける(働く)	その他
男性	(84)	45.2	9.5	8.3	16.7	10.7	11.9	16.7	2.4	13.1	7.1	22.6	14.3
国立	(11)	54.5	18.2	9.1	18.2	0.0	18.2	27.3	9.1	18.2	0.0	9.1	0.0
公立	(4)	25.0	0.0	25.0	50.0	50.0	0.0	75.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0
私立	(69)	44.9	8.7	7.2	14.5	10.1	11.6	11.6	0.0	11.6	5.8	26.1	17.4
女性	(107)	64.5	7.5	11.2	15.0	15.9	23.4	23.4	2.8	7.5	9.3	16.8	4.7
国立	(16)	68.8	0.0	18.8	25.0	31.3	31.3	25.0	6.3	0.0	25.0	12.5	6.3
公立	(5)	80.0	0.0	20.0	20.0	0.0	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0
私立	(86)	62.8	9.3	9.3	12.8	14.0	19.8	23.3	2.3	8.1	7.0	16.3	4.7

図表 237 性別×大学種別×祖母への行っている(行っていた)世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	家計を助ける(働く)	その他
男性	(112)	41.1	3.6	17.9	28.6	25.9	28.6	55.4	0.0	4.5	8.9	2.7	2.7
	国立 (18)	22.2	0.0	27.8	22.2	16.7	44.4	66.7	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0
	公立 (2)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	私立 (92)	45.7	4.3	16.3	29.3	28.3	23.9	53.3	0.0	5.4	9.8	3.3	3.3
女性	(199)	56.3	2.5	31.7	36.7	26.6	42.2	60.3	0.5	5.5	19.1	2.0	3.0
	国立 (24)	62.5	8.3	33.3	37.5	29.2	33.3	75.0	0.0	12.5	16.7	0.0	8.3
	公立 (19)	52.6	5.3	47.4	36.8	10.5	63.2	73.7	5.3	0.0	15.8	0.0	5.3
	私立 (156)	55.8	1.3	29.5	36.5	28.2	41.0	56.4	0.0	5.1	19.9	2.6	1.9

図表 238 性別×大学種別×祖父への行っている(行っていた)世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	家計を助ける(働く)	その他
男性	(61)	42.6	1.6	26.2	26.2	21.3	19.7	49.2	1.6	1.6	1.6	1.6	3.3
	国立 (12)	50.0	0.0	41.7	25.0	8.3	41.7	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	公立 (3)	66.7	0.0	33.3	33.3	33.3	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	私立 (46)	39.1	2.2	21.7	26.1	23.9	13.0	47.8	0.0	2.2	2.2	2.2	4.3
女性	(101)	50.5	2.0	25.7	32.7	33.7	33.7	62.4	1.0	5.0	17.8	0.0	1.0
	国立 (22)	50.0	4.5	22.7	18.2	27.3	36.4	68.2	4.5	4.5	22.7	0.0	0.0
	公立 (5)	100.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	私立 (74)	47.3	1.4	27.0	37.8	37.8	33.8	62.2	0.0	5.4	16.2	0.0	1.4

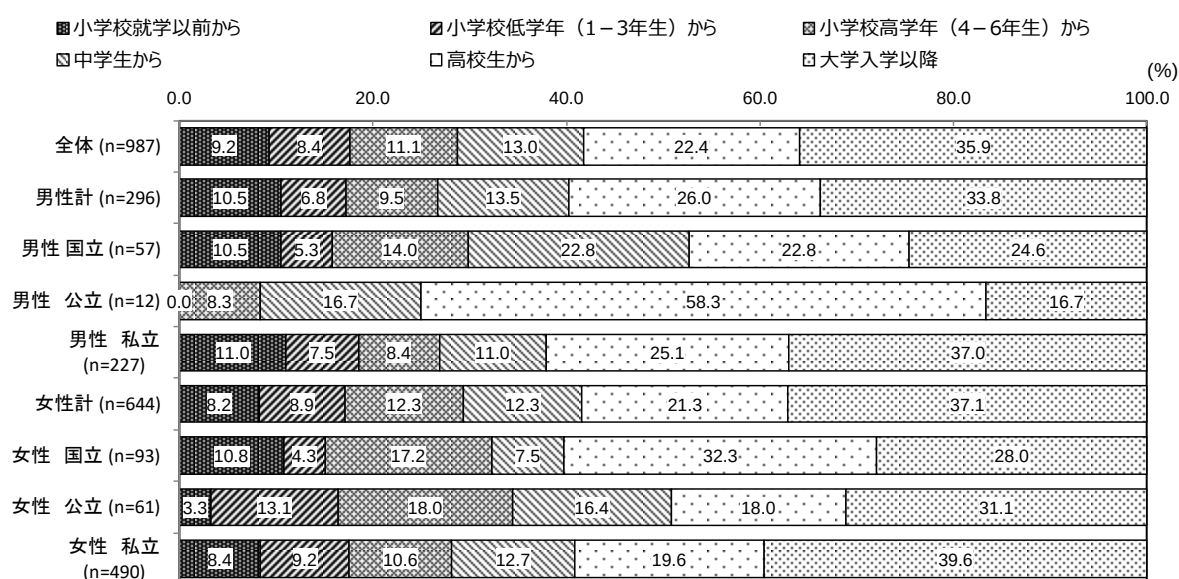
図表 239 性別×大学種別×きょうだいへの行っている(行っていた)世話の内容(複数回答)
(%)

	調査数	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	家計を助ける(働く)	その他
男性	(56)	57.1	32.1	14.3	26.8	10.7	17.9	39.3	3.6	5.4	5.4	8.9	7.1
国立	(13)	69.2	46.2	30.8	30.8	7.7	30.8	23.1	7.7	7.7	7.7	7.7	0.0
公立	(3)	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
私立	(40)	55.0	30.0	7.5	25.0	12.5	15.0	42.5	2.5	5.0	5.0	7.5	10.0
女性	(198)	59.6	34.8	10.6	20.7	4.5	34.3	47.5	0.5	3.0	2.0	5.6	4.0
国立	(27)	51.9	33.3	3.7	11.1	0.0	33.3	51.9	0.0	0.0	3.7	7.4	3.7
公立	(21)	57.1	52.4	14.3	14.3	0.0	38.1	47.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
私立	(150)	61.8	32.7	11.3	23.3	6.0	34.0	46.7	0.7	4.0	2.0	6.0	4.7

③ 性別×大学種別×世話を始めた時期

世話を始めた時期については、「女性 私立」、「男性 私立」で「大学入学以降」の割合が高くなっている。

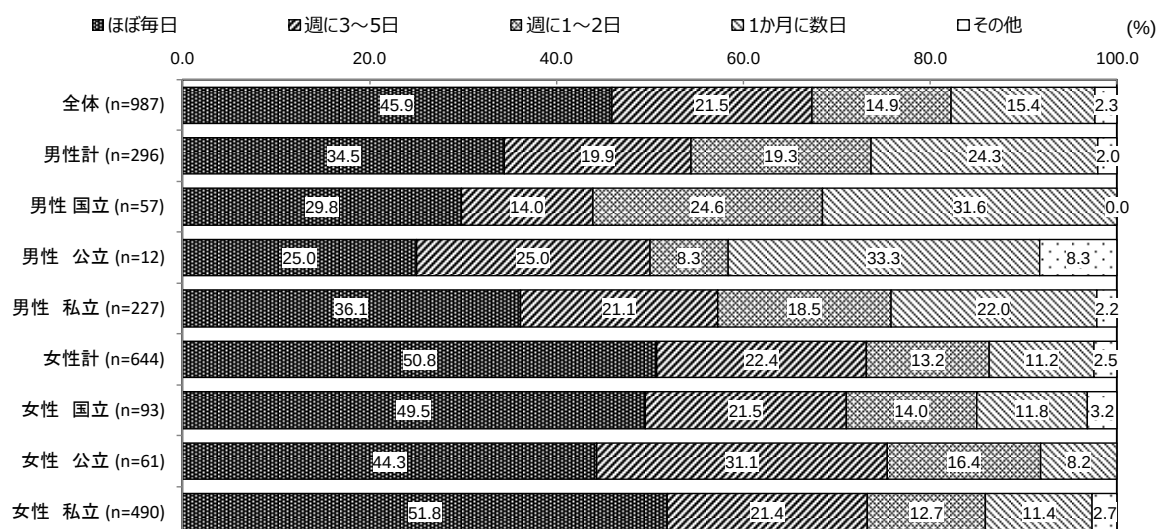
図表 240 性別×大学種別×世話を始めた時期



④ 性別×大学種別×世話をしている(していた)頻度

世話をしている(していた)頻度については、いずれの大学種別も女性のほうが「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。特に、「女性 私立」において「ほぼ毎日」の割合が 51.8%と高くなっている。

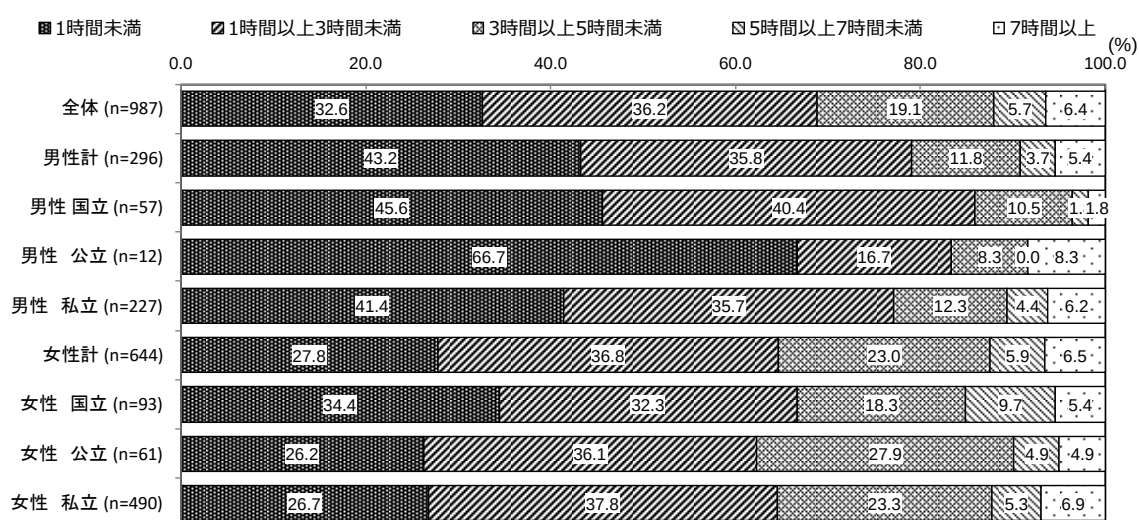
図表 241 性別×大学種別×世話をしている(していた)頻度



⑤ 性別×大学種別×平日1日あたりに世화에費やす時間

平日1日あたりに世화에費やす時間については、いずれの大学種別も男性のほうが短い傾向にある。

図表 242 性別×大学種別×平日1日あたりに世화에費やす時間



⑥ 性別×大学種別×世話をしていることで、大学進学の際に苦労したこと・影響

世話を始めた時期が大学入学以前と答えた人に対し、世話をしていることで大学進学の際に苦労したこと・影響を聞いたところ、男女とも公立で「進学するか働くか迷った」の割合がほかと比べ高くなっている。

図表 243 性別×大学種別×世話をしていることで、大学進学の際に苦労したこと・影響
(複数回答)

(%)

	調査数	受験勉強をする時間が取れなかった	学費等の制約があった	実家から通える範囲の通学面の制約があった	家族等から世話を優先するよう求められた	進学するか働くか迷った	大学以外の進学先と迷った	その他	特にない
全体	(633)	21.6	26.7	13.1	10.7	12.2	7.1	6.3	48.0
男性	(196)	17.3	18.4	9.7	8.7	12.8	7.1	3.6	56.1
国立	(43)	14.0	14.0	20.9	11.6	14.0	7.0	2.3	53.5
公立	(10)	30.0	20.0	10.0	10.0	20.0	0.0	0.0	50.0
私立	(143)	17.5	19.6	6.3	7.7	11.9	7.7	4.2	57.3
女性	(405)	23.0	29.9	15.3	11.6	12.1	7.4	6.7	45.4
国立	(67)	31.3	29.9	16.4	10.4	11.9	4.5	9.0	44.8
公立	(42)	21.4	33.3	16.7	4.8	16.7	11.9	2.4	47.6
私立	(296)	21.3	29.4	14.9	12.8	11.5	7.4	6.8	45.3

⑦ 性別×大学種別×世話をしていることで生ずる就職に関する不安

世話をしていることで生ずる就職に関する不安については、私立で「正社員として就職できるか不安がある」の割合が男女ともほかと比べ高くなっている。

図表 244 性別×大学種別×世話をしていることで生ずる就職に関する不安
(複数回答)

(%)

	調査数	正社員として就職できるか不安がある	休まず働けるか不安がある	通勤できる地域が限られる	働ける時間帯が限られる	就職先について考える時間がない	その他	わからない	特にない
全体	(987)	13.9	11.4	13.4	7.0	7.8	2.0	12.9	54.9
男性	(296)	13.9	10.5	10.1	7.1	7.1	2.0	11.1	60.8
国立	(57)	10.5	14.0	14.0	7.0	5.3	7.0	8.8	61.4
公立	(12)	0.0	8.3	25.0	8.3	8.3	0.0	33.3	41.7
私立	(227)	15.4	9.7	8.4	7.0	7.5	0.9	10.6	61.7
女性	(644)	12.9	10.7	15.1	7.1	7.3	1.7	13.4	53.7
国立	(93)	6.5	8.6	12.9	1.1	4.3	0.0	15.1	58.1
公立	(61)	11.5	8.2	14.8	8.2	3.3	1.6	11.5	62.3
私立	(490)	14.3	11.4	15.5	8.2	8.4	2.0	13.3	51.8

⑧ 性別×大学種別×世話をすることで感じるきつさ

世話をすることで感じるきつさについては、「女性 国立」「女性 私立」で「精神的にきつい」の割合が最も高くなっている。男性はいずれの種別も、「特にきつさは感じていない」の割合が最も高くなっている。

図表 245 性別×大学種別×世話をすることで感じるきつさ(複数回答)

(%)

	調査数	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさは感じていない
全体	(987)	16.3	42.4	31.8	41.8
男性	(296)	13.5	26.4	25.0	54.7
国立	(57)	14.0	26.3	22.8	54.4
公立	(12)	8.3	41.7	25.0	50.0
私立	(227)	13.7	25.6	25.6	55.1
女性	(644)	16.8	47.7	34.0	37.3
国立	(93)	11.8	50.5	24.7	39.8
公立	(61)	8.2	37.7	32.8	47.5
私立	(490)	18.8	48.4	35.9	35.5

⑨ 性別×大学種別×ご自身が世話をする理由

ご自身が世話をする理由については、男性のほうが女性よりも「わからない・考えたことがない」の割合が高くなっている。「自分がお世話をしないと家族が困るため」は、女性のほうが男性よりも回答率が高い傾向にある。

図表 246 性別×大学種別×ご自身が世話をする理由(複数回答)

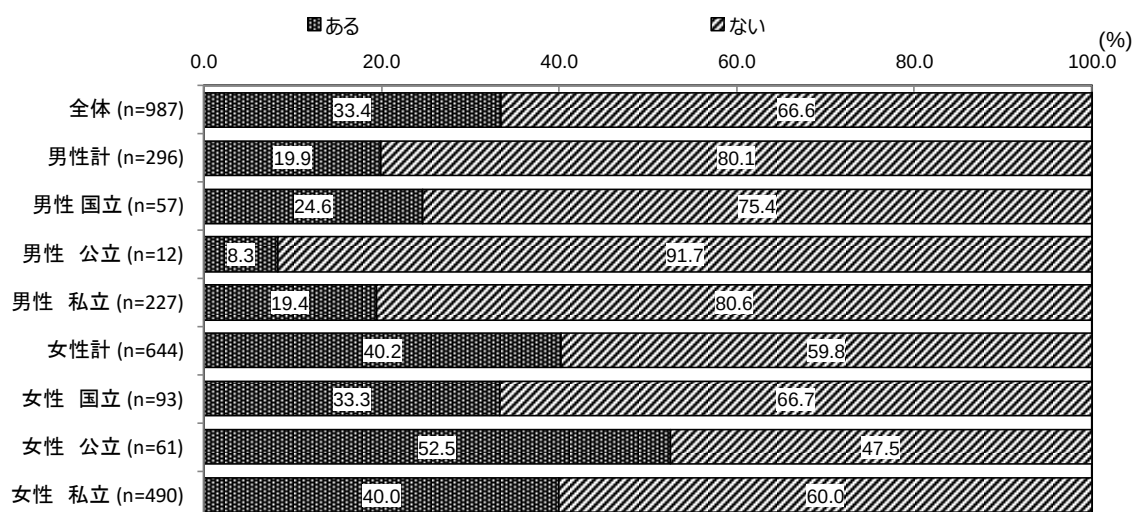
(%)

		調査数	自分がお世話をした と思うため	自分がお世話をしな い家族が困るため	ほかにお世話をでき ないため	世話をしているた め	ほかの家族や親せ き等から	その他	わからない・ 考えたことがない
全体		(987)	25.2	46.9	27.0	13.4	4.1	23.7	
男性		(296)	22.3	36.1	18.9	10.1	3.7	35.8	
	国立	(57)	19.3	40.4	26.3	15.8	1.8	35.1	
	公立	(12)	33.3	41.7	8.3	0.0	0.0	33.3	
	私立	(227)	22.5	34.8	17.6	9.3	4.4	36.1	
女性		(644)	27.5	51.7	30.4	14.1	3.9	18.2	
	国立	(93)	24.7	64.5	33.3	15.1	5.4	17.2	
	公立	(61)	32.8	55.7	27.9	18.0	3.3	13.1	
	私立	(490)	27.3	48.8	30.2	13.5	3.7	19.0	

⑩ 性別×大学種別×世話について相談した経験の有無

世話について相談した経験の有無については、女性のほうが「ある」割合が高くなっている。

図表 247 性別×大学種別×世話について相談した経験の有無



⑪ 性別×大学種別×世話についての相談相手

世話についての相談相手については、回答者数に留意が必要であるが、女性は「友人」、男性は「家族」が多い傾向にある。

図表 248 性別×大学種別×世話についての相談相手(複数回答)

		調査数	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	親戚(おじ、おばなど)	友人	交際相手、配偶者	大学の指導教員	大学の学生相談室やキャリア支援室・保健センター	その他の大学の職員・機関	医師や看護師、その他の病院の人	ホームヘルパーやケアマネジャー、福祉サービスの人	役所の人(自治体の保健センター等含む)	近所の人	SNS上での知り合い	その他
全体		(330)	52.4	14.8	49.7	16.7	11.5	12.7	1.8	4.5	4.5	3.6	2.4	4.5	7.3
男性		(59)	67.8	13.6	39.0	10.2	5.1	8.5	1.7	3.4	3.4	6.8	5.1	3.4	1.7
	国立	(14)	78.6	21.4	14.3	21.4	14.3	21.4	7.1	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0
	公立	(1)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性	私立	(44)	63.6	9.1	47.7	6.8	2.3	4.5	0.0	2.3	0.0	6.8	6.8	4.5	2.3
		(259)	49.8	15.1	51.4	18.1	12.7	13.5	1.9	4.2	5.0	2.7	1.9	4.2	8.5
	国立	(31)	41.9	16.1	61.3	16.1	9.7	6.5	0.0	6.5	9.7	3.2	3.2	0.0	19.4
	公立	(32)	50.0	28.1	43.8	21.9	12.5	18.8	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0
	私立	(196)	51.0	12.8	51.0	17.9	13.3	13.8	2.0	4.6	5.1	3.1	2.0	5.1	8.2

⑫ 性別×大学種別×大学や周りの大人に助けてほしいこと、必要としている支援

大学や周りの大人に助けてほしいこと、必要としている支援については、女性のほうが「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「家族の世話について相談にのってほしい」の割合が高くなっている。

「女性 私立」で「進路や就職など将来の相談にのってほしい」、「自由に使える時間がほしい」の割合が高くなっている。

図表 249 性別×大学種別×大学や周りの大人に助けてほしいこと、必要としている支援
(複数回答)

(%)

	調査数	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	大学の勉強や学習のサポート	家庭への経済的な支援	学費への支援・奨学金等	その他	特にない	わからない
全体	(987)	21.7	10.6	5.9	7.4	2.5	26.2	28.3	18.5	23.4	28.3	2.5	26.2	10.2
男性	(296)	17.6	6.4	4.1	6.1	0.3	20.6	22.3	14.5	15.9	23.6	1.7	33.4	11.5
国立	(57)	17.5	3.5	3.5	8.8	1.8	24.6	28.1	14.0	19.3	17.5	3.5	42.1	7.0
公立	(12)	8.3	8.3	8.3	8.3	0.0	25.0	25.0	8.3	25.0	16.7	0.0	25.0	25.0
私立	(227)	18.1	7.0	4.0	5.3	0.0	19.4	20.7	15.0	14.5	25.6	1.3	31.7	11.9
女性	(644)	23.0	12.1	6.2	7.3	3.3	28.4	30.7	20.0	26.2	30.4	2.6	23.6	9.5
国立	(93)	24.7	16.1	9.7	9.7	3.2	26.9	25.8	17.2	26.9	22.6	1.1	31.2	6.5
公立	(61)	18.0	11.5	4.9	4.9	4.9	23.0	26.2	13.1	27.9	36.1	1.6	24.6	9.8
私立	(490)	23.3	11.4	5.7	7.1	3.1	29.4	32.2	21.4	25.9	31.2	3.1	22.0	10.0

3-3 家族構成による世話の状況の違い

(1) 家庭や家族のことについて

① 家族構成×世話を必要としている家族

世話を必要としている家族については、二世世代世帯（ふたり親家庭）、ひとり親世帯は「母親」の割合が高くなっている。三世世代世帯、祖父母のみ世帯は「祖母」の割合が高くなっている。

図表 250 家族構成×世話を必要としている家族（複数回答）

(%)

	調査数	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体	(987)	35.4	20.5	32.8	17.2	26.5	4.7
二世世代世帯	(335)	38.2	21.8	26.9	14.3	24.5	3.9
三世世代世帯	(149)	20.8	12.8	58.4	32.2	18.1	6.0
ひとり親世帯	(121)	43.8	14.0	22.3	9.1	27.3	3.3
祖父母のみ世帯	(19)	10.5	15.8	63.2	31.6	21.1	10.5
その他、一人暮らし等	(363)	37.2	24.8	29.8	15.7	32.0	5.0

※家族構成の軸に関しては、母親、父親、祖母、祖父の有無で分類をしており、「祖父母のみ世帯」は、母親、父親ともに同居しておらず、祖母、祖父の両方またはいずれかと同居している人を指す（きょうだいはいる人を含む）。「二世世代世帯」はふたり親家庭を指す。

以降同様。

② 家族構成×行っている(行っていた)世話の内容

母親への行っている(行っていた)世話の内容については、ひとり親世帯が、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」の割合が高くなっている。

図表 251 家族構成×母親への行っている(行っていた)世話の内容(複数回答)

(%)

調査数	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	家計を助ける(働く)	その他
全体 (349)	69.9	13.5	7.2	24.6	13.2	42.7	23.5	3.4	10.0	7.7	17.2	5.2
二世帯世帯 (128)	75.0	12.5	7.0	27.3	18.8	43.8	27.3	3.9	7.0	7.8	13.3	4.7
三世帯世帯 (31)	77.4	16.1	6.5	45.2	12.9	32.3	16.1	0.0	9.7	16.1	12.9	6.5
ひとり親世帯 (53)	84.9	13.2	7.5	32.1	17.0	54.7	28.3	1.9	13.2	11.3	26.4	1.9
祖父母のみ世帯 (2)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他、一人暮らし等 (135)	58.5	14.1	7.4	14.8	5.9	39.3	18.5	4.4	11.9	4.4	18.5	6.7

父親への行っている(行っていた)世話の内容については、ひとり親世帯、次いで二世帯世帯(ふたり親家庭)で「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」の割合が高くなっている。

図表 252 家族構成×父親への行っている(行っていた)世話の内容(複数回答)

(%)

調査数	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	家計を助ける(働く)	その他
全体 (202)	56.9	8.4	9.9	15.8	13.9	19.3	20.3	2.5	9.9	8.9	18.3	8.4
二世帯世帯 (73)	67.1	2.7	8.2	15.1	11.0	19.2	20.5	2.7	5.5	8.2	16.4	12.3
三世帯世帯 (19)	42.1	21.1	15.8	21.1	21.1	15.8	31.6	0.0	5.3	5.3	31.6	0.0
ひとり親世帯 (17)	70.6	17.6	23.5	17.6	29.4	29.4	23.5	0.0	0.0	17.6	5.9	0.0
祖父母のみ世帯 (3)	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他、一人暮らし等 (90)	48.9	7.8	7.8	15.6	11.1	18.9	16.7	3.3	16.7	8.9	20.0	8.9

祖母への行っている(行っていた)世話の内容については、祖父母のみ世帯がほかの世帯に比べ「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」の割合が高くなっている。三世帯世帯も、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が高くなっている。それ以外の世帯は「見守り」の割合が最も高くなっている。

図表 253 家族構成×祖母への行っている(行っていた)世話の内容(複数回答)

(%)

調査数	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	家計を助ける(働く)	その他
全体 (324)	51.5	3.1	26.5	33.6	25.9	36.7	57.4	0.3	5.2	15.4	2.5	3.1
二世帯世帯 (90)	40.0	1.1	26.7	32.2	28.9	27.8	56.7	0.0	4.4	16.7	2.2	4.4
三世帯世帯 (87)	60.9	3.4	24.1	32.2	24.1	35.6	56.3	0.0	6.9	20.7	1.1	2.3
ひとり親世帯 (27)	55.6	0.0	44.4	25.9	37.0	37.0	63.0	0.0	11.1	29.6	3.7	3.7
祖父母のみ世帯 (12)	66.7	8.3	0.0	41.7	33.3	50.0	50.0	0.0	8.3	8.3	8.3	0.0
その他、一人暮らし等 (108)	50.9	4.6	26.9	37.0	21.3	43.5	58.3	0.9	2.8	7.4	2.8	2.8

祖父への行っている(行っていた)世話の内容については、祖父母のみ世帯がほかの世帯に比べ「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が高くなっている。三世帯世帯は「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が高くなっている。ひとり親世帯は、「通院の付き添い」の割合が高くなっている。それ以外の世帯は「見守り」の割合が最も高くなっている。

図表 254 家族構成×祖父への行っている(行っていた)世話の内容(複数回答)

(%)

調査数	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	家計を助ける(働く)	その他
全体 (170)	48.2	1.8	26.5	29.4	28.8	28.2	56.5	1.2	4.1	11.8	1.2	2.4
二世帯世帯 (48)	37.5	2.1	31.3	41.7	37.5	33.3	66.7	2.1	6.3	16.7	0.0	2.1
三世帯世帯 (48)	60.4	0.0	22.9	20.8	22.9	31.3	50.0	0.0	4.2	8.3	0.0	2.1
ひとり親世帯 (11)	54.5	0.0	45.5	54.5	72.7	45.5	63.6	0.0	9.1	9.1	9.1	0.0
祖父母のみ世帯 (6)	83.3	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0
その他、一人暮らし等 (57)	42.1	3.5	22.8	24.6	19.3	19.3	56.1	0.0	1.8	12.3	0.0	3.5

きょうだいへの行っている(行っていた)世話の内容については、二世世代世帯(ふたり親家庭)、ひとり親世帯、祖父母のみ世帯で、三世世代世帯に比べ「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」の割合が高くなっている。

図表 255 家族構成×きょうだいへの行っている(行っていた)世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	家計を助ける(働く)	その他
全体	(262)	59.9	35.1	11.5	22.1	6.1	30.5	45.4	1.1	3.8	2.7	6.9	4.6
二世世代世帯	(82)	62.2	40.2	11.0	22.0	4.9	31.7	48.8	0.0	1.2	1.2	7.3	6.1
三世世代世帯	(27)	44.4	29.6	14.8	25.9	3.7	37.0	51.9	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7
ひとり親世帯	(33)	63.6	42.4	15.2	33.3	12.1	27.3	42.4	6.1	9.1	3.0	12.1	3.0
祖父母のみ世帯	(4)	75.0	50.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
その他、一人暮らし等	(116)	60.3	30.2	10.3	19.0	5.2	29.3	42.2	0.9	4.3	3.4	6.9	4.3

③ 家族構成×一緒に世話を行っている人

一緒に世話を行っている人については、二世世代世帯（ふたり親家庭）、三世世代世帯は「母親」、次いで「父親」の割合が高くなっている。三世世代世帯は、「福祉サービスを利用」の割合も高くなっている。ひとり親世帯、祖父母のみ世帯は、「自分のみ」の割合が高くなっている。

図表 256 家族構成×一緒に世話を行っている人複数回答)

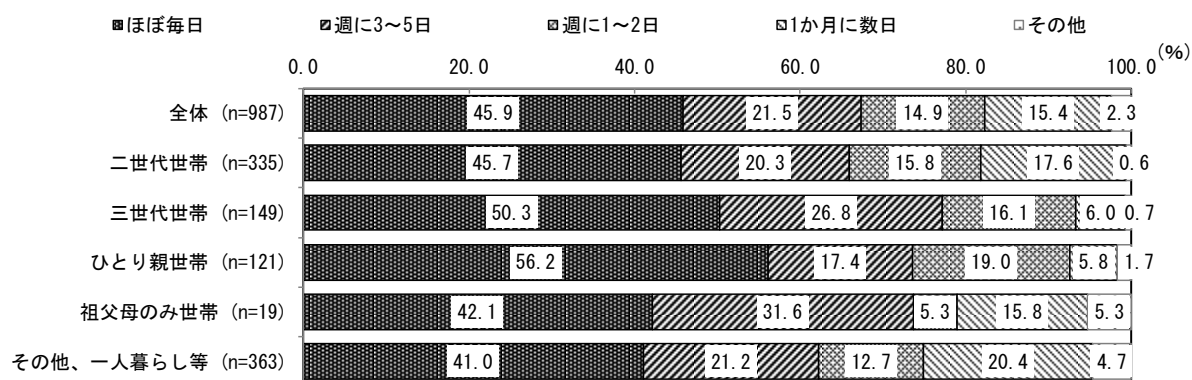
(%)

	調査数	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	（福祉サービスなど）を利用	その他
全体	(987)	52.9	36.2	11.8	5.6	27.3	7.4	20.0	14.1	1.3
二世世代世帯	(335)	50.4	43.9	8.4	3.0	25.4	6.9	21.2	9.9	1.2
三世世代世帯	(149)	70.5	37.6	22.1	8.1	28.9	4.0	6.7	26.2	0.7
ひとり親世帯	(121)	36.4	14.0	5.0	1.7	27.3	8.3	30.6	14.9	1.7
祖父母のみ世帯	(19)	26.3	15.8	21.1	0.0	15.8	5.3	26.3	10.5	5.3
その他、一人暮らし等	(363)	54.8	36.9	12.4	8.5	28.9	9.1	20.4	12.9	1.4

④ 家族構成×世話をしている(していた)頻度

世話をしている(していた)頻度については、ひとり親世帯が「ほぼ毎日」の割合が最も高くなっている。

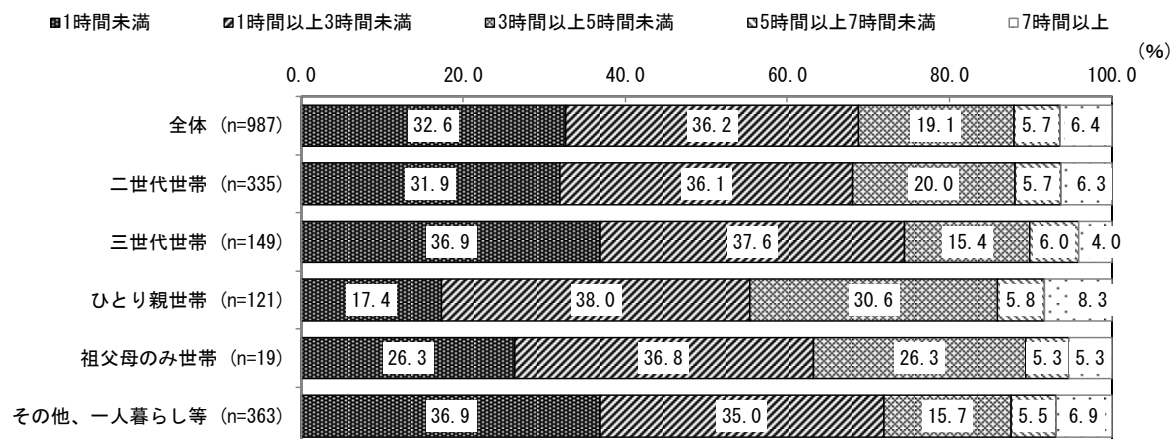
図表 257 家族構成×世話をしている(していた)頻度



⑤ 家族構成×平日1日あたりに世話に費やす時間

平日1日あたりに世話に費やす時間については、ひとり親世帯が時間が長い傾向にある。

図表 258 家族構成×平日1日あたりに世話に費やす時間



⑥ 家族構成×世話をしていることで、大学進学の際に苦勞したこと・影響

世話を始めた時期が大学入学以前と答えた人に対し、世話をしていることで、大学進学の際に苦勞したこと・影響について聞いたところ、ひとり親世帯以外は「特にない」の割合が最も高くなっている。ひとり親世帯は、「学費等の制約や経済的な不安があった」、「受験勉強をする時間が取れなかった」の割合が高くなっている。

図表 259 家族構成×世話をしていることで、大学進学の際に苦勞したこと・影響（複数回答）

(%)

	調査数	受験勉強をする時間が取れなかった	学費等の制約や経済的な不安があった	実家から通える範囲等の通学面の制約があった	家族等から世話を優先するよう求められた	進学するか働くか迷った	大学以外の進学先と迷った	その他	特にない
全体	(633)	21.6	26.7	13.1	10.7	12.2	7.1	6.3	48.0
二世帯世帯	(199)	17.6	23.6	16.1	8.5	8.0	6.0	4.0	54.3
三世帯世帯	(77)	18.2	13.0	20.8	15.6	6.5	2.6	3.9	54.5
ひとり親世帯	(75)	33.3	42.7	17.3	16.0	17.3	8.0	8.0	28.0
祖父母のみ世帯	(9)	22.2	11.1	0.0	0.0	22.2	11.1	0.0	55.6
その他、一人暮らし等	(273)	22.3	28.9	8.1	9.9	15.0	8.8	8.4	46.9

⑦ 家族構成×世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと

世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたことについては、ひとり親世帯は、「自分の時間が取れなかった」が最も多く、次いで「睡眠が十分に取れなかった」、「友人と遊ぶことができなかった」の割合が高くなっている。

ほかの世帯は、「特になかった」が最も高いものの、「自分の時間が取れなかった」の割合は高くなっている。

図表 260 家族構成×世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと(複数回答)

(%)

調査数	大学への授業に行きたくても行けなかった	単位をとれなかった、留年・休学した	課題・予習復習をする時間が取れなかった	留学をあきらめた	睡眠が十分に取れなかった	友人と遊ぶことができなかった	部活動・サークル活動ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	課外活動・習い事ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	アルバイトができなかった	就職先・進路の変更を考えざるを得なかった、変更した	一人暮らしをしたくてもできなかった	恋愛をしたくてもできなかった	自分の時間が取れなかった	その他	特になかった
全体 (987)	4.5	3.6	17.9	5.3	24.4	24.3	9.8	4.8	11.8	7.5	13.2	7.9	32.2	2.1	41.9
二世帯世帯 (335)	4.5	3.3	18.8	3.0	23.3	25.4	8.7	3.6	13.4	8.4	14.9	6.9	32.8	2.4	43.0
三世帯世帯 (149)	5.4	3.4	20.8	4.7	24.8	24.2	10.7	4.0	11.4	6.0	18.1	8.1	36.9	0.7	38.9
ひとり親世帯 (121)	5.8	5.0	25.6	5.8	35.5	28.9	12.4	9.1	16.5	3.3	22.3	13.2	42.1	3.3	24.0
祖父母のみ世帯 (19)	5.3	0.0	0.0	0.0	21.1	15.8	10.5	0.0	21.1	10.5	10.5	5.3	31.6	5.3	36.8
その他、一人暮らし等 (363)	3.6	3.9	14.3	7.7	21.8	22.3	9.6	5.0	8.3	8.5	6.6	7.2	26.4	1.9	48.5

⑧ 家族構成×世話をしている(していた)ことで今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなこと

世話をしている(していた)ことで今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなことについては、いずれの世帯も「特にない」が最も高いものの、それをのぞくと、ひとり親世帯は、「自分の時間が取れない」が最も多く、次いで「一人暮らしができるか不安がある」、「睡眠が十分に取れない」の割合が高くなっている。

祖父母のみ世帯は、「一人暮らしができるか不安がある」の割合がほかの世帯に比べ高くなっている。

図表 261 家族構成×世話をしている(していた)ことで今後不安なこと、
やりたいけどできなさそうなこと(複数回答)

(%)

調査数	大学の授業に行きたくても行けない	単位取得、進級・卒業できるか不安がある	課題・予習復習をする時間が取れない	留学に行けない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活動・サークル活動ができない	課外活動・習い事ができない	アルバイトができない	就職活動の時間が取れない	希望する就職先・進路の変更を考えざるを得ない	一人暮らしができるか不安がある	恋愛・結婚に対する不安がある	自分の時間が取れない	その他	特にない
全体 (987)	2.8	8.0	8.5	4.4	12.9	9.9	2.9	3.1	7.4	11.4	13.6	15.9	14.4	20.1	3.5	51.9
二世帯世帯 (335)	3.0	9.6	9.9	4.5	12.2	10.1	2.4	2.4	9.3	12.8	11.9	19.4	13.4	20.3	3.0	54.6
三世帯世帯 (149)	2.0	5.4	10.1	4.7	12.1	13.4	4.0	3.4	8.7	12.1	13.4	25.5	13.4	26.2	2.7	48.3
ひとり親世帯 (121)	3.3	10.7	8.3	3.3	19.0	13.2	3.3	5.0	10.7	14.0	9.9	23.1	16.5	28.9	3.3	38.0
祖父母のみ世帯 (19)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	26.3	31.6	15.8	26.3	5.3	42.1
その他、一人暮らし等 (363)	3.0	7.2	7.2	4.7	12.1	7.4	2.8	3.0	4.1	9.4	15.7	5.5	14.9	14.0	4.4	55.9

⑨ 家族構成×世話をしていることで生ずる就職に関する不安

世話をしていることで生ずる就職に関する不安については、ひとり親世帯は、「わからない」、「就職先について考える時間がない」の割合が高くなっている。

図表 262 家族構成×世話をしていることで生ずる就職に関する不安(複数回答)

(%)

	調査数	正社員として就職できるか不安がある	休まず働けるか不安がある	通勤できる地域が限られる	働ける時間帯が限られる	就職先について考える時間がない	その他	わからない	特にな
全体	(987)	13.9	11.4	13.4	7.0	7.8	2.0	12.9	54.9
二世帯世帯	(335)	13.7	11.0	11.9	6.9	7.5	2.1	12.8	56.4
三世帯世帯	(149)	13.4	14.1	17.4	8.1	7.4	1.3	16.8	51.7
ひとり親世帯	(121)	16.5	11.6	15.7	5.0	12.4	0.0	17.4	43.8
祖父母のみ世帯	(19)	15.8	15.8	15.8	10.5	0.0	0.0	15.8	42.1
その他、一人暮らし等	(363)	13.2	10.5	12.1	7.2	7.2	3.0	9.6	59.2

⑩ 家族構成×世話をすることで感じるきつさ

世話をすることで感じるきつさについては、ひとり親世帯で「精神的にきつい」、「時間的余裕がない」の割合が最も高くなっている。

図表 263 家族構成×世話をすることで感じるきつさ(複数回答)

(%)

	調査数	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさは感じていない
全体	(987)	16.3	42.4	31.8	41.8
二世代世帯	(335)	15.5	44.5	33.7	40.9
三世代世帯	(149)	12.8	45.0	34.2	37.6
ひとり親世帯	(121)	18.2	53.7	38.8	29.8
祖父母のみ世帯	(19)	15.8	31.6	21.1	57.9
その他、一人暮らし等	(363)	17.9	36.1	27.3	47.7

⑪ 家族構成×大学や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援

大学や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援については、ひとり親世帯で「学費への支援・奨学金等」、「家庭への経済的な支援」の割合が高くなっている。三世代世帯で「進路や就職など将来の相談にのってほしい」の割合が高くなっている。

図表 264 家族構成×大学や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援(複数回答)

(%)

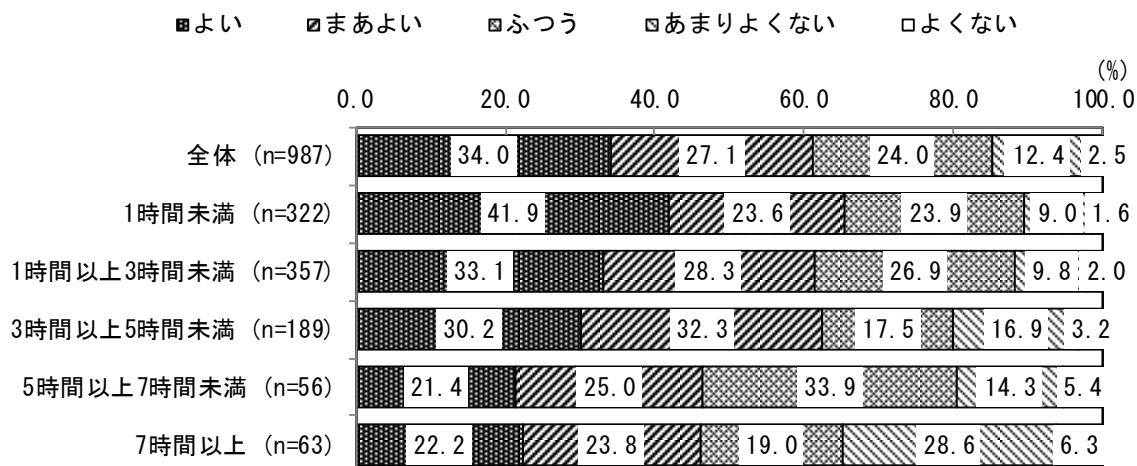
	調査数	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	家族の病気や障がい、わがことなどについて	自分が行っているお世話がほしい	自分が行っているお世話をしてくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話をしてくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	大学の勉強や学習のサポート	家庭への経済的な支援	学費への支援・奨学金等	その他	特にない	わからない
全体	(987)	21.7	10.6	5.9	7.4	2.5	26.2	28.3	18.5	23.4	28.3	2.5	26.2	10.2		
二世帯世帯	(335)	20.0	9.9	6.6	8.7	3.3	29.3	26.0	19.1	24.2	26.0	2.1	27.2	10.4		
三世帯世帯	(149)	21.5	13.4	6.7	7.4	6.0	28.9	36.2	19.5	18.8	24.2	2.0	28.2	7.4		
ひとり親世帯	(121)	24.8	9.1	4.1	6.6	0.8	26.4	28.9	19.8	28.9	34.7	3.3	17.4	10.7		
祖父母のみ世帯	(19)	10.5	5.3	0.0	15.8	5.3	21.1	10.5	0.0	5.3	10.5	5.3	42.1	15.8		
その他、一人暮らし等	(363)	22.9	11.0	5.8	6.1	0.8	22.6	27.8	18.2	23.7	30.9	2.8	26.7	10.7		

3-4 平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況等

① 平日1日あたりの世話に費やす時間×身体面の健康状態

身体面の健康状態については、世話に費やす時間が長くなるほど「よい」の割合が低くなり、1日5時間以上の場合、「よい」、「まあよい」の回答者の割合が50%未満になっている。

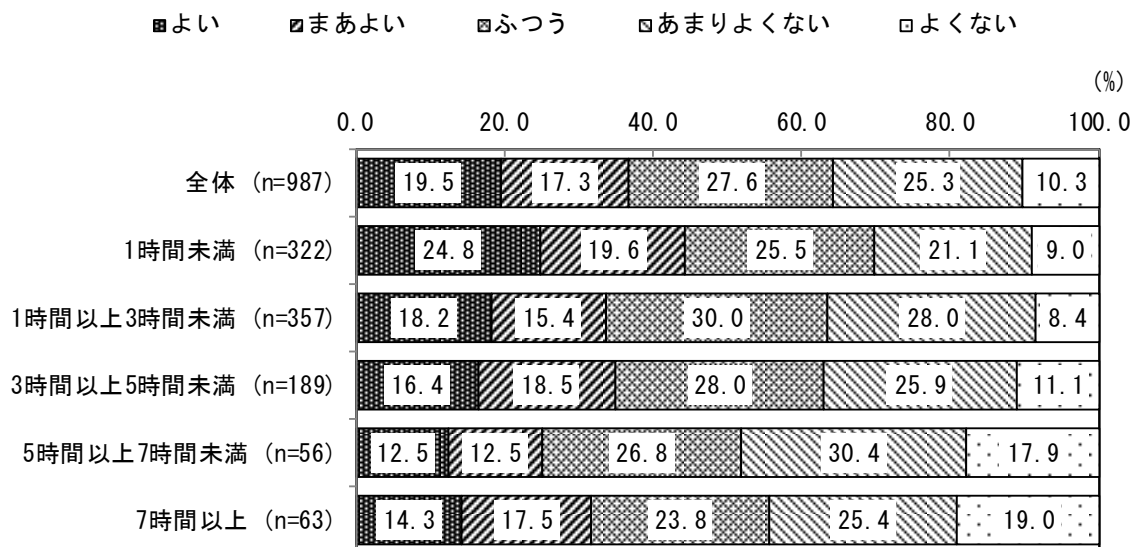
図表 265 世話に費やす時間(平日1日あたり)×身体面の健康状態



② 平日1日あたりの世話に費やす時間×精神面の健康状態

精神面の健康状態については、世話に費やす時間が長くなるほど「よくない」の割合が高くなる傾向にある。

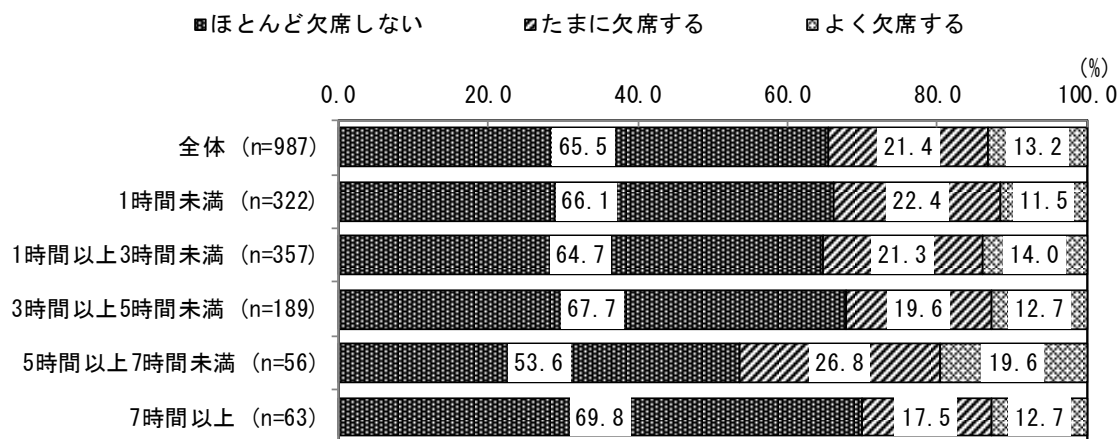
図表 266 世話に費やす時間(平日1日あたり)×精神面の健康状態



③ 平日1日あたりの世話に費やす時間×大学の授業(履修している講義)への出席状況

大学の授業(履修している講義)への出席状況については、「5時間以上7時間未満」の人は「たまに欠席する」、「よく欠席する」の割合が高くなっている。

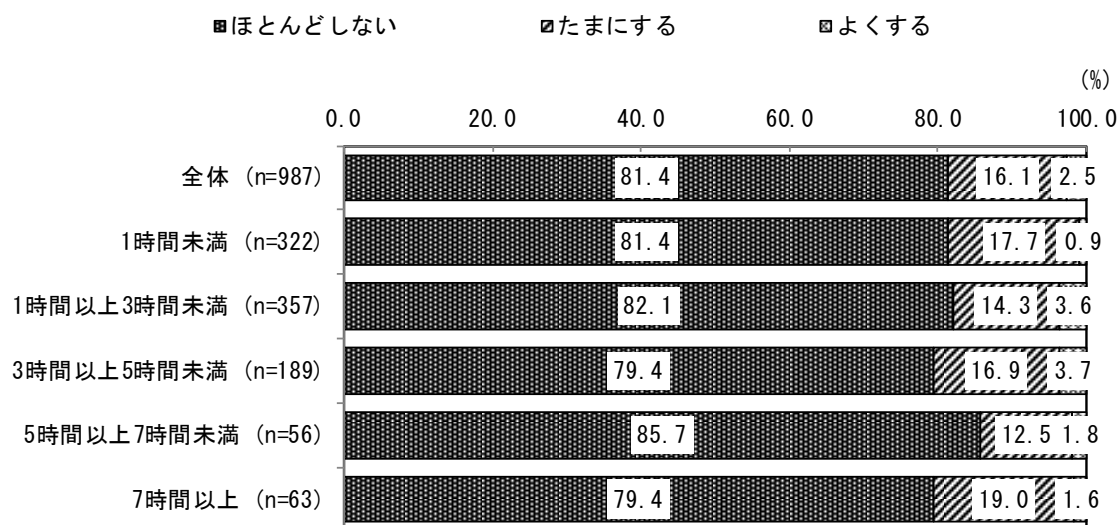
図表 267 世話に費やす時間(平日1日あたり)×
大学の授業(履修している講義)への出席状況



④ 平日1日あたりの世話に費やす時間×大学の授業(履修している講義)への遅刻や早退の状況

大学の授業(履修している講義)への遅刻や早退の状況については、「7時間以上」の人は「たまにする」の割合が高くなっている。

図表 268 世話に費やす時間(平日1日あたり)×
大学の授業(履修している講義)への遅刻や早退の状況



⑤ 平日1日あたりの世話に費やす時間×普段の大学生活等においてあてはまるもの

普段の大学生活等においてあてはまるものについては、世話に費やす時間が長くなるほど「友人と遊んだり、話したりする時間が少ない」、「持ち物の忘れ物が多い」の割合が高くなる傾向にある。

図表 269 世話に費やす時間(平日1日あたり)×
普段の大学生活等においてあてはまるもの(複数回答)

(%)

	調査数	授業を欠席しがちである	課題や予習復習ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活・サークル等を休むことが多い	遅れることが多い	提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い	合宿等の行事を欠席する	1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、話したりする時間が少ない	特にな
全体	(987)	9.7	24.7	9.8	6.9	15.0	4.0	30.1	32.6	33.5	
1時間未満	(322)	6.2	24.2	6.8	6.8	14.0	2.5	30.1	30.4	34.5	
1時間以上3時間未満	(357)	11.8	23.2	9.8	5.6	12.9	3.1	27.2	28.6	37.5	
3時間以上5時間未満	(189)	11.6	28.0	11.6	5.8	19.0	5.8	33.3	37.6	28.0	
5時間以上7時間未満	(56)	8.9	25.0	14.3	17.9	25.0	8.9	37.5	41.1	25.0	
7時間以上	(63)	11.1	25.4	15.9	7.9	11.1	6.3	30.2	44.4	30.2	

⑥ 平日1日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みや困りごと

現在の悩みや困りごとについては、世話に費やす時間が長くなるほど、大半の項目で回答割合が高くなる傾向がある。

図表 270 世話に費やす時間(平日1日あたり)×現在の悩みや困りごと(複数回答)

(%)

調査数	友人との関係のこと	学業成績のこと	就職・進路のこと	部活動・サークル活動のこと	学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと	課外活動や習い事ができないこと	アルバイト・仕事のこと	家庭の経済状況のこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと (両親の仲が良くないなど)	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にない
全体 (987)	19.1	31.3	77.8	9.0	35.5	8.3	32.4	31.6	23.9	20.2	17.5	24.3	5.1	4.9
1時間未満 (322)	16.8	28.6	74.8	9.9	28.9	5.9	24.2	25.8	16.8	14.3	10.2	21.7	4.0	6.2
1時間以上3時間未満 (357)	17.4	29.1	78.4	8.1	36.4	6.2	30.5	33.3	22.7	20.4	16.8	20.4	4.5	5.0
3時間以上5時間未満 (189)	23.8	33.9	78.3	10.1	38.1	12.7	42.3	31.2	30.2	23.8	22.2	33.9	4.2	2.6
5時間以上7時間未満 (56)	26.8	46.4	82.1	10.7	50.0	17.9	41.1	39.3	32.1	23.2	25.0	25.0	7.1	3.6
7時間以上 (63)	20.6	36.5	84.1	4.8	42.9	11.1	47.6	46.0	41.3	34.9	38.1	30.2	14.3	4.8

⑦ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話をしていることで、大学進学の際に苦勞したこと・影響

世話を始めた時期が大学入学以前と答えた人に対し、世話をしていることで、大学進学の際に苦勞したこと・影響を聞いたところ、7時間までの人は、世話に費やす時間が長くなるほど「受験勉強をする時間が取れなかった」、「学費等の制約や経済的な不安があった」の割合が高くなる傾向にある。

7時間以上の人は「家族等から世話を優先するよう求められた」の割合が高くなっている。

図表 271 世話に費やす時間(平日1日あたり)×
世話をしていることで、大学進学の際に苦勞したこと・影響(複数回答)

(%)

	調査数	受験勉強をする時間が取れなかった	学費等の制約や経済的な不安があった	実家から通える範囲等の通学面の制約があった	家族等から世話を優先するよう求められた	進学するか働くか迷った	大学以外の進学先と迷った	その他	特にない
全体	(633)	21.6	26.7	13.1	10.7	12.2	7.1	6.3	48.0
1時間未満	(192)	10.4	13.5	5.7	4.7	9.4	5.7	4.2	64.1
1時間以上3時間未満	(220)	20.5	30.0	14.1	10.5	12.3	5.5	4.5	45.9
3時間以上5時間未満	(144)	31.3	29.9	20.1	15.3	11.1	9.0	6.9	37.5
5時間以上7時間未満	(36)	44.4	55.6	16.7	8.3	19.4	13.9	11.1	30.6
7時間以上	(41)	26.8	34.1	14.6	26.8	22.0	9.8	19.5	36.6

⑧ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと

世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたことについては、世話に費やす時間が5時間以上になると、「睡眠が十分に取れなかった」、「友人と遊ぶことができなかった」の割合が上昇する。

図表 272 世話に費やす時間(平日1日あたり)×
世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと(複数回答)

(%)

	調査数	大学の授業に行きたくても 行けなかった	単位をとれなかった、 留年・休学した	課題・予習復習をする時間が 取れなかった	留学をあきらめた	睡眠が十分に取れなかった	友人と遊ぶことができなかった	もう少しは辞めざるを得なかった	部活動・サークル活動が できなかった	課外活動・習い事が できなかった	アルバイトができなかった	就職先・進路の変更を考えざるを得な かった、変更した	一人暮らしをしたくても できなかった	恋愛をしたくてもできなかった	自分の時間が取れなかった	その他	特になかった
全体	(987)	4.5	3.6	17.9	5.3	24.4	24.3	9.8	4.8	11.8	7.5	13.2	7.9	32.2	2.1	41.9	
1時間未満	(322)	2.8	1.2	6.2	3.4	7.5	8.7	2.8	1.9	5.3	4.0	6.8	4.7	13.4	0.9	64.6	
1時間以上3時間未満	(357)	3.4	2.8	18.2	3.6	23.0	24.4	9.8	2.8	10.6	6.7	15.4	7.8	35.0	2.2	35.0	
3時間以上5時間未満	(189)	4.2	5.8	27.5	6.9	36.5	38.6	14.3	6.3	17.5	10.1	18.0	8.5	47.6	3.2	27.5	
5時間以上7時間未満	(56)	10.7	12.5	37.5	10.7	51.8	44.6	16.1	19.6	23.2	8.9	14.3	16.1	50.0	3.6	25.0	
7時間以上	(63)	14.3	6.3	30.2	14.3	58.7	42.9	27.0	12.7	23.8	20.6	17.5	15.9	50.8	3.2	23.8	

⑨ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話をしていることで生ずる就職に関する不安

世話をしていることで生ずる就職に関する不安については、世話に費やす時間が長くなるほど各項目の回答割合が高くなっている。7時間以上になると、「働ける時間帯が限られる」、5時間以上になると「就職先について考える時間がない」の割合が上昇する。

図表 273 世話に費やす時間(平日1日あたり)×
世話をしていることで生ずる就職に関する不安(複数回答)

(%)

	調査数	できる社員か不安が就職する	休まず働けるか不安がある	通勤できる地域が限られる	働ける時間帯が限られる	就職先について考える時間がない	その他	わからない	特にな
全体	(987)	13.9	11.4	13.4	7.0	7.8	2.0	12.9	54.9
1時間未満	(322)	7.1	5.0	7.8	5.0	3.1	1.2	10.9	68.0
1時間以上3時間未満	(357)	14.3	9.5	12.9	6.4	7.0	2.5	13.4	53.8
3時間以上5時間未満	(189)	18.5	17.5	18.5	9.0	11.6	1.1	13.8	47.6
5時間以上7時間未満	(56)	21.4	23.2	19.6	7.1	14.3	1.8	8.9	42.9
7時間以上	(63)	25.4	27.0	23.8	14.3	19.0	6.3	20.6	27.0

⑩ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話をすることに感じるきつさ

世話をすることに感じるきつさについては、世話に費やす時間が長くなるほど、「身体的にきつい」、「時間的余裕がない」の割合が高くなっている。3時間以上になると、3時間未満に比べ、いずれかのきつさを感じている割合が上昇する。

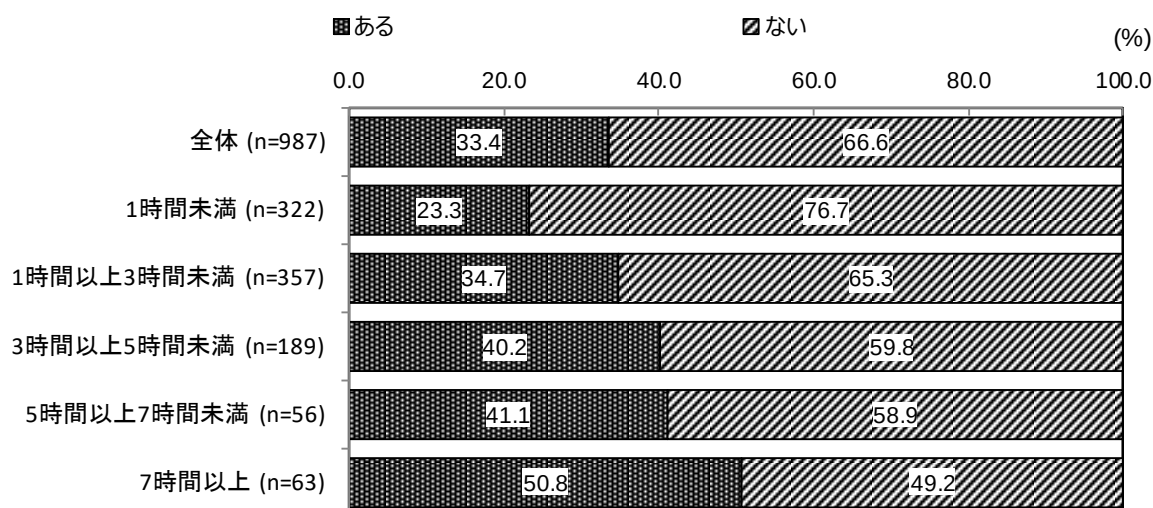
図表 274 世話に費やす時間(平日1日あたり)×世話をすることに感じるきつさ(複数回答)
(%)

	調査数	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさはない
全体	(987)	16.3	42.4	31.8	41.8
1時間未満	(322)	8.4	25.2	14.6	63.0
1時間以上3時間未満	(357)	14.3	45.1	36.1	37.8
3時間以上5時間未満	(189)	22.2	56.6	41.8	25.4
5時間以上7時間未満	(56)	35.7	58.9	50.0	25.0
7時間以上	(63)	33.3	57.1	49.2	20.6

⑪ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話について相談した経験の有無

世話について相談した経験の有無については、世話に費やす時間が長くなるほど、相談した経験が「ある」の割合が高くなっている。

図表 275 世話に費やす時間(平日1日あたり)×世話について相談した経験の有無



⑫ 平日1日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談相手

世話に関する相談相手については、「7時間以上」の人は「大学の指導教員」、「ホームヘルパーやケアマネジャー、福祉サービスの人」、「医師や看護師、その他病院の人」、「役所の人（自治体の保健センター等含む）」の割合が高くなっている。

その他の自由回答としては、高校の先生、アルバイト先の人、メールで相談できる NPO 法人の相談員、等の回答があった。

図表 276 世話に費やす時間(平日1日あたり)×世話についての相談相手(複数回答)

(%)

調査数	家族（父、母、 きょうだい）	親戚（おじ、おばなど）	友人	交際相手、配偶者	大学の指導教員	大学の学生相談室やキャリア支援室・保健センター	その他大学の職員・機関	医師や看護師、その他病院の人	ホームヘルパーやケアマネジャー、福祉サービスの人	役所の人（自治体の保健センター等含む）	近所の人	SNS上での知り合い	その他
全体 (330)	52.4	14.8	49.7	16.7	11.5	12.7	1.8	4.5	4.5	3.6	2.4	4.5	7.3
1時間未満 (75)	60.0	9.3	44.0	13.3	10.7	12.0	4.0	2.7	0.0	0.0	4.0	1.3	2.7
1時間以上3時間未満 (124)	46.8	16.9	54.0	16.9	13.7	14.5	0.8	2.4	2.4	2.4	0.8	7.3	8.1
3時間以上5時間未満 (76)	56.6	18.4	47.4	18.4	7.9	11.8	2.6	6.6	7.9	6.6	2.6	2.6	5.3
5時間以上7時間未満 (23)	56.5	8.7	47.8	17.4	0.0	4.3	0.0	4.3	8.7	0.0	4.3	8.7	8.7
7時間以上 (32)	43.8	15.6	53.1	18.8	21.9	15.6	0.0	12.5	12.5	12.5	3.1	3.1	18.8

⑬ 平日1日あたりの世話に費やす時間×悩みを相談していない理由

世話について相談した経験が「ない」と答えた人に悩みを相談していない理由を尋ねたところ、3時間以上の人で「相談しても状況が変わると思わない」の割合が高くなっている。

図表 277 世話に費やす時間(平日1日あたり)×悩みを相談していない理由(複数回答)

(%)

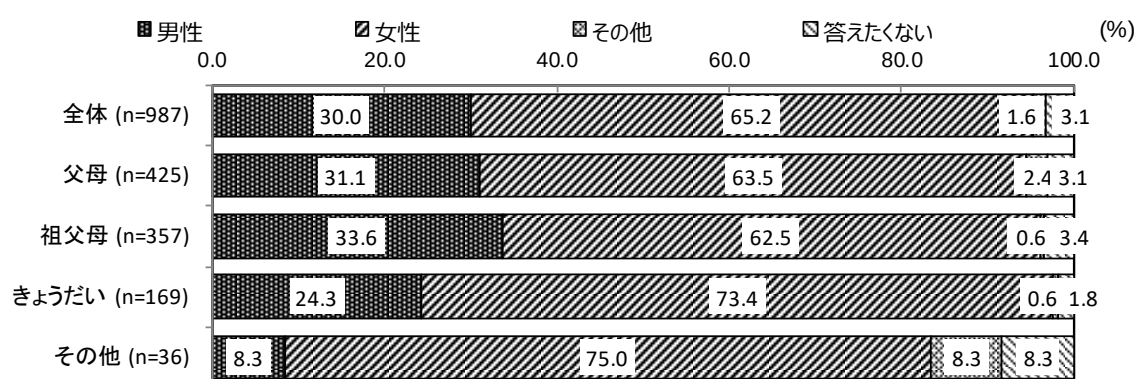
	調査数	誰かに相談するほどの悩みではない	家族外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のこのため話にくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わると思わない	その他
全体	(657)	52.5	20.2	12.5	11.6	19.3	12.5	10.7	33.0	3.8
1時間未満	(247)	61.1	13.4	8.9	7.3	10.5	7.7	6.1	23.9	4.0
1時間以上3時間未満	(233)	49.4	20.6	12.9	10.7	19.3	12.0	10.7	36.1	2.6
3時間以上5時間未満	(113)	46.0	29.2	16.8	18.6	31.9	17.7	17.7	42.5	2.7
5時間以上7時間未満	(33)	42.4	30.3	18.2	24.2	45.5	21.2	12.1	42.4	9.1
7時間以上	(31)	41.9	29.0	16.1	12.9	16.1	25.8	19.4	38.7	9.7

3-5 世話をしている家族による世話の状況等

① 世話を必要としている家族×性別

世話を必要としている家族がきょうだいの場合、父母、祖父母に比べ「女性」の割合が高くなっている。

図表 278 世話を必要としている家族×性別



※世話を必要としている家族は複数回答のため、「父親」と「祖母」が世話を必要としている場合、その回答者は「父母」、「祖父母」いずれの n 数にも含まれる。以降同様。

② 世話を必要としている家族×一緒に世話を行っている人

一緒に世話を行っている人については、世話を必要としている家族が父母の場合、「自分のみ」の割合が高くなっている。

世話を必要としている家族が祖父母の場合、「福祉サービス(ヘルパーなど)を利用」の割合が高くなっている。

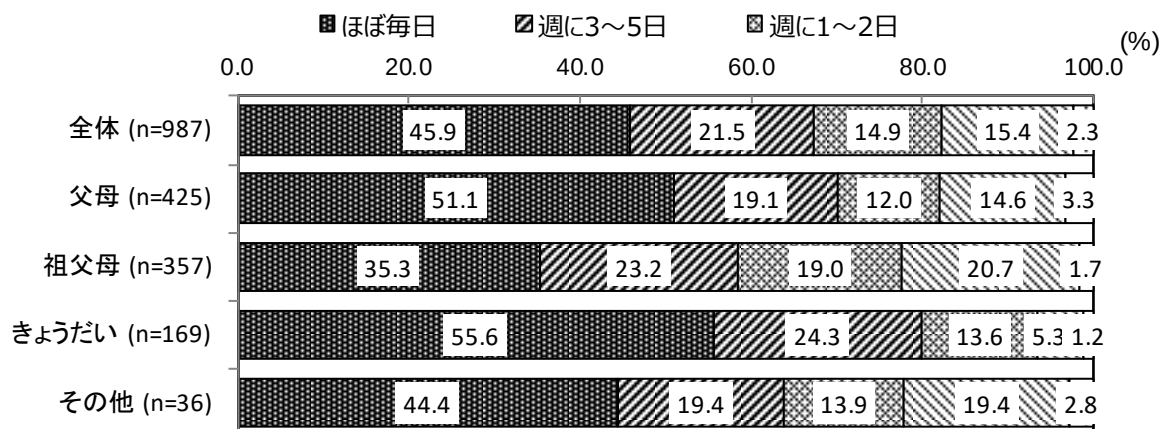
図表 279 世話を必要としている家族×一緒に世話を行っている人(複数回答)

		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス(ヘルパーなど)を利用	その他
調査数										
全体	(987)	52.9	36.2	11.8	5.6	27.3	7.4	20.0	14.1	1.3
父母	(425)	29.6	28.7	7.3	4.5	26.4	4.2	32.2	7.1	1.4
祖父母	(357)	74.2	43.7	13.4	5.9	25.8	12.3	6.4	25.2	1.1
きょうだい	(169)	65.7	40.2	13.0	5.3	32.5	4.1	17.2	7.1	0.6
その他	(36)	55.6	30.6	41.7	16.7	27.8	11.1	22.2	19.4	5.6

③ 世話を必要としている家族×世話をしている(していた)頻度

世話をしている(していた)頻度については、世話を必要としている家族が父母ときょうだいの場合、「ほぼ毎日」の割合が50%を超える。

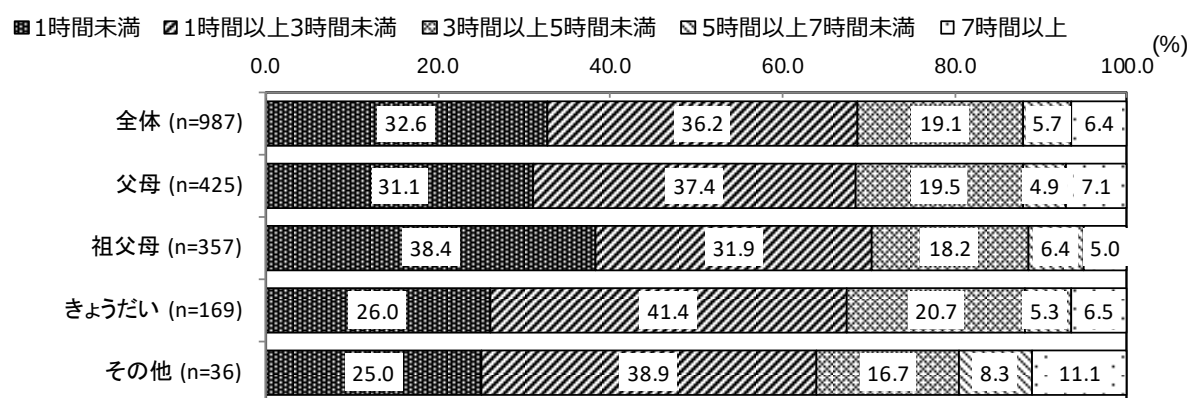
図表 280 世話を必要としている家族×世話をしている(していた)頻度



④ 世話を必要としている家族×平日1日あたりに世話に費やす時間

平日1日あたりに世話に費やす時間については、世話を必要としている家族が祖父母の場合、「1時間未満」の割合が高くなっている。

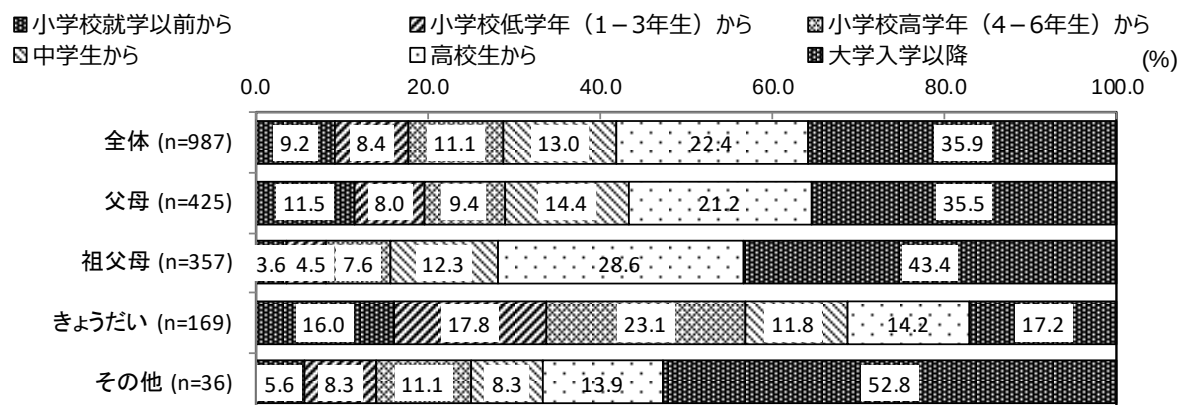
図表 281 世話を必要としている家族×平日1日あたりに世話に費やす時間



⑤ 世話を必要としている家族×世話を始めた時期

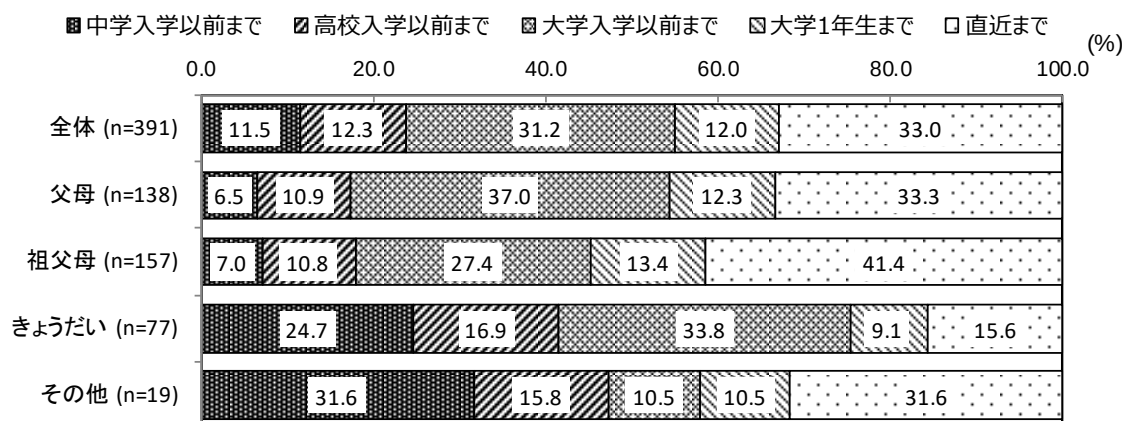
世話を必要としている家族がきょうだいの場合、「小学校就学以前から」、「小学校低学年から」、「小学校高学年から」世話をしている割合が半数以上を占め、ほかに比べて高くなっている。

図表 282 世話を必要としている家族×世話を始めた時期



世話を必要としている家族が「現在はいないが、過去にいた」人に世話をしていた時期を聞いたところ、世話を必要としている家族がきょうだいの場合、「中学入学以前まで」が 24.7%と、ほかと比べ高くなっている。

図表 283 (参考)世話を必要としている家族×世話をしていた時期



⑥ 世話を必要としている家族×世話をしていることで、大学進学の際に苦労したこと・影響

世話を始めた時期が大学入学以前と答えた人に対し大学進学の際の苦労を聞いたところ、世話をしている家族が父母の場合、いずれの項目も高くなっている。

世話をしている家族が父母ときょうだいの場合、祖父母に比べて、「学費等の制約や経済的な不安があった」、「大学以外の進学先と迷った」の割合が高くなっている。

図表 284 世話を必要としている家族×
世話をしていることで、大学進学の際に苦労したこと・影響(複数回答)

(%)

	調査数	受験勉強をする時間が取れなかった	学費等の制約や経済的な不安があった	実家から通える範囲等の通学面の制約があった	家族等から世話を優先するよう求められた	進学するか働くか迷った	大学以外の進学先と迷った	その他	特にない
全体	(633)	21.6	26.7	13.1	10.7	12.2	7.1	6.3	48.0
父母	(274)	30.3	37.6	17.5	12.4	19.0	10.6	8.0	33.2
祖父母	(202)	14.9	12.9	10.4	10.4	4.5	2.5	3.5	64.4
きょうだい	(140)	15.7	27.1	9.3	7.9	9.3	6.4	6.4	51.4
その他	(17)	11.8	11.8	5.9	11.8	17.6	11.8	11.8	64.7

⑦ 世話を必要としている家族×世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと

世話をしている家族が「父母」の場合、いずれの項目もほかに比べて、高くなっている。特に、「自分の時間が取れなかった」、「睡眠が十分に取れなかった」の割合が高くなっている。

図表 285 世話を必要としている家族×
世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと(複数回答)

(%)

調査数	大学の授業に行きたくても行けなかった	単位をとれなかった、留年・休学した	課題・予習復習をする時間が取れなかった	留学をあきらめた	睡眠が十分に取れなかった	友人と遊ぶことができなかった	部活動・サークル活動ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	課外活動・習い事ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	アルバイトができなかった	変更した先・進路の変更を考えた、変更した	一人暮らしをしなくてもできなかった	恋愛をしなくてもできなかった	自分の時間が取れなかった	その他	特になかった
全体 (987)	4.5	3.6	17.9	5.3	24.4	24.3	9.8	4.8	11.8	7.5	13.2	7.9	32.2	2.1	41.9
父母 (425)	6.1	4.7	22.4	8.0	32.5	28.7	12.5	6.4	13.4	12.2	17.9	12.5	40.5	2.8	28.9
祖父母 (357)	2.5	2.5	11.2	1.4	17.1	18.5	6.2	2.5	11.5	3.9	9.0	4.2	23.5	0.8	56.6
きょうだい (169)	4.1	2.4	19.5	5.9	18.9	24.9	10.1	5.3	8.9	4.1	12.4	4.1	32.0	3.6	43.2
その他 (36)	5.6	8.3	25.0	8.3	27.8	27.8	13.9	5.6	8.3	2.8	2.8	8.3	22.2	0.0	44.4

⑧ 世話を必要としている家族×世話をしている(していた)ことで今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなこと

世話をしている家族が「父母」の場合、ほかに比べて、いずれの回答割合も高くなっている。特に、「正社員として就職できるか不安がある」「休まず働けるか不安がある」の割合が高くなっている。

図表 286 世話を必要としている家族×
世話をしている(していた)ことで今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなこと(複数回答)
(%)

	調査数	が正社員として就職できるか不安	休まず働けるか不安がある	通勤できる地域が限られる	働ける時間帯が限られる	就職先について考える時間がない	その他	わからない	特にない
全体	(987)	13.9	11.4	13.4	7.0	7.8	2.0	12.9	54.9
父母	(425)	20.0	17.6	18.6	11.3	11.1	2.6	13.4	40.7
祖父母	(357)	9.0	7.0	11.2	4.5	5.0	2.0	12.3	64.4
きょうだい	(169)	8.9	5.9	6.5	1.8	5.3	1.2	13.0	69.2
その他	(36)	13.9	8.3	5.6	5.6	8.3	0.0	11.1	61.1

⑨ 世話を必要としている家族×世話をすることで感じるきつさ

世話をすることで感じるきつさについては、世話を必要としている家族が父母の場合、いずれのきつさとも割合が高くなっている。

図表 287 世話を必要としている家族×世話をすることで感じるきつさ(複数回答)

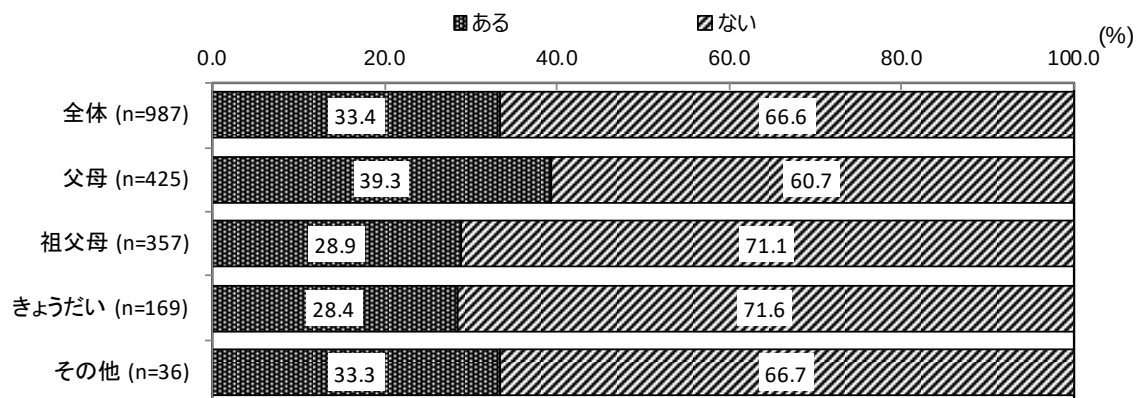
(%)

	調査数	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさは感じていない
全体	(987)	16.3	42.4	31.8	41.8
父母	(425)	21.6	51.5	39.3	32.0
祖父母	(357)	14.8	38.7	24.1	48.2
きょうだい	(169)	8.9	30.2	27.8	52.7
その他	(36)	2.8	27.8	38.9	44.4

⑩ 世話を必要としている家族×世話について相談した経験の有無

世話について相談した経験の有無については、世話を必要としている家族が父母の場合、「ある」の割合が高くなっている。

図表 288 世話を必要としている家族×世話について相談した経験の有無



⑪ 世話を必要としている家族×悩みを相談していない理由

世話について相談した経験が「ない」と答えた人に悩みを相談していない理由を尋ねたところ、世話を必要としている家族が父母の場合、「相談しても状況が変わると思わない」の割合が高くなっている。

図表 289 世話を必要としている家族×悩みを相談していない理由(複数回答)

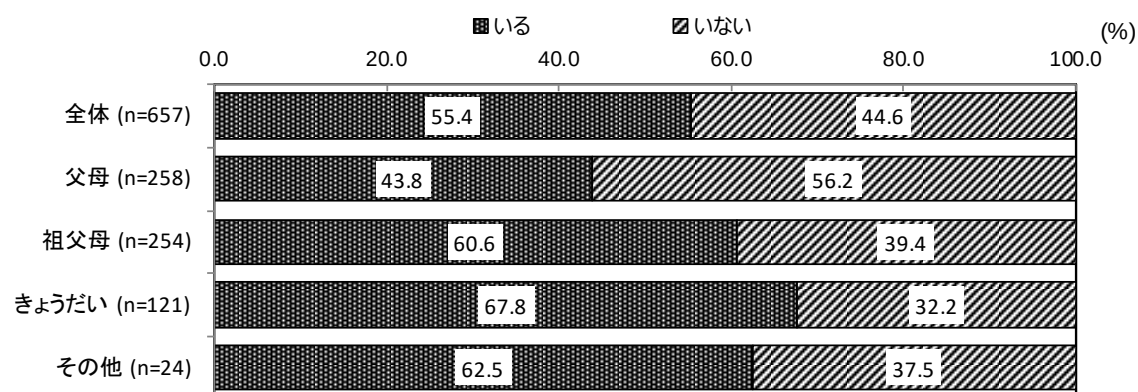
(%)

	調査数	誰かに相談するほどの悩みではない	家族外の人にならぬ悩みではない	誰かに相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のこのため話にくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わると思わない	その他
全体	(657)	52.5	20.2	12.5	11.6	19.3	12.5	10.7	33.0	3.8
父母	(258)	40.3	22.5	16.7	17.4	26.4	17.4	12.4	41.1	3.9
祖父母	(254)	60.6	18.5	8.7	9.4	16.9	9.1	7.1	25.6	2.8
きょうだい	(121)	60.3	18.2	11.6	4.1	13.2	9.9	14.0	30.6	5.8
その他	(24)	58.3	25.0	12.5	8.3	0.0	8.3	12.5	37.5	4.2

⑫ 世話を必要としている家族×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について相談した経験が「ない」と答えた人に、世話を必要としている家族のことや、世話の悩みを聞いてくれる人はいるかについて聞いたところ、世話をしている家族が「父母」の場合、ほかに比べて、世話を必要としている家族のことや、世話の悩みを聞いてくれる人が「いない」割合が高くなっている。

図表 290 世話を必要としている家族×世話について話を聞いてくれる人の有無



⑬ 世話を必要としている家族×大学や周りの大人に助けとほしいことや、必要としている支援

世話をしている家族が「父母」の場合、ほかに比べて、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「家族の世話について相談にのってほしい」、「自分が行っている世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい」の割合が高くなっている。

世話をしている家族が「きょうだい」の場合、ほかに比べて、「学費への支援・奨学金等」、「自由に使える時間がほしい」の割合が高くなっている。

図表 291 世話を必要としている家族×
大学や周りの大人に助けとほしいことや、必要としている支援（複数回答）

(%)

調査数	話を聞いてほしい 自分のいまの状況について	家族のお世話について 相談にのってほしい	家族の病気や障がい、 わがやのことなど説明してほしい	家族の病気や障がい、 すべてを代わってくれるお世話人や サービスがほしい	自分が行っているお世話を 代わってくれる人や サービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など 将来の相談にのってほしい	大学の勉強や学習のサポート	家庭への経済的な支援	学費への支援・奨学金等	その他	特になし	わからない
全体 (987)	21.7	10.6	5.9	7.4	2.5	26.2	28.3	18.5	23.4	28.3	2.5	26.2	10.2
父母 (425)	27.1	13.9	8.0	11.1	2.1	26.4	28.7	18.8	27.8	30.6	3.1	22.4	8.7
祖父母 (357)	17.6	9.8	4.8	5.6	3.9	23.5	27.2	16.8	17.9	22.1	1.7	32.2	11.5
きょうだい (169)	17.8	4.7	4.1	3.0	0.6	30.8	27.8	21.3	26.0	36.1	2.4	24.3	10.7
その他 (36)	16.7	8.3	0.0	2.8	2.8	30.6	36.1	19.4	13.9	25.0	5.6	22.2	13.9

3-6 世話をすることに感じているきつさによる世話の状況の違い

① 世話をすることに感じているきつさ×世話を必要としている(していた)方の状況

世話を必要としている人が母親の場合、「精神的にきつい」と答えた人は、母親の状態は「精神疾患(疑い含む)」の割合が最も高くなっている。

図表 292 世話をすることに感じているきつさ×
世話を必要としている(していた)方の状況(母親)(複数回答)

(%)

	調査数	高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症(アルコール依存症、 ギャンブル依存症など) (疑い含む)	精神疾患、依存症(アルコール 依存症など)以外の病氣 (疑い含む)	日本語を第一言語としない	その他
全体	(349)	7.7	0.0	8.3	2.0	11.5	2.0	28.7	5.7	14.9	14.9	23.5
身体的にきつい	(69)	7.2	0.0	11.6	5.8	11.6	4.3	29.0	8.7	17.4	20.3	18.8
精神的にきつい	(176)	3.4	0.0	10.2	1.7	14.2	3.4	43.2	9.7	18.2	7.4	18.2
時間的余裕がない	(128)	5.5	0.0	7.0	0.8	14.1	3.1	31.3	9.4	19.5	14.8	21.1
特にきつさは感じていない	(117)	12.0	0.0	3.4	0.9	6.0	0.0	14.5	1.7	12.8	17.1	35.0

図表 293 世話をすることを感じているきつさ×
世話を必要としている(していた)方の状況(父親)(複数回答)

(%)

	調査数	高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症(アルコール依存症、 ギャンブル依存症など) (疑い含む)	精神疾患、依存症(アルコール依存症、 ギャンブル依存症など)以外の病気 (疑い含む)	日本語を第一言語としない	その他
全体	(202)	16.3	0.0	11.4	2.5	10.9	1.5	11.4	8.4	13.9	16.8	22.8
身体的にきつい	(52)	15.4	0.0	17.3	5.8	7.7	0.0	13.5	7.7	15.4	15.4	25.0
精神的にきつい	(92)	16.3	0.0	13.0	3.3	13.0	1.1	19.6	10.9	20.7	8.7	21.7
時間的余裕がない	(80)	10.0	0.0	13.8	6.3	8.8	1.3	16.3	10.0	12.5	17.5	25.0
特にきつさは感じていない	(72)	20.8	0.0	6.9	0.0	9.7	1.4	4.2	8.3	11.1	16.7	27.8

世話を必要としている人が祖父母の場合、「身体的にきつい」、「精神的にきつい」と答えた人は、祖父母の状態は「高齢」をのぞくと「要介護」、「認知症」の割合が高くなっている。

図表 294 世話をすることを感じているきつさ×
世話を必要としている(していた)方の状況(祖母)(複数回答)

(%)

	調査数	高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症(アルコール依存症、 ギャンブル依存症など) (疑い含む)	精神疾患、依存症(アルコール依存症、 ギャンブル依存症など)以外の病気 (疑い含む)	日本語を第一言語としない	その他
全体	(324)	84.0	0.0	39.5	32.1	14.2	0.6	4.3	0.6	3.4	1.9	4.3
身体的にきつい	(57)	84.2	0.0	52.6	42.1	22.8	0.0	5.3	1.8	5.3	7.0	8.8
精神的にきつい	(141)	81.6	0.0	53.2	46.8	18.4	1.4	6.4	1.4	3.5	2.1	5.0
時間的余裕がない	(92)	87.0	0.0	48.9	30.4	18.5	0.0	2.2	1.1	6.5	1.1	6.5
特にきつさは感じていない	(142)	86.6	0.0	25.4	21.8	11.3	0.0	3.5	0.0	2.1	0.0	4.2

図表 295 世話をすることを感じているきつさ×
世話を必要としている(していた)方の状況(祖父)(複数回答)

(%)

	調査数	高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症(アルコール依存症、 ギャンブル依存症など) (疑い含む)	精神疾患、依存症(アルコール依存症、 ギャンブル依存症など)以外の病気 (疑い含む)	日本語を第一言語としない	その他
全体	(170)	84.1	0.0	40.0	22.9	10.6	1.2	2.4	1.8	5.3	1.8	4.1
身体的にきつい	(28)	89.3	0.0	50.0	42.9	10.7	3.6	14.3	10.7	10.7	3.6	3.6
精神的にきつい	(71)	87.3	0.0	47.9	39.4	9.9	1.4	5.6	4.2	7.0	1.4	4.2
時間的余裕がない	(48)	85.4	0.0	47.9	25.0	14.6	4.2	6.3	4.2	2.1	2.1	4.2
特にきつさは感じていない	(76)	81.6	0.0	30.3	10.5	10.5	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	3.9

世話を必要としている人がきょうだいの場合、「精神的にきつい」と答えた人は、ほかに比べきょうだいの状態が「知的障がい」、「精神疾患（疑い含む）」の割合が高くなっている。

図表 296 世話をすることを感じているきつさ×
世話を必要としている(していた)方の状況(きょうだい)(複数回答)

(%)

	調査数	高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症(アルコール依存症、 ギャンブル依存症など) (疑い含む)	精神疾患、依存症(アルコール依存症、 ギャンブル依存症など)以外の 病気 (疑い含む)	日本語を第一言語としない	その他
全体	(262)	0.0	51.9	2.3	0.8	6.1	15.6	10.3	1.1	5.3	2.3	20.6
身体的にきつい	(49)	0.0	38.8	2.0	2.0	8.2	10.2	8.2	2.0	8.2	8.2	34.7
精神的にきつい	(106)	0.0	37.7	1.9	0.9	2.8	19.8	19.8	0.9	7.5	2.8	23.6
時間的余裕がない	(92)	0.0	45.7	2.2	0.0	1.1	12.0	10.9	2.2	5.4	1.1	29.3
特にきつさは感じていない	(112)	0.0	63.4	1.8	0.9	9.8	14.3	2.7	0.0	2.7	0.9	18.8

② 世話をすることに感じているきつさ×行っている(行っていた)世話の内容(母親)

母親への世話の内容については、「精神的にきつい」と答えた人は、ほかに比べ「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」、「見守り」の割合が高くなっている。

図表 297 世話をすることに感じているきつさ×
行っている(行っていた)世話の内容(母親)(複数回答)

(%)

	調査数	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への 送迎など	身体的な介護 (入浴やトイレ、食事のお世話など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳 (日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	家計を助ける(働く)	その他
全体	(349)	69.7	13.4	7.1	24.6	13.1	42.6	23.4	3.4	10.0	7.7	17.1	5.1
身体的にきつい	(69)	71.0	20.3	11.6	17.4	17.4	40.6	20.3	2.9	21.7	11.6	23.2	2.9
精神的にきつい	(176)	72.7	13.6	9.1	30.1	18.8	61.9	33.5	2.3	13.1	10.2	19.3	4.5
時間的余裕がない	(128)	75.8	19.5	7.8	29.7	19.5	52.3	25.8	3.1	14.8	13.3	21.9	3.1
特にきつさは感じていない	(117)	64.4	11.0	3.4	16.1	5.1	22.9	11.9	5.1	4.2	3.4	14.4	8.5

父親への世話の内容については、「精神的にきつい」と答えた人は、ほかに比べ「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」、「家計を助ける（働く）」の割合が高くなっている。

図表 298 世話をすることを感じているきつさ×
行っている（行っていた）世話の内容（父親）（複数回答）

(%)

	調査数	家事 （食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への 送迎など	身体的な介護 （入浴やトイレ、食事のお世話など）	外出の付き添い （買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート （愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳 （日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	家計を助ける（働く）	その他
全体	(202)	56.7	8.4	9.9	15.8	13.8	19.2	20.2	2.5	9.9	8.9	18.2	8.4
身体的にきつい	(52)	63.5	9.6	11.5	19.2	15.4	25.0	23.1	1.9	9.6	13.5	17.3	1.9
精神的にきつい	(92)	66.7	9.7	11.8	21.5	19.4	31.2	28.0	2.2	10.8	12.9	22.6	5.4
時間的余裕がない	(80)	58.8	12.5	10.0	23.8	18.8	27.5	27.5	2.5	16.3	16.3	22.5	3.8
特にきつさは感じていない	(72)	48.6	2.8	6.9	5.6	4.2	11.1	13.9	2.8	8.3	2.8	11.1	15.3

図表 299 世話をすることに感じているきつさ×
行っている(行っていた)世話の内容(祖母)(複数回答)

(%)

	調査数	家事 （食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への 送迎など	身体的な介護 （入浴やトイレ、食事のお世話など）	外出の付き添い （買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート （愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳 （日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	家計を助ける（働く）	その他
全体	(324)	82.7	5.0	42.6	54.0	41.6	58.9	92.1	0.5	8.4	24.8	4.0	5.0
身体的にきつい	(57)	73.1	1.9	51.9	42.3	32.7	40.4	73.1	0.0	9.6	26.9	11.5	1.9
精神的にきつい	(141)	92.4	2.2	56.5	52.2	40.2	68.5	96.7	1.1	15.2	35.9	5.4	4.3
時間的余裕がない	(92)	75.0	5.0	46.3	47.5	33.8	45.0	70.0	0.0	7.5	26.3	5.0	2.5
特にきつさは感じていない	(142)	83.3	8.3	29.2	65.3	51.4	62.5	101.4	0.0	4.2	11.1	2.8	8.3

図表 300 世話をすることに感じているきつさ×
行っている(行っていた)世話の内容(祖父)(複数回答)

(%)

	調査数	家事 （食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への 送迎など	身体的な介護 （入浴やトイレ、食事のお世話など）	外出の付き添い （買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート （愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳 （日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	家計を助ける（働く）	その他
全体	(170)	48.2	1.8	26.5	29.4	28.8	28.2	56.5	1.2	4.1	11.8	1.2	2.4
身体的にきつい	(28)	67.9	3.6	46.4	39.3	53.6	46.4	64.3	3.6	10.7	25.0	3.6	0.0
精神的にきつい	(71)	57.7	1.4	35.2	36.6	38.0	39.4	63.4	1.4	7.0	14.1	1.4	2.8
時間的余裕がない	(48)	62.5	2.1	41.7	37.5	39.6	47.9	50.0	2.1	6.3	20.8	2.1	2.1
特にきつさは感じていない	(76)	34.2	2.6	14.5	21.1	22.4	15.8	53.9	0.0	2.6	6.6	1.3	2.6

きょうだいへの世話の内容については、「身体的にきつい」、「時間的余裕がない」と答えた人は、ほかに比べ「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が高くなっている。

図表 301 世話をすることを感じているきつさ×
行っている(行っていた)世話の内容(きょうだい)(複数回答)

(%)

	調査数	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への 送迎など	身体的な介護 (入浴やトイレ、食事のお世話など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳 (日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	家計を助ける(働く)	その他
全体	(262)	59.9	35.1	11.5	22.1	6.1	30.5	45.4	1.1	3.8	2.7	6.9	4.6
身体的にきつい	(49)	75.5	40.8	14.3	34.7	12.2	38.8	32.7	2.0	14.3	12.2	18.4	0.0
精神的にきつい	(106)	59.4	36.8	7.5	22.6	6.6	43.4	48.1	0.9	6.6	4.7	10.4	3.8
時間的余裕がない	(92)	76.1	37.0	9.8	25.0	7.6	43.5	41.3	0.0	6.5	2.2	8.7	1.1
特にきつさは感じていない	(112)	50.9	35.7	14.3	23.2	5.4	20.5	45.5	0.9	0.9	0.9	3.6	7.1

③ 世話をすることに感じているきつさ×世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと

世話をしている(していた)ことでやりたかったができなかったこと、あきらめたことについては、「身体的にきつい」、「時間的余裕がない」と答えた人は、ほかに比べ「睡眠が十分に取れなかった」の割合が高くなっている。今後不安なことについても同様の傾向がみられる。

図表 302 世話をすることに感じているきつさ×
世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと(複数回答)

(%)

	調査数	大学の授業に行きたくても行けなかった	単位をとれなかった、 留年・休学した	課題・予習復習をする時間が 取れなかった	留学をあきらめた	睡眠が十分に取れなかった	友人と遊ぶことができなかった	部活動・サークル活動が できなかった、 もしくは辞めざるを得なかった	課外活動・習い事が できなかった、 もしくは辞めざるを得なかった	アルバイトができなかった	就職先・進路の変更を 考えざるを得なかった、 変更した	一人暮らしをしたくても できなかった	恋愛をしたくても できなかった	自分の時間が取れなかった	その他	特になかった
全体	(987)	4.5	3.6	17.9	5.3	24.4	24.3	9.8	4.8	11.8	7.5	13.2	7.9	32.2	2.1	41.9
身体的にきつい	(161)	12.4	14.3	39.1	10.6	53.4	49.7	23.0	14.3	27.3	18.0	24.2	14.9	62.1	3.7	13.0
精神的にきつい	(418)	6.7	6.0	29.2	7.9	39.2	40.0	16.0	8.6	17.7	12.4	21.8	13.2	56.9	4.1	15.6
時間的余裕がない	(314)	8.3	7.6	38.2	10.5	47.1	43.0	19.4	11.5	19.7	11.8	22.3	15.0	64.0	1.9	11.1
特にきつさは感じていない	(413)	1.5	0.7	3.6	1.7	6.3	7.3	1.7	0.5	3.4	2.4	4.1	1.2	5.8	1.0	75.5

図表 303 世話をすることに感じているきつさ×
世話をしている(していた)ことで今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなこと(複数回答)

(%)

	調査数	大学の授業に行きたくても行けない	単位取得、進級・卒業できるか不安がある	課題・予習復習をする時間が取れない	留学に行けない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活動・サークル活動ができない	課外活動・習い事ができない	アルバイトができない	就職活動の時間が取れない	希望する就職先・進路の変更を考えざるを得ない	一人暮らしができるか不安がある	恋愛・結婚に対する不安がある	自分の時間が取れない	その他	特にない
全体	(987)	2.8	8.0	8.5	4.4	12.9	9.9	2.9	3.1	7.4	11.4	13.6	15.9	14.4	20.1	3.5	51.9
身体的にきつい	(161)	11.8	23.0	24.8	8.1	37.3	25.5	8.1	9.9	16.1	28.6	28.6	24.8	26.1	43.5	6.2	22.4
精神的にきつい	(418)	4.5	13.2	14.1	6.9	23.2	16.5	5.0	5.5	10.8	19.1	21.5	26.1	24.6	37.3	7.2	28.7
時間的余裕がない	(314)	4.8	16.2	20.1	9.2	28.7	20.1	7.3	7.3	13.1	22.9	23.6	24.2	23.9	40.8	5.4	25.2
特にきつさは感じていない	(413)	0.5	1.7	0.7	1.0	2.7	1.9	0.0	0.0	2.4	1.9	4.6	5.8	3.9	3.4	1.0	80.4

④ 世話をすることを感じているきつさ×世話をしていることで生ずる就職に関する不安

「身体的にきつい」と答えた人は、ほかに比べ「正社員として就職できるか不安がある」「休まず働けるか不安がある」の割合が高くなっている。

図表 304 世話をすることを感じているきつさ×
世話をしていることで生ずる就職に関する不安(複数回答)

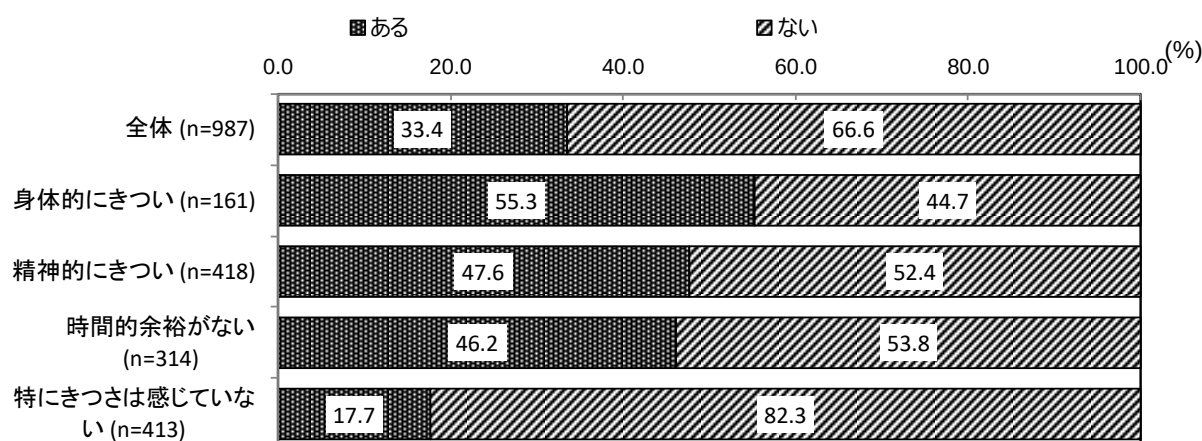
(%)

	調査数	正社員として就職できるか不安がある	休まず働けるか不安がある	通勤できる地域が限られる	働ける時間帯が限られる	就職先について考える時間がない	その他	わからない	特にな
全体	(987)	13.9	11.4	13.4	7.0	7.8	2.0	12.9	54.9
身体的にきつい	(161)	33.5	32.9	28.0	15.5	19.9	5.0	11.2	24.8
精神的にきつい	(418)	19.4	21.5	20.3	10.5	12.9	4.1	17.5	36.6
時間的余裕がない	(314)	24.8	20.4	22.9	12.1	18.2	3.2	14.6	30.9
特にきつさは感じていない	(413)	4.1	1.9	5.3	2.4	1.2	0.7	9.0	78.9

⑤ 世話をすることを感じているきつさ×世話について相談した経験の有無

世話について相談した経験の有無については、身体的にきつい人で「ある」の割合が高くなっている。

図表 305 世話をすることを感じているきつさ×世話について相談した経験の有無



⑥ 世話をすることに感じているきつさ×悩みを相談していない理由

世話について相談した経験が「ない」と答えた人に悩みを相談していない理由を尋ねたところ、身体的にきつい人で「相談しても状況が変わると思えない」の割合が高くなっている。

図表 306 世話をすることに感じているきつさ×悩みを相談していない理由(複数回答)

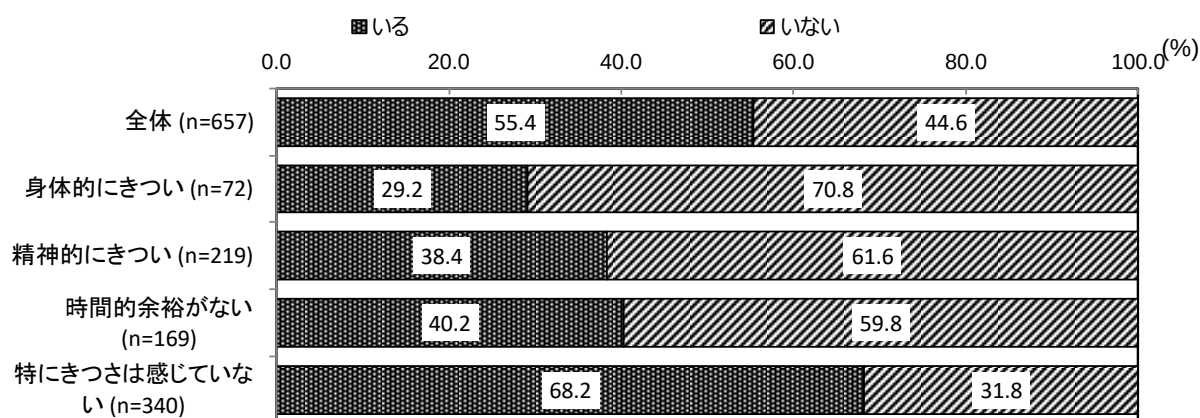
(%)

	調査数	誰かには相談するほどの悩みではない	家族外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のこのため話にくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わると思わない	その他
全体	(657)	52.5	20.2	12.5	11.6	19.3	12.5	10.7	33.0	3.8
身体的にきつい	(72)	31.9	37.5	31.9	34.7	48.6	23.6	27.8	55.6	8.3
精神的にきつい	(219)	32.9	33.3	26.9	23.7	42.0	25.1	23.7	53.0	5.5
時間的余裕がない	(169)	34.9	30.8	24.3	25.4	35.5	19.5	17.2	43.8	4.1
特にきつさは感じていない	(340)	67.6	9.1	3.8	3.5	4.7	2.9	2.9	22.1	3.8

⑦ 世話をすることに感じているきつさ×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について相談した経験が「ない」と答えた人に、世話を必要としている家族のことや、世話の悩みを聞いてくれる人はいるかについて聞いたところ、身体的にきつい人で「いない」の割合が高くなっている。

図表 307 世話をすることに感じているきつさ×世話について話を聞いてくれる人の有無

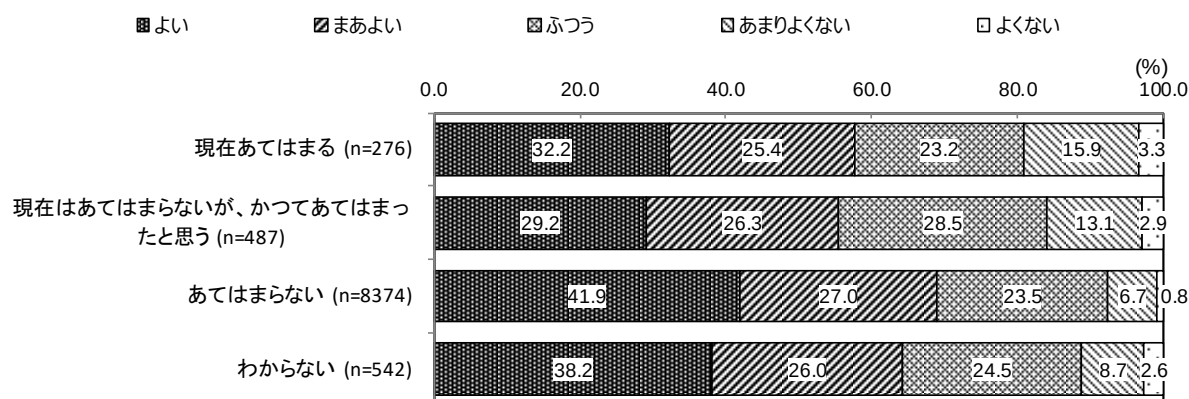


3-7 ヤングケアラーの自己認識による生活状況、世話の状況の違い

① ヤングケアラーの自己認識 × 健康状態

身体面の健康状況については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」、「現在あてはまらないが、かつてあてはまったと思う」人の「あまりよくない」、「よくない」の割合が高くなっている。

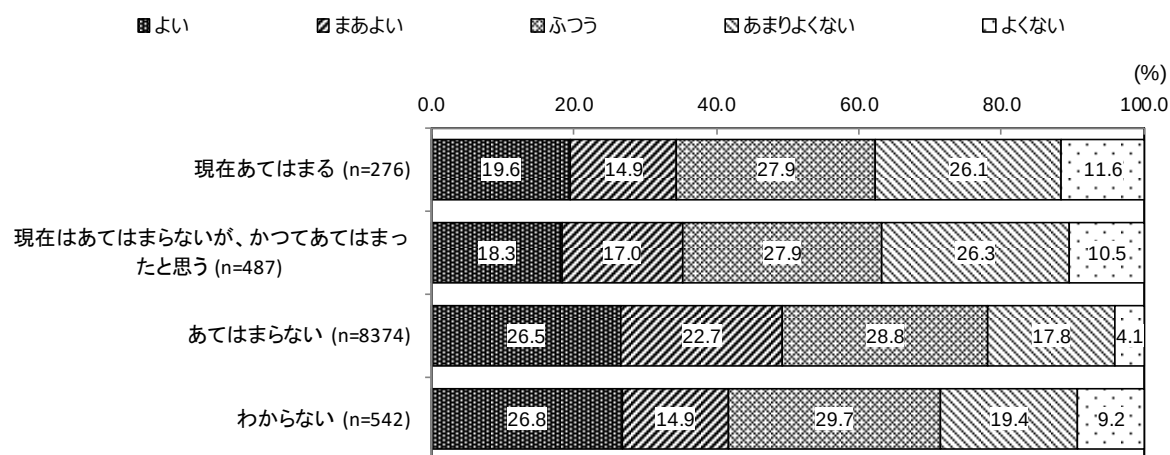
図表 308 ヤングケアラーの自己認識 × 身体面の健康状態



② ヤングケアラーの自己認識 × 精神面の健康状況

精神面の健康状況については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」、「現在あてはまらないが、かつてあてはまったと思う」人の「あまりよくない」、「よくない」の割合が高くなっている。

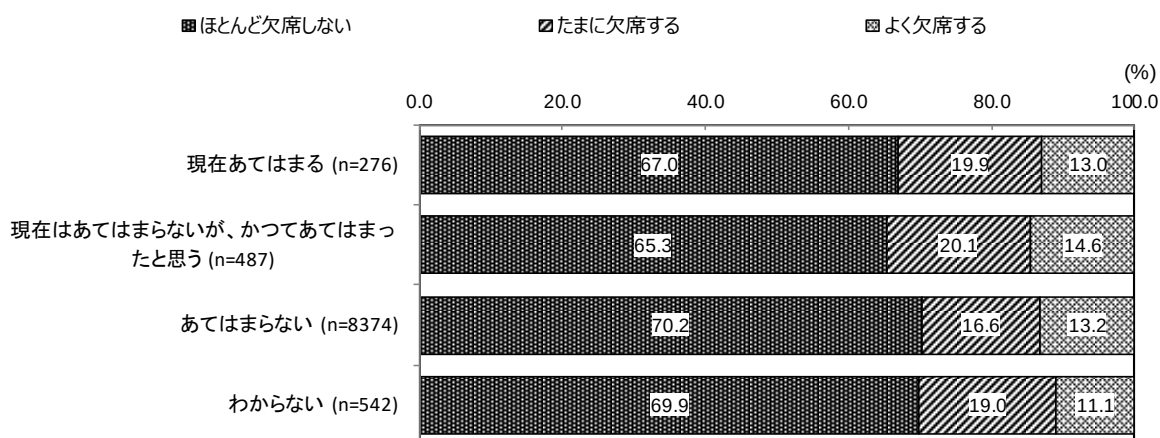
図表 309 ヤングケアラーの自己認識 × 精神面の健康状態



③ ヤングケアラーの自己認識×大学の授業（履修している講義）への出席状況

大学の授業（履修している講義）への出席状況については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」、「現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う」人の「ほとんど欠席しない」の割合がやや低くなっている。

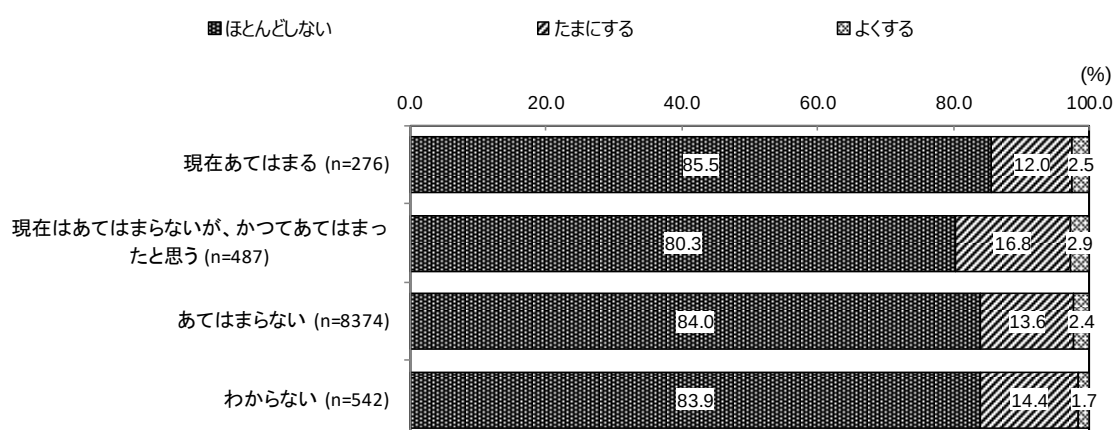
図表 310 ヤングケアラーの自己認識×大学の授業（履修している講義）への出席状況



④ ヤングケアラーの自己認識×大学の授業（履修している講義）への遅刻や早退の状況

大学の授業（履修している講義）への遅刻や早退の状況については、ヤングケアラーに「現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う」人の「ほとんどしない」の割合が低くなっている。

図表 311 ヤングケアラーの自己認識×
大学の授業（履修している講義）への遅刻や早退の状況



⑤ ヤングケアラーの自己認識×普段の大学生活等においてあてはまるもの

普段の大学生活等においてあてはまるものについては、ヤングケアラーに「現在あてはまる」、「現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う」人の「課題や予習復習ができていないことが多い」、「友人と遊んだり、話したりする時間が少ない」の割合が高くなっている。

図表 312 ヤングケアラーの自己認識×
普段の大学生活等においてあてはまるもの（複数回答）

(%)

	調査数	授業を欠席しがちである	課題や予習復習ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活・サークル等を休むことが多い	提出が遅れることが多い書類などの	合宿等の行事を欠席する	大学では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、話したりする時間が少ない	特にな
現在あてはまる	(276)	8.3	23.2	10.9	8.3	14.9	2.9	29.3	33.7	36.6
現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う	(487)	10.1	26.7	9.9	7.4	14.6	4.5	27.9	35.3	31.8
あてはまらない	(8374)	7.1	20.5	6.1	5.0	9.9	2.3	24.9	27.4	45.4
わからない	(542)	7.4	19.2	7.4	5.9	11.3	4.1	26.9	28.4	41.3

⑥ ヤングケアラーの自己認識×現在の悩みや困りごと

現在の悩みや困りごとについては、ヤングケアラーに「現在あてはまる」、「現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う」人の「学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと」、「家庭の経済的状況のこと」、「自分と家族との関係のこと」、「家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）」の割合が高くなっている。

図表 313 ヤングケアラーの自己認識×現在の悩みや困りごと（複数回答）

(%)

	調査数	友人との関係のこと	学業成績のこと	就職・進路のこと	部活動・サークル活動のこと	学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと	課外活動や習い事ができないこと	アルバイト・仕事のこと	家庭の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にない
現在あてはまる	(276)	20.7	31.5	79.0	8.3	38.8	11.2	34.1	42.4	31.9	28.3	32.6	27.5	5.1	5.4
現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う	(487)	18.5	30.0	79.5	8.8	34.5	10.1	31.8	33.7	23.6	20.3	12.7	22.8	6.0	6.0
あてはまらない	(8374)	14.5	23.8	77.3	8.3	20.0	4.4	23.4	14.7	8.6	6.9	2.4	15.9	4.1	11.2
わからない	(542)	17.3	27.9	71.6	7.9	28.4	7.4	26.2	24.2	16.6	14.6	11.8	15.7	3.7	15.5

⑦ ヤングケアラーの自己認識×一緒に世話を行っている人

一緒に世話を行っている人については、ヤングケアラーに「現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う」人は「自分のみ」の割合が低くなっている。

図表 314 ヤングケアラーの自己認識×一緒に世話を行っている人（複数回答）

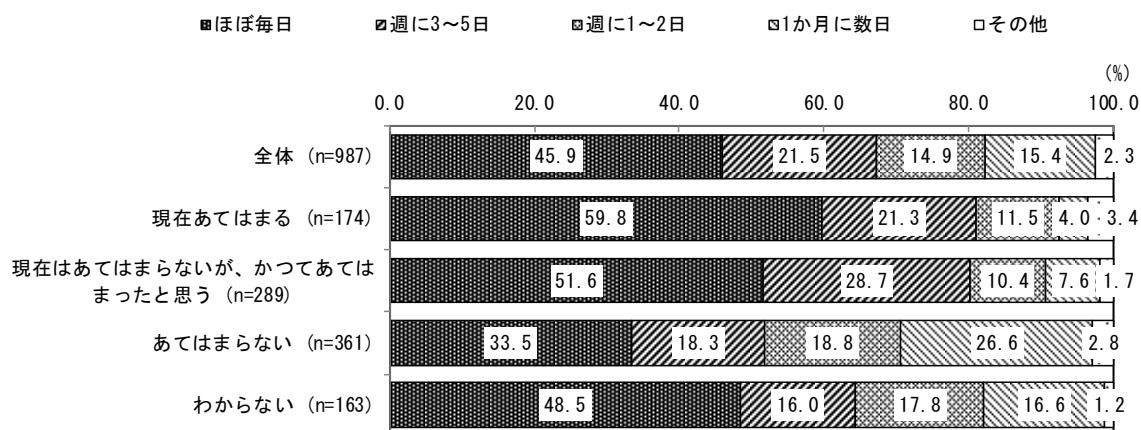
(%)

	調査数	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービスなどを利用	その他
全体	(987)	52.9	36.2	11.8	5.6	27.3	7.4	20.0	14.1	1.3
現在あてはまる	(174)	50.6	29.3	10.3	3.4	27.6	5.7	20.7	21.8	2.3
現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う	(289)	53.6	40.1	12.8	8.0	31.8	13.1	15.6	20.8	0.3
あてはまらない	(361)	55.1	38.5	11.6	4.7	25.8	4.2	21.9	6.9	1.7
わからない	(163)	49.1	31.3	11.7	5.5	22.1	6.1	22.7	9.8	1.2

⑧ ヤングケアラーの自己認識×世話をしている(していた)頻度

世話をしている(していた)頻度については、「現在あてはまる」と認識している人は「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。

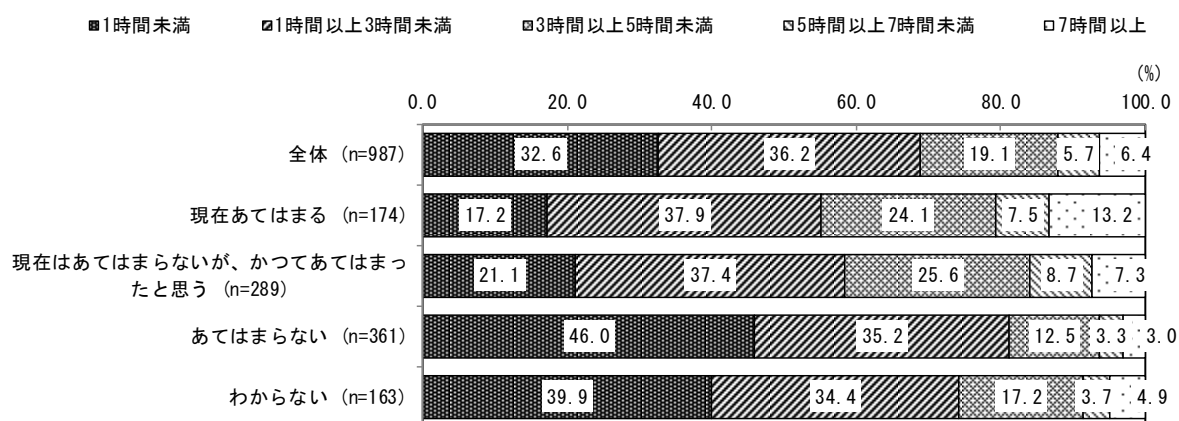
図表 315 ヤングケアラーの自己認識×世話をしている(していた)頻度



⑨ ヤングケアラーの自己認識×平日1日あたりに世화에費やす時間

平日1日あたりに世화에費やす時間については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人は「7時間以上」の割合が高くなっている。

図表 316 ヤングケアラーの自己認識×平日1日あたりに世화에費やす時間



⑩ ヤングケアラーの自己認識×世話をしていることで、大学進学の際に苦勞したこと・影響

世話を始めた時期が大学入学以前と答えた人に対し世話をしていることで、大学進学の際に苦勞したこと・影響を聞いたところ、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人がいずれも回答割合が高くなっている。

図表 317 ヤングケアラーの自己認識×
世話をしていることで、大学進学の際に苦勞したこと・影響(複数回答)

(%)

	調査数	受験勉強をする時間が取れなかった	学費等の制約や経済的な不安があった	実家から通える範囲等の通学面の制約があった	家族等から世話を優先するよう求められた	進学するか働くか迷った	大学以外の進学先と迷った	その他	特にな
全体	(633)	21.6	26.7	13.1	10.7	12.2	7.1	6.3	48.0
現在あてはまる	(112)	35.7	40.2	33.9	19.6	26.8	15.2	8.0	22.3
現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う	(211)	29.9	35.1	10.9	13.3	9.5	9.0	9.5	40.3
あてはまらない	(216)	8.3	12.5	5.1	5.1	6.0	2.3	4.6	70.4
わからない	(94)	17.0	24.5	11.7	7.4	14.9	4.3	1.1	44.7

⑪ ヤングケアラーの自己認識×世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと

世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたことについては、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人の「課題・予習復習をする時間が取れなかった」、「睡眠が十分に取れなかった」、「友人と遊ぶことができなかった」、「一人暮らしをしたくてもできなかった」、「自分の時間が取れなかった」の割合が高くなっている。今後についても、過去と同様の項目に加え、「希望する就職先・進路の変更を考えざるを得ない」、「恋愛・結婚に対する不安がある」の割合も高くなっている。

図表 318 ヤングケアラーの自己認識×
世話をしている(していた)ことで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと(複数回答)
(%)

	調査数	大学の授業に行きたくても行けなかった	単位をとれなかった、留年・休学した	課題・予習復習をする時間が取れなかった	留学をあきらめた	睡眠が十分に取れなかった	友人と遊ぶことができなかった	部活動・サークル活動ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	課外活動・習い事ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	アルバイトができなかった	就職先・進路の変更を考えざるを得なかった、変更した	一人暮らしをしたくてもできなかった	恋愛をしたくてもできなかった	自分の時間が取れなかった	その他	特になかった
全体	(987)	4.5	3.6	17.9	5.3	24.4	24.3	9.8	4.8	11.8	7.5	13.2	7.9	32.2	2.1	41.9
現在あてはまる	(174)	10.3	6.9	35.1	9.8	42.5	43.7	23.0	10.9	25.3	13.2	27.0	14.9	57.5	1.1	14.4
現在はあてはまらないが、かつてあてはまっていたと思う	(289)	4.8	4.8	20.4	5.9	30.4	30.4	11.1	5.9	10.7	8.3	12.1	7.6	38.8	3.8	33.2
あてはまらない	(361)	0.8	1.4	8.6	1.4	11.1	11.9	4.2	1.7	5.5	3.0	6.1	4.2	15.2	1.4	64.8
わからない	(163)	5.5	3.1	16.0	8.0	23.9	20.2	6.1	3.1	12.9	9.8	16.0	9.2	31.3	1.8	36.2

図表 319 ヤングケアラーの自己認識×
世話をしている(していた)ことで、今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなこと(複数回答)
(%)

	調査数	大学の授業に行きたくても行けない	単位取得、進級・卒業できるか不安がある	課題・予習復習をする時間が取れない	留学に行けない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活動・サークル活動ができない	課外活動・習い事ができない	アルバイトができない	就職活動の時間が取れない	希望する就職先・進路の変更を考えざるを得ない	一人暮らしができるか不安がある	恋愛・結婚に対する不安がある	自分の時間が取れない	その他	特にない
全体	(987)	2.8	8.0	8.5	4.4	12.9	9.9	2.9	3.1	7.4	11.4	13.6	15.9	14.4	20.1	3.5	51.9
現在あてはまる	(174)	6.3	19.0	19.0	7.5	25.3	23.6	5.7	6.9	18.4	22.4	27.6	35.1	25.9	43.7	4.6	19.0
現在はあてはまらないが、かつてあてはまっていたと思う	(289)	3.1	8.0	9.0	4.2	12.8	10.7	2.8	2.8	6.6	12.1	12.8	12.5	18.7	20.4	5.2	48.4
あてはまらない	(361)	0.8	3.0	3.3	2.5	6.1	3.0	0.8	0.8	2.2	5.0	6.4	6.9	6.9	9.1	1.7	72.6
わからない	(163)	3.1	7.4	8.0	5.5	14.7	9.2	4.9	4.9	8.6	12.9	16.0	21.5	11.0	18.4	3.7	47.2

⑫ ヤングケアラーの自己認識×世話をしていることで生ずる就職に関する不安

世話をしていることで生ずる就職に関する不安については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人の「正社員として就職できるか不安がある」、「休まず働けるか不安がある」、「通勤できる地域が限られる」の割合が高くなっている。

図表 320 ヤングケアラーの自己認識×
世話をしていることで生ずる就職に関する不安(複数回答)

(%)

	調査数	正社員として就職できるか不安がある	休まず働けるか不安がある	通勤できる地域が限られる	働ける時間帯が限られる	就職先について考える時間が長い	その他	わからない	特になし
全体	(987)	13.9	11.4	13.4	7.0	7.8	2.0	12.9	54.9
現在あてはまる	(174)	27.6	21.8	35.6	14.4	14.9	3.4	17.8	22.4
現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う	(289)	14.2	13.8	11.4	6.9	10.0	2.4	12.5	52.2
あてはまらない	(361)	5.8	3.6	5.0	2.8	2.2	0.6	9.1	75.6
わからない	(163)	16.6	13.5	11.7	8.6	8.6	3.1	16.6	48.5

⑬ ヤングケアラーの自己認識×世話をすることで感じているきつさ

世話をすることで感じているきつさについては、「現在あてはまる」、「現在ではあてはまらないが、かつてあてはまったと思う」人はいずれの割合も高くなっている。

図表 321 ヤングケアラーの自己認識×世話をすることで感じているきつさ(複数回答)

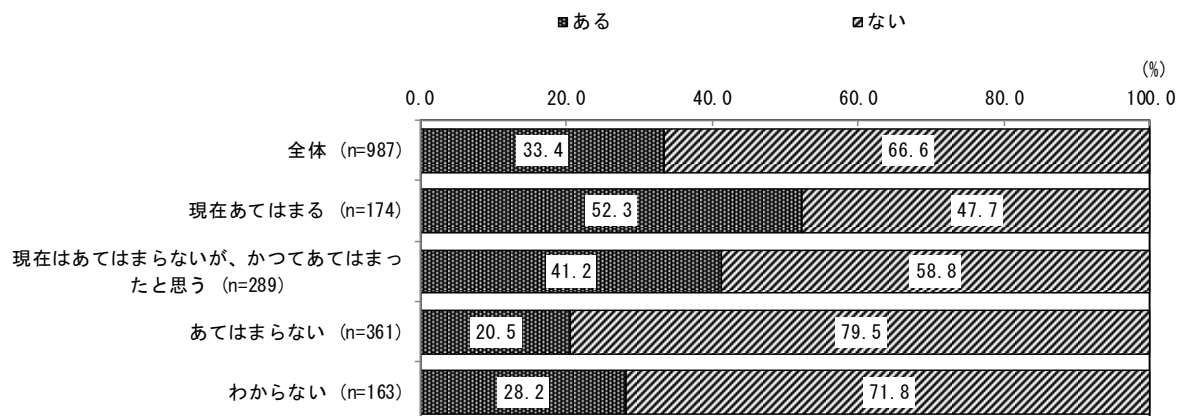
(%)

	調査数	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさは感じていない
全体	(987)	16.3	42.4	31.8	41.8
現在あてはまる	(174)	29.3	58.6	47.1	19.0
現在ではあてはまらないが、かつてあてはまったと思う	(289)	22.8	62.6	36.0	26.6
あてはまらない	(361)	5.3	21.1	20.5	63.7
わからない	(163)	15.3	36.2	33.1	44.8

⑭ ヤングケアラーの自己認識×世話について相談した経験の有無

世話について相談した経験の有無については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人の「ある」の割合が高くなっている。

図表 322 ヤングケアラーの自己認識×世話について相談した経験の有無



⑮ ヤングケアラーの自己認識×世話についての相談相手

世話についての相談相手については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人の「友人」の割合が高くなっている。

図表 323 ヤングケアラーの自己認識×世話についての相談相手(複数回答)

(%)

	調査数	家族（父、母、 きょうだい）	親戚（おじ、おばなど）	友人	交際相手、 配偶者	大学の指導教員	大学の学生相談室や キャリア支援室・保健センター	その他大学の職員・機関	医師や看護師、その他病院の人	福祉サービスの人	ホームヘルパーやケアマネジャー、	役所の人 （自治体の保健センター等含む）	近所の人	S N S 上での 知り合い	その他
全体	(330)	52.4	14.8	49.7	16.7	11.5	12.7	1.8	4.5	4.5	3.6	2.4	4.5	7.3	
現在あてはまる	(91)	53.8	16.5	53.8	14.3	14.3	12.1	1.1	8.8	8.8	5.5	2.2	8.8	5.5	
現在はあてはまらないが、かつて あてはまったと思う	(119)	45.4	16.8	47.1	22.7	12.6	16.8	2.5	4.2	4.2	4.2	2.5	5.0	9.2	
あてはまらない	(74)	60.8	8.1	43.2	14.9	8.1	8.1	0.0	2.7	0.0	1.4	1.4	1.4	4.1	
わからない	(46)	54.3	17.4	58.7	8.7	8.7	10.9	4.3	0.0	4.3	2.2	4.3	0.0	10.9	

⑩ ヤングケアラーの自己認識×悩みを相談していない理由

世話について相談した経験が「ない」と答えた人に悩みを相談していない理由を尋ねたところ、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人は、「相談しても状況が変わると思わない」、「家族のここのため話しにくい」、「家族外の人に相談するような悩みではない」の割合が高くなっている。

図表 324 ヤングケアラーの自己認識×悩みを相談していない理由(複数回答)

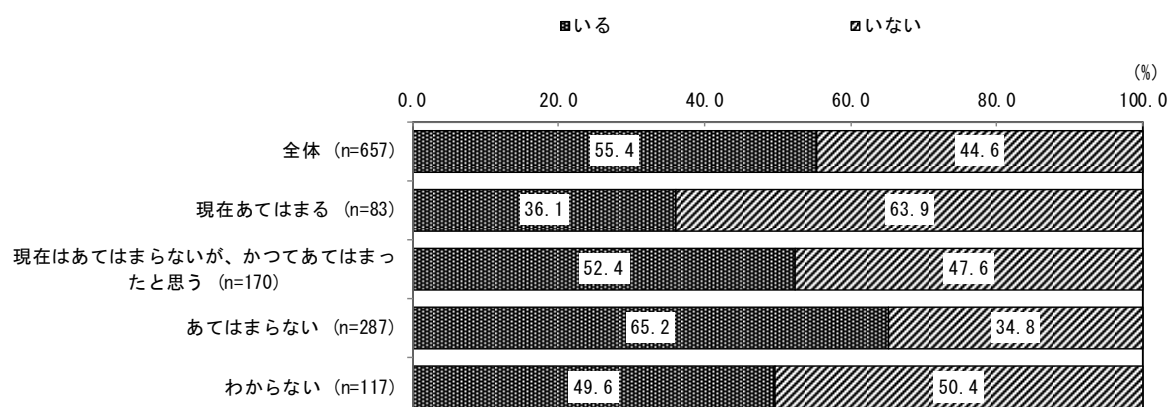
(%)

	調査数	誰かに相談するほどの悩みではない	家族外の人に相談するような悩みではない	誰かに相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のここのため話しにくい	家族のここのを知られたくない	い家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わると思わない	その他
全体	(657)	52.5	20.2	12.5	11.6	19.3	12.5	10.7	33.0	3.8
現在あてはまる	(83)	30.1	37.3	21.7	21.7	37.3	26.5	20.5	49.4	2.4
現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う	(170)	45.9	26.5	17.6	18.8	26.5	16.5	15.3	34.7	5.3
あてはまらない	(287)	67.9	13.6	6.3	5.6	9.4	5.6	4.9	24.4	3.5
わからない	(117)	40.2	15.4	13.7	8.5	20.5	13.7	11.1	40.2	3.4

⑰ ヤングケアラーの自己認識×世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について相談した経験が「ない」と答えた人に、世話を必要としている家族のことや、世話の悩みを聞いてくれる人はいるかについて聞いたところ、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人の「いる」の割合が低くなっている。

図表 325 ヤングケアラーの自己認識×世話について話を聞いてくれる人の有無



⑩ ヤングケアラーの自己認識×大学や大人に助けて欲しいことや、必要な支援

大学や大人に助けて欲しいことや、必要な支援については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人の「自由に使える時間がほしい」、「学費への支援・奨学金等」、「家庭への経済的な支援」、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」、「家族の世話について相談にのってほしい」の割合が高くなっている。

図表 326 ヤングケアラーの自己認識×
大学や周りの大人に助けて欲しいことや、必要な支援(複数回答)

(%)

調査数	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれ人或サービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれ人或サービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	大学の勉強や学習のサポート	家庭への経済的な支援	学費への支援・奨学金等	その他	特にない	わからない
全体 (987)	21.7	10.6	5.9	7.4	2.5	26.2	28.3	18.5	23.4	28.3	2.5	26.2	10.2
現在あてはまる (174)	31.6	23.0	12.6	14.4	7.5	43.1	37.9	27.0	39.1	40.8	4.6	13.8	4.6
現在はあてはまらないが、かつてあてはまっていたと思う (289)	26.3	10.4	8.0	8.0	2.4	25.3	31.1	20.1	29.4	33.2	4.2	21.1	8.3
あてはまらない (361)	13.0	5.3	2.2	4.4	0.8	18.8	21.3	15.5	13.9	20.8	1.4	39.9	10.2
わからない (163)	22.1	9.8	3.1	5.5	1.2	26.4	28.2	13.5	17.2	22.7	0.0	18.4	19.6

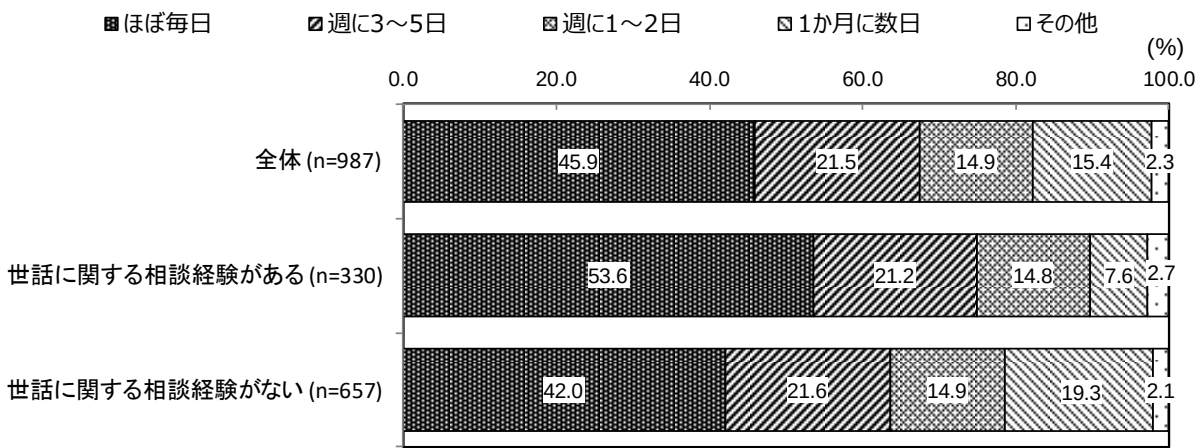
3-8 世話に関しての相談の状況

世話に関する相談経験の有無別の世話の状況の違いを記載する。

① 世話に関する相談の経験×世話をしている(していた)頻度

世話に関する相談をしたことが「ある」と回答した場合、「ない」と回答した場合に比べ、世話をしている(していた)頻度について、「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。

図表 327 世話に関する相談の経験×世話をしている(していた)頻度



② 世話に関する相談の経験×世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと

世話に関する相談をしたことが「ある」と回答した場合、「ない」と回答した場合に比べ、「自分の時間が取れなかった」、「睡眠が十分に取れなかった」、「友人と遊ぶことができなかった」「課題・予習復習をする時間が取れなかった」の割合が高くなっている。

図表 328 世話に関する相談の経験×世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと(複数回答)

(%)

調査数	大学の授業に行きたくても行けなかった	単位をとれなかった、 留年・休学した	課題・予習復習をする時間が 取れなかった	留学をあきらめた	睡眠が十分に取れなかった	友人と遊ぶことができなかった	辞めざるを得なかった、もしくは 部活動・サークル活動が できなかった	課外活動・習い事が できなかった、もしくは 辞めざるを得なかった	アルバイトができなかった	就職先・進路の変更を 考えざるを得なかった、変更した	一人暮らしをしたくても できなかった	恋愛をしたくてもできなかった	自分の時間が取れなかった	その他	特になかった	
全体	(987)	4.5	3.6	17.9	5.3	24.4	24.3	9.8	4.8	11.8	7.5	13.2	7.9	32.2	2.1	41.9
ある	(330)	7.6	4.8	23.9	7.0	35.5	32.1	12.1	5.5	14.5	10.9	19.7	10.3	43.9	4.2	22.7
ない	(657)	2.9	3.0	14.9	4.4	18.9	20.4	8.7	4.4	10.4	5.8	9.9	6.7	26.3	1.1	51.6

③ 世話に関する相談の経験×世話をしている(していた)ことで今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなこと

世話に関する相談をしたことが「ある」と回答した場合、「ない」と回答した場合に比べ、「自分の時間が取れない」、「一人暮らしができるか不安がある」、「恋愛・結婚に対する不安がある」、「睡眠が十分に取れない」の割合が高くなっている。

図表 329 世話に関する相談の経験×
世話をしている(していた)ことで今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなこと(複数回答)

(%)

	調査数	大学の授業に行きたくても行けない	単位取得、進級・卒業できるか不安がある	課題・予習復習をする時間が取れない	留学に行けない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活動・サークル活動ができない	課外活動・習い事ができない	アルバイトができない	就職活動の時間が取れない	希望する就職先・進路の変更を考えざるを得ない	一人暮らしができるか不安がある	恋愛・結婚に対する不安がある	自分の時間が取れない	その他	特にない
全体	(987)	2.8	8.0	8.5	4.4	12.9	9.9	2.9	3.1	7.4	11.4	13.6	15.9	14.4	20.1	3.5	51.9
ある	(330)	4.2	10.9	11.5	6.4	19.7	12.7	2.7	4.2	9.1	14.2	17.6	24.2	22.7	29.1	5.5	29.7
ない	(657)	2.1	6.5	7.0	3.3	9.4	8.5	3.0	2.6	6.5	10.0	11.6	11.7	10.2	15.5	2.6	63.0

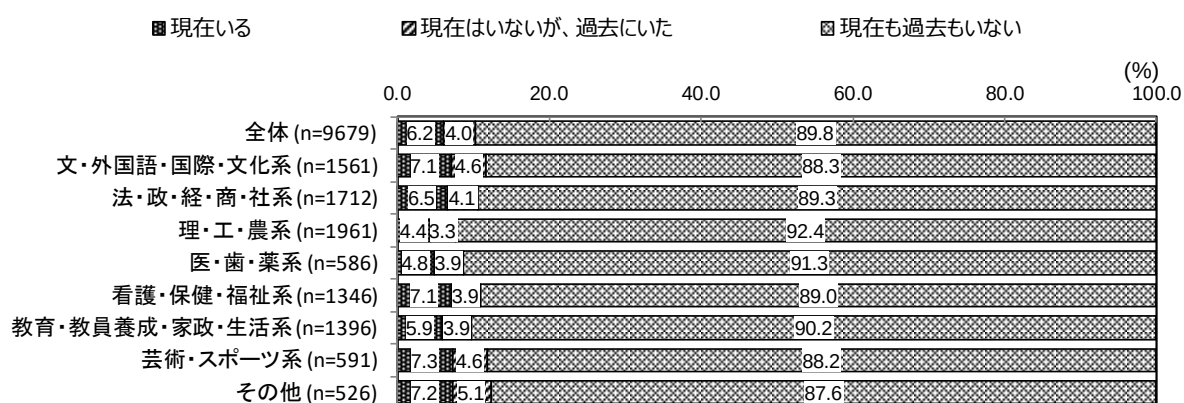
3-9 大学の学科による状況の違い

大学の学科(専攻)別の世話の状況の違いを記載する。

① 大学の学科(専攻)別×世話をしている家族の有無(母数:全員)

世話をしている家族の有無については、「芸術・スポーツ系」、「看護・保健・福祉系」、「文・外国語・国際・文化系」で「現在いる」の割合が高くなっている。

図表 330 大学の学科(専攻)別×世話をしている家族の有無

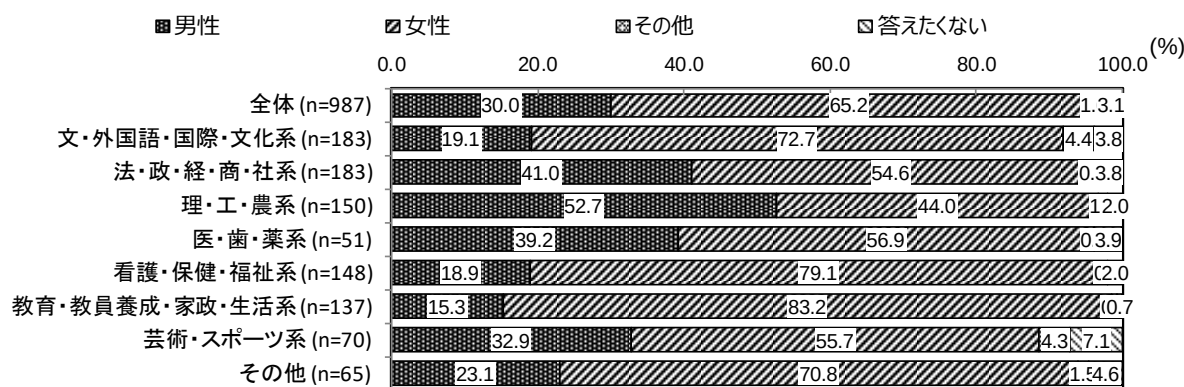


以下は、世話をしている家族が「現在いる」、「過去にいた」人の属性や大学生活の状況、世話の状況を記載する。「医・歯・薬系」、「芸術・スポーツ系」は、該当者数が二桁と少ないため、回答の解釈に留意が必要である。

② 大学の学科(専攻)別×性別

「教育・教員養成・家政・生活系」、「看護・保健・福祉系」、「文・外国語・国際・文化系」で、「女性」の割合が高くなっている。

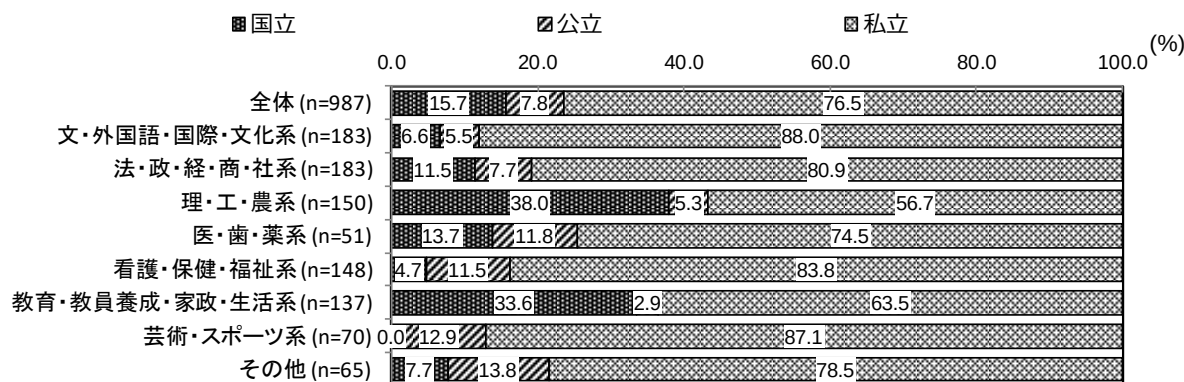
図表 331 大学の学科(専攻)別×性別



③ 大学の学科(専攻)別×大学種別

「芸術・スポーツ系」、「文・外国語・国際・文化系」、「看護・保健・福祉系」は、「私立」大学の割合が高くなっている。

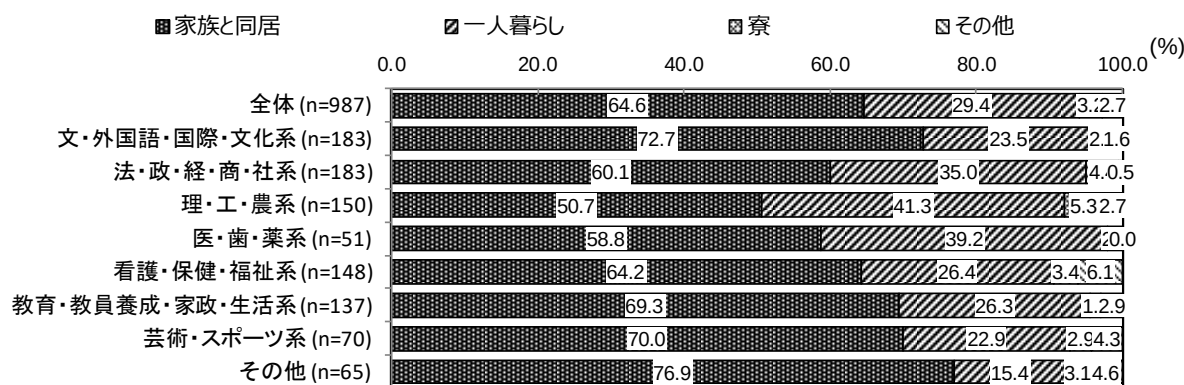
図表 332 大学種別



④ 大学の学科(専攻)別×居住形態

「文・外国語・国際・文化系」、「芸術・スポーツ系」、「教育・教員養成・家政・生活系」は、「家族と同居」の割合が高くなっている。

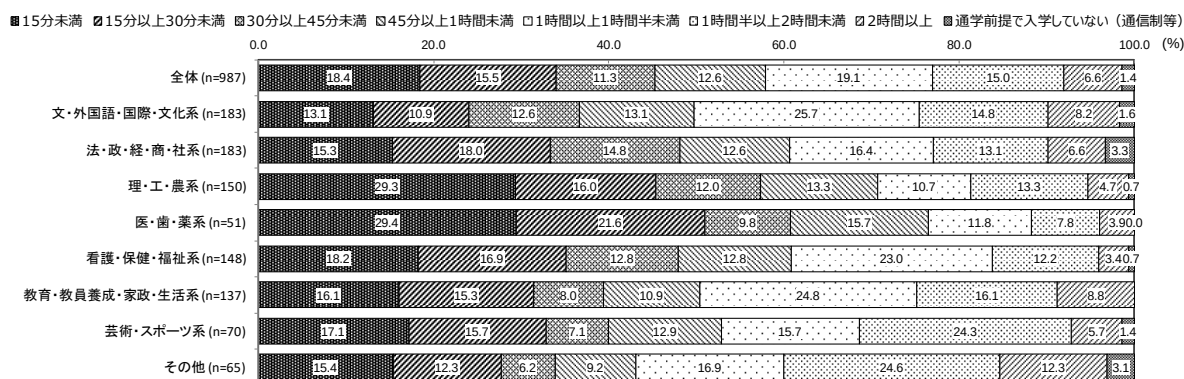
図表 333 大学の学科(専攻)別×居住形態



⑤ 大学の学科(専攻)別×大学までの通学時間

「文・外国語・国際・文化系」、「教育・教員養成・家政・生活系」は通学時間が長い人が多い傾向にある。

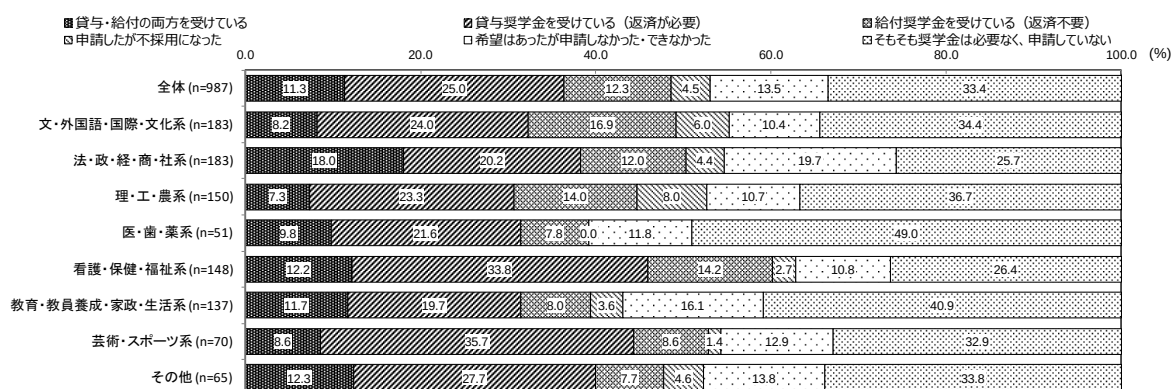
図表 334 大学の学科(専攻)別×大学までの通学時間



⑥ 大学の学科(専攻)別×奨学金の受給状況

「法・政・経・商・社系」は「貸与・給付の両方を受けている」、「文・外国語・国際・文化系」、「看護・保健・福祉系」は「給付奨学金を受けている」が多い傾向にある。

図表 335 大学の学科(専攻)別×奨学金の受給状況



⑦ 大学の学科(専攻)別×入学理由

「教育・教員養成・家政・生活系」は「実家から近い」の割合が高くなっている。

図表 336 大学の学科(専攻)別×現在在籍している大学に入学した理由(複数回答)

(%)

	調査数	自分のやりたいことができる・学べる	社会で役立つことができる	実家から近い・通える範囲内にある	学費が安い	時間的に講義等に出席しやすい	その他
全体	(987)	72.2	28.6	25.4	13.6	2.1	12.9
文・外国語・国際・文化系	(183)	77.0	24.0	24.6	13.1	2.2	14.2
法・政・経・商・社系	(183)	54.1	41.0	27.3	17.5	3.3	15.3
理・工・農系	(150)	69.3	35.3	29.3	15.3	2.0	8.7
医・歯・薬系	(51)	86.3	31.4	23.5	13.7	0.0	5.9
看護・保健・福祉系	(148)	69.6	27.0	25.0	13.5	1.4	14.2
教育・教員養成・家政・生活系	(137)	80.3	18.2	29.9	13.9	0.7	12.4
芸術・スポーツ系	(70)	90.0	8.6	11.4	5.7	4.3	8.6
その他	(65)	75.4	35.4	21.5	7.7	3.1	20.0

⑧ 大学の学科(専攻)別×家族の中で世話をしている人

家族の中に世話をしている人については「法・政・経・商・社系」、「文・外国語・国際・文化系」で、「母親」の割合が高くなっている。「看護・保健・福祉系」は「祖母」、「教育・教員養成・家政・生活系」は「きょうだい」の割合が高くなっている。

図表 337 大学の学科(専攻)別×家族の中で世話をしている人(複数回答)

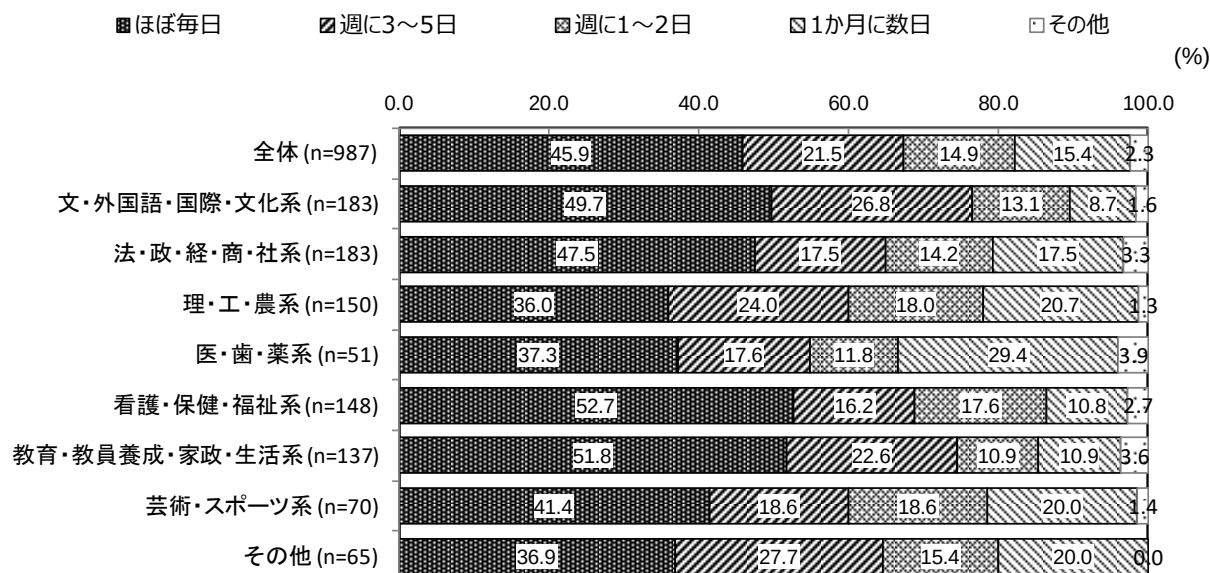
(%)

	調査数	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体	(987)	35.4	20.5	32.8	17.2	26.5	4.7
文・外国語・国際・文化系	(183)	42.6	18.0	33.9	14.8	24.0	6.0
法・政・経・商・社系	(183)	43.2	28.4	33.9	16.9	21.9	2.7
理・工・農系	(150)	32.0	25.3	28.7	19.3	31.3	2.0
医・歯・薬系	(51)	33.3	27.5	31.4	17.6	21.6	5.9
看護・保健・福祉系	(148)	28.4	12.8	39.9	16.9	28.4	6.1
教育・教員養成・家政・生活系	(137)	30.7	16.1	31.4	16.1	33.6	4.4
芸術・スポーツ系	(70)	31.4	20.0	31.4	22.9	18.6	8.6
その他	(65)	32.3	15.4	26.2	16.9	29.2	4.6

⑨ 大学の学科(専攻)別×世話をしている(していた)頻度

世話をしている(していた)頻度については、「看護・保健・福祉系」、「教育・教員養成・家政・生活系」、「文・外国語・国際・文化系」で「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。

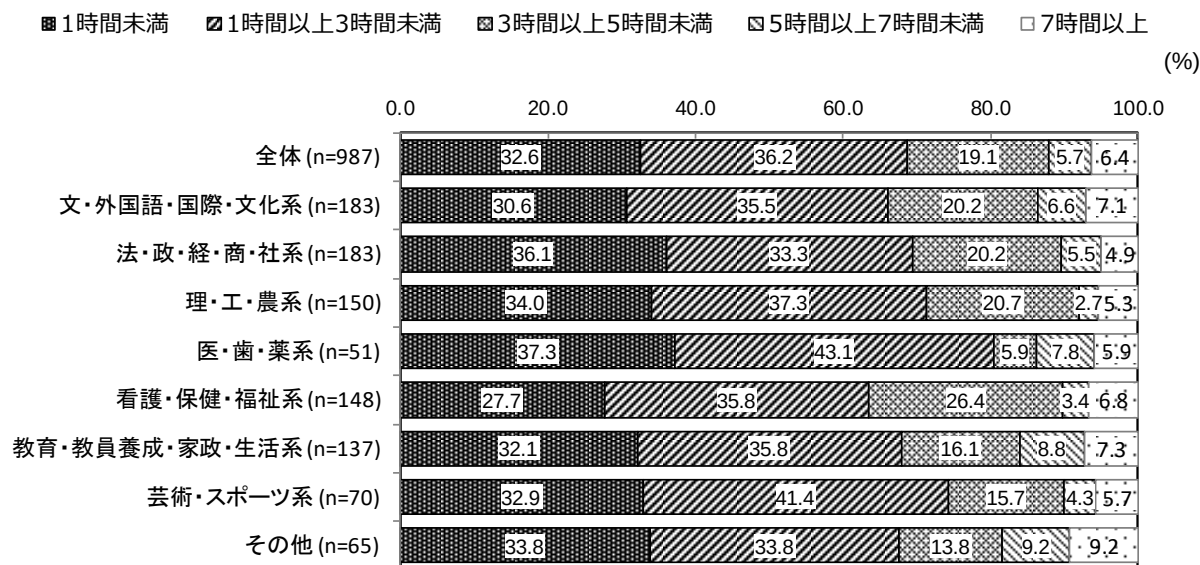
図表 338 大学の学科(専攻)別×世話をしている(していた)頻度



⑩ 大学の学科(専攻)別×平日1日あたりに世화에費やす時間

平日1日あたりに世화에費やす時間については、「看護・保健・福祉系」で「1時間未満」の割合が少なくなっている。一方、いずれの学部にも「7時間以上」世話をしている人が5%程度以上存在する。

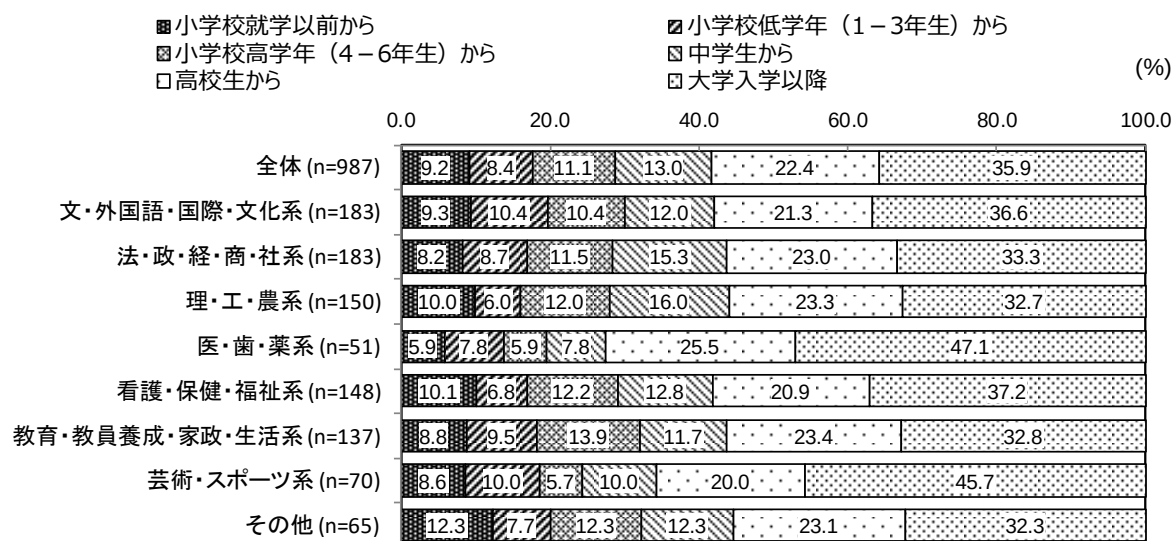
図表 339 大学の学科(専攻)別×平日1日あたりに世화에費やす時間



⑪ 大学の学科(専攻)別×世話を始めた時期

世話を始めた時期については、「医・歯・薬系」、「芸術・スポーツ系」は「大学入学以降」の割合が高い。

図表 340 大学の学科(専攻)別×世話を始めた時期



⑫ 大学の学科(専攻)別×世話をしていることで、大学進学の際に苦労したこと・影響

世話を始めた時期が大学入学以前の方に、大学進学の際に苦労したこと・影響について聞いたところ、「文・外国語・国際・文化系」は「学費等の制約や経済的な不安があった」の割合が高くなっている。「看護・保健・福祉系」は「受験勉強をする時間が取れなかった」が高くなっている。「教育・教員養成・家政・生活系」は「実家から通える範囲等の通学面の制約があった」が高くなっている。

図表 341 大学の学科(専攻)別×世話をしていることで、大学進学の際に苦労したこと・影響
(複数回答)

(%)

	調査数	受験勉強をする時間が取れなかった	学費等の制約や経済的な不安があった	実家から通える範囲等の通学面の制約があった	家族等から求められた世話を優先する	進学するか働くか迷った	大学以外の進学先と迷った	その他	特にない
全体	(633)	21.6	26.7	13.1	10.7	12.2	7.1	6.3	48.0
文・外国語・国際・文化系	(116)	23.3	35.3	9.5	10.3	14.7	5.2	6.0	39.7
法・政・経・商・社系	(122)	22.1	30.3	7.4	9.8	10.7	9.0	4.9	49.2
理・工・農系	(101)	19.8	23.8	14.9	6.9	12.9	6.9	5.9	50.5
医・歯・薬系	(27)	18.5	14.8	3.7	7.4	7.4	7.4	7.4	59.3
看護・保健・福祉系	(93)	28.0	21.5	20.4	12.9	14.0	10.8	6.5	50.5
教育・教員養成・家政・生活系	(92)	20.7	30.4	25.0	12.0	12.0	6.5	7.6	43.5
芸術・スポーツ系	(38)	5.3	21.1	5.3	15.8	13.2	0.0	5.3	52.6
その他	(44)	25.0	15.9	6.8	13.6	6.8	6.8	9.1	54.5

⑬ 大学の学科(専攻)別×世話をしていることで生ずる就職に関する不安

世話をしていることで生ずる就職に関する不安については、「文・外国語・国際・文化系」で「正社員として就職できるか不安がある」の割合が高く、「教育・教員養成・家政・生活系」、「看護・保健・福祉系」で「通勤できる地域に限られる」の割合が高くなっている。

図表 342 大学の学科(専攻)別×世話をしていることで生ずる就職に関する不安
(複数回答)

(%)

	調査数	正社員として就職できる不安がある	休まず働けるか不安がある	通勤できる地域に限られる	働ける時間帯に限られる	就職先について考える時間がない	その他	わからない	特にない
全体	(987)	13.9	11.4	13.4	7.0	7.8	2.0	12.9	54.9
文・外国語・国際・文化系	(183)	19.1	14.2	15.8	7.1	14.2	2.7	9.3	48.6
法・政・経・商・社系	(183)	16.9	16.4	13.1	5.5	6.0	2.2	10.9	54.1
理・工・農系	(150)	12.7	7.3	11.3	8.0	6.0	0.7	14.0	60.0
医・歯・薬系	(51)	2.0	7.8	5.9	2.0	3.9	0.0	7.8	80.4
看護・保健・福祉系	(148)	13.5	10.8	17.6	10.1	8.8	2.7	8.8	56.8
教育・教員養成・家政・生活系	(137)	12.4	13.1	18.2	9.5	6.6	2.2	12.4	51.1
芸術・スポーツ系	(70)	10.0	5.7	7.1	2.9	10.0	2.9	24.3	51.4
その他	(65)	10.8	6.2	4.6	4.6	0.0	1.5	27.7	50.8

⑭ 大学の学科(専攻)別×世話をすることで感じるきつさ

世話をすることで感じるきつさについては、「文・外国語・国際・文化系」「教育・教員養成・家政・生活系」、「看護・保健・福祉系」で「特にきつさを感じていない」の割合が低くなっている。

図表 343 大学の学科(専攻)別×世話をすることで感じるきつさ(複数回答)
(%)

	調査数	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさは感じない
全体	(987)	16.3	42.4	31.8	41.8
文・外国語・国際・文化系	(183)	18.6	47.0	39.9	32.2
法・政・経・商・社系	(183)	21.3	44.3	27.3	43.2
理・工・農系	(150)	11.3	36.7	27.3	48.0
医・歯・薬系	(51)	11.8	29.4	27.5	56.9
看護・保健・福祉系	(148)	18.9	39.9	35.8	41.9
教育・教員養成・家政・生活系	(137)	17.5	45.3	32.1	39.4
芸術・スポーツ系	(70)	10.0	41.4	27.1	45.7
その他	(65)	9.2	47.7	30.8	40.0

⑮ 大学の学科(専攻)別×大学や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援

大学や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援については、「看護・保健・福祉系」で「進路や就職など将来の相談にのってほしい」、「文・外国語・国際・文化系」で「学費への支援・奨学金等」の割合が高くなっている。

図表 344 大学の学科(専攻)別×大学や周りの大人に助けとほしいことや、必要としている支援(複数回答)

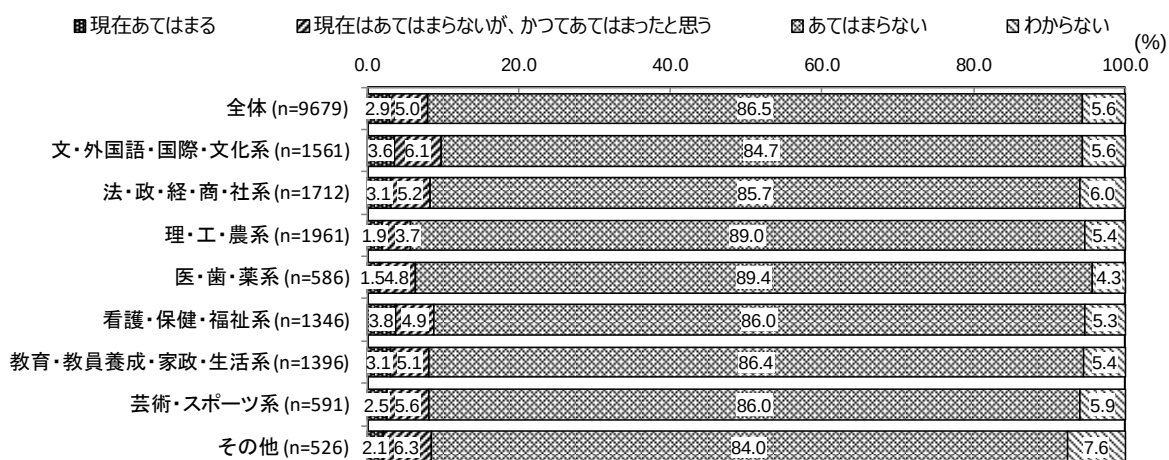
(%)

	調査数	話を聞いてほしい	家族のお世話について相談	家族の病気や障がい、ケア のこともなについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談	大学の勉強や学習のサポート	家庭への経済的な支援	学費への支援・奨学金等	その他	特にな	わからない
全体	(987)	21.7	10.6	5.9	7.4	2.5	26.2	28.3	18.5	23.4	28.3	2.5	26.2	10.2
文・外国語・国際・文化系	(183)	25.7	14.2	7.1	9.3	3.3	30.6	30.1	20.2	26.2	32.8	2.2	20.2	8.2
法・政・経・商・社系	(183)	22.4	8.7	6.6	10.4	1.6	18.0	30.1	19.1	25.1	32.2	2.7	26.2	8.7
理・工・農系	(150)	18.0	6.7	6.0	8.0	0.7	24.7	25.3	13.3	23.3	22.7	1.3	36.0	10.0
医・歯・薬系	(51)	11.8	7.8	3.9	3.9	2.0	11.8	11.8	15.7	13.7	19.6	2.0	37.3	13.7
看護・保健・福祉系	(148)	21.6	14.2	5.4	2.0	4.7	29.7	31.8	24.3	20.9	31.8	2.7	25.0	6.8
教育・教員養成・家政・生活系	(137)	23.4	8.8	5.8	9.5	4.4	34.3	30.7	22.6	24.1	26.3	1.5	22.6	14.6
芸術・スポーツ系	(70)	24.3	14.3	2.9	4.3	1.4	24.3	28.6	7.1	24.3	25.7	2.9	25.7	12.9
その他	(65)	18.5	9.2	6.2	6.2	0.0	29.2	24.6	16.9	21.5	23.1	7.7	23.1	13.8

⑯ 大学の学科(専攻)別×「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」の自覚

ご自身が「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」にあてはまると思うか聞いたところ、「看護・保健・福祉系」、「文・外国語・国際・文化系」、「教育・教員養成・家政・生活系」、「法・政・経・商・社系」の順に「現在あてはまる」の割合が高くなっている。

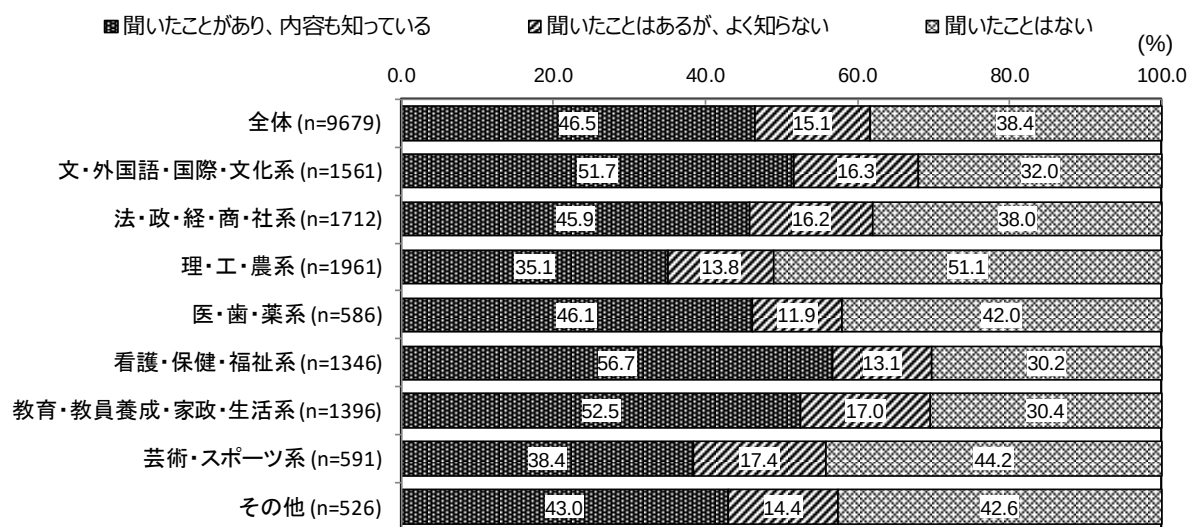
図表 345 大学の学科(専攻)別×「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」の自覚



⑪ 大学の学科(専攻)別×「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」という言葉の認知度

「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」という言葉をおこれまでに聞いたことがあるか聞いたところ、「看護・保健・福祉系」、「教育・教員養成・家政・生活系」、「文・外国語・国際・文化系」で「聞いたことがあり、内容も知っている」の割合が50%を超えている。

図表 346 大学の学科(専攻)別×
「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」という言葉の認知度



⑩ 大学の学科(専攻)別×「ヤングケアラー」という言葉を知ったきっかけ

「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか聞いたところ、「テレビや新聞、ラジオ」の割合が最も高い学科が多い一方で、「看護・保健・福祉系」、「教育・教員養成・家政・生活系」で「大学」の割合が高くなっている。

図表 347 大学の学科(専攻)別×「ヤングケアラー」という言葉を知ったきっかけ(複数回答)
(%)

	調査数	テレビや新聞、ラジオ	雑誌や本	SNSやインターネット	広報やチラシ、掲示物	イベントや交流会など	大学	友人・知人から聞いた	その他
全体	(5965)	66.6	8.4	38.7	3.6	1.1	31.4	3.8	1.9
文・外国語・国際・文化系	(1062)	71.1	10.7	42.8	3.7	1.3	26.0	5.0	1.5
法・政・経・商・社系	(1062)	70.2	8.9	40.0	3.7	0.5	24.4	4.4	1.4
理・工・農系	(959)	73.3	8.0	50.3	4.4	0.8	6.4	2.6	1.6
医・歯・薬系	(340)	75.0	8.2	37.9	2.9	1.2	11.8	3.8	2.6
看護・保健・福祉系	(939)	56.0	5.9	27.5	3.5	1.0	61.0	2.8	1.8
教育・教員養成・家政・生活系	(971)	61.0	8.2	31.1	2.9	2.1	49.3	3.9	2.5
芸術・スポーツ系	(330)	60.3	6.4	43.9	3.3	0.9	22.4	3.0	2.1
その他	(302)	64.9	10.9	37.4	4.6	1.3	37.1	4.0	4.0

3-10 「世話をしている/したい」人のうちヤングケアラーの自己認識別 世話の状況

本節では、世話をしている家族が「現在いる」「現在はいないが、過去にいた」人を、ヤングケアラーの自己認識(4種別)別に、どのような世話をしているかを分析した。

① 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×世話を必要としている家族

世話を必要としている家族については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人は「あてはまらない」人よりも、「母親」の割合がやや高くなっている。

図表 348 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×世話を必要としている家族(複数回答)

(%)

	調査数	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
全体	(987)	35.4	20.5	32.8	17.2	26.5	4.7
現在あてはまる	(174)	38.5	23.0	35.1	16.1	24.7	5.7
現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う	(289)	34.6	16.3	31.1	13.1	26.6	4.5
あてはまらない	(361)	32.4	19.9	34.9	19.7	26.6	4.4
わからない	(163)	39.9	26.4	28.8	20.2	28.2	4.3

② 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×世話を必要としている(していた)方の状況(母親)

世話を必要としている(していた)方の状況(母親)については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人は「あてはまらない」人よりも、「要介護」、「身体障がい」、「精神疾患」、「精神疾患、依存症以外の病気」の割合がやや高くなっている。

「あてはまらない」人は、「高齢」、「わからない」人は「日本語を第一言語としない」の割合が高くなっている。

図表 349 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×
世話を必要としている(していた)方の状況(母親)(複数回答)

(%)

	調査数	高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑い含む)	精神疾患、依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑い含む)	日本語を第一言語としない	その他
全体	(349)	7.7	0.0	8.3	2.0	11.5	2.0	28.7	5.7	14.9	14.9	23.5
現在あてはまる	(67)	3.0	0.0	19.4	4.5	17.9	3.0	37.3	6.0	23.9	17.9	13.4
現在はあてはまらないが、 かつてあてはまったと思う	(100)	3.0	0.0	9.0	2.0	20.0	4.0	35.0	6.0	22.0	12.0	13.0
あてはまらない	(117)	12.0	0.0	4.3	0.0	4.3	0.0	19.7	5.1	7.7	12.0	39.3
わからない	(65)	12.3	0.0	3.1	3.1	4.6	1.5	26.2	6.2	7.7	21.5	21.5

③ 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×世話を必要としている(していた)方の状況(父親)

世話を必要としている(していた)方の状況(父親)については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人は「あてはまらない」人よりも、「要介護」、「身体障がい」、「精神疾患」、「精神疾患、依存症以外の病気」の割合がやや高くなっている。

「あてはまらない」人は、「高齢」、「わからない」人は「日本語を第一言語としない」の割合が高くなっている。

図表 350 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×
世話を必要としている(していた)方の状況(父親)(複数回答)

(%)

	調査数	高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	ギャンブル依存症(アルコール依存症、 ギャンブル依存症など)(疑い含む)	精神疾患、依存症(アルコール依存症、 ギャンブル依存症など)以外の病気 (疑い含む)	日本語を第一言語としない	その他
全体	(202)	16.3	0.0	11.4	2.5	10.9	1.5	11.4	8.4	13.9	16.8	22.8
現在あてはまる	(40)	15.0	0.0	27.5	5.0	20.0	0.0	20.0	5.0	15.0	7.5	15.0
現在はあてはまらないが、 かつてあてはまったと思う	(47)	6.4	0.0	14.9	2.1	6.4	4.3	17.0	14.9	21.3	12.8	21.3
あてはまらない	(72)	22.2	0.0	2.8	1.4	6.9	1.4	6.9	5.6	8.3	16.7	29.2
わからない	(43)	18.6	0.0	7.0	2.3	14.0	0.0	4.7	9.3	14.0	30.2	20.9

④ 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×世話を必要としている(していた)方の状況(祖母)

世話を必要としている(していた)方の状況(祖母)については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人は「あてはまらない」人よりも、「要介護」、「認知症」、「精神疾患」、「精神疾患、依存症以外の病気」の割合が高くなっている。

図表 351 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×
世話を必要としている(していた)方の状況(祖母)(複数回答)

(%)

	調査数	高齢（65歳以上）	若い	要介護（介護が必要な状態）	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患（疑い含む）	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	精神疾患、依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）以外の病気（疑い含む）	日本語を第一言語としない	その他
全体	(324)	84.0	0.0	39.5	32.1	14.2	0.6	4.3	0.6	3.4	1.9	4.3
現在あてはまる	(61)	88.5	0.0	50.8	39.3	21.3	0.0	11.5	0.0	3.3	1.6	6.6
現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う	(90)	81.1	0.0	61.1	47.8	17.8	1.1	3.3	0.0	5.6	3.3	3.3
あてはまらない	(126)	84.1	0.0	24.6	23.8	10.3	0.0	3.2	1.6	2.4	0.0	3.2
わからない	(47)	83.0	0.0	23.4	14.9	8.5	2.1	0.0	0.0	2.1	4.3	6.4

⑤ 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×世話を必要としている(していた)方の状況(祖父)

世話を必要としている(していた)方の状況(祖父)については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人は「あてはまらない」人よりも、「要介護」、「認知症」、「精神疾患」、「依存症」の割合が高くなっている。

図表 352 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×
世話を必要としている(していた)方の状況(祖父)(複数回答)

(%)

	調査数	高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	ギャンブル 依存症(アルコール依存症、 ギャンブル依存症など) (疑い含む)	精神疾患、 ギャンブル依存症(アルコール依存症、 ギャンブル依存症など)以外の 病気の (疑い含む)	日本語を第一言語としない	その他
全体	(170)	84.1	0.0	40.0	22.9	10.6	1.2	2.4	1.8	5.3	1.8	4.1
現在あてはまる	(28)	92.9	0.0	53.6	35.7	14.3	3.6	7.1	7.1	10.7	0.0	7.1
現在はあてはまらないが、 かつてあてはまったと思う	(38)	86.8	0.0	60.5	26.3	10.5	0.0	2.6	2.6	7.9	5.3	0.0
あてはまらない	(71)	77.5	0.0	31.0	21.1	12.7	1.4	1.4	0.0	4.2	0.0	4.2
わからない	(33)	87.9	0.0	24.2	12.1	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	6.1

⑥ 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×世話を必要としている(していた)方の状況(きょうだい)

世話を必要としている(していた)方の状況(きょうだい)については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人は「あてはまらない」人よりも、「知的障がい」、「精神疾患」、「精神疾患、依存症以外の病気」、「身体障がい」の割合が高くなっている。

「あてはまらない」人は、「若い」の割合が高くなっている。

図表 353 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×
世話を必要としている(していた)方の状況(きょうだい)(複数回答)

(%)

	調査数	高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	ギャンブル依存症 (アルコール依存症、 ギャンブル依存症など) (疑い含む)	精神疾患、 ギャンブル依存症 (アルコール依存症、 ギャンブル依存症など) 以外の病気 (疑い含む)	日本語を第一言語としない	その他
全体	(262)	0.0	51.9	2.3	0.8	6.1	15.6	10.3	1.1	5.3	2.3	20.6
現在あてはまる	(43)	0.0	34.9	4.7	2.3	9.3	20.9	20.9	0.0	9.3	2.3	23.3
現在はあてはまらないが、 かつてあてはまったと思う	(77)	0.0	59.7	1.3	1.3	7.8	18.2	9.1	0.0	6.5	1.3	11.7
あてはまらない	(96)	0.0	61.5	1.0	0.0	2.1	5.2	4.2	0.0	4.2	1.0	26.0
わからない	(46)	0.0	34.8	4.3	0.0	8.7	28.3	15.2	6.5	2.2	6.5	21.7

⑦ 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」× 行っている(行っていた)世話の内容(母親)

行っている(行っていた)世話の内容(母親)については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人は「あてはまらない」人よりもいずれの割合も高くなっている。

「家事」、「家計を助ける」は、「あてはまらない」人との差が比較적인。

図表 354 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×
行っている(行っていた)世話の内容(母親)(複数回答)

(%)

	調査数	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	家計を助ける(働く)	その他
全体	(349)	69.9	13.5	7.2	24.6	13.2	42.7	23.5	3.4	10.0	7.7	17.2	5.4
現在あてはまる	(67)	74.6	16.4	14.9	31.3	25.4	47.8	26.9	7.5	13.4	22.4	26.9	1.5
現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う	(100)	72.0	17.0	11.0	30.0	17.0	58.0	34.0	3.0	10.0	6.0	12.0	3.0
あてはまらない	(117)	69.2	11.1	3.4	18.8	6.8	32.5	16.2	0.9	7.7	5.1	17.9	6.8
わからない	(65)	63.1	9.2	0.0	20.0	6.2	32.3	16.9	4.6	10.8	0.0	13.8	10.8

⑧ 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」× 行っている(行っていた)世話の内容(父親)

行っている(行っていた)世話の内容(父親)については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人は「あてはまらない」人よりみずれの割合も高くなっている。

「家計を助ける」は、「あてはまらない」人との差が比較的ない。

図表 355 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×
行っている(行っていた)世話の内容(父親)(複数回答)

(%)

	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレ、食事のお世話など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	家計を助ける（働く）	その他
全体	(202)	56.9	8.4	9.9	15.8	13.9	19.3	20.3	2.5	9.9	8.9	18.3	5.4
現在あてはまる	(40)	72.5	15.0	17.5	27.5	25.0	35.0	27.5	0.0	12.5	15.0	22.5	1.5
現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う	(47)	61.7	8.5	19.1	17.0	21.3	25.5	27.7	2.1	6.4	10.6	14.9	3.0
あてはまらない	(72)	51.4	5.6	4.2	12.5	8.3	15.3	12.5	1.4	8.3	5.6	20.8	6.8
わからない	(43)	46.5	7.0	2.3	9.3	4.7	4.7	18.6	7.0	14.0	7.0	14.0	10.8

⑨ 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」× 行っている(行っていた)世話の内容(祖母)

行っている(行っていた)世話の内容(祖母)については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人は「あてはまらない」人よりもいずれの割合も高くなっている。

図表 356 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×
行っている(行っていた)世話の内容(祖母)(複数回答)

(%)

	調査数	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	家計を助ける(働く)	その他
全体	(324)	51.5	3.1	26.5	33.6	25.9	36.7	57.4	0.3	5.2	15.4	2.5	5.4
現在あてはまる	(61)	68.9	3.3	29.5	49.2	36.1	60.7	65.6	0.0	9.8	29.5	4.9	1.5
現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う	(90)	55.6	2.2	50.0	37.8	28.9	40.0	68.9	1.1	3.3	18.9	1.1	3.0
あてはまらない	(126)	38.9	4.8	11.9	27.8	21.4	29.4	50.0	0.0	4.0	7.9	2.4	6.8
わからない	(47)	55.3	0.0	17.0	21.3	19.1	19.1	44.7	0.0	6.4	10.6	2.1	10.8

⑩ 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」× 行っている(行っていた)世話の内容(祖父)

行っている(行っていた)世話の内容(祖父)については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人は「あてはまらない」人よりみずれの割合も高くなっている。

「見守り」は、「あてはまらない」人との差が比較的ない。

図表 357 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×
行っている(行っていた)世話の内容(祖父)(複数回答)

(%)

	調査数	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	家計を助ける(働く)	その他
全体	(170)	48.2	1.8	26.5	29.4	28.8	28.2	56.5	1.2	4.1	11.8	1.2	5.4
現在あてはまる	(28)	64.3	3.6	35.7	42.9	46.4	46.4	67.9	0.0	10.7	21.4	7.1	1.5
現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う	(38)	52.6	0.0	52.6	39.5	42.1	28.9	52.6	5.3	2.6	15.8	0.0	3.0
あてはまらない	(71)	38.0	1.4	15.5	16.9	18.3	16.9	59.2	0.0	4.2	4.2	0.0	6.8
わからない	(33)	51.5	3.0	12.1	33.3	21.2	36.4	45.5	0.0	0.0	15.2	0.0	10.8

⑪ 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」× 行っている(行っていた)世話の内容(きょうだい)

行っている(行っていた)世話の内容(きょうだい)については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人は「あてはまらない」人よりも「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」「外出の付き添い」の割合が高くなっている。

「家事」については、「あてはまらない」人との差が比較的ない。

図表 358 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×
行っている(行っていた)世話の内容(きょうだい)(複数回答)

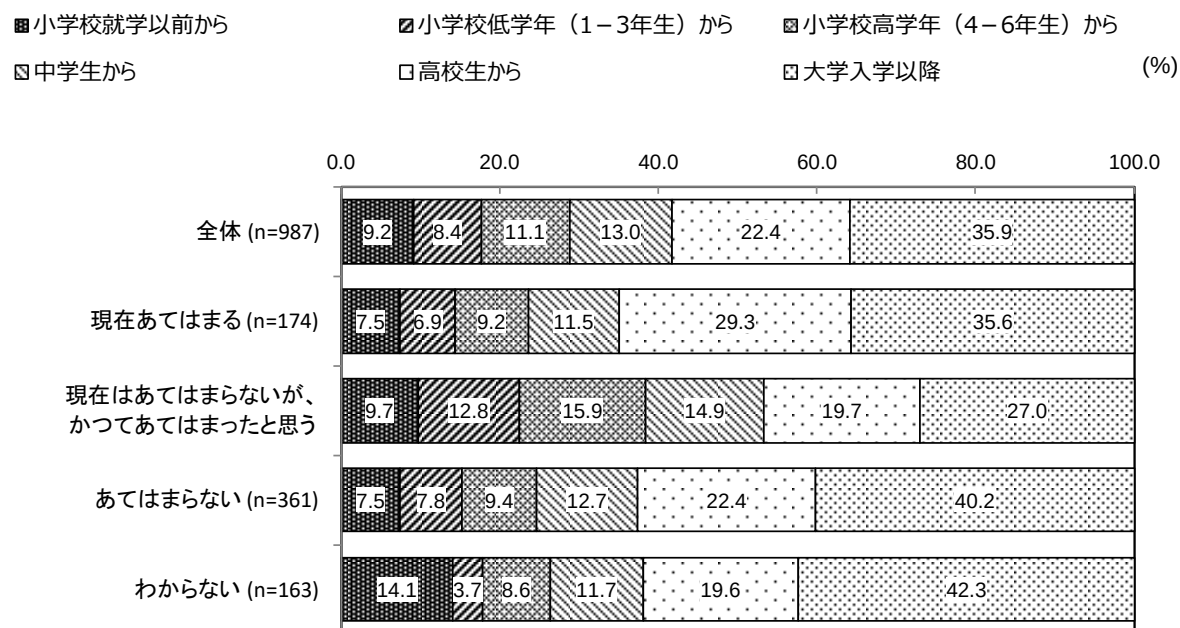
(%)

	調査数	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護 (入浴やトイレ、食事のお世話など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳 (日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	家計を助ける (働く)	その他
全体	(262)	59.9	35.1	11.5	22.1	6.1	30.5	45.4	1.1	3.8	2.7	6.9	5.4
現在あてはまる	(43)	60.5	46.5	9.3	37.2	11.6	41.9	48.8	0.0	9.3	4.7	11.6	1.5
現在はあてはまらないが、 かつてあてはまったと思う	(77)	63.6	48.1	14.3	22.1	6.5	37.7	54.5	0.0	1.3	1.3	5.2	3.0
あてはまらない	(96)	55.2	21.9	8.3	17.7	2.1	21.9	34.4	0.0	3.1	1.0	4.2	6.8
わからない	(46)	63.0	30.4	15.2	17.4	8.7	26.1	50.0	6.5	4.3	6.5	10.9	10.8

⑫ 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×世話を始めた時期

世話を始めた時期については、ヤングケアラーに「現在あてはまる」と認識している人は「あてはまらない」人に比べ、大学入学以前から世話している割合がやや高くなっている。

図表 359 「世話有×ヤングケアラーの自己認識」×世話を始めた時期



第5章 一般国民のヤングケアラーの認知度調査

本章では、一般国民向けに実施したヤングケアラーの認知度調査の結果について示す。

1. 一般国民調査の概要

本節では一般国民向けに実施したヤングケアラーの認知度調査の概要を示す。

(1) 調査対象

調査対象は日本全国の 20 代から 70 代以上の男女で、Web アンケート調査会社に登録されているモニターに調査を実施した。

一般に、ある母集団に対して 400 程度のサンプルを集めることで統計的に意味のある結果が得られると考えられることから、20 代から 70 代以上までの各年代について、それぞれ 400 サンプル集めることを想定し、男女比は半数ずつとすることを目安にモニターを抽出した。

(2) 回答方法

Web アンケート調査会社に登録されているモニターに回答 URL を送付し、Web 上で回答、回収を行った。

(3) 実施時期

令和3年 12 月 17 日(金)～12 月 20 日(月)

(4) 回収数

2,400 件

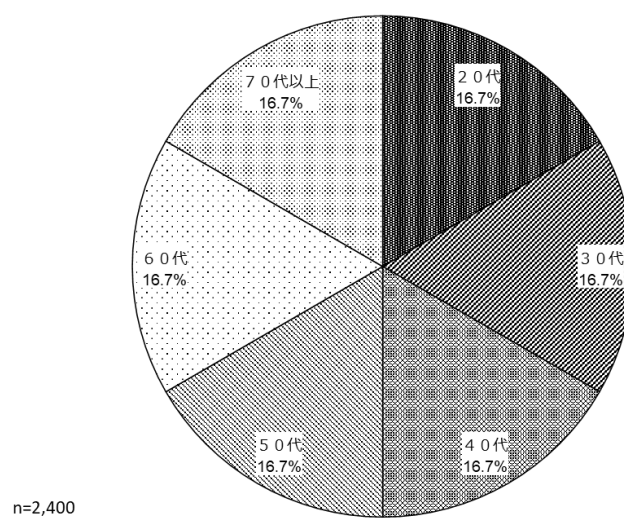
2. 一般国民調査の結果(単純集計)

(1) 基本情報

① 年代

回答者の年代は、以下の通り。

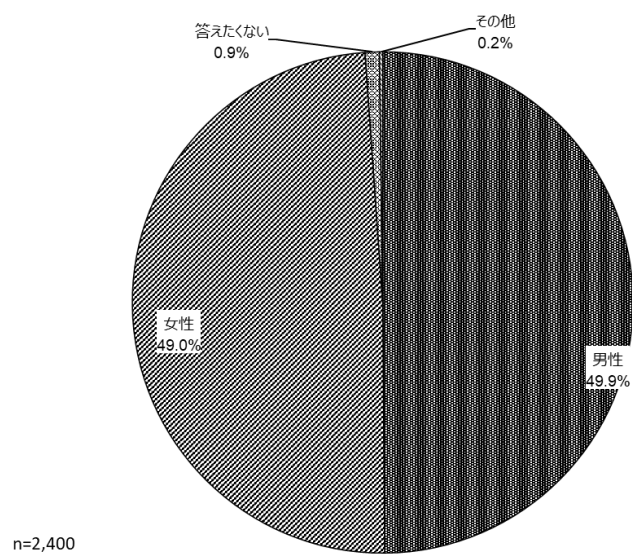
図表 360 年代



② 性別

回答者の性別は、以下の通り。

図表 361 性別



③ 居住地

回答者の居住地は、以下の通り。

図表 362 居住地

		回答数	%			回答数	%
1	北海道	122	5.1	26	京都府	53	2.2
2	青森県	16	0.7	27	大阪府	208	8.7
3	岩手県	22	0.9	28	兵庫県	110	4.6
4	宮城県	53	2.2	29	奈良県	29	1.2
5	秋田県	15	0.6	30	和歌山県	15	0.6
6	山形県	16	0.7	31	鳥取県	9	0.4
7	福島県	24	1.0	32	島根県	8	0.3
8	茨城県	38	1.6	33	岡山県	43	1.8
9	栃木県	26	1.1	34	広島県	52	2.2
10	群馬県	26	1.1	35	山口県	20	0.8
11	埼玉県	180	7.5	36	徳島県	18	0.8
12	千葉県	112	4.7	37	香川県	15	0.6
13	東京都	355	14.8	38	愛媛県	20	0.8
14	神奈川県	222	9.3	39	高知県	4	0.2
15	新潟県	38	1.6	40	福岡県	93	3.9
16	富山県	25	1.0	41	佐賀県	3	0.1
17	石川県	20	0.8	42	長崎県	9	0.4
18	福井県	12	0.5	43	熊本県	18	0.8
19	山梨県	9	0.4	44	大分県	15	0.6
20	長野県	26	1.1	45	宮崎県	8	0.3
21	岐阜県	30	1.3	46	鹿児島県	13	0.5
22	静岡県	38	1.6	47	沖縄県	14	0.6
23	愛知県	142	5.9	全体		2400	100.0
24	三重県	34	1.4				
25	滋賀県	22	0.9				

④ 職種

回答者の職種は、以下の通り。

図表 363 職種

		回答数	%
1	経営者・役員	32	1.3
2	会社員（正社員）	727	30.3
3	会社員（契約社員・派遣社員）	120	5.0
4	パート・アルバイト	316	13.2
5	公務員（教職員除く）	56	2.3
6	教職員	25	1.0
7	医療関係者	39	1.6
8	自営業・自由業	138	5.8
9	専業主婦・主夫	394	16.4
10	学生	50	2.1
11	士業	3	0.1
12	NGO・NPO法人職員	4	0.2
13	無職	483	20.1
14	その他	13	0.5
全体		2400	100.0

⑤ 業種

回答者の業種は、以下の通り。（④にて職種が専業主婦・主夫、学生、無職と回答した方以外（1,473 件）が回答）

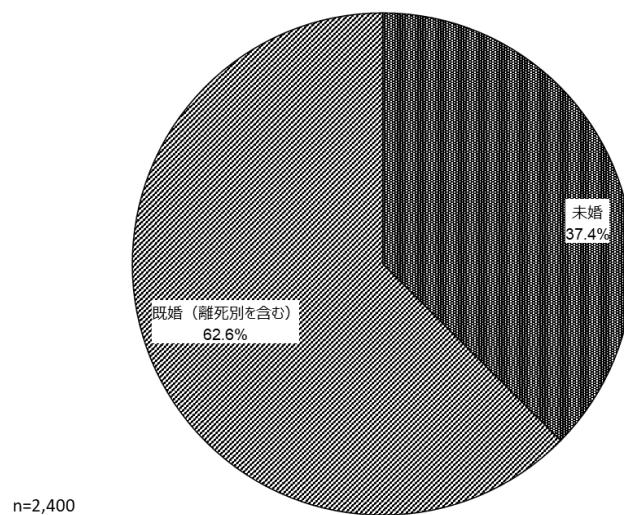
図表 364 業種

		回答数	%
1	農業，林業	17	1.2
2	漁業	4	0.3
3	鉱業，採石業，砂利採取業	3	0.2
4	建設業	72	4.9
5	製造業	270	18.3
6	電気・ガス・熱供給・水道業	28	1.9
7	情報通信業	78	5.3
8	運輸業，郵便業	65	4.4
9	卸売業，小売業	157	10.7
10	金融業，保険業	58	3.9
11	不動産業，物品賃貸業	44	3.0
12	学術研究，専門・技術サービス業	29	2.0
13	宿泊業，飲食サービス業	40	2.7
14	生活関連サービス業，娯楽業	22	1.5
15	教育，学習支援業	78	5.3
16	医療，福祉	144	9.8
17	複合サービス事業	17	1.2
18	その他サービス業	279	18.9
19	公務	68	4.6
全体		1473	100.0

⑥ 婚姻状態

回答者の婚姻状態は、以下の通り。

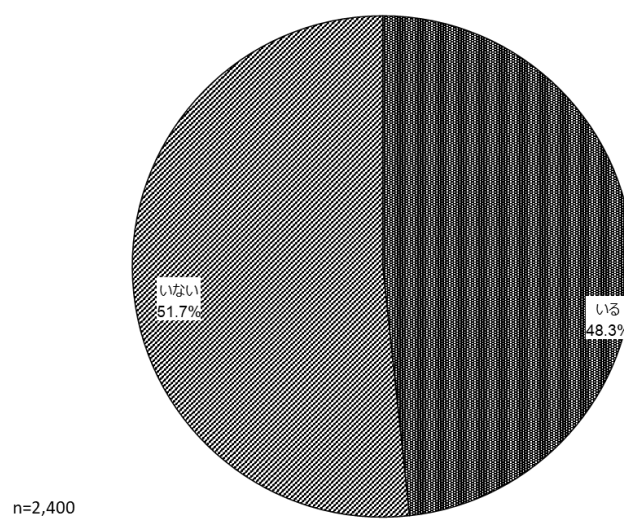
図表 365 婚姻状態



⑦ 子どもの有無

回答者の子どもの有無は、以下の通り。

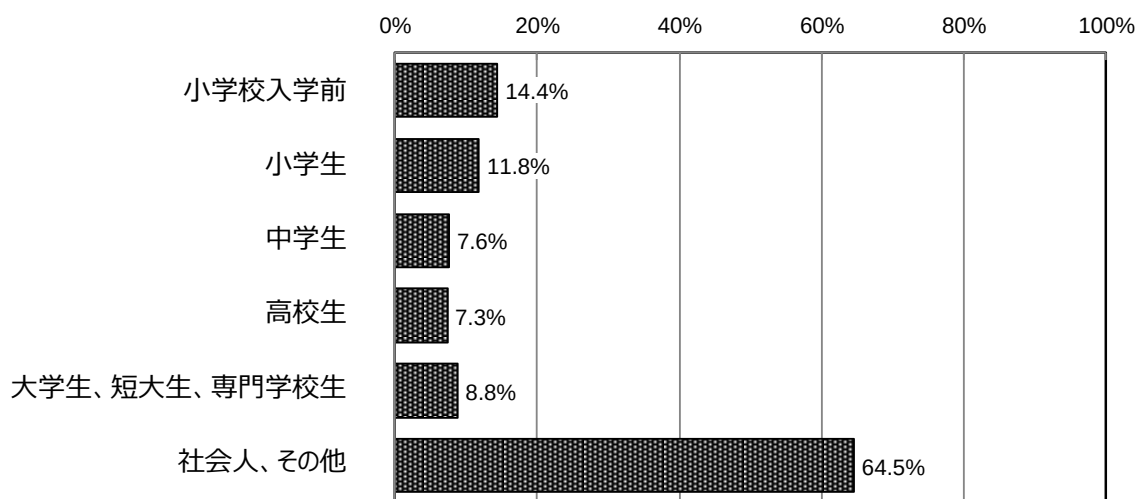
図表 366 子どもの有無



⑧ 子どもの年代

子どもの年代は、以下の通り。(⑦にて子どもが「いる」と回答した方(1,159 件)が回答)

図表 367 子どもの年代(複数回答)

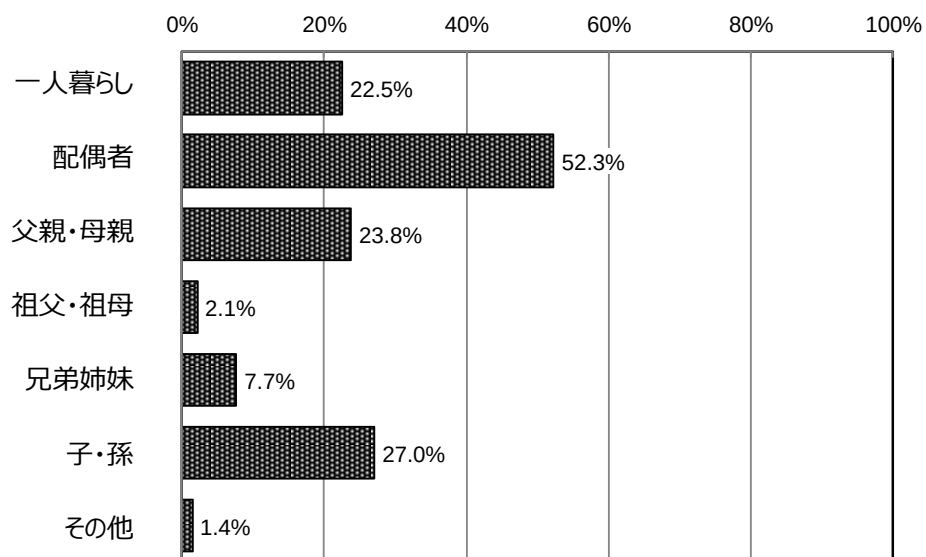


n=1,159

⑨ 同居家族

同居家族は、以下の通り。

図表 368 同居家族(複数回答)

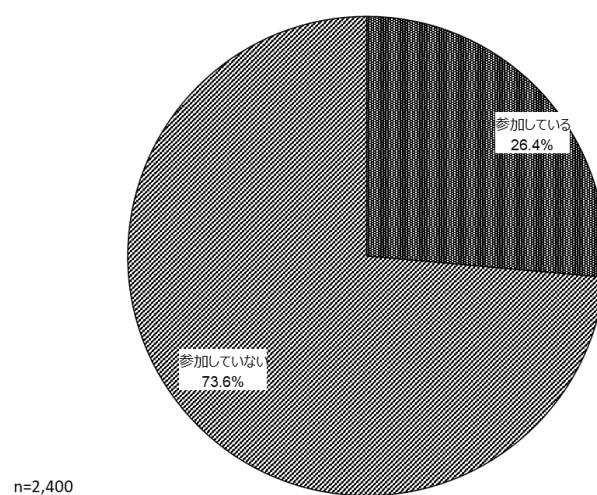


n=2,400

⑩ 市民活動への参加

市民活動(自治会・町内会活動、PTA 活動、社会福祉協議会活動など)への参加状況は、以下の通り。

図表 369 市民活動への参加状況

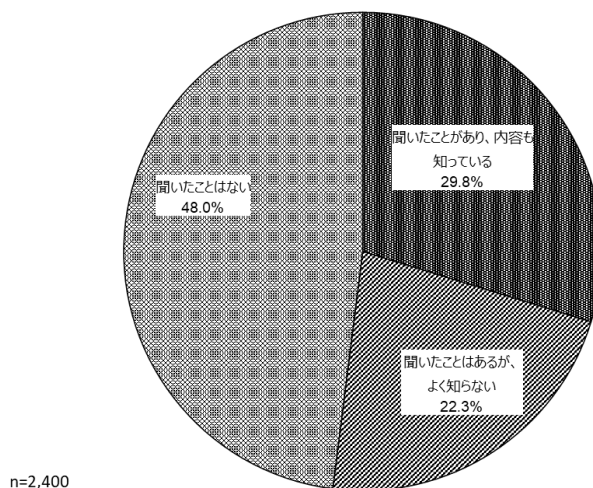


(2) ヤングケアラーについて

① 認知度

ヤングケアラーの認知度については、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 29.8%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が 22.3%、「聞いたことはない」が 48.0%となっている。

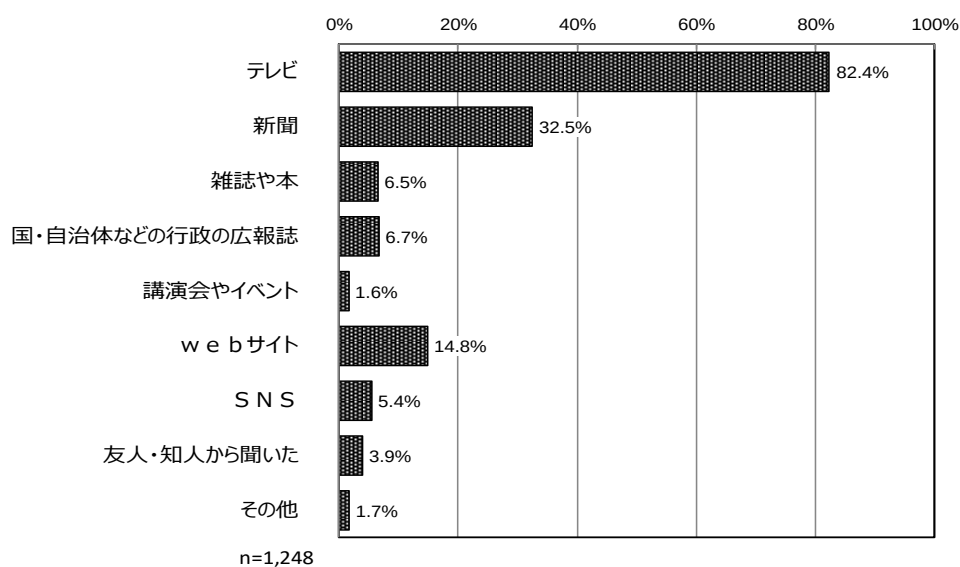
図表 370 ヤングケアラーの認知度



② 認知経路

「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがあり、内容も知っている」もしくは「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方の認知経路は、「テレビ」が 82.4%と最も高く、次いで「新聞」32.5%、「Web サイト」14.8%となっている。

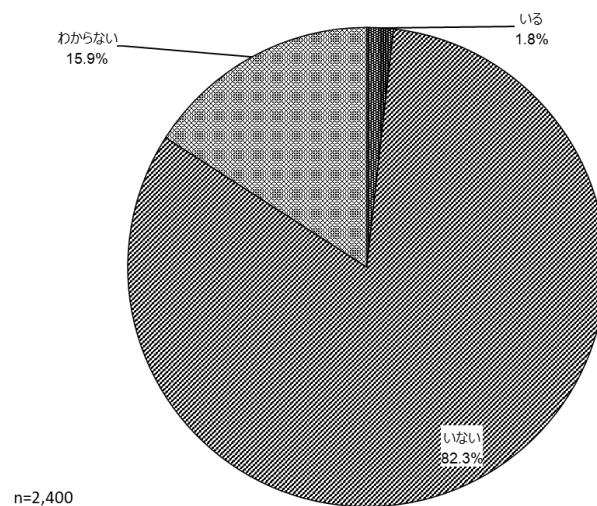
図表 371 認知経路(複数回答)



③ 家族・親族のヤングケアラーの有無

家族・親族にヤングケアラーと思われる子どもがいるかを聞いたところ、「いる」という回答が1.8%あった。

図表 372 家族・親族のヤングケアラーの有無

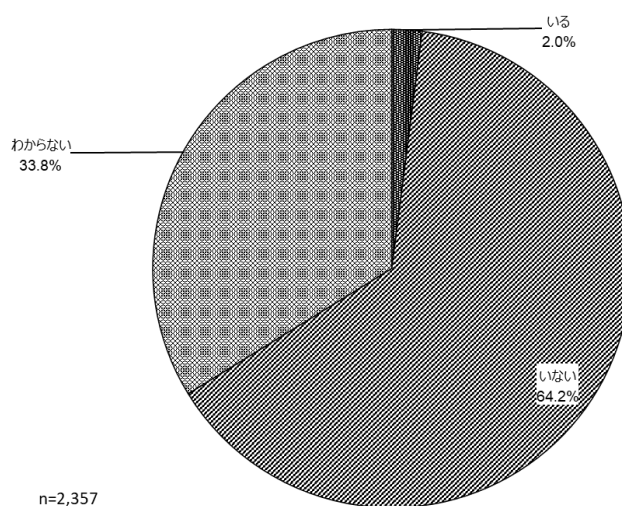


※以下④～⑦は③にて家族・親族にヤングケアラーと思われる子どもは「いない」、「わからない」と回答した方(2,357 件)が回答。

④ 友人、知人やその子ども、子どものクラスメイトなどのヤングケアラーの有無

友人、知人やその子ども、子どものクラスメイトなどにヤングケアラーと思われる子どもがいるかを聞いたところ、「いる」という回答が 2.0%あった。

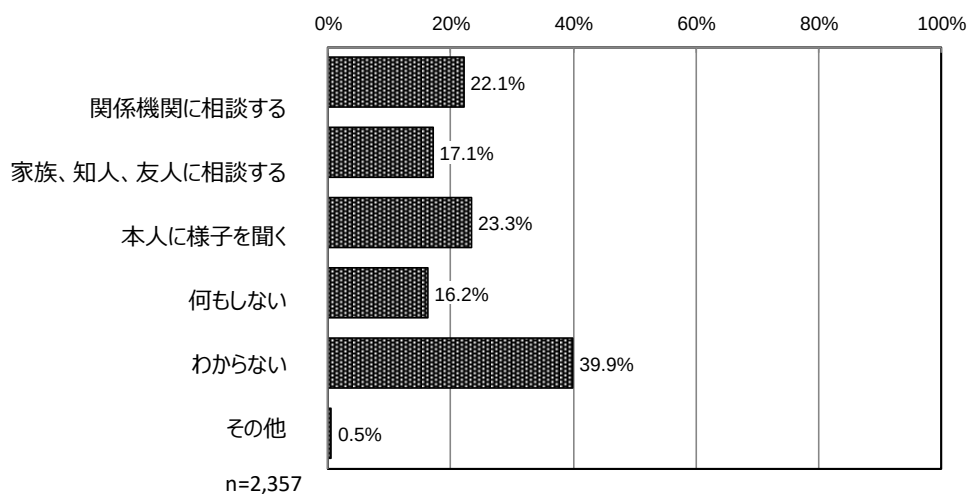
図表 373 友人、知人やその子ども、子どものクラスメイトなどのヤングケアラーの有無



⑤ ヤングケアラーと思われる子どもがいた場合の対応

ヤングケアラーと思われる子どもがいた場合の対応については、「わからない」が 39.9%と最も多く、次いで「本人に様子を聞く」23.3%、「関係機関に相談する」22.1%となっている。「何もしない」という回答は 16.2%となっており、「わからない」と答えた方と合計すると約 56%となっている。

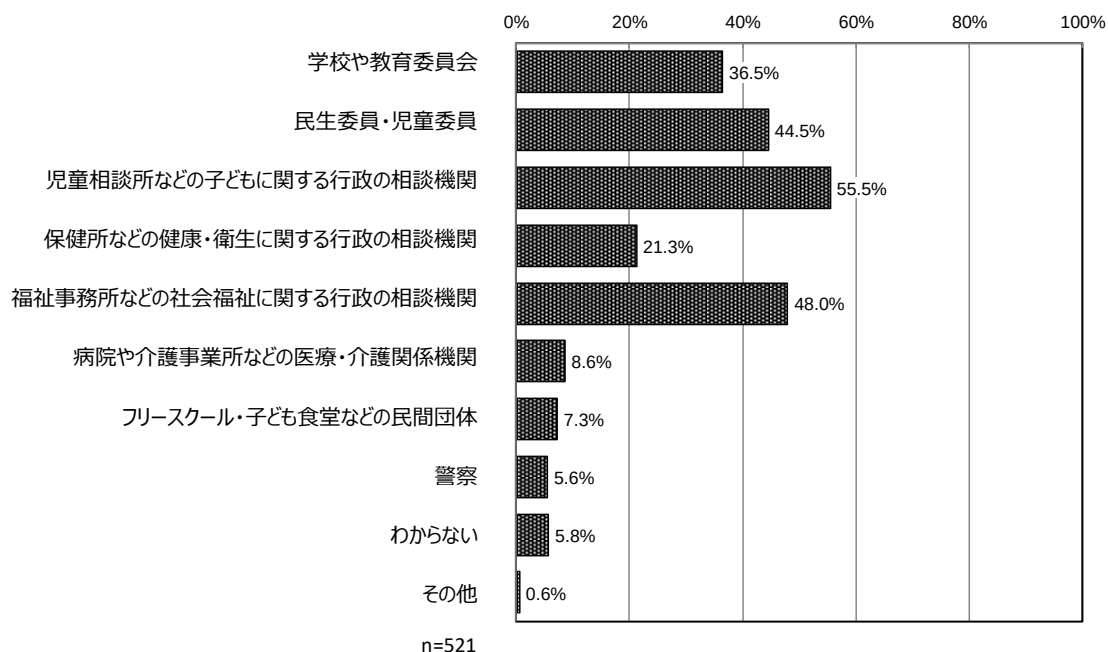
図表 374 ヤングケアラーと思われる子どもがいた場合の対応(複数回答)



⑥ 相談先の機関(⑤にて「関係機関に相談する」と回答した方(521 件)が回答)

相談先の機関については、「児童相談所などの子どもに関する行政の相談機関」が 55.5%と最も多く、次いで「福祉事務所などの社会福祉に関する行政の相談機関」48.0%、「民生委員・児童委員」44.5%となっている。

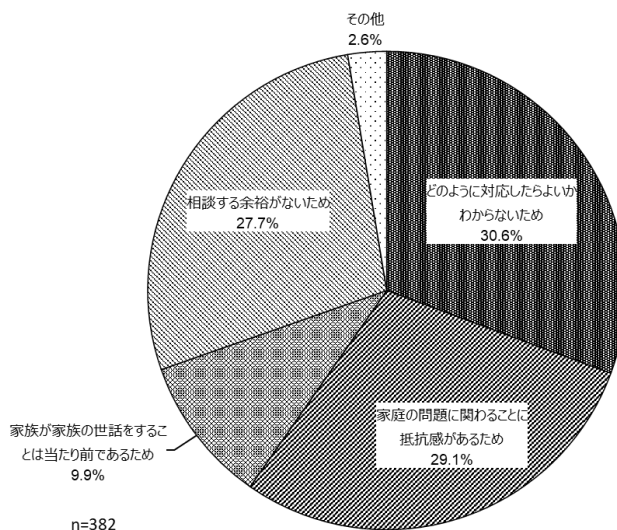
図表 375 相談先の機関(複数回答)



⑦ 何もしない理由(⑤にて「何もしない」と回答した方(382 件)が回答)

何もしない理由については、「どのように対応したらよいかわからないため」が 30.6%と最も多く、次いで、「家庭の問題に関わることに抵抗感があるため」29.1%、「相談する余裕がないため」27.7%となっている。

図表 376 何もしない理由

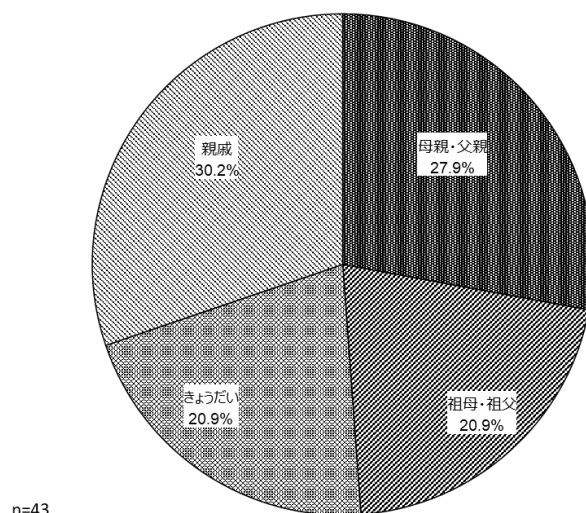


※以下⑧～⑫は③にて家族・親族にヤングケアラーと思われる子どもは「いる」と回答した方(43件)が回答。

⑧ ヤングケアラーと思われる子どもからみた回答者の続柄

ヤングケアラーと思われる子どもからみた回答者の続柄は、以下の通り。

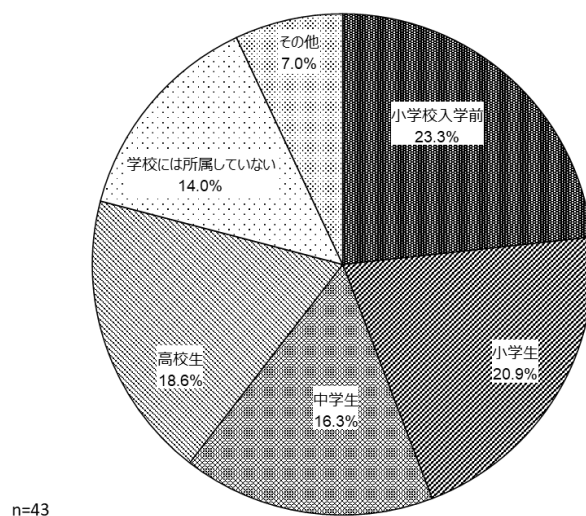
図表 377 ヤングケアラーと思われる子どもからみた回答者の続柄



⑨ ヤングケアラーと思われる子どもの年代

ヤングケアラーと思われる子どもの年代は、以下の通り。

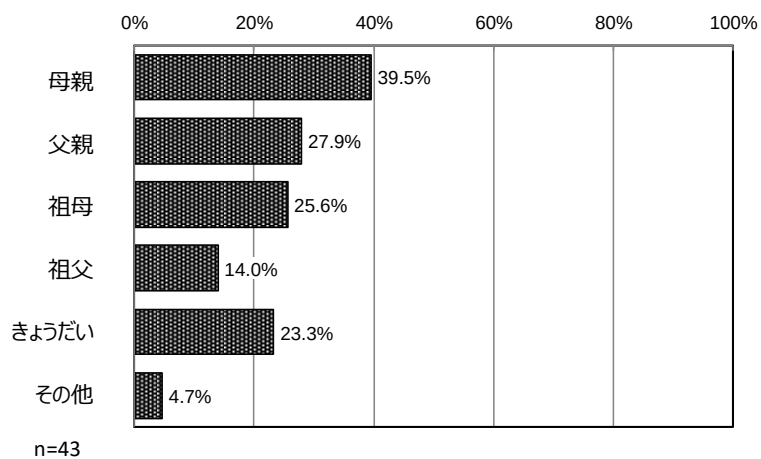
図表 378 ヤングケアラーと思われる子どもの年代



⑩ ヤングケアラーと思われる子どものからみた、お世話を必要としている方の続柄

ヤングケアラーと思われる子どものからみた、お世話を必要としている方の続柄は、以下の通り。

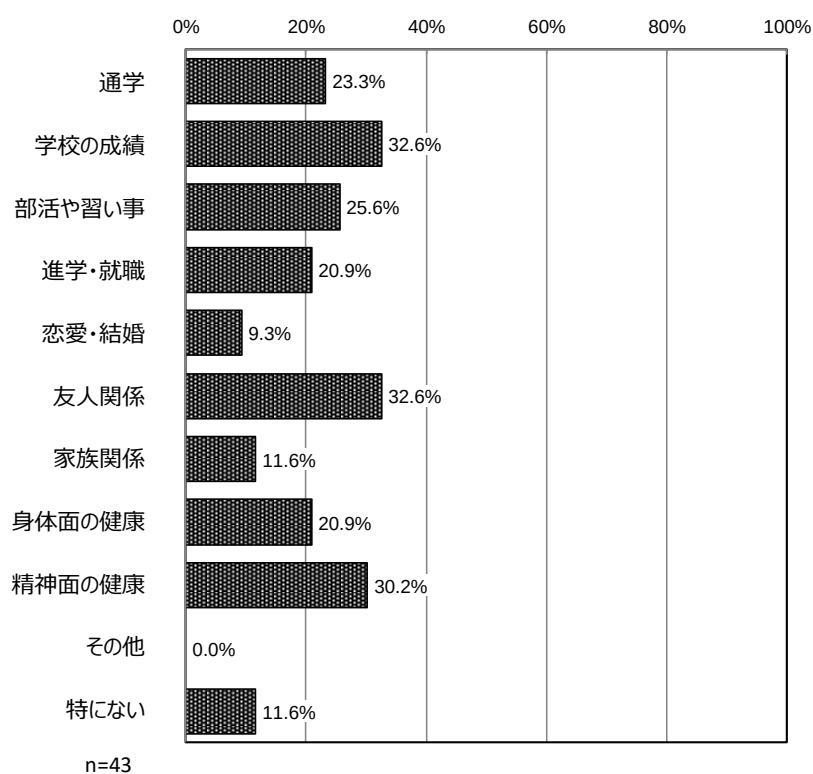
図表 379 ヤングケアラーと思われる子どものからみた、
お世話を必要としている方の続柄(複数回答)



⑪ ヤングケアラーと思われる子どもについて気になっていること

ヤングケアラーと思われる子どもについて気になっていることは、「学校の成績」、「友人関係」が 32.6%と最も多く、次いで「精神面の健康」30.2%、「部活や習い事」25.6%となっている。

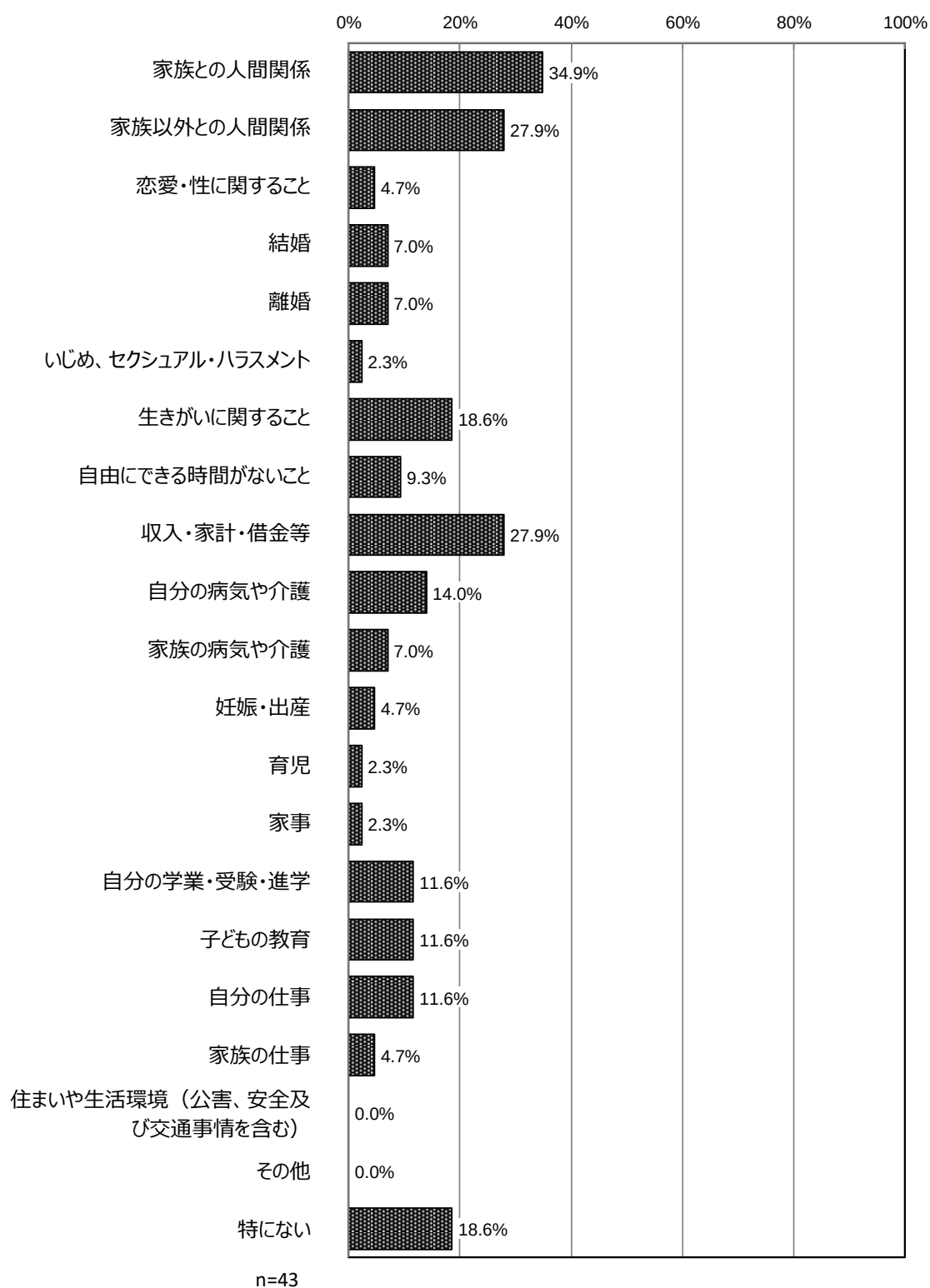
図表 380 ヤングケアラーと思われる子どもについて気になっていること(複数回答)



⑫ 回答者本人の悩みごとや困りごと

回答者本人の悩みごとや困りごとについては、「家族との人間関係」34.9%と最も多く、次いで「家族以外との人間関係」27.9%、「収入・家計・借金等」27.9%となっている。

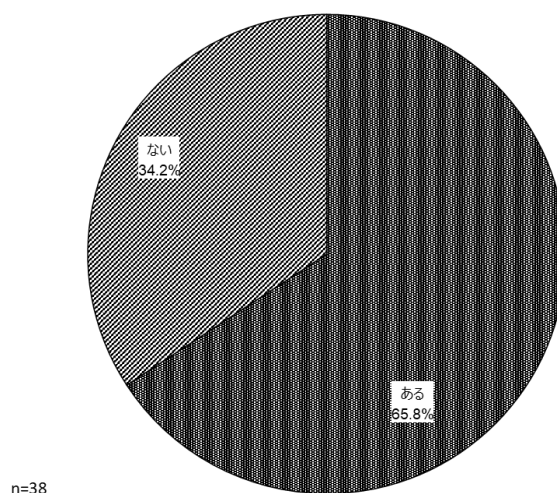
図表 381 回答者本人の悩みごとや困りごと(複数回答)



- ⑬ 相談経験の有無(⑪もしくは⑫にて、気になっていること、悩みごとや困りごとがあると回答した方(38 件)が回答)

関係機関への相談経験が「ある」という回答が 65.8%、「ない」という回答が 34.2%となっている。

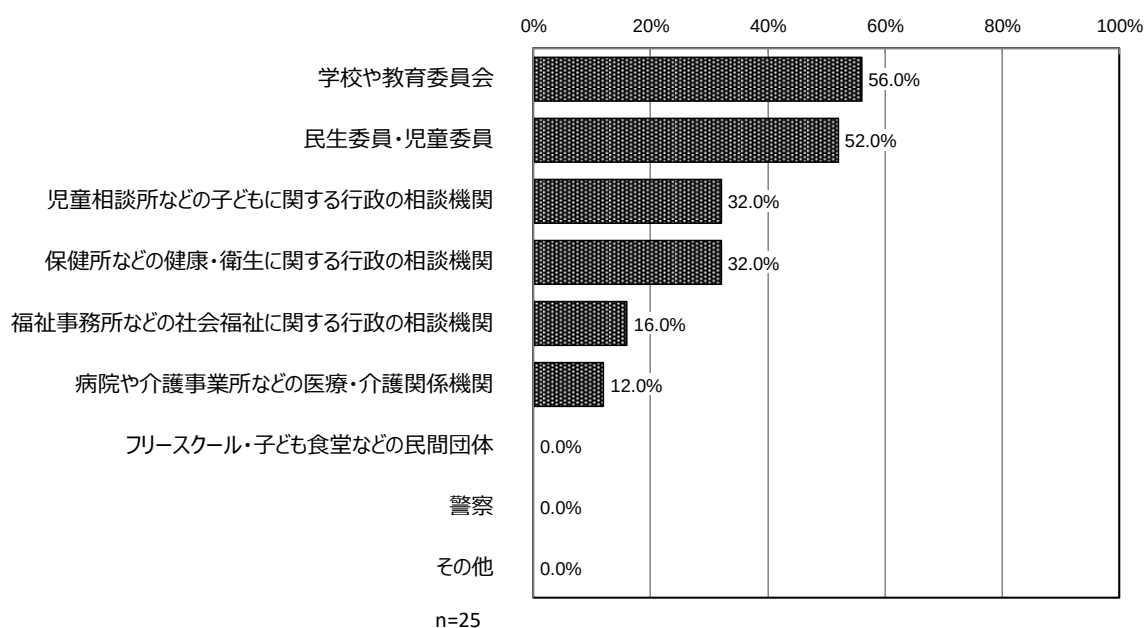
図表 382 相談経験の有無



- ⑭ 実際の相談先(⑬にて「ある」と回答した方(25 件)が回答)

実際に相談したことのある相談先については、「学校や教育委員会」が 56.0%と最も多く、次いで「民生委員・児童委員」52.0%となっている。

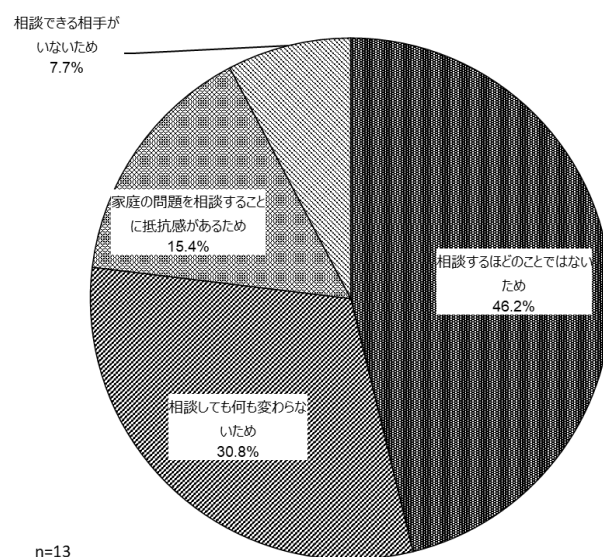
図表 383 実際の相談先(複数回答)



⑮ 相談したことがない理由(⑬にて「ない」とした方(13 件)が回答)

相談したことがない理由については、「相談するほどのことではないため」が 46.2%と最も多く、次いで「相談しても何も変わらないため」30.8%となっている。「どこに相談したらよいかわからないため」、「家族が家族の世話をすることは当たり前であるため」、「相談する余裕がないため」、「その他」の回答はいずれも 0 件となっている。

図表 384 相談したことがない理由



※以下⑯は全回答者(2,400 件)が回答。

⑯ 相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組

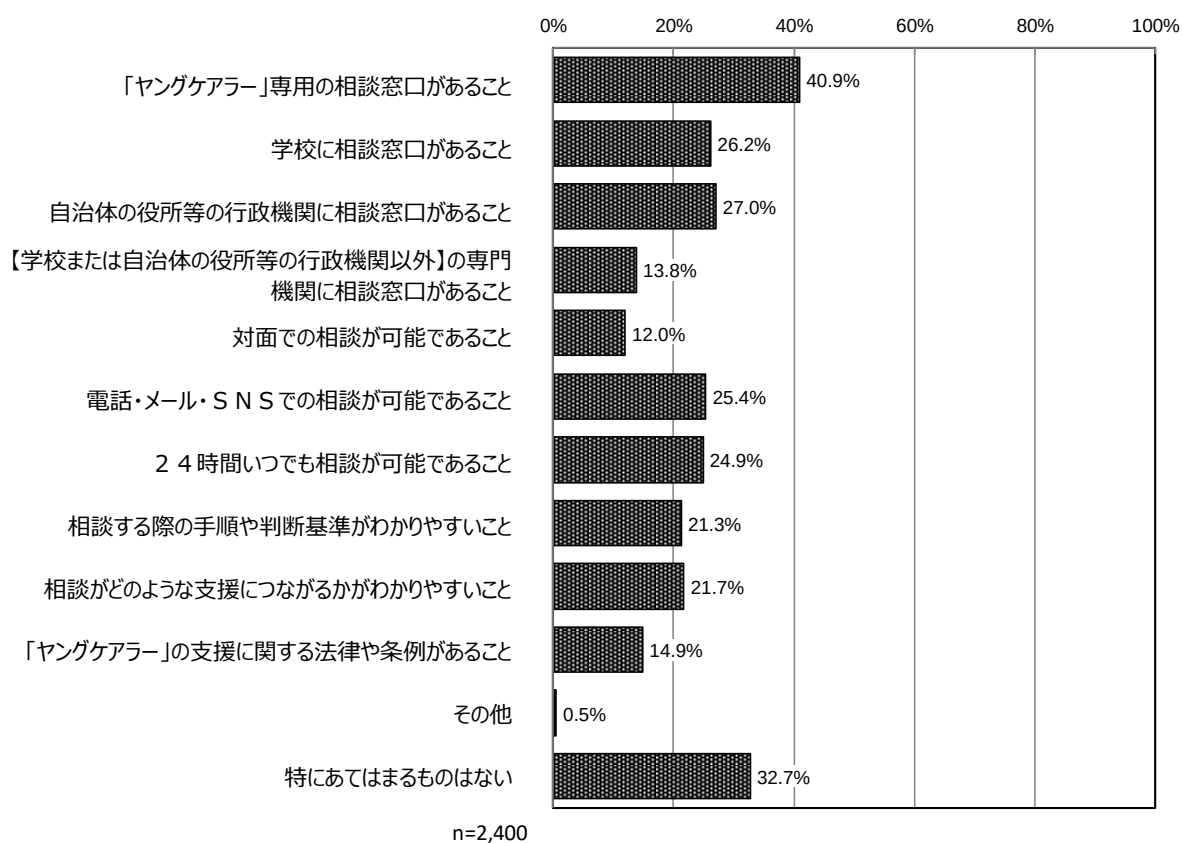
相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組については、「『ヤングケアラー』専用の相談窓口があること」が 40.9%と最も多く、次いで「自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること」27.0%、「学校に相談窓口があること」26.2%となっている。

相談の手段については、「電話・メール・SNSでの相談が可能であること」が 25.4%、「24 時間いつでも相談が可能であること」が 24.9%となっている。

また、「相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと」が 21.7%、「相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと」が 21.3%となっている。

一方で、「特にあてはまるものはない」という回答が 32.7%となっている。

図表 385 相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組(複数回答)



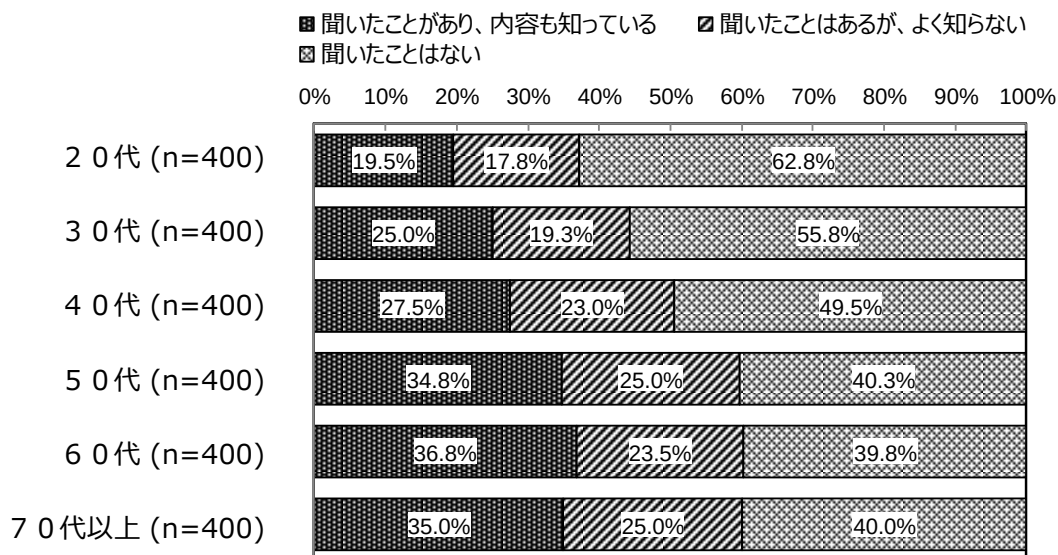
3. 一般国民調査の結果(クロス集計)

(1) 認知度について

- ① 認知度×年代および性別(※性別の設問に対して、「その他」「答えたくない」の回答者はサンプル数が少ないため、性別のクロス集計では掲載していない。以下同様。)

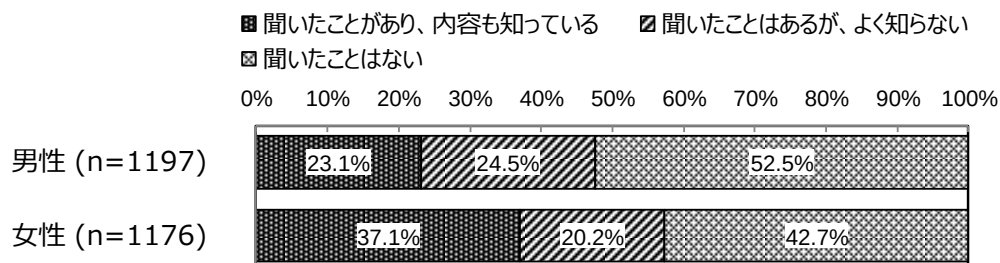
年代では、50代以上では約6割が「聞いたことがあり、内容も知っている」もしくは「聞いたことはあるが、よく知らない」となっている。40代以下では、約5割以上が「聞いたことがない」となっており、年代が若くなるほど認知度(「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」の合計の比率。以下同様。)が低くなっている。

図表 386 認知度×年代



性別では、女性の方が認知度が高い。

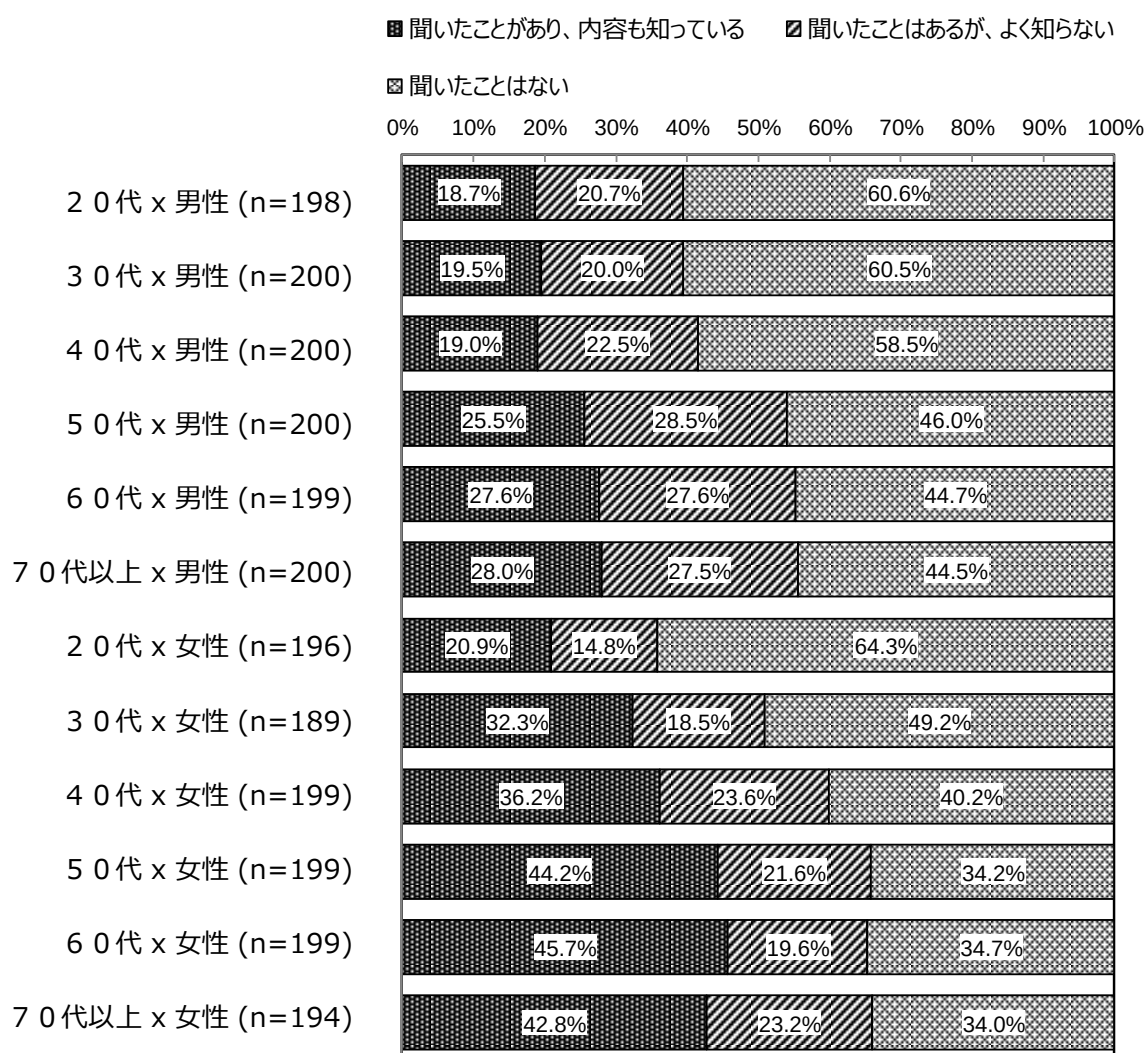
図表 387 認知度×性別



年代×性別では、40代以上の女性の認知度が総じて高く、約60～65%が「聞いたことがあり、内容も知っている」もしくは「聞いたことはあるが、よく知らない」となっている。20代の女性は同年代の男性に比べて認知度が低いが、20代から30代、さらに30代から40代にかけて認知度が高まっている。

男性の認知度は高くても55%程度に留まっており、40代から50代にかけて認知度が高まっている。20代から40代、および50代以降では認知度に大きな変化は見られない。

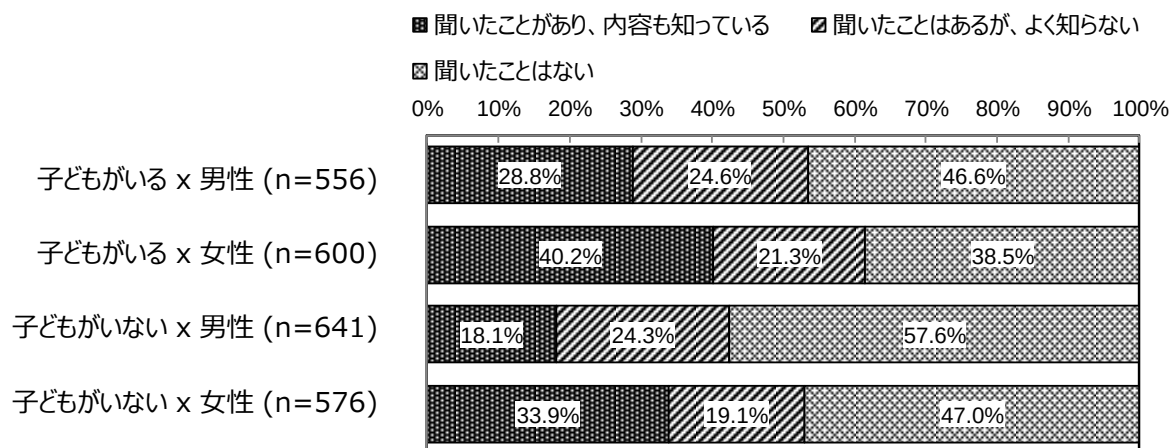
図表 388 認知度×年代×性別



② 認知度×子どもの有無×性別

子どもがいる方のほうが認知度が高い傾向にある。また、子どもがいる男性と子どもがいない女性では、同程度の認知度となっている。

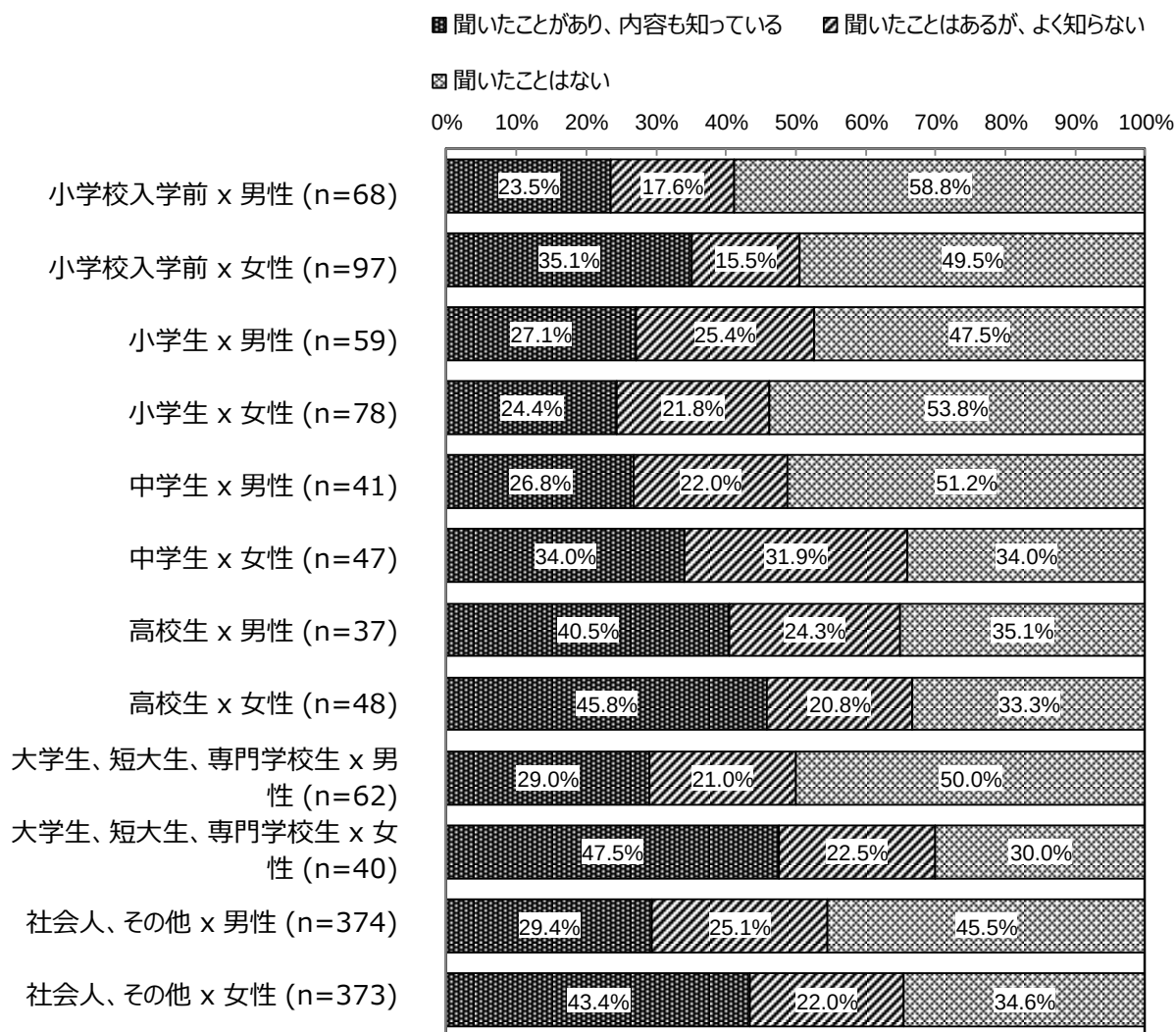
図表 389 認知度×子どもの有無×性別



③ 認知度×子どもの年代×性別

子どもの年代では、高校生の子どもを持つ方の認知度が男女ともに高い結果となっている。小学校入学以前、および小学生の子どもを持つ方の認知度が相対的に低くなっている。

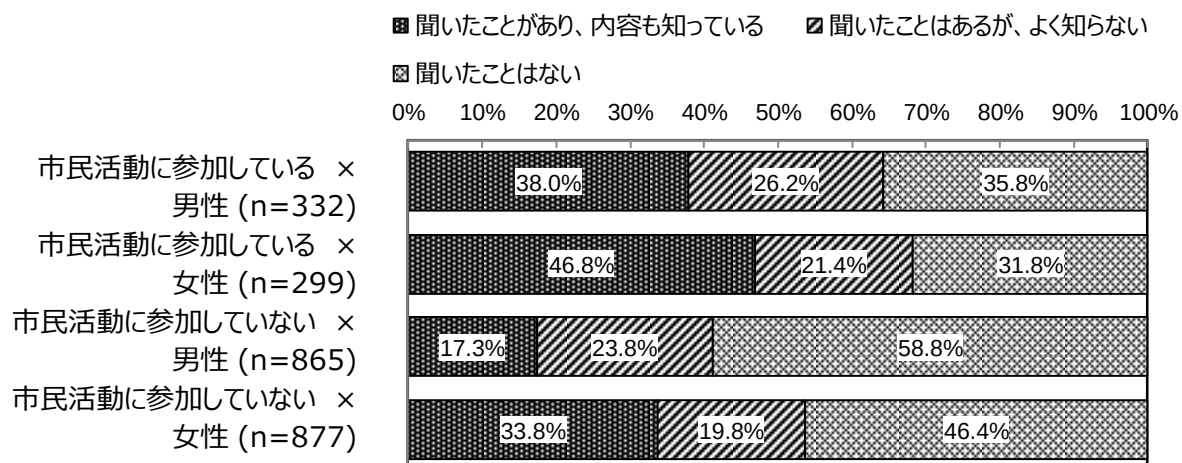
図表 390 認知度×子どもの年代×性別



④ 認知度×市民活動への参加×性別

市民活動（自治会・町内会活動、PTA活動、社会福祉協議会活動など）への参加している方は、男性、女性ともに認知度が高くなっている。

図表 391 認知度×市民活動への参加×性別



(2) 認知経路について

① 認知経路×年代×性別

認知経路については、全年代、性別で「テレビ」の影響力が大きいですが、30代、20代となるほど割合は低くなっている。若年層への影響力低下という観点では、「新聞」はその傾向がさらに顕著となっている。

「Web サイト」は全世代総じて10～20%程度となっている。また、20代のみ「友人・知人から聞いた」割合が10%程度となっている。

図表 392 認知経路×年代×性別

(%)

	テレビ	新聞	雑誌や本	国・自治体などの行政の広報誌	講演会やイベント	webサイト	SNS	友人・知人から聞いた	その他
20代 x 男性 (n=78)	70.5	16.7	6.4	9.0	3.8	11.5	10.3	9.0	3.8
30代 x 男性 (n=79)	77.2	29.1	12.7	8.9	1.3	13.9	7.6	2.5	1.3
40代 x 男性 (n=83)	83.1	32.5	9.6	4.8	6.0	20.5	8.4	2.4	3.6
50代 x 男性 (n=108)	87.0	32.4	6.5	9.3	0.9	14.8	4.6	1.9	1.9
60代 x 男性 (n=110)	85.5	34.5	6.4	0.9	0.0	6.4	0.0	0.9	0.9
70代以上 x 男性 (n=111)	80.2	64.0	3.6	7.2	0.9	14.4	1.8	2.7	1.8
20代 x 女性 (n=70)	68.6	12.9	2.9	11.4	2.9	15.7	8.6	14.3	4.3
30代 x 女性 (n=96)	82.3	17.7	8.3	5.2	1.0	15.6	10.4	4.2	1.0
40代 x 女性 (n=119)	84.9	19.3	5.9	4.2	1.7	21.8	7.6	1.7	0.8
50代 x 女性 (n=131)	87.8	33.6	6.1	6.9	1.5	16.0	4.6	4.6	0.8
60代 x 女性 (n=130)	82.3	35.4	7.7	6.2	0.8	15.4	3.8	3.1	0.8
70代以上 x 女性 (n=128)	87.5	46.1	3.9	8.6	0.8	12.5	2.3	4.7	1.6

(3) ヤングケアラーがいた場合の対応について

① ヤングケアラーがいた場合の対応×年代×性別

ヤングケアラーがいた場合の対応については、年代が若いほど「わからない」、「何もしない」と答えた割合が高くなっている。また、女性の方が何らかの行動をとると回答した割合が高い。

図表 393 ヤングケアラーがいた場合の対応×年代×性別

(%)

	関係機関に相談する	家族、知人、友人に相談する	本人に様子を聞く	何もしない	わからない	その他
20代 x 男性 (n=188)	14.9	11.7	12.8	27.1	44.7	0.0
30代 x 男性 (n=193)	16.6	17.6	18.7	21.8	40.9	1.0
40代 x 男性 (n=199)	18.6	18.1	17.6	22.1	42.7	0.0
50代 x 男性 (n=197)	20.8	10.2	17.8	20.3	42.6	0.0
60代 x 男性 (n=199)	21.6	13.6	21.6	18.6	38.2	0.0
70代以上 x 男性 (n=198)	33.3	14.6	28.3	12.6	33.8	1.5
20代 x 女性 (n=193)	11.9	19.7	21.2	14.5	45.6	0.0
30代 x 女性 (n=187)	15.5	20.3	26.7	16.6	44.4	0.5
40代 x 女性 (n=193)	26.9	21.8	25.9	12.4	35.2	0.0
50代 x 女性 (n=195)	22.1	21.5	26.2	12.3	36.9	1.0
60代 x 女性 (n=196)	31.6	20.4	32.1	11.2	33.2	0.5
70代以上 x 女性 (n=193)	32.6	16.6	33.7	6.2	35.2	1.6

② ヤングケアラーがいた場合の対応×認知度

ヤングケアラーがいた場合の対応を認知度別に集計すると、認知度が高いほど具体的な行動に結びつきやすく、認知度が低いほど「何もしない」「わからない」の割合が多くなっている。

一方、「聞いたことがあり、内容も知っている」と答えた方の約3割が「何もしない」もしくは「わからない」と回答している。

図表 394 ヤングケアラーがいた場合の対応×認知度

(%)

	関係機関に相談する	家族、知人、友人に相談する	本人に様子を聞く	何もしない	わからない	その他
聞いたことがあり、内容も知っている (n=686)	39.9	25.9	40.4	8.9	21.7	0.1
聞いたことはあるが、よく知らない (n=528)	21.8	18.8	23.1	17.0	36.6	0.8
聞いたことはない (n=1,143)	11.5	10.9	13.2	20.2	52.3	0.6

(4) 相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組について

① 相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組×年代×性別

相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組については、年代が高くなるほど「自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること」、「相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと」、「相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと」の回答割合が高くなっている。

図表 395 相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組×年代×性別

(%)

	「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること	学校に相談窓口があること	自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること	【学校または自治体の役所等の行政機関以外】の専門機関に相談窓口があること	対面での相談が可能であること	電話・メール・SNSでの相談が可能であること	24時間いつでも相談が可能であること	相談する際の基準がわかりやすいこと	相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと	「ヤングケアラー」の支援に関する法律や条例があること	その他	特にあてはまるものはない
20代 x 男性 (n=188)	30.8	18.7	15.7	9.6	7.1	14.6	17.2	9.1	8.1	8.6	0.0	48.0
30代 x 男性 (n=193)	32.5	23.0	15.5	7.0	4.5	17.0	15.5	13.5	15.0	10.5	0.5	44.0
40代 x 男性 (n=199)	38.0	26.5	22.0	12.0	7.5	22.0	17.5	13.5	15.5	13.0	0.5	35.5
50代 x 男性 (n=197)	37.5	22.0	26.0	11.0	10.5	23.0	20.0	14.5	13.5	13.0	0.0	39.5
60代 x 男性 (n=199)	41.7	20.6	35.7	16.1	16.6	20.6	22.6	24.6	24.1	13.6	1.0	32.2
70代以上 x 男性 (n=198)	47.0	27.5	47.5	18.0	15.5	23.0	23.5	25.5	24.0	13.0	1.0	25.0
20代 x 女性 (n=193)	27.0	22.4	13.8	8.7	7.7	21.4	21.4	12.2	12.8	10.7	0.0	45.9
30代 x 女性 (n=187)	41.3	31.2	19.0	16.4	9.5	32.8	36.0	21.7	21.2	17.5	1.1	34.4
40代 x 女性 (n=193)	42.2	32.7	24.6	12.6	11.1	30.7	31.2	21.1	24.1	18.6	0.5	29.1
50代 x 女性 (n=195)	51.8	31.7	29.1	19.6	14.1	37.2	32.7	26.6	27.6	16.1	0.5	20.1
60代 x 女性 (n=196)	51.3	30.7	36.2	15.1	16.6	36.7	31.7	34.2	36.2	23.1	0.0	17.6
70代以上 x 女性 (n=193)	54.6	28.9	41.2	21.6	24.2	27.8	33.0	41.2	41.2	22.2	1.5	16.0

② 相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組×家族・親族のヤングケアラーの有無

家族・親族にヤングケアラーと思われる子どもがいると回答した方ほど、相談窓口の設置と対面での相談実施を求めている。一方、「わからない」と答えた方はいずれの回答率も低く、「特にあてはまるものはない」という回答が 55.5%となっている。

図表 396 相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組×
家族・親族のヤングケアラーの有無

(%)

	「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること	学校に相談窓口があること	自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること	【学校または自治体の役所等の行政機関以外】の専門機関に相談窓口があること	対面での相談が可能であること	電話・メール・SNSでの相談が可能であること	24時間いつでも相談が可能であること	相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと	相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと	「ヤングケアラー」の支援に関する法律や条例があること	その他	特にあてはまるものはない
家族・親族にヤングケアラーと思われる子どもがいる (n=43)	48.8	27.9	34.9	37.2	16.3	25.6	18.6	18.6	25.6	11.6	0.0	14.0
家族・親族にヤングケアラーと思われる子どもがいない (n=1,975)	43.7	28.5	29.7	14.4	12.9	27.7	27.3	23.3	24.4	15.9	0.6	28.7
わからない (n=382)	25.4	14.1	12.3	8.1	6.8	13.1	13.1	11.0	7.6	9.7	0.3	55.5

③ 相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組×子どもの有無

子どもがいる男性は、唯一、「自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること」の回答割合が「学校に相談窓口があること」を上回っている。

図表 397 相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組×子どもの有無

(%)

	「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること	学校に相談窓口があること	自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること	【学校または自治体の役所等の行政機関以外】の専門機関に相談窓口があること	対面での相談が可能であること	電話・メール・SNSでの相談が可能であること	24時間いつでも相談が可能であること	相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと	相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと	「ヤングケアラー」の支援に関する法律や条例があること	その他	特にあてはまるものはない
子どもがいる×男性 (n=556)	44.1	25.9	35.6	15.5	13.3	23.2	23.0	20.1	22.5	13.1	0.5	28.6
子どもがいる×女性 (n=600)	49.3	31.8	31.2	17.2	15.3	32.8	33.5	30.8	30.8	18.5	0.2	20.7
子どもがいない×男性 (n=641)	32.6	20.6	19.7	9.5	7.6	17.3	16.2	13.9	11.7	10.9	0.5	44.9
子どもがいない×女性 (n=576)	39.9	27.3	23.4	14.1	12.3	29.3	28.3	21.4	23.4	17.5	1.0	33.9

④ 相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組×子どもの年代

高校生の子どもをもつ男女ともに「電話・メール・SNSでの相談が可能であること」の回答割合が高い。また、小学校入学以前の子ども(未就学児)を持つ女性は特に「24 時間いつでも相談が可能であること」の回答割合が高い。

図表 398 相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組×子どもの年代

(%)

	「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること	学校に相談窓口があること	自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること	【学校または自治体の役所等の行政機関以外】の専門機関に相談窓口があること	対面での相談が可能であること	電話・メール・SNSでの相談が可能であること	24 時間いつでも相談が可能であること	相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと	相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと	「ヤングケアラー」の支援に関する法律や条例があること	その他	特にあてはまるものはない
小学校入学前 x 男性 (n=68)	45.6	26.5	20.6	8.8	4.4	16.2	10.3	11.8	19.1	13.2	0.0	32.4
小学校入学前 x 女性 (n=97)	46.4	33.0	21.6	15.5	12.4	30.9	38.1	20.6	16.5	18.6	0.0	26.8
小学生 x 男性 (n=59)	32.2	32.2	6.8	11.9	5.1	15.3	15.3	6.8	16.9	13.6	0.0	35.6
小学生 x 女性 (n=78)	42.3	35.9	20.5	12.8	9.0	24.4	26.9	16.7	19.2	14.1	0.0	32.1
中学生 x 男性 (n=41)	36.6	22.0	19.5	17.1	9.8	26.8	29.3	14.6	19.5	9.8	2.4	39.0
中学生 x 女性 (n=47)	36.2	36.2	23.4	12.8	8.5	21.3	23.4	23.4	21.3	12.8	0.0	34.0
高校生 x 男性 (n=37)	51.4	27.0	29.7	5.4	13.5	40.5	32.4	8.1	13.5	13.5	0.0	21.6
高校生 x 女性 (n=48)	43.8	39.6	25.0	14.6	14.6	39.6	39.6	22.9	33.3	16.7	0.0	20.8
大学生、短大生、専門学校生 x 男性 (n=62)	40.3	22.6	29.0	11.3	17.7	27.4	24.2	12.9	9.7	11.3	1.6	33.9
大学生、短大生、専門学校生 x 女性 (n=40)	50.0	25.0	35.0	20.0	17.5	37.5	17.5	17.5	27.5	10.0	0.0	27.5
社会人、その他 x 男性 (n=374)	45.7	24.9	43.6	17.6	15.8	24.1	25.1	24.3	25.1	14.2	0.5	26.7
社会人、その他 x 女性 (n=373)	53.1	32.2	35.9	18.5	18.0	33.8	34.3	37.8	37.3	20.9	0.3	16.1

⑤ 相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組×認知度

認知度別では、認知度が高いほど具体的な取組が必要と考えている。

図表 399 相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組×認知度

(%)

	「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること	学校に相談窓口があること	自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること	【学校または自治体の役所等の行政機関以外】の専門機関に相談窓口があること	対面での相談が可能であること	電話・メール・SNSでの相談が可能であること	24 時間いつでも相談が可能であること	相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと	相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと	「ヤングケアラー」の支援に関する法律や条例があること	その他	特にあてはまるものはない
聞いたことがあり、内容も知っている (n=714)	60.9	38.2	42.7	23.0	18.8	43.8	39.4	35.9	36.7	24.8	1.3	9.0
聞いたことはあるが、よく知らない (n=534)	47.6	32.6	29.8	14.0	12.9	28.3	27.0	22.7	22.7	13.9	0.4	21.5
聞いたことはない (n=1, 152)	25.4	15.7	16.1	8.1	7.3	12.6	14.9	11.5	12.0	9.2	0.2	52.6

4. 一般国民調査の結果(自由意見)

ヤングケアラーへの印象やヤングケアラーの支援に必要だと思われることについて、さまざまな自由意見が寄せられた。ここでは、その一部を紹介する。以下に記載する意見は原文のままではないが、なるべく回答者の表現を用いる形で記載している。

(1) ヤングケアラーへの印象

自由意見
ヤングケアラーという言葉は何となく聞いただけで今回のアンケートで初めて詳しい内容を知った。もう少し勉強や情報を集めて回答したい。
近親者の面倒を見るということは大変なことでしょうが、そのために本人の生活が大きく制限を受けるということは大変なことで、社会全体でサポートすべきと思う。
経済的に苦労している子どもたちが多くいますので、支援して頂きたいと思います。
ヤングケアラー本人が自分がヤングケアラーだと気づいていないことが多そう。
その子自身がどう思ってケアをあたっているのかで支え方も変わってくるのかなと思う。
多分、以前からそういう子どもはいたと思いますが、以前は近所の人たちがある程度、助けていたのではと思います。最近は近所付き合いがへり、子どもたちも誰に相談すべきかわからないのだと思います。役所がそのような状態の子どもの対応を考えるべきだと思います。
TVCMを見てヤングケアラーが相当多いと思ったが、お手伝いレベルのものの子どもも数に入れているのではと疑っている。
まず、ヤングケアラーの現状への支援をするのと同時に、ヤングケアラーについての啓もう活動をする事が必要だと思った。自分自身、アンケートで目にするまで、ヤングケアラーの存在を全く知らなかった。18歳未満の子どもが、親の代わりに兄弟の世話をしているといった事実が、多かれ少なかれ存在しているだろうとは想像しなくても理解出来る。けれど、ヤングケアラーといった言葉が生まれるくらいには、そういった子どもたちが問題を抱えているという自覚は無かった。
ヤングケアラーを知ったのは、恥ずかしながら最近の事。いかに自分が恵まれた環境で育ち、恵まれた環境で子どもを育てることが出来たのか、感謝しか思い浮かばなかった。そして、知らないで過ごしてきたことに後ろめたさを感じた。ヤングケアラーが大人に社会に相談しやすいシステム作りが重要と思った。
まず言葉が浸透していないので、テレビなどマスコミに取り上げてもらい、知ってもらう事から始めて欲しい。
ヤングケアラーは子ども本人が家族のケアを本当はしたくなくてもほかに頼れる大人がおらず、仕方なく受け入れなければならない状況だと考えられる。子どもの力ではこの状況を打破する方法を見つけられず、またこの状況を相談できる先もないためこのままずっと我慢を強いられてしまっている。早くこの状況をまわりの大人が気づき、手を差し伸べなければならないが、気づかず、または気づいていてもそこからどうすることもできず、放置されてしまうケースが多々あると思う。

正直、あまり身近にいないことから、日頃意識している人は少ないと思います。ですが、こういったことで困っている人たちをみんなで協力して助け合いたいと思いました。
子どもの「お手伝い」の範囲で済んでいるのか、本当に子どもが家の事を何でもかんでもしなければならぬ状況なのかの見極めは難しいのではと思います。私自身、家が自営業で、女の子は家の手伝いをして当たり前みたいに言われて、小学一年生の頃から色々家事をやっていました。子ども自身が負担に思っている、親や大人から見れば「手伝い」の範囲と見なされる場合はどう判断されるのでしょうか。
本人はいつの間にかそういう状況になってしまっている状態で、ヤングケアラーという自覚がなかったり、自覚があってもどうしていいかわからないと思うので、周囲の大人や教師などがしっかり把握してあげてほしい。
「ヤングケアラー」の言葉と意味を知っているが、支援に関しては今の段階では、それにどう向き合うか・・・は理解していないので、解らなく、これからは知りたいと思う。
家族の状況が分らないと、他人の家族のことなので、そう簡単に踏み込んでいい領域ではないこと。それが周りの対応を難しくしている。
本人が負担に感じているにも関わらず、自分がやらなきゃいけないのだと強く思ってしまう事があると思う。それを見過ごしている周りの大人もまた問題だと思う。でも子どもの労働力に頼らざるを得ない事情があると思うのでそこは行政というか適切な機関が介入しなければならないと思う。これはかなり深刻な問題だとも思う。
ある程度はいいんじゃないかと思う。内容にもよるが、その子の人間形成に役立つことにもなる。一律にヤングケアラーと呼ばれることを問題視する風潮のほうが良くない。
私自身が小学生時代からヤングケアラーの立場にあったのですが。当時はそんな概念もなくつらい思いもしました。広く知ってもらえるように、もっと情報を発信して、家のことをしなくても自分の時間も持てるように相談できる場所を作ってほしいと思います
昔は家が商売していたり、兄弟が多いと年長者が家のことを手伝うのは多少の不満があっても当たり前でそれにより自分も成長していったと思う。いま「ヤングケラー」と言う名の下で必要以上の過保護にならないようにすることも考えるべき。
子どもの将来を狭めてしまう状況は世の中にとってマイナスなので、自分のことではなくても解決に協力したい。
身近に全く見聞きしていないので自分の問題とは考えられない。実際に身近にいないので過剰な演出ではないかと疑問に感じている。
現代社会ではヤングケアラーの方の人数が多いとは聞いていますが、私たち一般の者がどういう風に関わって支援できるのかが分からないので、支援の方法を教えてください。
私も子どもの頃はヤングケアラーだった。周りの大人がヤングケアラーに気付いても、その子の家庭の問題であり、安易に口出しなどできない。
今から考えると自分も祖父のお世話をしていたのでヤングケアラーだったといえるのかも知れませんが、大好きな祖父だったので何も苦痛に感じる事は一切ありませんでしたし、一緒にいるのが幸せでした。

周りから見た目と家族内での本人の思いは多様だと思います。印象や支援は多種多様在っても良いと思いますし、必要性を感じていない人達もきっと多いと思います。

(2) ヤングケアラーの支援に必要なと思われること

自由意見
ヤングケアラー自身の生活や権利を守るための補助金付きの条例等の制定。
違う年代の人たちとも関わる機会があれば良いことだと思います。
地元の民生委員とかだと、田舎社会では情報が筒抜けで相談しにくい雰囲気もあるので、国の無料の相談窓口をアピールすべき
ヤングケアラーの相談といえど、なかなか相談しにくく、各家庭で困り果てている人が多いのではないかと思います。相談窓口で適格に受けて立てるような人の配置が望まれます。電話番号など大きく市報などに乗せたらよいと思いました。
家事や介護をその子どもに代わってやってもらえるような公的な支援制度が必要だと思う。
学校関係者や知人にはかえって相談しづらい事情がある子もいそうなので、専門的知見と経験を持つ第三者的な大人に相談しやすい環境が整うといいと思います。
自分がヤングケアラーだと認識できていない人もいられるので、つらいと感じることをすぐに気兼ねなく話せるところがあるといい。
地域の自治会などで総合的にサポートする体制づくりを自治体が主導して構築する。自治会と自治体の連携が必要。
そういった事情で悩んでいたとしてもなかなか相談しにくい、相談できないように思うので、今の時代ならLINEなどで相談できるシステムがあるといいのかもしれない。
まず支援をするにしても、本人達にその情報が行き渡らないと行けないと思うので、学校などでヤングケアラーの概念を教え、相談に乗れる環境が必要だと思う。
少しでも子どもたちの負担を軽くしてあげたいです。専用の窓口があればよいと思います。
自分が、子どもの頃今で言うヤングケアラーだった。自分がヤングケアラーだと分らないで、毎日親の介護をしていた。自分の状態を分かっていない子どもは多い。テレビ CM、ネット広告などで広く広報活動をして、助けを求めていると知らせて欲しい。認識したら、相談に行く所を分かりやすく知らせて欲しい。
とにかく子どもを孤立させないことだと思います。そのために民生委員等の協力が必要で区役所など身近な行政機関の対応は必要だと思います。
ヤングケアラーである当人は自分が支援を受けるべき立場だという自覚がない人も少なくないように思う。周りの人間がヤングケアラーに対する支援の窓口や受けられるサービスをよく理解しておけば、彼らの負担減に繋がると思う。CM やチラシでの周知も有効であると感じる。
本人からはなにもできないとおもうので、周りの大人が気づいてあげて支援してあげないといけないうので、そういう法律を作るのが最初だと思う

ヤングケアラーは介護におわれ、外からの情報を得るパイプが無いので助けを求められない。プッシュ型の支援が必要だと思う。
中学生のとき、母が癌で、私はヤングケアラーでした。悲しい気持ちや不安な気持ちがありましたが、親戚の支えもあり、家事も頑張れました。親戚以外には話しにくいことなので、ヤングケアラーの専門家のような方が 24 時間いつでも匿名で話を聞いてくれたら良いなあと思っていました。
家庭内をのぞき見するような気持ちにならないように、啓発活動をする。内部告発も日本では後ろめたいような気持ちになり、告発者が処分されるような風潮と同じで、気が付いた人が行政や学校、地区の民生委員さんや子ども会の役員さんに連絡をしやすくできる風潮を作っていかなないとなかなか介入は難しいと思う。なにかお手伝いできませんかと気楽に声をかけてあげる工夫を地域からしていかなないと身近なことは改善できない。
教育現場が 1 番気づいてあげられるはずです。本人が気づかずに来ているのが 1 番の問題だと思います。小学生からは是非そういう勉強の時間をカリキュラムの中に取り入れて欲しい。
本人達は、日々の生活が日常であり、自分達がヤングケアラーであると気づかない場合もあると思います。その子達が自分の環境に気づけるような、また、周りの人達にも判別できるような具体的な経験や内容を広く告知していくことも必要だと思います。
私自身がヤングケアラーであった。ヤングケアラーであるかどうかは人それぞれによっていろいろな事情があって本人以外には分かりにくいものである。どのような事情があるのか、まずそこをくみ取れる仕組みが一番大切。
援助が必要な人と暮らしている事は大人でも困難にぶつかる。相談する場所が少なかったり相談する先の知識不足、費用の問題等々でなかなか現状から抜け出せない。子どもとなるとなおさら自分の状況を正確に伝えることが難しくなる。子どもの身近で話しやすい環境となると学校が思いつく。例えば行政の担当者が学校に月に何回か来て先生と話し合い、該当する子どもと面談できる機会があればヤングケアラーがみつけやすく何か進展できるかもしれないと思う。
恐らく誰に相談していいのか本人たちが分かっていないと思われるので、学校や自治会等周囲が気付いて声をかける環境作りが必要。
家庭内のことは見えづらく、子ども本人はヤングケアラーの支援対象者である自覚が無いと推察されるため学校でヤングケアラーとは何か、何が問題か、相談先を教える機会を持つと良いと思う。
ヤングケアラーの予備軍になるような過程へ早めのアプローチができるように学校と行政が連携できると思います。また、予備軍に関わらずどのような制度やサービスがあるのか、子どもたちにも広く知識をとして知っておいてもらうことも大事だと思います。
本人がしなければならぬと思いつ込んでいる場合、特にケアされている側がそうさせている事もあるかと思いますが、そういう世帯ほど、必ずしもそうではないことを知らせる周りからの助言が必要だと思います。
自分がヤングケアラーだと自覚していないので、みずから相談しようと思わないことが問題。他人の家に干渉するのを躊躇う気持ちもわかるので、役割として介入できる人の存在が必要だと思う。

家庭の中の事情は外部からなかなか気づきづらく本人も家族を自分がケアすることが当然と思っている場合もあるのでまずは学校など教育機関でヤングケアラーについて周知させることと相談出来る環境を整えることが必要だと感じる。そこから支援に繋いでいけるのが良いのではないかなと思う。

まずはヤングケアラーの存在の啓蒙活動。存在の周知。ヤングケアラーが公的支援につながる一歩目の対応を広く一般に広めることと、そのハードルを下げること。

疑わしい事例があっても、いまの時代は未成年に声をかけると犯罪者扱いで通報されかねないので本人に気軽に声を掛けづらいです。第三者機関があれば相談して連携支援のお願いがしやすくなると思います。

(3)「家族・親族」にヤングケアラーがいると回答した方の声

自由意見

ヤングケアラーが多数いる事実の知名度が低い。どんな状態がヤングケアラーと呼ばれるのか、もう少し世間がヤングケアラーを理解すると良いと思う。

ヤングケアラーに当たるかどうかは関係なく、どういう状態の時、どこに相談し、どういう改善がなされるかのチャートがほしい。

世の中が自己責任だけで簡単に片付けないで欲しい。子どもは生まれた家や親を選べない。選べたらヤングケアラーのような状況にはなっていない。将来を思い描けないどころか、絶望している若者もいる。それを中々友達などには話すことはできないと思う。未来ある若者が自分を犠牲にして、自分の時間や体力、を奪われていることを社会人も知った方がいい。年頃の子は皆、外で自由に遊んだり、勉強したり、恋愛したり、自分の時間を持てると思うが、そうではない 10 代 20 代の若者もいるんだよ、と。そして、こういう人達を減らすために、身体的余裕、精神的余裕、経済的余裕のない人達は、簡単に子どもは産まないでほしい。子どもを作って、この世に人間を生み出すことへの重い責任を感じてほしい。

母と私の体が不自由になった事で、主人の仕事、息子の学業やアルバイト、交友の足手まといになっており、非常に心苦しい。息子が所属しているボランティア団体をお願いして、代理の介助者に来てもらえないか相談中。親族に頼りすぎない互助制度が整うと良いのだが。

本人がケアをしていることが当たり前のような環境になっており、学校へ行かないことで非行に走らないかが心配。

第6章 調査結果取りまとめ

1. ヤングケアラーの実態把握

第1章本調査研究の概要にて記した通り、本調査においてヤングケアラーの定義は一般社団法人日本ケアラー連盟が示すように「家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている 18 歳未満の子ども」としている。「ヤングケアラー」の子どもたちは、本来、社会が守るべき、子どもの権利が守られていない可能性がある。

調査においては、上記の定義を念頭に置いたうえでまず「家族のお世話」の有無、またその状態について詳細に質問している。そのうえで、小学生調査以外の中学生、高校生、大学生を対象とした調査では、より詳細な「ヤングケアラーの状態像」を示したうえで、回答者自身がヤングケアラーに該当すると思うかを質問している。その結果は以下の通りである。なお、小学生を対象とした調査においては、ヤングケアラーの状態像に関する説明を載せることによる当事者への侵襲性(自分自身を客観視することが難しい当事者やその保護者がショックを受ける等)を考慮し、詳細な状態像について説明しなかったため、当該質問は聞いていない。

図表 400 「世話をしている家族が「いる」割合」と
「自身がヤングケアラーに該当すると回答した割合」

	調査数(n=)	世話をしている家族が「いる」と回答した人の割合(%)	自分はヤングケアラーに「あてはまると思う」と回答した人の割合(%)
小学6年生	9,759	6.5	—
中学2年生	5,558	5.7	1.8
全日制高校2年生	7,407	4.1	2.3
定時制高校2年生相当	366	8.5	4.6
通信制高校生	445	11.0	7.2
大学3年生	9,679	6.2	2.9

※定時制高校、通信制高校についてはn数がほかと比較して少ないことに留意。

その結果、「世話をしている家族が「いる」と回答した人の割合」は、全調査を通じて4～11%程度、「自分はヤングケアラーに「あてはまると思う」と回答した人の割合」は 1.8%～7.2%と両者には差があることが分かる。ヤングケアラーの自覚がある人は、家族の世話をしている人の 1/3 から半分程度(通信制高校においては 2/3 程度)となっている。

「世話をしている家族が「いる」と回答した人の中には、ケアを要する家族がいる訳ではない人や、大人が担うようなケア責任を引き受けているとまでは言えない、いわば子どもが行う範囲内

の「お手伝い」として家事や家族の世話をしている人が一定数含まれていると推測されることから、「世話をしている家族が「いる」と回答した人」＝「ヤングケアラー」ではないことに留意する必要がある。一方で、ヤングケアラーの支援の現場では、支援者の立場からは子どもの権利が守られていないと判断し得る事例でも本人にその自覚がない場合があると言われていることから、ヤングケアラーの自覚があると回答した人の割合以上に支援を必要とする状況にある子どもがいる可能性についても留意が必要である。

本調査において、小学生、中学生、全日制高校生、大学生について数％～6％程度家族の世話をしている人がおり（定時制高校や通信制高校においてはその割合はさらに高い）、その中には世話の負担が重く、日常生活や学校生活に支障をきたしている人が一定数いることが確認された。昨年度および今年度の調査は、子ども本人を対象としたヤングケアラーに関する初の全国調査として意義深いものであるが、全国から一部学校を抽出したうえで限られた人数の子どもに対する調査であることや、小学生を除き Web による調査を行っていることから、例えば地域間の差を比較するには有意な結果が得られていないこと、インターネットにアクセスできない子どもが回答できなかった可能性があることなどは本調査の限界と認識している。より詳細な実態の把握については都道府県や市区町村等自治体単位での調査が一層進むことが期待される。

2. 小学校調査

(1) 調査結果取りまとめ

① 「ヤングケアラー」の概念を知っている学校は約9割

「ヤングケアラー」の概念を知っている学校は約9割。言葉を知っており学校として意識して対応していると回答した学校は41.4％であり、昨年度の中学、高校への調査と比較して「ヤングケアラー」の認知度が向上していることが推察される。

② ヤングケアラーと思われる子どもがいる学校は 34.1％

「ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と回答した学校は全体の34.1％であった。「ヤングケアラー」の概念について言葉を知っており学校として意識して対応していると回答した学校においては、「ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と回答した割合が51.9％であったことから、学校側の意識向上によりヤングケアラーと思われる子どもを見つけられる可能性が高まると考えられる。一方で、児童本人への調査結果から、数％～6％程度の割合で家族を世話している児童（≡ヤングケアラーと思われる児童）がいることから、家族のケアを担いながらも学校ではそうと

ⁱ 調査票において世話の有無を聞く設問（「家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか」）では、「ここで「お世話」とは普通大人が行うような家事や家族のお世話を指す」との注記を付けているが、それに該当しない人（例えば幼い兄弟の遊び相手をする等）も含まれている可能性がある。また、家族の世話をしていると回答の中には、病気や障がい、あるいは幼いといったケアを要する理由がない場合（例えば両親が共働きで多忙であるため家事を行っているケース等）が含まれている。こうした家事を担う子どもをヤングケアラー、若者ケアラーに含めるかどうかは曖昧な部分があり、今後議論が進むことが期待される。

気づかれていない児童が一定数いるものと推測される。

③ SSW は要請に応じて派遣、SC は月数回以下で配置・派遣されている学校が約半数

SSW は、要請に応じて派遣されるのが 53.3%、SC は月に数回以下で派遣・配置されているのが 51.7%であった。小学校ヒアリングにおいて、SSW、SC いずれもより頻繁な派遣・配置を求める意見が多く聞かれた。定期的な配置を受けていない学校では、派遣要請のための手続きや日程調整に時間がかかることも課題として挙げられている。

④ ヤングケアラーと思われる子どもについて、外部の支援にはつないでいないケースが 42.7%

ヤングケアラーと思われる子どもについて、外部の支援につないでいない(校内で対応している)ケースが 42.7%となっている。その理由として、「学内で対応ができてから」という回答がある一方で、「家庭内の様子が分からず、確証がないため」、「対応の仕方が分からないため」といった回答もあることから、学校以外の外部の支援が必要な場合でもつなげられていないケースがあると推察される。

ヤングケアラー以外も含めた校内で共有している子どものケースについて連携する関係機関先としては、「市区町村教育委員会」、「市区町村の福祉部門」、「児童相談所」の回答割合が高くなっているものの、連携に至るまでに家庭内の状況を把握し、適切な関係機関へつなぐためのコーディネーターの役割を担う人材が必要と考えられる。

⑤ ヤングケアラーの把握や支援における工夫点

ヤングケアラーの把握や支援にあたっての工夫としては、「子どもをよく観察すること」、「保護者との信頼関係を築くこと」等が挙げられている。ヒアリング調査においては、教職員がヤングケアラーの概念について知っていることで子どもの変化に気づくことができると考え、教職員に向けた周知を行っているとの回答があった。

⑥ ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいこと

ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいことは「家庭内の様子が分かりにくい/家庭内に介入しづらい」、「児童本人が話したがらない」といった点が挙げられている。ヒアリング調査においても、学校として家庭内の問題にどの程度介入してよいのか、悩みながら対応している様子がうかがわれた。また、教職員や SSW、SC といった専門職が対応すべき事案が多く時間的余裕がないことも課題として挙げられている。

⑦ ヤングケアラーの支援に必要なだと思うこと

ヤングケアラー支援に必要なだと思うこととして、「教職員がヤングケアラーについて知ること」、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」との回答が多くみられた。上記②からも、「教職員がヤングケアラーについて知ること」は、ヤン

グケアラーと思われる子どもの発見につながることを示唆されており、重要な点である。また、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」も、実態の把握のために大切なことである。一方で、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」については留意が必要である。将来的にはヤングケアラーであるという自覚を持つことも必要であるが、どの段階での自覚が最適かはケースによって異なる。小学生調査の結果からも分かるように、ケアによって負の影響が生じていることも自覚していないケースが少なくないと考えられる。まずは大変なこと、困っていることなどの話を聞き、受け止めることから始めることが重要である。ヤングケアラーの概念は、教職員や専門職などの支援する側が当事者の状況について理解したり、ある程度の年齢に達した当事者が自身の状況について認識したりするためには有用であるが、小学生の当事者にとってはかえって精神的な負担となってしまう危険性があり、伝え方には十分な配慮が必要である。

(2) 今後の課題

今回の小学校を対象とした調査により、ヤングケアラーの認知度が向上していることや、学校によっては意識的に教職員へ周知し、ヤングケアラーと思われる子どもへの対応を行っていることが確認された。一方で、学校現場においては、ヤングケアラーが抱える家庭内の問題に介入する難しさがあることが浮き彫りとなった。子どもに日々接している教員が気づくことが支援につながる第一歩となる可能性がある一方で、家庭の事情を把握しきれず、適切な外部機関との連携ができていない場合があると推測される。そのため、家庭内の状況を把握するためにも、SSW や行政の福祉/子育て部門の職員といった家庭にアプローチすることのできる専門職との協力が重要となる。また、学校からの連携先でもある市区町村教育委員会において、行政の関係機関等との連携・調整を行える体制を整えることも、方策の一つとして考えられる。また、学校現場における SSW や SC といった専門職の十分な配置についても今後の課題であると言える。

3. 小学生調査

(1) 調査結果取りまとめ

① 家族の世話をしていると回答した小学生は 6.5%

世話をしている家族がいると回答した小学生は全体の 6.5%。世話を必要としている家族はきょうだいが最も多く 71.0%、次いで母親が 19.8%となっている。世話の内容としては、「見守り」、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「きょうだいのお世話や送り迎え」等の回答割合が多いが、「通訳(日本語や手話など)」との回答が 3.2%あった。世話を必要とする父母の状態として「日本語が苦手」とする回答が 10.9%あり、日本語が苦手な親などに代わって通訳をしている小学生が一定数いることが確認された。

② 世話を必要とする父母の状況として最も多かった回答は「わからない」

世話を必要としている人が父母と回答した人に父母の状態像について聞いたところ、「わからない」との回答が 33.3%と最も高かった。父母が病気や障がいを抱えていても、そうした状態について子どもに話していなければ、子ども自身は状況がよく分からないまま家族の世話をしている可能性がある。このように子どもが状況を把握できていないことが、周囲の大人へ相談しづらい理由の一つとなっていると考えられる。小学生に対しては特に、周囲の大人が子どもの置かれた状況に気づき、話を聞く等の対応をすることが必要であることを示唆している。

③ 家族の世話をすることによる学校生活等への影響

世話をしている家族がいると回答した人は、健康状態が「よくない・あまりよくない」、遅刻や早退を「たまにする・よくする」と回答する割合が、世話をしている家族がいない人よりも2倍前後高くなっており、健康状態や学校生活にも影響を与えていると考えられる。さらに、家族の世話をしている人は、学校生活において「授業中に寝てしまうことが多い」、「宿題ができていないことが多い」、「持ち物の忘れ物が多い」、「提出物を出すのが遅れることが多い」といった項目に該当する割合が、いずれも世話をしていない人の2倍前後となっており、日々の生活に影響が出ていることがうかがわれる。

学校生活における悩みごとについても、世話をしている家族がいる場合には、「学校の成績のこと」、「家族のこと」、「生活や勉強に必要なお金のこと」、「自分のために使える時間が少ないこと」といった悩みを抱えている割合が高くなっている。

④ 性別による世話の状況や相談に関する姿勢

世話をしている家族の有無については、性別による割合の差はほとんどない。世話を必要としている家族については、「父母のみ」の場合には男性が世話をしている割合が高く、「きょうだいのみ」については女性が世話をしている割合が高くなっている。

世話の頻度については、女性の方が「ほぼ毎日」の割合がやや高く、時間についても、「3～7時間未満」「7時間以上」と回答している割合が高くなっている。そして世話による制約や世話の大変さについても、全体的に女性の方が各項目への回答割合が高く、学校や大人にしてもらいたいことについても、ほぼすべての項目で男性より回答割合が高く、中でも「自分のことについて話を聞いてほしい」とする回答が 16.7%と最も高くなっている。

また、世話に関する相談相手としては、男性は家族(父母、祖父母、きょうだい)が 86.0%と非常に高い割合であったが、女性では家族は 77.4%であり、親戚(14.5%)、友だち(45.2%)など家族以外の人にも相談する傾向があることが確認された。

⑤ 長時間の世話による心身や学校生活等への影響

世話に費やす時間が長時間になるほど、学校生活等への影響が大きく、本人の負担感も重くなることが確認された。具体的には、世話に費やす時間が7時間以上の場合、健康状態が「よ

い・まあよい」と回答した割合が 64.4%にとどまり、学校生活については欠席を「たまにする・よくする」の割合は3割を超え、遅刻や早退を「たまにする・よくする」の割合は4割を超えている。また、学校生活の中では、「授業中に寝てしまうことが多い」、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」「保健室で過ごすことが多い」、「友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」といった項目が、世話に費やす時間が7時間未満の場合と比較して特に高くなっており、長時間の世話により、通常の学校生活を送るのが難しい状況にある子どもが一定数いることが確認された。

世話に費やす時間が7時間以上の場合、「体力面で大変」、「気持ちの面で大変」、「時間の余裕がない」といった世話をするに対するきつさについて自覚している割合が3～4割と、7時間未満の場合に比べて高くなっている。一方で、7時間以上世話をしている人の 35.6%が「特に大変さは感じていない」と回答しており、世話をすることが当たり前になっており、大変さを自覚できていないケースもあると推察される。

⑥ 世話を必要とする家族による状況の違い

世話を必要とする家族が父母のみの場合、自分のみで世話をしていると回答した人の割合が 16.2%とほかと比べて高い傾向にあり、世話についての相談経験も少ない傾向にあり、話を聞いてくれる人についても「いない」という回答が 35.1%とほかと比べて高いことから、家族の世話を一人で抱え込んでいる人がほかと比べて多いことが推察される。

世話をしている家族が祖父母のみの場合は、ほかと比べて福祉サービスを利用しているとの回答が多く、世話を開始した年齢は高学年が 69.2%と高いこと、一方で、世話の大変さについては「気持ちの面で大変」との回答が 32.7%とほかと比べて高くなっていることが特徴である。

世話をしている家族がきょうだいのみの場合、世話を始めた年齢について「就学前」と「小学生（低学年）」を合わせると半数を超え、低年齢のうちから世話をしていることが特徴である。さらに、世話の頻度については「ほぼ毎日」が6割を超え、世話に費やす時間についても、きょうだいを世話する理由が「幼い」のみ以外（きょうだいが病気や障がいを抱えている場合等）では特に長くなる傾向があり、負担が大きいことが推察される。「幼い」以外にも理由があって世話をしている場合は、世話による制約も大きく、大変さを自覚する割合も高く出ている一方で、世話について相談したことがない理由について「相談しても何も変わらないから」との回答割合が 22.9%と高く、無力感を感じている人がいることが推察される。

⑦ 世話に関する相談状況について

世話に関する相談状況としては、世話による制約が多いあるいは世話にきつさを感じている人ほど相談経験のある人が増える傾向にある。ただ、子どもからの相談相手については家族（父母、祖父母、きょうだい）が 78.9%と最も多く、家族以外の大人については「学校の先生（13.8%）」「保健室の先生（5.5%）」「SSW や SC（3.7%）」とその割合が大きく下がる。家族に相談することにより世話の負担が軽減される可能性もあるが、その家族自身も病気や障がいを抱えていたり、ほかの家族の世話をしていたりする場合には、相談をしても具体的な解決につながっていないケース

もあるものと推察される。

希望する相談方法としては、「直接会って」が 53.5%と最も高く、次いで「電話」、「SNS」がいずれも 19.8%であった。対面での相談を中心としつつも、電話や SNS 等多様な手段での相談機会が用意されていくことが望まれる。

⑧ 世話による影響についての自覚と実態（行動）の違い

③で述べた通り、世話をしている家族がいる場合、健康状態や遅刻早退の状況、また学校生活において影響が出ているにも関わらず、子ども本人はケアによる負荷、負の影響に気づいていない可能性がある。

具体的には、下表に示した通り、学校への欠席、遅刻・早退の状況や睡眠が足りているか、宿題について、友達との遊びについて、いずれも行動の面で該当していると認識している割合と、世話による制約として自覚している割合を比較すると後者の回答割合が少ないことが分かる。両方で設問の選択肢の文言に差異があることには留意が必要ではあるものの、小学生という低年齢から家族の世話をすることで、その状態が本人にとって当たり前のものとなってしまう、世話による影響を認識しづらくなっていることが推察される。⑤でも述べた通り、7時間以上世話をしている人の 35.6%が「特に大変さは感じていない」と回答しており、世話の大変さに気づいていない人がいると考えられる。

このような状況は、ケアによる負荷が大きくなっても表面化しない、自ら相談してこないことにもつながり得る。まずは、周囲の大人が子どもの置かれた状況に気づき、丁寧に話を聞くこと、必要な場合には何らかの支援を行うことが重要であることを示唆していると考えられる。

図表 401 世話による影響について「行動として表れている(普段の生活で該当すると回答していること)」と「自覚(世話によってできていないと認識していること)」の差異

	普段の生活についてあてはまること	世話をしているためにやりたいけれどできないこと
欠席の状況	たまに欠席する:21.4% よく欠席する:3.3%	学校を休んでしまう:2.9%
遅刻・早退の状況	たまにする:18.5% よくする:4.4%	遅刻や早退をしてしまう:3.2%
睡眠関連	授業中に寝てしまうことが多い:11.4%	眠る時間が足りない:6.7%
宿題について	宿題ができていないことが多い:15.2%	宿題など勉強する時間がない:7.8%
友だちとの遊び	友だちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない:19.3%	友だちと遊ぶことができない:10.1%

※上記はいずれも世話をしている家族がいると回答した 631 人の回答を抽出したもの。

⑨ 学校や大人にしてほしいこと

学校や大人にしてもらいたいこととして、世話をしている家族がいる人全体としては、「特にない」(50.9%)が最も多かったものの、そのほかでは「自由に使える時間がほしい」(15.2%)、「勉強を教えてほしい」(13.3%)、「自分のことについて話を聞いてほしい」(11.9%)がほかと比べて高くなっている。世話をしている家族がいる人のうち、世話に大変さを感じている人(「体力の面で大変」「気持ちの面で大変」「時間の余裕がない」の1つ以上を選択した人)については、「自由に使える時間がほしい」が約3～4割程度、「自分のことについて話を聞いてほしい」が約2～3割程度となっていることから、本人の状況について話を聞いたうえで、世話の負担が軽減されるような支援を必要としていることがうかがわれる。

(2) 今後の課題

今回の小学生本人を対象とした調査の結果、世話をしている家族がいると回答した人は 6.5%おり、その中には長時間に及ぶ世話をし、健康状態や学校生活に支障をきたしている可能性のある人が一定数含まれることが確認された。一方で調査結果からは、父母の世話をしながらも父母が世話を必要とする理由について「わからない」との回答が3割程度あること、平日1日あたり7時間以上世話を行っているにもかかわらず、その3割超が「特に大変さを感じていない」と回答していること、行動の面では何らかの支障が出ている(欠席や遅刻・早退が多い、授業中に寝てしまう等)が、本人はそれが世話の影響であることを自覚できていない可能性があることなども明らかになった。これは小学生の年齢だと、家族の置かれた状況を十分に理解できていなかったり、家族の世話をすることが当たり前になり、その大変さを十分に自覚できていなかったりする可能性があることを示唆している。今回は小学6年生を対象とした調査であるが、低学年、中学年の児童であれば、自らの置かれた状況を把握し、大変な状況にある場合には本人が自ら周囲に相談をすることは難しいことが想像に難くない。従って、特に小学生のヤングケアラーについては、周囲の大人が本人の様子の変化やつらさに気づき、声をかけていくことの重要性が大きいと言える。周囲の大人がヤングケアラーに対する意識を高め、必要な支援につながるきっかけを作れるような体制を整えていくことが今後の課題である。

また、今回の調査では、家族の世話をしている人のうち、就学前から世話をしている人が17.3%、低学年のうちから世話をしている人が 30.9%いることが確認された。こうした低年齢から長い期間にわたって家族の世話をし、またその負担が大きかった場合の中長期的な影響については今後の調査が期待される。

今回の小学生本人の調査により、小学生は家族の世話の負担が大きく日々の生活に支障をきたしていてもその影響を十分に自覚できていないことが明らかになったのは一つの成果と言える。一方で、上述の通り、小学生については周囲の大人が子どもの置かれた状況を把握し、必要な支援を行えるような体制を整えることが重要であり、今後自治体等で小学生本人への調査を行

う際には、ヤングケアラー当事者への影響等のリスクを踏まえたうえで、支援体制を整えつつ実施の可否を判断されたい。

4. 大学生調査

(1) 調査結果取りまとめ

① 家族の世話をしている大学3年生は、「現在いる」が 6.2%、「現在はいないが、過去にいた」が 4.0%。

回答した大学3年生のうち、「現在いる」が 6.2%、「現在はいないが、過去にいた」が 4.0%であった。回答者として女性比率が高いこと、ヤングケアラーに関し意識の高い学生が積極的に回答している可能性があること等に留意が必要である。

② 世話をしていることで学生生活に影響がみられる

家族の世話をしている場合、健康状態が「あまりよくない」「よくない」、欠席、遅刻・早退が「たまにある」「ある」の割合が高くなっている。家族の世話をしていない場合に比べ、健康状態が良くなく、学生生活にも支障が生じていると推察される。なお、本調査期間は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンライン授業等により「家族の世話をしている人」も通常時よりも授業に参加できている可能性もあり、通常時の対面授業のみの状況であれば欠席、遅刻・早退率がより高くなる可能性があることに留意が必要である。

学生生活における時間の確保状況については、家族の世話をしている場合、「大学の授業の受講(ゼミ含む)」、「大学の授業の予習復習、課題に取り組む時間」、「部活・サークル」、「アルバイト・仕事」、「趣味・娯楽・交友」について「確保できている」の割合が低くなっている。また、普段の生活で、「課題や予習復習ができていないことが多い」、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」などの割合も高くなっている。

現在の悩み事は、「学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと」、「家庭の経済的状況のこと」、「自分と家族との関係のこと」、「家庭内の人間関係のこと」、「病気や障がいのある家族のこと」など、経済面や家族に関する悩みや困りごとの割合が高くなっている。

現在または過去に世話をしている家族がいる・いた人に世話をしていることでやりたかったけどできなかったことを聞いたところ、6割の人がなにかしらのできなかったことがあったと回答した。とくに、「自分の時間が取れなかった」、「睡眠が十分に取れなかった」、「友人と遊ぶことができなかった」等、学生生活にも健康面にも影響が出ていたことが推察される。

③ 世話をしていることで大学進学の際に影響があった

世話を始めた時期が大学入学以前の方のうち 50%超が、世話をしていることで大学進学の際に何かしらの苦労したこと・影響があったと回答しており、特に「学費等の制約や経済的な不安が

あった」、「受験勉強をする時間が取れなかった」、「実家から通える範囲等の通学面の制約があった」が多かった。世話が進学に影響しており、今回の調査対象者以外に、これらの要因により大学への進学をあきらめた方がいるであろうことが推察される。

④ 世話をしていることで就職への不安がある

家族の世話をしている人のうち約 50%が就職に関し何かしらの不安があると回答しており、特に「正社員として就職できるか不安がある」、「通勤できる地域が限られる」の割合が高くなっている。就職への不安は「わからない」という人も一定数おり、不安だからわからない、考える時間もわからない、まだ就職活動前でわからないといったさまざまな背景が推測される。

⑤ 世話をしていることで精神的なきつさを感じている

家族の世話をしている人のうち、精神的なきつさを感じている割合が約4割であった。これまでもきつさはあったものの大学生になって認識するようになった、もしくはこれまでの世話の蓄積で大学生になって数値として出てきていると推察される。

世話を必要とする家族の状況が「要介護」の場合は身体的きつさ、「精神疾患」、「認知症」、「知的障がい」の場合は精神的きつさを特に感じる傾向にある。

⑥ 経済的な支援や、就職に関する相談等を求めている

家族の世話をしている人が求める支援は「進路や就職など将来の相談にのってほしい」、「学費への支援・奨学金等」、「自由に使える時間がほしい」の順に高い。

経済面の支援の要望は過去に世話をしていた人も高く、若者ケアラーの特徴であると推察される。

⑦ 世話をしている家族により、世話の状況や負担が異なる

世話をしている家族は、中高生調査で「きょうだい」の割合が最も高かったのに対し、大学生は「母親」、「祖母」の割合が高くなっている。母親の状況については、「精神疾患」の割合が最も高く、世話については、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」の割合が高い。また、世話をしている家族が「父母」の場合、父母の状況として「日本語を第一言語としない」が 15%前後見られた。

世話をしている家族が「現在いる」場合、「現在はいないが、過去にいた」場合に比べて、「母親」「父親」の世話をを行っている割合が高くなっている。「きょうだい」が成長して世話が必要なくなったことも推察される。なお、「きょうだい」の世話は中学校入学以前から行っている人が半数を超える。現在もきょうだいの世話が継続している場合は、知的障がい、身体障がい等の割合が高く、ケアが必要な状況が継続していることが多いと推察される。

世話をしている家族が父母の場合、「自分のみ」で世話をしている割合が高く、世話の頻度もほぼ毎日が 50%超を占めている。世話の負担も大きく、学生生活、就職への不安も大きい。「相

談しても状況が変わると思わない」の割合が高く、一人で抱え込みやすい傾向にあることが推察される。一方で、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「家族の世話について相談にのってほしい」「自分が行っている世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい」の割合が高くなっており、そのような支援が求められる。

⑧ ひとり親家庭で負担が大きい傾向にある

ひとり親家庭で、自分のみで世話をしている割合が高く、世話の頻度も高く、世話時間も長い傾向にある。大学進学の際に苦労したこと・影響についても、「学費等の制約や経済的な不安があった」、「受験勉強をする時間が取れなかった」の割合が高くなっている。

世話をすることを感じているきつさについては、「精神的にきつい」、「時間的余裕がない」の割合が最も高くなっている。必要な支援については、「学費への支援・奨学金等」、「家庭への経済的な支援」の割合が高くなっている。ひとり親家庭は、世話の負担だけでなく、金銭的な面でも影響が大きいことが推察される。

また、数は少ないが、「祖父母のみ世帯」も存在し、ひとり親家庭と同様「自分のみ」で世話をしている割合が高い。祖父母の家から大学に通いながら世話も担う学生もいることが推察される。

⑨ 長時間の世話が健康状態や学生生活にも影響を及ぼしている

1日の世話時間が長い人ほど、健康状態は「よい」の割合が低くなり、「友人と遊んだり、話したりする時間が少ない」、「持ち物の忘れ物が多い」の割合が高くなる傾向にある。中高生調査同様、長時間のケアが健康状態の悪化を招く可能性および学生生活への影響もみられる。

大学進学の際に苦労したことについても、世話に費やす時間が長くなるほど「受験勉強をする時間が取れなかった」、「学費等の制約や経済的な不安があった」の割合が高くなり、影響がみられた。就職への不安についても、7時間以上になると、「働ける時間帯が限られる」、5時間以上になると「就職先について考える時間がない」の割合が上昇する。

世話の関する相談相手として、7時間以上の人は「大学の指導教員」、「ホームヘルパーやケアマネジャー、福祉サービスの人」、「役所の人（自治体の保健センター等含む）」、「医師や看護師、その他病院の人」等、外部への相談がいずれも10%台ではあるがやや高くなっている。一方で、相談をしたことがない人は、「相談しても状況が変わると思わない」の割合がやや高くなっている。

⑩ 世話をしている家族が過去にいたことは、現在の健康状態や学生生活に影響を及ぼす

世話をしている家族が「現在はいないが、過去にいた」人は、「現在いる」人よりも、身体・精神ともに健康状態が良くない。欠席、遅刻や早退が「ある」の割合も高くなっている。

「大学の授業の受講」、「就職活動」、「趣味・娯楽・交友」等の各取組時間の確保状況についても「確保できている」の割合が低くなっている。

大学生活等であてはまることに関して、「現在いる」人よりも、「友人と遊んだり、話したりする時

間が少ない」、「大学では1人で過ごすことが多い」、「授業を欠席しがちである」等が高くなっている。

世話をすることで感じるきつさは、「現在はいないが、過去にいた」人は、いずれのきつさとも「現在いる」人より感じており、特に「精神的にきつい」は 50%を超える。世話している家族が「現在いる」人は現在世話をすることで生活に影響が出ないように頑張っており、現状きつさを感じていないことも想定されるため、差分の解釈には留意が必要であるが、過去のお世話がきつかったことによる影響が現在までつながっている可能性がある。また、世話が終わって虚無感を感じる等により、健康状態等に影響が出ていることも推察される。過去に世話をしていた人は、「子どもの時間を手放してきた」可能性があり、精神面も含め、元ヤングケアラーへの支援も必要であると推察される。

⑪ 家族の世話の有無とヤングケアラーである自己認識の違いの状況

ヤングケアラーに「現在あてはまる」と回答した人は、2.9%であった。ヤングケアラーに「あてはまる」と回答した人は、「あてはまらない」と回答した人よりも、世話している家族の状態として「要介護」、「身体障がい」、「精神疾患」、「精神疾患、依存症以外の病気」等の割合がやや高くなっている。世話も高頻度・長時間の傾向にある。就職に関する不安についても、「通勤できる地域が限られる」の割合が高くなっている。ヤングケアラーに「あてはまる」と回答した人は、世話の負担感が総じて大きい状況にあるとうかがえる。

ただし、あくまでも自己認識であり、とくにヤングケアラーにあてはまるか「わからない」と答えた人の中には、実態としては「あてはまる」と答えた人に近い世話の状況であることも推察される。

⑫ 現在世話をしている人と世話を過去にしていた人は居住状況等がやや異なる、居住形態をはじめ世話の状況も多岐にわたる

世話をしている家族が「現在いる」場合、「家族と同居」の割合が高くなっている。「現在はいないが、過去にいた」人は、「家族と同居」の割合がほかと比べ低くなっている。

「現在はいないが、過去にいた」人の世話をしていた時期は、「大学入学以前まで」が 30%程度おり、一人暮らしによって世話をする家族が現在いなくなった人も一定数いることが想定される。ただし、実家等にケアをしている人がまだいるのか、ケアが終わった・必要なくなったか、の観点でも必要な支援内容が変わる。

一方で、世話している家族が「現在いる」人のなかにも、一人暮らしをしながら世話を現在している人もおり、大学生の世話の状況はさまざまなケースがあることが推察される。調査結果からは、世話が必要な人の近隣に住んでおり毎日短時間世話をしている、もしくは実家等に帰った際に1か月に数日世話をするといった方が多いことが読み取れる。一方で、一人暮らしをしながら長時間高頻度の世話をしている人や、両親から経済的な支援を得られずかつケアもしている層がいた場合、その状態はさらに深刻かと推察される。

また、大学生になってから世話を始めた人も一定数いる。大学生になり、例えば車による送迎

等、できることの幅が広がり、世話を始めたもしくは世話の時間が長くなった等は考えられる。世話を始めた時期によって必要な支援も異なる可能性があり、若者ケアラーの支援も含めた状況に応じた支援が求められる。

⑬ 性別や大学種別、学部により世話の状況が異なる

女性のほうが、男性に比べ、高頻度・長時間の世話をしている傾向にある。世話をする理由については、「自分が世話しないと家族が困るため」が多い傾向にある。世話について相談した経験が「ある」割合が高くなっている。大学や周りの大人に助けてほしいことについては、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「家族の世話について相談にのってほしい」の割合が高くなっている。

回答者の偏りにやや留意が必要であるが、今回の調査では、「女性 私立」において、世話をしている家族が「現在いる」、「現在はいないが、過去にいた」もほかに比べ高い割合になっていた。世話の開始時期については、「私立」で男女ともにほかよりも「大学入学以降」の割合が高くなっている。

学部別には、「看護・保健・福祉系」、「教育・教員養成・家政・生活系」、「文・外国語・国際・文化系」でヤングケアラーについて「聞いたことがあり、内容も知っている」が50%を超える。

回答者数に留意が必要であるが、「文・外国語・国際・文化系」、「教育・教員養成・家政・生活系」、「看護・保健・福祉系」で世話をしている家族が現在いる率が高く、頻度・時間も多頻度長時間、世話にきつきを感じている傾向にあった。若者ケアラーと思われる学生が多く在籍していると思われる学部にて、周知や支援がより求められる。

⑭ 「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」の認知度は中高生調査に比べ高い

「ヤングケアラー(または若者ケアラー)」の認知度については、「聞いたことがあり、内容も知っている」の割合が中高生調査に比べ高い。昨年度調査の結果等の報道により、中高生調査に比べ大幅に認知度が高くなっていることが推察される。また、大学を通じて認知した学生も多く見受けられ、大学等を通じヤングケアラーについて理解を深めた学生が今回の調査で積極的に回答した可能性がある。

(2) 今後の課題

各種の世話が生活等に影響があったか等の質問に関し、「特にない」と答えた方の中には、影響が出ないようにとてつもない努力をしているかたが多くいることが想定される。ケアの状況も流動的であるため、結果の数値にとらわれず、影響が出ていなくても見守っていく必要がある。

今回の大学生調査は、「大学3年生まで大学に通えている人」が対象である。大学進学をあきらめた人、大学に入学したものの通い続けられなかった人の実態は把握できていない。大学進学の際の困りごとが非常に大きく大学通学に至らなかった人がいることも想定される。また、アンケ

ートに答えられる状況にない、より深刻な状態にある若者ケアラーの方がいることも想像される。本結果は、若者ケアラーの実態を全国的に明らかにした調査ではあるが、あくまでも一部の実態であり、より詳細な実態把握や支援・対応の検討が求められる。

5. 一般国民調査

(1) 調査結果取りまとめ

① ヤングケアラーの認知度は、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 29.8%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が 22.3%、「聞いたことはない」が 48.0%。

ヤングケアラーという言葉の認知度は、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 29.8%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が 22.3%、「聞いたことはない」が 48.0%であり、約半数が「聞いたことはない」という結果であった。

② 年代、性別、子どもの有無によって認知度の傾向が異なる。

50 代以上の女性の認知度が最も高く、約 65%が「聞いたことがあり、内容も知っている」、もしくは、「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答している。年代が若くなるほど認知度は下がる。また、男性の認知度のほうが全般的に低い。20 代の女性は同年代の男性に比べて認知度が低いが、20 代から 30 代、さらに 30 代から 40 代にかけて認知度が高まっている。一方、男性の認知度は高くても 55%程度に留まっており、40 代から 50 代にかけて認知度が高まっているが、20 代から 40 代、および、50 代以降では認知度に大きな変化は見られない。

子どもの有無では、子どものいる方のほうが認知度が高い。子どもがいる女性の認知度が最も高い一方、子どもがいる男性と子どもがいない女性では、同程度の認知度となっている。さらに、子どもがいる方でも、高校生の子を持つ方の認知度は高いが、小学校入学以前、もしくは、小学生の子どもを持つ方の認知度が相対的に低くなっている。

性別ごとにライフステージに応じて認知度の向上が見られるが、子どもがいる女性の認知度のさらなる向上を図るとともに、子どもがいる男性や若年層の認知度の底上げも必要と考えられる。

③ 認知経路は全年代を通じてテレビが最も多い。

ヤングケアラーという言葉は「聞いたことがあり、内容も知っている」もしくは「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方の認知経路は、「テレビ」が 82.4%と最も高く、次いで「新聞」32.5%、「Web サイト」14.8%であった。全年代で「テレビ」の影響力が大きいですが、30 代、20 代と年代が若くなるほど割合は低くなっている。また、「新聞」はその傾向がさらに顕著である。

「Web サイト」は全世代総じて 10~20%程度となっており、広く情報発信をする媒体としては適当と考えられる。また、20 代のみ「友人・知人から聞いた」割合が 10%程度となっており、口コミの影響力が一定程度あることが推察される。

④ ヤングケアラーと思われる子どもがいた場合の対応は、「わからない」という回答が最も多い。

ヤングケアラーと思われる子どもがいた場合の対応については、「わからない」が 39.9%と最も多く、次いで「本人に様子を聞く」23.3%、「関係機関に相談する」22.1%となっている。「何もしない」という回答は 16.2%となっており、「わからない」と答えた方と合計すると約 56%となっている。

年代が若いほど「わからない」、「何もしない」と答えた割合が高くなっている。同年代で比べると、女性の方が何らかの行動をとると回答した割合が高い。

⑤ 「何もしない」理由は大きく3つに分かれる。

ヤングケアラーと思われる子どもがいた場合の対応について「何もしない」と回答した方の理由は、「どのように対応したらよいかわからないため」、「家庭の問題に関わることに抵抗感があるため」、「相談する余裕がないため」の3つに大きく分かれる。

⑥ 認知度が高いほど具体的な行動に結びつきやすい。

ヤングケアラーがいた場合の対応を認知度別に分析すると、認知度が高いほど具体的な行動に結びつきやすく、認知度が低いほど「何もしない」、「わからない」という割合が多くなっている。そのため、認知度の向上がヤングケアラーの把握と支援に結びつくものと考えられる。

一方で「聞いたことがあり、内容も知っている」と答えた方でも、約3割が「何もしない」もしくは「わからない」と回答している。そのため、ヤングケアラーの概念や現状だけではなく、どのような対応が求められるかも合わせて周知することが必要と考えられる。

⑦ 相談しやすい環境づくりのためには、分かりやすさとアクセスのしやすさが必要。

相談しやすい環境づくりにつながるとされる仕組みや取組については、「ヤングケアラー専用の相談窓口があること」が最も多い。また、「相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと」や「相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと」も求められている。このことから、「専用窓口」のような相談先の分かりやすさに加え、相談する際の手順や判断基準がわかりやすく、かつ、相談した結果がどのような支援につながるかがイメージできることが、相談のしやすさにつながると考えられる。

また、相談の手段については、「電話・メール・SNSでの相談が可能であること」、「24時間いつでも相談が可能であること」の回答が多い。そのため、ヤングケアラーを見つけた方の立場からは、いつでも気軽に相談できることが重要と考えられる。

一方、家族・親族にヤングケアラーと思われる子どもがいると回答した方ほど、学校や自治体等の行政機関以外の専門機関に窓口があることや対面での相談が可能であることを求めている。そのため、当事者にとっては、医療や介護といった別の視点もあわせた対面による相談対応ができることが有用と考えられる。

⑧ 認知度が高いほど相談しやすい環境づくりに資する具体的な取組をイメージしやすい。

相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組について認知度別に分析すると、ヤングケアラーがいた場合の対応と同じく、認知度が高いほど相談しやすい環境づくりに資する具体的な取組をイメージしやすいという結果となった。

特に、ヤングケアラーという言葉を「聞いたことはない」と回答した方の半数以上が相談しやすい環境づくりにつながると思われる仕組みや取組として「特にあてはまるものはない」と回答している。

認知度が低いことが、具体的な対応に結びつきにくくなるだけでなく、相談しやすい環境づくりを考えることを阻んでいることからしても、認知度向上の波及的な効果は広く大きなものになると考えられる。

(2) 今後の課題

一般国民調査では、認知度の高さが具体的な行動や相談しやすい環境づくりを考える姿勢に結びつきやすいことが分かった。そのため、子どもがいる女性の認知度のさらなる向上を図るとともに、子どもがいる男性や若年層の認知度の底上げをすることが求められる。また、周囲の気づきを適切に支援につなげていくために、活用しやすい支援制度と相談体制の整備が求められる。

資料編

1. 学校を対象とした調査結果の一覧

以下に、小学校、中学校、高等学校を対象に行ったアンケート調査結果のうち、共通する設問について回答を一覧で並べる。ただし、各調査の実施時期が異なること、また対象とする学校種によりさまざまな状況が異なること等から、単純な比較をすることは難しい点には留意が必要である。

図表－1 回答者の役職

(%)

	調査数 (n=)	校長	副校長・ 教頭	主幹・ 主任教諭	養護教諭	スクール ソーシャル ワーカー (SSW)	スクール カウンセ ラー(SC)	その他	無回答
小学校	260	16.2	60.8	10.4	2.3	0.0	0.0	7.7	2.7
中学校	754	15.5	58.1	14.7	2.5	0.1	0.0	7.8	1.2
全日制高 校	249	1.6	53.0	19.3	9.2	0.4	0.0	16.5	0.0
定時制高 校	27	7.4	74.1	3.7	7.4	0.0	0.0	7.4	0.0
通信制高 校	35	2.9	71.4	2.9	0.0	0.0	0.0	22.9	0.0

図表－2 学校の所在地

(%)

	小学校 (n=260)	中学校 (n=754)	全日制高校 (n=249)
北海道	3.1	4.6	3.6
東北	7.3	6.4	8.0
関東	34.6	32.4	34.9
北陸	3.5	4.5	3.6
東山	5.4	4.5	4.4
東海	11.9	10.7	10.4
近畿	13.5	16.6	13.3
中国	5.4	5.6	4.8
四国	3.5	3.2	3.2
北九州	7.3	7.3	8.0
南九州	4.6	4.0	5.6
無回答	0.0	0.3	0.0

※地域区分 北海道：北海道

東北：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

関東：茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、

北陸：新潟、富山、石川、福井

東山：山梨、長野、岐阜

東海：静岡、愛知、三重

近畿：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

中国：鳥取、島根、岡山、広島、山口

四国：徳島、香川、愛媛、高知

北九州：福岡、佐賀、長崎、大分、

南九州：熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

図表－3 学校規模

(%)

	調査数 (n=)	40 人以下	41～160 人以下	161～280 人以下	281～400 人以下	401 人以 上	無回答
小学校	260	25.0	37.7	27.3	9.6	0.4	0.0
中学校	754	5.6	80.2	12.2	0.8	0.3	0.9
全日制高校	249	2.0	51.0	34.1	11.6	0.8	0.4
定時制高校	27	40.7	33.3	22.2	0.0	3.7	0.0
通信制高校	35	0.0	97.1	2.9	0.0	0.0	0.0

図表－4 SSW の配置・派遣状況

(%)

	調査数 (n=)	週に 2～ 3 回以上 派遣・配 置されて いる	週に1回 程度派 遣・配置 されてい る	月に数 回以下で 派遣・配 置されて いる	要請に 応じて派 遣される	その他	派遣・配 置されて いない	無回答
小学校	260	3.5	6.9	16.9	53.5	1.5	16.9	0.8
中学校	754	5.0	16.0	13.4	50.7	1.3	13.1	0.4
全日制高 校	249	4.4	1.2	6.8	51.4	0.4	33.7	2.0
定時制高 校	27	22.2	22.2	7.4	29.6	0.0	18.5	0.0
通信制高 校	35	22.9	2.9	8.6	22.9	20.0	20.0	2.9

図表－5 SCの配置・派遣状況

(%)

	調査数 (n=)	週に2～ 3回以上 派遣・配 置されて いる	週に1回 程度派 遣・配置 されてい る	月に数 回以下で 派遣・配 置されて いる	要請に 応じて派 遣される	その他	派遣・配 置されて いない	無回答
小学校	260	4.2	28.5	51.9	7.7	5.4	1.5	0.8
中学校	754	11.9	65.1	20.6	0.8	1.1	0.5	0.0
全日制高 校	249	2.4	32.9	55.0	5.6	2.0	1.2	0.8
定時制高 校	27	25.9	33.3	40.7	0.0	0.0	0.0	0.0
通信制高 校	35	25.7	11.4	37.1	8.6	11.4	2.9	2.9

図表－6 校内で共有している子どものケース(複数回答)

(%)

	小学校 (n=260)	中学校 (n=754)	全日制高校 (n=249)	定時制高校 (n=27)	通信制高校 (n=35)
学校を休みがちである	97.7	99.5	97.6	96.3	54.3
遅刻や早退が多い	90.4	88.1	79.1	74.1	31.4
保健室で過ごしていることが多い	76.2	83.4	83.9	59.3	57.1
精神的な不安定さがある	85.0	95.0	91.2	92.6	94.3
身だしなみが整っていない	51.2	58.8	35.3	25.9	20.0
学力が低下している	50.4	53.3	62.2	51.9	25.7
宿題や持ち物の忘れ物が多い	45.8	51.2	45.4	25.9	17.1
保護者の承諾が必要な書類等の提出遅 れや提出忘れが多い	42.7	45.1	28.5	18.5	22.9
学校に必要なものを用意してもらえない	43.8	44.0	23.7	3.7	14.3
部活を途中でやめてしまった	－	56.5	34.5	3.7	5.7
修学旅行や宿泊行事等を欠席する	35.0	57.6	35.3	11.1	0.0
校納金が遅れる、未払い	51.2	59.9	43.0	51.9	31.4
その他	2.3	4.1	2.0	3.7	22.9
無回答	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0

図表－7 情報共有・対応の検討体制(複数回答)

(%)

	調査数 (n)	不登校の子どものケースに 関する校内の検討体制で 検討している	不登校以外の子ども のケースに関する校内の検討体制 で検討している	個別に対応している(決ま った検討体制はない)	無回答
小学校	260	41.2	53.1	1.2	4.6
中学校	754	63.8	34.1	5.8	1.9
全日制高校	249	36.9	37.3	26.5	0.4
定時制高校	27	33.3	40.7	29.6	3.7
通信制高校	35	17.1	48.6	34.3	0.0

図表－8 校内の情報共有・対応の検討方法(複数回答)

(%)

	調査数 (n)	スクリーニング会議(※)	ケース会議	生徒指導部・委員会など	児童生徒理解・支援シートな ど共通様式による情報共有	児童生徒の抱える課題の解決 に向けて調整役として活動す る教職員の配置・指名	その他	無回答
小学校	245	13.5	80.0	66.9	53.5	47.3	9.4	1.6
中学校	699	19.6	66.5	88.1	49.5	46.4	10.6	1.3
全日制高校	183	13.1	60.1	57.4	38.3	58.5	14.2	0.5
定時制高校	18	5.6	72.2	55.6	44.4	55.6	11.1	5.6
通信制高校	23	21.7	34.8	52.2	52.2	47.8	30.4	0.0

※スクリーニング会議とは、すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援の必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別を行う会議。

図表－9 会議の参加者（複数回答）

（％）

		調査数 (n)	校長	副校長・教頭	学年主任	担任教諭	生徒指導教諭	養護教諭	SSW	SC	外部の関係機関	その他	無回答
スクリーニング会議	小学校	33	87.9	87.9	60.6	81.8	81.8	78.8	12.1	18.2	3.0	15.2	3.0
	中学校	137	75.2	80.3	59.1	40.9	77.4	67.9	25.5	49.6	12.4	36.5	2.9
	全日制高校	24	33.3	79.2	70.8	54.2	58.3	75.0	12.5	33.3	4.2	41.7	0.0
	通信制高校	5	60.0	100.0	40.0	80.0	80.0	60.0	80.0	40.0	0.0	40.0	0.0
ケース会議	小学校	196	91.8	96.4	61.2	92.3	66.3	75.5	24.0	26.0	20.9	23.5	1.5
	中学校	465	76.3	85.8	75.5	81.3	71.0	67.7	38.5	49.7	30.1	25.2	2.2
	全日制高校	110	28.2	80.0	87.3	88.2	50.9	87.3	26.4	55.5	10.0	40.9	0.9
	定時制高校	13	30.8	100.0	76.9	100.0	53.8	84.6	30.8	46.2	23.1	53.8	0.0
	通信制高校	8	37.5	87.5	25.0	87.5	37.5	25.0	50.0	75.0	12.5	37.5	12.5
生徒指導部・委員会など	小学校	164	70.1	73.2	53.7	71.3	83.5	75.0	7.3	17.7	1.8	18.9	6.1
	中学校	615	68.1	76.3	39.3	26.8	92.0	75.9	15.0	38.7	3.7	28.8	3.3
	全日制高校	104	31.7	66.3	70.2	55.8	77.9	74.0	7.7	18.3	1.0	30.8	4.8
	定時制高校	10	20.0	50.0	70.0	60.0	80.0	50.0	0.0	0.0	0.0	40.0	10.0
	通信制高校	12	25.0	75.0	50.0	58.3	83.3	41.7	8.3	16.7	0.0	41.7	8.3
その他	小学校	23	78.3	82.6	60.9	60.9	56.5	60.9	0.0	26.1	0.0	34.8	4.3
	中学校	72	58.3	65.3	54.2	22.2	54.2	61.1	6.9	25.0	1.4	50.0	13.9
	全日制高校	26	26.9	42.3	61.5	53.8	34.6	61.5	7.7	15.4	0.0	42.3	15.4
	通信制高校	7	28.6	71.4	28.6	71.4	57.1	42.9	14.3	14.3	0.0	71.4	0.0

※回答数の少ないものは掲載していない。※定時制高校、通信制高校は回答数が少ないため参考値。

図表－10 会議の頻度

(%)

		調査数 (n=)	2週間に 1回以上	月に1回 程度	半年に1 回程度	年に1回 程度	不定期	無回答
スクリーニング会議	小学校	33	24.2	39.4	21.2	6.1	0.0	9.1
	中学校	135	33.3	23.7	31.1	5.9	2.2	3.7
	全日制 高校	24	20.8	29.2	41.7	8.3	0.0	0.0
	通信制 高校	5	0.0	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0
ケース会議	小学校	196	8.7	45.4	28.6	4.1	0.0	13.3
	中学校	465	12.0	35.3	33.1	5.6	9.2	4.7
	全日制 高校	110	11.8	43.6	31.8	6.4	4.5	1.8
	定時制 高校	13	15.4	46.2	23.1	0.0	15.4	0.0
	通信制 高校	8	25.0	37.5	12.5	12.5	0.0	12.5
生徒指導部・委員会など	小学校	164	11.6	73.2	6.7	0.0	0.0	8.5
	中学校	615	74.1	18.5	0.8	0.3	0.0	6.2
	全日制 高校	104	30.8	45.2	13.5	1.9	1.0	7.7
	定時制 高校	10	10.0	60.0	10.0	0.0	0.0	20.0
	通信制 高校	12	16.7	33.3	25.0	0.0	0.0	25.0
その他	小学校	23	34.8	39.1	4.3	4.3	0.0	17.4
	中学校	72	48.6	30.6	6.9	0.0	0.0	13.9
	全日制 高校	26	42.3	19.2	19.2	3.8	0.0	15.4
	通信制 高校	7	28.6	42.9	14.3	0.0	0.0	14.3

※回答数の少ないものは掲載していない。

※定時制高校、通信制高校は回答数が少ないため参考値。

図表－11 体制の有無

(%)

		調査数 (n=)	ある	特にない	無回答
要保護児童対策地域協議会の登録ケース	小学校	260	58.8	30.8	10.4
	中学校	754	63.4	26.1	10.5
	全日制高校	249	32.5	57.0	10.4
	定時制高校	27	48.1	29.6	22.2
	通信制高校	35	37.1	45.7	17.1
不登校のケース	小学校	260	83.8	11.2	5.0
	中学校	754	87.9	7.3	4.8
	全日制高校	249	39.0	53.4	7.6
	定時制高校	27	37.0	48.1	14.8
	通信制高校	35	11.4	62.9	25.7
それ以外	小学校	260	38.1	23.8	38.1
	中学校	754	38.7	20.0	41.2
	全日制高校	249	43.0	38.2	18.9
	定時制高校	27	59.3	22.2	18.5
	通信制高校	35	57.1	28.6	14.3

※関係機関については、小学生調査とそれ以外で選択肢の項目が異なるため省略。

図表－12 「ヤングケアラー」の概念の認識

(%)

	調査数 (nⅡ)	言葉を知らない	言葉は聞いたことが あるが、具体的には 知らない	言葉は知っているが、 学校としては特別な 対応をしていない	言葉を知っており、学 校として意識して対 応している	無回答
小学校	260	0.4	6.2	51.2	41.5	0.8
中学校	754	25.7	15.1	37.9	20.2	1.1
全日制高校	249	21.3	15.7	53.0	9.6	0.4
定時制高校	27	7.4	18.5	48.1	22.2	3.7
通信制高校	35	14.3	17.1	65.7	0.0	2.9

図表－13 「ヤングケアラー」の実態把握の状況

(%)

	調査数 (nⅡ)	把握している	「ヤングケアラー」と思わ れる子どもはいるが、その 実態は把握していない	該当する子どもはいない (これまでもいなかった)	無回答
小学校	108	44.4	13.9	41.7	0.0
中学校	152	61.2	13.2	24.3	1.3
全日制高校	24	45.8	37.5	12.5	4.2

※回答数の少ないものは掲載していない。

図表－14 「ヤングケアラー」の実態把握の方法(複数回答)

(%)

	調査数 (n=)	アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている	特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を 持つて検討・対応している	その他	無回答
小学校	48	6.3	89.6	10.4	2.1
中学校	93	7.5	86.0	14.0	3.2
全日制高校	11	9.1	81.8	18.2	0.0

※回答数の少ないものは掲載していない。

図表－15 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無

(%)

	調査数 (n=)	いる	いない	分からない	無回答
小学校	260	34.2	43.5	21.9	0.4
中学校	754	46.6	34.0	19.4	0.1
全日制高校	249	49.8	16.5	33.3	0.4
定時制高校	27	70.4	11.1	18.5	0.0
通信制高校	35	60.0	8.6	31.4	0.0

図表－16 ヤングケアラーと思われる子どもの状況（複数回答）

（％）

	小学校 (n=89)	中学校 (n=351)	全日制高校 (n=124)	定時制高校 (n=19)	通信制高校 (n=21)
障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている	19.1	29.3	56.5	73.7	66.7
家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている	79.8	79.8	70.2	94.7	71.4
家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている	7.9	10.0	16.1	21.1	33.3
目を離せない家族の見守りや声掛けをしている	9.0	5.7	13.7	21.1	23.8
家族の通訳をしている	22.5	23.4	36.3	47.4	38.1
家計を支えるために、アルバイト等をしている	－	0.6	64.5	78.9	81.0
アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している	3.4	11.1	16.1	31.6	28.6
病気の家族の看病をしている	6.7	7.1	13.7	36.8	52.4
障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている	4.5	10.3	20.2	26.3	38.1
障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている	1.1	2.6	2.4	0.0	9.5
その他	3.4	5.1	4.8	0.0	9.5
無回答	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0

図表－17 外部の支援につないだケースの有無（複数回答）

（％）

	調査数 (n=)	要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある	要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある	外部の支援にはつないでいない (学校内で対応している)	無回答
小学校	89	25.8	33.7	42.7	1.1
中学校	351	19.4	43.0	37.9	1.7
全日制高校	124	8.1	23.4	62.9	5.6
定時制高校	19	15.8	31.6	52.6	0.0
通信制高校	21	9.5	28.6	52.4	14.3

図表－18 ヤングケアラーがいるか分からない理由(複数回答)

(%)

	小学校 (n=57)	中学校 (n=146)	全日制高校 (n=83)	通信制高 校 (n=11)
学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している	28.1	48.6	45.8	36.4
不登校やいじめなどに比べ緊急度が低い ため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握 が後回しになる	12.3	23.3	16.9	9.1
家族内のことで問題が表に出にくく、実態の 把握が難しい	89.5	87.7	81.9	100.0
ヤングケアラーである子ども自身やその家族 が「ヤングケアラー」という問題を認識してい ない	31.6	44.5	37.3	63.6
その他	7.0	4.8	8.4	0.0
無回答	3.5	1.4	3.6	0.0

※通信制高校は回答数が少ないため参考値。

図表－19 ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと(複数回答)

(%)

	小学校 (n=260)	中学校 (n=754)	全日制 高校 (n=249)	定時制 高校 (n=27)	通信制 高校 (n=35)
子ども自身がヤングケアラーについて知 ること	75.0	69.2	76.7	70.4	80.0
教職員がヤングケアラーについて知ること	85.0	86.6	83.5	77.8	77.1
学校にヤングケアラーが何人いるか把握 すること	53.8	51.1	43.0	29.6	31.4
SSW や SC などの専門職の配置が充実 すること	64.6	61.0	57.0	70.4	51.4
子どもが教員に相談しやすい関係をつく ること	76.9	73.9	66.3	66.7	68.6
ヤングケアラーについて検討する組織を 校内につくること	21.2	17.1	10.8	3.7	11.4
学校にヤングケアラー本人や保護者が 相談できる窓口があること	44.2	34.7	28.5	25.9	22.9
学校がヤングケアラーの支援について相 談できる機関があること	56.2	54.9	47.4	63.0	57.1
ヤングケアラーを支援する NPO などの 団体が増えること	26.2	23.3	16.9	25.9	34.3
福祉と教育の連携を進めること	16.5	19.2	16.1	7.4	25.7
その他	3.1	3.3	4.0	0.0	2.9
特になし	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0
無回答	6.5	2.7	6.8	11.1	8.6

2. 子ども・若者本人を対象とした調査結果の一覧

以下に、小学生、中学生、高校生、大学生を対象に行ったアンケート調査結果のうち、共通する設問について回答を一覧で並べる。ただし、各調査の実施時期および実施方法が異なることから、単純な比較をすることは難しい点には留意が必要である。

図表－20 性別

	(n Ⅱ 調査数)	男性	女性	その他	く 答 え な い	(%) 無 回 答
小学6年生	9,759	47.5	49.9	0.4	1.5	0.8
中学2年生	5,558	43.7	55.2	1.0		0.1
全日制高校2年生	7,407	42.8	55.8	1.3		0.1
定時制高校2年生相当	366	48.9	49.2	1.9		0.0
通信制高校生	446	31.8	63.9	3.6		0.7
大学3年生	9,679	35.7	62.0	1.0	1.4	0.0

図表－21 居住地

	(n Ⅱ 調査数)	北海道	東北	関東	北陸	東山	東海	近畿	中国	四国	南九州	北九州	(%) 無 回 答
中学2年生	5,558	2.4	3.5	25.8	3.2	5.0	11.0	12.6	2.4	3.0	15.1	7.2	8.8
全日制高校2年生	7,407	1.6	10.7	32.0	2.0	5.9	11.4	11.5	4.1	1.0	4.4	4.4	11.1
定時制高校2年生相当	366	0.5	6.3	17.5	6.3	9.8	15.3	4.4	1.9	11.2	6.3	6.0	14.5
通信制高校生	446	0.0	20.9	19.5	4.0	10.5	0.9	8.7	16.4	6.3	5.6	6.3	0.9
大学3年生	9,679	3.2	6.9	39.0	2.9	4.0	8.7	15.4	9.0	0.8	6.2	3.7	0.3

※地域区分 北海道：北海道

東北：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

関東：茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

北陸：新潟、富山、石川、福井

東山：山梨、長野、岐阜

東海：静岡、愛知、三重

近畿：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

中国：鳥取、島根、岡山、広島、山口

四国：徳島、香川、愛媛、高知

北九州：福岡、佐賀、長崎、大分

南九州：熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

図表－22 同居家族(複数回答)

(%)

	(nⅡ) 調査数	母親	父親	祖母	祖父	兄・姉	弟・妹	その他	無回答
小学6年生	9,759	97.4	87.3	16.3	11.0	48.2	48.8	2.5	0.4
中学2年生	5,558	97.5	85.4	16.5	10.9	43.7	50.7	1.9	0.3
全日制高校2年生	7,407	95.5	81.3	20.8	13.4	36.9	50.5	3.0	0.2
定時制高校2年生相当	366	94.3	72.7	18.6	10.7	39.1	48.1	3.8	0.3
通信制高校生	446	85.9	65.0	21.5	13.0	32.3	42.8	11.0	0.9
大学3年生	5,734	94.6	80.9	16.2	9.2	24.9	44.6	2.9	－

※通信制高校生は、「その他」に「一緒に住んでいる家族はいない(友達等との同居、寮生活等を含む)」を含めている。

図表－23 家族構成

(%)

	調査数(nⅡ)	二世 代世帯	三世 代世帯	ひとり 親家庭	寮・施設 一人暮らし・	その他の 世帯	無回答
中学2年生	5,558	70.1	12.8	14.6	0.1	2.2	0.3
全日制高校2年生	7,407	61.6	15.8	18.7	0.5	3.2	0.2
定時制高校2年生相当	366	55.7	13.4	26.0	1.1	3.6	0.3
通信制高校生	446	44.8	20.9	23.8	2.0	7.6	0.9
大学3年生	9,679	39.3	9.7	8.6	39.6	2.8	－

図表－24 健康状態

(%)

	調査数(nⅡ)	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
小学6年生	9,759	66.9	15.1	15.1	2.2	0.2	0.5
中学2年生	5,558	56.7	19.6	19.1	3.8	0.6	0.2
全日制高校2年生	7,407	44.9	22.4	27.2	4.5	0.8	0.2
定時制高校2年生相当	366	35.5	18.0	37.2	7.4	1.9	0.0
通信制高校生	446	17.9	15.0	46.0	14.8	2.9	3.4
大学3年生(身体面)	9,679	40.8	26.9	23.8	7.4	1.1	－
大学3年生(精神面)	9,679	25.9	21.8	28.8	18.6	4.9	－

図表－25 現在在籍している学校に入学した理由(複数回答)

											(%)		
	調査数(n＝)	(登校頻度など)	学習スタイルが自分に合っている	授業内容が提供されている	自分に合った授業内容が提供されている	集団生活に入らなくてもよい	等と両立しやすい	仕事やアルバイト、自分のやりたいこと等と両立しやすい	家族の世話や介護と両立しやすい	全日制高校に通っていたが辞めた	高校進学が過去になかった	その他	無回答
通信制高校生	446	61.9	11.0	49.1	42.4	3.4	44.2	2.0	6.5	0.4			

図表－26 全日制高校を辞めた理由(複数回答)

(%)

	調査数(nⅡ)	通学スタイルが 自分に合わなかった (登校頻度など)	授業内容が 自分に合わなかった	集団生活が 自分に合わなかった	経済的な理由で 通えなくなった	家族の世話や介護を する必要があった	トラブル等が理由で 退学になった	その他
通信制高校生	197	34.5	18.8	54.3	3.0	2.0	11.2	27.4

図表－27 出席状況

(%)

	調査数 (nⅡ)	ほとんど 欠席しない	たまに 欠席する	よく 欠席する	無回答
小学6年生	9,759	84.8	13.1	1.9	0.2
中学2年生	5,558	82.6	8.0	9.4	0.1
全日制高校2年生	7,407	74.3	12.2	13.4	0.1
定時制高校2年生相当	366	55.7	24.6	19.7	0.0
大学3年生	9,679	69.8	17.0	13.2	—

図表－28 遅刻や早退の状況

(%)

	調査数 (nⅡ)	ほとんど しない	たまにする	よくする	無回答
小学6年生	9,759	87.3	9.9	2.4	0.4
中学2年生	5,558	88.8	8.7	2.4	0.1
全日制高校2年生	7,407	83.5	13.7	2.6	0.2
定時制高校2年生相当	366	60.1	31.4	8.5	0.0
大学3年生	9,679	83.9	13.8	2.3	—

図表－29 部活動への参加状況

(%)

	調査数 (n＝)	参加 している	参加 していない	無 回答
小学校6年生	9,759	72.6	26.9	0.6
中学2年生	5,558	87.9	11.7	0.4
全日制高校2年生	7,407	74.1	25.7	0.3
定時制高校2年生相当	366	42.3	57.1	0.5
通信制高校生	446	10.1	89.7	0.2
大学3年生	9,679	52.2	47.8	－

※小学生調査では「習い事などへの参加状況」として聞いている。

※大学生は、「時間を希望通りに確保できているか」の設問で、「希望しておらず実施・参加していない」を「参加していない」、それ以外を「参加している」とみなした。

図表－30 普段の学校生活等であてはまること(複数回答)

(%)

	調査数 (n＝)	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題が できていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければいけない書類 などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を 欠席する	保健室で過ごすことが多い	1人で過ごすことが多い 学校では	友人と遊んだり、おしゃべり したりする時間が少ない	特 に な い	無 回 答
小学校6年生	9,759	4.9	7.5	18.6	1.5	13.7	0.5	0.8	4.9	13.1	60.9	2.2
中学2年生	5,558	12.7	12.3	13.2	5.3	14.1	0.7	1.3	6.9	7.0	62.7	1.9
全日制高校2年生	7,407	39.7	17.6	12.7	4.8	15.3	1.6	0.9	6.8	7.1	42.9	1.5
定時制高校2年生相当	366	35.0	19.1	15.0	8.5	20.2	2.7	1.6	14.5	13.9	37.4	0.5
大学3年生	9,679	※7.3	※20.8	6.5	※5.2	10.3	※2.5	－	25.3	28.1	44.3	－

※大学生は、選択肢名がやや異なり、「授業を欠席しがちである」、「課題や予習復習ができていないことが多い」「部活・サークル等を休むことが多い」「合宿等の行事を欠席する」。

図表－31 現在の悩みや困りごと(複数回答)

(小学生調査)

(%)

	全 体	友 達 の こ と	学 校 の 成 績 の こ と	習 い 事 の こ と	家 族 の こ と	生 活 や 勉 強 に 必 要 な お 金 の こ と	自 分 の た め に 使 え る 時 間 が 少 な い こ と	そ の 他	特 に な い	無 回 答
小学6年生	9,759	12.1	11.9	5.3	5.7	3.8	4.0	4.5	68.9	2.2

(中学生・大学生調査)

(%)

	調 査 数 (n=)	友 人 と の 関 係 の こ と	学 業 成 績 の こ と	進 路 の こ と	部 活 動 の こ と	学 費 (授 業 料) な ど 学 校 生 活 に 必 要 な お 金 の こ と	塾 (通 信 含 む) や 習 い 事 が で き な い	家 庭 の 経 済 的 状 況 の こ と
中学2年生	5,558	15.6	33.7	37.2	14.9	3.0	2.1	4.3
全日制高校2年生	7,407	12.3	38.5	53.7	13.0	6.7	1.5	7.1
定時制高校2年生相当	366	16.4	29.0	54.1	6.3	10.4	1.6	12.3
通信制高校生	446	10.5	20.6	60.5	0.4	9.9	2.5	16.6
大学3年生	9,679	15.0	24.6	77.2	8.3	21.7	※5.1	17.0

	調 査 数 (n=)	自 分 と 家 族 と の 関 係 の こ と	家 族 内 の 人 間 関 係 の こ と (両 親 の 仲 が 良 く な い な ど)	病 気 や 障 が い の あ る 家 族 の こ と	自 分 の た め に 使 え る 時 間 が 少 な い	そ の 他	特 に な い	無 回 答
中学2年生	5,558	6.3	4.5	1.9	5.8	3.4	41.0	1.7
全日制高校2年生	7,407	5.9	4.8	1.5	8.0	2.6	27.4	1.7
定時制高校2年生相当	366	10.1	8.7	3.0	6.3	3.6	28.4	1.6
通信制高校生	446	15.7	13.5	4.9	5.8	7.2	25.1	0.7
大学3年生	9,679	10.5	8.6	4.3	16.5	4.2	11.0	^

※大学生は、選択肢名がやや異なり、「課外活動や習い事ができないこと」。ほかに独自の選択肢として、「アルバイト・仕事のこと」が24.3%であった。

図表－32 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

(%)

	調査数 (n)	相談相手や話を聞いてくれる人がいる	相談相手や話を聞いてくれる人がいない	相談相手や話をしたくない	無回答
小学校6年生	2,825	62.5	9.6	25.9	2.0
中学2年生	3,184	72.4	4.6	22.6	0.5
全日制高校2年生	5,254	74.6	4.9	19.9	0.5
定時制高校2年生相当	256	67.6	7.4	24.2	0.8
通信制高校生	331	56.8	11.8	29.9	1.5
大学3年生	8,611	52.5	35.5	7.0	4.9

図表－33 世話をしている家族の有無

(%)

	調査数 (n)	いる	いない	無回答
小学校6年生	9,759	6.5	93.5	－
中学2年生	5,558	5.7	93.6	0.6
全日制高校2年生	7,407	4.1	94.9	0.9
定時制高校2年生相当	366	8.5	89.9	1.6
通信制高校生	445	11.0	88.1	0.9
大学3年生	9,679	6.2	※93.8	－

※通信制高校生について、本設問は18歳以下、19歳以上の年齢別に聞いており、年齢の設問に無回答であった1名は回答の対象外となっている。

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計。19歳以上は「いた（現在はお世話をしていない）」、「現在まで継続してお世話をしている」が「いる」に含まれる。

※大学生は「いない」の中に、「現在はいないが、過去にいた」人が4.0%含まれる。

図表－34 世話を必要としている家族(複数回答)

(%)

	(調査数 nⅡ)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
小学校6年生	631	19.8	13.2	10.3	5.5	71.0	1.9	5.7
大学3年生	987	35.4	20.5	32.8	17.2	26.5	4.7	—

※大学生は「現在いる」「現在はいないが、過去にいた」人の合計値

(%)

	(調査数 nⅡ)	父母	祖父母	きょうだい	その他	無回答
中学2年生	319	23.5	14.7	61.8	3.8	9.4
全日制高校2年生	307	29.6	22.5	44.3	5.5	8.8
定時制高校2年生相当	31	35.5	16.1	41.9	12.9	9.7
通信制高校生	49	32.7	22.4	42.9	12.2	0.0

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

図表－35 父母の状況(複数回答)

(%)

	調査数(nⅡ)	高齢(65歳以上)	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患(疑い含む)	依存症(疑い含む)	精神疾患、 依存症以外 の病気	日本語を第一言語としない	その他	わからない	無回答
小学校6年生	138	5.1	3.6	0.7	8.0	0.7	8.7	2.9	5.1	10.9	19.6	33.3	15.2
大学3年生(母親)	349	7.7	8.3	2.0	11.5	2.0	28.7	5.7	14.9	14.9	23.5	—	—
大学3年生(父親)	202	16.3	11.4	2.5	10.9	1.5	11.4	8.4	13.9	16.8	22.8	—	—

(%)

	調査数(nⅡ)	高齢(65歳以上)	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患、 依存症 (疑い含む)	精神疾患、 依存症以外 の病気	その他	無回答
中学2年生	75	13.3	6.7	5.3	20.0	5.3	17.3	12.0	18.7	32.0
全日制高校2年生	91	13.2	9.9	4.4	15.4	3.3	14.3	7.7	17.6	37.4
定時制高校2年生相当	11	9.1	18.2	0.0	0.0	9.1	9.1	9.1	27.3	45.5
通信制高校生	16	0.0	0.0	0.0	18.8	0.0	62.5	18.8	31.3	0.0

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

図表－36 父母への世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数(n=)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護(入浴や トイレのお世話など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を 聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
中学2年生	75	73.3	17.3	38.7	10.7	22.7	24.0	8.0	12.0	5.3	2.7	9.3
全日制高校2年生	91	68.1	9.9	26.4	4.4	17.6	15.4	7.7	12.1	7.7	1.1	13.2
定時制高校2年生相当	11	72.7	0.0	18.2	9.1	36.4	18.2	9.1	27.3	18.2	0.0	18.2
通信制高校生	16	75.0	6.3	43.8	25.0	56.3	25.5	0.0	25.0	0.0	6.3	0.0
大学3年生(母親)	349	69.9	7.2	24.6	13.2	42.7	23.5	3.4	10.0	7.7	5.2	—
大学3年生(父親)	202	56.9	9.9	15.8	13.9	19.3	20.3	2.5	9.9	8.9	8.4	—

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

※小学生調査では、対象者に関わらず世話の内容を聞いている。対象者毎の世話の内容はクロス集計を参照のこと。

※大学生は、ほかに「家計を助ける」が母は17.2%、父は18.3%。

図表－37 祖父母の状況(複数回答)

(%)

	調査数(n=)	高齢(65歳以上)	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患(疑い含む)	依存症(疑い含む)	精神疾患、依存症以外 の病気	日本語を第一言語としない	その他	わからない	無回答
小学校6年生	81	63.0	21.0	19.8	11.1	1.2	0.0	1.2	12.3	2.5	4.9	11.1	14.8
大学3年生(母親)	324	84.0	39.5	32.1	14.2	0.6	4.3	0.6	3.4	1.9	4.3	—	—
大学3年生(父親)	170	84.1	40.0	22.9	10.6	1.2	2.4	1.8	5.3	1.8	4.1	—	—

(%)

	調査数(n=)	高齢(65歳以上)	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患、依存症 (疑い含む)	精神疾患、依存症 以外の病気	その他	無回答
中学2年生	47	80.9	27.7	19.1	17.0	6.4	8.5	8.5	6.4	8.5
全日制高校2年生	69	76.8	33.3	23.2	17.4	7.2	5.8	8.7	8.7	5.8
通信制高校生	11	90.9	18.2	36.4	27.3	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

※定時制高校2年生相当はサンプル数が非常に少ないため掲載していない。

図表－38 祖父母への世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数(nⅡ)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護(入浴や トイレのお世話など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を 聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
中学2年生	47	42.6	14.9	40.4	4.3	29.8	57.4	2.1	10.6	14.9	4.3	8.5
全日制高校2年生	69	43.5	21.7	17.4	14.5	31.9	52.2	5.8	4.3	23.2	5.8	5.8
通信制高校生	11	63.6	18.2	27.3	27.3	27.3	54.5	9.1	0.0	9.1	18.2	0.0
大学3年生(祖母)	324	51.5	26.5	33.6	25.9	36.7	57.4	0.3	5.2	15.4	3.1	－
大学3年生(祖父)	170	48.2	26.5	29.4	28.8	28.2	56.5	1.2	4.1	11.8	2.4	－

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

※定時制高校2年生相当はサンプル数が非常に少ないため掲載していない。

※小学生調査では、対象者に関わらず世話の内容を聞いている。対象者毎の世話の内容はクロス集計を参照のこと。

図表－39 きょうだいの状況(複数回答)

(%)

	調査数(nⅡ)	幼い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患(疑い含む)	依存症(疑い含む)	精神疾患、依存症以外 の病気	日本語を第一言語としない	その他	わからない	無回答
小学校6年生	448	73.9	3.8	－	2.0	4.9	2.9			1.6	8.3	8.5	5.6
大学3年生	262	51.9	2.3	0.8	6.1	15.6	10.3	1.1	5.3	2.3	20.6	－	－

※小学生調査では、「精神疾患((疑い含む))」「依存症(疑い含む)」「精神疾患、依存症以外の病気」をまとめて「病気」という選択肢を設定。

(%)

	調査数(nⅡ)	幼い	身体障がい	知的障がい	精神疾患、依存症 (疑い含む)	外 精神疾患、依存症以 の病気	その他	無回答
中学2年生	197	73.1	5.6	14.7	4.6	0.5	5.6	9.6
全日制高校2年生	136	70.6	6.6	8.1	1.5	0.7	9.6	11.8
定時制高校2年生相当	13	46.2	0.0	23.1	7.7	0.0	7.7	15.4
通信制高校生	21	47.6	4.8	14.3	19.0	4.8	33.3	0.0

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

図表－40 きょうだいへの世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数(n)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や 保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴や トイレのお世話など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を 聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
中学2年生	197	37.6	34.0	20.8	21.3	2.0	21.3	68.0	3.0	2.5	3.0	5.1	5.1
全日制高校2年生	136	56.6	43.4	16.2	16.2	2.2	17.6	53.7	0.7	4.4	2.2	8.8	5.9
定時制高校2年生相当	13	38.5	46.2	7.7	38.5	15.4	15.4	46.2	7.7	15.4	0.0	0.0	15.4
通信制高校生	21	71.4	33.3	14.3	23.8	9.5	33.3	38.1	0.0	14.3	4.8	9.5	0.0
大学3年生	262	59.9	35.1	11.5	22.1	6.1	30.5	45.4	1.1	3.8	2.7	4.6	—

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

※小学生調査では、対象者に関わらず世話の内容を聞いている。対象者毎の世話の内容はクロス集計を参照のこと。

※大学生は、ほかに「家計を助ける」が6.9%。

図表－41 世話を一緒にしている人(複数回答)

(%)

	調査数(n)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス (ヘルパーなど)を利用	その他	無回答
小学校6年生	631	64.2	47.1	11.6	5.4	36.0	3.2	10.6	2.4	0.5	11.1
中学2年生	319	58.3	35.7	16.0	6.9	35.7	5.0	9.1	6.3	1.9	14.1
全日制高校2年生	307	52.1	28.3	11.4	4.9	34.5	7.2	11.4	7.2	1.3	16.3
定時制高校2年生相当	31	41.9	19.4	12.9	3.2	25.8	9.7	19.4	6.5	3.2	19.4
通信制高校生	49	46.9	24.5	20.4	2.0	32.7	0.0	14.3	12.2	2.0	0.0
大学3年生	987	52.9	36.2	11.8	5.6	27.3	7.4	20.0	14.1	1.3	—

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

図表－42 世話を始めた年齢

(%)

	調査数 (nⅡ)	就学前	小学生 (低学年)	小学生 (高学年)	中学生以降	無回答
小学6年生	631	17.3	30.9	40.4	—	11.4
中学2年生	319	8.8	16.3	34.2	12.5	28.2
全日制高校2年生	307	6.2	9.4	13.0	37.8	33.6
定時制高校2年生相当	31	3.2	0.0	25.8	29.0	41.9
通信制高校生	49	8.2	8.2	18.4	63.3	2.0
大学3年生	987	9.2	8.4	11.1	71.2	—

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

図表－43 世話をしている頻度

(%)

	調査数 (nⅡ)	ほぼ毎日	3週に 1～5日	1週に 1～2日	数日 1か月に	その他	無回答
小学校6年生	631	52.9	16.0	14.4	5.5	1.4	9.7
中学2年生	319	45.1	17.9	14.4	4.7	4.1	13.8
全日制高校2年生	307	47.6	16.9	10.4	6.8	2.0	16.3
定時制高校2年生相当	31	35.5	12.9	16.1	3.2	12.9	19.4
通信制高校生	49	65.3	26.5	2.0	2.0	2.0	2.0
大学3年生	987	45.9	21.5	14.9	15.4	2.3	—

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

図表－44 世話に費やす時間(平日1日あたり)

(%)

	調査数 (nⅡ)	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答
小学校6年生	631	52.4	22.8	7.1	17.6
中学2年生	319	42.0	21.9	11.6	24.5
全日制高校2年生	307	35.8	24.4	10.7	29.0
定時制高校2年生相当	31	19.4	25.8	9.7	45.2
通信制高校生	49	30.6	34.7	24.5	10.2
大学3年生	987	68.8	24.8	6.4	—

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

図表－45 世話をしているために、やりたいけれどできていないこと(複数回答)

(%)

	調査数(n=)	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にな	無回答
小学校6年生	631	2.9	3.2	7.8	6.7	10.1	1.0	-	15.1	1.1	63.9	8.7
中学2年生	319	1.6	2.5	16.0	8.5	8.5	4.7	4.1	20.1	0.3	58.0	10.7
全日制高校2年生	307	1.0	2.9	13.0	11.1	11.4	2.3	5.5	16.6	1.6	52.1	16.0
定時制高校2年生相当	31	0.0	3.2	12.9	16.1	16.1	0.0	6.5	19.4	0.0	58.1	16.1

(%)

	調査数(n=)	学校に行きたい日に行けない	遅刻や早退をしてしまう	授業を受ける時間や課題をする時間、勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	当初通っていた学校を辞めた	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	アルバイトや仕事をする事ができない	その他	特にできていないことはない	無回答
通信制高校生	49	14.3	10.2	28.6	22.4	30.6	12.2	8.2	12.2	40.8	8.2	2.0	24.5	2.0

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計。

	調査数(n=)	大学の授業に行きたくても行けない	単位取得、進級・卒業できるか不安がある	課題・予習復習をする時間が取れない	留学に行けない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活動・サークル活動ができない	課外活動・習い事ができない	アルバイトができない	就職活動の時間が取れない	希望する就職先・進路の変更を考えざるを得ない	一人暮らしができるか不安がある	恋愛・結婚に対する不安がある	自分の時間が取れない	その他	特にな
大学3年生	987	2.8	8.0	8.5	4.4	12.9	9.9	2.9	3.1	7.4	11.4	13.6	15.9	14.4	20.1	3.5	51.9

図表－46 世話をすることを感じているきつさ(複数回答)

(%)

	調査数 (nⅡ)	身体的に きつい	精神的に きつい	時間的 余裕がない	特にきつさは 感じていない	無回答
小学校6年生	631	13.9	18.4	14.6	57.4	8.7
中学2年生	319	6.6	15.0	16.0	60.5	13.2
全日制高校2年生	307	6.5	19.9	16.9	52.1	16.0
定時制高校2年生相当	31	16.1	29.0	25.8	45.2	19.4
通信制高校生	49	18.4	40.8	34.7	32.7	2.0
大学3年生	987	16.3	42.4	31.8	41.8	—

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計。

図表－47 世話について相談した経験

(%)

	調査数 (nⅡ)	ある	ない	無回答
小学校6年生	631	17.3	76.1	6.7
中学2年生	319	21.6	67.7	10.7
全日制高校2年生	307	23.5	64.2	12.4
定時制高校2年生相当	31	32.3	51.6	16.1
通信制高校生	49	34.7	63.3	2.0
大学3年生	987	33.4	66.6	—

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

図表－48 世話についての相談相手(複数回答)

(%)

	調査数(nⅡ)	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	親戚(おじ、おばなど)	友人	学校の先生 (保健室の先生以外)	保健室の先生	スクールソーシャルワーカー やスクールカウンセラー	医師や看護師、 その他病院の人	福祉サービスの人	ヘルパーやケアマネ、 福祉サ―ビスの人	役所や保健センターの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
小学校6年生	109	78.9	10.1	40.4	13.8	5.5	3.7	1.8	－	－	1.8	4.6	1.8	0.0	
中学2年生	69	69.6	8.7	40.6	13.0	4.3	7.2	1.4	1.4	0.0	1.4	7.2	1.4	1.4	
全日制高校2年生	72	69.4	8.3	47.2	18.1	4.2	8.3	2.8	4.2	1.4	1.4	9.7	1.4	4.2	
定時制高校2年生相当	10	70.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	10.0	
通信制高校生	17	76.5	11.8	47.1	11.8	5.9	5.9	17.6	0.0	17.6	0.0	17.6	5.9	0.0	

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

	調査数(nⅡ)	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	親戚(おじ、おばなど)	友人	交際相手、配偶者	大学の指導教員	大学の学生相談室やキャリア支援室・保健センター	その他の大学の職員・機関	医師や看護師、その他病院の人	福祉サービスの人	ホームヘルパーやケアマネジャー、福祉サ―ビスの人	役所の人(自治体の保健センター等含む)	近所の人	SNS上での知り合い	その他
大学3年生	330	52.4	14.8	49.7	16.7	11.5	12.7	1.8	4.5	4.5	3.6	2.4	4.5	7.3	

図表－49 世話について相談したことがない理由(複数回答)

(%)

	調査数(nⅡ)	誰かに相談するほどの悩みではない	家族外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のこのため話にくい	家族のことを知られたくない	偏見を持たれたくない	家族に対して	相談しても状況が変わると思わない	その他	無回答
小学校6年生	480	72.7	－	4.2	4.6	5.4	－	－	13.3	4.0	10.8	
中学2年生	216	74.5	15.3	11.1	4.6	12.0	7.9	8.3	24.1	4.6	3.2	
全日制高校2年生	197	65.0	17.8	7.1	9.1	11.7	9.1	11.2	22.8	4.6	3.0	
定時制高校2年生相当	16	62.5	6.3	6.3	18.8	18.8	25.0	12.5	6.3	6.3	6.3	
通信制高校生	31	45.2	25.8	22.6	19.4	22.6	16.1	19.4	41.9	3.2	45.2	
大学3年生	657	52.5	20.2	12.5	11.6	19.3	12.5	10.7	33.0	3.8	－	

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計。

図表－50 世話について話を聞いてくれる人の有無

(%)

	調査数 (nⅡ)	いる	いない	無回答
小学校6年生	480	67.7	21.9	10.4
中学2年生	216	57.9	38.4	3.7
全日制高校2年生	197	60.9	36.0	3.0
定時制高校2年生相当	16	68.8	31.3	0.0
通信制高校生	31	38.7	61.3	0.0
大学3年生	657	55.4	44.6	-

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計。

図表－51 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援(複数回答)

(%)

	調査数 (nⅡ)	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい
小学校6年生	631	11.9	4.6	1.9	3.0	6.5	15.2	-	-
中学2年生	319	12.9	3.1	2.2	3.4	2.5	19.4	16.3	16.3
全日制高校2年生	307	16.6	2.9	3.3	2.6	3.6	17.9	17.3	17.3
定時制高校2年生相当	31	6.5	3.2	6.5	3.2	3.2	22.6	12.9	12.9
通信制高校生	49	24.5	14.3	8.2	8.2	4.1	42.9	20.4	20.4
大学3年生	987	21.7	10.6	5.9	7.4	2.5	26.2	28.3	28.3

	調査数 (nⅡ)	学校での勉強や受験勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	わからない	その他	特にない	無回答
小学校6年生	631	13.3	5.4	6.7	1.3	50.9	8.1
中学2年生	319	21.3	9.4	9.1	1.6	45.8	5.3
全日制高校2年生	307	18.9	14.7	6.2	0.7	39.7	6.5
定時制高校2年生相当	31	12.9	6.5	9.7	0.0	45.2	19.4
通信制高校生	49	24.5	20.4	2.0	6.1	36.7	0.0
大学3年生	987	18.5	23.4	28.3	2.5	26.2	10.2

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計。

※以下の設問については、小学生には質問していないため、小学生調査以外の結果を記す。

図表－52 自分はヤングケアラーにあてはまると思うか

(%)

	調査数 (nⅡ)	あてはまる	かつて当てはまっ たと思う	あてはまらない	わからない	無回答
中学2年生	5,558	1.8	－	85.0	12.5	0.7
全日制高校2年生	7,407	2.3	－	80.5	16.3	0.8
定時制高校2年生相当	366	4.6	－	68.0	26.8	0.5
通信制高校生	445	7.2	－	75.5	16.9	0.4
大学3年生	9679	2.9	5.0	86.5	5.6	－

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

図表－53 ヤングケアラーの認知度

(%)

	調査数 (nⅡ)	聞いたことがあり、 内容も知っている	聞いたことはあるが、 よく知らない	聞いたことはない	無回答
中学2年生	5,558	6.3	8.8	84.2	0.6
全日制高校2年生	7,407	5.7	6.9	86.8	0.6
定時制高校2年生相当	366	6.0	7.7	85.5	0.8
通信制高校生	446	8.1	7.8	83.9	0.2
大学3年生	9,679	46.5	15.1	38.4	－

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

図表－54 ヤングケアラーについて知ったきっかけ(複数回答)

(%)

	調査数 (nⅡ)	テレビや新聞、 ラジオ	雑誌や本	SNSや インターネット	掲示物 広報やチラシ、 揭示物	イベントや 交流会など	学校	友人・知人から 聞いた	その他	無回答
中学2年生	843	55.2	10.6	22.3	10.7	0.6	27.8	3.4	3.2	1.2
全日制高校2年生	930	51.2	7.6	28.2	6.7	1.0	32.7	3.0	2.2	1.9
定時制高校2年生相当	50	34.0	14.0	30.0	4.0	2.0	32.0	4.0	8.0	8.0
通信制高校生	71	60.6	7.0	46.5	1.4	1.4	14.1	2.8	1.4	1.4
大学3年生	5,965	66.6	8.4	38.7	3.6	1.1	31.4	3.8	1.9	－

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

小学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

I. 基本情報

問1. ご回答された方の役職をお教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）

1. 校長
2. 副校長・教頭
3. 主幹・主任教諭（具体的に： ）
4. 養護教諭
5. スクールソーシャルワーカー（SSW）
6. スクールカウンセラー（SC）
7. その他（ ）

問2. 貴校の所在地をお教えてください。

() 都・道・府・県

問3. 貴校の6年生の在籍者数をお教えてください。(令和3年5月1日時点)

() 人

Ⅱ. 支援が必要だと思われる子どもへの対応について伺います。

問4. SSW、SC の派遣・配置状況をお伺いします。

(1) SSW の派遣・配置状況 (あてはまる番号 1 つに○)

1. 週に 2～3 回以上派遣・配置されている
2. 週に 1 回程度派遣・配置されている
3. 月に数回以下で派遣・配置されている
4. 要請に応じて派遣される
5. その他 ()
6. 派遣・配置されていない

(2) SCの派遣・配置状況(あてはまる番号1つに○)

1. 週に2~3回以上派遣・配置されている
2. 週に1回程度派遣・配置されている
3. 月に数回以下で派遣・配置されている
4. 要請に応じて派遣される
5. その他 ()
6. 派遣・配置されていない

問5. 下記の子どもについて校内で共有しているケースはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 学校を休みがちである
2. 遅刻や早退が多い
3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある
5. 身だしなみが整っていない
6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを用意してもらえない
10. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
11. 校納金が遅れる、未払い
12. その他（ ）

問6. 問5のケースについて、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。最も多いケースでご回答ください。（あてはまる番号1つに○）

1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している →問 7 へ
2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している →問 7 へ
3. 個別に対応している（決まった検討体制はない） →問 8 へ

問7. 問6で「1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した方にお伺いします。校内ではどのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。

(1) 情報共有・対応の検討の方法等（あてはまる番号すべてに○）

1. スクリーニング会議（※）	5. 教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する
2. ケース会議	
3. 生活指導部・委員会など	抱える課題の解決に向けて調整役として活動する
4. 児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有	教職員の配置・指名
	6. その他（ ）

※ すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援の必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別を行う会議。

(2) (1)で「1.スクリーニング会議」「2.ケース会議」「3.生活指導部・委員会など」、「6. その他」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。また、会議の頻度はどれくらいですか（あてはまる欄に番号を記入）

	参加者	頻度
1. スクリーニング会議		
2. ケース会議		
3. 生活指導部・委員会など		
6. その他		

<参加者：選択肢>

1. 校長	7. SSW
2. 副校長・教頭	8. SC
3. 学年主任	9. 外部の関係機関
4. 担任教諭	()
5. 生活指導教諭	10. その他
6. 養護教諭	()

<頻度：選択肢>

1. 2週間に1回以上
2. 月に1回程度
3. 半年に1回程度
4. 年に1回程度

問8. 問6で「3. 個別に対応している（決まった検討体制はない）」と回答した方にお伺いします。問5のケースについて、貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について、具体的にお教えてください。

問9. 問5のケースについて、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択肢からお選びください。

	体制（1つに○）	関係機関（あてはまる数字を記入）
①要保護児童対策地域協議会の登録ケース	1. ある 2. 特にない	▶
②不登校のケース	1. ある 2. 特にない	▶
③それ以外	1. ある 2. 特にない	▶

＜関係機関：選択肢＞

1. 市区町村教育委員会	7. 児童相談所
2. 市区町村の福祉部門（4を除く）	8. 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所
3. 市区町村の保健部門	9. 障がい者相談支援事業所
4. 市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	10. 民生委員
5. 教育支援センター（適応指導教室）	11. 病院
6. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設	12. 警察や刑事司法関係機関
	13. その他（ ）

Ⅲ. ヤングケアラーについてお伺いします。

問10. 貴校では「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。（あてはまる番号1つに○）

1. 言葉を知らない →問 13 へ
2. 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない →問 13 へ
3. 言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない →問 13 へ
4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している →問 11 へ

問11. 問10で「4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。（あてはまる番号1つに○）

1. 把握している →問 12 へ
2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない →問 13 へ
3. 該当する子どもはいない（これまでもいなかった） →問 13 へ

問12. 問11で「1. 把握している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。（あてはまる番号すべてに○）

1. アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている
2. 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している
3. その他（ ）

(2) ヤングケアラーと思われる子どもについて、具体的に学校以外の外部（教育委員会、役所、要保護児童対策地域協議会など）の支援につないだケースはありますか。（**あてはまる番号すべてに○**）

- | |
|---|
| 1. 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある → (3) へ |
| 2. 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある → (3) へ |
| 3. 外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している） → (4) へ |

(3) **（2）で「1. 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」、「2. 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」と回答した方にお伺いします。**それぞれの該当する直近のケースについて、1件ずつ教えてください。

①要保護児童対策地域協議会に通告したケース

性別（1つに○）	1. 女性 2. 男性 3. その他（ ）	
学年	小学（ ）年	
学校生活の状況 （すべてに○）	(ア) 学校を休みがちである (ク) 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い (イ) 遅刻や早退が多い (ウ) 保健室で過ごしていることが多い (ケ) 学校に必要なものを用意してもらえない (エ) 精神的な不安定さがある (オ) 身だしなみが整っていない (コ) 修学旅行や宿泊行事等を欠席する (カ) 学力が低下している (サ) 校納金が遅れる、未払い (キ) 宿題や持ち物の忘れ物が多い (シ) その他（ ）	
家族構成 （すべてに○）	1. 母親 3. 祖母 5. きょうだい 2. 父親 4. 祖父 6. その他（ ）	
家庭でのケアの状況 （すべてに○）	①ケアの状況を把握しているか → はい・いいえ	
	②「はい」の場合、ケアの具体的な内容	
	a) ケアを必要としている人	b) ケアを必要としている人の状況
	1. 母親 1. 高齢（65歳以上） 7. 精神疾患（疑い含む） 2. 父親 2. 幼い 8. 依存症（疑い含む） 3. 祖母 3. 要介護（介護が必要な状態） 9. 7、8以外の病気 4. 祖父 4. 認知症 10. 日本語を第一言語としない 5. きょうだい 5. 身体障がい 11. その他（ ） 6. その他（ ） 6. 知的障がい 12. わからない	
c) ケアの内容		
1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯） 7. 見守り 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など 8. 通訳（日本語や手話など） 3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など） 9. 金銭管理 4. 外出の付き添い（買い物、散歩など） 10. 薬の管理 5. 通院の付き添い 11. その他（ ） 6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど） 12. わからない		

②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

性別（1つに○）	1. 女性 2. 男性 3. その他（ ）
学年	小学（ ）年
学校生活の状況 （すべてに○）	(ア) 学校を休みがちである (イ) 遅刻や早退が多い (ウ) 保健室で過ごしていることが多い (エ) 精神的な不安定さがある (オ) 身だしなみが整っていない (カ) 学力が低下している (キ) 宿題や持ち物の忘れ物が多い (ク) 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い (ケ) 学校に必要なものを用意してもらえない (コ) 修学旅行や宿泊行事等を欠席する (サ) 校納金が遅れる、未払い (シ) その他（ ）
家族構成 （すべてに○）	1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. その他（ ）
家庭でのケアの状況 （すべてに○）	①ケアの状況を把握しているか → はい・いいえ
	②「はい」の場合、ケアの具体的な内容
	<u>a) ケアを必要としている人</u> 1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. その他（ ） <u>b) ケアを必要としている人の状況</u> 1. 高齢（65歳以上） 2. 幼い 3. 要介護（介護が必要な状態） 4. 認知症 5. 身体障がい 6. 知的障がい 7. 精神疾患（疑い含む） 8. 依存症（疑い含む） 9. 7、8以外の病気 10. 日本語を第一言語としない 11. その他（ ） 12. わからない
	<u>c) ケアの内容</u> 1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯） 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など 3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など） 4. 外出の付き添い（買い物、散歩など） 5. 通院の付き添い 6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど） 7. 見守り 8. 通訳（日本語や手話など） 9. 金銭管理 10. 薬の管理 11. その他（ ） 12. わからない
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ	
つないだ機関	
外部機関へのつながり方	1. 市区町村教育委員会経由 2. 学校から直接連絡 3. その他（ ）
学校で行った支援 （つながり先との連携も含めて）	
支援した結果、子どもへの変化	

- (4) (2)で「3. 外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している)」と回答した方にお伺いします。外部の支援につながなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのかお教えてください。

理由	
対応方法	

- (5) ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

- (6) ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

- (7) 問5の選択肢は、「ヤングケアラー」と思われる子どもを把握するためのチェック項目として作成したのですが、追加すべき項目や分かりにくい点や案があればお書きください。

ご意見	
変更項目案	
追加項目案	

<参考：問5の選択肢>

☐ 学校を休みがちである ☐ 遅刻や早退が多い ☐ 保健室で過ごしていることが多い ☐ 精神的な不安定さがある ☐ 身だしなみが整っていない ☐ 学力が低下している ☐ 宿題や持ち物の忘れ物が多い	☐ 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い ☐ 学校に必要なものを用意してもらえない ☐ 修学旅行や宿泊行事等を欠席する ☐ 校納金が遅れる、未払い

問15. 問13で「3. 分からない」と回答した方にお伺いします。その理由をお教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している 2. 不登校やいじめなどに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる 3. 家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい 4. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない 5. その他 ()

問16. ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
2. 教職員がヤングケアラーについて知ること
3. 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
4. SSW や SC などの専門職の配置が充実すること
5. 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
6. ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
7. 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
8. 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
9. ヤングケアラーを支援する NPO などの団体が増えること
10. 福祉と教育の連携を進めること（具体的に：)
11. その他（
12. 特になし

問17. ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。

★令和4年2月～3月ごろに、学校での取り組みについてヒアリングを予定しています。ヒアリングにご協力いただける場合は、学校名をご記入ください。別途ご連絡させていただきます。

所在地： (市・町・村)

学校名：

連絡先 電話：

メールアドレス：

ヤングケアラーの子どもは、「宿題や忘れ物が多い」「授業中に疲れて眠ってしまう」といった普段とは違う様子が見られることに学校の先生が気づいたことで、支援につながる例が数多くあります。子どもがケアを担っている家庭には、それぞれ様々な事情があり、適切な支援を行うにはスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、要保護児童対策地域協議会などに加え、医療や介護、福祉分野の関係機関との連携も必要となるかもしれません。ヤングケアラーを支援するための仕組みづくりは多くの自治体で緒に就いたばかりかと思いますが、子どもたちの権利が守られるよう、ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

アンケートにご回答いただき、誠にありがとうございました。

小学生の生活についてのアンケート調査

保護者の皆様

この度、厚生労働省の補助事業として、全国の公立小学校から無作為に 350 校程度の学校を選び、その学校に通っている小学 6 年生を対象に、**学校や家庭での生活の中で抱える悩みや困りごと、家族のお世話の状況などをお聞かせいただき、その解決に必要な支援策を検討するためにアンケート調査を実施します。**例えば介護や看病が必要な家族を抱えながら、あるいは保護者ご自身が病気や障がいを抱えながら子育てをしている方は多くいらっしゃると思います。それは簡単なことではなく、どうしても子どもにお世話を手伝ってもらうことが出てくるかもしれません。そのような時に、保護者や子どもたちが困難を抱え込まずに済むよう、どのような支援が可能かを検討していきたいと考えており、今回はそのための調査となります。

調査は無記名で行い、回答しなくてもお子様に不利益は全くありません。ご回答いただける場合でも、答えにくい質問は答えなくてもかまいません。無理のない範囲でお答えいただくようお願いしています。回答内容は全て統計的に処理しますので、お子様の回答が特定されたり、外部に知られることはありません（ただし、無記名のため、一度ご回答いただいた内容を修正したり、取り消すことはできません）。ご回答いただいた内容は、厳重に保管し、本調査研究や関連する調査研究事業、学術研究の目的以外には使用いたしません。

本アンケート調査は、弊社（株式会社日本総合研究所）が、厚生労働省の令和 3 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業の補助を受け、実施しています。集計結果を含めた報告書は、個々の回答が特定できないように編集し、弊社ホームページなどで公表します。

【調査の概要】

本調査は、お子様ご自身に回答いただくものです。

所用時間は 10～20 分程度です。

主な調査項目として、学校や家庭での生活の状況、悩みや困りごとなどをお聞きします。

回答いただいた調査用紙（本紙）は、別途お渡ししております封筒に入れ、ポストへ投函をお願いいたします。（切手は不要です。）

回答期限（投函期限）は、2022 年 1 月 31 日（月）です。

ぜひお子様の調査へのご協力にご理解をお願いします。

◆本調査の実施事業者

株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門

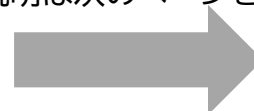
【本調査に関するお問合せ先】

「小学生の生活についてのアンケート調査」事務局

電話番号：0120-917-210 （受付時間：平日 10 時～17 時）

メールアドレス：young-carers2021@surece.co.jp

ねんせい じどう みなさま せつめい つぎ
6年生の児童の皆様への説明は次のページを
かくにん
ご確認ください。



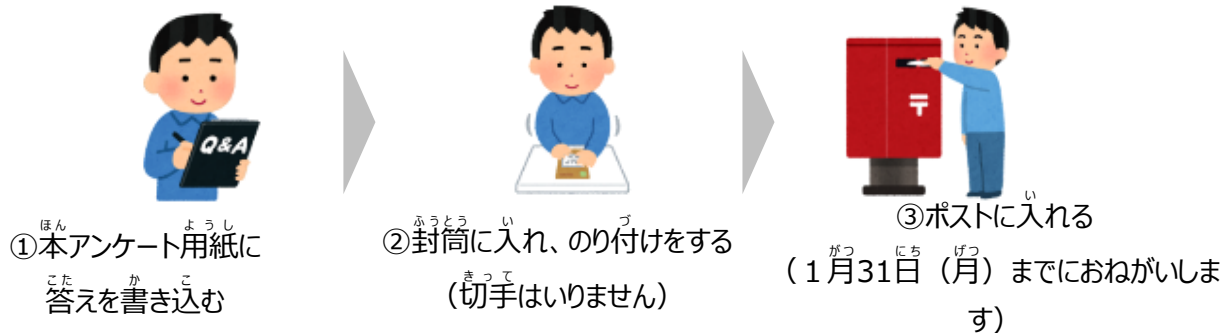
このアンケート調査を受け取った6年生の皆様へ

- このアンケート調査は、あなたのふだんの生活や困りごとをお聞きし、どのような支援があった方がよいか考えるために行うものです。
- このアンケート調査に回答するかどうかはあなたの自由です。
- 調査は名前を書かずに行いますので、あなたの回答が誰かに知られることはありません。
- この調査は、厚生労働省から補助を受け、株式会社日本総合研究所が実施します。
- みなさんの回答一つひとつが大切な意見です。ぜひご協力をおねがいします。

回答にかかる時間：10～20分程度

回答のしめ切り：2022年1月31日（月）

【回答の手順】



（参考）家族のお世話などについて悩みがある時に利用できる相談先のご案内

■ 24時間子供SOSダイヤル【文部科学省】

電話番号：0120-0-78310（通話無料）

受付時間：年中無休24時間受付

■ 児童相談所相談専用ダイヤル【厚生労働省】

電話番号：0120-189-783（通話無料）

受付時間：年中無休24時間受付

■ 子どもの人権110番【法務省】

電話番号：0120-007-110（通話無料）

受付時間：平日8:30-17:15

■ 子どもと家族の相談窓口【日本精神保健福祉士協会】

メールアドレス：kodomotokazoku@jamhsw.or.jp

受付時間：年中無休24時間受付

※相談先やこの調査についての説明をお手元にとっておきたい場合は、1枚目の紙を切り取ってもかまいません。

【 答 え 方 】

1. 答えは、問の後のあてはまる番号に○をつけてください。
2. 「その他」に○をした時は、()の中に自分で考えた答えを書いてください。
3. (あてはまる番号すべてに○)と書いている問は、思ったところすべてに○をつけてください。
4. 答えたくない問は答えず、次の問に進んでもかまいません。
5. このアンケートに回答することで、あなた個人が特定されたり、あなたの家族に連絡が入ったりすることはありませので、安心してお答えください。

I. 基本情報

問1. あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 男	2. 女	3. その他	4. 答えたくない

問2. あなたと一緒に住んでいるのは誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. お母さん	5. 兄・姉 ⇒ () 人
2. お父さん	6. 弟・妹 ⇒ () 人
3. おばあさん	7. その他 ()
4. おじいさん	

問3. あなたの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. よい	4. あまりよくない
2. まあよい	5. よくない
3. ふつう	

II. ふだんの生活について

問4. あなたは学校を欠席したり、遅刻や早退をしたりすることがありますか。

① 欠席について（あてはまる番号1つに○）

1. ほとんど欠席しない	2. たまに欠席する	3. よく欠席する

② 遅刻や早退について（あてはまる番号1つに○）

1. ほとんどしない	2. たまにする	3. よくする

問5. 放課後、習い事などをしていますか。（あてはまる番号1つに○）

1. はい	2. いいえ

問6. ふだんの学校生活などにおいて、以下の中であてはまるものはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 授業中に寝てしまうことが多い	7. 保健室で過ごすことが多い
2. 宿題ができていないことが多い	8. 学校では一人で過ごすことが多い
3. 持ち物の忘れ物が多い	9. 友達と遊んだり、おしゃべりしたりする
4. 習い事を休むことが多い	10. 時間が少ない
5. 提出物を出すのが遅れることが多い	
6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する	

問7. あなたが悩んでいることはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 友達のこと	5. 生活や勉強に必要なお金のこと
2. 学校の成績のこと	6. 自分のために使える時間が少ないこと
3. 習い事のこと	7. その他（ ）
4. 家族のこと	8. 特にない

②-b おばあさん、あるいはおじいさんをお世話している人にお聞きします。それはどのような理由
 ですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 高齢 (65歳以上)	7. 依存症 (お酒やギャンブルなどをやめられず、
2. 介護 (食事や身の回りのお世話) が必要	生活に問題を抱えている) ※ 疑い含む
3. 認知症	8. 6、7以外の病気
4. 身体障がい	9. 日本語が苦手
5. 知的障がい	10. その他 ()
6. こころの病気 (うつ病 など) ※ 疑い含む	11. わからない

②-c きょうだいをお世話している人にお聞きします。それはどのような理由
 ですか。(あてはまる
 番号すべてに○)

1. 幼い	5. 病気
2. 介護 (食事や身の回りのお世話) が必要	6. 日本語が苦手
3. 身体障がい	7. その他 ()
4. 知的障がい	8. わからない

②-d 「その他」の人をお世話している人にお聞きします。それはどのような理由ですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 高齢 (65歳以上)	8. 依存症 (お酒やギャンブルなどをやめられず、
2. 若い	生活に問題を抱えている) ※ 疑い含む
3. 介護 (食事や身の回りのお世話) が必要	9. 7、8以外の病気
4. 認知症	10. 日本語が苦手
5. 身体障がい	11. その他 ()
6. 知的障がい	12. わからない
7. こころの病気 (うつ病 など) ※ 疑い含む	

③あなたはどのようなお世話をしていますか。お世話をしている人が何人かいる場合には、あてはまる番号すべてに○をしてください。

1. 家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	7. 見守り
2. きょうだいのお世話や送り迎え	8. 通訳 (日本語や手話など)
3. 入浴やトイレのお世話	9. お金の管理
4. 買い物や散歩に一緒に行く	10. 薬の管理
5. 病院へ一緒に行く	11. その他 ()
6. 話を聞く	

1. お母さんかあ
2. お父さんとう
3. おばあさん
4. おじいさん
5. きょうだい
6. しんせきの人ひと
7. 自分じぶんのみ
8. 福祉ふくしサービス（ヘルパーなど）を利用りよう
9. その他た（ ）

()^{さい}才から

1. ほぼ毎日

2. 週に3～5日

3. 週に1～2日

4. 1ヶ月に数日

5. その他（ ）

1日（ ）時間くらい

問11. お世話せわをしていることで、以下い かのような経験けいけんをしたことはありますか。
(あてはまる番号ばんごうすべてに○)

1. 学校 がっこう を休 やす んでしまう	6. 習 なら い事 こと ができない
2. 遅刻 ちこく や早退 そうたい をしてしまう	7. 自分 じぶん の時間 じかん が取 と れない
3. 宿題 しゅくだい など勉強 べんきょう する時間 じかん がない	8. その他 た ()
4. 眠 ねむ る時間 じかん がたりない	9. 特 とく にない
5. 友だち とも と遊 あそ ぶことができない	

問12. お世話せわをするこたいへんに大変さかんを感じていますか。(あてはまる番号ばんごうすべてに○)

1. 体 たい 力 りよく の面 めん で大変 たいへん	3. 時間 じかん の余 よ 裕 ゆう がない
2. 気持 き ちの面 めん で大変 たいへん	4. 特 とく に大変さ たいへん は感 かん じていない

問13. あなたがお世話せわをしている家族かぞくのことや、お世話せわの悩なやみについて誰だれかに相談そうだんしたことはあ
りますか。(あてはまる番号ばんごう1 つに○)

1. ある ⇒ 問14 へ	2. ない ⇒ 問15 へ

問14. 問13 で「1. ある」と回答かいとうした人ひとにお聞ききします。それは誰だれですか。
(あてはまる番号ばんごうすべてに○)

1. 家族 かぞく (お父 とう さん、お母 かあ さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい)	6. スクールソーシャルワーカーや スクールカウンセラー
2. しんせき (おじ、おばなど)	7. 病 院 びやういん ・医 療 いりょう ・福 祉 ふくし サ ー ビ ス の人 ひと
3. 友だち とも	8. 近所 きんじょ の人 ひと
4. 学校 がっこう の先生 せんせい (保健室 ほけんしつ の先生 せんせい 以外 がい)	9. SNS 上 じょう での知 し り合 あ い
5. 保健室 ほけんしつ の先生 せんせい	10. その他 た ()

問15. 問13 で「2. ない」と回答した人にお聞きします。相談していない理由を教えてください。
(あてはまる番号すべてに○)

1. 相談するほどの悩みではないから	4. 家族のことを話したくないから
2. 誰に相談するのがよいかわからないから	5. 相談しても何も変わらないから
3. 相談できる人がいないから	6. その他 ()

問16. 問13 で「2. ない」と回答した人にお聞きします。あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。(あてはまる番号1 つに○)

1. いる	2. いない

問17. 学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分のことについて話を聞いてほしい	
2. 家族のお世話について相談にのってほしい	
3. 家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	
4. 自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい	
5. 自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい	
⇒具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか ()	
6. 自由に使える時間がほしい	9. その他 ()
7. 勉強を教えてほしい	10. 特にない
8. お金の面で支援してほしい	11. わからない

→「1. 自分のことについて話を聞いてほしい」「2. 家族のお世話について相談にのってほしい」を選んだ人は問18 へ
→それ以外の人は問19 へ

問18. 問17 で「1. 自分^{じぶん}のことについて 話^{はなし}を聞いてほしい」「2. 家族^{かぞく}のお世話^{せわ}について相談^{そうだん}にの
ってほしい」と回答^{かいとう}した人^{ひと}にお聞き^きします。どのような方法^{ほうほう}で 話^{はなし}を聞いたり相談^{そうだん}にのったりし
てほしいですか。 8

1. 直接 ^{ちよくせつ} 会 ^あ って	3. SNS	5. その他 ^た （ ）
2. 電話 ^{でんわ}	4. 電子 ^{でんし} メール	

問19. 家族^{かぞく}のお世話^{せわ}をしている子^こどものために、必要^{ひつよう}だと思^{おも}うことや、学校^{がっこう}や周り^{まわ}の大人^{おとな}にしても
らいたいこと（問17 で書き^かきれなかったことなど）を自由^{じゆう}に書^かいてください。

「大学生の生活実態に関するアンケート調査」調査票

※学生の皆さまにご回答いただく調査の内容は下記の通りです。（こちらは見本用の調査票であり、実際は携帯電話またはパソコンから回答いただきます。）

I. 基本情報

問1. あなたの性別を教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）

1. 男性 2. 女性 3. その他 4. 答えたくない

問2. あなたの年齢を教えてください。

() 歳

問3. 現在住んでいる都道府県を教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）

※47 都道府県の選択肢より回答

問4. 大学種別を教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）

1. 国立 2. 公立 3. 私立

問5. 大学の学科（専攻）を教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）

1. 文・外国語・国際・文化系	5. 看護・保健・福祉系
2. 法・政・経・商・社系	6. 教育・教員養成・家政・生活系
3. 理・工・農系	7. 芸術・スポーツ系
4. 医・歯・薬系	8. その他 ()

問6. 現在の住まい方を教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）

1. 家族と同居
2. 一人暮らし
3. 寮
4. その他 ()

問7. 問 6 で「1. 家族と同居」と回答した方にお聞きます。現在一緒に住んでいる家族について教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

1. 母親	5. 兄・姉 ⇒ () 人
2. 父親	6. 弟・妹 ⇒ () 人
3. 祖母	7. その他 ()
4. 祖父	

問8. あなたの健康状態について教えてください。

(1) 身体面の健康状態（あてはまる番号 1 つに○）

1. よい 2. まあよい 3. ふつう 4. あまりよくない 5. よくない

(2) 精神面の健康状態（あてはまる番号 1 つに○）

1. よい 2. まあよい 3. ふつう 4. あまりよくない 5. よくない

問9. 大学までの片道の通学時間を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 15分未満	5. 1時間以上 1時間半未満
2. 15分以上 30分未満	6. 1時間半以上 2時間未満
3. 30分以上 45分未満	7. 2時間以上
4. 45分以上 1時間未満	

問10. 奨学金の受給状況を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

(1) 奨学金の受給状況 (あてはまる番号1つに○)

1. 貸与・給付の両方を受けている	
2. 貸与奨学金を受けている (返済が必要)	
3. 給付奨学金を受けている (返済不要)	
4. 申請したが不採用になった	⇒問 11 へ
5. 希望はあったが申請しなかった・できなかった	
6. そもそも奨学金は必要なく、申請していない	

(2) (1) で「1. 貸与・給付の両方を受けている」「2. 貸与奨学金を受けている」と回答した方にお聞きます。

大学卒業時の予定貸与総額がわかれば教えてください。(任意)

貸与総額 () 円

Ⅱ. ふだんの生活についてお伺いします。

問11. 現在通う大学を選択した理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分のやりたいことができる・学べる	4. 学費が安い
2. 社会で役立つことが学べる	5. 時間的に講義等に出席しやすい
3. 実家から近い・通える範囲内にある	6. その他 ()

問12. 大学の授業 (履修している講義) への出席状況等について教えてください。

(1) 出席状況 (あてはまる番号1つに○)

1. ほとんど欠席しない	2. たまに欠席する	3. よく欠席する

(2) 遅刻や早退の状況 (あてはまる番号1つに○)

1. ほとんどしない	2. たまにする	3. よくする

問13. 日々の生活においてこれらに取り組む時間を希望通りに確保できていますか。（各項目について、希望がある場合は 1-5 の中から 1 つ選択してください。実施・参加の希望がなく実施・参加していない場合は、6 を選択してください）（各項目について、それぞれあてはまる番号 1 つを選択）

	1.確保できている	2.概ね確保できている	3.どちらともいえない	4.あまり確保できていない	5.確保できていない	6.希望しておらず実施・参加していない
1. 大学の授業の受講（ゼミ含む）	○	○	○	○	○	○
2. 大学の授業の予習復習、課題に取り組む時間	○	○	○	○	○	○
3. 部活・サークル	○	○	○	○	○	○
4. アルバイト・仕事	○	○	○	○	○	○
5. 就職活動（説明会、インターンへの応募・参加も含む）	○	○	○	○	○	○
6. 趣味・娯楽・交友	○	○	○	○	○	○

問14. ふだんの大学生活等において、以下の中であてはまるものはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 授業を欠席しがちである	6. 合宿等の行事を欠席する
2. 課題や予習復習ができていないことが多い	7. 大学では 1 人で過ごすことが多い
3. 持ち物の忘れ物が多い	8. 友人と遊んだり、話したりする時間が少ない
4. 部活・サークル等を休むことが多い	9. 特にない
5. 提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	

問15. 現在、悩んだり困っていることはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 友人との関係のこと	9. 自分と家族との関係のこと
2. 学業成績のこと	10. 家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）
3. 就職・進路のこと	11. 病気や障がいのある家族のこと
4. 部活動・サークル活動のこと	12. 自分のために使える時間が少ないこと
5. 学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと	13. その他（ ）
6. 課外活動や習い事ができないこと	14. 特にない
7. アルバイト・仕事のこと	
8. 家庭の経済的状況のこと	

問16. 問 15 で 1 ～13 のいずれかを回答した方にお聞きます。回答した悩みや困りごとについて、相談に乗ってもらったり、話を聞いてくれる人がいますか。（あてはまる番号 1 つに○）

1. 相談相手や話を聞いてくれる人がいる
2. 相談相手や話を聞いてくれる人がいない
3. 相談や話はしたくない

Ⅲ. 家庭や家族のことについてお伺いします。

問17. 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(ここで「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることです。)(**あてはまる番号 1 つ**に○)

1. 現在いる
2. 現在はいないが、過去にいた
3. 現在も過去もない ⇒ 問 30へ

問18. 問 17 で「1. 現在いる」、「2. 現在はいないが、過去にいた」と回答した方にお伺いします。お世話の状況について教えてください。

※「1. 現在いる」と回答した方のうち、現在お世話をしている人と、過去にお世話をしていた人が異なる場合は、現在お世話をしている人についてお答えください。

※「現在はいないが、過去にいた」方は、当時お世話をしていた人についてお答えください。

① お世話を必要としている方（あてはまる番号すべてに○）

1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. その他 ()

② お世話を必要としている方の状況やあなたが行っているお世話について教えてください。お世話を必要としている方が複数いる場合はそれぞれの方についてお答えください。

お世話を必要としている方
※お世話をしている人が複数
いる場合、それぞれについて回
答いただく

a) お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 高齢（65歳以上）	4. 認知症	8. 依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）
2. 若い	5. 身体障がい	
3. 要介護（介護が必要な状態）	6. 知的障がい	9. 7、8以外の病気
	7. 精神疾患（疑い含む）	10. その他（ ）

b) あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯）
2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など
3. 身体的な介護（入浴やトイレ、食事のお世話など）
4. 外出の付き添い（買い物、散歩など）
5. 通院の付き添い
6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）
7. 見守り
8. 通訳（日本語や手話など）
9. 金銭管理
10. 薬の管理
11. 家計を助ける（働く）
12. その他（ ）

★以下は、お世話を必要としている方が複数いる場合も、それぞれの方ごとではなく一括でお答えください。

③ お世話は誰と行っていますか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 母親	4. 祖父	7. 自分のみ
2. 父親	5. きょうだい	8. 福祉サービス（ヘルパーなど）を利用
3. 祖母	6. 親戚の人	9. その他（ ）

④ お世話をしている頻度を教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）		
1. ほぼ毎日	3. 週に 1 ～ 2 日	5. その他（ ）
2. 週に 3 ～ 5 日	4. 1 か月に数日	
⑤ 平日にお世話は何時間程度行っていますか。（日によって異なる場合は、この 1 か月の中で最も長かった日の時間をお答えください）		
1. 1 時間未満	3. 3 時間以上 5 時間未満	5. 7 時間以上
2. 1 時間以上 3 時間未満	4. 5 時間以上 7 時間未満	
⑥ お世話はいつから行っていますか。（はっきりとわからない場合は、だいたいでかまいません）（あてはまる番号 1 つに○）		
1. 小学校就学以前から	3. 小学校高学年（4－6 年生）から	5. 高校生から
2. 小学校低学年（1－3 年生）から	4. 中学生から	6. 大学入学以降
⑦ 問 17 で「2. 現在はいないが、過去にいた」と回答した方にお伺いします。いつまでお世話をしていましたか。（はっきりとわからない場合は、だいたいでかまいません）（あてはまる番号 1 つに○）		
1. 中学入学以前まで	3. 大学入学以前まで	5. 直近まで
2. 高校入学以前まで	4. 大学 1 年生まで	

問 19. 問 18⑥でお世話を始めた時期が「6. 大学入学以降」と回答した方以外にお伺いします。お世話をしていることで、大学進学の際に苦労したこと・影響を教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

1. 受験勉強をする時間が取れなかった	5. 進学するか働くか迷った
2. 学費等の制約や経済的な不安があった	6. 大学以外の進学先と迷った
3. 実家から通える範囲等の通学面の制約があった	7. その他（ ）
4. 家族等から世話を優先するよう求められた	8. 特にない

問 20. お世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたことはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 大学の授業に行きたくても行けなかった	9. アルバイトができなかった
2. 単位をとれなかった、留年・休学した	10. 就職先・進路の変更を考えざるを得なかった、変更した
3. 課題・予習復習をする時間が取れなかった	11. 一人暮らしをしたくてもできなかった
4. 留学をあきらめた	12. 恋愛をしたくてもできなかった
5. 睡眠が十分に取れなかった	13. 自分の時間が取れなかった
6. 友人と遊ぶことができなかった	14. その他（ ）
7. 部活動・サークル活動ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	15. 特になかった
8. 課外活動・習い事ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	

問 21. お世話をしていることで、今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなことはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 大学の授業に行きたくても行けない	9. 就職活動の時間が取れない
2. 単位取得、進級・卒業できるか不安がある	10. 希望する就職先・進路の変更を考えざるを得ない
3. 課題・予習復習をする時間が取れない	11. 一人暮らしができるか不安がある
4. 留学に行けない	12. 恋愛・結婚に対する不安がある
5. 睡眠が十分に取れない	13. 自分の時間が取れない
6. 友人と遊ぶことができない	14. その他（ ）

7. 部活や習い事ができない	15. 特にな
8. アルバイトができない	

問22. お世話をしていることで、就職に関し不安はありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 正社員として就職できるか不安がある	5. 就職先について考える時間がない
2. 休まず働けるか不安がある	6. その他 ()
3. 通勤できる地域が限られる	7. わからない
4. 働ける時間帯が限られる	8. 特にな

問23. お世話をすることにつくさを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 身体的につく	3. 時間的余裕がない
2. 精神的につく	4. 特につくさは感じていない

問24. ご自身がお世話をする理由をどのようにとらえていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分がお世話をしたいと思うため	4. ほかの家族や親せき等から世話をするよう言われているため
2. 自分がお世話をしないと家族が困るため	5. その他 ()
3. ほかにお世話をできる人がいないため	6. わからない・考えたことがない

問25. お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。(あてはまる番号 1 つに○)

- | |
|-------------|
| 1. ある ⇒問26へ |
| 2. ない ⇒問27へ |

問26. 問 25 で「1. ある」と回答した方にお聞きます。それは誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 家族 (父、母、祖父、祖母、きょうだい)	8. 医師や看護師、その他病院の人
2. 親戚 (おじ、おばなど)	9. ホームヘルパーやケアマネジャー、福祉サービスの人
3. 友人	10. 役所の人 (自治体の保健センター等含む)
4. 交際相手、配偶者	11. 近所の人
5. 大学の指導教員	12. SNS上での知り合い
6. 大学の学生相談室やキャリア支援室・保健センター	13. その他 ()
7. その他大学の職員・機関	

問27. 問 25 で「2. ない」と回答した方にお聞きます。相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 誰かに相談するほどの悩みではない	6. 家族のことを知られたくない
2. 家族外の人に相談するような悩みではない	7. 家族に対して偏見を持たれたくない
3. 誰に相談するのがよいかわからない	8. 相談しても状況が変わると思わない
4. 相談できる人が身近にいない	9. その他 ()
5. 家族のことのため話しにくい	

問28. 問 25 で「2. ない」と回答した方にお聞きます。お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。(あてはまる番号 1 つに○)

- | |
|--------|
| 1. いる |
| 2. いない |

問29. 大学や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい	6. 自由に使える時間がほしい
2. 家族のお世話について相談にのってほしい	7. 進路や就職など将来の相談にのってほしい
3. 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	8. 大学の勉強や学習のサポート
4. 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	9. 家庭への経済的な支援
5. 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	10. 学費への支援・奨学金等
	11. その他 ()
	12. 特にない
	13. わからない

⇒具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか

()

IV. ヤングケアラーについてお伺いします。

「ヤングケアラー」とは以下のような子どもたちのことをいいます。なお、同様のケアをする 18 歳から 30 歳くらいまでの方についても、「若者ケアラー」と呼ばれています。

下記の定義や状態像を踏まえて、ヤングケアラーまたは若者ケアラーについて設問にお答えください。

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

問30. あなた自身は「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」にあてはまると思いますか。(あてはまる番号 1 つに○)

1. 現在あてはまる
2. 現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う
3. あてはまらない
4. わからない

つに○)

1. 聞いたことがあり、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが、よく知らない
3. 聞いたことはない

聞きます。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。（あてはまる番号すべてに○）

1. テレビや新聞、ラジオ	5. イベントや交流会など
2. 雑誌や本	6. 大学
3. SNSやインターネット	7. 友人・知人から聞いた
4. 広報やチラシ、掲示物	8. その他（ ）

[illegible]

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

「一般国民の「ヤングケアラー」の認知度調査」調査票

※皆さまにご回答いただく調査の内容は下記の通りです。（こちらは見本用の調査票であり、実際は携帯電話またはパソコンから回答いただきます。）

I. あなたご自身についてお伺いします。

問1. あなたの年代を教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）

1. 20 代	4. 50 代
2. 30 代	5. 60 代
3. 40 代	6. 70 代以上

問2. あなたの性別を教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）

1. 男性	2. 女性	3. その他	4. 答えたくない

問3. 現在住んでいる都道府県を教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）

※47 都道府県の選択肢より回答

問4. あなたの職種を教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）

1. 経営者・役員	8. 自営業・自由業
2. 会社員（正社員）	9. 専業主婦・主夫
3. 会社員（契約社員・派遣社員）	10. 学生
4. パート・アルバイト	11. 士業
5. 公務員（教職員除く）	12. NGO・NPO 法人職員
6. 教職員	13. 無職
7. 医療関係者	14. その他（ ）

問5. あなたの業種を教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）

1. 農業，林業	11. 不動産業，物品賃貸業
2. 漁業	12. 学術研究，専門・技術サービス業
3. 鉱業，採石業，砂利採取業	13. 宿泊業，飲食サービス業
4. 建設業	14. 生活関連サービス業，娯楽業
5. 製造業	15. 教育，学習支援業
6. 電気・ガス・熱供給・水道業	16. 医療，福祉
7. 情報通信業	17. 複合サービス事業
8. 運輸業，郵便業	18. その他サービス業
9. 卸売業，小売業	19. 公務
10. 金融業，保険業	

問6. 現在の婚姻状態を教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）

1. 未婚	2. 既婚（離死別を含む）

問7. 子どもの有無を教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）

1. いる	2. いない

問8. 問 7.で子どもが「1. いる」と回答した方にお聞きます。子どもの年代を教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

(※小学生と中学生のお子様がいる場合には「小学生」「中学生」を選択、小学生が2人いる場合には「小学生」のみ選択をしてください。)

1. 小学校入学前	4. 高校生
2. 小学生	5. 大学生、短大生、専門学校生
3. 中学生	6. 社会人、その他

問9. 現在一緒に住んでいる家族について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 一人暮らし	5. 兄弟姉妹
2. 配偶者	6. 子・孫
3. 父親・母親	7. その他 ()
4. 祖父・祖母	

問10. 以下の例のような地域活動や市民活動に現在参加していますか。（あてはまる番号 1 つに○）

例) 自治会・町内会活動、PTA 活動、社会福祉協議会活動など

1. 参加している 2. 参加していない

Ⅱ. 「ヤングケアラー」についてお伺いします。

ヤングケアラーとは以下のような子どもたちのことをいいます。下記の定義や状態像を踏まえて設問にお答えください。

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どものことをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼い子どもだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

※ヤングケアラーの子どもたちは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていない可能性があり、適切な支援が行き届くよう社会全体で取組むことが必要と考えられます。またヤングケアラーの家族も、日々の生活で様々な悩みや困難を抱えていることがあり、社会の理解と支援が必要です。

問11. 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。（あてはまる番号 1 つに○）

1. 聞いたことがあり、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが、よく知らない
3. 聞いたことはない

問12. 問 11.で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。（あてはまる番号すべてに○）

1. テレビ	6. webサイト
2. 新聞	7. SNS
3. 雑誌や本	8. 友人・知人から聞いた
4. 国・自治体などの行政の広報誌	9. その他（ ）
5. 講演会やイベント	

問13. 家族・親族に「ヤングケアラー」と思われる子どもはいますか。(あてはまる番号 1 つに○)

- 1. いる → 問 18 へ
- 2. いない → 問 14 へ
- 3. わからない → 問 14 へ

問14. 問 13.で「2. いない」「3. わからない」と回答した方にお聞きます。友人、知人やその子ども、子どものクラスメイトなどに「ヤングケアラー」と思われる子どもはいますか。(あてはまる番号 1 つに○)

- 1. いる
- 2. いない
- 3. わからない

問15. 仮に身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合、どのような対応をしますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 関係機関に相談する → 問 16 へ	4. 何もしない → 問 17 へ
2. 家族、知人、友人に相談する	5. わからない
3. 本人に様子を聞く	6. その他 ()

問16. 問 15.で「1. 関係機関に相談する」と回答した方にお聞きます。どのような機関に相談しようと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 学校や教育委員会	6. 病院や介護事業所などの医療・介護関係機関
2. 民生委員・児童委員	7. フリースクール・子ども食堂などの民間団体
3. 児童相談所などの子どもに関する行政の相談機関	8. 警察
4. 保健所などの健康・衛生に関する行政の相談機関	9. わからない
5. 福祉事務所などの社会福祉に関する行政の相談機関	10. その他 ()

問17. 問 15.で「4. 何もしない」と回答した方にお聞きます。その理由としてもっともあてはまるものをお答えください。(あてはまる番号 1 つに○)

1. どのように対応したらよいかわからないため	4. 相談する余裕がないため
2. 家庭の問題に関わることに抵抗感があるため	5. その他 ()
3. 家族が家族の世話をすることは当たり前であるため	

→問 26 へ

※以下の問 18～23 は、問 13.で「1. いる」と回答した方にお聞きます。

問18. 「ヤングケアラー」と思われる子どもからみた、あなたの続柄をお答えください。（あてはまる番号 1 つに○）

（「ヤングケアラー」と思われる子どもが複数名いる場合は、ご自身に最も関係性が近い方についてお答えください。）

1. 母親・父親	3. きょうだい
2. 祖母・祖父	4. 親戚

問19. 「ヤングケアラー」と思われる子どもの年代をお答えください。（あてはまる番号 1 つに○）

（「ヤングケアラー」と思われる子どもが複数名いる場合は、ご自身に最も関係性が近い方についてお答えください。）

1. 小学校入学前	4. 高校生
2. 小学生	5. 学校には所属していない
3. 中学生	6. その他（ ）

問20. 「ヤングケアラー」と思われる子どもからのお世話を必要としている方を、子どもからみた続柄でお答えください。

（あてはまる番号すべてに○）

（「ヤングケアラー」と思われる子どもが複数名いる場合は、ご自身に最も関係性が近い方についてお答えください。）

1. 母親	4. 祖父
2. 父親	5. きょうだい
3. 祖母	6. その他（ ）

問21. 「ヤングケアラー」と思われる子どもについて気になっていることはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 通学	7. 家族関係
2. 学校の成績	8. 身体面の健康
3. 部活や習い事	9. 精神面の健康
4. 進学・就職	10. その他（ ）
5. 恋愛・結婚	11. 特にない
6. 友人関係	

問22. あなた自身は現在悩みごとや困りごとがありますか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 家族との人間関係	12. 妊娠・出産
2. 家族以外との人間関係	13. 育児
3. 恋愛・性に関すること	14. 家事
4. 結婚	15. 自分の学業・受験・進学
5. 離婚	16. 子どもの教育
6. いじめ、セクシュアル・ハラスメント	17. 自分の仕事
7. 生きがいに関すること	18. 家族の仕事
8. 自由にできる時間がないこと	19. 住まいや生活環境 （公害、安全及び交通事情を含む）
9. 収入・家計・借金等	20. その他（ ）
10. 自分の病気や介護	21. 特にない
11. 家族の病気や介護	

問23. あなたは問 21 や問 22 で選択したことについて、関係機関に相談したことはありますか。（あてはまる番号 1 つに○）

- | |
|----------------|
| 1. ある → 問 24 へ |
| 2. ない → 問 25 へ |

※本調査研究は、令和３年度子ども・子育て支援推進調査研究事業として実施したものです。

令和３年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

ヤングケアラーの実態に関する調査研究

令和４年３月

株式会社日本総合研究所

〒141-0022 東京都品川区東五反田 2-18-1 大崎フォレストビルディング

TEL: 03-6833-6300 FAX: 03-6833-9480